Systemwalker

FUJITSU

Systemwalker Operation Manager

メッセージ説明書
(トラブルシューティング用)

UNIX/Windows(R)共通

J2X1-4580-05Z0(00)
2011年03月

まえがき

本書の目的

本書は、Systemwalker Operation Managerで出力されるメッセージについて説明しています。

本書の読者

本書は、Systemwalker Operation Managerを使用して、業務をスケジュール、監視、管理する方を対象としています。

略語表記について

- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008”と表記します。
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard(x86)
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise(x86)
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter(x86)
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)(x86)
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)(x86)
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)(x86)
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Foundation(x64)
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard(x64)
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise(x64)
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter(x64)
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)(x64)
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)(x64)
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)(x64)
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 for Itanium-Based Systems
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation(x64)
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard(x64)
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise(x64)
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter(x64)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003 STD”と表記します。
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003 DTC”と表記します。
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter x64 Edition
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter Edition
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition for Itanium-based Systems

－ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition

- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003 EE”と表記します。

  － Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition

  － Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition

  － Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition

  － Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems

  － Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition

- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows(R) 2000”と表記します。

  － Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional

  － Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server

  － Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server

  － Microsoft(R) Windows(R) 2000 Datacenter Server

- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows NT(R)”と表記します。

  － Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version4.0

  － Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version4.0

- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows(R) 7”と表記します。

  － Windows(R) 7 Home Premium(x86)

  － Windows(R) 7 Professional(x86)

  － Windows(R) 7 Enterprise(x86)

  － Windows(R) 7 Ultimate(x86)

  － Windows(R) 7 Home Premium(x64)

  － Windows(R) 7 Professional(x64)

  － Windows(R) 7 Enterprise(x64)

  － Windows(R) 7 Ultimate(x64)

- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Vista(R)”と表記します。

  － Windows Vista(R) Home Basic(x86)

  － Windows Vista(R) Home Premium(x86)

  － Windows Vista(R) Business(x86)

  － Windows Vista(R) Enterprise(x86)

  － Windows Vista(R) Ultimate(x86)

  － Windows Vista(R) Home Basic(x64)

  － Windows Vista(R) Home Premium(x64)

  － Windows Vista(R) Business(x64)

  － Windows Vista(R) Enterprise(x64)

  － Windows Vista(R) Ultimate(x64)

- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows(R) XP”と表記します。

  － Microsoft(R) Windows(R) XP Professional x64 Edition

  － Microsoft(R) Windows(R) XP Professional

－ Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition

- Microsoft(R) Windows(R) Millennium Editionを“Windows(R) Me” と表記します。
- Microsoft(R) Windows(R) 98 operating systemを“Windows(R) 98” と表記します。
- 以下のすべての製品上で動作する固有記事を“Windows Server 2003 STD(x64)”と表記します。

  － Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition

  － Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition

- 以下のすべての製品上で動作する固有記事を“Windows Server 2003 DTC(x64)”と表記します。

  － Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter x64 Edition

  － Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition

- 以下のすべての製品上で動作する固有記事を“Windows Server 2003 EE(x64)”と表記します。

  － Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition

  － Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition

- 以下の製品上で動作する固有記事を"Windows(R) 2000 Server"と表記します。

  － Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server

- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows(R) XP x64”と表記します。

  － Microsoft(R) Windows(R) XP Professional x64 Edition

- 以下のOS上で動作するSystemwalker Operation Managerを“Windows版 Systemwalker Operation Manager”または“Windows版”と表記します。

  － Windows

  － Itaniumに対応したWindows

  － Itanium以外の64ビットアーキテクチャに対応したWindows

- 32ビットアーキテクチャに対応したWindows上で動作するSystemwalker Operation Managerの固有記事を“Windows x86版”と表記します。
- Itaniumに対応したWindows上で動作するSystemwalker Operation Managerの固有記事を“Windows for Itanium版”と表記します。
- Itanium以外の64ビットアーキテクチャに対応したWindows上で動作するSystemwalker Operation Managerの固有記事を“Windows x64版”と表記します。
- Windows(R) 2000、Windows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EE、およびWindows Server 2008を、“Windowsサーバ”と表記している箇所があります。
- Oracle SolarisはSolaris , Solaris Operating System , Solaris OSと記載することがあります。
- Solaris上で動作するSystemwalker Operation Managerを“Solaris版 Systemwalker Operation Manager”または“Solaris版”と表記します。
- UXP/DS上で動作するSystemwalker Operation Managerを“DS版 Systemwalker Operation Manager”または“DS版”と表記します。
- HP-UX上で動作するSystemwalker Operation Managerを“HP-UX版 Systemwalker Operation Manager”または“HP-UX版”と表記します。
- AIX上で動作するSystemwalker Operation Managerを“AIX版 Systemwalker Operation Manager”または“AIX版”と表記します。
- 以下のOS上で動作するSystemwalker Operation Managerを“Linux版 Systemwalker Operation Manager”または“Linux版”と表記します。

  － Linux

－ Itaniumに対応したLinux

－ Itanium以外の64ビットアーキテクチャに対応したLinux

- 32ビットアーキテクチャに対応したLinux上で動作するSystemwalker Operation Managerの固有記事を"Linux x86版"と表記します。
- Itaniumに対応したLinux上で動作するSystemwalker Operation Managerの固有記事を"Linux for Itanium版"と表記します。
- Itanium以外の64ビットアーキテクチャに対応したLinux上で動作するSystemwalker Operation Managerの固有記事を"Linux x64版"と表記します。
- Solaris版、DS版、HP-UX版、AIX版、Linux版およびLinux for Itanium版のSystemwalker Operation Managerを包括して、"UNIX版 Systemwalker Operation Manager"または"UNIX版"と表記します。
- Solaris、HP-UX、AIX、Linux、およびUXP/DSを、"UNIXサーバ"と表記している箇所があります。
- Systemwalker Operation Manager Standard Editionを"SE版"と表記している箇所があります。
- Systemwalker Operation Manager Enterprise Editionを"EE版"と表記している箇所があります。
- Systemwalker Operation Manager Global Enterprise Editionを"GEE版"と表記している箇所があります。
- Standard EditionをSE、Enterprise EditionをEE、Global Enterprise EditionをGEEと表記している箇所があります。
- ARCserve for Windows NT(R)、ARCserveIT for Windows NT(R)、ARCserve 2000 およびBrightStor(R) ARCserve(R) Backup for Windows Japaneseをまとめて、ARCserveと表記します。
- Windows NT(R)で標準に提供されているMicrosoft(R)-MailをMS-Mailと表記します。

輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または提供する場合は、外国為替および外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。

商標について

APC、PowerChuteは、AMERICAN POWER CONVERSION社の登録商標です。

BrightStor、ARCserveは、Computer Associates International, Inc.またはその関連会社の登録商標または商標です。

HP-UXは、米国Hewlett-Packard社の登録商標です。

IBM、AIX、AIX 5L、ViaVoiceは、IBM Corp.の商標です。

Intel、Itaniumは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の登録商標または商標です。

LaLaVoice は、株式会社東芝の商標です。

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

MC/ServiceGuardは、Hewlett-Packard Companyの製品であり、著作権で保護されています。

Microsoft、MS、Windows、Windows Server、Windows NTおよびMicrosoft Cluster Serviceは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

NEC、SmartVoiceは、日本電気株式会社の商標または登録商標です。

Netscape、Netscape の N および操舵輪のロゴ、Netscape Navigator、Netscape Communicatorは、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation 社の登録商標です。

Oracleは、米国ORACLE Corporationの登録商標です。

Red HatおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

R/3およびSAPは、SAP AGの登録商標です。

Tcl/Tkは、カリフォルニア大学、Sun Microsystems,Inc.、Scriptics社他が作成したフリーソフトです。

UNIXは、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商標です。

UXP、Systemwalker、Interstage、GLOVIAは富士通株式会社の登録商標です。

VMware、VMwareロゴ、Virtual SMPおよびVMotionはVMware,Incの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

ショートメールは、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ(以下NTTドコモ)の登録商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

平成23年 3月

改版履歴
平成18年 8月 初版 平成19年 5月 第2版 平成20年 3月 第3版 平成21年 4月 第4版 平成23年 3月 第5版

Copyright FUJITSU LIMITED 1995-2011

目 次

第1章 概要....1
1.1 Systemwalker Operation Managerの出力メッセージ....1
1.2 メッセージの出力形式....1
1.3 メッセージの説明方法....3

第2章 イベントビューアまたはSYSLOGに出力されるメッセージ....4
2.1 ACL Managerで始まるメッセージ....4
2.2 MpAosfBで始まるメッセージ【Windows版】....7
2.3 MpAosfPで始まるメッセージ....55
2.4 MpAuditLogOで始まるメッセージ....72
2.5 Mpcmtoolo/mpcmtooloで始まるメッセージ....75
2.6 MpFwsecで始まるメッセージ....79
2.7 mpipcmgrで始まるメッセージ....83
2.8 MpJmCalで始まるメッセージ....85
2.9 MpJmSrvで始まるメッセージ....90
2.10 MpJobschで始まるメッセージ....108
2.11 MpMjesで始まるメッセージ....196
2.12 mpnjsosvで始まるメッセージ....260
2.13 MpPmonOで始まるメッセージ....263
2.14 mpsetlogsendで始まるメッセージ....269
2.15 MpStemで始まるメッセージ....271
2.16 SWNCで始まるメッセージ....288
2.17 SHSで始まるメッセージ....290

第3章 イベントビューアまたはSYSLOG以外に出力されるメッセージ....356
3.1 サービス/デーモンの起動/停止の出力メッセージ....356
3.2 アクセス権設定時のメッセージ....359
3.2.1 一般エラーメッセージ....359
3.2.2 詳細エラーメッセージ....361
3.3 セキュリティコマンドの出力メッセージ....365
3.4 カレンダコマンドの出力メッセージ....383
3.5 Systemwalker Operation Manager基盤コマンドの出力メッセージ....390
3.6 ジョブスケジューラコマンドの出力メッセージ....397
3.6.1 イベントIDのあるメッセージ....397
3.6.2 イベントIDのないメッセージ....504
3.7 インポート/エクスポート時のメッセージ....505
3.7.1 インポート時のポップアップメッセージ....505
3.7.2 インポート時のテキストメッセージ....506
3.7.3 エクスポート時のポップアップメッセージ....508
3.7.4 エクスポート時のテキストメッセージ....510
3.8 ジョブ実行制御コマンドの出力メッセージ....513
3.9 ジョブ実行制御の前回履歴メッセージ....567
3.9.1 MJSで始まるメッセージ....567
3.9.2 メッセージラベルのないメッセージ....589
3.10 業務連携コマンドの出力メッセージ....596
3.10.1 業務連携コマンドの出力メッセージについて....596
3.10.2 共通メッセージ....598
3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ....719
3.10.4 アプリケーション起動コマンドの出力メッセージ....788
3.10.5 クライアント電源制御コマンドの出力メッセージ....799
3.10.6 リモートアクセス制御コマンドの出力メッセージ....828
3.10.7 パスワード管理コマンドの出力メッセージ....831
3.11 クライアント業務連携の出力メッセージ....847
3.12 マスタスケジュール管理機能コマンドの出力メッセージ....848
3.13 Systemwalkerスクリプトの標準出力メッセージ....875

3.14 グローバルサーバジョブ連携時のメッセージ【UNIX版】......878
3.15 通信基盤コマンドのメッセージ......906

第1章 概要

本章では、Systemwalker Operation Managerで出力されるメッセージの概要と本書の記載内容について説明します。

1.1 Systemwalker Operation Managerの出力メッセージ

Systemwalker Operation Managerの運用中に出力されるメッセージには、以下のようなメッセージがあります。

- イベントビューアまたはSYSLOGに出力されるメッセージ

  決められた形式で出力されるメッセージで、エラー種別(種類)やイベントIDが付加されています。Windows版の場合は、イベントビューアに出力されます。UNIX版の場合は、SYSLOGに出力されます。

- コマンドの出力メッセージ

  コマンド実行時に出力されるメッセージです。

- その他のメッセージ

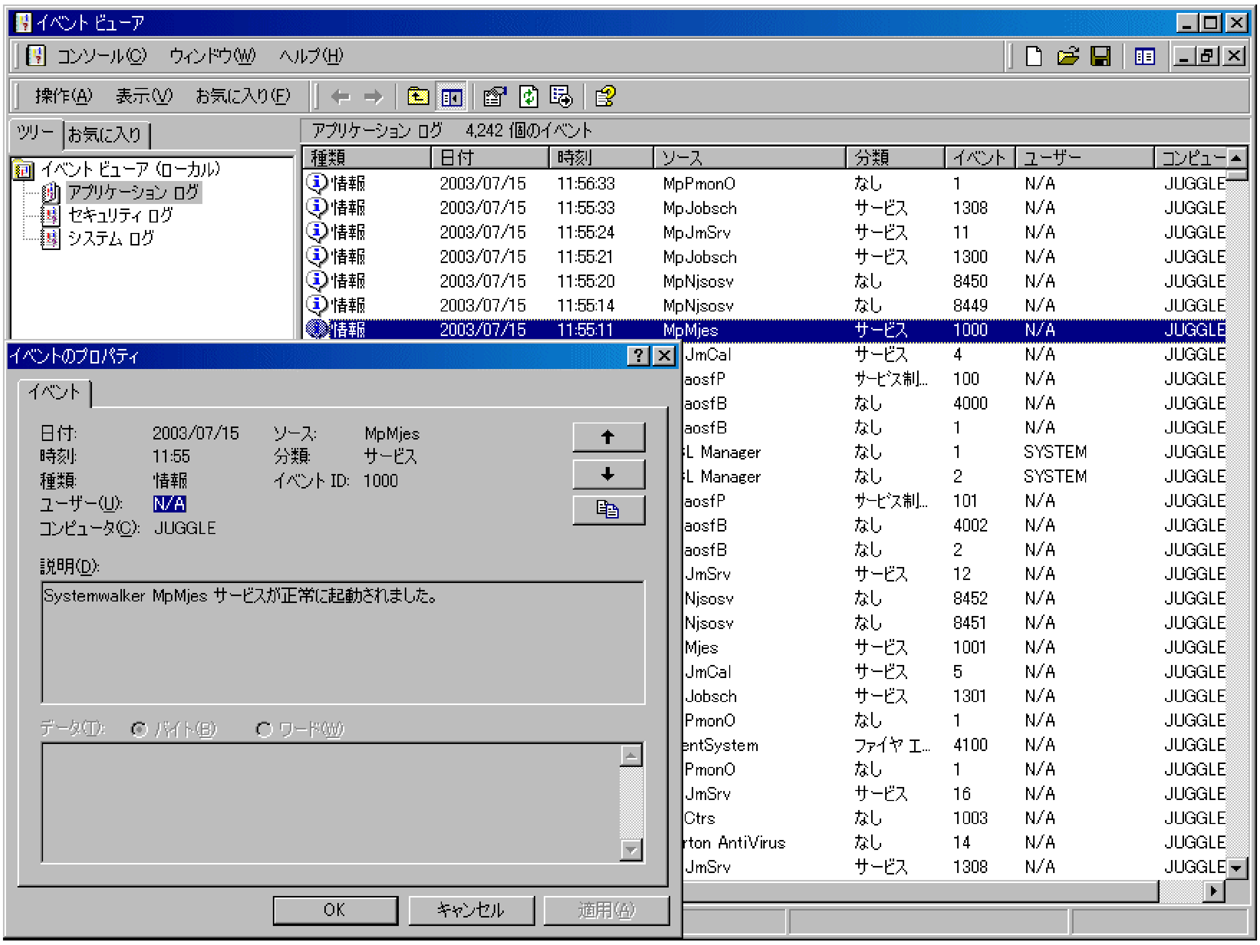
  各機能の実行時に出力される標準メッセージなどがあります。

1.2 メッセージの出力形式

メッセージの出力形式について説明します。

イベントビューアの出力形式

イベントビューアの画面イメージを以下に示します。



メッセージは、イベントビューアのアプリケーションログに一覧表示されます。(上記画面イメージの右側。)

詳細は、イベントのプロパティで確認できます。SYSLOGに出力される項目と対応する項目は、以下のとおりです。

ソース:

ソース名です。

種類:

以下のいずれかのエラー種別が表示されます。

－ “ERROR”または“エラー”

－ “INFO”または“情報”

－ “WARNING”または“警告”

イベントID:

イベントIDの番号です。

説明:

メッセージ文です。

SYSLOGの出力形式

SYSLOGに出力されるメッセージの形式は、以下のいずれかです。なお、“[]”で囲まれた項目は、省略される場合があります。

[UX:]ソース: [syslogメッセージID]種類:イベントID:メッセージテキスト
ソース[プロセスID]: [syslogメッセージID][[UX:]ソース:]種類:イベントID:メッセージテキスト

ソース:

以下のいずれかが表示されます。

－ Systemwalker

－ ソース名

syslogメッセージID:

メッセージIDやファシリティ、レベルが“[]”で囲まれて出力されます。

プロセスID:

プロセスIDが“[]”で囲まれて出力されます。

種類:

以下のいずれかのエラー種別が表示されます。

－ “ERROR”または“エラー”

－ “INFO”または“情報”

－ “WARNING”または“警告”

イベントID:

イベントIDの番号です。

メッセージテキスト:

メッセージ文です。

イベントビューアまたはSYSLOG以外に出力されるメッセージの出力形式

イベントビューアまたはSYSLOG以外に出力されるメッセージについては、出力形式はそれぞれ異なります。各メッセージの説明を参照してください。

1.3 メッセージの説明方法

本書の構成およびメッセージの説明項目について、どのように記載されているか説明します。

構成について

本書では、メッセージを以下の章に分類して記載しています。

「イベントビューアまたは**SYSLOG**に出力されるメッセージ」

イベントビューアまたはSYSLOGに出力されるメッセージをまとめています。“第2章 イベントビューアまたはSYSLOGに出力されるメッセージ”をお読みください。

「イベントビューアまたは**SYSLOG**以外に出力されるメッセージ」

コマンドメッセージや標準出力メッセージなど、イベントビューアまたはSYSLOG以外に出力されるメッセージをまとめています。“第3章 イベントビューアまたはSYSLOG以外に出力されるメッセージ”をお読みください。

メッセージの記載順序について

メッセージは、節および項ごとに、以下の順に記載しています。

- イベントIDが付加されているメッセージの場合、イベントIDの番号順に記載しています。なお、先頭が0で始まるイベントIDは、1より前に記載しています。例えば、0003と1の場合は、0003が前になります。
- イベントIDが付加されていないメッセージの場合、メッセージの昇順に記載しています。
- 同じイベントIDで和文と英文のメッセージが存在する場合、メッセージの見だし部分に両方のメッセージを並べて記載しています。

メッセージの説明項目について

メッセージの説明項目は、以下のとおりです。ただし、メッセージによって記載されている説明項目は異なります。

【メッセージの意味】

メッセージの意味について説明しています。

【パラメタの意味】

メッセージテキスト内のパラメタについて説明しています。

【システムの処理】

メッセージが出力された場合の、システムの処理について説明しています。

【原因】

メッセージが出力される原因として考えられる事象について説明しています。

【利用者の処置】

メッセージが出力された場合の利用者の対処方法について説明しています。

【システム管理者の処置】

メッセージが出力された場合のシステム管理者の対処方法について説明しています。

【出力対象コマンド】

どのコマンドの実行時に出力されるメッセージか、出力対象となるコマンドを記載しています。本項目は、“3.7 インポート/エクスポート時のメッセージ”でのみ記載されています。

第2章 イベントビューアまたはSYSLOGに出力されるメッセージ

本章では、イベントビューアまたはSYSLOGに出力されるメッセージについて説明します。

2.1 ACL Managerで始まるメッセージ

本節では、ACL Managerで始まるメッセージについて説明します。

ACL Managerで始まるメッセージは、ACLマネージャが出力するメッセージです。

[Windows]ACL Manager: 情報: 1: Systemwalker ACL Manager 起動しました.

【メッセージの意味】

ACLマネージャが起動されました。

[Windows]ACL Manager: 情報: 2: Systemwalker ACL Manager 終了しました.

【メッセージの意味】

ACLマネージャは停止しました。

[Windows]ACL Manager: エラー: 3: Systemwalker ACL Manager 異常終了しました. %1(%2)

【メッセージの意味】

ACLマネージャは異常終了しました。

【パラメタの意味】

%1: 異常発生箇所

%2: 詳細コード

【システムの処理】

サービスは終了します。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

システムを再起動しても、本メッセージが出力される場合は、資料を採取し、技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、"フレームワーク"および"セキュリティ"をチェックして採取します。

[Windows]ACL Manager: 警告: 6: 監査ログファイルがいっぱいになりました。ファイルをバックアップしてください。(ファイル名:%1)

【メッセージの意味】

監査ログファイルがいっぱいになりました。ファイルをバックアップしてください。

【パラメタの意味】

%1: いっぱいになった監査ログファイル名

【システム管理者の処置】

いっぱいになった監査ログファイルをバックアップしてください。

[Windows]ACL Manager: 警告: 7: 監査操作ログファイルがいっぱいになりました。ファイルをバックアップしてください。(ファイル名:%1)

【メッセージの意味】

監査操作ログファイルがいっぱいになりました。ファイルをバックアップしてください。

【パラメタの意味】

%1: いっぱいになった監査操作ログファイル名

【システム管理者の処置】

いっぱいになった監査操作ログファイルをバックアップしてください。

[Windows]ACL Manager: 警告: 8: 監査記録が生成できませんでした。(%1)

【メッセージの意味】

監査記録が生成できませんでした。

【パラメタの意味】

%1: 監査記録の生成に失敗した原因詳細

【システム管理者の処置】

mplstauditコマンドを使用して、監査環境が正しく設定されているか確認します。

mplstauditコマンドの使用方法については、"Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

監査環境が正しく設定されているにもかかわらず、メッセージが出力される場合は、保守情報収集ツールで"セキュリティ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]ACL Manager: 警告: 9: リストア(移行)できなかったアクセス権情報があります。詳細は、%1を参照してください。

【メッセージの意味】

リストア(移行)できなかったアクセス権情報があります。

【パラメタの意味】

%1: リストア(移行)でのエラー原因詳細を記録したファイル名

【システム管理者の処置】

ファイルを参照し、エラー原因を取り除いてから再度リストア(移行)してください。

[Windows]ACL Manager: 警告: 10: コンピュータまたはドメイン名の変更にともなう内部データの変換処理ができませんでした。(%1:%2)

【メッセージの意味】

コンピュータまたはドメイン名が変更されましたが、内部データは変換されませんでした。

【パラメタの意味】

%1: エラーコード

%2: 詳細コード

【システム管理者の処置】

Administratorsグループに所属するユーザで、以下の操作を実行してください。

1. "mkbat -j -f任意のバッチファイル名"を実行する
2. 1.で生成したバッチファイルを実行する

[Windows]ACL Manager: 警告: 15: 退避できなかったアクセス権情報があります。詳細は、%1を参照してください。

【メッセージの意味】

退避できなかったアクセス権情報があります。

本メッセージはクラスタ運用環境でのみ発生します。

【パラメタの意味】

%1: 退避でのエラー原因詳細を記録したファイル名

【システム管理者の処置】

ファイルを参照し、エラー原因を取り除いてから、手動でアクセス権情報を退避してください。手動で退避するにはmpcssaveコマンドを実行します。mpcssaveコマンドの使用方法については"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

[Windows]ACL Manager: 警告: 17: %1ポリシー情報の設定に失敗しました。

【メッセージの意味】

ポリシー情報を設定できませんでした。

【パラメタの意味】

%1: ポリシー情報のファイル名(フルパス)

【システム管理者の処置】

本メッセージの後に、ポリシー情報の設定に失敗した原因と対処方法を示すメッセージが出力されます。

本メッセージの後に出力されたメッセージを参照して、原因を取り除いてください。

[Windows]ACL Manager: エラー: 18: Systemwalker Operation Managerで使用されているアカウントが存在しません。不足しているアカウントを登録してください。

【メッセージの意味】

ポリシー情報の配付先のサーバに、Systemwalker Operation Managerを使用しているアカウントが存在しません。

ポリシー情報の配付先のサーバに不足しているアカウントを登録し、ポリシー情報の抽出元のサーバと配付先のサーバのアカウント情報を統一してください。

【システム管理者の処置】

ポリシー情報の抽出元サーバでSystemwalker Operation Managerを使用しているアカウントを、ポリシー配付先のサーバにも登録し、再度ポリシー情報を配付してください。

ポリシー抽出元のサーバでmplstacluserコマンドを実行することにより、Systemwalker Operation Managerを使用しているアカウントの情報を確認することができます。mplstacluserコマンドの詳細については、"リファレンスマニュアル"の"mplstacluserコマンド"を参照してください。

[Windows]ACL Manager: エラー: 19: ポリシー情報の設定中に予期せぬエラーが発生しました。詳細情報(%1)

【メッセージの意味】

ポリシー情報の配付中に予期しないエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

%1: エラーの詳細原因を表すメッセージ

【システム管理者の処置】

ポリシー抽出元およびポリシー配付先のサーバについて、保守情報収集ツールで"セキュリティ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]ACL Manager: 警告: 20: 監査ログライブラリのロードに失敗しました。

【メッセージの意味】

監査ログを出力するためのライブラリのロードで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

以下のファイルが存在しているか確認してください。存在している場合、ファイルが壊れている可能性があります。Systemwalker Operation Managerを再インストールまたは富士通技術員に連絡してください。

Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥bin¥mpaudito.dll

[Windows]ACL Manager: 警告: 21: 監査ログファイルの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

監査ログの出力先ファイルのオープンで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

- 空き容量が不足していないか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリが存在しているか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリのパーミッション/権限を確認してください。利用者制限の定義を利用していない場合、一般ユーザ/Everyoneから書き込める権利が必要です。
- 監査ログの出力先ファイルが壊れている可能性があります。壊れている監査ログの出力先ファイルを退避後、削除してください。
- 監査ログ出力先のハードディスクに障害が発生している場合は、ハードディスクの交換、および復旧が必要な場合があります。

監査ログの出力先ファイルおよびディレクトリは、mpsetlogsend_omgrコマンドで指定できます。mpsetlogsend_omgrコマンドの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

2.2 MpAosfBで始まるメッセージ【Windows版】

本節では、MpAosfBで始まるメッセージについて説明します。

MpAosfBで始まるメッセージは、イベント監視／アクション管理機能が出力するメッセージです。

[Windows]MpAosfB: 情報: 1:イベント監視機能サービス(MpAosfB)が起動しました。

【メッセージの意味】

イベント監視機能サービスが起動しました。

【システムの処理】

イベントの監視を開始します。

[Windows]MpAosfB: 情報: 2:イベント監視機能サービス(MpAosfB)が停止しました。

【メッセージの意味】

イベント監視機能サービスが停止しました。

【システムの処理】

イベントの監視を終了します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4:イベント監視機能サービスを起動する権限がありません。

【メッセージの意味】

管理者権限がないため、イベント監視機能サービスを起動できませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

サービスのログオンアカウントに管理者権限があるか確認してください。ない場合は、ログオンアカウント権限のあるアカウントに変更してください。

[Windows]MpAosfB: 情報: 185:過去のイベントが読み込まれました。(ppp,eee,vvv)

【メッセージの意味】

イベントログより過去のイベントが読み込まれました。

【パラメタの意味】

ppp: 該当メッセージの発生時刻

eee: イベントログの種別

vvv: イベントログのレコード番号

【システムの処理】

処理を続行します。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation Managerが終了する前に、システムがシャットダウンした可能性があります。システム終了前に、Systemwalker Operation Managerを終了させてください。

[Windows]MpAosfB: 情報: 1000:自動化で管理できるメッセージが最大数(nnnn)を超えたため、古いメッセージを順に破棄します。

【メッセージの意味】

イベント監視機能で管理している監視メッセージ数が、最大値を超えたため、古い監視メッセージ順に破棄しました。

【パラメタの意味】

nnnn: メッセージ最大数

【システムの処理】

処理を続行します。新しいメッセージが発生する度に、古い監視メッセージが破棄されます。

【利用者の処置】

メッセージの発生頻度が高くならないよう、見直してください。

【システム管理者の処置】

Systemwalkerを再起動してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1001:イベント監視の条件定義に設定した正規表現が不当です。(行番号:nnnn)

【メッセージの意味】

イベント監視の条件定義のnnnn行目のイベント定義に設定された正規表現が正しくありません。誤りのある行の条件を無視し、処理を続行します。

【パラメタの意味】

nnnn: 行番号

【システムの処理】

誤りのある行の条件を無視し、処理を続行します。

【システム管理者の処置】

[イベント監視の条件定義]ウィンドウを起動し、該当する行のイベント定義に設定されている正規表現を正しいものに修正してください。使用できる正規表現の表記法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の“監視イベントを登録する”を参照してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1009:ソケットの接続に失敗しました。理由: ssss

【メッセージの意味】

ソケットの接続に失敗しました。

【パラメタの意味】

ssss: エラーの原因コード

【システムの処理】

イベント監視サービスを終了します。

【システム管理者の処置】

理由に表示された内容を参照し、エラー原因を取り除いてください。対処方法が不明の場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: 警告: 1021:アクション実行条件に指定したカレンダ名が、定義されていません。カレンダ名:cccc

【メッセージの意味】

アクション実行条件に指定したカレンダ名が定義されていません。

【パラメタの意味】

cccc: カレンダ名

【システムの処理】

アクション実行条件は"すべての日"として扱います。

【システム管理者の処置】

カレンダが、Systemwalker Operation Managerのカレンダに登録されているか確認してください。登録されていない場合は、[イベント監視の条件定義]ウィンドウにて、アクション条件に定義しているカレンダ名を、登録されているカレンダ名に変更してください。

[Windows]MpAosfB: 警告: 1022:カレンダサービスでエラーが発生しました。カレンダ名:cccc エラーコード:eeee

【メッセージの意味】

カレンダサービスでエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

cccc: カレンダ名

eeee: エラーコード

【システムの処理】

該当するイベントアクションの定義項目を無視します。処理は続行します。

【システム管理者の処置】

カレンダサービスが正常に動作しているか確認してください。カレンダサービスが正常動作するよう対処してください。

[Windows]MpAosfB: 警告: 1023:カレンダサービスが起動されていません。

【メッセージの意味】

カレンダサービスが起動されていません。

【システムの処理】

アクション実行条件は、"すべての日"として動作します。

【システム管理者の処置】

カレンダサービスを起動してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1026:アクション管理サーバが起動していないか、ビジー状態です。アクション:aaaa

【メッセージの意味】

アクションを実行するプロセスが起動されていないか、または、ビジー状態であるため、通信を開始できません。表示されたアクションは実行されません。

【パラメタの意味】

aaaa: エラーが発生したアクション名

【システムの処理】

アクションを破棄します。

【システム管理者の処置】

Systemwalkerが正しく起動されているかを確認してください。また、イベント監視の条件定義を見直し、同時に大量のアクションが実行されないようにしてください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1027:アクションを実行する環境が設定されていません。アクション:aaaa

【メッセージの意味】

アクションを実行する環境(サウンド再生の環境、モデムなど)が設定されていません。

【パラメタの意味】

aaaa: 失敗したアクション

【システムの処理】

該当するアクションは、実行されません。

【システム管理者の処置】

音声通知、または、ショートメール通知を実行するための環境が設定されていません。[アクション環境設定]ダイアログボックスで設定してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1028:アクション管理サーバとの通信でエラーが発生しました。アクション:aaaa

【メッセージの意味】

アクションを実行するプロセスと通信中にエラーが発生しました。表示されたアクションは実行されません。

【パラメタの意味】

aaaa: エラーが発生したアクション名

【システムの処理】

アクションを破棄します。

【システム管理者の処置】

Systemwalkerが正しく起動されているかを確認してください。システム終了時にこのメッセージが出力された場合は、無視してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1029:アクション管理サーバでエラーが発生しました。詳細コード:cccc

【メッセージの意味】

アクション管理サーバでエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

cccc: 詳細コード

【システムの処理】

該当するアクションは行われません。

【システム管理者の処置】

当エラーメッセージの前後に出力された、3000番台のメッセージを参照し、エラーを取り除いてください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1030:イベント監視の条件定義の設定に誤りがあります。ファイル名:ffff

【メッセージの意味】

イベント監視の条件定義の形式が正しくありません。

【パラメタの意味】

ffff: イベント監視の条件定義ファイル名

【システムの処理】

設定されているイベント監視の条件定義をすべて無効とします。

【システム管理者の処置】

バックアップデータよりイベント監視の条件定義を復元してください。バックアップデータがない場合は、Systemwalkerを再インストールするか、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: 警告: 1032:アクション管理サーバのアクションの実行が滞っています。古いアクションの要求から順に破棄します。

【メッセージの意味】

アクション管理サーバでのアクションの実行が滞っているため、イベント監視機能で、1つのアクションに対して保持する最大数100を超えました。古いアクションの要求から順に破棄します。

【システムの処理】

処理を継続します。新しいアクションの要求が発生する度に、古いアクションの要求が破棄されます。

【システム管理者の処置】

イベント監視の条件定義を見直し、同時に大量のアクションが実行されないようにします。

[Windows]MpAosfB: 警告: 1033:アクションの実行が滞っています。古いアクションの要求から順に破棄します。(rrrr)

【メッセージの意味】

アクションの実行が終了する速度より、イベントが発生する速度が速いため、アクションを実行できません。そのため、イベント監視機能で、1つのアクションに対して保持する最大数100を超えました。古いアクションの要求から順に破棄します。

【パラメタの意味】

rrrr: 破棄したアクション

【システムの処理】

処理を継続します。新しいアクションの要求が発生する度に、古いアクションの要求が破棄されます。

【システム管理者の処置】

イベント監視の条件定義を見直し、同時に大量のアクションが実行されないようにします。

[Windows]MpAosfB: 警告: 1034:破棄したアクションの数がccccを超えました。(rrrr) (rrrr)

【メッセージの意味】

アクションの実行が終了する速度より、イベントが発生する速度が速いため、実行できないアクションを破棄しました。その結果、破棄されたアクション(rrrr)がccccを超えました。

【パラメタの意味】

cccc: 破棄したアクション数

rrrr: 破棄したアクション

【システムの処理】

処理を継続します。新しいアクションの要求が発生する度に、古いアクションの要求が破棄されます。

【システム管理者の処置】

イベント監視の条件定義を見直し、該当するアクションが同時に大量に実行されないようにします。

[Windows]MpAosfB: 警告: 1036:アクションの定義に誤りがあります。(rrrr)

【メッセージの意味】

アクションの定義に誤りがあります。アクションは実行しません。

【パラメタの意味】

rrrr: アクション

【システムの処理】

該当するアクションを破棄し、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

イベント監視の条件定義で、該当するアクションに設定されている内容を見直してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1037:アクション管理サーバが正しくインストールされていません。(rrrr)

【メッセージの意味】

アクション管理サーバとの通信で必要なライブラリが見つからないため、アクション(rrrr)を実行できません。アクションを破棄します。

【パラメタの意味】

rrrr: アクション

【システムの処理】

該当するアクションを破棄し、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

Systemwalkerが正しくインストールされているかを確認します。また、環境変数Pathが、Systemwalkerがインストールされているディレクトリに設定されているかを確認します。

[Windows]MpAosfB: 警告: 1038:指定されたユーザ名、コンピュータ名またはアドレスが定義されていません。(rrrr)

【メッセージの意味】

アクション(rrrr)に指定されたユーザ名、コンピュータ名またはアドレスが定義されていません。

【パラメタの意味】

rrrr: アクション

【システムの処理】

該当するアクションを破棄し、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

イベント監視の条件定義で、該当するアクションの通知先(ユーザ名、コンピュータ名またはアドレス)を正しく設定してください。

[Windows]MpAosfB: 警告: 1039:指定されたアプリケーションは存在しません。(アプリケーション名=cccc)

【メッセージの意味】

アプリケーション起動アクションに指定された起動ファイル(cccc)が存在しません。

【パラメタの意味】

cccc: 起動ファイル名

【システムの処理】

アプリケーションの起動は行わず、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

起動ファイルが存在するか確認します。起動ファイルが存在しない場合は、ファイルをインストールするか、イベント監視の条件定義に存在するファイル名を指定します。

[Windows]MpAosfB: 警告: 1040:指定された実行時のディレクトリは存在しません。(ディレクトリ名=dddd)

【メッセージの意味】

アプリケーション起動アクションに指定された実行時のディレクトリ(dddd)が存在しません。

【パラメタの意味】

dddd: ディレクトリ名

【システムの処理】

アプリケーションの起動は行わず、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

実行時のディレクトリが存在するかを確認します。ディレクトリが存在しない場合は、ディレクトリを作成するか、イベント監視の条件定義に存在するディレクトリ名を指定します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1041:アプリケーション起動に失敗しました。(アプリケーション名=cccc)

【メッセージの意味】

アプリケーションの起動に失敗しました。

【パラメタの意味】

cccc: 起動に失敗したアプリケーション名

【システムの処理】

アプリケーションの起動は行わず、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

このメッセージの直前に表示されるメッセージを元に原因を究明し、対処してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1042:SNMPトラップの送信用ソケットのオープンに失敗しました。:cccc

【メッセージの意味】

SNMPトラップの送信用ソケットのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

cccc: 詳細

【システムの処理】

SNMPトラップの出力は行わず、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

SNMPトラップを発行するための環境が設定されているかを確認してください。対処方法が不明の場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、"イベント監視"、"アクション実行／システム監視"をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1043:SNMPトラップの自ホスト名の獲得に失敗しました。【メッセージの意味】

SNMPトラップの自ホスト名の獲得に失敗しました。

【システムの処理】

SNMPトラップの出力は行わず、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

システムのhostsファイルに自ホスト名とIPアドレスを定義してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1044:SNMPトラップの送信先ホスト名(hhhh)の取得に失敗しました。:cccc

【メッセージの意味】

SNMPトラップの送信先ホスト名の取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

hhhh: 送信先ホスト名

cccc: 詳細コード

【システムの処理】

SNMPトラップの出力は行わず、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

イベント監視の条件定義に定義しているSNMPトラップの送信先のマシン名または、IPアドレスが正しいものか確認してください。定義が正しい場合は、システムのhostsファイルに送信先のホスト名とIPアドレスを定義してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1045:SNMPトラップの送信に失敗しました。:cccc

【メッセージの意味】

SNMPトラップの送信に失敗しました。

【パラメタの意味】

cccc: 詳細コード

【システムの処理】

SNMPトラップの出力は行わず、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

SNMPトラップを発行するための環境が設定されているかを確認してください。対処方法が不明な場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、"イベント監視"、"アクション実行/システム監視"をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1046:イベントログ出力で、指定したコンピュータのアクセスが拒否されました。(コンピュータ名=hhhh)

【メッセージの意味】

イベントログ出力アクションで、コンピュータへのアクセスが拒否されました。

【パラメタの意味】

hhhh: アクセスが拒否されたコンピュータ名

【システムの処理】

イベントログの出力は行わず、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

イベント監視機能サービスに設定したアカウントについて、イベントログを出力するコンピュータにアクセス権を設定してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1047:イベントログ出力で、指定されたコンピュータが利用できません。(コンピュータ名=hhhh)

【メッセージの意味】

イベントログ出力で、コンピュータが利用できません。

【パラメタの意味】

hhhh: 利用できないコンピュータ名

【システムの処理】

イベントログの出力は行わず、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

指定したコンピュータが利用可能な状態かどうかを確認してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1050:イベントログファイル(kkkk)のオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

イベントログのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

kkkk: イベントログの種類を示す。

- Application: アプリケーションログ
- System: システムログ
- Security: セキュリティログ

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

このメッセージの直前に表示されるメッセージを元に原因を究明し、対処してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1051:イベントログ位置格納ファイルの読込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

イベント監視機能は、サービス停止中に出力されたイベントログのメッセージは監視しません。

【システムの処理】

処理を続行します。

【システム管理者の処置】

イベント監視機能サービス停止中に出力されたメッセージをイベントビューアで確認し、対処が必要なメッセージがあれば、必要な対処を行ってください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1052:イベントログ位置格納ファイルの書込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

イベントログの読込み位置を格納するファイルの書込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を続行します。

【システム管理者の処置】

このメッセージが頻出する場合、イベント監視機能サービスをいったん停止し、Systemwalkerインストールディレクトリ配下の¥mpaosfsv¥base¥tempディレクトリにある、"evtstart"の名前で始まるファイルをすべて削除して、再起動してください。また、ディスクに異常がないか、およびファイル、ディレクトリのアクセス権を確認してください。ファイル、およびディレクトリには更新可能なアクセス権を設定してください。

[Windows]MpAosfB: 情報: 1053:イベントログファイル(kkkk)の形式が不当です(nnnn)。再読み込みを行います。

【メッセージの意味】

イベントログファイルの形式が不当です。再読み込みを行います。

【パラメタの意味】

kkkk: イベントログの種類

- Application: アプリケーションログ
- System: システムログ
- Security: セキュリティログ

nnnn: レコード番号

【システムの処理】

処理を続行します。

【システム管理者の処置】

このメッセージが頻出する場合、システムの状態(空き容量が不足していないか)を確認してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1054:イベントログファイル(kkkk)の読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

イベントログファイルの読み込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

kkkk: イベントログの種類

- Application: アプリケーションログ
- System: システムログ
- Security: セキュリティログ

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

このメッセージの直前に表示されるメッセージを元に原因を究明し、対処してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1055:監視するログファイルの設定に誤りがあります。(ファイル名=dddd)

【メッセージの意味】

監視するログファイルの設定に誤りがあります。

【パラメタの意味】

dddd: ファイル名

【システムの処理】

すべての定義を無効にし、処理を終了します。

【システム管理者の処置】

[監視ログファイルの設定]ダイアログボックスを起動し、定義内容に問題がないか(実在するファイルを指定しているか、ラベルを設定しているかなど)を確認してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1056:監視ファイル情報保存ファイル(ffff)のオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

監視ファイル情報保存ファイルのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

ffff: 監視ファイル情報保存ファイル名

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

このメッセージの直前に表示されるメッセージを元に原因を究明し、対処してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 1058:一般ログファイルの監視中にシステム関数でエラーが発生しました。ファイル名=dddd システム関数:ffff 理由:rrrr

【メッセージの意味】

ファイル名ddddを監視中にシステム関数ffffがrrrrに示す理由で失敗しました。

【パラメタの意味】

dddd: 監視ファイル名

ffff: システム関数名

rrrr: 失敗した理由を示すメッセージ

【システムの処理】

ファイルの監視処理を継続します。

【システム管理者の処置】

メッセージの内容に応じた対処を行ってください。監視するファイルの状態(有無、アクセス権)を確認してください。上記の対処を実施しても、同一ファイルに対してメッセージが頻出するときは、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、"イベント監視"、"アクション実行／システム監視"をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: 警告: 1059:ログファイル監視に指定されたログファイルが存在しません。ファイル名=dddd

【メッセージの意味】

ログファイル監視に指定されたログファイルが存在しません。このメッセージは、サービス起動時、および[監視ログファイルの設定]ダイアログボックスにより定義を変更した時に表示されます。

【パラメタの意味】

dddd: 監視ファイル名

【システムの処理】

処理を継続します。指定されたログファイルが作られたときから監視を開始します。

【システム管理者の処置】

[監視ログファイルの設定]ダイアログボックスで定義した、監視対象のログファイルが存在するか確認し、存在するファイルのパス名をフルパスで指定してください。

[Windows]MpAosfB: 警告: 1060:指定されたログファイルはCD-ROMドライブ、リムーバブルディスクまたはネットワーク ドライブ上のファイルのため監視できません。ファイル名=dddd

【メッセージの意味】

ログファイル監視に指定されたログファイルはCD-ROMドライブ、リムーバブルディスクまたはネットワークドライブ上のファイルのため監視できません。

【パラメタの意味】

dddd: 監視ファイル名

【システムの処理】

指定されたログファイルを監視せず、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

CD-ROMドライブ、リムーバブルディスクまたはネットワークドライブ上のファイルを指定しないでください。

[Windows]MpAosfB: 警告: 1084:イベントログに出力されたメッセージのパラメタが多いため破棄しました。(ppp,rrr,mmm)

【メッセージの意味】

イベントログに出力されたメッセージのパラメタが、200個以上あるため破棄しました。

【パラメタの意味】

ppp: 該当メッセージの発生時刻

rrr: 該当メッセージのソース名

mmm: 該当メッセージのイベントID

【システム管理者の処置】

イベントログを出力するアプリケーションの仕様を確認し、パラメタが200個以上あるメッセージを出力しないよう対処してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3000:アクション管理サーバの初期化処理に失敗しました。システム関数名:ffff 理由:ssss

【メッセージの意味】

アクション管理サーバでエラーが発生したため初期化処理に失敗しました。

【パラメタの意味】

ffff: エラーが発生したシステム関数

ssss: エラーの理由を示したメッセージ

【システムの処理】

アクション実行処理は、終了します。

【システム管理者の処置】

理由に表示された内容を参照し、エラー原因を取り除いてください。対処方法が不明の場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、"イベント監視"、"アクション実行／システム監視"をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3001:異常が発生したため、アクション管理サーバを終了します。

【メッセージの意味】

アクション管理サーバでエラーが発生したため、終了します。

【システムの処理】

アクション実行処理は、終了します。

【システム管理者の処置】

直前のメッセージなどから、エラーの原因を究明し、その内容に応じた対処を行います。対処方法が不明の場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、"イベント監視"、"アクション実行／システム監視"をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3002:環境定義ファイルが存在しません。

【メッセージの意味】

アクション実行に必要な環境定義ファイルが存在しません。

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

[アクション環境設定]ダイアログボックスでアクション実行環境を登録します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3003:メモリ不足が発生したため、アクションは実行できません。管理番号:iiii

【メッセージの意味】

送信データまたは送信先が多いためにメモリ不足が発生し、アクションが実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: 実行できなかったアクションの管理番号

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

送信データまたは送信先を分割し、再度アクションを実行してください。または、メモリを増設してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3004:メモリ不足が発生したため、アクション要求を受信できません。

【メッセージの意味】

送信データまたは送信先が多いためにメモリ不足が発生し、アクション要求を受信できませんでした。

【システムの処理】

アクション要求を無効にします。

【システム管理者の処置】

送信データまたは送信先を分割し、再度アクションを実行してください。または、メモリを増設してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3005:システム関数でエラーが発生しました。システム関数名:ffff 理由:ssss

【メッセージの意味】

アクション実行中にシステム関数ffffがssssに示す理由で失敗しました。

【パラメタの意味】

ffff: システム関数名

ssss: エラーの理由を示したメッセージ

【システムの処理】

アクションを異常終了して、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

理由に表示された内容を参照し、エラー原因を取り除いてください。対処方法が不明の場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3006:ソケットの初期化に失敗しました。ファイル名:ffff 理由:ssss

【メッセージの意味】

ソケットの初期化に失敗しました。

【パラメタの意味】

ffff: ソケットファイル名

ssss: エラーの理由を示したメッセージ

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

Systemwalkerが正しくインストールされているか確認してください。理由に表示された内容を参照し、エラーを取り除いてください。対処方法が不明な場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、"イベント監視"、"アクション実行／システム監視"をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3007:ソケットの初期化に失敗しました。ポート:pppp 理由:ssss

【メッセージの意味】

ソケットの初期化に失敗しました。

【パラメタの意味】

pppp:ポート番号

ssss:エラーの理由を示したメッセージ

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

理由に表示された内容を参照し、エラー原因を取り除いてください。対処方法が不明の場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、"イベント監視"、"アクション実行／システム監視"をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3008:APIとの通信に失敗しました。

【メッセージの意味】

APIとの通信に失敗しました。

【システムの処理】

アクションの実行要求、または操作要求を無効にします。

【システム管理者の処置】

直前に出力されるメッセージにより、必要な対処を行います。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3009:コード変換テーブルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

コード変換テーブルのオープンに失敗しました。

【システムの処理】

指定された文字列をそのまま使用します。

【システム管理者の処置】

Systemwalkerが正しくインストールされているか確認してください。対処方法が不明な場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3010:メモリ不足のため、一覧を獲得できません。

【メッセージの意味】

メモリ不足が発生したため、[アクション管理]ウィンドウにアクション一覧を送信できません。

【システムの処理】

処理は継続します。

【システム管理者の処置】

いくつかのアプリケーションを終了させ、[アクション管理]ウィンドウを再起動します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3011:コード変換処理に失敗しました。

【メッセージの意味】

未サポートの文字コードが含まれるため、文字コード変換ができません。

【システムの処理】

処理を継続します。

【システム管理者の処置】

アクション実行に指定した文字コードを見直します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3012:アクション管理画面との接続に失敗しました。

【メッセージの意味】

[アクション管理]ウィンドウとの接続に失敗しました。

【システムの処理】

処理を継続します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの直前に出力されるメッセージを参照し、原因を取り除いてください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3013:アクション管理画面との通信を切断します。

【メッセージの意味】

[アクション管理]ウィンドウが正しく終了しないか、または、ネットワークが切断されたため、[アクション管理]ウィンドウとの通信が切断されました。

【システムの処理】

処理を継続します。

【システム管理者の処置】

[アクション管理]ウィンドウを起動していたマシンの状況およびネットワークの状況を確認します。このメッセージを出力されないようにするには、[アクション管理]ウィンドウの終了後にマシンの電源を切断してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3014:送信先が指定されていません。

【メッセージの意味】

アクション実行APIに指定されたアドレスの中に有効な送信先が存在しません。

【システムの処理】

要求されたアクションを無効にします。

【システム管理者の処置】

送信先が正しいかを確認し、再度アクション実行APIを実行します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3015:アクション実行ホストが指定されていません。アクション:aaaa

【メッセージの意味】

アクションaaaaを実行させるホストが指定されていません。

【パラメタの意味】

aaaa: 実行ホストが指定されていないアクション

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、実行ホストが指定されていないアクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

[アクション環境設定]ダイアログボックス－[アクション実行先]シートにおいて、実行ホストを指定し、再度アクションを実行させます。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3016:アクション実行サーバが起動されていません。ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

- アクションを実行するホストが起動されていません。
- アクション実行サービス(Systemwalker MpAosfX)が起動されていません。
- アクション実行に必要なポートが使用できません。

【パラメタの意味】

hhhh: ホスト名

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

アクションを実行するホストを起動し、アクション実行サービス(Systemwalker MpAosfX)を起動してください。ポート番号6961を使用しているアプリケーションがある場合、別のポートに移動するなどの方法で重複しないよう対処してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3017:アクション実行ホストは存在しません。ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

[アクション環境設定]ダイアログボックスで指定した、アクション実行ホストが存在しません。

【パラメタの意味】

hhhh: ホスト名

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、指定されたホストで実行させようとしたアクションは、実行されません。

【システム管理者の処置】

[アクション環境設定]ダイアログボックス－[アクション実行先]シートにおいて設定したホストとTCP/IPでの通信が可能かを、pingコマンドを使用して確認し、通信が可能なホスト名を設定します。設定後、[アクション管理]ウィンドウより異常終了したアクションを実行します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3018:アクション実行サーバとの接続に失敗しました。ホスト名:hhhh 理由:ssss

【メッセージの意味】

アクションを実行するホストとの接続時に何らかのエラーが発生しました。アクションを異常終了とします。

【パラメタの意味】

hhhh: 接続しようとしたホスト名

ssss: 接続で失敗したソケット通信のエラーの原因

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

ネットワークの負荷が高い状態ではないか、ネットワークトラブルが発生していないかを確認してください。また、理由に表示されるソケット通信のエラー詳細を参照し、対処してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3019:アクション実行サーバとの通信でエラーが発生しました。管理番号:iiii ホスト名:hhhh 理由:ssss

【メッセージの意味】

アクションを実行中のホストとの通信が何らかのエラーが原因で切断されました。アクションを異常終了とします。アクションを実行中のホストの電源が強制的に切断された場合やネットワークに異常が発生した場合に出力されます。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

ssss: ソケット通信のエラーの原因

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

ネットワークの負荷が高い状態ではないか、ネットワークトラブルが発生していないかを確認してください。また、理由に表示されるソケット通信のエラー詳細を参照し、対処してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3020:指定されたアクション実行サーバは、他のサーバからの要求によるアクションを実行中です。ホスト名:hhhh 要求元:jjjj

【メッセージの意味】

アクションを実行しようとしたが、指定されたアクション実行サーバは、他のサーバからのアクション実行の要求により、アクションを実行中です。そのため、アクションを実行させることができません。

【パラメタの意味】

hhhh: 実行ホスト

jjjj: 要求のあったサーバ

【システムの処理】

アクションを異常終了にし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

他サーバからのアクション実行が終了したことを確認して、アクションを再度実行させます。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3021:アクション実行サーバでシステムエラーが発生しました。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

アクション実行サーバで、システムエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

iiii:アクション管理番号

hhhh:実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了にし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

アクションを実行したホストにおいて、エラーメッセージが出力されていないか確認してください。出力されている場合は、そのメッセージからシステムエラーの原因を判断し、それに対する対処を実施してください。対処後、アクションを再度実行してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3022:アクションを実行する環境がインストールされていません。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

アクションを実行するホストに、アクションを実行するための環境(サウンド再生の環境、モデムなど)が設定されていません。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: アクションを実行するホスト名

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

アクションを実行するホストにおいて、[アクション環境設定]ダイアログボックスでアクションを実行するための環境を設定してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3023:アクション実行環境が定義されていません。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

アクション実行に必要な環境情報が登録されていません。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

[アクション環境設定]ダイアログボックスでアクション実行環境を登録します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3024:ダイナミックリンクライブラリ(IIII)のロードに失敗しました。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

ダイナミックリンクライブラリのロードに失敗しました。

【パラメタの意味】

llll: ロードに失敗したダイナミックリンクライブラリ名

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

ダイナミックリンクライブラリのファイルが存在するか確認してください。存在する場合は参照可能なアクセス権かを確認し、参照可能なアクセス権に変更してください。ファイルが存在しない場合は、Systemwalker が正しくインストールされていない可能性があります。資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、"イベント監視"、"アクション実行／システム監視"をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3050:送信元のアドレスが設定されていません。

【メッセージの意味】

E-Mailの送信処理で、送信元のメールアドレスが指定されていないので、E-Mailアクションは実行できませんでした。

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

送信元アドレスを指定し、再度アクションの実行依頼します。または、[アクション環境設定]ダイアログボックスで送信元アドレスを登録します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3051:SMTPサーバが設定されていません。

【メッセージの意味】

SMTPサーバ名が指定されていないので、E-Mailアクションは実行できませんでした。

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

[アクション環境設定]ダイアログボックス－[メール]シートで、SMTPサーバ名を指定し、再度アクションの実行を依頼してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3052:SMTPサーバへの接続に失敗しました。SMTPサーバの状態を確認し、理由に表示されるコードおよびメッセージを、SMTPサーバの管理者に問い合わせ、対処してください。サーバ名:hhhh 理由:ssss

【メッセージの意味】

E-Mail送信アクションにおいて、SMTPサーバとの接続が表示される理由により失敗しました。アクションを異常終了とします。

【パラメタの意味】

hhhh: SMTPサーバ名

ssss: ソケット通信のエラーの原因

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

理由に表示されるソケット通信のエラーを元に原因を究明し、対処してください。SMTPサーバが起動されているかなど、SMTPサーバの状態を確認してください。また、SMTPサーバの設定により、連続して大量のメールを送信した場合、SMTPサーバで接続が拒否される場合があります。これらの設定については、SMTPサーバの管理者に確認してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3053:SMTPサーバとの通信処理でエラーが発生しました。サーバ名:hhhh 理由:ssss

【メッセージの意味】

SMTPサーバとの通信中に表示される理由によりエラーが発生しました。アクションを異常終了とします。

【パラメタの意味】

hhhh: SMTPサーバ名

ssss: ソケット通信のエラーの原因

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

以下について確認してください。

1. 表示されているSMTPサーバ名に対してpingコマンドを実行し、ネットワークがつながるか。

   ネットワークがつながらない場合は、ネットワーク環境を見直し、ネットワークがつながる環境にしてください。

2. pingコマンドで表示されるIPアドレスが意図したIPアドレスか。

   意図していないIPアドレスの場合は、hostsファイル等のネットワークの設定を確認してください。

3. メッセージが出力された時間に、SMTPサーバが停止したり、ネットワークに異常が発生していないか。

   SMTPサーバが停止している場合は起動してください。ネットワークに異常が発生している場合は、ネットワークの異常を取り除いてください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3054:SMTPサーバへの接続が拒否されました。理由に表示されるコードおよびメッセージを、SMTPサーバの管理者に問い合わせ、対処してください。サーバ名:hhhh 理由:ssss

【メッセージの意味】

SMTPサーバとの接続が表示される理由により拒否されました。アクションを異常終了とします。

【パラメタの意味】

hhhh: SMTPサーバ名

ssss: SMTPサーバから返答されたエラーの原因

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

理由に表示されるコードおよびメッセージをSMTPサーバの管理者に問い合わせ、対処してください。

送信先アドレスや送信元のアドレスの形式が正しくない、または、許可されていないなどの理由が考えられます。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3055:ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名:hhhh 理由:ssss

【メッセージの意味】

アクション実行中にファイルのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

hhhh: ファイル名

ssss: エラーの内容を示すメッセージ

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

ファイルが存在しているか確認してください。存在している場合は、更新可能なアクセス権かを確認し、更新可能なアクセス権に変更してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3056:ファイルの入出力処理でエラーが発生しました。理由:ssss

【メッセージの意味】

アクション実行中にファイルの入出力処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

ssss: エラーの内容を示すメッセージ

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

理由に表示された内容を参照し、原因を取り除いてください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3057:作業用ファイルの作成に失敗しました。ファイル名:ffff 理由:ssss

【メッセージの意味】

アクション実行中に作業用ファイルの作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

ffff: 作成失敗したファイル名

ssss: エラーの内容を示すメッセージ

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

ファイルの格納先ディレクトリが更新可能なアクセス権かを確認し、更新可能なアクセス権に変更してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3058:SMTPサーバからエラーが返答されました。Fromアドレスと送信先アドレスが正しいか確認して下さい。理由に表示されるコードおよびメッセージを、SMTPサーバの管理者に問い合わせ、対処してください。サーバ名:hhhh 理由:ssss

【メッセージの意味】

SMTPサーバから表示される理由のメッセージが返答されたため、メール送信に失敗しました。アクションを異常終了とします。

【パラメタの意味】

hhhh: SMTPサーバ名

ssss: SMTPサーバから返答されたエラーの原因

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

以下のような原因が考えられます。

1. エラーメッセージの理由にFromアドレスに指定したアドレスが表示される場合

   指定したFromアドレスがSMTPサーバに登録されていない可能性があります。FromアドレスをSMTPサーバに登録されているメールアドレスに変更してください。

2. エラーメッセージの理由に送信先に指定したアドレスが表示されている場合

   表示されたアドレスへのメールの送信をSMTPサーバが許可していない可能性があります。送信先のアドレスが正しいかを確認してください。

上記以外の場合は、理由に表示されるコードおよびメッセージを、SMTPサーバの管理者に問い合わせ、対処してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3080:プロファイル名が指定されていません。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

MS-Mailの送信処理で、MS-Mailにサインインするためのプロファイル名が指定されていません。そのため、MS-Mailアクションは実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

プロファイル名を指定し、再度アクションの実行依頼します。または、[アクション環境設定]ダイアログボックスでプロファイル名を登録します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3081:MS－Mailへのログインに失敗しました。管理番号:iiii ホスト名:hhhh コード:cccc

【メッセージの意味】

MS-Mailへのログイン処理に失敗したため、MS-Mailアクションは実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

cccc: 失敗した理由を示すコード

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

[アクション環境設定]ダイアログボックスにて、MS-Mail環境およびプロファイル名、パスワードを確認し、正しく設定してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3082:指定されたMS－Mailのセションは存在しません。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

指定されたMS-Mailのセションが見つかりませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

アクション実行に指定したプロファイル名を登録し、再実行します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3083:MS－Mailの送信処理に失敗しました。管理番号:iiii ホスト名:hhhh コード:cccc

【メッセージの意味】

MS-Mailのメッセージ送信処理で失敗しました。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

cccc: 失敗した理由を示すコード

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

MS-Mailが送信できる環境か確認してください。対処方法が不明な場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、"イベント監視"、"アクション実行／システム監視"をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3084:MS－Mail送信において指定された送信先のアドレスが不当です。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

MS-Mailアクションに指定された送信先のアドレスが正しくありません。そのためMS-Mailアクションは実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

送信先のアドレスに正しいアドレスを設定します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3085:MS－Mail送信において指定された送信ファイルは存在しません。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

MS-Mailアクションに指定された送信ファイルが、存在しません。そのため、MS-Mailアクションは実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

[イベント監視の条件定義]ウィンドウのアクション実行画面において、メールアクションの送信ファイルに、正しいファイル名を設定してください。ファイルが存在しない場合は、作成してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3086:MS－Mail送信において指定された送信ファイルのオープンに失敗しました。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

MS-Mailアクションに指定されている送信ファイルのオープンに失敗しました。そのため、MS-Mailアクションが実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

[イベント監視の条件定義]ウィンドウのアクション実行画面において、メールアクションの送信ファイルに、正しいファイル名を設定してください。ファイルが存在している場合は、参照可能なアクセス権かを確認し、参照可能なアクセス権に変更してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3100:ショートメールの会社が登録されていません。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

ショートメールの会社が登録されていないため、ショートメールアクションが実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了にし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

[アクション環境設定]ダイアログボックス－[ショートメール]シートで、ショートメールの会社を登録してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3101:メッセージのコード変換処理でエラーが発生しました。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

ショートメールのメッセージ変換用出口のDLLでエラーが発生したため、ショートメールアクションが実行できません。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了にし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

ショートメールのメッセージ変換用出口の処理を見直します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3102:指定されたCOMポートは存在しません。管理番号:nnnn ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

アクション実行先ホストにはショートメール通知に登録されているCOMポートが存在しません。アクションを異常終了とします。

【パラメタの意味】

nnnn: アクション管理番号

hhhh: アクション実行先ホスト名

【システムの処理】

アクションを異常終了にし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

[アクション環境設定]ダイアログボックスー[COMポート]シートで、COMポートの設定を変更後、再度アクションを実行してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3103:COMポートへのアクセスが拒否されました。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

他のプロセスでCOMポートを使用中か、アクセス権がないため、ショートメールアクションが実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

COMポートが使用中の場合は、しばらく待ってからアクションを再実行してください。COMポートにアクセス権がない場合は付加し、アクションを再実行してください。[アクション管理]ウィンドウからアクションを再実行することができます。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3104:COMポートのオープンに失敗しました。管理番号:iiii ホスト名:hhhh コード:cccc

【メッセージの意味】

COMポートのオープン処理でエラーが発生したため、ショートメールアクションが実行できません。アクションを異常終了とします。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

アクションを実行したホストのイベントログに以下のメッセージが表示されます。

ソース: MpAosfB

イベントID: 4104

このメッセージに表示される理由から原因を追求し、対処してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3105:COMポートの入出力処理でエラーが発生しました。管理番号:iiii ホスト名:hhhh コード:cccc

【メッセージの意味】

COMポートへの書き込みまたはCOMポートからの読込みで失敗したため、ショートメールアクションが実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

cccc: 失敗した理由を示すコード

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

コードに表示される内容を参照し、エラー原因を取り除いてください。ホスト名に表示されたホストにおいて、出力されているエラーセージの内容に応じた対処を行ってください。対処方法が不明の場合は、当エラーが出力されているマシン、および、ホスト名に表示されたホストにおいて、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行/システム監視”をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3106:話し中のため、ショートメール会社に接続できません。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

話し中のため、電話回線が接続できません。そのため、ショートメールアクションが実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションは実行しません。

【システム管理者の処置】

しばらく待ってから、アクションを再度実行してください。[アクション管理]ウィンドウからアクションを再実行することができます。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3107:電話回線からキャリア信号を受信できません。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

電話回線からキャリア信号を受信できなかったため、ショートメールアクションを実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

モデムから"NO CARRIER"が返答されました。"NO CARRIER"が返答される理由については、使用しているモデムの取扱説明書を参照してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3108:電話回線からエラー信号を受信しました。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

電話回線からエラー信号を受信したため、ショートメールアクションを実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

モデムから"ERROR"が返答されました。"ERROR"が返答される理由については、使用しているモデムの取扱説明書を参照してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3109:電話回線からダイヤルトーンを検出できません。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

電話回線からダイヤルトーンを検出できなかったため、ショートメールアクションが実行できません。アクションを異常終了とします。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

モデムから"NO DIALTONE"が返答されました。"NO DIALTONE"が返答される理由については、使用しているモデムの取扱説明書を参照してください。

モデムが内線回線に接続されている場合は、内線交換機の仕様によりモデムがダイヤルトーンを検出できない場合があります。この場合は、[アクション環境設定]ダイアログボックスー[COMポート]シートの[モデム初期化ATコマンド]入力域に、ダイヤルトーンの検出を待たずにダイヤルするコマンドを設定してください。コマンドの詳細については、使用するモデムの取扱説明書を参照してください。

（例） AT&fX3

[Windows]MpAosfB: エラー: 3110:電話回線から応答がありません。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

電話回線から返答がなかったため、ショートメールアクションが実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

モデムから"NO ANSWER"が返答されました。"NO ANSWER"が返答される理由については、使用しているモデムの取扱説明書を参照してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3111:電話回線が切断されました。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

電話回線がアクション実行途中で切断されたため、ショートメールアクションが実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

モデムの接続状況を確認してください。また、ショートメール送信の電話番号を確認してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3112:電話番号がブラックリスト内にあるため、ダイヤルできません。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

電話番号がモデムのブラックリスト内にあるため、モデムにより指定された番号へのダイヤルが拒否されました。アクションを異常終了とします。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: アクションを実行したホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

イベント監視の条件定義を見直し、同時に大量のショートメールアクションが実行されないようにします。モデムのブラックリスト機能については、モデムの取扱説明書を参照してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3150:ポップアップメッセージの送信処理でエラーが発生しました。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

ポップアップメッセージの送信でエラーが発生したため、ポップアップメッセージアクションを実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

アクションを実行したホストに出力されるメッセージより、エラーの原因を究明します。その原因に応じた対処を実施します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3151:ポップアップメッセージの送信先のアドレスが獲得できません。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

ポップアップメッセージの送信先のアドレスが獲得できませんでした。そのため、ポップアップメッセージアクションが実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

アクションを実行したホストに出力されるメッセージより、エラーの原因を究明します。その原因に応じた対処を実施します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3152:Windows98/Meではポップアップアクションは実行できません。

【メッセージの意味】

Windows(R) 98およびWindows(R) Me上で動作するアクション実行サーバではポップアップアクションは実行できません。アクションを異常終了とします。

【システムの処理】

アクションを異常終了にし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

アクション実行サーバが存在するWindowsサーバをポップアップアクションの実行先ホストとして指定し、再度アクションを実行してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3200:サウンドドライバがインストールされていません。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

サウンドドライバがインストールされていないので、音声通知アクションが実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

サウンドドライバをインストールします。または、インストールが正しく行われているか確認し、正常にインストールされていない場合は再インストールしてください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3201:サウンドドライバがインストールされていないか、または、他のプロセスで使用中です。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

サウンドドライバがインストールされていないか、他プロセスで使用中です。そのため音声通知アクションが実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: アクション管理番号

hhhh: 実行ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

サウンドドライバがインストールされているかを確認してください。正しくインストールされている場合は、他プロセスで使用中のままになっていないかを確認してください。他プロセスが使用中のままとなっている場合は、使用中のプロセス側で調査してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3202:サウンドドライバは他のプロセスで使用中です。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

サウンドドライバが他のプロセスで使用中のため、音声通知アクションが実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: 音声通知アクションの管理番号

hhhh: アクションの実行先ホスト

【システムの処理】

処理を継続します。

【システム管理者の処置】

しばらく待ってから、アクションを再度実行してください。[アクション管理]ウィンドウからアクションを再実行することができます。再実行しても同じエラーが出る場合は、他プロセスで使用中のままになっていないか確認してください。使用中のままとなっている場合は、使用中のプロセス側で調査してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3203:音声再生用の辞書がオープンできません。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

音声再生用の辞書のオープンに失敗しました。そのため、音声通知アクションが実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: 音声通知アクションの管理番号

hhhh: アクションの実行先ホスト

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

下記ファイルの状態(有無、アクセス権)を確認してください。

(instdir)¥mpwalker¥mpaosfsv¥base¥etc¥F3CKLING.DIC

(instdir)¥mpwalker¥mpaosfsv¥base¥etc¥HIGH.DIC

ファイル、および、ディレクトリに参照可能なアクセス権を設定してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3204:音声合成処理に失敗しました。管理番号:iiii ホスト名:hhhh コード:cccc 詳細コード:dddd

【メッセージの意味】

音声合成処理に失敗しました。それにより、音声通知アクションを実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: 音声通知アクションの管理番号

hhhh: アクションの実行先ホスト

cccc: アクションの終了コード

dddd: アクションの終了詳細コード

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

コード、および、詳細コードに表示された内容を参照し、音声合成処理に失敗する原因を取り除いてください。対処方法が不明な場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3205:サウンドドライバは音声再生のためのウェーブフォーム形式をサポートしていません。管理番号:iiii ホスト名:hhhh

【メッセージの意味】

サウンドドライバは、音声再生のためのウェーブフォーム形式をサポートしていないため、音声通知アクションを実行できませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: 音声通知アクションの管理番号

hhhh: アクションの実行先ホスト

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、音声通知処理は行うことができません。

【システム管理者の処置】

正しいサウンドドライバをインストールします。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3206:サウンド再生中にシステムエラーが発生しました。管理番号:iiii ホスト名:hhhh コード:cccc 詳細コード:dddd

【メッセージの意味】

サウンド再生中にシステムエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

iiii: 音声通知アクションの管理番号

hhhh: アクションの実行先ホスト

cccc: アクションの終了コード

dddd: アクションの終了詳細コード

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

[アクション管理]ウィンドウで、異常終了した音声通知のアクションを選択し、プロパティ画面を表示します。プロパティ画面に表示されたエラー内容を参照し、エラーの原因を取り除いてください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 3207:アクションの実行に失敗しました。アクション:aaaa 管理番号:iiii ホスト名:hhhh コード:cccc 詳細コード:dddd

【メッセージの意味】

管理番号iiiiのアクションの実行に失敗しました。

【パラメタの意味】

aaaa: アクションの内容

iiii: アクションの管理番号

hhhh: アクションの実行先ホスト

cccc: アクションの終了コード

dddd: アクションの終了詳細コード

【システムの処理】

アクションを異常終了状態にし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

[アクション管理]ウィンドウで、異常終了したアクションを選択し、プロパティ画面を表示します。プロパティ画面に表示されたエラー内容を参照し、エラーの原因を取り除いてください。

[Windows]MpAosfB: 情報: 4000:イベント監視機能サービス(MpAosfX)が起動しました。

【メッセージの意味】

イベント監視機能サービス(アクション実行サーバ)が起動しました。

【システムの処理】

アクション実行サーバを開始します。

[Windows]MpAosfB: 情報: 4002:イベント監視機能サービス(MpAosfX)が停止しました。

【メッセージの意味】

イベント監視機能サービス(アクション実行サーバ)が終了しました。

【システムの処理】

アクション実行サーバを終了します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4003:アクション実行サーバの初期化に失敗しました。

【メッセージの意味】

アクション実行サーバの初期化処理に失敗しました。

【システムの処理】

アクション実行サーバは停止します。

【システム管理者の処置】

アクション実行サーバ(Systemwalker MpAosfX)を再起動します。再起動しても本メッセージが発生する場合は、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4004:インストール情報の獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

インストール情報の獲得ができませんでした。

【システムの処理】

アクション実行サーバは停止します。

【システム管理者の処置】

Systemwalker が正しくインストールされているか確認してください。

対処方法が不明の場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4005:ソケットの初期化に失敗しました。理由:ssss

【メッセージの意味】

ソケットの初期化に失敗しました。

【パラメタの意味】

ssss: エラーの理由

【システムの処理】

アクション実行サーバは停止します。

【システム管理者の処置】

理由に表示された内容を参照し、エラーを取り除いてください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4006:メモリ不足が発生したため、アクションは実行できません。

【メッセージの意味】

メモリ不足が発生したため、アクションが実行できませんでした。

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

メモリを増設するか、不要なアプリケーションを停止してください。その後、再度アクションを実行してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4007:ソケット関数でエラーが発生しました。関数:ffff 理由:ssss

【メッセージの意味】

ソケット関数でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

ffff: エラーが発生した関数名

ssss: エラーの理由

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

理由に表示された内容を参照し、エラーを取り除いてください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4008:スレッドが異常終了したため、アクション実行サーバを終了します。

【メッセージの意味】

スレッドが異常終了しました。そのためアクション実行サーバを終了します。

【システムの処理】

アクション実行サーバは停止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの直前に表示されたエラーメッセージを参照し、エラー原因を取り除いてください。

メモリ、ディスクなど環境の問題がないか確認し、場合によってはメモリの増設やディスク交換などの処置を行い、環境の問題を取り除いてください。

対処方法が不明の場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4009:システム関数でエラーが発生しました。関数名:ffff 理由:ssss

【メッセージの意味】

システム関数でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

ffff: エラーが発生した関数名

ssss: エラーの理由

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

理由に表示された内容を参照し、エラーを取り除いてください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4010:ダイナミックリンクライブラリ(dddd)のロードに失敗しました。理由:ssss

【メッセージの意味】

ダイナミックリンクライブラリのロードができませんでした。

【パラメタの意味】

dddd: リンクライブラリ名

ssss: エラーの理由

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

DLLが存在するかを確認してください。DLLが存在する場合は、ファイルのアクセス権が参照可能かを確認してください。その他の場合は、理由に表示されるメッセージに応じた対処を行ってください。

対処方法が不明な場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4011:指定されたファイルは存在しません。ファイル: ffff

【メッセージの意味】

アクションを実行しようとしたが、指定されたファイルは存在しません。

【パラメタの意味】

ffff: ファイル名

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

正しいファイルを指定して、再度実行します。または、必要なファイルを作成し、再度実行します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4023:アクション実行環境が定義されていません。

【メッセージの意味】

アクション実行環境が定義されていないため、アクションが実行できません。

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

[アクション環境設定]ダイアログボックスでアクション実行環境を設定してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4080:プロファイル名が指定されていません

【メッセージの意味】

プロファイル名が指定されていないため、MS-Mailアクションが実行できません。

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

[アクション環境設定]ダイアログボックスー[メール]シートにおいて、MS-Mailのプロファイル名を設定してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4081:MS－Mailのログオンに失敗しました。理由:ssss

【メッセージの意味】

MS-Mailのログオンに失敗したため、MS-Mailアクションが実行できません。

【パラメタの意味】

ssss: エラーが発生した理由

【システムの処理】

アクションは実行されません

【システム管理者の処置】

理由に表示された内容を参照し、ログオンに失敗した原因を取り除いてください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4082:指定されたMS－Mailのセションは存在しません。

【メッセージの意味】

指定されたMS-Mailセションは存在しないため、MS-Mailアクションが実行できません。

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

正しいMS-Mailセションを指定して、再度アクションを実行します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4083:MS－Mailの送信処理に失敗しました。理由:ssss

【メッセージの意味】

MS-Mailの送信処理に失敗しました。

【パラメタの意味】

ssss: エラーの理由

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

理由に表示された内容を参照し、送信エラーの原因を取り除いてください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4084:MS－Mailに指定されたアドレスが正しくありません。

【メッセージの意味】

MS-Mailに指定されたアドレスが正しくないため、MS-Mailアクションが実行できません。

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

正しいアドレスを指定して、再度実行します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4085:MS－Mailに指定されたファイルは存在しません。

【メッセージの意味】

MS-Mailに指定されたファイルは存在しません。

【パラメタの意味】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

正しいファイルを指定して再度実行します。または、ファイルを作成して再度実行します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4086:MS－Mailに指定されたファイルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

MS-Mailに指定されたファイルのオープンに失敗しました。

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

[イベント監視の条件定義]ウィンドウのアクション定義にて、MS-Mailの送信ファイル名に正しいファイル名を指定してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4100:指定されたショートメール会社が登録されていません。会社名:cccc

【メッセージの意味】

指定されたショートメール会社が登録されていません。

【パラメタの意味】

cccc: 会社名

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

[イベント監視の条件定義]ウィンドウのアクション定義にて、ショートメール会社に、[アクション環境設定]ダイアログボックス−[ショートメール]シートに登録されたショートメール会社名を指定してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4101:メッセージの変換処理でエラーが発生しました。

【メッセージの意味】

ショートメールアクションを実行しようとしたが、メッセージの変換処理でエラーが発生しました。

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

[イベント監視の条件定義]ウィンドウのアクション定義にて、ショートメールで送信するメッセージの内容に不当な文字がないか確認し、ショートメールで送信できる文字で設定してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4104:COMポートのオープンに失敗しました。理由: ssss

【メッセージの意味】

COMポートのオープン処理でエラーが発生したため、ショートメールアクションが実行できません。アクションを異常終了とします。

【パラメタの意味】

ssss: エラーの理由

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

理由に表示されるメッセージを元に、原因を究明し対処します。

理由に「アクセスが拒否されました。」と表示された場合、他のプロセスがモデムを使用している可能性があります。RAS接続などでモデムを使用していないかを確認し、モデムの競合が発生しないようにしてください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4105:COMポートの入出力処理でエラーが発生しました。理由: ssss

【メッセージの意味】

ショートメールアクションを実行しようとしたが、COMポートの入出力エラーが発生しました。

【パラメタの意味】

ssss: エラーの理由

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

理由に表示された内容を参照し、入出力エラーの原因を取り除いてください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4106:話し中のため、ショートメール会社に接続できません。

【メッセージの意味】

ショートメールアクションを実行しようとしたが、話し中でした。

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

しばらく時間をおいて、再度実行します。本メッセージが多発する場合、モデムの状態を確認します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4107:電話回線からキャリア信号を受信できません。

【メッセージの意味】

ショートメールアクションを実行しようとしたが、電話回線からキャリア信号を受信できません。

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

モデムから"NO CARRIER"が返答されました。"NO CARRIER"が返答される理由については、使用しているモデムの取扱説明書を参照してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4108:電話回線からエラー信号を受信しました。

【メッセージの意味】

ショートメールアクションを実行しようとしたが、電話回線からエラー信号を受信しました。

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

モデムから"ERROR"が返答されました。"ERROR"が返答される理由については、使用しているモデムの取扱説明書を参照してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4109:電話回線からダイヤルトーンを検出できません。

【メッセージの意味】

電話回線からダイヤルトーンを検出できなかったため、ショートメールアクションが実行できません。アクションを異常終了とします。

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理は継続します。

【システム管理者の処置】

モデムから"NO DIALTONE"が返答されました。"NO DIALTONE"が返答される理由については、使用しているモデムの取扱説明書を参照してください。

モデムが内線回線に接続されている場合は、内線交換機の仕様によりモデムがダイヤルトーンを検出できない場合があります。この場合は、[アクション環境設定]ダイアログボックスー[COMポート]シートの[モデム初期化ATコマンド]入力域に、ダイヤルトーンの検出を待たずにダイヤルするコマンドを設定してください。コマンドの詳細については、使用するモデムの取扱説明書を参照してください。

（例） AT&fX3

[Windows]MpAosfB: エラー: 4110:電話回線から応答がありません。

【メッセージの意味】

ショートメールアクションを実行しようとしたが、電話回線からの応答がありませんでした。

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

モデムから"NO ANSWER"が返答されました。"NO ANSWER"が返答される理由については、使用しているモデムの取扱説明書を参照してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4111:電話回線が切断されました。

【メッセージの意味】

ショートメールアクションを実行しようとしたが、電話回線が切断されました。

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

しばらく時間をおいて再度実行してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4112:ダイヤルした番号がブラックリストにあります。

【メッセージの意味】

電話番号がモデムのブラックリスト内にあるため、モデムにより指定された番号へのダイヤルが拒否されました。アクションを異常終了とします。

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

イベント監視の条件定義を見直し、同時に大量のショートメールアクションが実行されないようにします。モデムのブラックリスト機能については、モデムの取扱説明書を参照してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4200:サウンドドライバがインストールされていません。

【メッセージの意味】

音声通知アクションを実行しようとしたが、サウンドドライバがインストールされていないため、実行できませんでした。

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

サウンドドライバをインストールします。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4201:サウンドドライバがインストールされていないか、または、他のプロセスが使用中です。

【メッセージの意味】

音声通知アクションを実行しようとしたが、サウンドドライバを呼出しできないため、実行できませんでした。

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

サウンドドライバがインストールされているか確認し、インストールされていない場合はインストールしてください。また、他のプロセスが使用中の場合は、しばらく待ってから、アクションを再実行してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4202:サウンドドライバは、他のプロセスが使用中です。

【メッセージの意味】

音声通知アクションを実行しようとしたが、サウンドドライバを他のプロセスで使用しているため、実行できませんでした。

【システムの処理】

アクションは実行されません。

【システム管理者の処置】

しばらく時間をおいて、再度実行します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4203:音声再生中にエラーが発生しました。コード: cccc

【メッセージの意味】

音声再生中にエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

cccc: エラーのコード

【システムの処理】

音声再生は中止します。

【システム管理者の処置】

コードの内容を参照し、エラー原因を取り除いてください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4204:音声合成エンジンの初期化に失敗しました。

【メッセージの意味】

音声合成エンジンの初期化処理に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

音声合成エンジンが正しくインストールされているか、また、音声を再生できる環境であるか確認してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 4205:有効な音声合成エンジンがインストールされていません。

【メッセージの意味】

音声合成エンジン(SAPI)がインストールされてないため、音声再生が行えません。アクションを異常終了とします。

【システムの処理】

アクションを異常終了とし、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

音声合成エンジン(SAPI)が付属している製品をインストールしてください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 5004:受信データが異常です。コード:cccc データ:dddd

【メッセージの意味】

定義画面から受信したデータに異常がありました。

【パラメタの意味】

cccc: 受信したデータの項目コード

dddd: 受信したデータの値

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

Systemwalkerが正しくインストールされているか確認してください。対処方法が不明な場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 5005:定義ファイルの構造が異常です。ファイル名:ffff

【メッセージの意味】

イベント監視の条件定義の形式が正しくありません。

【パラメタの意味】

ffff: イベント監視の条件定義ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

イベント監視の条件定義の定義方法について確認してください。イベント監視の条件定義は、[イベント監視の条件定義]ウィンドウから行ってください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 5006:ショートメール会社一覧の取得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ショートメール会社の一覧の取得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、ショートメールのアクションは行うことができません。

【システム管理者の処置】

Systemwalkerが正しくインストールされているか確認してください。対処方法が不明な場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: 警告: 5013:カレンダサービスのライブラリ獲得に失敗しました。カレンダサービスが存在しない環境として処理します。

【メッセージの意味】

カレンダサービスのライブラリの獲得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を継続します。ただしアクション条件に指定された、日にちによる条件は無視されます。また、[イベント監視の条件定義]ウィンドウのアクション条件において、日にちによる設定はできません。

【システム管理者の処置】

カレンダサービスがインストールされているか確認してください。インストールされている場合は、サービスが起動しているか確認してください。サービスが停止している場合は、起動してください。

サービス起動後も現象が回避されない場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: 警告: 5014:システム名一覧情報のライブラリ獲得に失敗しました。システム名一覧情報が存在しない環境として処理します。

【メッセージの意味】

システム名の一覧情報を取得するライブラリの獲得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、イベント監視の条件定義において、システム名での選択による操作はできません。

【システム管理者の処置】

Systemwalkerが正しくインストールされているか確認してください。対処方法が不明な場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 5015:ファイル操作でエラーが発生しました。

【メッセージの意味】

ファイルの操作でエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を継続します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの直前に表示されるメッセージを参照し、エラー原因を取り除いてください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 5020:イベント監視の画面連携機能が停止しました。

【メッセージの意味】

[イベント監視の条件定義]ウィンドウと接続するための機能に異常が発生したため、停止しました。

【システムの処理】

イベント監視機能、アクション管理機能は処理を続行しますが、[イベント監視の条件定義]ウィンドウ、[アクション環境設定]ダイアログボックスは使用することができません。

【システム管理者の処置】

資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。資料採取後、Systemwalkerを再起動してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: 警告: 5021:最大定義数を越したため、一部のイベント監視の定義情報を破棄しました。

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Manager(V5.0L10以降)とSystemwalker Operation Managerの混在環境において、イベント監視の条件定義を1025行以上定義した後にSystemwalker Centric Manager をアンインストールした場合、本メッセージが出力されます。Systemwalker Operation Managerでは、イベント監視の条件定義は1024行までが有効となります。

【システムの処理】

最大定義行数内で処理を継続します。

【システム管理者の処置】

運用に合わせて、イベント監視の条件定義を見直してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 7000:メモリ不足が発生しました。発生元:ssss

【メッセージの意味】

メモリ不足です。

【パラメタの意味】

ssss: 呼出し元プロセス名または関数名

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

ページファイルのサイズを拡張するか、メモリを増設してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 7001:プロセスが終了しました。プロセス名:pppp 終了コード:cccc

【メッセージの意味】

自動運用支援のプロセスが終了しました。

【パラメタの意味】

pppp: 終了したプロセス名

cccc: 終了したプロセスの終了コード

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

1) 保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

2) ワトソンログを採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 7002:内部動作異常が発生しました。発生元プロセス名:pppp

【メッセージの意味】

自動運用支援デーモンで内部動作異常が発生しました。

【パラメタの意味】

pppp: エラーが発生した発生元プロセス名

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

1) 保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

2) ワトソンログを採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 7003:データの受信に失敗しました。発生元プロセス名:pppp

【メッセージの意味】

プロセス間でのデータ受信に失敗しました。

【パラメタの意味】

pppp: エラーが発生した発生元プロセス名

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、Systemwalkerを再起動します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 7004:データの送信に失敗しました。発生元プロセス名:pppp

【メッセージの意味】

プロセス間でのデータ送信に失敗しました。

【パラメタの意味】

pppp: エラーが発生した発生元プロセス名

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、Systemwalkerを再起動します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 7005:定義ファイルのオープンに失敗しました。理由:ssss ファイル名:ffff 発生元プロセス名:pppp

【メッセージの意味】

定義ファイルのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

ssss: エラーの内容を示すメッセージ

ffff: 定義ファイルのファイル名

pppp: エラーが発生した発生元プロセス名

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

表示されるファイルが存在するか、また、アクセス権があるかを確認し、ファイル更新が可能になるようアクセス権を変更してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 7006:定義ファイルの読込みに失敗しました。ファイル名:ffff 発生元プロセス名:pppp

【メッセージの意味】

定義ファイルの読込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

ffff: 定義ファイルのファイル名

pppp: エラーが発生した発生元プロセス名

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

表示されるファイルが存在するか、また、アクセス権があるかを確認し、ファイル参照が可能になるようアクセス権を変更してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 7007:定義ファイルの書込みに失敗しました。ファイル名:ffff 発生元プロセス名:pppp

【メッセージの意味】

定義ファイルの書込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

ffff: 定義ファイルのファイル名

pppp: エラーが発生した発生元プロセス名

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

表示されるファイルが存在するか、また、アクセス権があるかを確認し、ファイル更新が可能になるようアクセス権を変更してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 7008:ソケットによるデータの受信に失敗しました。理由:ssss 発生元プロセス名:pppp

【メッセージの意味】

プロセス間でのデータ受信に失敗しました。

【パラメタの意味】

ssss: 失敗した理由コード

pppp: エラーが発生した発生元プロセス名

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

ポートスキャン等を行っているときに出力された場合、対処は不要です。それ以外の場合は、Systemwalker MpAosfB サービスを再起動してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 7009:ソケットによるデータの送信に失敗しました。理由:ssss 発生元プロセス名:pppp

【メッセージの意味】

プロセス間でのデータ送信に失敗しました。

【パラメタの意味】

ssss: 失敗した理由コード

pppp: エラーが発生した発生元プロセス名

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

Systemwalker MpAosfBサービスを再起動してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 7010:定義ファイルのオープンに失敗しました。理由:ssss ファイル名:ffff 発生元プロセス名:pppp

【メッセージの意味】

定義ファイルのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

ssss: 失敗した理由を示すメッセージ

ffff: ファイル名

pppp: エラーが発生した発生元プロセス名

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

表示されるファイルが存在するか、また、アクセス権があるかを確認し、ファイル参照が可能になるようアクセス権を変更してください。

[Windows]MpAosfB: エラー: 7011:システム関数でエラーが発生しました。呼出し元:cccc システム関数:ffff 理由:ssss

【メッセージの意味】

ccccから呼び出したシステム関数名ffffがssssに示す理由で失敗しました。

【パラメタの意味】

cccc: 呼出し元プロセス名または関数名

ffff: システム関数名

ssss: 失敗した理由を示すメッセージ

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

理由に表示された内容を参照し、エラー原因を取り除いてください。

対処方法が不明な場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 7012:受信データに異常がありました。(発生元プロセス名=pppp) (送信元プロセス名=qqqq)

【メッセージの意味】

受信データに異常がありました。

【パラメタの意味】

pppp: 発生元プロセス名

qqqq: 送信元プロセス名

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 7013:共有メモリ(mmmm)の獲得に失敗しました。(発生元プロセス名=pppp)

【メッセージの意味】

共有メモリの獲得に失敗しました。処理を終了します。

【パラメタの意味】

mmmm : エラーが発生した共有メモリの名前

pppp : エラーが発生したプロセスの名前

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

ページファイルのサイズを拡張するか、メモリを増設します。

[Windows]MpAosfB: エラー: 7014:共通メモリ(%1)の読込みに失敗しました。(発生元プロセス名=%2)

【メッセージの意味】

イベント監視機能サービスで使用する共通制御表の獲得に失敗しました。

【パラメタの意味】

pppp: エラーが発生した発生元プロセス名

nnnn: 共有メモリ名

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの直前に表示されたエラーメッセージを参照し、エラー原因を取り除いてください。

対処方法が不明の場合は、資料を採取し、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

保守情報収集ツールで、”イベント監視”、“アクション実行／システム監視”をチェックして採取します。

2.3 MpAosfPで始まるメッセージ

本節では、MpAosfPで始まるメッセージについて説明します。

MpAosfPで始まるメッセージは、電源制御およびサービス・アプリケーション起動機能が出力するメッセージです。

[Windows]MpAosfP: 情報: 100: Systemwalker MpAosfPが起動しました。

【メッセージの意味】

サービス Systemwalker MpAosfPが起動しました。

[Windows]MpAosfP: 情報: 101: Systemwalker MpAosfPが終了しました。

【メッセージの意味】

サービスSystemwalker MpAosfPが終了しました。

[Windows]MpAosfP: エラー: 102: Systemwalker MpAosfPが異常終了しました。

【メッセージの意味】

サービスSystemwalker MpAosfPが異常終了しました。

【システムの処理】

サービスは、終了します。サービス・アプリケーション起動機能、電源制御機能は動作しません。

【システム管理者の処置】

異常となる原因を調査し取り除きます。原因が不明の場合は、保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: エラー: 104: 以下のエラーが発生したため、プロセスは処理を続行することができません。関数名＝ffff エラーコード＝cccc 内容＝dddd

【メッセージの意味】

関数でエラーは発生しました。

【パラメタの意味】

ffff: 関数名

cccc: エラーコード

dddd: エラー内容

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

関数名、エラーコード、エラー内容から、異常となる原因を取り除きます。原因が不明な場合は、保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: 情報: 106: システムのリブート要求が正常に発行されました。
[UNIX]MpAosfP: INFO: 106: System Reboot Request is normal end

【メッセージの意味】

システムのリブート要求が正常に発行されました。

[Windows]MpAosfP: 情報: 107: システムのシャットダウン要求が正常に発行されました。<CCCC>
[UNIX]MpAosfP: INFO: 107: System Shutdown Request is normal end<CCCC>

【メッセージの意味】

システムのシャットダウン要求が正常に発行されました。

【パラメタの意味】

CCCC: コマンド名+パラメタ

[Windows]MpAosfP: 情報: 108: システムの電源切断要求が正常に発行されました。<CCCC>
[UNIX]MpAosfP: INFO: 108: System Power Off Request is normal end<CCCC>

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerの運用管理クライアントからシステムの電源切断要求が正常に発行されました。

【パラメタの意味】

CCCC: コマンド名+パラメタ

[Windows]MpAosfP: エラー: 109: システムのリブート要求が失敗しました。

【メッセージの意味】

システムのリブート要求が失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

システムをシャットダウンして、再起動します。本メッセージが多発する場合は、保守情報収集ツールで"電源制御_カレンダ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: エラー: 110: システムのシャットダウン要求が失敗しました。

【メッセージの意味】

システムのシャットダウン要求が失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

システムをシャットダウンします。本メッセージが多発する場合は、保守情報収集ツールで"電源制御_カレンダ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: エラー: 111: システムの電源切断要求が失敗しました。システムシャットダウンのみ実施します。

【メッセージの意味】

システムの電源切断要求が失敗しました。システムシャットダウンのみ実施します。

【システムの処理】

シャットダウンします。電源の切断は行われません。また、次回の電源投入時刻には、自動で電源は投入されません。

【システム管理者の処置】

電源を切断します。次回の電源投入時刻は、手動で電源を投入します。

電源制御装置、または電源制御ソフトウェアの説明書を参照し、環境が正しいかを確認します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 115: 終了イベント(iiii)の作成に失敗しました。この終了イベントの待ち合わせはできません。

【メッセージの意味】

終了イベント待ち合わせの環境の作成に失敗しました。この終了イベントの待ち合わせはできません。

【パラメタの意味】

iiii : 失敗した終了イベント

【システムの処理】

この終了イベントの待ち合わせは行いません。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: 警告: 116: 終了イベントが最大値(50)を超えました。これ以上の終了イベントは待ち合わせできません。

【メッセージの意味】

終了イベントが最大値(50)を超えています。

【システムの処理】

50を超えた終了イベントは、無視します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: 警告: 117: サービスデータベースのオープンに失敗しました。サービスの起動処理は実行されません。

【メッセージの意味】

サービスデータベースのオープンに失敗しました。

【システムの処理】

サービス起動は行われません。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: 警告: 118: サービス(ssss)の起動に失敗しました。

【メッセージの意味】

サービス・アプリケーション起動機能で、サービスの起動に失敗しました。

【パラメタの意味】

ssss : サービス名

【システムの処理】

サービスの起動は行われません。その後の処理は、引き続き行います。

【システム管理者の処置】

サービスの環境(サービス名、インストール環境)を見直します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 119: 先行サービス(tttt)が起動していません。サービス(ssss)は起動されませんでした。

【メッセージの意味】

サービス･アプリケーション起動機能で、先行サービスが起動していないため、サービスの起動は行いませんでした。

【パラメタの意味】

ssss: 起動されなかったサービス

tttt: 起動していなかった先行サービス

【システムの処理】

サービスの起動は行いません。その後の処理は、引き続き行います。

【システム管理者の処置】

サービスのスケジュール関係を見直します。先行サービスの環境を見直します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 120: サービス(ssss)の先行サービス(tttt)が定義されていません。

【メッセージの意味】

サービス･アプリケーション起動機能で定義された先行サービスが、定義されていません。

【パラメタの意味】

ssss: サービス名

tttt: ssssのサービスで定義された先行サービス名

【システムの処理】

先行サービス未起動時の指定に従い、処理を続行します。

【システム管理者の処置】

サービス･アプリケーション起動機能で定義した先行サービスを正しく定義します。必要がなければ、先行サービスの定義を削除します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 121: アプリケーション(aaaa)の起動に失敗しました。

【メッセージの意味】

サービス･アプリケーション起動機能で定義されたアプリケーションの起動に失敗しました。

【パラメタの意味】

aaaa: アプリケーション名

【システムの処理】

アプリケーションは起動されません。その後の処理は引き続き行います。

【システム管理者の処置】

アプリケーションの環境を見直します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 122: 先行サービス(ssss)は存在しません。

【メッセージの意味】

サービス･アプリケーション起動機能で定義された先行サービスが存在しません。

【パラメタの意味】

ssss: サービス名

【システムの処理】

先行サービス未起動時の指定に従い、処理を続行します。

【システム管理者の処置】

先行サービスを見直します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 123: サービス(ssss)は存在しません。

【メッセージの意味】

サービス･アプリケーション起動機能で定義されたサービスが存在しません。

【パラメタの意味】

ssss: サービス名

【システムの処理】

サービスは起動されません。その後の処理は引き続き行います。

【システム管理者の処置】

サービス名が正しいかを確認します。また、サービスが正しくインストールされているかを確認します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 124: コマンド(cccc)の起動に失敗しました。

【メッセージの意味】

終了時に起動するコマンドの起動に失敗しました。

【パラメタの意味】

cccc: コマンド名

【システムの処理】

コマンドは起動されません。その後の処理は引き続き行います。

【システム管理者の処置】

コマンドの環境を見直します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 127: 終了イベント(iiii)の待ち合わせが解除されませんでした。
[UNIX]MpAosfP: INFO: 127 : Waiting for End Event(iiii) is not canceled

【メッセージの意味】

サーバのシャットダウン時刻から、終了監視を行ったが、待ち時間までに終了イベント通知がありませんでした。

【パラメタの意味】

iiii: 終了イベント

【システムの処理】

待ち合わせを解除して、サーバのシャットダウン処理(および電源切断処理)を行います。

[Windows]MpAosfP: 警告: 128: uuuuのセッションが解除されませんでした。

【メッセージの意味】

サーバのシャットダウン時刻から、終了監視を行ったが、待ち時間が過ぎたため、ユーザからの接続が解除されませんでした。

【パラメタの意味】

uuuu: ユーザ名

【システムの処理】

待ち合わせを解除して、サーバのシャットダウン処理(および電源切断処理)を行います。

[Windows]MpAosfP: エラー: 129: 動的領域の獲得に失敗したため、作業を続行することができません。サービスは異常終了します。動的領域が十分に獲得できるようにシステム、およびマシンの調整をして下さい。

【メッセージの意味】

動的領域の獲得に失敗したため、処理を続行することができません。

【システム管理者の処置】

動的領域が十分に獲得できるようにシステム、およびマシンの調整を行います。

[Windows]MpAosfP: 警告: 132: 以下のエラーが発生しました。関数名＝ffffエラーコード＝cccc内容＝dddd [UNIX]MpAosfP: INFO: 132: Internal error occurs function name=ffff error code=cccc contents=dddd

【メッセージの意味】

関数の呼出しで、エラーが発生しました。

- 「関数名=CreateProcess エラーコード=2」の場合

  [サービス・アプリケーション起動パターン定義]ダイアログボックス−[アプリケーション起動]シートに登録したアプリケーションの起動に失敗しました。

- 「関数名=GetServiceKeyName エラーコード=1060」の場合

  [サービス・アプリケーション起動パターン定義]ダイアログボックス−[サービス起動]シートに登録したサービスの起動に失敗しました。

【パラメタの意味】

ffff: 関数名

cccc: エラーコード

dddd: エラーの内容

【システムの処理】

処理を継続します。

【システム管理者の処置】

関数名、エラーコード、エラー内容から、エラーとなる原因を取り除きます。

- 「関数名=CreateProcess エラーコード=2」の場合

  [サービス・アプリケーション起動パターン定義]ダイアログボックス−[アプリケーション起動]シートに登録したアプリケーションのパスが正しいか確認してください。

- 「関数名=GetServiceKeyName エラーコード=1060」の場合

  [サービス・アプリケーション起動パターン定義]ダイアログボックス−[サービス起動]シートに登録したサービス名が正しいか確認してください。

上記に該当せず原因が不明な場合は、保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: 警告: 133: 次回のシステム起動は、cccc日後のddddになっています。指定されている電源制御機能ではサポートされていない範囲のため、システム起動時間の設定は行いません。 [UNIX]MpAosfP: WARNING: 133: Specified Power Control Hardware does not support that next system schedule is dddd after cccc days

【メッセージの意味】

次回のシステム起動の日時は、指定されている電源制御機能ではサポートされていない範囲です。そのため、次回の自動電源投入はできません。

【パラメタの意味】

cccc: 本日からの日数

dddd: スケジュールされている日時

【システムの処理】

次回の自動電源投入は行われません。

【システム管理者の処置】

電源制御可能な日数で、スケジュールを行います。または、次回の起動時、手動で行います。

電源制御可能な日数は、以下のとおりです。

PMAN/L:45日

PowerChute(R) *plus* または PowerChute(R) Business Edition:14日

[Windows]MpAosfP: 警告: 134: 次回のシステム起動は、電源制御可能な日数を超えているため、スケジュールできません。スケジュールの確認を行って下さい

【メッセージの意味】

次回のシステム起動の日時は、電源制御可能な日数を超えています。そのため、次回の自動電源投入はできません。

【システムの処理】

次回の自動電源投入は行われません。

【システム管理者の処置】

電源制御可能な日数で、スケジュールを行います。または、次回の起動時、手動で行います。

電源制御可能な日数は、以下のとおりです。

PMAN/L:45日

PowerChute(R) *plus* または PowerChute(R) Business Edition:14日

[Windows]MpAosfP: エラー: 136: Power Chute Plusの電源停止コマンド(UPSSLEEP.EXE)が見つかりませんでした。Power Chute Plus、およびシステムパスの設定を確認して下さい。(path=XXX)

【メッセージの意味】

電源切断処理をしようとしたが、PowerChute(R) *plus* または PowerChute(R) Business Editionの電源停止コマンド(UPSSLEEP.EXE)が見つかりませんでした。

【パラメタの意味】

XXX: 設定されているシステムパスの情報

【システムの処理】

電源切断処理を中止し、シャットダウンだけ実施します。

【システム管理者の処置】

UPSSLEEP.EXEをインストールしてください。または、UPSSLEEP.EXEのシステムパスの設定を確認してください。

システムパスの例を示します。

- UPSSLEEP.EXEのインストール先が、C:¥Program Files¥PowerChute¥upssleep.exeの場合

  C:¥Program Files¥PowerChute

システムパスの登録方法については、OSのマニュアルを参照してください。

[Windows]MpAosfP: エラー: 137: PMAN/Lのサーバ電源制御の電源停止コマンドが見つかりませんでした。PMAN/Lのサーバ電源制御のインストール、およびシステムパスの設定を確認して下さい。(path=XXX)

【メッセージの意味】

電源切断処理をしようとしたが、PMAN/Lのサーバ電源制御の電源停止コマンドが見つかりませんでした。

【パラメタの意味】

XXX: 設定されているシステムパスの情報

【システムの処理】

電源切断処理を中止し、シャットダウンだけ実施します。

【システム管理者の処置】

PMAN/Lのサーバ電源制御のインストール、およびシステムパスの設定を確認してください。

システムパスの登録方法については、OSのマニュアルを参照してください。

[Windows]MpAosfP: エラー: 138: 動的領域の獲得ができませんでした。自動運用支援は終了します。

【メッセージの意味】

動的領域の獲得ができませんでした。サーバ電源制御機能は終了します。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

使用できる仮想記憶を増やしたり、不要なアプリケーションを停止したりして、使用できる動的領域を増やします。その後、サービス(Systemwalker MpAosfP)を開始します。

[Windows]MpAosfP: エラー: 139: 自動運用支援の環境に異常があります。自動運用支援のインストールをやり直して下さい。

【メッセージの意味】

自動運用支援の環境に異常があります。自動運用支援のインストールをやり直してください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

Systemwalkerのインストールを行います。インストール後でも、本メッセージが出力される場合は、保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: エラー: 156: 電源停止コマンド(MpStpSv.EXE)がみつかりませんでした。電源制御ソフトウェア、およびシステムパスの設定を確認してください。(path=XXX)

【メッセージの意味】

電源切断処理をしようとしましたが、Systemwalker対応電源制御ソフトウェアの電源停止コマンド(MpStpSv.EXE)が見つかりませんでした。

【パラメタの意味】

XXX: 設定されているシステムパスの情報

【システムの処理】

電源切断処理を中止し、シャットダウンのみ実施します。

【システム管理者の処置】

MpStpSv.EXEをインストールしてください。または、MpStpSv.EXEのシステムパスの設定を確認してください。MpStpSv.EXEのインストールについては電源制御ソフトウェアの説明書、システムパスの確認・設定方法については、OSのマニュアルを参照してください。

[Windows]MpAosfP: 警告: 200: E-Mail送信先のSMTPサーバホスト名の指定がありません。

【メッセージの意味】

E-Mail送信先のSMTPサーバホスト名の指定がありません。

【システムの処理】

メールの送信は行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

E-Mail送信先のSMTPサーバホスト名を見直します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 212: MS-Mailの送信に失敗しました。

【メッセージの意味】

MS-Mailの送信に失敗しました。

【システムの処理】

メールの送信は行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

MS-Mail環境を見直します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 213: MS-Mail送信先のアドレスが指定されていません。

【メッセージの意味】

MS-Mailの送信先のアドレスが指定されていません。

【システムの処理】

メールの送信は行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

MS-Mail送信先アドレスを指定します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 214: MS-Mail送信先のアドレスが不当です。
[UNIX]MpAosfP: WARNING: 214: MS-Mail send address is wrong

【メッセージの意味】

MS-Mail送信先のアドレスが不当です。

【システムの処理】

メールの送信は行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

MS-Mail送信先アドレスを確認します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 215: MS-Mailが使用するためのディスクが不足しています。

【メッセージの意味】

MS-Mailが使用するためのディスクが不足しています。

【システムの処理】

メールの送信は行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

ディスクを増やします。または、不要なファイルを削除します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 216: MS-Mailが使用するためのメモリが不足しています。
[UNIX]MpAosfP: WARNING: 216: For MS-Mail, memory is lack

【メッセージの意味】

MS-Mailが使用するためのメモリが不足しています。

【システムの処理】

メールの送信は行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

メモリを増やします。または、不要なアプリケーションを停止します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 217: MS-Mailのセッションが多すぎます。

【メッセージの意味】

MS-Mailのセッションが多すぎます。

【システムの処理】

メールの送信は行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

セッションを見直します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 218: 指定されたメールボックスのMS-Mailのセッションは存在しません。

【メッセージの意味】

指定されたメールボックスのMS-Mailのセッションは存在しません。

【システムの処理】

メールの送信は行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

セッションを正しく修正します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 230: ポップアップメッセージが指定されていません。

【メッセージの意味】

ポップアップメッセージが指定されていません。

【システムの処理】

ポップアップメッセージによる通知を行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

ポップアップメッセージを指定します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 231: ポップアップメッセージの送信先が指定されていません。

【メッセージの意味】

ポップアップメッセージの送信先が指定されていません。

【システムの処理】

ポップアップメッセージによる通知を行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

ポップアップメッセージの送信先を指定します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 232: ポップアップメッセージのユーザ名処理でエラーが発生しました。

【メッセージの意味】

ポップアップメッセージのユーザ名処理でエラーが発生しました。

【システムの処理】

ポップアップメッセージによる通知を行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: 警告: 233: ポップアップメッセージのバッファ処理でエラーが発生しました。
[UNIX]MpAosfP: WARNING: 233: Buffer for Popup message occurs error

【メッセージの意味】

ポップアップメッセージのバッファ処理でエラーが発生しました。

【システムの処理】

ポップアップメッセージによる通知を行いません。その後の処理は継続します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 234: ポップアップメッセージの送信処理でエラーが発生しました。ユーザ、またはコンピュータが存在しないか、またはMessagerサービスが起動されていない可能性があります。
[UNIX]MpAosfP: WARNING: 234: Popup message process occurs error

【メッセージの意味】

ポップアップメッセージの送信処理でエラーが発生しました。指定されたユーザ、またはコンピュータが存在しないか、またはMessengerサービスが起動されていない可能性があります。処理を続行します。

【システムの処理】

処理を継続します。

【システム管理者の処置】

Messengerサービスが起動されているかを確認します。指定したユーザ・コンピュータ名に誤りがないか確認します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 235: ポップアップメッセージの送信でエラーが発生しました。

【メッセージの意味】

ポップアップメッセージの送信でエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を継続します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: 警告: 236: ドメインが存在しないか、ドメイン内にサーバが見つからないためメッセージは送信されませんでした。

【メッセージの意味】

ポップアップメッセージの送信で、指定されたドメインが存在しません。または、ドメイン内にサーバが見つかりません。

【システムの処理】

ポップアップメッセージによる通知を行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

指定されたドメインが正しいかを確認します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 260: MS-Mailの送信要求中に失敗しました。

【メッセージの意味】

MS-Mailの送信要求中に失敗しました。

【システムの処理】

メール送信は行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

MS-Mailの環境が正しいかを確認します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 261: Systemwalker MpAosfP MS-Mail Serverが起動されていません。

【メッセージの意味】

Systemwalker MpAosfP MS-Mail Serverが起動されていません。

【システムの処理】

メール送信は行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

Systemwalker MpAosfP MS-Mail Serverを起動します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 262: システムのパイプがビジーのため、MS-Mailの送信要求ができませんでした。

【メッセージの意味】

システムのパイプがビジーのため、MS-Mailの送信要求ができませんでした。

【システムの処理】

メール送信は行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"電源制御_カレンダ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: 警告: 263: メモリ不足のため、MS-Mailの送信要求ができませんでした。

【メッセージの意味】

メモリ不足のため、MS-Mailの送信要求ができませんでした。

【システムの処理】

メール送信は行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

メモリを増やします。または、不要なアプリケーションを終了して、使用できるメモリを増やします。

[Windows]MpAosfP: 警告: 271: Systemwalker Centric Managerがインストールされていません。終了通知は、行われません。

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerがインストールされていません。そのため、ポップアップまたは、メールの通知は行われません。

【システムの処理】

終了通知は行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Centric Managerをインストールします。

[Windows]MpAosfP: 警告: 272: アクション管理サーバが起動されていないため、通知できませんでした。 [UNIX]MpAosfP: WARNING: 272: Because the action control server is not operating, no notice is sent

【メッセージの意味】

【Windows版】

Systemwalker MpAosfBサービスが起動されていないか、Systemwalker MpAosfBサービスとの通信に失敗しました。

そのため、ポップアップまたは、メールの通知は行われません。

【UNIX版】

Systemwalker Centric Managerが起動されていないか、Systemwalker Centric Managerとの通信に失敗しました。

そのため、ポップアップまたは、メールの通知は行われません。

【システムの処理】

終了通知は行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

【Windows版】

Systemwalker MpAosfBサービスを起動します。

Centric Managerでアクション実行先を別のサーバに指定した場合は、指定したサーバとの通信環境に問題がないかを確認します。

【UNIX版】

Systemwalker Centric Managerを起動します。

Centric Managerで指定したアクションの実行先サーバとの通信環境に、問題がないかを確認します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 273: メモリ不足のため、E-Mailの送信要求ができませんでした。 [UNIX]MpAosfP: WARNING: 273: Because memory is lack, E-Mail sending request is not excecuted

【メッセージの意味】

メモリ不足のため、E-Mailの送信要求ができませんでした。

【システムの処理】

メール送信は行いません。その後の処理は継続します。

【システム管理者の処置】

メモリを増やします。または、不要なアプリケーションを終了して、使用できるメモリを増やします。

[Windows]MpAosfP: 警告: 301: 制御対象ホスト(hhhh)の電源切断処理が失敗しました。 [UNIX]MpAosfP: WARNING: 301: Fails Power Off for the target agent(hhhh)

【メッセージの意味】

一括電源制御機能で、制御ホストから、制御対象ホストに電源切断処理を行おうとしたが、失敗しました。失敗した原因として、以下が考えられます。

- 電源制御ホスト名の誤り
- 制御対象ホストが稼働していない
- 制御対象ホストでカレンダサービスが動作していない
- 通信環境で通信に失敗している。

【パラメタの意味】

hhhh：電源切断処理が失敗したホスト名

【システムの処理】

電源切断処理が失敗したホストへの処理を無視して、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

制御対象ホストが稼働しているか、また電源制御サービスが動作しているかを確認します。

原因の究明および解決をしたら、失敗したホストの電源を切断します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 1000: ホスト名が指定されていません。

【メッセージの意味】

リモートからのサーバの電源投入・切断で、投入・切断先のホスト名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ホスト名を正しく指定します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 1001: ホスト名が256バイト以上あります。

【メッセージの意味】

リモートからのサーバの電源投入・切断で、投入・切断先のホスト名が256バイト以上あります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ホスト名を正しく修正します。

[Windows]MpAosfP: エラー: 1002: PMAN/L電源制御APIのパラメータエラーです。

【メッセージの意味】

リモートからのサーバの電源投入・切断で、PMAN/L電源制御APIでパラメタエラーが発生しました。処理を中止します。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ホスト名を見直します。原因が不明の場合は、保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: エラー: 1003: PMAN/L電源制御の実行環境異常です。

【メッセージの意味】

リモートからのサーバの電源投入・切断で、PMAN/L電源制御の実行環境異常です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: エラー: 1004: PMAN/L電源制御要求の送受信異常です。

【メッセージの意味】

リモートからのサーバの電源投入・切断で、PMAN/L電源制御要求の送受信異常です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: 警告: 1005: PMAN/L電源制御のスケジュール設定異常です。

【メッセージの意味】

PMAN/L電源制御のスケジュール設定異常です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

PMAN/Lの設定を見直します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 1006: 電源切断／投入禁止中のため、電源切断／投入ができません。

【メッセージの意味】

電源切断／投入をしようとしたが、電源制御装置が電源切断／投入禁止中のため、電源切断／投入ができません。
処理を中止します。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

電源切断／投入しようとしたサーバの電源制御装置の状態・環境を確認します。原因が不明な場合は、保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: 警告: 1007: キー操作中のため、電源制御はできません。

【メッセージの意味】

電源制御ボックスのキーが“OPERATE”となっています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

電源制御ボックスのキーを“LOCK”にします。

[Windows]MpAosfP: 警告: 1008: 停電中のため、電源制御はできません。

【メッセージの意味】

リモートからサーバの電源投入をしようとしたが、投入先のサーバが停電中のため、電源制御はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ファイルシステムに空きスペースがない場合は、空きスペースを確保してください。

【システム管理者の処置】

ファイルシステムに空きスペースがない場合は、空きスペースを確保してください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: 警告: 1009: 既に電源切断処理中、または電源切断済みです。

【メッセージの意味】

リモートからサーバの電源切断をしようとしたが、指定されたサーバは、既に電源切断処理中、または電源切断済みです。

【システムの処理】

電源切断の依頼処理は、中止します。電源切断中のサーバは、引き続き電源切断処理を実施します。

[Windows]MpAosfP: 警告: 1100: パラメタが指定されていません。

【メッセージの意味】

コマンドのパラメタが指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

パラメタを指定して再実行します。

[Windows]MpAosfP: エラー: 1101: ソケットのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

ソケットのオープンに失敗しました。

【システムの処理】

処理を停止します。

【システム管理者の処置】

システムのTCP/IP環境を見直します。エラーとなる原因が不明の場合は、保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: 警告: 1102: 自ホスト名の取得に失敗しました。

【メッセージの意味】

自ホスト名の取得処理でエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

システムのTCP/IP環境を見直します。エラーとなる原因が不明の場合は、保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: 警告: 1103: ホスト名の名前を解決することができません。
[UNIX]MpAosfP: WARNING: 1103: Host name resolution error

【メッセージの意味】

リモート電源制御において、指定されたホスト名を解決できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ホスト名を見直します。エラーとなる原因が不明の時は、保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: エラー: 1104: 内部動作エラーが発生しました。
[UNIX]MpAosfP: ERROR: 1104: Internal error occurs

【メッセージの意味】

電源制御の処理で、内部動作エラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: エラー: 1105: 送信エラーが発生しました。

【メッセージの意味】

電源制御の処理で送信エラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

システムのTCP/IPの環境を見直します。または、送信先のSNMPアダプタの環境を確認します。原因が不明な場合は、保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAosfP: 警告: 1106: 指定されたホスト名が256バイトを超えています。

【メッセージの意味】

パラメタに指定されたホスト名が256バイトを超えています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

パラメタのホスト名を正しく修正して、再度実行します。

[Windows]MpAosfP: エラー: 1107: PMAN/L制御用DLL(F3DMIF32.DLL)が存在しません

【メッセージの意味】

PMAN/L制御用DLL(F3DMIF32.DLL)が存在しません。

【システムの処理】

電源制御機能は動作しません。シャットダウンだけ行います。

【システム管理者の処置】

PMAN/L制御用のDLLをインストールします。

[Windows]MpAosfP: 情報: 2100: Systemwalker MpAosfP MS-Mail Serverが起動しました。

【メッセージの意味】

Systemwalker MpAosfP MS-Mail Serverが起動しました。

[Windows]MpAosfP: 情報: 2101: Systemwalker MpAosfP MS-Mail Serverが終了しました。

【メッセージの意味】

Systemwalker MpAosfP MS-Mail Serverが終了しました。

[Windows]MpAosfP: エラー: 2102: Systemwalker MpAosfP MS-Mail Serverが異常終了しました。

【メッセージの意味】

Systemwalker MpAosfP MS-Mail Serverが異常終了しました。

2.4 MpAuditLogOで始まるメッセージ

本節では、MpAuditLogOで始まるメッセージについて説明します。

MpAuditLogOで始まるメッセージは、監査ログが出力するメッセージです。

[Windows]MpAuditLogO: エラー: 1: 監査ログの初期化に失敗しました。以降の操作はログされません。(対象:file、詳細コード:error string)
[UNIX]MpAuditLogO: ERROR: 001: The audit log was not able to be initialized. The log is not output to the operation after this.(target:file, detail code:error string)

【メッセージの意味】

監査ログ出力を行うための初期化処理に失敗しました。このため、システムが正常に戻るまで監査ログは出力されません。

【パラメタの意味】

file:初期化に失敗した監査ログファイル名

error string:エラーの原因となる詳細情報

【対処方法】

以下の原因が考えられます。エラーが発生したシステムを確認し、それぞれの原因に応じた対処を行ってください。

- ログ出力先の設定に誤りがある。

  → mpsetlogsend_omgrコマンドにより、ログ出力が可能な場所に変更してください。

- 監査ログ出力先のディレクトリが存在しない。

  →mpsetlogsend_omgrコマンドにより設定した出力先ディレクトリを作成してください。

- 監査ログ出力先のディレクトリに書き込みができない。

  →監査ログ出力先ディレクトリは、一般ユーザ/Everyoneから書き込める権利が必要です。ディレクトリのパーミッション/権限を確認し、修正してください。

- 監査ログ出力先のディスク容量がない。

  →同じディスク領域に格納されている不要なファイルを削除するか、mpsetlogsend_omgrコマンドにより、別のディスクへ出力するように設定してください。

上記の確認および対処を行った後は、Systemwalker Operation Managerの再起動は必要ありません。

ただし、上記以外の原因で、監査ログ出力先のハードディスクに障害が発生しているときは、ハードディスクの交換、および復旧が必要な場合があります。この場合、システムを停止してください。

なお、エラーの原因が比較的軽いもの(例:ディスク領域がなくなった場合)で、その原因が取り除かれた場合は、以下のメッセージが出力され、自動的に復旧されます。

【Windows版】

MpAuditLogO: 情報: 3: 監査ログ出力を再開します。(対象:file)

【UNIX版】

MpAuditLogO: INFO: 003: The audit log output is restarted. (target:file)

その他のエラーについては、詳細コードを確認し、原因を取り除いてください。

[Windows]MpAuditLogO: エラー: 2: 監査ログの出力が出来ませんでした。以降の操作はログされません。(対象:file、詳細コード:error string)
[UNIX]MpAuditLogO: ERROR: 002: The audit log was not able to be output. The log is not output to the operation after this. (target:file, detail code:error string)

【メッセージの意味】

監査ログ出力時に異常が発生しました。このため、システムが正常に戻るまで監査ログは出力されません。

【パラメタの意味】

file:書き込みに失敗した監査ログファイル名

error string:エラーの原因となる詳細情報

【対処方法】

以下の原因が考えられます。エラーが発生したシステムを確認し、それぞれの原因に応じた対処を行ってください。

- 監査ログ出力先のディレクトリが削除されている。

  →mpsetlogsend_omgrコマンドにより設定した出力先ディレクトリを再作成してください。

- 監査ログ出力先のディレクトリの書き込み権限が変更されている。

  →監査ログ出力先ディレクトリは、一般ユーザ/Everyoneから書き込める権利が必要です。ディレクトリのパーミッション/権限を確認し、修正してください。

- 監査ログ出力先のディスク容量がない。

  →同じディスク領域に格納されている不要なファイルを削除するか、“mpsetlogsend_omgrコマンドにより、別のディスクへ出力するように設定してください。

上記の確認および対処を行った後は、Systemwalker Operation Managerの再起動は必要ありません。

ただし、上記以外の原因で、監査ログ出力先のハードディスクに障害が発生しているときは、ハードディスクの交換、および復旧が必要な場合があります。この場合、システムを停止してください。

なお、エラーの原因が比較的軽いもの(例:ディスク領域がなくなった場合)で、その原因が取り除かれた場合は、以下のメッセージが出力され、自動的に復旧されます。

【Windows版】

MpAuditLogO: 情報: 3: 監査ログ出力を再開します。(対象:file)

【UNIX版】

MpAuditLogO: INFO: 003: The audit log output is restarted. (target:file)

その他のエラーについては、詳細コードを確認し、原因を取り除いてください。

[Windows]MpAuditLogO: 情報: 3: 監査ログ出力を再開します。(対象:file)
[UNIX]MpAuditLogO: INFO: 003: The audit log output is restarted. (target:file)

【メッセージの意味】

監査ログの初期化、または出力に失敗した原因が取り除かれ、監査ログの出力ができるようになった場合に出力されます。

【パラメタの意味】

file:再開が可能となった監査ログファイル名

【対処方法】

監査ログが正常に出力されるようになったことを通知するメッセージです。

早急に対処する問題はありません。

ただし、本メッセージが頻繁に出力される場合は、監査ログ出力先のディスク容量の確認、およびディスクに障害が発生していないか、確認することを推奨します。

[Windows]MpAuditLogO: 警告: 5: 監査ログ定義ファイルに無効な値があります。初期設定により処理を続行します。(定義ファイル:file、セクション:section、キー:key)
[UNIX]MpAuditLogO: WARNING: 005: There is an invalid value to the audit log definition file. Processing is continued by initialization. (target:file, section:section, key:key, detail code:error string)

【メッセージの意味】

インストールに失敗している場合、または、mpsetlogsend_omgrコマンドでの設定に失敗している場合に出力されます。

【パラメタの意味】

file:誤りがある監査ログ出力定義ファイル

section:監査ログ出力定義ファイルで、誤りのあるセクション名

key: 監査ログ出力定義ファイルで、誤りのあるキー名

error string: エラーの原因となる詳細情報

【対処方法】

mpsetlogsend_omgrコマンドで、監査ログの出力を設定し直してください。インストールに失敗している場合は、Systemwalker Operation Managerを再インストールまたは富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpAuditLogO: 情報: 6:監査ログの出力設定が更新されました。現在の出力設定はONです。(LOG NAME: log name)
[UNIX]MpAuditLogO: INFO: 006: Audit log settings have been modified. Audit log is now enabled. (LOG NAME: log name)

【メッセージの意味】

監査ログの出力設定が、mpsetlogsend_omgrコマンドにより更新されました。監査ログは出力されます。

【パラメタの意味】

log name:対象となる監査ログの名称

- OMGRLog(Systemwalker Operation Managerの監査ログ)

[Windows]MpAuditLogO: 情報: 7:監査ログの出力設定が更新されました。現在の出力設定はOFFです。(LOG NAME:log name)

[UNIX]MpAuditLogO: INFO: 007: Audit log settings have been modified. Audit log is now disabled. (LOG NAME: log name)

【メッセージの意味】

監査ログの出力設定が、mpsetlogsend_omgrコマンドにより更新されました。監査ログは出力されません。

【パラメタの意味】

log name:対象となる監査ログの名称

- OMGRLog(Systemwalker Operation Managerの監査ログ)

2.5 Mpcmtoolo/mpcmtooloで始まるメッセージ

本節では、Mpcmtoolo【UNIX版】/mpcmtoolo【Windows版】で始まるメッセージについて説明します。

Mpcmtoolo【UNIX版】/mpcmtoolo【Windows版】で始まるメッセージは、運用環境保守ウィザード、バックアップ/リストアコマンドなどが出力するメッセージです。

[UNIX]Mpcmtoolo: INFO: 00000: backup ended.

【メッセージの意味】

backupコマンドが正常終了しました。

[UNIX]Mpcmtoolo: ERROR: 00001: backup ended abnormally.

【メッセージの意味】

backupコマンドが異常終了しました。

【システム管理者の処置】

詳細エラーメッセージ“Mpcmtoolo: ERROR: 00002”を確認して、異常終了の原因を取り除いてください。

[UNIX]Mpcmtoolo: ERROR: 00002: %1

【メッセージの意味】

backupコマンドが異常終了した場合の詳細エラーメッセージ。

【パラメタの意味】

%1: backupコマンドが異常終了した原因となるエラーメッセージ

【システム管理者の処置】

詳細エラーメッセージを確認して、異常終了の原因を取り除いてください。

[UNIX]Mpcmtoolo: INFO: 00100: restore ended.

【メッセージの意味】

restoreコマンドが正常終了しました。

[UNIX]Mpcmtoolo: ERROR: 00101: restore ended abnormally.

【メッセージの意味】

restoreコマンドが異常終了しました。

【システム管理者の処置】

詳細エラーメッセージ“Mpcmtoolo: ERROR: 00102”を確認して、異常終了の原因を取り除いてください。

[UNIX]Mpcmtoolo: ERROR: 00102: %1

【メッセージの意味】

restoreコマンドが異常終了した場合の詳細エラーメッセージ

【パラメタの意味】

%1: restoreコマンドが異常終了した原因となるエラーメッセージ

【システム管理者の処置】

詳細エラーメッセージを確認して、異常終了の原因を取り除いてください。

[UNIX]Mpcmtoolo: WARNING: 00401: The node(%1) may not be added completely. Please make a node addition manually.

【メッセージの意味】

Systemwalker Resource Coordinatorのプロビジョンニングによりサーバ追加が行われた際、対象ノードを分散実行サーバとして追加できませんでした。

【パラメタの意味】

%1: ノード名

【原因】

以下の原因が考えられます。

a. 分散実行構成の環境設定が正しくない場合

b. 分散実行構成での連携を必要としていないシステムで、Systemwalker Resource Coordinatorのサイト管理サーバとの連携定義をしている場合

c. 追加しようとしたノードが、分散実行サーバとしてすでに登録されている場合

【システム管理者の処置】

原因別に、以下の対処をしてください。

a. 分散実行構成の環境設定を正しく設定し、“mjdjadd”コマンドを用いて、対象ノードを追加してください。

b. Systemwalker Resource Coordinatorのサイト管理サーバとの連携定義を解除してください。

c. 特に対処は必要ありません。

[UNIX]Mpcmtoolo: WARNING: 00402: The node(%1) may not be deleted completely. Please make a node deletion manually.

【メッセージの意味】

Systemwalker Resource Coordinatorのプロビジョニングによりサーバ削除が行われた際、対象ノードを分散実行サーバから削除できませんでした。

【パラメタの意味】

%1: ノード名

【原因】

以下の原因が考えられます。

a. 分散実行構成の環境設定が正しくない場合

b. 分散実行構成での連携を必要としていないシステムで、Systemwalker Resource Coordinatorのサイト管理サーバとの連携定義をしている場合

c. 削除しようとしたノードが、分散実行サーバとして登録されていない場合

【システム管理者の処置】

原因別に、以下の対処をしてください。

a. 分散実行構成の環境設定を正しく設定し、“mjdjdel”コマンドを用いて、対象ノードを削除してください。

b. Systemwalker Resource Coordinatorのサイト管理サーバとの連携定義を解除してください。

c. 特に対処は必要ありません。

[UNIX] Mpcmtoolo: WARNING: 10000: Failed to load the audit log library.

【メッセージの意味】

監査ログを出力するためのライブラリのロードで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

以下のファイルが存在しているか確認してください。存在している場合、ファイルが壊れている可能性があります。Systemwalker Operation Managerを再インストールまたは富士通技術員に連絡してください。

【Solaris版/AIX版/Linux版】

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito.so

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito_nt.so

【HP-UX版】

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito.sl

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito_nt.sl

[UNIX] Mpcmtoolo: WARNING: 10001: Failed to read the audit log file.

【メッセージの意味】

監査ログの出力先ファイルのオープンで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

- 空き容量が不足していないか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリが存在しているか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリのパーミッション/権限を確認してください。利用者制限の定義を利用していない場合、一般ユーザ/Everyoneから書き込める権利が必要です。
- 監査ログの出力先ファイルが壊れている可能性があります。壊れている監査ログの出力先ファイルを退避後、削除してください。
- 監査ログ出力先のハードディスクに障害が発生している場合は、ハードディスクの交換、および復旧が必要な場合があります。

監査ログの出力先ファイルおよびディレクトリは、mpsetlogsend_omgrコマンドで指定できます。mpsetlogsend_omgrコマンドの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

[Windows]mpcmtoolo: 警告: 401: ノード(%1)を追加できませんでした。手動でノードを追加して下さい。

【メッセージの意味】

Systemwalker Resource Coordinatorのプロビジョニングによりサーバ追加が行われた際、対象ノードを分散実行サーバとして追加できませんでした。

【パラメタの意味】

%1: ノード名

【原因】

以下の原因が考えられます。

a. 分散実行構成の環境設定が正しくない場合

b. 分散実行構成での連携を必要としていないシステムで、Systemwalker Resource Coordinatorのサイト管理サーバとの連携定義をしている場合

c. 追加しようとしたノードが、分散実行サーバとしてすでに登録されている場合

【システム管理者の処置】

原因別に、以下の対処をしてください。

a. 分散実行構成の環境設定を正しく設定し、“mjdjadd”コマンドを用いて、対象ノードを追加してください。

b. Systemwalker Resource Coordinatorのサイト管理サーバとの連携定義を解除してください。

c. 特に対処は必要ありません。

[Windows]mpcmtoolo: 警告: 402: ノード(%1)を削除できませんでした。手動でノードを削除して下さい。

【メッセージの意味】

Systemwalker Resource Coordinatorのプロビジョニングによりサーバ削除が行われた際、対象ノードを分散実行サーバから削除できませんでした。

【パラメタの意味】

%1: ノード名

【原因】

以下の原因が考えられます。

a. 分散実行構成の環境設定が正しくない場合

b. 分散実行構成での連携を必要としていないシステムで、Systemwalker Resource Coordinatorのサイト管理サーバとの連携定義をしている場合

c. 削除しようとしたノードが、分散実行サーバとして登録されていない場合

【システム管理者の処置】

原因別に、以下の対処をしてください。

a. 分散実行構成の環境設定を正しく設定し、“mjdjdel”コマンドを用いて、対象ノードを削除してください。

b. Systemwalker Resource Coordinatorのサイト管理サーバとの連携定義を解除してください。

c. 特に対処は必要ありません。

[Windows]mpcmtoolo: エラー: 1100: %1に失敗しました。(%2)

【メッセージの意味】

バックアップまたはリストアに失敗しました。

【パラメタの意味】

%1: “バックアップ”または“リストア”

%2: バックアップまたはリストアが失敗した原因となるエラーメッセージ

【システム管理者の処置】

詳細エラーメッセージを確認して、異常終了の原因を取り除いてください。

[Windows]mpcmtoolo: 情報: 1101: バックアップは正常に終了しました。

【メッセージの意味】

バックアップは正常に終了しました。

[Windows]mpcmtoolo: 情報: 1102: リストアは正常に終了しました。

【メッセージの意味】

リストアは正常に終了しました。

[Windows] mpcmtoolo: 警告: 10000: 監査ログライブラリのロードに失敗しました。

【メッセージの意味】

監査ログを出力するためのライブラリのロードで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

以下のファイルが存在しているか確認してください。存在している場合、ファイルが壊れている可能性があります。Systemwalker Operation Managerを再インストールまたは富士通技術員に連絡してください。

Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥bin¥mpaudito.dll

[Windows] mpcmtoolo: 警告: 10001: 監査ログファイルの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

監査ログの出力先ファイルのオープンで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

- 空き容量が不足していないか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリが存在しているか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリのパーミッション/権限を確認してください。利用者制限の定義を利用していない場合、一般ユーザ/Everyoneから書き込める権利が必要です。
- 監査ログの出力先ファイルが壊れている可能性があります。壊れている監査ログの出力先ファイルを退避後、削除してください。
- 監査ログ出力先のハードディスクに障害が発生している場合は、ハードディスクの交換、および復旧が必要な場合があります。

監査ログの出力先ファイルおよびディレクトリは、mpsetlogsend_omgrコマンドで指定できます。mpsetlogsend_omgrコマンドの詳細については、"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

2.6 MpFwsecで始まるメッセージ

本節では、MpFwsecで始まるメッセージについて説明します。

MpFwsecで始まるメッセージは、ACLマネージャが出力するメッセージです。

[UNIX]MpFwsec: INFO: 00001: Systemwalker ACL Manager has started.

【メッセージの意味】

ACLマネージャが起動しました。

[UNIX]MpFwsec: INFO: 00002: Systemwalker ACL Manager has ended.

【メッセージの意味】

ACLマネージャは停止しました。

[UNIX]MpFwsec: ERROR: 00003: Systemwalker ACL Manager has abnormally ended.（%1:%2）

【メッセージの意味】

ACLマネージャは異常終了しました。

【パラメタの意味】

%1: 異常発生箇所

%2: 詳細コード

【システムの処理】

サービスは終了します。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

再起動後も同じメッセージが出力される場合は、保守情報収集ツールで“framework”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpFwsec: WARNING: 00005: IPC key is already in use. (Key: %1)

【メッセージの意味】

IPCキーがすでに使用されていたため、セマフォが獲得できませんでした。

【パラメタの意味】

%1: セマフォ獲得時に使用したIPCキー

【システム管理者の処置】

ACLマネージャのデーモン(/usr/lib/MpFwsec)が起動されていることを確認してください。起動されている場合は、処置は必要ありません。起動されていない場合は、Operation Managerを起動してください。

起動方法:

/opt/systemwalker/bin/soperationmgr

[UNIX]MpFwsec: WARNING: 00006: The audit log is full. Create a backup file.(File name:%1)

【メッセージの意味】

監査ログファイルがいっぱいになりました。ファイルをバックアップしてください。

【パラメタの意味】

%1: いっぱいになった監査ログファイル名

【システム管理者の処置】

いっぱいになった監査ログファイルをバックアップしてください。

[UNIX]MpFwsec: WARNING: 00007: The audit setup log is full. Create a backup file.(file name:%1)

【メッセージの意味】

監査操作ログファイルがいっぱいになりました。ファイルをバックアップしてください。

【パラメタの意味】

%1: いっぱいになった監査操作ログファイル名

【システム管理者の処置】

いっぱいになった監査操作ログファイルをバックアップしてください。

[UNIX]MpFwsec: WARNING: 00008: Could not generate an audit record.(%1)

【メッセージの意味】

監査記録が生成できませんでした。

【パラメタの意味】

%1: 監査記録の生成に失敗した原因詳細

【システム管理者の処置】

mplstauditコマンドを使用して、監査環境が正しく設定されているか確認します。

[UNIX]MpFwsec: WARNING: 00009: Access control information was restored incompletely. For details, see %1.

【メッセージの意味】

リストア(移行)できなかったアクセス権情報があります。

【パラメタの意味】

%1: リストア(移行)でのエラー原因詳細を記録したファイル名

【システム管理者の処置】

ファイルを参照し、エラー原因を取り除いてから再度リストア(移行)してください。

[UNIX]MpFwsec: INFO: 00011: Created semaphore. (id: %1 key: %2)

【メッセージの意味】

セマフォを作成しました。

【パラメタの意味】

%1: 作成したセマフォのID

%2: セマフォ作成に使用したキー

[UNIX]MpFwsec: INFO: 00012: Deleted semaphore. (id: %1)

【メッセージの意味】

セマフォを削除しました。

【パラメタの意味】

%1: 削除したセマフォのID

[UNIX]MpFwsec: WARNING: 00015: The system could not backup the access control information for some functions. For details, see %1.

【メッセージの意味】

退避できなかったアクセス権情報があります。

本メッセージはクラスタ運用環境でのみ発生します。

【パラメタの意味】

%1 : 退避でのエラー原因詳細を記録したファイル名。

【システム管理者の処置】

ファイルを参照し、エラー原因を取り除いてから、手動で退避してください。手動で退避する場合、mpcssaveコマンドを実行します。mpcssaveコマンドの使用方法については"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

[UNIX]MpFwsec: WARNING: 00016: Unable to create a semaphore.

【メッセージの意味】

セマフォを作成できませんでした。

【システム管理者の処置】

システムパラメタのセマフォに関連する値が運用環境に適した設定値となっていることを確認してください。

システムパラメタのチューニングについては、"Systemwalker Operation Manager 導入手引書"を参照してください。

[UNIX]MpFwsec: WARNING: 00017: %1 Failed to set up policy information.

【メッセージの意味】

ポリシー情報を設定できませんでした。

【パラメタの意味】

%1: ポリシー情報のファイル名(フルパス)

【システム管理者の処置】

本メッセージの後に、ポリシー情報の設定に失敗した原因と対処方法を示すメッセージが出力されます。

本メッセージの後に出力されたメッセージを参照して、原因を取り除いてください。

[UNIX]MpFwsec: ERROR: 00018: Account being used in Systemwalker Operation Manager does not exist. Register all accounts that use Systemwalker Operation Manager.

【メッセージの意味】

ポリシー情報の配付先のサーバに、Systemwalker Operation Managerで使用されているユーザーIDが存在しません。

【システム管理者の処置】

ポリシー情報の抽出元サーバでSystemwalker Operation Managerを使用しているユーザーIDを、ポリシー配付先のサーバにも登録し、再度ポリシー情報を配付してください。

ポリシー抽出元のサーバでmplstacluserコマンドを実行することにより、Systemwalker Operation Managerを使用しているユーザーIDの情報を確認することができます。mplstacluserコマンドの詳細については、"リファレンスマニュアル"の"mplstacluserコマンド"を参照してください。

[UNIX]MpFwsec: ERROR: 00019: An unexpected error occurred when policy information was set up. detail code (%1).

【メッセージの意味】

ポリシー情報の配付中に予期しないエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

%1: エラーの詳細原因を表すメッセージ

【システム管理者の処置】

ポリシー抽出元およびポリシー配付先のサーバについて、保守情報収集ツールで"framework"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpFwsec: WARNING: 00020: Failed to load the audit log library.

【メッセージの意味】

監査ログを出力するためのライブラリのロードで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

以下のファイルが存在しているか確認してください。存在している場合、ファイルが壊れている可能性があります。Systemwalker Operation Managerを再インストールまたは富士通技術員に連絡してください。

【Solaris版/AIX版/Linux版】

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito.so

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito_nt.so

【HP-UX版】

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito.sl

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito_nt.sl

[UNIX]MpFwsec: WARNING: 00021: Failed to read the audit log file.

【メッセージの意味】

監査ログの出力先ファイルのオープンで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

- 空き容量が不足していないか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリが存在しているか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリのパーミッション/権限を確認してください。利用者制限の定義を利用していない場合、一般ユーザ/Everyoneから書き込める権利が必要です。
- 監査ログの出力先ファイルが壊れている可能性があります。壊れている監査ログの出力先ファイルを退避後、削除してください。
- 監査ログ出力先のハードディスクに障害が発生している場合は、ハードディスクの交換、および復旧が必要な場合があります。

監査ログの出力先ファイルおよびディレクトリは、mpsetlogsend_omgrコマンドで指定できます。mpsetlogsend_omgrコマンドの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

2.7 mpipcmgrで始まるメッセージ

本節では、mpipcmgrで始まるメッセージについて説明します。

mpipcmgrで始まるメッセージは、IPC資源管理が出力するエラーメッセージです。

[UNIX]mpipcmgr: WARNING: 00304: Systemwalker Operation Manager cannot manage IPC resources.

【メッセージの意味】

システムでエラーが発生し、Systemwalker Operation ManagerのIPC資源管理機能が開始しませんでした。そのため、Systemwalker Operation Managerが獲得するIPC資源の一部は管理されず、IPC資源状態表示コマンド(mpipcso)を使用しても表示されません。なお、Systemwalker Operation Managerへの影響はありません。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation ManagerのIPC資源管理機能を開始させるためには、Systemwalker Operation Managerを再起動してください。

[UNIX]mpipcmgr: WARNING: 00305: When stopping, Systemwalker Operation Manager could not remove some IPC resources.

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Managerの停止の際に、Systemwalker Operation Managerが獲得したIPC資源の一部を回収できませんでした。Systemwalker Operation Managerへの影響はありませんが、不要なIPC資源が未回収のままとなっています。

【システム管理者の処置】

IPC資源状態表示コマンド(mpipcso)を使用して、未回収のIPC資源を確認します。表示されたIPC資源は、"Systemwalker Operation Manager トラブルシューティングガイド"の"IPC資源を回収できない"に記載された手順により回収してください。

[UNIX]mpipcmgr: WARNING: 00306: Systemwalker Operation Manager could not remove the following IPC resource.(TYPE=%1, ID=%2, KEY=%3)

【メッセージの意味】

前回のSystemwalker Operation Managerの停止が正常に行われず、前回Systemwalker Operation Managerが獲得したIPC資源に回収できなかったものがあります。Systemwalker Operation Managerへの影響はありませんが、不要なIPC資源が未回収のままとなっています。

【パラメタの意味】

%1: 未回収IPC資源の種別

- q(メッセージキュー)
- s(セマフォ)
- m(共有メモリ)

%2: 未回収IPC資源のID

%3: 未回収IPC資源のキー

【システム管理者の処置】

IPC資源状態表示コマンド(mpipcso)を使用して、未回収のIPC資源を確認します。表示されたIPC資源は、"Systemwalker Operation Manager トラブルシューティングガイド"の"IPC資源を回収できない"に記載された手順により回収してください。

[UNIX]mpipcmgr: WARNING: 00307: Systemwalker cannot manage IPC resources.

【メッセージの意味】

システムでエラーが発生し、SystemwalkerのIPC資源管理機能の一部が開始しませんでした。そのため、Systemwalkerが獲得するIPC資源の一部は管理されず、IPC資源状態表示コマンド(mpipcso)を使用しても表示されません。なお、Systemwalkerへの影響はありません。

【システム管理者の処置】

SystemwalkerのIPC資源管理機能を開始させるためには、Systemwalker Centric ManagerおよびSystemwalker Operation Managerを共に停止させてから再起動してください。一方の製品のみをインストールしている場合は、その製品のみ再起動してください。

[UNIX]mpipcmgr: WARNING: 00308: When stopping, Systemwalker could not remove some IPC resources.

【メッセージの意味】

Systemwalkerの停止の際に、Systemwalkerが獲得したIPC資源の一部を回収できませんでした。Systemwalkerへの影響はありませんが、不要なIPC資源が未回収のままとなっています。

【システム管理者の処置】

IPC資源状態表示コマンド(mpipcso)を使用して、未回収のIPC資源を確認します。表示されたIPC資源は、“Systemwalker Operation Manager トラブルシューティングガイド”の“IPC資源を回収できない”に記載された手順により回収してください。

[UNIX]mpipcmgr: WARNING: 00309: Systemwalker could not remove the following IPC resource.(TYPE=%1, ID=%2, KEY=%3)

【メッセージの意味】

前回のSystemwalkerの停止が正常に行われず、前回Systemwalkerが獲得したIPC資源に回収できなかったものがあります。Systemwalkerへの影響はありませんが、不要なIPC資源が未回収のままとなっています。

【パラメタの意味】

%1: 未回収IPC資源の種別

- q(メッセージキュー)
- s(セマフォ)
- m(共有メモリ)

%2: 未回収IPC資源のID

%3: 未回収IPC資源のキー

【システム管理者の処置】

IPC資源状態表示コマンド(mpipcso)を使用して、未回収のIPC資源を確認します。表示されたIPC資源は、“Systemwalker Operation Manager トラブルシューティングガイド”の“IPC資源を回収できない”に記載された手順により回収してください。

2.8 MpJmCalで始まるメッセージ

本節では、MpJmCalで始まるメッセージについて説明します。

MpJmCalで始まるメッセージは、カレンダ機能が出力するメッセージです。

[UNIX]MpJmCal: INFO: 0001: MpJmCal started.

【メッセージの意味】

カレンダ機能が開始しました。

[UNIX]MpJmCal: INFO: 0002: MpJmCal stopped.

【メッセージの意味】

カレンダ機能が終了しました。

[UNIX]MpJmCal: ERROR: 0003: Insufficient memory.(ret = RRRR , detail = DDDD , FFFF)

【メッセージの意味】

メモリが不足したため、メモリ獲得ができませんでした。

【パラメタの意味】

RRRR: 関数の戻り値

DDDD: エラー詳細(OSが設定するエラーNo(errno))

FFFF: 関数名、ラベル等

【システムの処理】

処理を終了します。

【システム管理者の処置】

以下の方法などで、使用できるメモリを増やします。

- 他のアプリケーションを終了する
- メモリを増やす

[UNIX]MpJmCal: ERROR: 0004: Failure in file operation.(ret = RRRR , detail = DDDD , FFFF)

【メッセージの意味】

ファイルのアクセス処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

RRRR: 関数の戻り値

DDDD: エラー詳細(OSが設定するエラーNo(errno))

FFFF: 関数名、ラベル等

【システムの処理】

継続可能なエラーの場合、処理を継続します。継続不可能なエラーの場合、処理を終了します。

【システム管理者の処置】

ハードディスクの空き容量があるか確認します。ハードディスクに異常がないか確認します。

[UNIX]MpJmCal: ERROR: 0005: MpJmCal(ret = RRRR , detail = DDDD , MMMM)

【メッセージの意味】

カレンダデーモンの情報が出力されます。

【パラメタの意味】

RRRR: 関数の戻り値

DDDD: エラーの詳細(OSが設定するエラーNo(errno))

MMMM: エラーが発生した関数名またはカレンダデーモンのメッセージ

【システムの処理】

継続可能なエラーの場合、処理を継続します。継続不可能なエラーの場合、処理を終了します。

【システム管理者の処置】

エラーの内容に応じた処理を実施します。原因が不明な場合は、保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJmCal: ERROR: 0006: Internal error occurs.(ret = RRRR , detail = DDDD , FFFF)

【メッセージの意味】

カレンダデーモンで内部エラーが発生しました。

または、/var配下の空き容量が不足している場合があります。

【パラメタの意味】

RRRR: 関数の戻り値

DDDD: エラー詳細(OSが設定するエラーNo(errno))

FFFF: 関数名、ラベル等

【システムの処理】

継続可能なエラーの場合、処理を継続します。継続不可能なエラーの場合、処理を終了します。

【システム管理者の処置】

エラーの内容に応じた処理を実施します。/var配下の空き容量がない場合は、/var配下の空き容量を確保し、Systemwalker Operation Managerのデーモンを再起動してください。原因が不明な場合は、保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJmCal: ERROR: 0007: FFFF() MMMM (DDDD)¥n

【メッセージの意味】

システム関数でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

FFFF: 関数名

MMMM: エラーメッセージ

DDDD: エラー詳細コード(errno)

【システムの処理】

継続可能なエラーの場合、処理を継続します。継続不可能なエラーの場合、処理を終了します。

【システム管理者の処置】

エラーの内容に応じた処理を実施します。原因が不明な場合は、保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

なお、以下のメッセージが出力された場合は、カレンダ機能が使用するポート9368/tcpがほかのアプリケーションにより使用中のため、カレンダ機能を使用できません。ほかのアプリケーションの使用ポートを見直して、システムを再起動してください。

FFFF:main SSock

MMMM:Address already in use

DDDD:125

[Windows]MpJmCal: 警告: 1: トレースファイルのOpenに失敗しました. (XXXX)

【メッセージの意味】

共通トレースのOPENが正しく処理されませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: エラー情報

【システムの処理】

システムは処理を継続します。トレースの採取は行いません。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation Managerを再起動してください。再起動後もメッセージが出力される場合は、保守情報収集ツールで、“電源制御_カレンダ”および“ツール”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJmCal: 警告: 3: トレース出力に失敗しました. (XXXX)

【メッセージの意味】

共通トレースの出力が正しく処理されませんでした

【パラメタの意味】

XXXX: “SRV”の場合カレンダ機能サーバ、“API”の場合カレンダAPIでエラーが発生したことを示す

【システムの処理】

システムは処理を継続します。トレースの採取は行いません。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation Managerを再起動してください。再起動後もメッセージが出力される場合は、保守情報収集ツールで、“電源制御_カレンダ”および“ツール”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJmCal: 情報: 4: Systemwalker MpJmCalサービスが開始しました.

【メッセージの意味】

カレンダ機能サービスが開始しました。

[Windows]MpJmCal: 情報: 5: Systemwalker MpJmCalサービスが終了しました.

【メッセージの意味】

カレンダ機能サービスが終了しました。

[Windows]MpJmCal: エラー: 6: メモリ不足が発生しました. (XXXX)

【メッセージの意味】

メモリが不足したため、メモリ獲得ができませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: 獲得領域名

【システム管理者の処置】

以下の方法などで、使用できるメモリを増やします。

- ほかのアプリケーションを終了する
- メモリを増やす

[Windows]MpJmCal: エラー: 7: ファイル操作に失敗しました. (XXXX)

【メッセージの意味】

ファイルのアクセス処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: 対象ファイル名

【システムの処理】

継続可能なエラーの場合、処理を継続します。継続不可能なエラーの場合、処理を終了します。

【システム管理者の処置】

ハードディスクの空き容量があるか確認します。ハードディスクに異常がないか確認します。

[Windows]MpJmCal: 警告: 0011: XXXX ポリシー情報の設定に失敗しました。
[UNIX] MpJmCal: WARNING: 0011: XXXX The daemon failed to set policy information.

【メッセージの意味】

ポリシーの設定に失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ポリシー情報ファイル

【システムの処理】

ポリシーを設定しない状態で、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

設定されなかったポリシー情報を確認のうえ、Systemwalker Operation Managerを再起動してください。再起動時にポリシーが再設定されます。

[Windows]MpJmCal: 警告: 0012: カレンダの反映開始日の読み込みに失敗しました。
[UNIX] MpJmCal: WARNING: 0012: Unable to get the reschedule date on the calendar.

【メッセージの意味】

前回カレンダ保存時に指定した反映開始日の読み込みに失敗しました。

そのため、反映開始日の情報をクライアントで参照できません。初期値を表示します。

【システム処理】

システムは処理を継続します。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation Managerの起動時に毎回出力される場合は、保守情報収集ツールで"電源制御_カレンダ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。【Windows版】

swcolinf 保守情報収集コマンド(サーバ用)で、"Server"を指定して情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。【UNIX版】

[Windows]MpJmCal: 警告: 8736: 監査ログライブラリのロードに失敗しました。
[UNIX]MpJmCal: WARNING: 8736: Failed to load the audit log library.

【メッセージの意味】

監査ログを出力するためのライブラリのロードで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

以下のファイルが存在しているか確認してください。存在している場合、ファイルが壊れている可能性があります。Systemwalker Operation Managerを再インストールまたは富士通技術員に連絡してください。

【Windows版】

Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥bin¥mpaudito.dll

【Solaris版/AIX版/Linux版】

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito.so

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito_nt.so

【HP-UX版】

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito.sl

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito_nt.sl

[Windows]MpJmCal: 警告: 8737: 監査ログファイルの読み込みに失敗しました。
[UNIX]MpJmCal: WARNING: 8737: Failed to read the audit log file.

【メッセージの意味】

監査ログの出力先ファイルのオープンで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

- 空き容量が不足していないか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリが存在しているか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリのパーミッション/権限を確認してください。利用者制限の定義を利用していない場合、一般ユーザ/Everyoneから書き込める権利が必要です。
- 監査ログの出力先ファイルが壊れている可能性があります。壊れている監査ログの出力先ファイルを退避後、削除してください。
- 監査ログ出力先のハードディスクに障害が発生している場合は、ハードディスクの交換、および復旧が必要な場合があります。

監査ログの出力先ファイルおよびディレクトリは、mpsetlogsend_omgrコマンドで指定できます。mpsetlogsend_omgrコマンドの詳細については、"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

2.9 MpJmSrvで始まるメッセージ

本節では、MpJmSrvで始まるメッセージについて説明します。

MpJmSrvで始まるメッセージは、Systemwalker Operation Manager基盤機能が出力するメッセージです。

[UNIX]MpJmSrv: WARNING: 0001: XXXX トレース機能が使用できません
[UNIX]MpJmSrv: WARNING: 0001: XXXX The trace function cannot be used.

【メッセージの意味】

トレース機能で異常が発生したため、トレース機能を停止します。

【パラメタの意味】

XXXX: 実行プログラム名

【システムの処理】

XXXXのトレース情報の出力を停止します。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0002: LANGの設定に誤りがあります
[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0002: The LANG value is incorrect.

【メッセージの意味】

環境変数LANGの値に誤りがあります。

【システムの処理】

英語環境でサービスまたはデーモンが動作します。

【利用者の処置】

環境変数LANGの値を直した後、サービスまたはデーモンを再起動してください。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0003: mpjmsrvの引数に誤りがあります
[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0003: The mpjmsrv argument is incorrect.

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Manager認証プロセス(mpjmsrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0004: Systemwalker Operation Manager(クライアント部)との通信に失敗しました
[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0004: Failure in communicating with the Systemwalker Operation Manager(client).

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Manager認証プロセス(mpjmsrv)とPC間の通信の初期化に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻繁に本メッセージが出力される場合は、Systemwalker Operation Managerが提供するクライアントが正常に切断されない運用(例えば、クライアントPCを頻繁にリセットしている)となっていないか、ネットワークの経路上に問題が発生していないか、外部から不当な通信、不正なアクセスが行われていないか確認してください。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0005: Systemwalker Operation Manager(クライアント部)との接続に失敗しました
[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0005: Failure in connecting with the Systemwalker Operation Manager(client).

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Manager認証プロセス(mpjmsrv)とPC間の通信に失敗しました。

通信エラーが発生した理由(TCP/IPのソケットレベルでのエラー理由)が直前に出力されるエラーメッセージで説明されています。

直前に出力されるエラーメッセージの代表的なものは以下のとおりです。

「MpJmSrv: ERROR: write() broken pipe」

「MpJmSrv: ERROR: read() Connection reset by peer」

いずれもソケットが不当な切断を実施されたものであり、Systemwalker Operation Managerの各クライアントを正常に停止させなかったことが主な発生理由です。

【システムの処理】

ソケットの後始末を実施し、処理を中止します。

【システム管理者の処置】

頻繁に本メッセージが出力される場合は、以下の原因が考えられますので、見直しをお願いします。

- Systemwalker Operation Managerの各クライアントが正常に切断されない運用(クライアントPCを頻繁にリセットしているなど)となっている
- ネットワークの経路上の問題が発生している

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0006: 自ホスト名が長すぎます
[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0006: Host name is too long.

【メッセージの意味】

自ホストのホスト名の長さが64バイトを超えています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

自ホストのホスト名の長さを64バイト以内にしてください。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0007: PCとの通信のためのポート番号(tcp)の取得に失敗しました
[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0007: Failure in port number (tcp) acquisition for communication with the Systemwalker Operation Manager(client).

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Manager(クライアント部)との通信に用いるサービス名JMSRVの取得に失敗しました。

【システムの処理】

Systemwalker Operation Manager(クライアント部)は使用できません。

【システム管理者の処置】

システムルート¥etc¥servicesファイルにサービス名JMSRV(デフォルト値9367/tcp)を指定してください。ホストがネームサービスを利用している場合は、その設定をしてください。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0008: mpjmsrvデーモンを1分後に再起動させて下さい
[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0008: Restart the daemon.

【メッセージの意味】

Systemwalker MpJmSrvサービスを1分後に再起動させてください。

【システム管理者の処置】

PCを終了させてから、1分後にSystemwalker Operation Manager認証プロセスを起動してください。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0009: 自ホストのIPアドレスの取得ができません
[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0009: Failure in IP address acquisition.

【メッセージの意味】

gethostbynameシステムコールでエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

該当サーバでのネットワークの設定を確認してください。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0010: 通信の制御ができません
[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0010: Failed in the control of the communication.

【メッセージの意味】

selectシステムコールでエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ネットワーク上の問題がないか確認してください。

[UNIX]MpJmSrv: INFO: 0011: mpjmsrvデーモンが起動しました

【メッセージの意味】

mpjmsrvデーモンが起動しました。

[UNIX]MpJmSrv: INFO: 0012: mpjmsrvデーモンが終了しました

【メッセージの意味】

mpjmsrvデーモンが終了しました。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0013: 共有メモリの生成に失敗しました
[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0013: The mpjmsrv failed to create shared memory.

【メッセージの意味】

共有メモリの生成処理でエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参考にして、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0014: 共有メモリの獲得に失敗しました
[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0014: The mpjmsrv failed to attach shared memory.

【メッセージの意味】

共有メモリの獲得処理でエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参考にして、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0015: mpjmsrvデーモンが既に起動されています
[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0015: The mpjmsrv already started.

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Manager認証プロセス(mpjmsrv)が既に起動されています。

[UNIX]MpJmSrv: WARNING: 0016: XXXX をキーとするIPC資源が既に存在します
[UNIX]MpJmSrv: WARNING: 0016: XXXX The IPC resource which corresponds to this key already exists.

【メッセージの意味】

XXXXをキーとするプロセス間通信用資源が、すでに他のアプリケーションにより使用されています。

【パラメタの意味】

XXXX: キー

【システムの処理】

別のキーを使用します。

[UNIX]MpJmSrv: INFO: 0017: XXXX をキーとするIPC資源を作成しました
[UNIX]MpJmSrv: INFO: 0017: XXXX The IPC resource which corresponded to this key was made.

【メッセージの意味】

XXXXをキーとするプロセス間通信用資源を作成しました。

【パラメタの意味】

XXXX: キー

[UNIX]**MpJmSrv: ERROR: 0018: IPC資源用ファイルのオープンに失敗しました**
[UNIX]**MpJmSrv: ERROR: 0018: The mpjmsrv failed to open the file for IPC resource.**

【メッセージの意味】

プロセス間通信用資源の作成用のキーを求める際に使用するファイルのオープンに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参考にして、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]**MpJmSrv: ERROR: 0020: 複数サーバ監視デーモンの起動時に不当な引数が渡されました**
[UNIX]**MpJmSrv: ERROR: 0020: Invalid argument passed to the multi-server monitoring daemon.**

【メッセージの意味】

複数サーバ監視プロセス(tskhmsrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]**MpJmSrv: ERROR: 0021: 自ホスト名の取得ができません**
[UNIX]**MpJmSrv: ERROR: 0021: Cannot obtain the host name.**

【メッセージの意味】

自ホストのホスト名が不当です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

自ホストのホスト名を設定してください。

[UNIX]**MpJmSrv: ERROR: 0022: 複数サーバ監視(クライアント部)との接続に失敗しました**
[UNIX]**MpJmSrv: ERROR: 0022: Failed to connect to the multi-server monitoring (client).**

【メッセージの意味】

複数サーバ監視プロセス(tskhmsrv)とPC間の通信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

クライアントと接続先ホスト間のネットワークを確認してください。例えば、クライアントからpingコマンドでサーバへの接続が可能かを確認してください。

[UNIX]**MpJmSrv: ERROR: 0023: XXXX 被監視ホストとの通信に失敗しました**
[UNIX]**MpJmSrv: ERROR: 0023: XXXX Failed to communicate with the monitored host.**

【メッセージの意味】

複数サーバ監視プロセス(tskhmsrv)と被監視ホスト間の通信に失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: 非監視ホストのIPアドレス

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

被監視ホストとのネットワーク接続に問題がないかを確認してください。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0024: 被監視ホストが見つかりません
[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0024: Cannot find the monitored host.

【メッセージの意味】

複数サーバ監視プロセス(tskhmsrv)に対し監視対象外のホストへの要求が送られました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0025: 被監視ホストが操作可能状態でありません
[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0025: Cannot control the monitored host.

【メッセージの意味】

被監視ホストに対し操作要求を送信できませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

被監視ホストの状態を確認し、稼働中だった場合は再度同じ操作をしてください。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0026: 被監視ホストにアクセス許可がありません
[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0026: Access denied by the monitored host.

【メッセージの意味】

被監視ホストからアクセスを拒否されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

被監視ホストの監視許可ホストに監視ホストを追加してください。

[UNIX]MpJmSrv: INFO: 0027: XXXX() YYYY

【メッセージの意味】

システム関数が通常と異なる復帰値を返しました。

【パラメタの意味】

XXXX: システム関数名

YYYY: メッセージ

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0028: XXXX() YYYY

【メッセージの意味】

システム関数でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: システム関数名

YYYY: メッセージ

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0029: ライブラリの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0029: Failed to load a library.

【メッセージの意味】

使用するライブラリの読み込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0030: XXXX ファイルのアクセスに失敗しました
[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0030: XXXX Access denied.

【メッセージの意味】

ファイルのアクセスに失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参考にして、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJmSrv: INFO: 0031: XXXX 被監視ホストとの通信に失敗しました
[UNIX]MpJmSrv: INFO: 0031: XXXX Failed to communicate with the monitored host.

【メッセージの意味】

複数サーバ監視プロセス(tskhmsrv)と被監視ホスト間の通信に失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: 非監視ホストのIPアドレス

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJmSrv: INFO: 0032: 複数サーバ監視(クライアント部)との通信に失敗しました
[UNIX]MpJmSrv: INFO: 0032: Failed to communicate with the multi-server monitoring (client).

【メッセージの意味】

複数サーバ監視プロセス(tskhmsrv)との複数サーバ監視(クライアント部)間の通信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0033: 複数サーバ監視(クライアント部)との通信に失敗しました}
[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0033: Failed to communicate with the multi-server monitoring (client).

【メッセージの意味】

複数サーバ監視プロセス(tskhmsrv)との複数サーバ監視(クライアント部)間の通信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

接続先ホストと被監視ホスト間のネットワークを確認してください。例えば、クライアントからpingコマンドでサーバへの接続が可能かを確認してください。

[UNIX]MpJmSrv: INFO: 0034: Systemwalker Operation Manager(クライアント部)との通信に失敗しました
[UNIX]MpJmSrv: INFO: 0034: Failure in communicating with the Systemwalker Operation Manager (client).

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Manager認証プロセス(mpjmsrv)とPC間の通信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJmSrv: INFO: 0035: 被監視ホストが操作可能状態でありません
[UNIX]MpJmSrv: INFO: 0035: Cannot control the monitored host.

【メッセージの意味】

被監視ホストに対し操作要求を送信できませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJmSrv: INFO: 0036: 被監視ホストにアクセス許可がありません
[UNIX]MpJmSrv: INFO: 0036: Access denied by the monitored host.

【メッセージの意味】

被監視ホストからアクセスを拒否されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJmSrv: ERROR: 0037: Systemwalker ACL Manager(API)でエラーが検出されました (code = XXXX, YYYY)
[UNIX]MpJmSrv: ERRPOR: 0037: An error has been detected in Systemwalker ACL Manager (API). (code = XXXX, YYYY)

【メッセージの意味】

- XXXX = 3,YYYY = 0 の場合

  接続エラーが発生しました。

- XXXX = 8, YYYY = 11 の場合

  セマフォの獲得に失敗しました。

- XXXX = 16, YYYY = 0 の場合

  コード変換に失敗しました。

上記以外の場合は、ACLマネージャの処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーコード

YYYY: 詳細コード

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

- XXXX = 3,YYYY = 0 の場合

  Operation Managerサーバで以下のプロセスが起動していることを確認します。プロセスが起動中でも本現象が発生する場合は、swcolinf 保守情報収集コマンド(サーバ用)で、保守情報を採取し、富士通技術員へ連絡してください。

  ー /usr/lib/MpFwsec

- XXXX = 8, YYYY = 11 の場合

  システムパラメタのセマフォに関連する設定値が、運用環境に適した設定となっていることを確認してください。

  システムパラメタのチューニングについては、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

- XXXX = 16, YYYY = 0 の場合

  必須ソフトウェアSUNWjfpuがインストールされていることを確認してください。Systemwalker Operation Managerの必須ソフトウェアについては、“ソフトウェア説明書”を参照してください。

上記以外の場合は、swcolinf 保守情報収集コマンド(サーバ用)で、保守情報を採取し、富士通技術員へ連絡してください。swcolinfコマンドの使用方法については“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

[UNIX]MpJmSrv: WARNING: 0038: 監査ログライブラリのロードに失敗しました
[UNIX]MpJmSrv: WARNING: 0038: Failed to load the audit log library.

【メッセージの意味】

監査ログを出力するためのライブラリのロードで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

以下のファイルが存在しているか確認してください。存在している場合、ファイルが壊れている可能性があります。Systemwalker Operation Managerを再インストールまたは富士通技術員に連絡してください。

【Solaris版/AIX版/Linux版】

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito.so

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito_nt.so

【HP-UX版】

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito.sl

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito_nt.sl

[UNIX]MpJmSrv: WARNING: 0039: 監査ログファイルの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJmSrv: WARNING: 0039: Failed to read the audit log file.

【メッセージの意味】

監査ログの出力先ファイルのオープンで問題が発生したため、監査ログを出力できません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

- 空き容量が不足していないか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリが存在しているか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリのパーミッション/権限を確認してください。利用者制限の定義を利用していない場合、一般ユーザ/Everyoneから書き込める権利が必要です。
- 監査ログの出力先ファイルが壊れている可能性があります。壊れている監査ログの出力先ファイルを退避後、削除してください。
- 監査ログ出力先のハードディスクに障害が発生している場合は、ハードディスクの交換、および復旧が必要な場合があります。

監査ログの出力先ファイルおよびディレクトリは、mpsetlogsend_omgrコマンドで指定できます。mpsetlogsend_omgrコマンドの詳細については、"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

[UNIX]MpJmSrv: INFO: 0040: Systemwalker共通ユーザー管理機能は利用できません
[UNIX]MpJmSrv: INFO: 0040: Systemwalker User Management function cannot be used.

【メッセージの意味】

Systemwalker共通ユーザー管理機能がインストールされていないため、Systemwalker共通ユーザー管理機能は利用できません。

[Windows]MpJmSrv: 警告: 1: XXXX トレース機能が使用できません
[Windows]MpJmSrv: WARNING: 1: XXXX The trace function cannot be used.

【メッセージの意味】

トレース機能で異常が発生したため、トレース機能を停止します。

【パラメタの意味】

XXXX: 実行プログラム名

【システムの処理】

XXXXのトレース情報の出力を停止します。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 2: LANGの設定に誤りがあります
[Windows]MpJmSrv: ERROR: 2: The LANG value is incorrect.

【メッセージの意味】

環境変数LANGの値に誤りがあります。

【システムの処理】

英語環境でサービスまたはデーモンが動作します。

【利用者の処置】

環境変数LANGの値を直した後、サービスまたはデーモンを再起動してください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 3: mpjmsrvの引数に誤りがあります
[Windows]MpJmSrv: ERROR: 3: The mpjmsrv argument is incorrect.

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Manager認証プロセス(mpjmsrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 4: Systemwalker Operation Manager(クライアント部)との通信に失敗しました
[Windows]MpJmSrv: ERROR: 4: Failure in communicating with the Systemwalker Operation Manager(client).

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Manager認証プロセス(mpjmsrv)とPC間の通信の初期化に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 5: Systemwalker Operation Manager(クライアント部)との接続に失敗しました
[Windows]MpJmSrv: ERROR: 5: Failure in connecting with the Systemwalker Operation Manager(client).

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Manager認証プロセス(mpjmsrv)とPC間の通信に失敗しました。

通信エラーが発生した理由(TCP/IPのソケットレベルでのエラー理由)が直前に出力されるエラーメッセージで説明されています。

直前に出力されるエラーメッセージの代表的なものは以下のとおりです。

「MpJmSrv: ERROR: write() broken pipe」

「MpJmSrv: ERROR: read() Connection reset by peer」

いずれもソケットが不当な切断を実施されたものであり、Systemwalker Operation Managerの各クライアントを正常に停止させなかったことが主な発生理由です。

【システムの処理】

ソケットの後始末を実施し、処理を中止します。

【システム管理者の処置】

頻繁に本メッセージが出力される場合は、以下の原因が考えられますので、見直しをお願いします。

- Systemwalker Operation Managerの各クライアントが正常に切断されない運用(クライアントPCを頻繁にリセットしているなど)となっている
- ネットワークの経路上の問題が発生している

[Windows]MpJmSrv: エラー: 6: 自ホスト名が長すぎます
[Windows]MpJmSrv: ERROR: 6: Host name is too long.

【メッセージの意味】

自ホストのホスト名の長さが64バイトを超えています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

自ホストのホスト名の長さを64バイト以内にしてください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 7: PCとの通信のためのポート番号(tcp)の取得に失敗しました
[Windows]MpJmSrv: ERROR: 7: Failure in port number (tcp) acquisition for communication with the Systemwalker Operation Manager(client).

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Manager(クライアント部)との通信に用いるサービス名JMSRVの取得に失敗しました。

【システムの処理】

Systemwalker Operation Manager(クライアント部)は使用できません。

【システム管理者の処置】

システムルート¥etc¥servicesファイルにサービス名JMSRV(デフォルト値9367/tcp)を指定してください。ホストがネームサービスを利用している場合は、その設定をしてください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 8: Systemwalker MpJmSrvサービスを1分後に再起動させて下さい

【メッセージの意味】

前回のSystemwalker Operation Manager認証プロセスの終了時に接続中のPCがあったため、Systemwalker Operation Manager認証プロセスを起動できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

PCを終了させてから、1分後にSystemwalker Operation Manager認証プロセスを起動してください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 9: 自ホストのIPアドレスの取得ができません
[Windows]MpJmSrv: ERROR: 9: Failure in IP address acquisition.

【メッセージの意味】

gethostbynameシステムコールでエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

該当サーバでのネットワークの設定を確認してください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 10: 通信の制御ができません
[Windows]MpJmSrv: ERROR: 10: Failed in the control of the communication.

【メッセージの意味】

selectシステムコールでエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ネットワーク上の問題がないか確認してください。

[Windows]MpJmSrv: 情報: 11: Systemwalker MpJmSrvサービスが起動しました

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Manager認証プロセス(mpjmsrv)が起動しました。

[Windows]MpJmSrv: 情報: 12: Systemwalker MpJmSrvサービスが終了しました

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Manager認証プロセス(mpjmsrv)が終了しました。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 13: 共有メモリの生成に失敗しました
[Windows]MpJmSrv: ERROR: 13: The mpjmsrv failed to create shared memory.

【メッセージの意味】

共有メモリの生成処理でエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参考にして、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 14: 共有メモリの獲得に失敗しました
[Windows]MpJmSrv: ERROR: 14: The mpjmsrv failed to attach shared memory.

【メッセージの意味】

共有メモリの獲得処理でエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参考にして、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 19: プロセスの生成に必要なメモリが獲得できません

【メッセージの意味】

プロセスの生成に必要なメモリが獲得できませんでした。

【システムの処理】

処理を打ち切ります。

【システム管理者の処置】

メモリ不足が発生しています。メモリの拡張をしてください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 20: tskhmsrvの引数に誤りがあります

【メッセージの意味】

複数サーバ監視プロセス(tskhmsrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を打ち切ります。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 21: 自ホスト名の取得ができません
[Windows]MpJmSrv: ERROR: 21: Cannot obtain the host name.

【メッセージの意味】

自ホストのホスト名が不当です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

自ホストのホスト名を設定してください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 22: 複数サーバ監視(クライアント部)との接続に失敗しました
[Windows]MpJmSrv: ERROR: 22: Failed to connect to the multi-server monitoring (client).

【メッセージの意味】

複数サーバ監視プロセス(tskhmsrv)とPC間の通信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

クライアントと接続先ホスト間のネットワークを確認してください。例えば、クライアントからpingコマンドでサーバへの接続が可能かを確認してください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 23: 被監視ホストとの通信に失敗しました(XXXX)

【メッセージの意味】

複数サーバ監視プロセス(tskhmsrv)と被監視ホスト間の通信に失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX:非監視ホストのIPアドレス

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

接続先ホストと表示された被監視ホスト間のネットワークを確認してください。例えば、クライアントからpingコマンドでサーバへの接続が可能かを確認してください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 24: 被監視ホストが見つかりません
[Windows]MpJmSrv: ERROR: 24: Cannot find the monitored host.

【メッセージの意味】

複数サーバ監視プロセス(tskhmsrv)に対し監視対象外のホストへの要求が送られました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 25: 被監視ホストが操作可能状態でありません
[Windows]MpJmSrv: ERROR: 25: Cannot control the monitored host.

【メッセージの意味】

被監視ホストに対し操作要求を送信できませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

被監視ホストの状態を確認し、稼働中だった場合は再度同じ操作をしてください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 26: 被監視ホストにアクセス許可がありません
[Windows]MpJmSrv: ERROR: 26: Access denied by the monitored host.

【メッセージの意味】

被監視ホストからアクセスを拒否されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

被監視ホストの監視許可ホストに監視ホストを追加してください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 29: ライブラリの読み込みに失敗しました
[Windows]MpJmSrv: ERROR: 29: Failed to load a library.

【メッセージの意味】

使用するライブラリの読み込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJmSrv: 情報: 31: 被監視ホストとの通信に失敗しました(XXXX)
[Windows]MpJmSrv: 情報: 31: XXXX Failed to communicate with the monitored host.

【メッセージの意味】

複数サーバ監視プロセス(tskhmsrv)と被監視ホスト間の通信に失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: 非監視ホストのIPアドレス

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJmSrv: 情報: 32: 複数サーバ監視(クライアント部)との通信に失敗しました
[Windows]MpJmSrv: INFO: 32: Failed to communicate with the multi-server monitoring (client).

【メッセージの意味】

複数サーバ監視プロセス(tskhmsrv)との複数サーバ監視(クライアント部)間の通信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 33: 複数サーバ監視(クライアント部)との通信に失敗しました
[Windows]MpJmSrv: ERROR: 33: Failed to communicate with the multi-server monitoring (client).

【メッセージの意味】

複数サーバ監視プロセス(tskhmsrv)との複数サーバ監視(クライアント部)間の通信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

接続先ホストと被監視ホスト間のネットワークを確認してください。例えば、クライアントからpingコマンドでサーバへの接続が可能かを確認してください。

[Windows]MpJmSrv: 情報: 34: Systemwalker Operation Manager(クライアント部)との通信に失敗しました
[Windows]MpJmSrv: INFO: 34: Failure in communicating with the Systemwalker Operation Manager (client).

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Manager認証プロセス(mpjmsrv)とPC間の通信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJmSrv: 情報: 35: 被監視ホストが操作可能状態でありません
[Windows]MpJmSrv: INFO: 35: Cannot control the monitored host.

【メッセージの意味】

被監視ホストに対し操作要求を送信できませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJmSrv: 情報: 36: 被監視ホストにアクセス許可がありません
[Windows]MpJmSrv: INFO: 36: Access denied by the monitored host.

【メッセージの意味】

被監視ホストからアクセスを拒否されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 37: Systemwalker ACL Manager(API)でエラーが検出されました (code = XXXX, YYYY)

[Windows]MpJmSrv: ERROR: 37: An error has been detected in Systemwalker ACL Manager (API). (code = XXXX, YYYY)

【メッセージの意味】

- XXXX = 3,YYYY = 0 の場合

  接続エラーが発生しました。

上記以外の場合は、ACLマネージャの処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーコード

YYYY: 詳細コード

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

- XXXX = 3,YYYY = 0 の場合

  Operation ManagerサーバでSystemwalker ACL Manager サービスが起動されていることを確認します。

サービスが起動中の場合、または上記以外の場合は、保守情報収集ツールで[フレームワーク]－[セキュリティ]の保守情報を採取し、富士通技術員へ連絡してください。

[Windows]MpJmSrv: 警告: 38: 監査ログライブラリのロードに失敗しました。
[Windows]MpJmSrv: WARNING: 38: Failed to load the audit log library.

【メッセージの意味】

監査ログを出力するためのライブラリのロードで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

以下のファイルが存在しているか確認してください。存在している場合、ファイルが壊れている可能性があります。Systemwalker Operation Managerを再インストールまたは富士通技術員に連絡してください。

Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥bin¥mpaudito.dll

[Windows]MpJmSrv: 警告: 39: 監査ログファイルの読み込みに失敗しました。
[Windows]MpJmSrv: WARNING: 39: Failed to read the audit log file.

【メッセージの意味】

監査ログの出力先ファイルのオープンで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

- 空き容量が不足していないか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリが存在しているか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリのパーミッション/権限を確認してください。利用者制限の定義を利用していない場合、一般ユーザ/Everyoneから書き込める権利が必要です。
- 監査ログの出力先ファイルが壊れている可能性があります。壊れている監査ログの出力先ファイルを退避後、削除してください。

- 監査ログ出力先のハードディスクに障害が発生している場合は、ハードディスクの交換、および復旧が必要な場合があります。

監査ログの出力先ファイルおよびディレクトリは、mpsetlogsend_omgrコマンドで指定できます。mpsetlogsend_omgrコマンドの詳細については、"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

[Windows]MpJmSrv: 情報: 40: Systemwalker共通ユーザー管理機能は利用できません
[Windows]MpJmSrv: INFO: 40: Systemwalker User Management function cannot be used.

【メッセージの意味】

Systemwalker共通ユーザー管理機能がインストールされていないため、Systemwalker共通ユーザー管理機能は利用できません。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 2027: func=XXXX:YYYY() CCCC:ZZZZ

【メッセージの意味】

システム関数が通常と異なる復帰値を返しました。

【パラメタの意味】

XXXX: 呼出し元関数名

YYYY: エラー発生関数名

CCCC: エラー番号

ZZZZ: システムのエラーメッセージ

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJmSrv: 情報: 2028: func=XXXX:YYYY() ソケット関数の復帰値です(コード=ZZZZ)

【メッセージの意味】

ソケット関数が通常と異なる復帰値を返しました。

【パラメタの意味】

XXXX: 呼出し元関数名

YYYY: ソケット関数名

ZZZZ: コード

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 7000: func=XXXX:YYYY() ZZZZ

【メッセージの意味】

システム関数でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: 呼出し元関数名

YYYY: エラー発生関数名

ZZZZ: システムのエラーメッセージ

【システムの処理】

処理を打ち切ります。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 7300: func=XXXX:YYYY() CCCC:ZZZZ

【メッセージの意味】

システム関数でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: 呼出し元関数名

YYYY: エラー発生関数名

CCCC: エラー番号

ZZZZ: システムのエラーメッセージ

【システムの処理】

処理を打ち切ります。

【システム管理者の処置】

“func=”以降が“CreateFile() 32:プロセスはファイルにアクセスできません。”の場合、ジョブスケジューラのデータベースディレクトリ配下のファイルにアクセスするようなアプリケーションが存在しないか確認し、ジョブスケジューラの動作中は、ジョブスケジューラのデータベースディレクトリ配下のファイルへアクセスしないよう対処してください。

上記に該当しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJmSrv: エラー: 8301: func=XXXX:YYYY() ソケット関数にエラーが発生しました(コード=ZZZZ)

【メッセージの意味】

システム関数(WindowsSockets)でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: 呼出し元関数名

YYYY: エラー発生関数名

ZZZZ: システムのエラーコード

【システムの処理】

処理を打ち切ります。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

2.10 MpJobschで始まるメッセージ

本節では、MpJobschで始まるメッセージについて説明します。

MpJobschで始まるメッセージは、ジョブスケジューラが出力するメッセージです。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0001: ジョブネットの出口ルーチンの起動に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0001: The daemon failed to activate the abnormal exit routine of the job net.

【メッセージの意味】

ジョブネット正常終了出口ルーチン(jobsch.exit.normal)またはジョブネット異常終了出口ルーチン(jobsch.exit)のfork、execvのいずれかで失敗しました。

【システムの処理】

ジョブネット正常終了出口ルーチン(jobsch.exit.normal)またはジョブネット異常終了出口ルーチン(jobsch.exit)は起動しません。

【システム管理者の処置】

ジョブネットが正常終了した場合はジョブネット正常終了出口ルーチン(jobsch.exit.normal)の存在および実行権を、異常終了および強制終了した場合はジョブネット異常終了出口ルーチン(jobsch.exit)の存在および実行権を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0002: ジョブネット管理デーモンの起動時に不当な引数が渡されました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0002: The jobscheduler job net daemon argument is incorrect.

【メッセージの意味】

ジョブネット管理デーモン(tsktnsrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

ジョブネットは起動されません。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0005: デーモンがプロジェクトの登録処理に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0005: The daemon failed to register the project.

【メッセージの意味】

以下のどちらかの現象が発生しました。

- データベースディレクトリのアクセスに失敗した。
- ジョブスケジューラに登録可能なプロジェクト数の上限値(1000)を超えた。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0006: ジョブネット情報の読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0006: The jobscheduler failed to read job net information.

【メッセージの意味】

スケジュール情報のopen、lockf、またはreadのどれかで失敗したため、読み込めませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0007: ジョブネット情報の書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0007: The jobscheduler failed to write job net information.

【メッセージの意味】

スケジュール情報またはジョブネット履歴情報(net.spool)が書き込めませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0008: 現在時刻の取得に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0008: The jobscheduler failed to retrieve the current time.

【メッセージの意味】

timeシステムコールでエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0009: デーモンの共有メモリの生成に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0009: The jobscheduler failed to create shared memory.

【メッセージの意味】

shmgetシステムコールによる共有メモリの生成処理でエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブスケジューラデーモンが二重起動していないか、またはリソース不足が発生していないかを確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0012: XXXX を捕捉しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0012: XXXX is trapped.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラデーモンのメインプロセスでシグナルを捕捉しました。

【パラメタの意味】

XXXX: シグナル名(SIGABRT/SIGILL/SIGINT/SIGSEGV/SIGTERM)

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0014: デーモンが起動されていません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0014: The daemon was not started.

【メッセージの意味】

以下のどちらかの現象が発生しています。

- データベースディレクトリが存在しない。またはデータベースディレクトリへのシンボリックリンクがない。
- ジョブスケジューラのデーモンが起動されていない。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

- データベースディレクトリへのシンボリックリンクがない場合は、シンボリックリンクを作成してください。データベースディレクトリの実体が存在しない場合は、バックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。
- ジョブスケジューラのデーモンが起動されていない場合は、起動してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0015: ジョブネットの情報が失われています
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0015: Information on the job net not found.

【メッセージの意味】

以下のどれかの原因で、ジョブネットの情報がスケジュール情報に存在しません。

- ジョブスケジューラのコマンドの引数で指定されたジョブネットが削除された。
- ジョブスケジューラのコマンドが表示しているジョブネットが削除された。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

該当ジョブネットが登録されているかを確認してください。

ジョブスケジューラのデーモンまたはjobschcontrolコマンドにより表示された場合は、スケジュール情報をデータベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

それ以外の場合、または上記の方法で解決できない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0016: JOBDB_PATHが見つかりません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0016: DBPATH not found.

【メッセージの意味】

データベースディレクトリが存在しないか、データベースディレクトリへのシンボリックリンクがありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

データベースディレクトリへのシンボリックリンクがない場合は、シンボリックリンクを作成してください。データベースディレクトリの実体が存在しない場合は、バックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0017: 共有メモリの獲得に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0017: The jobscheduler failed to attach shared memory.

【メッセージの意味】

以下のどちらかの現象が発生しました。

- 共有メモリIDの取得に失敗した。
- shmatシステムコールによる共有メモリの獲得処理でエラーが発生した。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

メモリ不足(リソース不足)が発生していないか確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0022: XXXX ジョブネット情報にエラーレコードが見つかりました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0022: XXXX Erroneous record exists in job net information.

【メッセージの意味】

スケジュール情報を読込み中に以下のどちらかの状態のレコードを検出しました。

- レコード長が不当です。
- ジョブネット情報の先頭レコードとして不当です。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、"Systemwalker Operation Manager 使用手引書"の、"スケジュール情報ファイルの復元について"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0023: メッセージ起動管理コマンドの起動時に不当な引数が渡されました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0023: The jobscheduler message command argument is incorrect.

【メッセージの意味】

メッセージ起動管理プロセス(tskmmsrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: INFO: 0024: POP3サーバと通信しました
[UNIX]MpJobsch: INFO: 0024: The jobscheduler communicate with the POP3 server.

【メッセージの意味】

POP3サーバとの通信に成功しました。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0025: メッセージ情報の読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0025: The jobscheduler failed to read message events information.

【メッセージの意味】

メッセージ情報のopen、lockf、またはreadのどれかで失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0026: ライブラリの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0026: The jobscheduler failed in loading a library.

【メッセージの意味】

ライブラリの読み込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0027: 日変わり時刻の取得に失敗しました。カレンダデーモンが正しく起動されているか確認して下さい
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0027: The jobscheduler failed to retrieve day change time. Make sure that the calendar daemon has been started.

【メッセージの意味】

カレンダ機能からの日変わり時刻情報の取得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

カレンダデーモンが正しく起動されているか、Operation Managerクライアントで、カレンダ機能が使用可能か、日変わり時刻が正しく設定されているかを確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0029: プロジェクト数が上限を超えました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0029: The number of projects has exceeded the maximum number (1000).

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラに登録できるプロジェクト数の上限値(1000)を超えました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

不必要なプロジェクトを削除してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0030: 共有メモリ中のプロジェクト情報が失われています
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0030: Project information in shared memory does not exist.

【メッセージの意味】

プロジェクトの情報がジョブスケジューラの管理している共有メモリ上に存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

プロジェクトの登録数が1000を超えて登録されていないか確認してください。1000を超えている場合は、サブシステム化等により1000以内に構成を変更してください。また、該当のプロジェクトが削除されていないか確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0031: ジョブの情報が失われています
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0031: Job information does not exist.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラの管理しているジョブの情報が不当です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

該当ジョブが削除されていないか確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0033: XXXX ポリシー情報の設定に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0033: XXXX The daemon failed to set policy information.
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0033: XXXX ポリシー情報の設定に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0033: XXXX The daemon failed to set policy information.

【メッセージの意味】

配付されたポリシー情報の設定に失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ポリシー情報ファイル

【システムの処理】

デーモンの起動処理を中止します。

【システム管理者の処置】

設定されなかったポリシー情報を確認してください。ポリシー情報を設定しなおす場合は、ジョブスケジューラデーモンを再起動してください。acldata.batの場合は、抽出元サーバと配付先サーバでユーザアカウント情報が異なっているのが原因です。以下のいずれかの処置を行ってください。

- 配付先サーバに抽出元サーバと同じユーザアカウントを登録してください。
- acldata.batファイル内のセキュリティコマンド(mpsetac,mpchown)のオペランドを存在するユーザアカウントに変更してください。
- acldata.batファイルを削除し、[所有者の変更]ウィンドウおよび[アクセス権情報]ウィンドウで、セキュリティ情報を設定しなおしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0034: プロジェクトの情報の読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0034: Failure in reading project information.

【メッセージの意味】

プロジェクト情報の読み込みに失敗しました。読み込みにエラーが発生した理由が直前に出力されたエラーメッセージで説明されています。直前に出力されるエラーメッセージの代表的なものは以下のとおりです。

「MpJobsch: ERROR: open() too many open files」

プログラムのファイルディスクリプタが不足していることを表しているものであり、Operation Managerクライアントを正常に停止させなかった場合に本現象となる場合があります。

【システムの処理】

ファイルが読み込めないまま、処理を続行します。

【システム管理者の処置】

「open() too many open files」エラーが出力されている場合、tskwnsrvプロセスに対してHUPシグナルを送信することで、不当なソケットを解放し、エラーとなっている原因が取り除ける場合があります。

頻繁に本メッセージが出力される場合は、Operation Managerクライアントが正常に切断されない運用(例えばクライアントPCを頻繁にリセットしているなど)となっているか、ネットワークの経路上の問題が発生している可能性がありますので、見直しをお願いします。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0036: ジョブネット出力情報の受信に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0036: The daemon failed to retrieve job net output information.

【メッセージの意味】

通信管理プロセス(jobschmsmd)がジョブネット出力情報の受信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0037: ジョブネット出力情報の書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0037: The daemon failed to write job net output information.

【メッセージの意味】

ジョブの標準出力／標準エラー出力の管理処理で以下のどれかのエラーが発生したため、ジョブの標準出力／標準エラー出力を取得することができませんでした。

- tmpfile関数で標準出力／標準エラー出力の管理用一時ファイルの生成に失敗した。
- dup2関数での標準出力／標準エラー出力のファイル割当て処理で失敗した。
- getpwnam関数でのパスワード情報の読み込みで失敗した。
- setgid関数でのグループIDの変更処理に失敗した。
- setuid関数でのユーザーIDの変更処理に失敗した。
- 標準出力／標準エラー出力保存用ファイルのopen、lockf、またはwriteのどれかで失敗した。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0038: ログ情報の書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0038: The daemon fails to write log information.

【メッセージの意味】

ログ情報(データベースディレクトリ配下のjobdb1.log、jobdb2.log、jobdb3.log)のopen、lockf、write、または時間取得のためのtimeのどれかで失敗したため、ジョブネット／ジョブの開始／終了メッセージを書き込めませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0039: デーモンの起動に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0039: Failure in daemon activation.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのメインデーモンを制御端末から切り離す処理で呼ばれるメインデーモン自身のコピーのためのforkに失敗しました。システムの負荷が高いことが考えられます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

システムの負荷が低くなった後、ジョブスケジューラのデーモンを起動してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0040: 起動パラメータの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0040: Failed to read parameters for execution.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラデーモンの起動パラメタ情報の読み込みに失敗しました。起動パラメタ定義ファイル(jobschev.txt)が破壊されている可能性があります。

【システムの処理】

デーモンの起動処理を中止します。

【システム管理者の処置】

起動パラメタ定義ファイルを削除後、[ジョブスケジューラ起動パラメタの定義]ウィンドウで起動パラメタを再作成し、ジョブスケジューラのデーモンを再起動してください。

起動パラメタ定義ファイルの格納場所は以下です。

【Windows版】

インストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjobsch¥etc¥jobschev.txt

または、インストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjobsch¥etc¥jobschev*n*.txt

“jobschevn”の“*n*”は、サブシステム1～9までの各サブシステム番号に対応します。

【UNIX版】

Solaris版:/var/opt/FJSVJOBSC/etc/jobschev.txt

または、/var/opt/FJSVJOBSC/JOBDB*n*/etc/jobschev.txt

HP-UX版:/opt/FHPJOBSCH/db/etc/jobschev.txt

または、/opt/FHPJOBSCH/db/JOBDB*n*/etc/jobschev.txt

AIX版:/usr/FAIXJOBSC/db/etc/jobschev.txt

または、/usr/FAIXJOBSC/db/JOBDB*n*/etc/jobschev.txt

Linux版:/var/opt/FJSVJOBSC/etc/jobschev.txt

または、/var/opt/FJSVJOBSC/JOBDB*n*/etc/jobschev.txt

“JOBDB*n*”の“*n*”は、サブシステム1～9までの各サブシステム番号に対応します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0043: XXXX ジョブネット情報ファイルの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0043: XXXX The jobscheduler failed to read job net information file.

【メッセージの意味】

スケジュール情報のopen、lockf、またはreadのどれかで失敗したため、読み込めませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0044: XXXX ジョブネット情報ファイルの書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0044: XXXX The jobscheduler failed to write job net information file.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのスケジュール情報またはジョブネット履歴情報(net.spool)が書き込めませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0046: ログ情報の書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0046: The daemon failed to write log information.

【メッセージの意味】

ログ情報(データベースディレクトリ配下のjobdb1.log、jobdb2.log、jobdb3.log)のopen、lockf、write、または時刻取得のためのtimeのどれかで失敗したため、ジョブネット／ジョブの開始／終了メッセージを書き込めませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0051: 起動日雛形情報のオープンに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0051: The jobscheduler failed to open schedule pattern file.

【メッセージの意味】

起動日雛形情報(db_calendar_ex.default)のopen、lockf、またはreadのどれかで失敗したため、読み込めませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJobsch: INFO: 0053: ジョブスケジューラデーモンが終了しました
[UNIX]MpJobsch: INFO: 0053: The jobscheduler daemon has ended.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのデーモンが終了しました。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0055: 二重起動チェック用ファイルの削除に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0055: The daemon failed to delete a file for a duplicated start check.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのデーモン起動時のjobschlockディレクトリのアクセス中にエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

jobschlockディレクトリ配下のファイルが、アクセス可能かどうか(rootユーザに書き込み権があるかなど)を確認してください。

jobschlockディレクトリの格納場所は以下です。

【Windows版】

インストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjobsch¥jobdb¥jobschlock

または、インストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjobsch¥jobdb*n*¥jobschlock

“jobdb*n*”の“*n*”は、サブシステム1～9までの各サブシステム番号に対応します。

【UNIX版】

Solaris版:/var/opt/FJSVJOBSC/jobschlock

または、/var/opt/FJSVJOBSC/JOBDB*n*/jobschlock

HP-UX版:/opt/FHPJOBSCH/db/jobschlock

または、/opt/FHPJOBSCH/db/JOBDB*n*/jobschlock

AIX版:/usr/FAIXJOBSC/db/jobschlock

または、/usr/FAIXJOBSC/db/JOBDB*n*/jobschlock

Linux版:/var/opt/FJSVJOBSC/jobschlock

または、/var/opt/FJSVJOBSC/JOBDB*n*/jobschlock

“JOBDB*n*”の“*n*”は、サブシステム1～9までの各サブシステム番号に対応します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0060: 起動日雛形情報の読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0060: The jobscheduler failed to read the schedule pattern file.

【メッセージの意味】

起動日雛形情報(db_calendar_ex.default)のopen、またはreadのどちらかで失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

起動日雛形情報(db_calendar_ex.default)を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“ファイルシステムの容量が足りない場合”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0061: ジョブネットのジョブ情報が失われています
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0061: Job information of the job net information file not found.

【メッセージの意味】

スケジュール情報の読み込み中にジョブを1つも持たないジョブネットを検出しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0063: デーモンが既に起動されています
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0063: The daemon already started.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのデーモンが既に起動されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブスケジューラのデーモンが二重起動されないように起動処理を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0090: カレンダ情報が失われています
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0090: Calendar information not found.

【メッセージの意味】

カレンダ情報がありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

sysfile.sys(日変わり・休日情報データベース)が削除されているか、ジョブネットが引用している休日カレンダが存在しません。

sysfile.sysが削除されている場合、ジョブスケジューラデーモンを再起動してください。ジョブスケジューラデーモンの再起動は、Systemwalker Operation Manager 環境設定クライアントから可能です。

引用している休日カレンダが存在しない場合は、引用するカレンダと同名の休日カレンダを作成するか、引用するカレンダを正しく設定してください。

sysfile.sysファイルの格納場所は以下です。

【Windows版】

インストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjobsch¥jobdb¥sysfile.sys

または、インストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjobsch¥jobdb*n*¥sysfile.sys

“jobdb*n*”の“*n*”は、サブシステム1～9までの各サブシステム番号に対応します。

【UNIX版】

Solaris版:/var/opt/FJSVJOBSC/sysfile.sys

または、/var/opt/FJSVJOBSC/JOBDB*n*/sysfile.sys

HP-UX版:/opt/FHPJOBSCH/db/sysfile.sys

または、/opt/FHPJOBSCH/db/JOBDB*n*/sysfile.sys

AIX版:/usr/FAIXJOBSC/db/sysfile.sys

または、/usr/FAIXJOBSC/db/JOBDB*n*/sysfile.sys

Linux版:/var/opt/FJSVJOBSC/sysfile.sys

または、/var/opt/FJSVJOBSC/JOBDB*n*/sysfile.sys

“JOBDB*n*”の“*n*”は、サブシステム1～9までの各サブシステム番号に対応します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0093: カレンダ情報の更新に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0093: The jobscheduler failed to update calendar information.

【メッセージの意味】

カレンダ情報の更新に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

以下を確認してください。

- データベースディレクトリ配下のsysfile.sysファイルにアクセスできるか。ファイルI/Oエラーなどによりアクセスできない状態ではないか。
- ディスク容量に余裕があるか。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0096: 特権ユーザではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0096: User does not belong to root group.

【メッセージの意味】

特権ユーザとは、システム管理者(スーパーユーザ)のことです。

特権ユーザ権限の必要なコマンドにもかかわらず、特権ユーザ以外が使用しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者(スーパーユーザ)で実行してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0097: デーモンを再起動させて下さい
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0097: Restart the daemon.

【メッセージの意味】

致命的なエラーのため、ジョブスケジューラのコマンドの処理を中断します。ジョブスケジューラのデーモンが起動されていないことが考えられます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブスケジューラのデーモンを起動してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0100: カレンダ情報の読み込みまたは変更に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0100: The jobscheduler failed to read/modify calendar information.

【メッセージの意味】

カレンダ情報の読み込みまたは変更に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下のいずれかに該当しないかを確認してください。

- カレンダデーモンが起動していない。
- 指定したカレンダ名が誤っている。
- ジョブネットが使用しているカレンダを削除しようとした。

カレンダを使用しているジョブネットは[カレンダ使用状況]ダイアログボックスで確認できます。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0103: ジョブネットが存在しません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0103: The job net is not found.

【メッセージの意味】

処理の対象となるジョブネットが存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネット名を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0104: ジョブネット名に誤りがあります
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0104: The job net name is incorrect.

【メッセージの意味】

処理の対象となるジョブネットの名前が不当です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネット名を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0119: 通信管理プロセスの作成に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0119: The communication management process cannot be generated.

【メッセージの意味】

デフォルトディレクトリまたは環境変数JOBEXE_PATHで指定されたディレクトリに通信管理プロセス(jobschmsmd)が存在しません。

【システムの処理】

jobschmsmコマンドを終了します。

【システム管理者の処置】

通信管理プロセス(jobschmsmd)の存在および実行権を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0120: 監視ホスト定義ファイル中のホスト名が長すぎます
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0120: The host name in the monitor host file is too long.

【メッセージの意味】

監視ホスト定義ファイル中に長さが64バイトを超えたホスト名が指定されています。

【システムの処理】

長さが64バイトを超えたホスト名を無視します。

【システム管理者の処置】

監視ホスト定義ファイルを、[監視ホストの定義]ウィンドウから修正してください。なお、omgrmonitorコマンドで修正することもできます。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0122: ジョブネット制御情報の送信に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0122: The jobscheduler failed to send job net operation information.

【メッセージの意味】

ジョブネット制御情報の送信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0123: ジョブネット監視情報の受信に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0123: The jobscheduler failed to receive job net monitor information.

【メッセージの意味】

ジョブネット監視情報の受信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0128: 通信管理プロセスの起動時に不当な引数が渡されました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0128: The jobscheduler communication process argument is incorrect.

【メッセージの意味】

通信管理プロセス(jobschmsmd)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0129: 監視ホスト定義ファイルの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0129: The jobscheduler failed to read the monitor host file.

【メッセージの意味】

監視ホスト定義ファイル中に不当なホスト名が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

監視ホスト定義ファイルを、[監視ホストの定義]ウィンドウから修正してください。なお、omgrmonitorコマンドで修正することもできます。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0130: 自ホスト名の取得ができません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0130: Failure in host name retrieval.

【メッセージの意味】

自ホストのホスト名が不当です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

OSとして、自ホストのホスト名を設定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0131: 自ホストのIPアドレスの取得ができません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0131: Failure in Host IP address retrieval.

【メッセージの意味】

gethostbynameシステムコールでエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

該当サーバでのネットワークの設定を確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0132: 被監視ホストとの通信のためのポート番号(tcp)の取得に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0132: Failure in port number (tcp) acquisition for communication with the monitored host.

【メッセージの意味】

被監視ホストとの通信に用いるサービス名jobsch_tcpの取得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

/etc/servicesファイルにサービス名jobsch_tcp(デフォルト値9240/tcp)を指定してください。ホストがネームサービスを利用している場合は、その設定をしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0133: 被監視ホストとの通信に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0133: Failure in communicating with the monitored host.

【メッセージの意味】

被監視ホスト上のジョブスケジューラのデーモンとの通信に異常が発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

監視ホストと被監視ホストのネットワーク上に問題がないか確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0134: 通信の制御ができません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0134: Failed in the control of the communication.

【メッセージの意味】

selectシステムコールでエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

以下の通信ができるか、確認してください。

- Operation Managerクライアントとサーバ間の通信
- 監視ホストと被監視ホスト間の通信

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0135: jobschmsmコマンドとの通信に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0135: Failure in communicating with the jobschmsm command.

【メッセージの意味】

jobschmsmコマンドとの通信に異常が発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0136: 監視許可ホスト定義ファイル中のホスト名が長すぎます
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0136: The host name in the monitor authorization host file is too long.

【メッセージの意味】

監視許可ホスト定義ファイル中に長さが64バイトを超えたホスト名が指定されています。

【システムの処理】

長さが64バイトを超えたホスト名を無視します。

【システム管理者の処置】

監視許可ホスト定義ファイルを、[監視許可ホストの定義]ウィンドウから修正後、デーモンを再起動してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0137: 監視ホストが一つもありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0137: The monitored host is not found.

【メッセージの意味】

監視ホスト定義ファイル中にホスト名が一つも指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

監視ホスト定義ファイルを、[監視ホストの定義]ウィンドウから修正してください。なお、omgrmonitorコマンドで修正することもできます。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0138: 被監視ホストとの通信のためのポート番号(udp)の取得に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0138: Failure in port number (udp) acquisition for communication with the monitored host.

【メッセージの意味】

被監視ホストとの通信に用いるサービス名jobsch_udpの取得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

/etc/servicesファイルにサービス名jobsch_udp(デフォルト値9240/udp)を指定してください。ホストがネームサービスを利用している場合は、その設定をしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0140: 監視ホストの情報が失われています
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0140: Monitored host information not found.

【メッセージの意味】

内部で保持しているホスト情報が不当です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0141: ジョブネット出力情報の作成に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0141: The jobscheduler failed to create job net output information.

【メッセージの意味】

通信管理プロセス(jobschmsmd)から受信したジョブネット出力情報を格納するファイルのオープンに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0142: ジョブネット異常終了出口ルーチンの起動に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0142: The daemon failed to activate the abnormal exit routine of the job net.

【メッセージの意味】

ジョブネット異常終了出口ルーチン(msm.db/jobnet.exit)のfork、またはexecのどちらかで失敗しました。

【システムの処理】

ジョブネット異常終了出口ルーチン(msm.db/jobnet.exit)は起動しません。処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブネット異常終了出口ルーチン(msm.db/jobnet.exit)の存在および実行権を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0143: 通信不能時の出口ルーチンの起動に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0143: The daemon failed to activate the non-communication exit routine.

【メッセージの意味】

通信不能時の出口ルーチン(msm.db/jobschmsm.exit)のfork、またはexecのどちらかで失敗しました。

【システムの処理】

通信不能時の出口ルーチン(msm.db/jobschmsm.exit)は起動しません。

【システム管理者の処置】

通信不能時の出口ルーチン(msm.db/jobschmsm.exit)の存在および実行権を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0144: 複数システム監視デーモンの起動時に不当な引数が渡されました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0144: The jobscheduler multisystem monitor daemon argument is incorrect.

【メッセージの意味】

複数システム監視デーモン(tskmssrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0145: 監視ホストとの通信に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0145: Failure in communicating with the monitoring host.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのデーモンとの通信に異常が発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

監視ホストと被監視ホストのネットワーク上に問題がないか確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0147: 監視ホストとの通信のためのポート番号(tcp)の取得に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0147: Failure in port number (tcp) acquisition for communication with the monitoring host.

【メッセージの意味】

監視ホストとの通信に用いるサービス名jobsch_tcpの取得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

/etc/servicesファイルにサービス名jobsch_tcp(デフォルト値9240/tcp)を指定してください。ホストがネームサービスを利用している場合は、その設定をしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0148: ジョブネット情報が一つもありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0148: Job net information is not found.

【メッセージの意味】

0バイトのスケジュール情報が存在します。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、"Systemwalker Operation Manager 使用手引書"の、"スケジュール情報ファイルの復元について"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0149: デーモン間の通信に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0149: Failure to communicate among daemon processes.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのデーモン内部でのジョブネット情報の通信に異常が発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0151: ジョブネット出力情報の読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0151: The jobscheduler failed to read job net output information.

【メッセージの意味】

ジョブネット出力情報の読み込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

以下を確認してください。

- データベースディレクトリ配下の「プロジェクト名_ジョブネット名_nn.log」(nnは任意の数字)ファイルにアクセスできるか。ファイルI/Oエラーなどによりアクセスできない状態ではないか。
- ディスク容量に余裕があるか。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0154: 起動日が休日と重なった場合の処理が失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0154: Failure in holiday shifting.

【メッセージの意味】

スケジュール情報の起動日が休日と重なった場合の処理に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0156: 起動日雛形情報の読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0156: The jobscheduler fails to read model information.

【メッセージの意味】

起動日雛形情報(db_calendar_ex.default)のopen、またはreadのどちらかで失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

起動日雛形情報(db_calendar_ex.default)を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“ファイルシステムの容量が足りない場合”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0157: jobschmsmコマンドの利用者が他にいないか調べてください．または，しばらく待ってから再実行して下さい
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0157: Check for other users of jobschmsm command or restart later.

【メッセージの意味】

jobschmsmコマンド中のbindシステムコールでエラーが発生したため、起動できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

他にjobschmsmコマンドの使用者がいないことを確認した後、起動してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0158: XXXX ジョブネット情報の書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0158: XXXX The jobscheduler failed to write job net information.

【メッセージの意味】

スケジュール情報のopen、lockf、read、またはwriteのどれかで失敗したため、書き込めませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、"Systemwalker Operation Manager 使用手引書"の、"スケジュール情報ファイルの復元について"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0159: JOBEXE_PATHが長すぎます
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0159: JOBEXE_PATH is too long.

【メッセージの意味】

環境変数JOBEXE_PATHの値の長さが128バイトを越えています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

環境変数JOBEXE_PATHの値の長さを128バイト以内にしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0160: IPアドレスの取得に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0160: Failure in IP address acquisition.

【メッセージの意味】

gethostbynameシステムコールでエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

監視ホスト定義ファイルと監視許可ホスト定義ファイルにおいて設定されているホスト名のIPアドレスが、/etc/hostsに設定されているかどうか確認してください。ホスト名のIPアドレスは、以下のウィンドウから確認できます。

監視ホスト定義ファイル: [監視ホストの定義]ウィンドウ

監視許可ホスト定義ファイル: [監視許可ホストの定義]ウィンドウ

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0161: 監視許可ホスト定義ファイルの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0161: The jobscheduler failed to read information on the monitor authorization host file.

【メッセージの意味】

監視許可ホスト定義ファイル(データベースディレクトリ/msm.db/access_hosts)のオープンに失敗したため、読み込めませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

監視許可ホスト定義ファイル(データベースディレクトリ/msm.db/access_hosts)の存在を確認してください。

監視許可ホスト定義ファイルが存在していない場合は、環境設定クライアントより監視許可ホストを設定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0163: ジョブ実行制御の計算機番号の取得に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0163: Failure in Job Execution Control machine ID acquisition.

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御で使用する計算機番号の取得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0164: ジョブネット情報の送信に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0164: The jobscheduler failed to send job net information.

【メッセージの意味】

複数システム監視デーモン(tskmssrv)へのジョブネット情報の送信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0166: ジョブ実行制御 ジョブネット管理デーモンの起動時に不当な引数が渡されました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0166: The jobscheduler Job Execution Control job net daemon argument is incorrect.

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御ジョブネット管理デーモン(tskbasrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0167: 監視ホスト定義ファイル中のホスト名の指定に誤りがあります
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0167: There are incorrect host names in the monitor host file.

【メッセージの意味】

監視ホスト定義ファイル中に空白またはタブ文字を含むホスト名が指定されています。

【システムの処理】

空白またはタブ文字を含むホスト名を無視します。

【システム管理者の処置】

監視ホスト定義ファイルを、[監視ホストの定義]ウィンドウから修正してください。なお、omgrmonitorコマンドで修正することもできます。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0168: 監視許可ホスト定義ファイル中のホスト名の指定に誤りがあります
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0168: There are incorrect host names in the monitor authorization host file.

【メッセージの意味】

監視許可ホスト定義ファイル中に空白またはタブ文字を含むホスト名が指定されています。

【システムの処理】

空白またはタブ文字を含むホスト名を無視します。

【システム管理者の処置】

監視許可ホスト定義ファイルを、[監視許可ホストの定義]ウィンドウから修正してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0174: ジョブ実行制御のジョブの実行に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0174: Failure in Job Execution Control job activation.

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御のジョブネット中のジョブの実行に失敗しました。

【システムの処理】

ジョブは実行されなく、終了コードは243になります。

【利用者の処置】

ジョブ実行制御デーモンが起動していることを確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0179: XXXX のバックアップに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0179: XXXX failed in the backup.

【メッセージの意味】

ファイルのバックアップに失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ディスク容量不足が発生していないか確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0182: XXXX はプロジェクト名が50文字を超えているため使用できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0182: XXXX project name is too long.

【メッセージの意味】

プロジェクト名の最大長は50文字までであり、それ以上のものは使えません。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

プロジェクト名は50文字以下で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0183: ロックファイルの作成に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0183: The jobscheduler failed to generate a file for a duplicated start check.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンドの二重起動防止のためのファイルの作成に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0184: 監視ホスト定義ファイルが見つかりません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0184: The monitor host file is not found.

【メッセージの意味】

監視ホスト定義ファイルがありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

監視ホスト定義ファイルを、[監視ホストの定義]ウィンドウから作成してください。なお、omgrmonitorコマンドで作成することもできます。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0189: XXXX YYYY ジョブネットの生成に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0189: XXXX YYYY Failure in job net generation.

【メッセージの意味】

ジョブネット管理デーモン(tsktnsrv)を起動するためのforkシステムコールでエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0190: XXXX YYYY ジョブネットの実行に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0190: XXXX YYYY Failure in job net execution.

【メッセージの意味】

ジョブネット管理デーモン(tsktnsrv)を起動するためのexecvシステムコールでエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0191: XXXX が実行できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0191: XXXX cannot be executed.

【メッセージの意味】

ファイルの実行に失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ファイルの存在および実行権を確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0192: ログ情報切り換え出口ルーチンの起動に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0192: The daemon failed to activate the exit routine (log file switching).

【メッセージの意味】

ログ情報切り替え出口ルーチン(jobdb.exit)のfork、またはexecのどちらかで失敗しました。

【システムの処理】

ログ情報切り替え出口ルーチン(jobdb.exit)は起動しません。

【システム管理者の処置】

ログ情報切り替え出口ルーチン(jobdb.exit)の存在および実行権を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0193: E-Mail連携デーモンの起動時に不当な引数が渡されました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0193: The jobscheduler E-Mail daemon argument is incorrect.

【メッセージの意味】

メール連携デーモン(tskmlsrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0194: POP3サーバとの通信に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0194: Failure in communicating with the POP3 server.

【メッセージの意味】

POP3サーバとの通信処理に失敗しました。E-Mail連携が行えません。

【システムの処理】

E-Mail連携機能が利用できませんが、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

環境定義の起動パラメタ情報で定義したPOP3サーバが動作していることを確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0195: ネットワーク･ライセンスを初期化できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0195: Network license cannot be initialized.

【メッセージの意味】

FLEXlmの初期化に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

FLEXlmの設定を確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0196: ネットワーク･ライセンスを獲得できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0196: Network license cannot be retrieved.

【メッセージの意味】

FLEXlmのライセンスの獲得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

FLEXlmのライセンス･パスワードの設定を確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0197: 通信管理デーモンの起動時に不当な引数が渡されました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0197: The jobscheduler communication daemon argument is incorrect.

【メッセージの意味】

通信管理デーモン(tskwnsrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: INFO: 0198: PCとの通信に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: INFO: 0198: Failure in communicating with the jobscheduler (client).
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0198: PCとの通信に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0198: Failure in communicating with the jobscheduler (client).

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラデーモンと、Operation Managerクライアントとの間の通信でエラーが発生しました。通信エラーが発生した理由(TCP/IPのソケットレベルでのエラー理由)が直前に出力されるエラーメッセージで説明されています。直前に出力されるエラーメッセージの代表的なものは以下のとおりです。

「MpJobsch: ERROR: write() broken pipe」

「MpJobsch: ERROR: read() Connection reset by peer」

いずれもソケットが不当な切断を実施されたものであり、Operation Managerクライアントを正常に停止させなかったことが主な発生理由となります。

【システムの処理】

ソケットの後始末を実施し、処理を続行します。

【システム管理者の処置】

頻繁に本メッセージが出力される場合は、Operation Managerクライアントが正常に切断されない運用(例えば、クライアントPCを頻繁にリセットしている)となっているか、ネットワークの経路上の問題が発生している可能性がありますので、見直しをお願いします。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0199: PCとの接続に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0199: Failure in connecting with the jobscheduler (client).

【メッセージの意味】

通信管理デーモン(tskwnsrv)またはホスト一覧デーモン(tskmdsrv)とPC間の通信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

頻繁に本メッセージが出力される場合は、Operation Managerクライアントが正常に切断されない運用(例えば、クライアントPCを頻繁にリセットしている)となっていないか、ネットワークの経路上に問題が発生していないか、外部から不当な通信、不正なアクセスが行われていないか確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0200: 自ホスト名が長すぎます
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0200: Host name is too long.

【メッセージの意味】

自ホストのホスト名の長さが64バイトを超えています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

自ホストのホスト名の長さを64バイト以内にしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0201: PCとの通信のためのポート番号(tcp)の取得に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0201: Failure in port number (tcp) acquisition for communication with the PC.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラ/CLとの通信に用いるサービス名jobsch_winの取得に失敗しました。

【システムの処理】

ジョブスケジューラ/CLは使用できません

【システム管理者の処置】

/etc/servicesファイルにサービス名jobsch_win(デフォルト値9297/tcp)を指定してください。ホストがネームサービスを利用している場合は、その設定をしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0202: デーモンを1分後に再起動させて下さい
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0202: Restart the daemon.

【メッセージの意味】

前回のジョブスケジューラのデーモンの終了時に接続中のPCまたは、ホスト一覧デーモン(tskmdsrv)があったため、ジョブスケジューラのデーモンを起動できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

PCを終了または、ホスト一覧デーモン(tskmdsrv)をkillコマンドで終了させてから、1分後にジョブスケジューラのデーモンを起動してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0203: last log情報の取得に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0203: Failure in last log information acquisition.

【メッセージの意味】

last log情報のopenで失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0204: カレンダ情報にエラーレコードが見つかりました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0204: Erroneous record found in calendar information.

【メッセージの意味】

カレンダ情報中に不当なレコードを検出しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

データベースディレクトリ配下のsysfile.sys(日変わり・休日情報データベース)の内容に矛盾があります。ジョブスケジューラデーモン停止後にsysfile.sysを削除して、ジョブスケジューラデーモンを再起動してください。

ジョブスケジューラデーモンの再起動により、sysfile.sysファイルが再作成されます。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0206: 再スケジューリングに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0206: The daemon failed in the re-schedule.

【メッセージの意味】

msgsndシステムコールでエラーが発生したため、グループまたはジョブネットを再スケジューリングできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

リソース不足(メッセージキュー等)が発生していないかを確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0208: ログ情報の読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0208: The jobscheduler failed to read log information.

【メッセージの意味】

ログ情報がオープンできなかったため、読み込めませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ログ情報(データベースディレクトリ配下のjobdb1.log、jobdb2.log、jobdb3.log)にアクセスできない原因を確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0212: XXXX グループ情報ファイルの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0212: XXXX The jobscheduler fails to read group information file.

【メッセージの意味】

スケジュール情報のopen、lockf、またはreadのどれかで失敗したため、読み込めませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、"Systemwalker Operation Manager 使用手引書"の、"スケジュール情報ファイルの復元について"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0214: グループ情報の読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0214: The jobscheduler failed to read group information.

【メッセージの意味】

スケジュール情報の読み込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0215: XXXX グループ情報にエラーレコードが見つかりました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0215: XXXX Erroneous record found in group information.

【メッセージの意味】

スケジュール情報に不当なレコードがあります。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0216: XXXX YYYY が無効なグループとして削除されました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0216: XXXX YYYY is deleted because it is an invalid group.

【メッセージの意味】

プロジェクトXXXXのグループYYYYの情報に異常があるため、削除しました。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: グループ名

【システムの処理】

プロジェクトXXXXのグループYYYYを削除して、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0218: XXXX グループ情報ファイルの書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0218: XXXX The jobscheduler failed to write group information file.

【メッセージの意味】

スケジュール情報のopen、lockf、またはwriteのどれかで失敗したため、書き込めませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0219: グループ情報の書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0219: The jobscheduler failed to write group information.

【メッセージの意味】

スケジュール情報の書き込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: INFO: 0221: ログ情報のファイルサイズが上限値を超えました
[UNIX]MpJobsch: INFO: 0221: The size of log information has exceeded the maximum value.

【メッセージの意味】

ログ情報のサイズが、ジョブスケジューラデーモンの起動パラメタで指定された値を超えたため、ログ情報ファイルが切り替えられました。

【システムの処理】

ログ情報切り替え出口ルーチン(jobdb.exit)を実行します。

【利用者の処置】

対処は特に必要ありません。切り替えられる以前のログ情報を参照したい場合は、エディタで切り替え前のログ情報ファイルを参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0222: ログ情報切り替え出口ルーチンの起動に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0222: The daemon failed to activate the log information switch exit routine.

【メッセージの意味】

ログ情報切り替え出口ルーチン(jobdb.exit)のforkまたはexecのどちらかで失敗しました。

【システムの処理】

ログ情報切り替え出口ルーチン(jobdb.exit)は起動しません。

【システム管理者の処置】

ログ情報切り替え出口ルーチン(jobdb.exit)の存在および実行権を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0223: グループ情報の送信に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0223: The jobscheduler failed to send group information.

【メッセージの意味】

複数システム監視プロセス(tskmssrv)へのスケジュール情報の送信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ネットワーク環境に問題がないか確認してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0224: XXXX YYYY は未終了のためスケジュールは終了後に行われます
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0224: XXXX YYYY is not yet finished. Schedule will be done after the job net ends.

【メッセージの意味】

プロジェクトXXXXのグループYYYYは未終了のため、スケジュールは終了後に行われます。

グループは1日1回の起動で、グループ内ジョブネットの起動日により、その日のスケジュールを決定します。日変わり時刻時点でグループが正常終了していない場合、グループは次のスケジュールをせず、グループが正常終了した時点で次のスケジュールの実施を通知します。

グループが以下の状態の場合、日変わり時刻が到来しても、スケジュールが持ち越されるので注意してください。

- 未起動の場合
- 確認操作が有効で、実行状態が異常終了/強制終了/実行中断の場合

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: グループ名

【利用者の処置】

グループが実行中の場合、グループの終了を待ってください。グループが実行待ちの場合、先頭ジョブネットが待ち合わせているメッセージ事象が未発生の可能性があります。メッセージが未発生の原因を確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0226: グループは保存中または制御中です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0226: The group is being saved or controlled.

【メッセージの意味】

グループは保存中または制御中なので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから再度実行してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0249: ホスト一覧デーモンの起動時に不当な引数が渡されました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0249: The jobscheduler host summary daemon argument is incorrect.

【メッセージの意味】

ホスト一覧デーモン(tskmdsrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0255: イベント管理デーモンの起動時に不当な引数が渡されました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0255: The jobscheduler event daemon argument is incorrect.

【メッセージの意味】

イベント管理デーモン(tskevsrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0257: 日変わり時刻通知出口ルーチンの起動に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0257: The daemon failed to activate the day-change-time-notice exit routine.

【メッセージの意味】

日変わり時刻通知出口ルーチン(jobsch.time.exit)のfork、またはexecのどちらかで失敗しました。

【システムの処理】

日変わり時刻通知出口ルーチン(jobsch.time.exit)は起動しません。

【システム管理者の処置】

日変わり時刻通知出口ルーチン(jobsch.time.exit)の存在および実行権を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0258: XXXX はユーザ名が20文字を超えているため使用できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0258: XXXX user name is too long.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラが扱うユーザ名は20文字までのものであり、それ以上のものは使えません。

【パラメタの意味】

XXXX: ユーザ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

20文字までのユーザ名でジョブスケジューラを使用してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0266: グループ情報に矛盾があります
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0266: The group information is inconsistent.

【メッセージの意味】

グループ情報とジョブネット情報の間に矛盾があります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、"Systemwalker Operation Manager 使用手引書"の、"スケジュール情報ファイルの復元について"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0267: 通信管理デーモンとの通信のためのポート番号(tcp)の取得に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0267: Failure in port number (tcp) acquisition for communication with the jobscheduler communication daemon.

【メッセージの意味】

通信管理デーモン(tskwnsrv)との通信に用いるサービス名jobsch_winの取得に失敗しました。

【システムの処理】

ジョブスケジューラ/CLが使用できません。

【システム管理者の処置】

/etc/servicesファイルにサービス名jobsch_win(デフォルト値9297/tcp)を指定してください。ホストがネームサービスを利用している場合は、その設定をしてください。

[UNIX]MpJobsch: INFO: 0272: ジョブスケジューラデーモンが起動しました
[UNIX]MpJobsch: INFO: 0272: The jobscheduler daemon has been started.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのデーモンが起動しました。

【システムの処理】

ジョブスケジューラデーモンを起動します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0273: デーモンが起動中です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0273: The daemon is being started.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのデーモンが起動中のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブスケジューラのデーモンが起動した後、操作を行ってください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0276: LANGの設定に誤りがあります
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0276: The LANG value is incorrect.

【メッセージの意味】

環境変数LANGの値に誤りがあります。

【システムの処理】

デーモンが出力した場合は、英語環境でデーモンが動作します。コマンドが出力した場合は、起動しません。

【利用者の処置】

デーモンが出力した場合は、OSの環境変数LANGの値を直した後、デーモンを再起動してください。コマンドが出力した場合は、ユーザ環境のLANG環境変数の値を直した後、コマンドを再起動してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0277: PowerAIMはサポートされていません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0277: PowerAIM is not supported.

【メッセージの意味】

以下のいずれかの状態が発生しました。

- PowerAIMの共有ライブラリを使用できなかったため、PowerAIMと連携できません。
- PowerAIMを使用できないシステムのため、PowerAIM属性のジョブネットは登録できません。

【システムの処理】

デーモンが出力した場合はデーモンを終了します。コマンドが出力した場合は、ジョブネットは登録しません。

【システム管理者の処置】

PowerAIMが正常にインストールされていることを確認してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0284: XXXX 監視許可ホストの情報取得に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0284: XXXX Failed in the host information acquisition in the monitor authorization host file.

【メッセージの意味】

監視許可ホスト定義ファイルに記述されているホストXXXXの情報取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ホスト名

【システムの処理】

失敗したホストとの通信をしません。

【システム管理者の処置】

[監視許可ホストの定義]ウィンドウから、監視許可ホスト定義ファイルの内容を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0285: PowerAIMジョブネット管理デーモンの起動時に不当な引数が渡されました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0285: The jobscheduler PowerAIM job net daemon argument is incorrect.

【メッセージの意味】

PowerAIMジョブネット管理デーモン(tskpasrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0286: XXXX トレース機能が使用できません
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0286: XXXX The trace function cannot be used.

【メッセージの意味】

XXXXのトレース機能で異常が発生したため、トレース機能を停止します。

【パラメタの意味】

XXXX: 実行プログラム名(例:tskussrv)

【システムの処理】

これ以降XXXXのトレース情報の出力を停止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: INFO: 0287: XXXX YYYY は起動しませんでした
[UNIX]MpJobsch: INFO: 0287: XXXX YYYY did not start.

【メッセージの意味】

XXXX YYYYのジョブネットが起動しませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: ジョブネット名

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0295: ジョブの出口ルーチンの起動に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0295: The daemon failed to activate the job exit routine.

【メッセージの意味】

ジョブ終了時の出口ルーチン(jobsch.job.exit)のfork、execvのいずれかで失敗しました。

【システムの処理】

ジョブ終了時の出口ルーチン(jobsch.job.exit)は起動しません。

【システム管理者の処置】

ジョブ終了時の出口ルーチン(jobsch.job.exit)の存在および実行権を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0299: データベースが移行されていません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0299: The database has not been converted.

【メッセージの意味】

JOBDB_PATH配下のデータベースが旧版のものです。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

jobschconvertコマンドを使用して、データベースを移行してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0310: XXXX YYYY は起動予定時刻を過ぎても起動されませんでした
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0310: XXXX YYYY did not start at scheduled time.

【メッセージの意味】

起動条件としているメッセージ事象が発生していないか、先行ジョブネットが正常終了していないため、起動予定時刻にジョブネットが起動されませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: ジョブネット名

【システムの処理】

起動予定時刻にジョブネットが起動されません。

【システム管理者の処置】

起動条件を満たさない原因であるメッセージ事象を発生させるか、先行ジョブネットを起動し正常終了させてください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0311: XXXX YYYY は終了予定時刻までに終了していません
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0311: XXXX YYYY did not finish before Estimated end time.

【メッセージの意味】

終了予定時刻までにジョブネットが終了しませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: ジョブネット名

[UNIX]MpJobsch: INFO: 0328: ジョブネットの実行を開始しました ジョブネット名称=XXXX ジョブネット名=YYYY プロジェクト名=ZZZZ
[UNIX]MpJobsch: INFO: 0328: The job net has started. JobNetComment=XXXX JobNetName=YYYY ProjectName=ZZZZ

【メッセージの意味】

システム監視との連携用メッセージです。ジョブネットの実行を開始しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名称

YYYY: ジョブネット名

ZZZZ: プロジェクト名

[UNIX]MpJobsch: INFO: 0329: ジョブネットが正常終了しました ジョブネット名称=XXXX ジョブネット名=YYYY コード=CCCC プロジェクト名=ZZZZ
[UNIX]MpJobsch: INFO: 0329: The job net has normal ended. JobNetComment=XXXX JobNetName=YYYY Code=CCCC ProjectName=ZZZZ

【メッセージの意味】

システム監視との連携用メッセージです。ジョブネットが正常終了しました。

【パラメタの意味】

XXXX：ジョブネット名称

YYYY：ジョブネット名

CCCC：ジョブネットの終了コード

ZZZZ：プロジェクト名

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0330: ジョブネットが異常終了しました ジョブネット名称=XXXX ジョブネット名=YYYY コード=CCCC プロジェクト名=ZZZZ
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0330: The job net has abnormal ended. JobNetComment=XXXX JobNetName=YYYY Code=CCCC ProjectName=ZZZZ

【メッセージの意味】

システム監視との連携用メッセージです。ジョブネットが異常終了しました。

【パラメタの意味】

XXXX：ジョブネット名称

YYYY：ジョブネット名

CCCC：ジョブネットの終了コード

ZZZZ：プロジェクト名

【利用者の処置】

ジョブネットが異常終了しています。異常終了したジョブの内容を確認し、ジョブの終了コードからジョブ自身を調査してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0331: ジョブネットの実行を拒否しました ジョブネット名称=XXXX ジョブネット名=YYYY プロジェクト名=ZZZZ
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0331: The job net has refused. JobNetComment=XXXX JobNetName=YYYY ProjectName=ZZZZ

【メッセージの意味】

システム監視との連携用メッセージです。ジョブネットの実行が拒否されました。

【パラメタの意味】

XXXX：ジョブネット名称

YYYY：ジョブネット名

ZZZZ：プロジェクト名

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0332: ジョブネットの実行をスキップしました ジョブネット名称=XXXX ジョブネット名=YYYY プロジェクト名=ZZZZ
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 332: The job net has skipped. JobNetComment=XXXX JobNetName=YYYY ProjectName=ZZZZ

【メッセージの意味】

システム監視との連携用メッセージです。ジョブネットの実行がスキップされました。

【パラメタの意味】

XXXX：ジョブネット名称

YYYY：ジョブネット名

ZZZZ：プロジェクト名

[UNIX]MpJobsch: INFO: 0333: ジョブネットが疑似正常終了しました ジョブネット名称=XXXX ジョブネット名=YYYY コード=CCCC プロジェクト名=ZZZZ

[UNIX]MpJobsch: INFO: 0333: The job net has pseudo-normal ended. JobNetComment=XXXX JobNetName=YYYY Code=CCCC ProjectName=ZZZZ

【メッセージの意味】

システム監視との連携用メッセージです。ジョブネットが疑似正常終了しました。

【パラメタの意味】

XXXX：ジョブネット名称

YYYY：ジョブネット名

CCCC：ジョブネットの終了コード

ZZZZ：プロジェクト名

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0337: ジョブネットの起動遅延出口の起動に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0337: The daemon failed to activate the activation delay exit routine of the job net.

【メッセージの意味】

ジョブネットの起動遅延出口ルーチン(startlate.exit)がfork、execvのいずれかで失敗しました。

【システムの処理】

ジョブネットの起動遅延出口ルーチン(startlate.exit)は起動しません。

【システム管理者の処置】

ジョブネットの起動遅延出口ルーチン(startlate.exit)の存在および実行権を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0338: ジョブネットの終了遅延出口の起動に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0338: The daemon failed to activate the termination delay exit routine of the job net.

【メッセージの意味】

ジョブネットの終了遅延出口ルーチン(endlate.exit)がfork、execvのいずれかで失敗しました。

【システムの処理】

ジョブネットの終了遅延出口ルーチン(endlate.exit)は起動しません。

【システム管理者の処置】

ジョブネットの終了遅延出口ルーチン(endlate.exit)の存在および実行権を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0340: 仮想時間の設定に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0340: The daemon failed to set virtual time.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラデーモンは指定された仮想時間で起動することができませんでした。

【システムの処理】

仮想時間が指定されていないものと扱い、ジョブスケジューラデーモンは現実の時間で動作します。

【利用者の処置】

341番のエラーメッセージに続いて本メッセージが出力された場合は、Systemwalker Operation Manager環境設定クライアントで設定した仮想時間が、現実の時間より過去になっています。仮想時間は未来の時間しか指定できないので、仮想時間を再設定後、ジョブスケジューラデーモンを再起動してください。

341番のメッセージが出力されていない場合、ジョブスケジューラデーモンの起動パラメタファイルへのアクセスに失敗していますのでジョブスケジューラのデータベースディレクトリ配下のファイルのアクセス権等を見直した後に、ジョブスケジューラデーモンを再起動してください。

起動パラメタファイル(jobschev.txt)の格納場所は以下です。

【Windows版】

インストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjobsch¥etc¥jobschev.txt

または、インストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjobsch¥etc¥jobschev*n*.txt

“jobschevn”の“*n*”は、サブシステム1～9までの各サブシステム番号に対応します。

【UNIX版】

Solaris版:/var/opt/FJSVJOBSC/etc/jobschev.txt

または、/var/opt/FJSVJOBSC/JOBDB*n*/etc/jobschev.txt

HP-UX版:/opt/FHPJOBSCH/db/etc/jobschev.txt

または、/opt/FHPJOBSCH/db/JOBDB*n*/etc/jobschev.txt

AIX版:/usr/FAIXJOBSC/db/etc/jobschev.txt

または、/usr/FAIXJOBSC/db/JOBDB*n*/etc/jobschev.txt

Linux版:/var/opt/FJSVJOBSC/etc/jobschev.txt

または、/var/opt/FJSVJOBSC/JOBDB*n*/etc/jobschev.txt

“JOBDB*n*”の“*n*”は、サブシステム1～9までの各サブシステム番号に対応します。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0341: 仮想時間に過去の日時が設定されています
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0341: The virtual time is set as a past time.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラデーモンは指定された仮想時間で起動することができませんでした。

【システムの処理】

仮想時間が指定されていないものと扱い、ジョブスケジューラデーモンは現実の時間で動作します。

【利用者の処置】

Systemwalker Operation Manager環境設定クライアントで設定した仮想時間が、現実の時間より過去になっています。仮想時間は未来の時間しか指定できないので、仮想時間を再設定後、ジョブスケジューラデーモンを再起動してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0342: swadmin が/etc/groupにありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0342: swadmin isn't registered in /etc/group.

【メッセージの意味】

swadminグループが/etc/groupファイルに存在しません。

【システムの処理】

swadminグループに含まれるユーザ以外は、ジョブスケジューラのコマンドやデマンドジョブの起動ができないように制限される設定を行っているにもかかわらず、swadminグループが実在しないため、ジョブスケジューラデーモンを起動しません。

【利用者の処置】

/etc/groupにswadminグループを作成し、ジョブスケジューラのコマンドやデマンドジョブを起動するユーザを登録してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0343: セキュリティ強化に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0343: The daemon failed in the security reinforcement.

【メッセージの意味】

swadminグループに含まれるユーザ以外は、ジョブスケジューラのコマンドやデマンドジョブの起動ができないように制限される設定を行っているにもかかわらず、swadminグループが実在しない、または、各種ファイルの属性変更に失敗したため、セキュリティが強化できませんでした。

【利用者の処置】

342番のメッセージと同時に出力された場合は、/etc/groupにswadminグループを作成し、ジョブスケジューラのコマンドやデマンドジョブを起動するユーザを登録してください。

342番のメッセージが同時に出力されなかった場合は、ジョブスケジューラのデータベースディレクトリが存在し、かつデータベースディレクトリおよび配下のファイル、サブディレクトリの属性の変更が可能なことを確認してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0345: XXXX をキーとするIPC資源が既に存在します
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0345: XXXX The IPC resource which corresponds to this key already exists.

【メッセージの意味】

XXXXをキーとするプロセス間通信用資源が、すでに他のアプリケーションにより使用されています。

【パラメタの意味】

XXXX:キー

【システムの処理】

別のキーを使用して、処理します。

【利用者の処置】

本メッセージが出力されても、別のキーを使用するため対処は不要です。

[UNIX]MpJobsch: INFO: 0346: XXXX をキーとするIPC資源を作成しました
[UNIX]MpJobsch: INFO: 0346: XXXX The IPC resource which corresponded to this key was made.

【メッセージの意味】

XXXXをキーとするプロセス間通信用資源を作成しました。

【パラメタの意味】

XXXX: キー

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0347: IPC資源用ファイルのオープンに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0347: The jobscheduler failed to open the file for IPC resource.

【メッセージの意味】

プロセス間通信用資源の作成用のキーを求める際に使用するファイルのオープンに失敗しました。

【システムの処理】

デーモンの起動処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0348: セキュリティ解除に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0348: The daemon failed in the security release.

【メッセージの意味】

swadminグループに含まれるユーザ以外は、ジョブスケジューラのコマンドやデマンドジョブの起動ができないように制限する設定を止めたにもかかわらず、各種ファイルの属性変更に失敗したため、セキュリティ強化の解除に失敗しました。

【システム管理者の処置】

ジョブスケジューラのデータベースディレクトリ配下のファイルのアクセス権等を見直した後に、ジョブスケジューラデーモンを再起動してください。

【利用者の処置】

ジョブスケジューラのデータベースディレクトリが存在し、かつデータベースディレクトリおよび配下のファイル、サブディレクトリの属性の変更が可能なことを確認してください。その後、ジョブスケジューラデーモンを再起動してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0366: パラメタ情報ファイルの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0366: The jobscheduler failed to read parameter information file.

【メッセージの意味】

ジョブのパラメタ情報ファイルの読み込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブのパラメタ情報ファイルを、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。

【システムの処理】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0374: XXXX ファイルのアクセスに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0374: XXXX Access denied.

【メッセージの意味】

ファイルのアクセスに失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJobsch: INFO: 0381: XXXX() YYYY

【メッセージの意味】

システム関数が通常と異なる復帰値を返しました。

- XXXX以降が"iconv() Illegal byte sequence" または"iconv() Invalid Argument"の場合

  ジョブ出力情報の状態が以下のいずれかだったため、コード変換処理に失敗しました。

  - 半角カナ文字を出力している
  - EUCコードからSJISコードへ変換できない文字を出力している
  - バイナリコードを出力している
  - 1行に996バイト以上出力している

【パラメタの意味】

XXXX: システム関数名

YYYY: メッセージ

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

- XXXX以降が“iconv() Illegal byte sequence” または“iconv() Invalid Argument”の場合

  ジョブ出力情報を、以下の状態に該当しないように見直してください。

  ー 半角カナ文字を出力している

  ー EUCコードからSJISコードへ変換できない文字を出力している

  ー バイナリコードを出力している

  ー 1行に996バイト以上出力している

  やむをえず出力結果を参照する場合は、以下のファイルを参照してください。ファイルの最初の文字列から半角スペースまで(最大4バイト)以降に、ジョブの出力結果が出力されます。

  ー ジョブスケジューラのデータベースディレクトリ/プロジェクト名_ジョブネット名_nn.log

  “プロジェクト名_ジョブネット名_nn.log”の“nn”は、任意の数字

  ジョブスケジューラのデータベースディレクトリは以下です。

  【Windows版】

  インストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjobsch¥jobdb

  または、インストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjobsch¥jobdb*n*

  “jobdb*n*”の“*n*”は、サブシステム1～9までの各サブシステム番号に対応します。

  【UNIX版】

  Solaris版:/var/opt/FJSVJOBSC

  または、/var/opt/FJSVJOBSC/JOBDB*n*

  HP-UX版:/opt/FHPJOBSCH/db

  または、/opt/FHPJOBSCH/db/JOBDB*n*

  AIX版:/usr/FAIXJOBSC/db

  または、/usr/FAIXJOBSC/db/JOBDB*n*

  Linux版:/var/opt/FJSVJOBSC

  または、/var/opt/FJSVJOBSC/JOBDB*n*

  “JOBDB*n*”の“*n*”は、サブシステム1～9までの各サブシステム番号

  本メッセージが出力された場合は、システムを再起動してください

上記に該当しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0412: XXXX() YYYY

【メッセージの意味】

- XXXX以降が“msgrcv() Invalid argument”、または“msgrcv() Identifier removed”の場合

  ipcrmコマンドまたは何らかのアプリケーションにより、メッセージキューが削除されました。

- XXXX以降が“msgget() No space left on device”の場合

  システムのカーネルパラメタ(msgsys:msginfo_msginfo_msgmni)を大量に使用しているアプリケーションが存在します。

- XXXX以降が“getpwnam() No such file or directory”の場合

  ネットワークジョブで、ジョブの実行ユーザが依頼元サーバに登録されていません。

- XXXX以降が“read() Resource temporarily unavailable”の場合

  サーバのリソース不足、または処理が集中しています。

- XXXX以降が“msgsnd() Invalid argument ”の場合

  ジョブスケジューラデーモンが終了した後に、ジョブネットが終了しました。

- XXXX以降が“read() No such file or directory”の場合

  クライアントとサーバ間の通信が切断されました。

上記以外の場合は、システム関数でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: システム関数名

YYYY: メッセージ

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

- XXXX以降が“msgrcv() Invalid argument”、または“msgrcv() Identifier removed”の場合

  ipcrmコマンドまたは、アプリケーションからメッセージキューを削除しないようにしてください。

  本メッセージが出力された場合は、システムを再起動してください。

- XXXX以降が“msgget() No space left on device”の場合

  システムのカーネルパラメタ(msgsys:msginfo_msginfo_msgmni)の現在の値に、以下の値を追加して拡張してください。

  ― 4×利用サブシステム数(ただし、SE版の場合は、利用サブシステム数を1とする。)

- XXXX以降が“getpwnam() No such file or directory”の場合

  ネットワークジョブの実行ユーザを、ジョブの依頼元サーバにも登録してください。

- XXXX以降が“read() Resource temporarily unavailable”の場合

  リソース不足の原因を取り除いてください。

- XXXX以降が“msgsnd() Invalid argument ”の場合

  実行中のジョブネットに対して強制終了をした後に、ジョブスケジューラデーモンを停止してください。

  ネットワークジョブ/分散実行ジョブの実行権限については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”の“ジョブ実行時の権限について”を参照してください。

- XXXX以降が“read() No such file or directory”の場合

  クライアントを再度接続してください。

上記に該当しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0416: プロジェクトが存在しません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0416: The project is not found.

【メッセージの意味】

処理の対象となるプロジェクトが存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

プロジェクト名を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0417: メッセージ事象名がありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0417: The message event name is not found.

【メッセージの意味】

jobschmsgeventコマンドのメッセージ事象名がありません

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0422: ジョブの標準出力／標準エラー出力のコード変換に失敗しました。ジョブの出力情報ファイルにコード変換不可能な文字が含まれています
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0422: Failed to convert the standard output or the standard error code for the job. The job result file contains illegal characters.

【メッセージの意味】

ジョブの標準出力／標準エラー出力のコード変換に失敗しました。ジョブの出力情報ファイルにコード変換不可能な文字が含まれています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブの標準出力／標準エラー出力にバイナリコードなどの不当な文字を含まないように設定してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0423: メッセージキューの不足が発生しました。ジョブの実行性能が劣化する可能性があります。導入手引書の記述にしたがって、メッセージキューを拡張してください
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0423: There are not enough message queue resources. This may degrade performance in job processing. Refer to the manual and increase the size of message queue resources.

【メッセージの意味】

メッセージキューの不足が発生しました。ジョブの実行性能が劣化する可能性があります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

メッセージキューを拡張してください。拡張方法については“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”の“メッセージキューの拡張”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0424: Systemwalker ACL Manager(API)でエラーが検出されました (code = XXXX, YYYY)
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0424: An error has been detected in Systemwalker ACL Manager (API). (code = XXXX, YYYY)

【メッセージの意味】

- XXXX = 3,YYYY = 0 の場合

  接続エラーが発生しました。

- XXXX = 8, YYYY = 11 の場合

  セマフォの獲得に失敗しました。

- XXXX = 16, YYYY = 0 の場合

  コード変換に失敗しました。

上記以外の場合は、ACLマネージャの処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーコード

YYYY: 詳細コード

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

- XXXX = 3,YYYY = 0 の場合

  Operation Managerサーバで以下のプロセスが起動していることを確認します。プロセスが起動中でも本現象が発生する場合は、swcolinf 保守情報収集コマンド(サーバ用)で、保守情報を採取し、富士通技術員へ連絡してください。

  ー /usr/lib/MpFwsec

- XXXX = 8, YYYY = 11 の場合

  システムパラメタのセマフォに関連する設定値が、運用環境に適した設定となっていることを確認してください。

  システムパラメタのチューニングについては、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

- XXXX = 16, YYYY = 0 の場合

  必須ソフトウェアSUNWjfpuがインストールされていることを確認してください。Systemwalker Operation Managerの必須ソフトウェアについては、“ソフトウェア説明書”を参照してください。

上記以外の場合は、swcolinf 保守情報収集コマンド(サーバ用)で、保守情報を採取し、富士通技術員へ連絡してください。swcolinfコマンドの使用方法については“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0426: 監査ログライブラリのロードに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0426: Failed to load the audit log library.

【メッセージの意味】

監査ログを出力するためのライブラリのロードで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

以下のファイルが存在しているか確認してください。存在している場合、ファイルが壊れている可能性があります。Systemwalker Operation Managerを再インストールまたは富士通技術員に連絡してください。

【Solaris版/AIX版/Linux版】

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito.so

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito_nt.so

【HP-UX版】

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito.sl

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito_nt.sl

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0427: 監査ログファイルの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0427: Failed to read the audit log file.

【メッセージの意味】

監査ログの出力先ファイルのオープンで問題が発生したため、監査ログを出力できません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

- 空き容量が不足していないか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリが存在しているか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリのパーミッション/権限を確認してください。利用者制限の定義を利用していない場合、一般ユーザ/Everyoneから書き込める権利が必要です。
- 監査ログの出力先ファイルが壊れている可能性があります。壊れている監査ログの出力先ファイルを退避後、削除してください。
- 監査ログ出力先のハードディスクに障害が発生している場合は、ハードディスクの交換、および復旧が必要な場合があります。

監査ログの出力先ファイルおよびディレクトリは、mpsetlogsend_omgrコマンドで指定できます。mpsetlogsend_omgrコマンドの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0433: XXXX ジョブ定義変数情報の読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0433: XXXX Failed to read job definition variable information.

【メッセージの意味】

ジョブ定義変数情報のopen、lockf、readのいずれかで失敗したため、読み込めませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

ジョブ定義変数情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0434: XXXX ジョブ定義変数情報の書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0434: XXXX Failed to write job definition variable information.

【メッセージの意味】

ジョブ定義変数情報のopen、lockf、read、writeのいずれかで失敗したため、書き込めませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

ジョブ定義変数情報をデータベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0437: XXXX パラメタ情報の読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0437: XXXX Failed to read parameter information.

【メッセージの意味】

ジョブのパラメタ情報の読み込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

ジョブのパラメタ情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、"Systemwalker Operation Manager 使用手引書"の "スケジュール情報ファイルの復元について"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0439: XXXX 可変パラメタ情報の書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0439: XXXX Failed to write variable parameter information.

【メッセージの意味】

可変パラメタ情報の書き込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

可変パラメタ情報のファイルにアクセス可能か(rootユーザに書き込み権があるかなど)を確認してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1024: POP3サーバと通信しました

【メッセージの意味】

POP3サーバとの通信に成功しました。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1053: Systemwalker MpJobschサービスが終了しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービスが終了しました。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1198: ジョブスケジューラ(クライアント部)との通信に失敗しました

【メッセージの意味】

クライアントが強制的に終了されたなどの理由で、通信管理プロセス(tskwnsrv)とPC間の通信が失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの直前に出力されたメッセージのレベルが情報であった場合は、処置の必要はありません。当メッセージの直前に出力されたメッセージのレベルがエラーであった場合は、そのメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1221: ログ情報のファイルサイズが上限値を超えました

【メッセージの意味】

ログ情報のサイズが、ジョブスケジューラサービスの起動パラメタで指定された値を超えたため、ログ情報ファイルが切り替えられました。

【システムの処理】

ログ情報切り替え出口ルーチン(jobdbexit.exe)を実行します。

【利用者の処置】

対処は特に必要ありません。切り替えられる以前のログ情報を参照したい場合は、エディタで切り替え前のログ情報ファイルを参照してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1300: Systemwalker MpJobschサービスが開始しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービスが起動処理を開始しました。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1301: Systemwalker MpJobschサービスが終了しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービスが終了しました。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1307: Systemwalker MpJobschサービスが終了処理を開始しました

【メッセージの意味】

終了処理ジョブネット(JSHENDまたはJSHFORCE)が開始したため、ジョブスケジューラサービスは終了処理を開始しました。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1308: Systemwalker MpJobschサービスの起動が完了しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービスが起動処理を完了しました。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1310: イベントログを再読み込みします

【メッセージの意味】

イベントログ情報の読み込み処理を再度行います。

[Windows]MpJobsch: 情報: 2168: 監視許可ホスト定義ファイル中のホスト名(XXXX)の指定に誤りがあります

【メッセージの意味】

監視許可ホスト定義ファイル中に空白またはタブ文字を含むホスト名が指定されています。

【パラメタの意味】

XXXX: 誤ったホスト名

【システム管理者の処置】

監視許可ホスト定義ファイルを、[監視許可ホストの定義]ウィンドウから修正してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 2287: XXXX YYYY は起動しませんでした

【メッセージの意味】

XXXX YYYYのジョブネットが起動しませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: ジョブネット名

[Windows]MpJobsch: 情報: 2301: XXXX メッセージ事象が発生しました

【メッセージの意味】

jobschmsgeventコマンドによりXXXXメッセージ事象が発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: メッセージ事象名

[Windows]MpJobsch: 情報: 2381: func=XXXX:YYYY() CCCC:ZZZZ

【メッセージの意味】

システム関数が通常と異なる復帰値を返しました。

【パラメタの意味】

XXXX: 呼出し元関数名

YYYY: 関数名

CCCC: 復帰値

ZZZZ: システムのメッセージ

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 2386: func=XXXX:YYYY()ソケット関数の復帰値です(コード=ZZZZ)

【メッセージの意味】

ソケット関数が通常とは異なる復帰値を返しました。

【パラメタの意味】

XXXX: 呼出し元関数名

YYYY: ソケット関数名

ZZZZ: コード

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの直後に出力されたメッセージを見て、運用に影響のないことを確認してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3136: 監視許可ホスト定義ファイル中のホスト名が長すぎます

【メッセージの意味】

監視許可ホスト定義ファイル中に長さが64バイトを超えたホスト名が指定されています。

【システムの処理】

長さが64バイトを超えたホスト名を無視します。

【システム管理者の処置】

監視許可ホスト定義ファイルを、[監視許可ホストの定義]ウィンドウから修正してください。修正後、ジョブスケジューラサービスを再起動してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3168: 監視許可ホスト定義ファイル中のホスト名の指定に誤りがあります

【メッセージの意味】

監視許可ホスト定義ファイル中に空白またはタブ文字を含むホスト名が指定されています。

【システムの処理】

空白またはタブ文字を含むホスト名を無視します。

【システム管理者の処置】

監視許可ホスト定義ファイルを、[監視許可ホストの定義]ウィンドウから修正してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3194: POP3サーバとの通信に失敗しました

【メッセージの意味】

POP3サーバとの通信処理に失敗しました。E-Mail連携が行えません。

【システムの処理】

E-Mail連携機能が利用できませんが、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

環境定義の起動パラメタ情報で定義したPOP3サーバが動作していることを確認してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3300: 監視対象イベントログの設定に誤りがあります

【メッセージの意味】

イベントログを監視するにもかかわらず、監視対象とするイベントログの種別が指定されていません。

【システムの処理】

すべてのイベントログの種別を監視するものとして処理します。

【システム管理者の処置】

jobschsetparmコマンドでイベントログの設定を見直してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3304: ジョブネット数が上限を超えました

【メッセージの意味】

1プロジェクトあたりの登録ジョブネット数が上限(255)を超えています。これ以上のジョブネットの追加は推奨できません。

【利用者の処置】

1プロジェクト内に上限(255)を超えたジョブネットを登録したい場合は、Systemwalker Operation Manager EEを使用してください。上限を超えたプロジェクトに不要なジョブネットがある場合は、そのジョブネットを削除し、上限を超えないようにしてください。削除するジョブネットがない場合は、上限を超えたプロジェクトとは別のプロジェクトにジョブネットを追加してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3305: ジョブネット数が警告登録数を超えました

【メッセージの意味】

1プロジェクトあたりの登録ジョブネット数が設定値を超えています。

【利用者の処置】

Systemwalker Operation Manager環境設定クライアントで設定したプロジェクトあたりのジョブネット上限数に達しました。不要なジョブネットがある場合は、そのジョブネットを削除し、上限を超えないようにしてください。削除するジョブネットがない場合は、上限を超えたプロジェクトとは別のプロジェクトにジョブネットを追加するか、Systemwalker Operation Manager環境設定クライアントでの指定値の見直しを実施してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3306: 仮想時間の設定に失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラサービスは指定された仮想時間で起動することができませんでした。

【システムの処理】

仮想時間が指定されていないものと扱い、ジョブスケジューラサービスは現実の時間で動作します。

【利用者の処置】

3307番のエラーメッセージに続いて本メッセージが出力された場合は、Systemwalker Operation Manager環境設定クライアントで設定した仮想時間が、現実の時間より過去になっています。仮想時間は未来の時間しか指定できないので、仮想時間を再設定後、ジョブスケジューラサービスを再起動してください。

3307番のメッセージが出力されていない場合は、ジョブスケジューラサービスの起動パラメタファイルへのアクセスに失敗しています。ジョブスケジューラのデータベースディレクトリ配下のファイルのアクセス権等を見直した後に、ジョブスケジューラサービスを再起動してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3307: 仮想時間に過去の日時が設定されています

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラサービスは指定された仮想時間で起動することができませんでした。

【システムの処理】

仮想時間が指定されていないものと扱い、ジョブスケジューラサービスは現実の時間で動作します。

【利用者の処置】

Systemwalker Operation Manager環境設定クライアントで設定した仮想時間が、現実の時間より過去になっています。仮想時間は未来の時間しか指定できないので、仮想時間を再設定後、ジョブスケジューラサービスを再起動してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3308: セキュリティ解除に失敗しました

【メッセージの意味】

[swadminグループに含まれるユーザだけが、デマンドジョブの起動、ジョブ実行制御属性のジョブネット起動、およびジョブスケジューラのコマンド機能が利用できるように制限する]の指定を行っていない場合に、ジョブスケジューラのデータベースディレクトリ配下のファイルのアクセス権変更に失敗しました。

【利用者の処置】

ジョブスケジューラのデータベースディレクトリが存在し、かつデータベースディレクトリおよび配下のファイル、サブディレクトリの属性の変更が可能なことを確認してください。

【システム管理者の処置】

ジョブスケジューラのデータベース配下のファイルのアクセス権等の見直しを行ってください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3426: 監査ログライブラリのロードに失敗しました

【メッセージの意味】

監査ログを出力するためのライブラリのロードで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

以下のファイルが存在しているか確認してください。存在している場合、ファイルが壊れている可能性があります。Systemwalker Operation Managerを再インストールまたは富士通技術員に連絡してください。

Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥bin¥mpaudito.dll

[Windows]MpJobsch: 警告: 3427: 監査ログファイルの読み込みに失敗しました【

メッセージの意味】

監査ログの出力先ファイルのオープンで問題が発生したため、監査ログを出力できません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

- 空き容量が不足していないか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリが存在しているか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリのパーミッション/権限を確認してください。利用者制限の定義を利用していない場合、一般ユーザ/Everyoneから書き込める権利が必要です。
- 監査ログの出力先ファイルが壊れている可能性があります。壊れている監査ログの出力先ファイルを退避後、削除してください。
- 監査ログ出力先のハードディスクに障害が発生している場合は、ハードディスクの交換、および復旧が必要な場合があります。

監査ログの出力先ファイルおよびディレクトリは、mpsetlogsend_omgrコマンドで指定できます。mpsetlogsend_omgrコマンドの詳細については、"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 4033: XXXX ポリシー情報の設定に失敗しました

【メッセージの意味】

配付されたポリシー情報の設定に失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ポリシー情報ファイル

【システムの処理】

設定できなかった情報を無視して、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

設定されなかったポリシー情報を確認してください。ポリシー情報を設定しなおす場合は、ジョブスケジューラサービスを再起動してください。acldata.batの場合は、抽出元サーバと配付先サーバでユーザアカウント情報が異なっているのが原因です。以下のいずれかの処置を行ってください。

- 配付先サーバに抽出元サーバと同じユーザアカウントを登録してください。
- acldata.batファイル内のセキュリティコマンド(mpsetacl, mpchown)のオペランドを存在するユーザアカウントに変更してください。
- acldata.batファイルを削除し、[所有者の変更]ウィンドウおよび[アクセス権情報]ウィンドウで、セキュリティ情報を設定しなおしてください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 4284: XXXX 監視許可ホストの情報取得に失敗しました

【メッセージの意味】

監視許可ホスト定義ファイルに記述されているホストXXXXの情報取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ホスト名

【システムの処理】

失敗したホストとの通信をしません。

【システム管理者の処置】

[監視許可ホストの定義]ウィンドウを確認し、登録されているホストが名前解決によって、IPアドレスが取得できるよう設定してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 4286: XXXX トレース機能が使用できません

【メッセージの意味】

XXXXのトレース機能で異常が発生したため、トレース機能を停止します。

【パラメタの意味】

XXXX: 実行プログラム名(例:tskussrv)

【システムの処理】

これ以降XXXXのトレース情報の出力を停止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 4305: XXXX YYYYは起動予定時刻を過ぎても起動されませんでした

【メッセージの意味】

起動条件としているメッセージ事象が発生していないか、先行ジョブネットが正常終了していないため、起動予定時刻にジョブネットが起動されませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: ジョブネット名

【システムの処理】

起動予定時刻にジョブネットが起動されません。

【システム管理者の処置】

起動条件を満たさない原因であるメッセージ事象を発生させるか、先行ジョブネットを起動し正常終了させてください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 4306: XXXX YYYYは終了予定時刻までに終了していません

【メッセージの意味】

終了予定時刻までにジョブネットが終了しませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: ジョブネット名

【利用者の処置】

ジョブネットが起動していないにもかかわらず、本メッセージが出力される場合があります。その場合、日変わり時刻の変更により、起動予定時刻と終了予定時刻が逆転したことが原因です。以下を満たすように終了予定時刻を再設定してください。

日変わり時刻≦起動時刻＜終了予定時刻

[Windows]MpJobsch: 警告: 5224: XXXX YYYY は未終了のためスケジュールは終了後に行われます

【メッセージの意味】

プロジェクトXXXXのグループYYYYは未終了のため、スケジュールは終了後に行われます。

グループは1日1回の起動で、グループ内ジョブネットの起動日により、その日のスケジュールを決定します。日変わり時刻時点でグループが正常終了していない場合、グループは次のスケジュールをせず、グループが正常終了した時点で次のスケジュールの実施を通知します。

グループが以下の状態の場合、日変わり時刻が到来しても、スケジュールが持ち越されるので注意してください。

- 未起動の場合
- 確認操作が有効で、実行状態が異常終了/強制終了/実行中断の場合

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: グループ名

【利用者の処置】

グループが実行中の場合、グループの終了を待ってください。グループが実行待ちの場合、先頭ジョブネットが待ち合わせているメッセージ事象が未発生の可能性があります。メッセージが未発生の原因を確認してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 5432: XXXX YYYY 可変パラメタは無視されました

【メッセージの意味】

jobschmsgeventコマンドに指定された可変パラメタは、受信先のジョブネットで無視されました。メッセージ事象そのものは正常に受信されています。

以下の原因が考えられます。

- 受信先のジョブネットが、ジョブ実行制御属性以外のジョブネットです。可変パラメタを受信できるのは、ジョブ実行制御属性のジョブネットのみです。
- 受信先のジョブネットが、以下のどちらでもありません。
  - 単一のメッセージ事象を待ち合わせているジョブネット
  - 複数のメッセージ事象のうちいずれかのメッセージ事象を待ち合わせるジョブネット

  可変パラメタを受信できるのは、単一のメッセージ事象を待ち合わせるジョブネット、または複数のメッセージ事象のうちいずれかのメッセージ事象を待ち合わせるジョブネットとなります。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: 受信先のジョブネット名

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、可変パラメタは無効となります。

【対処方法】

- 受信先のジョブネットはジョブ実行制御属性のジョブネットにしてください。

- 受信先のジョブネットは、単一のメッセージ事象を待ち合わせるジョブネット、または複数のメッセージ事象のうちいずれかのメッセージ事象を待ち合わせるジョブネットにしてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6001: ジョブネット異常終了出口ルーチンの起動に失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブネット異常終了出口ルーチン(jobschexit.bat/jobschexit.exe)のCreateProcessに失敗しました。

【システムの処理】

ジョブネット異常終了出口ルーチン(jobschexit.bat/jobschexit.exe)は起動しません。

【システム管理者の処置】

ジョブネットが異常終了および強制終了した場合はジョブネット異常終了出口ルーチン(jobschexit.bat/jobschexit.exe)の存在および実行権を見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6005: ユーザの登録処理に失敗しました

【メッセージの意味】

以下のどちらかの現象が発生しました。

- ジョブスケジューラのスケジュール情報のディレクトリのアクセスに失敗した。
- ジョブスケジューラに登録可能なユーザ数の上限値(256)を超えた。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6006: ジョブネットの情報の読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

スケジュール情報のopen、lockf、またはreadのどれかで失敗したため、読み込めませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6007: ジョブネットの情報の書き込みに失敗しました

【メッセージの意味】

スケジュール情報またはジョブネット履歴情報(net.spool)が書き込めませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6008: 現在時刻の取得に失敗しました

【メッセージの意味】

timeシステムコールでエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6009: 共有メモリの生成に失敗しました

【メッセージの意味】

共有メモリの生成処理でエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

リソース不足が発生していないか確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6014: Systemwalker MpJobschサービスが起動されていません

【メッセージの意味】

以下の現象が発生しています。

- リモートデスクトップ(ターミナルサービスのクライアント)からジョブスケジューラのコマンドを実行している。
- ジョブスケジューラサービスの起動パラメタにデータベースディレクトリが指定されていない。
- ジョブスケジューラサービスが起動されていない。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リモートデスクトップ(ターミナルサービスのクライアント)からは、ジョブスケジューラのコマンドは利用できないため、サーバ上のコマンドプロンプトからコマンドを実行してください。

【システム管理者の処置】

データベースディレクトリの指定が誤っている場合は、正しい値を設定してください。ジョブスケジューラのサービスが起動されていない場合は、起動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6016: データベースディレクトリ(DBPATH)が見つかりません

【メッセージの意味】

以下のどれかの現象が発生しました。

- ジョブスケジューラサービスの起動パラメタにデータベースディレクトリが指定されていない。
- ジョブスケジューラサービスの起動パラメタで指定されたディレクトリの読み込みに失敗した。
- ジョブスケジューラサービスの起動パラメタで指定されたディレクトリへのchdirに失敗した。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブスケジューラサービスの起動パラメタにデータベースディレクトリが指定されていない場合は指定を行ってください。そうでない場合は、ジョブスケジューラサービスの起動パラメタで指定されたディレクトリの存在を確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6017: 共有メモリの獲得に失敗しました

【メッセージの意味】

共有メモリ獲得処理でエラーが発生しました。

リモートデスクトップ(ターミナルサービスのクライアント)からジョブスケジューラのコマンドを実行している可能性があります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リモートデスクトップ(ターミナルサービスのクライアント)からは、ジョブスケジューラのコマンドは利用できないため、サーバ上のコマンドプロンプトからコマンドを実行してください。

【システム管理者の処置】

リモートデスクトップ(ターミナルサービスのクライアント)からジョブスケジューラのコマンドを実行した、または

リソース不足が発生していないかを確認してください。原因が判明しない場合は、保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6019: ジョブネット名が見つかりません

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタで指定されたジョブネットがジョブネット情報に登録されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタを見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6023: tskmmsrvの引数に誤りがあります

【メッセージの意味】

メッセージ起動管理プロセス(tskmmsrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6025: メッセージ事象の情報の読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

メッセージ情報のopen、lockf、またはreadのどれかで失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6026: ライブラリの読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

LoadLibraryに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6027: 日変わり時刻の取得に失敗しました。Systemwalker MpJmCalサービスが正しく起動されているか確認して下さい

【メッセージの意味】

カレンダ機能からの日変わり時刻情報の取得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

Systemwalker MpJmCalサービスが正しく起動されているか確認してください。また、Operation Managerクライアントで、カレンダ機能が使用可能か、日変わり時刻が正しく設定されているか確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6029: プロジェクト数が上限(1000)を超えました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラに登録できるプロジェクト数の上限値(1000)を超えました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

不必要なプロジェクトを削除してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6030: 共有メモリ中のプロジェクト情報が失われています

【メッセージの意味】

プロジェクトの情報がジョブスケジューラの管理している共有メモリ上に存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

プロジェクトの登録数が1000を超えて登録されていないか確認してください。1000を超えている場合は、サブシステム化等により1000以内に構成を変更してください。また、該当のプロジェクトが削除されていないか確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6031: ジョブの情報が失われています

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラの管理しているジョブの情報が不当です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

該当ジョブが削除されていないか確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6033: ポリシー情報の設定に失敗しました

【メッセージの意味】

配付されたポリシー情報の設定に失敗しました。

【システムの処理】

サービスの起動処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ポリシー情報の配付をやり直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6034: プロジェクトの情報の読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

プロジェクトの情報(プロジェクト名.jspファイル)の読み込み処理でエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6037: ジョブネット出力情報の書き込みに失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブの標準出力／標準エラー出力の管理処理でエラーが発生したため、ジョブの標準出力／標準エラー出力を取得することができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6039: Systemwalker MpJobschサービスの起動に失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービス起動時のCreateProcessに失敗しました。システムの負荷が高いことが考えられます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

システムの負荷が低くなった後、ジョブスケジューラサービス(Systemwalker MpJobschサービス)を起動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6040: 起動パラメータの読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラサービスの起動パラメタ情報の読み込みに失敗しました。起動パラメタ定義ファイル(jobschev.txt)が破壊されている可能性があります。

【システムの処理】

サービスの起動処理を中止します。

【システム管理者の処置】

起動パラメタ定義ファイルを以下の手順で復旧してください。

1. 起動パラメタ定義ファイル(Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpjobsch¥etc¥jobschev.txt)を削除します。

2. [ジョブスケジューラ起動パラメタの定義]ウィンドウで起動パラメタの再設定を行います。

   このとき「起動パラメタ定義ファイルが存在しないため、新規作成します。」のポップアップが表示されますが、[OK]ボタンをクリックし、起動パラメタを設定してください。

復旧後、ジョブスケジューラサービス(Systemwalker MpJobschサービス)を起動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6046: ログ情報の書き込みに失敗しました

【メッセージの意味】

ログ情報のopen、lockf、write、または時刻取得のためのtimeのどれかで失敗したため、ジョブネット／ジョブの開始／終了メッセージを書き込めませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6051: 起動日雛形情報の入っているファイルがオープンできません

【メッセージの意味】

起動日雛形情報(db_calendar_ex.default)のopen、lockf、またはreadのどれかで失敗したため、読み込めませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6055: 二重起動チェック用ファイルの削除に失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービス起動時のjobschlockディレクトリのアクセス中にエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

jobschlockディレクトリ配下のファイルがアクセス可能か(読み込み専用となっていないかなど)を確認してください。

【Windows版】

インストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjobsch¥jobdb¥jobschlock

または、インストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjobsch¥jobdb*n*¥jobschlock

“jobdb*n*”の“*n*”は、サブシステム1～9までの各サブシステム番号に対応します。

【UNIX版】

Solaris版:/var/opt/FJSVJOBSC/jobschlock

または、/var/opt/FJSVJOBSC/JOBDB*n*/jobschlock

HP-UX版:/opt/FHPJOBSCH/db/jobschlock

または、/opt/FHPJOBSCH/db/JOBDB*n*/jobschlock

AIX版:/usr/FAIXJOBSC/db/jobschlock

または、/usr/FAIXJOBSC/db/JOBDB*n*/jobschlock

Linux版:/var/opt/FJSVJOBSC/jobschlock

または、/var/opt/FJSVJOBSC/JOBDB*n*/jobschlock

“JOBDB*n*”の“*n*”は、サブシステム1～9までの各サブシステム番号に対応します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6060: 起動日雛形情報の読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

起動日雛形情報(db_calendar_ex.default)のopen、またはreadのどちらかで失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

起動日雛形情報(db_calendar_ex.default)を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“ファイルシステムの容量が足りない場合”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6063: Systemwalker MpJobschサービスが既に起動されています

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービスが既に起動されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブスケジューラのサービスが二重起動されないように起動処理を見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6090: カレンダ情報が失われています

【メッセージの意味】

カレンダ情報がありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

データベースディレクトリのsysfile.sys(日変わり･休日情報データベース)が削除されているか、ジョブネットが引用している休日カレンダが存在しません。

sysfile.sysが削除されている場合、ジョブスケジューラサービス(Systemwalker MpJobschサービス)を再起動してください。sysfile.sysは、ジョブスケジューラサービス起動時に再作成されます。

引用している休日カレンダが存在しない場合は、引用するカレンダと同名の休日カレンダを作成するか、引用するカレンダを正しく設定してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6093: カレンダ情報の更新に失敗しました

【メッセージの意味】

カレンダ情報の更新に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

データベースディレクトリ配下のsysfile.sys(日変わり･休日情報データベース)がアクセス可能か(読み込み専用になっていないかなど)を確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6097: Systemwalker MpJobschサービスを再起動させて下さい

【メッセージの意味】

致命的なエラーのため、ジョブスケジューラのコマンドの処理を中断します。ジョブスケジューラのサービスが起動されていないことが考えられます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブスケジューラのサービスを起動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6098: ログ情報が存在しません

【メッセージの意味】

ログ情報が存在しません。ログ情報が切り換えられた直後、またはジョブネットが起動されていないと考えられます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

切り換えられる以前のログ情報を参照したい場合は、エディタで以前のログファイルを参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6100: カレンダ情報の読み込みまたは変更に失敗しました

【メッセージの意味】

カレンダ情報の読み込みまたは変更に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下のいずれかに該当しないかを確認してください。

- Systemwalker MpJmCalサービスが起動していない。
- 指定したカレンダ名が誤っている。
- ジョブスケジューラ、または、サービス・アプリケーション起動の定義情報から引用されているカレンダを削除しようとした。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6103: 指定されたジョブネットが存在しません

【メッセージの意味】

処理の対象となるジョブネットが存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネット名を見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6104: 指定されたジョブネット名に誤りがあります

【メッセージの意味】

処理の対象となるジョブネットの名前が不当です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネット名を見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6120: 監視ホスト定義ファイル中のホスト名が長すぎます

【メッセージの意味】

監視ホスト定義ファイル中に長さが64バイトを超えたホスト名が指定されています。

【システムの処理】

長さが64バイトを超えたホスト名を無視します。

【システム管理者の処置】

監視ホスト定義ファイルを、[監視ホストの定義]ウィンドウから修正してください。なお、omgrmonitorコマンドで修正することもできます。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6129: 監視ホスト定義ファイルの読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

監視ホスト定義ファイル中に不当なホスト名が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

監視ホスト定義ファイルを、[監視ホストの定義]ウィンドウから修正してください。なお、omgrmonitorコマンドで修正することもできます。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6130: 自ホスト名の取得ができません

【メッセージの意味】

自ホストのホスト名が不当です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

OSとして、自ホストのホスト名を設定してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6131: 自ホストのIPアドレスの取得ができません

【メッセージの意味】

gethostbynameシステムコールでエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

該当サーバでのネットワークの設定を確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6133: 被監視ホストとの通信に失敗しました

【メッセージの意味】

被監視ホスト上のジョブスケジューラのサービスとの通信に異常が発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

監視ホストと被監視ホストのネットワーク上に問題がないか確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6134: 通信の制御ができません

【メッセージの意味】

selectシステムコールでエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ネットワーク上の問題がないか確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6137: 監視ホストが一つもありません

【メッセージの意味】

監視ホスト定義ファイル中にホスト名が一つも指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

監視ホスト定義ファイルを、[監視ホストの定義]ウィンドウから修正してください。なお、omgrmonitorコマンドで修正することもできます。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6140: 監視ホストの情報が失われています

【メッセージの意味】

内部で保持しているホスト情報が不当です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6145: 監視ホストとの通信に失敗しました

【メッセージの意味】

監視ホストと被監視ホスト間の通信に、異常が発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

監視ホストの定義(ホスト名、IPアドレス)が正しく設定されているか確認してください。また、監視ホストと被監視ホスト間のネットワークに問題がないかを確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6147: 監視ホストとの通信のためのポート番号(tcp)の取得に失敗しました

【メッセージの意味】

監視ホストとの通信に用いるサービス名jobsch_tcpの取得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

システムルート¥etc¥servicesファイルにサービス名jobsch_tcp(デフォルト値9240/tcp)を指定してください。ホストがネームサービスを利用している場合は、その設定をしてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6148: ジョブネット情報が一つもありません

【メッセージの意味】

0バイトのスケジュール情報が存在します。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、"Systemwalker Operation Manager 使用手引書"の、"スケジュール情報ファイルの復元について"を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6149: サービスプロセス間の通信に失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービス内部でのジョブネット情報の通信に異常が発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6151: ジョブネット出力情報の読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブネット出力情報の読み込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6160: IPアドレスの取得に失敗しました

【メッセージの意味】

gethostbynameシステムコールでエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

監視ホスト定義ファイルと監視許可ホスト定義ファイルにおいて設定されているホスト名のIPアドレスが、システムルート¥etc¥hostsに設定されているか確認してください。ホスト名のIPアドレスは、以下のウィンドウから確認できます。

監視ホスト定義ファイル: [監視ホストの定義]ウィンドウ

監視許可ホスト定義ファイル: [監視許可ホストの定義]ウィンドウ

[Windows]MpJobsch: エラー: 6161: 監視許可ホスト定義ファイルの読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

監視許可ホスト定義ファイル(データベースディレクトリ¥msm.db¥access_hosts)のオープンに失敗したため、読み込めませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

監視許可ホスト定義ファイル(データベースディレクトリ¥msm.db¥access_hosts)の存在を確認してください。

監視許可ホスト定義ファイルが存在していない場合は、環境設定クライアントより監視許可ホストを設定してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6163: ジョブ実行制御の計算機番号の取得に失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御で使用する計算機番号の取得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6164: ジョブネット情報の送信に失敗しました

【メッセージの意味】

複数システム監視プロセス(tskmssrv)へのジョブネット情報の送信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ネットワーク環境に問題がないか確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6166: tskbasrvの引数に誤りがあります

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御ジョブネット管理プロセス(tskbasrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6167: 監視ホスト定義ファイル中のホスト名の指定に誤りがあります

【メッセージの意味】

監視ホスト定義ファイル中に空白またはタブ文字を含むホスト名が指定されています。

【システムの処理】

空白またはタブ文字を含むホスト名を無視します。

【システム管理者の処置】

監視ホスト定義ファイルを、[監視ホストの定義]ウィンドウから修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6168: 監視許可ホスト定義ファイル中のホスト名の指定に誤りがあります

【メッセージの意味】

監視許可ホスト定義ファイル中に空白またはタブ文字を含むホスト名が指定されています。

【システムの処理】

空白またはタブ文字を含むホスト名を無視します。

【システム管理者の処置】

監視許可ホスト定義ファイルを、[監視許可ホストの定義]ウィンドウから修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6174: ジョブ実行制御のジョブの実行に失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御のジョブネット中のジョブの実行に失敗しました。

【システムの処理】

ジョブは実行されなく、終了コードは243になります。

【利用者の処置】

ジョブの出力情報に出力されるジョブ実行制御のエラーメッセージに対する処置を実施してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6183: 二重起動チェック用ファイルの作成に失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンドの二重起動防止のためのファイルの作成に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6184: 監視ホスト定義ファイルが見つかりません

【メッセージの意味】

監視ホスト定義ファイルがありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

監視ホスト定義ファイルを、[監視ホストの定義]ウィンドウから作成してください。なお、omgrmonitorコマンドで作成することもできます。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6193: tskmlsrvの引数に誤りがあります

【メッセージの意味】

メール連携プロセス(tskmlsrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6197: tskwnsrvの引数に誤りがあります

【メッセージの意味】

通信管理プロセス(tskwnsrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6198: ジョブスケジューラ(クライアント部)との通信に失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラデーモンと、Operation Managerクライアントとの間の通信でエラーが発生しました。通信エラーが発生した理由(TCP/IPのソケットレベルでのエラー理由)が直前に出力されるエラーメッセージで説明されています。直前に出力されるエラーメッセージの代表的なものは以下のとおりです。

「MpJobsch: ERROR: write() broken pipe」

「MpJobsch: ERROR: read() Connection reset by peer」

いずれもソケットが不当な切断を実施されたものであり、Operation Managerクライアントを正常に停止させなかったことが主な発生理由となります。

【システムの処理】

ソケットの後始末を実施し、処理を続行します。

【システム管理者の処置】

頻繁に本メッセージが出力される場合は、Operation Managerクライアントが正常に切断されない運用(例えばクライアントPCを頻繁にリセットしているなど)となっているか、ネットワークの経路上の問題が発生している可能性がありますので、見直しをお願いします。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6199: ジョブスケジューラ(クライアント部)との接続に失敗しました

【メッセージの意味】

通信管理プロセス(tskwnsrv)またはホスト一覧プロセス(tskmdsrv)とPC間の通信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

頻繁に本メッセージが出力される場合は、Operation Managerクライアントが正常に切断されない運用(クライアントPCを頻繁にリセットしているなど)となっていないか、ネットワークの経路上に問題が発生していないか確認してください。頻繁に発生しないのであれば対処は必要ありません。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6200: 自ホスト名が長すぎます

【メッセージの意味】

自ホストのホスト名の長さが64バイトを超えています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

自ホストのホスト名の長さを64バイト以内にしてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6201: PCとの通信のためのポート番号(tcp)の取得に失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラ/CLとの通信に用いるサービス名jobsch_winの取得に失敗しました。

【システムの処理】

ジョブスケジューラ/CLは使用できません

【システム管理者の処置】

システムルート¥etc¥servicesファイルにサービス名jobsch_win(デフォルト値9297/tcp)を指定してください。ホストがネームサービスを利用している場合は、その設定をしてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6202: Systemwalker MpJobschサービスを1分後に再起動させて下さい

【メッセージの意味】

前回のジョブスケジューラのサービスの終了時に接続中のPCまたは、ホスト一覧プロセス(tskmdsrv)があったため、ジョブスケジューラのサービスを起動できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

PCを終了させてから、1分後にジョブスケジューラのサービスを起動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6204: カレンダ情報にエラーレコードが見つかりました

【メッセージの意味】

カレンダ情報中に不当なレコードを検出しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブスケジューラサービスを再起動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6206: 再スケジューリングに失敗しました

【メッセージの意味】

プロセス間通信でエラーが発生したため、グループまたはジョブネットを再スケジューリングできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6208: ログ情報の読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

ログ情報がオープンできなかったため、読み込めませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ログ情報(データベースディレクトリ配下のjobdb1.log、jobdb2.log、jobdb3.log)にアクセスできない原因を確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6214: グループ情報の読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

グループ情報の読み込みに失敗しました

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6219: グループ情報の書き込みに失敗しました

【メッセージの意味】

スケジュール情報の書き込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、"Systemwalker Operation Manager 使用手引書"の、"スケジュール情報ファイルの復元について"を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6222: ログ情報切り替え出口ルーチンの起動に失敗しました

【メッセージの意味】

ログ情報切り替え出口ルーチン(jobdbexit.bat/jobdbexit.exe)のCreateProcessに失敗しました。

【システムの処理】

ログ情報切り替え出口ルーチン(jobdbexit.bat/jobdbexit.exe)は起動しません。

【システム管理者の処置】

ログ情報切り替え出口ルーチン(jobdbexit.bat/jobdbexit.exe)の存在および実行権を見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6223: グループ情報の送信に失敗しました

【メッセージの意味】

複数システム監視プロセス(tskmssrv)へのグループ情報の送信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6226: グループは保存中または制御中です

【メッセージの意味】

グループは保存中または制御中なので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから再度実行してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6249: tskmdsrvの引数に誤りがあります

【メッセージの意味】

ホスト一覧プロセス(tskmdsrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6255: tskevsrvの引数に誤りがあります

【メッセージの意味】

イベント管理プロセス(tskevsrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6257: 日変わり時刻通知出口ルーチンの起動に失敗しました

【メッセージの意味】

日変わり時刻通知出口ルーチン(timeexit.bat/timeexit.exe)のCreateProcessに失敗しました。

【システムの処理】

日変わり時刻通知出口ルーチン(timeexit.bat/timeexit.exe)は起動しません。

【システム管理者の処置】

日変わり時刻通知出口ルーチン(timeexit.bat/timeexit.exe)の存在および実行権を見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6267: 通信管理サービスとの通信のためのポート番号(tcp)の取得に失敗しました

【メッセージの意味】

通信管理プロセス(tskwnsrv)との通信に用いるサービス名jobsch_winの取得に失敗しました。

【システムの処理】

ジョブスケジューラ/CLが使用できません。

【システム管理者の処置】

システムルート¥etc¥servicesファイルにサービス名jobsch_win(デフォルト値9297/tcp)を指定してください。ホスト名がネームサービスを利用している場合は、その設定をしてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6273: Systemwalker MpJobschサービスが起動中です

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービスが起動中のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブスケジューラのサービスが起動した後、操作を行ってください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6276: LANGの設定に誤りがあります

【メッセージの意味】

環境変数LANGの値に誤りがあります。

【システムの処理】

サービスが出力した場合は、英語環境でサービスが動作します。コマンドが出力した場合は、起動しません。

【利用者の処置】

環境変数LANGの値を直した後、サービスまたはコマンドを再起動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6295: ジョブの出口ルーチンの起動に失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブ終了時の出口ルーチン(jobexit.bat/jobexit.exe)のCreateProcessに失敗しました。

【システムの処理】

ジョブ終了時の出口ルーチン(jobexit.bat/jobexit.exe)は起動しません。

【システム管理者の処置】

ジョブ終了時の出口ルーチン(jobexit.bat/jobexit.exe)の存在および実行権を見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6299: データベースが移行されていません

【メッセージの意味】

JOBDB_PATH配下のデータベースが旧版のものです。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

jobschconvertコマンドを使用して、データベースを移行してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6300: メッセージキューの作成に失敗しました

【メッセージの意味】

プロセス間通信用の資源の確保に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6301: メッセージの読み取りに失敗しました

【メッセージの意味】

プロセス間通信時のメッセージ受信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6302: メッセージキューでサーバ側メッセージの書き込みに失敗しました

【メッセージの意味】

プロセス間通信時のメッセージ送信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6304: メッセージキューのハンドル獲得に失敗しました

【メッセージの意味】

プロセス間通信用の資源の確保に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6305: メッセージキューでクライアント側メッセージの書き込みに失敗しました

【メッセージの意味】

プロセス間通信時のメッセージ送信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6307: プロセスの生成に必要なメモリが獲得できません

【メッセージの意味】

プロセスの生成に必要なメモリが獲得できませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6308: メッセージキューに必要なバッファが獲得できません

【メッセージの意味】

プロセス間通信に必要なバッファ領域用メモリが獲得できませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6311: tskelsrvの引数に誤りがあります

【メッセージの意味】

イベントログ監視プロセス(tskelsrv)の引数に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6312: メッセージ事象名がありません

【メッセージの意味】

jobschmsgeventコマンドのメッセージ事象名がありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6313: tskmmsrvの起動に失敗しました

【メッセージの意味】

メッセージ事象処理プロセスのCreateProcessに失敗しました。システムの負荷が高いことが考えられます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

システムの負荷が低くなった後、ジョブスケジューラのサービスを起動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6314: メッセージ事象対応テーブルがオープンできません

【メッセージの意味】

メッセージテーブル(データベースディレクトリ¥JOBSCHMSGEVENT.TBL)のオープンに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブスケジューラサービス(Systemwalker MpJjobschサービス)のログオンアカウントで、データベースディレクトリ配下のjobschmsgevent.tblにアクセス可能となるよう属性を変更してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6315: 起動パラメータの読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービスの起動パラメタの読み込みに失敗しました。レジストリ情報が破損しているおそれがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6320: サービス起動パラメータに誤りがあります

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービスの起動パラメタに誤りがあります。レジストリ情報が破損しているおそれがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6322: ジョブスケジューラの作業ディレクトリ(WORK)が見つかりません

【メッセージの意味】

データベースディレクトリのサブディレクトリとして作業ディレクトリ(WORK)が存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6325: ジョブネット正常終了出口ルーチンの起動に失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブネット正常終了時の出口ルーチン(normalexit.bat/normalexit.exe)のCreateProcessに失敗しました。

【システムの処理】

ジョブネット正常終了時の出口ルーチン(normalexit.bat/normalexit.exe)は起動しません。

【システム管理者の処置】

ジョブネット正常終了時の出口ルーチン(normalexit.bat/normalexit.exe)の存在および実行権を見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6327: Systemwalker MpJobschサービスが起動中です

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービスが起動中のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブスケジューラのサービスが起動した後、操作を行ってください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6329: ユーザ認証のためのローカルドライブに空きがありません

【メッセージの意味】

ユーザ認証のために使用するドライブ名に空きがありませんでした。

【システムの処理】

ユーザ認証を中止します。

【利用者の処置】

ジョブスケジューラのサービスが動作しているコンピュータのドライブ名(A～Z)の中で、不要なドライブ名を未使用状態にした後、再度実行してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6342: ジョブネットの起動遅延出口の起動に失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブネットの起動遅延出口ルーチン(startlateexit.bat/startlateexit.exe)のCreateProcessに失敗しました。

【システムの処理】

ジョブネットの起動遅延出口ルーチン(startlateexit.bat/startlateexit.exe)は起動しません。

【システム管理者の処置】

ジョブネットの起動遅延出口ルーチン(startlateexit.bat/startlateexit.exe)の存在および実行権を見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6343: ジョブネットの終了遅延出口の起動に失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブネットの終了遅延出口ルーチン(endlateexit.bat/endlateexit.exe)のCreateProcessに失敗しました。

【システムの処理】

ジョブネットの終了遅延出口ルーチン(endlateexit.bat/endlateexit.exe)は起動しません。

【システム管理者の処置】

ジョブネットの終了遅延出口ルーチン(endlateexit.bat/endlateexit.exe)の存在および実行権を見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6344: セキュリティ強化に失敗しました

【メッセージの意味】

[swadminグループに含まれるユーザ以外は、ジョブスケジューラのコマンドやデマンドジョブの起動ができないように制限する]の指定を行っている場合に、ジョブスケジューラのデータベースディレクトリ配下のファイルのアクセス権変更に失敗したため、ジョブスケジューラサービスが起動できませんでした。

【システム管理者の処置】

6346番のメッセージと同時に出力された場合は、6346番のメッセージの処置を参照してください。

6346番のメッセージが同時に出力されなかった場合は、swadminグループの存在やジョブスケジューラのデータベースディレクトリ配下のファイルのアクセス権等の見直しを行った後に、再度、ジョブスケジューラサービスを起動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6346: データベースディレクトリのファイルシステムは、NTFSではありません

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのデータベースディレクトリのファイルシステムがNTFSではないため、セキュリティ強化をすることができません。

【システム管理者の処置】

ジョブスケジューラのデータベースディレクトリをNTFSファイルシステムに移動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6366: パラメタ情報ファイルの読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブのパラメタ情報ファイルの読み込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから、ジョブのパラメタ情報ファイルをデータベースディレクトリにコピーし、ジョブスケジューラを再起動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6416: プロジェクトが存在しません

【メッセージの意味】

処理の対象となるプロジェクトが存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

プロジェクト名を見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6421: スケジュール情報へのアクセスに失敗しました。メッセージ説明書の記述にしたがって、対処してください

【メッセージの意味】

スケジュール情報へのアクセスに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブスケジューラのデータベースディレクトリ配下のファイルにアクセスするようなアプリケーションが存在しないか確認し、ジョブスケジューラの動作中は、ジョブスケジューラのデータベースディレクトリ配下のファイルへアクセスしないよう対処してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7000: func=XXXX:YYYY() ZZZZ

【メッセージの意味】

システム関数でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: 呼出し元関数名

YYYY: エラー発生関数名

ZZZZ: システムのエラーメッセージ

【システムの処理】

処理を打ち切ります。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7012: XXXX を捕捉しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラサービスのメインプロセスでシグナルを捕捉しました。

【パラメタの意味】

XXXX: シグナル名(SIGABRT/SIGILL/SIGINT/SIGSEGV/SIGTERM)

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7022: XXXX ジョブネットの情報にエラーレコードが見つかりました

【メッセージの意味】

スケジュール情報を読み込み中に以下のどちらかの状態のレコードを検出しました。

- レコード長が不当です。
- ジョブネット情報の先頭レコードとして不当です。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7043: XXXX ジョブネット情報ファイルの読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

スケジュール情報のopen、lockf、またはreadのどれかで失敗したため、読み込めませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7044: XXXX ジョブネット情報ファイルの書き込みに失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのスケジュール情報またはジョブネット履歴情報(net.spool)が書き込めませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7179: XXXX のバックアップに失敗しました

【メッセージの意味】

ファイルのバックアップに失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7182: XXXX はプロジェクト名が50文字を超えているため使用できません

【メッセージの意味】

プロジェクト名の最大長は50文字までであり、それ以上のものは使えません。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

プロジェクト名は50文字以下で指定してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7191: XXXX が実行できません

【メッセージの意味】

ファイルの実行に失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ファイルの存在および実行権を確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7212: XXXX グループ情報ファイルの読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

スケジュール情報のopen、lockf、またはreadのどれかで失敗したため、読み込めませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7215: XXXX グループ情報にエラーレコードが見つかりました

【メッセージの意味】

スケジュール情報に不当なレコードがあります。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7218: XXXX グループ情報ファイルの書き込みに失敗しました

【メッセージの意味】

スケジュール情報のopen、lockf、またはwriteのどれかで失敗したため、書き込めませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の、“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7258: XXXX はユーザ名が20文字を超えているため使用できません

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラが扱うユーザ名は20文字までのものであり、それ以上のものは使えません。

【パラメタの意味】

XXXX: ユーザ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

20文字までのユーザ名でジョブスケジューラを使用してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7300: func=XXXX:YYYY() CCCC:ZZZZ

【メッセージの意味】

システム関数でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: 呼出し元関数名

YYYY: エラー発生関数名

CCCC: エラー番号

ZZZZ: システムのエラーメッセージ

【システムの処理】

処理を打ち切ります。

【システム管理者の処置】

- YYYY以降が"RegisterEventSource() 5: アクセスが拒否されました。"の場合

  jobschmsgeventコマンドで、メッセージ事象発生先ホストを指定して実行している場合、以下のことを確認してください。

  ー コマンド実行ユーザが相手先ホストに登録し、パスワードが一致している。

  ー 該当ユーザが無効状態になっていない。

  上記への処置が不可能な場合は、ネットワークジョブを利用して、メッセージ事象を相手先ホストで発生させてください。

- YYYY以降が"Regist RegisterEventSource() 1722:RPC サーバーを利用できません。"の場合

  jobschmsgeventコマンドで、メッセージ事象発生先ホストを指定して実行している場合、実在するホスト名でかつWindowsコンピュータを指定してください。また、発生先でServerサービスを起動させてください。

- YYYY以降が"ReportEvent() 997: 重複したI/O 処理を実行しています。"の場合

  イベントログのプロパティで、"必要に応じてイベントを上書きする"設定をしてください。

- YYYY以降が"ReadFile() 6:ハンドルが無効です。"の場合

  ジョブスケジューラのデータベースディレクトリ配下に無関係なファイルを作成していないか確認してください。作成したファイルがある場合は、削除してください。

- YYYY以降が"ReadFile() 170:要求された資源は使用中です。"の場合

  ジョブスケジューラの資源が、他のアプリケーションで使用されていたことを意味します。本メッセージの前後に出力されたメッセージから原因を特定し、対処してください。

- YYYY以降が"SetEndOfFile() 1224:要求された操作はユーザー マップ セクションで開いたファイルでは実行できません。"の場合

  ジョブスケジューラの資源が、他のアプリケーションで使用されていたことを意味します。本メッセージの前後に出力されたメッセージから原因を特定し、対処してください。

- YYYY以降が“GetTempFileName() 80:ファイルがあります。”の場合

  ディスク資源が圧迫されていないか確認してください。また、各種出口プログラムで一時ファイルを削除していないため、ディスク資源が圧迫されている可能性があります。出口プログラムを利用する場合には、出口プログラムで一時ファイルを削除するようにしてください。出口情報については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”の“出口情報”を参照してください。

- CCCC以降が“1500:イベント ログ ファイルが壊れています。”の場合

  Microsoft社またはWindowsの関連ドキュメントなどにより、イベントログファイルを復旧してください。

上記に該当しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7301: func=XXXX:YYYY() ZZZZ

【メッセージの意味】

システム関数でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: 呼出し元関数名

YYYY: エラー発生関数名

ZZZZ: システムのエラーメッセージ

【システムの処理】

処理を打ち切ります。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7306: XXXXの値が指定されていません

【メッセージの意味】

メッセージテーブル(JOBSCHMSGEVENT.TBL)にXXXXキーワードの定義が不足しています。

【パラメタの意味】

XXXX: キーワード

【システムの処理】

処理を打ち切ります。

【システム管理者の処置】

[メッセージテーブルの定義]ウィンドウから、メッセージテーブルのキーワードを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7307: XXXXはメッセージ事象対応テーブルのキーワードではありません

【メッセージの意味】

メッセージテーブル(JOBSCHMSGEVENT.TBL)に不当なキーワードが指定されています。

【パラメタの意味】

XXXX: キーワード

【システムの処理】

処理を打ち切ります。

【システム管理者の処置】

[メッセージテーブルの定義]ウィンドウから、メッセージテーブルのキーワードを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7308: XXXXが異常終了しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービスプロセスが異常終了しました。

【パラメタの意味】

XXXX: プロセス名(例:tskbasrv)

【システムの処理】

処理を打ち切ります。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7309: データベースディレクトリ(DBPATH)配下のXXXXディレクトリが見つかりません

【メッセージの意味】

データベースディレクトリのサブディレクトリが不当です。

【パラメタの意味】

XXXX: サブディレクトリ名

【システムの処理】

処理を打ち切ります。

【システム管理者の処置】

データベースディレクトリのファイルおよびアクセス権を確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7374: XXXX ファイルのアクセスに失敗しました

【メッセージの意味】

ファイルのアクセスに失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJobsch: ERROR: 7424: Systemwalker ACL Manager(API)でエラーが検出されました (code = XXXX, YYYY)

【メッセージの意味】

- XXXX = 3,YYYY = 0 の場合

  接続エラーが発生しました。

上記以外の場合は、ACLマネージャの処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーコード

YYYY: 詳細コード

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

- XXXX = 3,YYYY = 0 の場合

  Operation ManagerサーバでSystemwalker ACL Manager サービスが起動されていることを確認します。

サービスが起動中の場合、または上記以外の場合は、保守情報収集ツールで[フレームワーク]－[セキュリティ]の保守情報を採取し、富士通技術員へ連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7433: XXXX ジョブ定義変数情報の読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブ定義変数情報のopen、lockf、readのいずれかで失敗したため、読み込めませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

ジョブ定義変数情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7434: XXXX ジョブ定義変数情報の書き込みに失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブ定義変数情報のopen、lockf、read、writeのいずれかで失敗したため、書き込めませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

ジョブ定義変数情報をデータベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の“スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7435: XXXX YYYY ZZZZ 可変パラメタが指定されたメッセージ事象は無視されました

【メッセージの意味】

可変パラメタが指定されたメッセージ事象は、受信先のジョブネットでは無視されました。以下の原因が考えられます。

- 受信先のジョブネットが停止中に可変パラメタが指定されたメッセージ事象を受信しました。
- 受信先のジョブネットに[ジョブネット実行中も有効]が設定されており、ジョブネット実行中に可変パラメタが指定されたメッセージ事象を受信しました。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: 受信先のジョブネット名

ZZZZ: メッセージ事象名

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

- 受信先のジョブネットを停止解除してください。
- ジョブネット実行中にも可変パラメタが指定されたメッセージ事象を受信したい場合は、jobschmsgeventコマンドで複写の指定を行ってください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7437: XXXX パラメタ情報の読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブのパラメタ情報の読み込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

ジョブのパラメタ情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の “スケジュール情報ファイルの復元について”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7438: XXXX パラメタ情報の書き込みに失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブのパラメタ情報の書き込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

ジョブのパラメタ情報ファイルにアクセス可能か(Administratorsグループに属するユーザに書き込み権があるかなど)を確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7439: XXXX 可変パラメタ情報の書き込みに失敗しました

【メッセージの意味】

可変パラメタ情報の書き込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

可変パラメタ情報のファイルにアクセス可能か(rootユーザに書き込み権があるかなど)を確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 8216: XXXX YYYY が無効なグループとして削除されました

【メッセージの意味】

プロジェクトXXXXのグループYYYYの情報に異常があるため、削除しました。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: グループ名

【システムの処理】

プロジェクトXXXXのグループYYYYを削除して、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報を、データベースディレクトリ配下のjobschbackupディレクトリから復元してください。復元の方法については、"Systemwalker Operation Manager 使用手引書"の、"スケジュール情報ファイルの復元について"を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 8300: メッセージ事象対応テーブルの定義に誤りがあります。XXXX行目からYYYY行目を無視します

【メッセージの意味】

メッセージテーブル(JOBSCHMSGEVENT.TBL)の定義に誤りがあります。

【パラメタの意味】

XXXX: 定義誤りの開始行番号

YYYY: 定義誤りの終了行番号

【システムの処理】

定義に誤りがある行を無視して処理を続行します。

【システム管理者の処置】

[メッセージテーブルの定義]ウィンドウから、メッセージテーブルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 8301: func=XXXX:YYYY()ソケット関数にエラーが発生しました(コード=ZZZZ)

【メッセージの意味】

システム関数(Windows Sockets)でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: 呼出し元関数名

YYYY: エラー発生関数名

ZZZZ: システムのエラーコード

【システムの処理】

処理を打ち切ります。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 8302: XXXX YYYY ジョブネットは起動時(起動条件)では起動できません

【メッセージの意味】

終了処理ジョブネットは起動条件として、起動時では起動できません。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: ジョブネット名

【システムの処理】

ジョブネットを起動しないで、処理を続行します。

【システム管理者の処置】

終了処理ジョブネットの起動条件を再設定してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 8431: XXXX YYYY ジョブネットの複写起動に失敗しました

【メッセージの意味】

jobschmsgeventコマンドに指定された複写起動の指定にしたがってジョブネットを複写起動しようとしましたが、複写起動することができませんでした。

以下の原因が考えられます。

- 前回、複写起動されたジョブネットの実行が終了していない場合、次の複写起動はされません。前回、複写起動されたジョブネットが、実行中、終了遅延、警告のいずれかの状態です。
- 前回、複写起動されたジョブネットに対し確認操作が行われていない場合、次の複写起動はされません。[確認操作の詳細設定]ウィンドウで[ジョブネットの確認操作を有効とする]が指定されている環境で、前回、複写起動されたジョブネットが異常終了の状態です。さらに、[強制終了を確認操作の対象とする]も指定されている環境で、前回、複写起動されたジョブネットが強制終了の状態です。
- 複写先のジョブネットが、複写起動以外の方法で作成されています。[ジョブスケジューラ]ウィンドウからジョブネットを手作業で作成するなど、複写起動以外の方法で作成したジョブネットがある場合は、複写起動による複写はされません。
- 複写により作成されるジョブネット名およびジョブネット名称には、アンダーバー(_)とサフィックスが付与されます。そのため、ジョブネット名長またはジョブネット名称長の上限値を超えています。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: 複写先のジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブネットは複写も起動もされません。

【対処方法】

- 前回、複写起動されたジョブネットの実行が終了した後に、次の複写起動がされるよう、メッセージ事象の発生タイミングを調整してください。
- 前回、複写起動されたジョブネットに対し確認操作を行ってください。
- 複写起動以外の方法で作成されたジョブネットを削除するか、jobschmsgeventコマンドの-cオプションで指定した複写時のサフィックスを変更してください。
- 複写により作成されるジョブネット名長またはジョブネット名称長が上限値を超えないよう、複写元のジョブネット名、ジョブネット名称またはサフィックスを変更してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 9000: ジョブネットの実行を開始しました ジョブネット名称=XXXX ジョブネット名=YYYY プロジェクト名=ZZZZ

【メッセージの意味】

システム監視との連携用メッセージです。ジョブネットの実行を開始しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名称

YYYY: ジョブネット名

ZZZZ: プロジェクト名

[Windows]MpJobsch: 情報: 9001: ジョブネットが正常終了しました ジョブネット名称=XXXX ジョブネット名=YYYY コード=CCCC プロジェクト名=ZZZZ

【メッセージの意味】

システム監視との連携用メッセージです。ジョブネットが正常終了しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名称

YYYY: ジョブネット名

CCCC: ジョブネットの終了コード

ZZZZ: プロジェクト名

[Windows]MpJobsch: エラー: 9002: ジョブネットが異常終了しました ジョブネット名称=XXXX ジョブネット名=YYYY コード=CCCC プロジェクト名=ZZZZ

【メッセージの意味】

システム監視との連携用メッセージです。ジョブネットが異常終了しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名称

YYYY: ジョブネット名

CCCC: ジョブネットの終了コード

ZZZZ: プロジェクト名

[Windows]MpJobsch: 警告: 9003: ジョブネットの実行を拒否しました ジョブネット名称=XXXX ジョブネット名=YYYY プロジェクト名=ZZZZ

【メッセージの意味】

システム監視との連携用メッセージです。ジョブネットの実行が拒否されました。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名称

YYYY: ジョブネット名

ZZZZ: プロジェクト名

[Windows]MpJobsch: 警告: 9004: ジョブネットの実行をスキップしました ジョブネット名称=XXXX ジョブネット名=YYYY プロジェクト名=ZZZZ

【メッセージの意味】

システム監視との連携用メッセージです。ジョブネットの実行がスキップされました。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名称

YYYY: ジョブネット名

ZZZZ: プロジェクト名

[Windows]MpJobsch: 情報: 9005: ジョブネットが疑似正常終了しました ジョブネット名称=XXXX ジョブネット名=YYYY コード=CCCC プロジェクト名=ZZZZ

【メッセージの意味】

システム監視との連携用メッセージです。ジョブネットが疑似正常終了しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名称

YYYY: ジョブネット名

CCCC: ジョブネットの終了コード

ZZZZ: プロジェクト名

[Windows]MpJobsch: 情報: 10000: XXXX

【メッセージの意味】

ジョブネット起動APIの引数として指定されたメッセージテキストを表示します。

【パラメタの意味】

XXXX: 引数として指定されたメッセージテキスト

[Windows]MpJobsch: 警告: 10001: XXXX

【メッセージの意味】

ジョブネット起動APIの引数として指定されたメッセージテキストを表示します。

【パラメタの意味】

XXXX: 引数として指定されたメッセージテキスト

[Windows]MpJobsch: エラー: 10002: XXXX

【メッセージの意味】

ジョブネット起動APIの引数として指定されたメッセージテキストを表示します。

【パラメタの意味】

XXXX: 引数として指定されたメッセージテキスト

2.11 MpMjesで始まるメッセージ

本節では、MpMjesで始まるメッセージについて説明します。

MpMjesで始まるメッセージは、ジョブ実行制御が出力するメッセージです。

[Windows]MpMjes: エラー: 200: セッション管理サービスの起動に失敗しました。

【メッセージの意味】

セッション管理サービスの起動に失敗しました。

【システムの処理】

“Systemwalker MpJmSrv”サービスから起動されるプログラムのうち、セッション管理サービスの起動処理は中断されます。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: 情報: 1000: Systemwalker MpMjes サービスが正常に起動されました。

【メッセージの意味】

“Systemwalker MpMjesN”サービスが正常に起動されました。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

[Windows]MpMjes: 情報: 1001: Systemwalker MpMjes サービスが正常終了しました。

【メッセージの意味】

“Systemwalker MpMjesN”サービスが正常に終了しました。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

[Windows]MpMjes: 警告: 1005: ジョブの履歴情報機能／稼働実績情報出力機能のためのプログラムの起動に失敗しました。

【メッセージの意味】

ジョブの履歴情報機能／稼働実績情報出力機能のためのプログラムの起動に失敗しました。

【システムの処理】

Systemwalker MpMjesNサービスの起動処理を継続します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

以下の原因が考えられます。

1. システム資源が枯渇している。
2. mjscnsl.exeが、インストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥bin にない。

【システム管理者の処置】

エラーの原因を取り除いた後、"Systemwalker MpMjesN"サービスを再起動してください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: 警告: 1006: ジョブの稼働実績情報のファイルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

ジョブの稼働実績情報ファイルのオープンに失敗しました。

【システムの処理】

Systemwalker MpMjesNサービスの処理を継続します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)ジョブの稼働実績情報の書き込みを一時停止します。

【原因】

以下の原因が考えられます。

1. ファイルシステムに空きスペースがない。
2. EXCELなど他のアプリケーションにより、稼働実績情報ファイルにアクセスしている。

【利用者の処置】

ファイルシステムに空きスペースがない場合は、空きスペースを確保してください。

稼働実績情報ファイルにアクセスしているアプリケーションを終了してください。

【システム管理者の処置】

ファイルシステムに空きスペースがない場合は、空きスペースを確保してください。

稼働実績情報ファイルにアクセスしているアプリケーションを終了してください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 1007: 履歴情報機能／稼働実績情報出力機能プログラムの処理中にシステムエラーが発生しました。

【メッセージの意味】

履歴情報機能／稼働実績情報出力機能プログラムの処理中にシステムエラーが発生しました。

【システムの処理】

Systemwalker MpMjesNサービスの処理を継続します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)履歴情報機能／稼働実績情報出力機能は、無効となります。

【原因】

以下の原因が考えられます。

1. システム資源が枯渇している。

【システム管理者の処置】

エラーの原因を取り除いた後、"Systemwalker MpMjesN"サービスを再起動してください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取したうえで、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 1008: ジョブの稼働実績情報のファイルの書き込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

ジョブの稼働実績情報ファイルの書き込みに失敗しました。

【システムの処理】

Systemwalker MpMjesNサービスの処理を継続します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)ジョブの稼働実績情報の書き込みを一時停止します。

【原因】

以下の原因が考えられます。

1. ファイルシステムに空きスペースがない。

【利用者の処置】

ファイルシステムに空きスペースがない場合は、空きスペースを確保してください。

【システム管理者の処置】

ファイルシステムに空きスペースがない場合は、空きスペースを確保してください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取したうえで、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: 警告: 1009: ネットワークジョブ監視用、TCPポート番号が存在しません。

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ監視用、TCPポート番号が存在しません。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスの起動処理を継続します。ただし、ネットワークジョブの操作はできません。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

以下の原因が考えられます。

- サブシステム用のTCPポート番号が定義されていません。

【システム管理者の処置】

各サブシステムに対応するネットワークジョブ監視用、TCPポート番号を追加し、“Systemwalker MpMjesN”サービスを再起動してください。

ただし、以下の場合は、本メッセージが出力されても業務への影響はないため、無視して問題ありません。

- ネットワークジョブを投入しない運用の場合
- ネットワークジョブ投入時に、投入サーバ側のすべてのサブシステムから実行サーバ側のサブシステム0へ投入するように設定した場合

なお、ポート番号の設定方法は、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”の“サブシステム用のポート番号の設定”を参照してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 1010: スプールディレクトリのファイルシステムは、NTFSではありません。

【メッセージの意味】

スプールディレクトリのファイルシステムは、NTFSではないため、セキュリティ強化できませんでした。

【システムの処理】

ジョブ実行制御のサービス起動を中止します。

【システム管理者の処置】

スプールディレクトリをNTFSのディスク上に変更し、ジョブ実行制御を再起動してください。変更手順については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”の“運用情報の定義”を参照してください。

[Windows]MpMjes: 警告: 1011: 実行継続モードが各サーバで統一されていません。

【メッセージの意味】

実行継続モードが各サーバで統一されていません。

【システム管理者の処置】

各サーバの実行継続モードを統一してください。実行継続モードの切替え方法については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”の“jmmode 実行継続モード切り替えコマンド”を参照してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 1031: ジョブ実行履歴情報格納ディレクトリのファイルシステムは、NTFSではありません。

【メッセージの意味】

ジョブ実行履歴情報格納ディレクトリのファイルシステムは、NTFSではないため、セキュリティ強化できませんでした。

【システムの処理】

ジョブ実行制御のサービス起動を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行履歴情報格納ディレクトリをNTFSのディスク上に変更し、ジョブ実行制御を再起動してください。変更手順については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”の“運用情報の定義”を参照してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 1032: 稼働実績情報格納ディレクトリのファイルシステムは、NTFSではありません。

【メッセージの意味】

稼働実績情報格納ディレクトリのファイルシステムは、NTFSではないため、セキュリティ強化できませんでした。

【システムの処理】

ジョブ実行制御のサービス起動を中止します。

【システム管理者の処置】

稼働実績情報格納ディレクトリをNTFSのディスク上に変更し、ジョブ実行制御を再起動してください。変更手順については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”の“運用情報の定義”を参照してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 1033: セキュリティ強化に失敗しました。

【メッセージの意味】

セキュリティ強化で起動できませんでした。

【システムの処理】

ジョブ実行制御のサービス起動を中止します。

【原因】

以下の理由によりセキュリティ強化に失敗しました。

1. swadminグループが存在しない場合
2. アクセス権の設定に失敗した場合

【システム管理者の処置】

1. swadminグループを作成してください。
2. 保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: 警告: 1034: セキュリティ解除に失敗しました。

【メッセージの意味】

セキュリティ解除に失敗しました。

【システムの処理】

Systemwalker MpMjes サービスは起動されます。ただし、セキュリティ強化のまま運用されます。

【システム管理者の処置】

以下の理由によりセキュリティ解除に失敗しました。

- アクセス権の解除に失敗した。

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 1035: 初期化ファイルに負荷分散定義があるため、セキュリティ強化での起動に失敗しました。

【メッセージの意味】

初期化ファイルに負荷分散定義があるため、セキュリティ強化で起動できませんでした。

【システムの処理】

ジョブ実行制御のサービス起動を中止します。

【システム管理者の処置】

初期化ファイルから負荷分散定義を削除し、ジョブ実行制御を再起動してください。初期化ファイルの編集方法については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”の“初期化ファイル(ジョブ実行制御)”を参照してください。

[Windows] MpMjes: 警告: 1632: 監査ログライブラリのロードに失敗しました。

【メッセージの意味】

監査ログを出力するためのライブラリのロードで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

以下のファイルが存在しているか確認してください。存在している場合、ファイルが壊れている可能性があります。Systemwalker Operation Managerを再インストールまたは富士通技術員に連絡してください。

Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥bin¥mpaudito.dll

[Windows] MpMjes: 警告: 1633: 監査ログファイルの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

監査ログの出力先ファイルのオープンで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

- 空き容量が不足していないか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリが存在しているか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリのパーミッション/権限を確認してください。利用者制限の定義を利用していない場合、一般ユーザ/Everyoneから書き込める権利が必要です。
- 監査ログの出力先ファイルが壊れている可能性があります。壊れている監査ログの出力先ファイルを退避後、削除してください。
- 監査ログ出力先のハードディスクに障害が発生している場合は、ハードディスクの交換、および復旧が必要な場合があります。

監査ログの出力先ファイルおよびディレクトリは、mpsetlogsend_omgrコマンドで指定できます。mpsetlogsend_omgrコマンドの詳細については、"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

[Windows]MpMjes: 警告: 1634: 実行サーバ <hostname> がホストグループ <hostgroup>から除外されました。

【メッセージの意味】

分散実行ジョブにおいて、実行サーバへジョブの実行依頼を行うことができず、実行サーバが分散対象から除外されました。

【パラメタの意味】

hostname: ジョブの依頼を行うことができず、分散対象から除外された実行サーバ名が表示されます。

hostgroup: 除外された実行サーバが属していたホストグループ名が表示されます。

【システムの処理】

該当実行サーバはいったん分散対象から除外されます。

【システム管理者の処置】

ジョブの実行依頼ができなかった実行サーバの状態を確認して原因を取り除いてください。実行サーバの電源が入っていない、ジョブ実行制御のサービスが起動していない、ネットワークが不通状態などの原因が考えられます。

[Windows]MpMjes: エラー: 1635: デマンドジョブ終了出口プログラムの呼び出しに失敗しました。コード=xxxx

【メッセージの意味】

デマンドジョブ終了出口の呼出しに失敗しました。

【原因】

以下の原因が考えられます。

- デマンドジョブ終了出口ファイルが存在しない。
- デマンドジョブ終了出口ファイルが実行可能なファイルでない。
- メモリ不足などによりプロセスの生成に失敗した。

【パラメタの意味】

xxxx: OSから通知されたシステムエラーコード

【システムの処理】

デマンドジョブ終了出口の呼出し処理を中止します。

【システム管理者の処置】

OSのエラーコードをもとに原因を取り除いた後、必要であればジョブ実行制御のデーモンを再起動してください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: 警告: 1636: デマンドジョブ終了出口ファイルの確認に失敗しました。
[Windows]MpMjes: WARNING: 1636: Abnormalities were detected to mjesexit.bat/mjesexit.exe file.

【メッセージの意味】

デマンドジョブ終了出口ファイルの確認に失敗しました。

【原因】

以下の原因が考えられます。

- デマンドジョブ終了出口ファイルが壊れている。
- ファイルシステムの異常によりデマンドジョブ終了出口ファイルにアクセスできない。

【システムの処理】

サービスの起動処理は続行されますが、デマンドジョブ終了出口は無効な状態で運用されます。

【システム管理者の処置】

デマンドジョブ終了出口ファイルが正しいファイルであるかを確認し、原因を取り除いてください。

原因を取り除いた後、サービスを再起動してください。

サービスを再起動しても同じメッセージが出力される場合は、富士通技術員(SE)に連絡してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 1637: ネットワークジョブの状態取得処理において、メモリ確保に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークジョブの状態取得処理において、メモリ確保に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから再度実行してください。

【システム管理者の処置】

物理メモリを増設するか、スワップの設定を変更してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 1638: ネットワークジョブ投入処理において、プロセス状態管理ファイルのオープン処理に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ投入処理において、実行サーバでネットワークジョブの状態を管理するプロセス状態管理ファイルのオープンに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

プロセス状態管理ファイルが存在しない、または、壊れている可能性があります。

保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 1639: ネットワークジョブ投入処理において、プロセス状態管理ファイルの読み込み処理に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ投入処理において、実行サーバでネットワークジョブの状態を管理するプロセス状態管理ファイルの読み込み処理に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

プロセス状態管理ファイルが存在しない、または、壊れている可能性があります。

保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 1640: ネットワークジョブ投入処理において、プロセス状態管理ファイルの書き込み処理に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ投入処理において、実行サーバでネットワークジョブの状態を管理するプロセス状態管理ファイルの書き込み処理に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

プロセス状態管理ファイルが存在しない、または、壊れている可能性があります。

保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 1641: ネットワークジョブ投入処理において、プロセス状態管理ファイルのクローズ処理に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ投入処理において、実行サーバでネットワークジョブの状態を管理するプロセス状態管理ファイルのクローズ処理に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

プロセス状態管理ファイルが存在しない、または、壊れている可能性があります。

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 1642: ネットワークジョブ終了処理において、プロセス状態管理ファイルのオープン処理に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ終了処理において、実行サーバでネットワークジョブの状態を管理するプロセス状態管理ファイルのオープンに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

プロセス状態管理ファイルが存在しない、または、壊れている可能性があります。

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 1643: ネットワークジョブ終了処理において、プロセス状態管理ファイルの読み込み処理に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ終了処理において、実行サーバでネットワークジョブの状態を管理するプロセス状態管理ファイルの読み込み処理に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

プロセス状態管理ファイルが存在しない、または、壊れている可能性があります。

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 1644: ネットワークジョブ終了処理において、プロセス状態管理ファイルの書き込み処理に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ終了処理において、実行サーバでネットワークジョブの状態を管理するプロセス状態管理ファイルの書き込み処理に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

プロセス状態管理ファイルが存在しない、または、壊れている可能性があります。

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 1645: ネットワークジョブ終了処理において、プロセス状態管理ファイルのクローズ処理に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ終了処理において、実行サーバでネットワークジョブの状態を管理するプロセス状態管理ファイルのクローズ処理に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

プロセス状態管理ファイルが存在しない、または、壊れている可能性があります。

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6030: 初期化処理において、レジストリからスプールディレクトリのパスを取得できませんでした。エラーコード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのインストールが失敗している可能性があります。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6031: 初期化処理において、レジストリからキューのパスを取得できませんでした。エラーコード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのインストールが失敗している可能性があります。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6032: 初期化処理において、レジストリから初期化ファイルのパスを取得できませんでした。エラーコード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのインストールが失敗している可能性があります。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6033: 初期化ファイルがオープンできません。エラーコード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

1. 初期化ファイルが存在しない可能性があります。
2. 他のアプリケーションが、初期化ファイルを参照している可能性があります。
3. ジョブ実行制御サーバのインストールが失敗している可能性があります。

【システム管理者の処置】

1. [運用情報の定義]ウィンドウを起動し、定義を保存した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。[運用情報の定義]ウィンドウの起動方法は、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”の“運用情報の定義”を参照してください。
2. 初期化ファイルを参照しているアプリケーションを終了させた後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。初期化ファイルについては、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”の“初期化ファイル(ジョブ実行制御)”を参照してください。
3. Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6034: 初期化ファイルに使用できない文字が記述されています。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【システム管理者の処置】

使用できない文字を削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。使用できない文字については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”の“初期化ファイル(ジョブ実行制御)”を参照してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6035: 初期化パラメタの継続行を読み込む途中で初期化ファイルのEOFを検出しました。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

継続行の記述方法に誤りがあります。

【システム管理者の処置】

継続行の記述方法を正しく修正した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6036: 初期化パラメタの1行の長さが長過ぎます。Row number=<row>

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御サーバの初期化ファイルの1行の長さが7168バイトを超えています。行末に不要なコンマがあるために継続行として扱われた可能性もあります。

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

"Systemwalker MpMjesN"サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【システム管理者の処置】

初期化ファイルを修正後、"Systemwalker MpMjesN"サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6037: 初期化パラメタの文法に誤りがあります。Row number=<row>

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

"Systemwalker MpMjesN"サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

パラメタの文法に誤りがあります。

【システム管理者の処置】

パラメタの文法を正しく記述した後、"Systemwalker MpMjesN"サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6038: 初期化ファイルに指定できないパラメタが記述されています。Row number=<row>

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

"Systemwalker MpMjesN"サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

1. 仕様にないパラメタを指定しました。
2. パラメタの表記に誤りがあります。

【システム管理者の処置】

1. エラーになったパラメタを修正した後、"Systemwalker MpMjesN"サービスまたは、運用を開始してください。
2. パラメタの表記を修正した後、"Systemwalker MpMjesN"サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6039: 初期化パラメタのオペランドに指定した値が不当です。Row number=<row>

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

オペランドに指定できない数値または、文字列を指定しています。

【システム管理者の処置】

オペランドに指定できる値または、文字列を記述した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6040: 初期化パラメタの定義順序に誤りがあります。Row number=<row>

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

systemパラメタを定義する前に他のパラメタを定義している可能性があります。

【システム管理者の処置】

該当するパラメタをsystemパラメタの後で定義するように修正した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6041: systemパラメタのdfltqueueオペランドに指定したキューが、queueパラメタで定義されていません。Row number=<row>

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

systemパラメタのdfltqueueオペランドに指定したキューが、queueパラメタで定義されていません。

【システム管理者の処置】

queueパラメタで定義したキューをsystemパラメタのdfltqueueオペランドに指定した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6042: systemパラメタまたは、queueパラメタのいずれにもdfltprtyオペランドを定義していません。Row number=<row>

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

dfltprtyオペランド指定のsystemパラメタまたは、queueパラメタを指定しなければなりません。

【システム管理者の処置】

dfltprtyオペランド指定のsystemパラメタまたは、queueパラメタを記述した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6043: 既に定義済の初期化パラメタを記述しています。Row number=<row>

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

同じパラメタを2回以上記述している可能性があります。

【システム管理者の処置】

同じパラメタを記述した行の中から不要な行を削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6044: キューの定義数が制限値を超えました。Row number=<row>

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

queue制御文の定義数が制限値を超えました。

【システム管理者の処置】

不要なqueue制御文を削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6045: ジョブ実行制御が起動する時の起動モードが不当です。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのシステム情報ファイルが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6046: 初期化処理において、システム情報ファイルの読み出し処理が失敗しました。エラーコード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのシステム情報ファイルが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6047: 初期化処理において、システム情報ファイルの書き込みオープン処理でエラーが発生しました。エラーコード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

他のアプリケーションが、初期化ファイルを参照している可能性があります。

【システム管理者の処置】

初期化ファイルを参照しているアプリケーションを終了させた後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6048: 初期化処理において、システム情報ファイルへの書き込み処理でエラーが発生しました。エラーコード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

他のアプリケーションが、初期化ファイルを参照している可能性があります。

【システム管理者の処置】

初期化ファイルを参照しているアプリケーションを終了させた後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6049: 初期化処理において、キューディレクトリの作成処理でエラーが発生しました。エラーコード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのキューまたは、スプールが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6050: 初期化処理において、キュー情報ファイルの書き込みオープン処理でエラーが発生しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

他のアプリケーションが、初期化ファイルを参照している可能性があります。

【システム管理者の処置】

初期化ファイルを参照しているアプリケーションを終了させた後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6051: 初期化処理において、キュー情報ファイルへの書き込み処理でエラーが発生しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

他のアプリケーションが、初期化ファイルを参照している可能性があります。

【システム管理者の処置】

初期化ファイルを参照しているアプリケーションを終了させた後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6052: 初期化パラメタに指定できないオペランドが記述されています。Row number=<row>

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

1. 初期化パラメタのスペルに誤りがあります。
2. 仕様にないパラメタを指定しました。

【システム管理者の処置】

1. 初期化パラメタのスペルを修正した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。
2. 仕様にないパラメタを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6053: 初期化ファイルに有効なパラメタがありません。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

初期化パラメタにsystemパラメタまたは、queueパラメタが記述されていません。

【システム管理者の処置】

初期化パラメタにsystemパラメタおよび、queueパラメタが記述した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6054: 初期化処理において、スプールディレクトリの削除処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

他のアプリケーションが、スプールディレクトリ配下のディレクトリを参照している可能性があります。

【システム管理者の処置】

スプールディレクトリ配下のディレクトリを参照しているアプリケーションを終了させた後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool

[Windows]MpMjes: エラー: 6055: 初期化処理において、スプールディレクトリ配下のファイルの削除処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

他のアプリケーションが、スプールディレクトリ配下のファイルを参照している可能性があります。

【システム管理者の処置】

スプールディレクトリ配下のファイルを参照しているアプリケーションを終了させた後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool

[Windows]MpMjes: エラー: 6056: 初期化処理において、スプールディレクトリの作成処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのキューまたは、スプールが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool

[Windows]MpMjes: エラー: 6057: 初期化処理において、キュー情報ファイルの読み込みオープン処理でエラーが発生しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのキューまたは、スプールが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6058: 初期化処理において、キュー情報ファイルからの読み込み処理でエラーが発生しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのキューまたは、スプールが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6059: 初期化処理において、キュー情報ファイルの更新処理でエラーが発生しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

他のアプリケーションが、スプールディレクトリ配下のファイルを参照している可能性があります。

【システム管理者の処置】

スプールディレクトリ配下のファイルを参照しているアプリケーションを終了させた後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6060: 初期化処理において、ジョブ情報ファイルの読み込みオープン処理でエラーが発生しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのスプールが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6061: 初期化処理において、ジョブ情報ファイルからの読み込み処理でエラーが発生しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのスプールが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6062: 初期化処理において、ジョブ情報ファイルの書き込みオープン処理でエラーが発生しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

他のアプリケーションが、スプールディレクトリ配下のファイルを参照している可能性があります。

【システム管理者の処置】

スプールディレクトリ配下のファイルを参照しているアプリケーションを終了させた後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6063: 初期化処理において、ジョブ情報ファイルへの書き込み処理でエラーが発生しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

他のアプリケーションが、スプールディレクトリ配下のファイルを参照している可能性があります。

【システム管理者の処置】

スプールディレクトリ配下のファイルを参照しているアプリケーションを終了させた後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool

[Windows]MpMjes: エラー: 6064: 初期化処理において、キューの検索処理でエラーが発生しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのスプールが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool

[Windows]MpMjes: エラー: 6065: 初期化処理において、ジョブの初期化処理でエラーが発生しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのスプールが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool

[Windows]MpMjes: エラー: 6066: 初期化処理において、スプールのセキュリティ情報の設定処理でエラーが発生しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリに対して必要なアクセス権が設定されていない可能性があります。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリに対して、必要なアクセス権を設定してください。設定については、“Systemwalker Operation Manager 解説書”を参照してください。スプールディレクトリの初期値は、以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6067: 初期化処理において、システム情報ファイルからの読み込み処理でエラーが発生しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバの動作に必要なメモリが不足している可能性があります。

【システム管理者の処置】

不要なアプリケーションを終了させた後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6068: 初期化処理のセキュリティ処理において、ACE用ヒープの割当て処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバの動作に必要なメモリが不足している可能性があります。

【システム管理者の処置】

不要なアプリケーションを終了させた後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6069: 初期化処理のセキュリティ処理において、DOMAIN用ヒープの割当て処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバの動作に必要なメモリが不足している可能性があります。

【システム管理者の処置】

不要なアプリケーションを終了させた後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6070: 初期化処理のセキュリティ処理において、SNU用ヒープの割当て処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバの動作に必要なメモリが不足している可能性があります。

【システム管理者の処置】

不要なアプリケーションを終了させた後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6071: 初期化処理のセキュリティ処理において、xxxアカウント情報の取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

xxx: アカウント名

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

アカウント情報が破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

アカウント情報が使用可能であることを確認した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を起動してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6072: 初期化処理のセキュリティ処理において、xxxアカウントのSIDについて異常を検出しました。

【パラメタの意味】

xxx: アカウント名

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

アカウント情報が破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

アカウント情報が使用可能であることを確認した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を起動してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6073: 初期化処理のセキュリティ処理において、アカウント用ヒープの割当て処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバの動作に必要なメモリが不足している可能性があります。

【システム管理者の処置】

不要なアプリケーションを終了させた後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6074: 初期化処理のセキュリティ処理において、オブジェクト用ヒープの割当て処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバの動作に必要なメモリが不足している可能性があります。

【システム管理者の処置】

不要なアプリケーションを終了させた後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6075: 初期化処理のセキュリティ処理において、オブジェクト用ヒープの初期化が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバの動作に必要なメモリが不足している可能性があります。

【システム管理者の処置】

不要なアプリケーションを終了させた後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6076: 初期化処理のセキュリティ処理において、ACL用ヒープの割当て処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバの動作に必要なメモリが不足している可能性があります。

【システム管理者の処置】

不要なアプリケーションを終了させた後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6077: 初期化処理のセキュリティ処理において、ACL用ヒープの初期化処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのプログラムが異常である可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6078: 初期化処理のセキュリティ処理において、ACEの設定が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのプログラムが異常である可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6079: 初期化処理のセキュリティ処理において、ACLの異常を検出しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのプログラムが異常である可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6080: 初期化処理のセキュリティ処理において、オブジェクトへのセキュリティ情報の設定が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのプログラムが異常である可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6081: 初期化処理のスプール変換処理において、システム情報ファイルが存在しませんでした。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのインストールが失敗している可能性があります。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation Managerサーバ機能を再インストールしてください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6082: 初期化処理のスプール変換処理において、不当なファイル属性のシステム情報ファイルを見つけました。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのスプールが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool

[Windows]MpMjes: エラー: 6083: 初期化処理のスプール変換処理において、システム情報ファイルのオープン処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのシステム情報ファイルが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool

[Windows]MpMjes: エラー: 6084: 初期化処理のスプール変換処理において、システム情報ファイルのサイズ取得処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのシステム情報ファイルが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool

[Windows]MpMjes: エラー: 6085: 初期化処理のスプール変換処理において、システム情報ファイルの読み込み処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのシステム情報ファイルが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6086: 初期化処理のスプール変換処理において、システム情報ファイルの読み込みサイズが不当でした。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのシステム情報ファイルが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6087: 初期化処理のスプール変換処理において、システム情報ファイルの書き込み開始位置の位置付け処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのシステム情報ファイルが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6088: 初期化処理のスプール変換処理において、システム情報ファイルの書き込み開始位置が不当でした。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのシステム情報ファイルが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6089: 初期化処理のスプール変換処理において、新システム情報ファイルの書き込み処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのシステム情報ファイルが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6090: 初期化処理のスプール変換処理において、現在のV／Lのジョブ実行制御で扱えないシステム情報ファイルを検出しました。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

スプールは、インストールされているバージョン・レベルのジョブ実行制御サーバでは使用できません。

【システム管理者の処置】

そのスプールを使用していたバージョン・レベルのSystemwalker Operation Managerを再インストールした後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6091: 初期化処理のスプール変換処理において、不当なファイル属性の構造体ファイルを見つけました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのスプールが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6092: 初期化処理のスプール変換処理において、構造体ファイルのオープン処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのスプールが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6093: 初期化処理のスプール変換処理において、構造体ファイルのサイズ取得処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのスプールが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6094: 初期化処理のスプール変換処理において、構造体ファイルの読み込み処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのスプールが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6095: 初期化処理のスプール変換処理において、構造体ファイルの読み込みサイズが不当でした。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのスプールが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6096: 初期化処理のスプール変換処理において、新構造体ファイルのオープン処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのスプールが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6097: 初期化処理のスプール変換処理において、新構造体ファイルの書き込み処理が失敗しました。コード=code

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのスプールが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6098: 初期化処理のスプール変換処理において、現在のV／Lのジョブ実行制御で扱えない構造体ファイルを検出しました。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

スプールにある構造体ファイルは、インストールされているバージョン・レベルのジョブ実行制御サーバでは使用できません。

【システム管理者の処置】

そのスプールを使用していたバージョン・レベルのSystemwalker Operation Managerを再インストールした後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6099: 初期化処理のスプール変換処理において、不当な構造体ファイルを見つけました。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

ジョブ実行制御サーバのスプールが破損している可能性があります。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは運用を開始してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
インストールディレクトリ配下のmpwalker.jm¥mpmjessv¥mjespool
```

[Windows]MpMjes: エラー: 6102: ホストグループの定義数が制限値を超えました。

【メッセージの意味】

ホストグループの定義数が64個を超えました。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【システム管理者の処置】

初期化ファイルを修正後、“Systemwalker MpMjesN”サービスを開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6106: logパラメタのpathオペランドに記述したディレクトリを見つけられませんでした。Row number=<row>

【メッセージの意味】

初期化ファイルのlogパラメタのpathオペランドに記述したディレクトリを見つけられませんでした。

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスの起動を中止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

オペランドに指定できない数値または、文字列を指定しています。

【システム管理者の処置】

オペランドに指定できる値または、文字列を記述した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6107: recordパラメタのpathオペランドに記述したディレクトリを見つけられませんでした。Row number=<row> number=<row>

【メッセージの意味】

初期化ファイルのrecordパラメタのpathオペランドに記述したディレクトリを見つけられませんでした。

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスの起動を中止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【原因】

オペランドに指定できない数値または、文字列を指定しています。

【システム管理者の処置】

オペランドに指定できる値または、文字列を記述した後、“Systemwalker MpMjesN”サービスまたは、運用を開始してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6108: queueパラメタのhostオペランドに記述したホストグループを見つけられませんでした。

【メッセージの意味】

queueパラメタのhostオペランドに記述したホストグループが定義されていない可能性があります。

【システムの処理】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止します。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【システム管理者の処置】

初期化ファイルを修正後、“Systemwalker MpMjesN”サービスを開始してください。

[Windows]MpMjes: 警告: 6109: ホストグループに同名ホストが複数指定されています。2つ目以降の指定が無視されました。

【メッセージの意味】

ホストグループに同名ホストが複数指定されています。2つ目以降の指定が無視されました。

【システムの処理】

複数指定されている同名ホストの2つ目以降の指定が無視されて、"Systemwalker MpMjesN"サービスが起動します。

N: サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【システム管理者の処置】

ホストグループに同名ホストが重複しないように、設定を見直してください。

[Windows]MpMjes: 警告: 6110: XXXX ポリシー情報の設定に失敗しました。

【メッセージの意味】

配付されたポリシー情報(運用情報、信頼ホスト、ジョブ所有者、ノード名定義ファイルのいずれか)の設定に失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: コピー先のポリシー情報ファイル

【システムの処理】

ジョブ実行制御サービスの起動処理は継続され、ジョブ実行制御サービスは、設定に失敗したポリシー情報が設定されない状態で起動されます。

【システム管理者の処置】

設定されなかったポリシー情報を確認してください。ポリシー情報を再設定する場合は、ジョブ実行制御サービスを再起動してください。

[Windows]MpMjes: エラー: 6111: 初期化処理において、メモリ確保に失敗しました。

【メッセージの意味】

初期化処理において、メモリ確保に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから再度実行してください。

【システム管理者の処置】

物理メモリを増設するか、スワップの設定を変更してください。

[Windows]MpMjes: 警告: 9006: jobname は time 分が経過しても終了しません。(Project Name=projectname,Job Net=jobnetname)

【メッセージの意味】

当ジョブの実行経過時間が、指定された実行予測時間を超過しました。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

time: 定義された実行予測時間

projectname: プロジェクト名

jobnetname: ジョブネット名

【システムの処理】

ジョブの実行は継続されます。

【利用者の処置】

ジョブの親プロセスが終了しているのにジョブが終了しない場合、ジョブ配下で動作している子プロセスがまだ存在する可能性があります。

mjptreeコマンドを使用してジョブ配下で動作している実行中のプロセスを確認してください。

【システム管理者の処置】

必要であれば、当該ジョブを強制終了してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10003: Could not found path to spool directory for initialization. Row number=<row>

【メッセージの意味】

初期化処理中に、ホストグループ情報ファイルの読み込み処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システム管理者の処置】

初期化ファイルを修正後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10007: Cannot open initialization file.<code>

【メッセージの意味】

以下の原因により、ジョブ実行制御サーバの初期化ファイルをオープンできません。

1. ジョブ実行制御サーバの初期化ファイルが存在しません。
2. ジョブ実行制御サーバのインストールが失敗しています。
3. クラスタシステムの導入時、ジョブ実行制御の運用情報ディレクトリを共有ディスクへ移動する手順に誤りがあります。

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

原因が1の場合は、[運用情報の定義]ウィンドウを起動し、定義を保存した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。[運用情報の定義]ウィンドウの起動方法は、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”の“運用情報の定義”を参照してください。

原因が2の場合は、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

原因が3の場合は、ジョブ実行制御の運用情報ディレクトリを共有ディスクへ正しく移動してください。移動する手順は、“クラスタ適用ガイド UNIX編”の“資源の共有ディスクへの移動”を参照してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10009: EOF of initialization file detected while reading continuation <row> of initialization parameter.

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御サーバの初期化ファイルの継続行の記述に誤りがあるため、ジョブ実行制御サーバの初期化ファイルを定義したファイルを読み込む途中でEOFを検出しました。

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

継続行の記述方法を正しく修正した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10010: Length of a row of initialization parameter too long. Row number=<row>

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御サーバの初期化ファイルの1行の長さが7168バイトを超えています。行末に不要なコンマがあるために継続行として扱われた可能性もあります。

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

初期化ファイルを修正後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10011: Fault in initialization parameter method. Row number=<row>

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御サーバの初期化ファイルの文法に誤りがあります。

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

パラメタの文法を正しく記述した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10012: Initialization file contains parameters which cannot be specified. Row number=<row>

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御サーバの初期化ファイルに指定できないパラメタが記述されています。

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

パラメタを正しく修正した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10013: Incorrect value specified for initialization parameter operand. Row number=<row>

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御サーバの初期化ファイルのパラメタのオペランドに指定した値が不当です。オペランドに指定できない数値または文字列が指定されています。

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

オペランドに指定できる数値または文字列を記述した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10014: Fault in definition order of initialization parameter. Row number=<row>

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御サーバの初期化ファイル内のパラメタ定義順序に誤りがあります。systemパラメタを定義する前に他のパラメタが定義されています。

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

該当するパラメタをsystemパラメタの後で定義するように修正した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10015: The queue specified in the dfltqueue operand of system parameter, is not defined by queue parameter. Row number=<row>

【メッセージの意味】

systemパラメタのdfltqueueオペランドに指定したキューが、queueパラメタで定義されていません。

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

queueパラメタで定義したキューの中の1つを、systemパラメタのdfltqueueオペランドに指定した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10016: dfltprty operand not defined either in system parameter or queue parameter. Row number=<row>

【メッセージの意味】

dfltprtyオペランドがsystemパラメタ、queueパラメタのどちらにも定義されていません。

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

dfltprtyオペランドをsystemパラメタ、queueパラメタのどちらかに定義してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10017: Specifies the initialization parameter already defined. Row number=<row>

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御サーバの初期化ファイルのパラメタが重複して指定されています。

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

重複したパラメタを記述した行のうち不要なパラメタを記述した行を削除した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10018: The number of definitions of queue exceeded the limit.

【メッセージの意味】

キューの定義数が制限値(64個)を超えました。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

不要なqueueパラメタの記述を削除した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10020: Failure reading system information file during initialization.<code>

【メッセージの意味】

初期化処理中に、システム情報ファイルの読み出し処理が失敗しました。

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
/var/spool/mjes/mjespool
```

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10021: Error in write open of system information file during initialization.<code>

【メッセージの意味】

初期化処理中に、システム情報ファイルの書き込みオープン処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
/var/spool/mjes/mjespool
```

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10022: Error in writing to system information file while initializing.<code>

【メッセージの意味】

初期化処理中に、システム情報ファイルへの書き込み処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
/var/spool/mjes/mjespool
```

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10023: Error creating queue directory during initialization.<code>

【メッセージの意味】

初期化処理中に、キューディレクトリの作成処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
/var/spool/mjes/mjespool
```

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10024: Error in write open process of queue information file during initialization.<code>

【メッセージの意味】

初期化処理中に、キュー情報ファイルの書き込みオープン処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
/var/spool/mjes/mjespool
```

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10025: Error writing in the queue information file during initialization.<code>

【メッセージの意味】

初期化処理中に、キュー情報ファイルへの書き込み処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
/var/spool/mjes/mjespool
```

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10026: Initialization file has operand which cannot be specified. Row number=<row>

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御サーバの初期化ファイルに指定できないオペランドが記述されています。

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

初期化ファイルのオペランドを正しく修正した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10027: Initialization file does not have valid parameters.

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御サーバの初期化ファイルの定義内容に有効なパラメタがありません。systemパラメタおよびqueueパラメタが記述されていません。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御サーバの初期化ファイルに、systemパラメタ、およびqueueパラメタを記述した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10028: Failure deleting spool directory during initialization.<code>

【メッセージの意味】

初期化処理中に、スプールディレクトリの削除処理が失敗しました。

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
/var/spool/mjes/mjespool
```

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10029: Failure deleting files in the spool directory during initialization.<code>

【メッセージの意味】

初期化処理中に、スプールディレクトリ配下のファイルの削除処理が失敗しました。

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
/var/spool/mjes/mjespool
```

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10030: Failure creating spool directory during initialization.<code>

【メッセージの意味】

初期化処理中に、スプールディレクトリの作成処理が失敗しました。

【パラメタの意味】

code : エラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
/var/spool/mjes/mjespool
```

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10032: Error in read open process of queue information file during initialization.<code>

【メッセージの意味】

初期化処理中に、キュー情報ファイルの読み込みオープン処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

code : エラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
/var/spool/mjes/mjespool
```

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10033: Error reading from queue information file during initialization.<code>

【メッセージの意味】

初期化処理中に、キュー情報ファイルからの読み込み処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

code : エラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
/var/spool/mjes/mjespool
```

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10034: Error updating queue information file during initialization.<code>

【メッセージの意味】

初期化処理中に、キュー情報ファイルの更新処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
/var/spool/mjes/mjespool
```

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10040: Error finding the queue during initialization.<code>

【メッセージの意味】

初期化処理中に、キューの検索処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
/var/spool/mjes/mjespool
```

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10041: Error occurred in job initialization.<code>

【メッセージの意味】

初期化処理中に、ジョブの初期化処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

code: エラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御サーバのスプールディレクトリを削除した後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
/var/spool/mjes/mjespool
```

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10056: Could not found the directory specified by the path operand of the log parameter. Row number=<row>

【メッセージの意味】

初期化ファイルのlogパラメタのpathオペランドに記述したディレクトリを見つけられませんでした。

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

pathオペランドに指定したディレクトリを作成後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10058: Could not found the directory specified by the path operand of the record parameter. Row number=<row>

【メッセージの意味】

初期化ファイルのrecordパラメタのpathオペランドに記述したディレクトリを見つけられませんでした。

【パラメタの意味】

row: エラーとなったパラメタの行番号。ただし、パラメタとオペランドが複数行にまたがる場合は、エラーがある行そのものではなく、複数行のうちのいずれかの行番号になります。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

pathオペランドに指定したディレクトリを作成後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10059: The number of host group definitions crossed over the limit value.

【メッセージの意味】

ホストグループの定義数が64個を超えました。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

初期化ファイルを修正後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10060: Could not found the host group specified by the host operand of the queue parameter.

【メッセージの意味】

queueパラメタのhostオペランドに記述したホストグループが定義されていない可能性があります。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

初期化ファイルを修正後、ジョブ実行制御デーモンを起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10061: mjsdaemon : Invalid option flag specified.

【メッセージの意味】

不正なオプションが指定されました。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

正当なオプションを指定し、mjsdaemonを起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10062: mjsdaemon : Invalid sub-system number specified.

【メッセージの意味】

誤ったサブシステム番号が指定されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

正しいサブシステム番号を指定して、ジョブ実行制御を開始してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10063: mjsdaemon : The environment of the sub-system number does not exist.

【メッセージの意味】

指定されたサブシステム番号の環境が存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

存在するサブシステムの番号を指定してください。

クラスタ環境において、状態遷移プロシジャによりジョブ実行制御を起動している場合、フェールオーバ時に、サブシステムに割り当てられた共用ディスクが正しくマウントされるように設定されているか確認してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10064: mjsdaemon: Insufficient privilege.

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御デーモンを起動する資格がありません。

【システムの処理】

起動処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者にジョブ実行制御デーモンの起動を依頼してください。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御デーモンを起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10065: mjsdaemon : Unable to chdir() to spoolname.

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御デーモンがspoolnameのディレクトリ移動に失敗しました。

【パラメタの意味】

spoolname: スプール名

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

スプールディレクトリが存在するか確認してください。スプールディレクトリの初期値は以下のとおりです。

```
/var/spool/mjes/mjespool
```

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10066: mjsdaemon was not started. because swadmin group does not exist.

【メッセージの意味】

swadminグループがシステムに存在しないため、ジョブ実行制御が起動できませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

システムにswadminグループを登録し、ジョブ実行制御を開始してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10067: mjsdaemon : Already starting.

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御デーモンは既に起動されています。

【システムの処理】

新たに要求した処理を中止します。

【原因】

以下の原因が考えられます。

a. ジョブ実行制御が起動中にジョブ実行制御の起動コマンドが呼ばれた。

b. ジョブ実行制御が起動中にランレベルの変更を行った。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10068: Failed to initialize the jclinfo directory.

【メッセージの意味】

jcl情報ディレクトリの作成に失敗しました。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【原因】

/var/spool/mjesディレクトリ、または/var/spool/mjes/mjesNディレクトリ(N:複数サブシステム運用時のサブシステム番号)について、以下の原因が考えられます。

1. ディレクトリが存在しない

2. 配下にディレクトリを作成する権限がない

3. ディスクに空きスペースがない

【システム管理者の処置】

エラーの原因を取り除いた後、ジョブ実行制御を開始してください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10069: mjsdaemon could not started. because to allocate job control table failed.

【メッセージの意味】

ジョブコントロールテーブルの領域確保に失敗したので、ジョブ実行制御デーモンが起動できませんでした。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御デーモンの起動に必要なメモリが不足しています。その他の不要なアプリケーションを終了させるか、メモリを増設し、ジョブ実行制御デーモンを再起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10070: mjsini process fork failed. jobnet= <jobnet> jobname = <jobname> jobno= <jobno>

【メッセージの意味】

イニシエータプロセスの生成に失敗しました。

【パラメタの意味】

jobnet: ジョブネット名

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

【システムの処理】

ジョブが実行されません。

【システム管理者の処置】

mjsiniの起動に必要なメモリが不足しています。その他の不要なアプリケーションを終了させるか、メモリを増設してください。

[UNIX]MpMjes: WARNING: 10071: The job execution history/status information program failed to start.

【メッセージの意味】

履歴情報採取デーモンの起動に失敗しました。

【システムの処理】

ログ機能が無効になり、処理は続行されます。

【原因】

以下の原因が考えられます。

1. システム資源が枯渇している。

【システム管理者の処置】

エラーの原因を取り除いた後、ジョブ実行制御を開始してください。問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: WARNING: 10072: Unable to open to the job execution status information file.

【メッセージの意味】

ジョブの稼働実績情報のファイルのオープンに失敗しました。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンの起動処理を継続します。ジョブの稼働実績情報の書き込みを一時停止します。

【原因】

以下の原因が考えられます。

- ファイルシステムに空きスペースがない。
- 稼働実績情報ファイルの保存先ディレクトリが存在しない。

【システム管理者の処置】

- ファイルシステムに空きスペースがない場合は、ファイルシステム上の不要ファイルを削除するなどして、空きスペースを確保してください。
- 稼働実績情報ファイルの保存先ディレクトリが存在しない場合は、[運用情報の定義]ウィンドウ−[ログ]シートの[稼働実績情報を保存する]の、[保存場所]に指定したディレクトリを作成してください。

上記以外のエラーの場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10073: The system error occurred during the processing of the job execution history/status information program.

【メッセージの意味】

履歴情報採取デーモンにてエラーが発生しました。

【システムの処理】

ログ機能が無効になり、処理は続行されます。

【原因】

以下の原因が考えられます。

1. システム資源が枯渇している。

【システム管理者の処置】

エラーの原因を取り除いた後、ジョブ実行制御を開始してください。問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10074: Error in writing to the job execution status information file.

【メッセージの意味】

ジョブの稼働実績情報ファイルの書き込みに失敗しました。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンの起動処理を継続します。ジョブの稼働実績情報の書き込みを一時停止します。

【原因】

以下の原因が考えられます。

1. ファイルシステムに空きスペースがない。

【システム管理者の処置】

原因1の場合は、ファイルシステムに空きスペースを確保してください。上記以外のエラーの場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: WARNING: 10075: Unable to make the directory for sub-system of history/status information file.

【メッセージの意味】

サブシステム用の実行履歴ログディレクトリ、または、稼働実績ログディレクトリの作成に失敗しました。

【システムの処理】

ログ機能が無効になり、処理は続行されます。

【システム管理者の処置】

存在しないパスにディレクトリを作成してようとしている、またはすでに同名のファイルが存在する、などが考えられます。ログディレクトリの存在するファイルシステムを調査し、原因を取り除いてください。原因が取り除けた場合には、

Systemwalkerを再起動してください。問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10076: Error in sending job message to Job Scheduler (jscmid:jscmid, mtype:mtype, mtext:mtext).

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラへのジョブの状態通知に失敗しました。

【パラメタの意味】

jscmid: メッセージ番号

mtype: メッセージタイプ

mtext: メッセージテキスト

【システムの処理】

ジョブの実行を継続します。

【原因】

以下の原因が考えられます。

1. システムリソースであるメッセージが不足している。

【システム管理者の処置】

原因1の場合は、メッセージキューを拡張してください。拡張方法は“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”の“メッセージキューの拡張”を参照してください。上記以外のエラーの場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10077: jobinfo read error. delete path(path)

【メッセージの意味】

ジョブ情報ファイルの読み込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

path:読み込みに失敗したファイルパス

【システムの処理】

ジョブの実行を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10078: jobinfo read error. delete jobdir=jobdir

【メッセージの意味】

ジョブ情報ファイルの読み込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

jobdir:読み込みに失敗したディレクトリ

【システムの処理】

ジョブの実行を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10079: PreInitJob() : jcl struct convert error. delete jobdir=jobdir. code=code.

【メッセージの意味】

JCL構造体の変換に失敗しました。

【パラメタの意味】

jobdir：削除に失敗したディレクトリ

code：エラーコード

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10080: PreInitJob() :Return value can not be set to jobinfo file. jobno=jobno, queue=queue

【メッセージの意味】

ジョブ情報ファイルの書き込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

jobno：ジョブ番号

queue：キュー名

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10081: jobinfo write error. jobno=jobno, queue=queue

【メッセージの意味】

ジョブ情報ファイルの書き込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

jobno：ジョブ番号

queue：キュー名

【システムの処理】

ジョブの実行を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10082: jmnetsv : Security mode is set to OFF. Because swadmin group does not exist.

【メッセージの意味】

swadminグループが存在しないため、セキュリティモードオフとして動作します。

【システムの処理】

セキュリティモードオフとして動作します。

【システム管理者の処置】

OSのグループ定義にswadminグループを作成し、Systemwalker Operation Managerを再起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10083: mjsnetsv : Failed in deciding Network Control Table size.

【メッセージの意味】

ネットワークコントロールテーブルのサイズを決定できませんでした。

【システムの処理】

mjsnetsvは停止します

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10084: jmnetsv : Failed in allocating Network Control Table.

【メッセージの意味】

ネットワークコントロールテーブルの割当てに失敗しました。

【システムの処理】

jmnetsvは停止します。

【システム管理者の処置】

jmnetsvの起動に必要なメモリが不足しています。その他の不要なアプリケーションを終了させるか、メモリを増設し、Systemwalker Operation Managerを再起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10085: mjsnetsv : Failed in allocating Network Control Table.

【メッセージの意味】

ネットワークコントロールテーブルの割当てに失敗しました。

【システムの処理】

mjsnetsvは停止します

【システム管理者の処置】

mjsnetsvの起動に必要なメモリが不足しています。その他の不要なアプリケーションを終了させるか、メモリを増設し、ジョブ実行制御デーモンを再起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10086: mjsnetsv : nodemap process failed.

【メッセージの意味】

ノード名定義ファイルの処理で異常がありました。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10087: mjsnetsv : CLUSTER HOST information file format is invalid.

【メッセージの意味】

ノード名定義ファイルの書式に誤りがあります。

【原因】

ノード名(ホスト名)が引き継がれないクラスタシステムにおいて、スケジュールサーバダウン／切替えが行われた場合でも、ジョブ実行サーバへ実行を依頼していたジョブの状況を把握することができません。以下の原因が考えられます。

1. ノード名定義ファイルの記述に誤りがある。

【システム管理者の処置】

原因1の場合は、ノード名定義ファイルの記述の誤りを修正した後、ジョブ実行制御のデーモンを再起動してください。ノード名定義ファイルの記述形式については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10088: Failed in the end notification of job (jobno=<jobno>, org_host=<host>, org_jobno=<org_jobno>, org_sub_system=<subsys>)

【メッセージの意味】

実行サーバから投入サーバへ、ジョブの終了を通知する処理において、ファイルの書込みに失敗しました。

このため、ジョブの終了通知は実施されませんでした。

【パラメタの意味】

jobno: 実行サーバでのジョブ番号

host: 投入サーバ名

org_jobno: 投入サーバでのジョブ番号

subsys: 投入サーバサブシステム番号

【システムの処理】

投入サーバにおいてジョブが0x40000132で異常終了します。

【利用者の処置】

ファイルシステムの枯渇や異常が発生していないか確認してください。枯渇や異常が発生している場合は、ファイルシステムの問題を取り除いてください。確認するファイルシステムは、/var/spool/mjes配下です。シンボリックリンクの場合は、リンク先の実体のファイルを確認してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10089: mjsrjob : job information file write error. error code = xxx. jobname = xxx, job number = xxx, job end code = xxx.

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ投入プロセスにおいて、ジョブ実行制御の内部ファイルに書き込めませんでした。

【パラメタの意味】

error code: システムのエラーコード

jobname: ジョブ名

job number: ジョブ番号

job end code: ジョブの終了コード

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡してください。

【システム管理者の処置】

error codeを調査し、エラーの原因を取り除いてください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10090: mjsrjob : job information file read error. error code = xxx. jobname = xxx, job number = xxx, job end code = xxx.

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ投入プロセスにおいて、ジョブ実行制御の内部ファイルが読み込めませんでした。

以下の原因が考えられます。

a. Systemwalker Operation Managerを起動するジョブを、ジョブネットに登録して実行した。

   この場合、Systemwalker Operation Managerの動作は保証されません。

b. 以下の条件を満たすジョブを、ジョブネットに登録して実行した。

－ qsubコマンドまたはqsubコマンドを実行するシェルスクリプトであり、qsubコマンドで-xと-rhの両オプションを指定している

この状態でジョブを実行した場合、ジョブからジョブを投入するといった入れ子の動作になり、オーバヘッドが発生します。

【パラメタの意味】

error code: システムのエラーコード

jobname: ジョブ名

job number: ジョブ番号

job end code: ジョブの終了コード

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡してください。

【システム管理者の処置】

原因別に以下の対処をしてください。

a. Systemwalker Operation Managerを起動するジョブを、Systemwalker Operation Managerに登録しないでください。

b. qsubコマンドを使用せず、実行したいコマンドを直接Systemwalker Operation Managerのジョブとして登録してください。

上記に該当しない場合、error codeを調査し、エラーの原因を取り除いてください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: WARNING: 10091: The continuous execution modes of each server are not unified.

【メッセージの意味】

実行継続モードが各サーバで統一されていません。

【システム管理者の処置】

各サーバの実行継続モードを統一してください。実行継続モードの切替え方法については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”の“jmmode 実行継続モード切り替えコマンド”を参照してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10092: F3CUB_LOG_PIPE open error occurred. error code=xxxx

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御の内部ファイルのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

xxxx: OSのエラーコード

【システムの処理】

ジョブの履歴情報採取ファイルへの書き込みを中止します。ジョブの履歴情報採取ファイルに履歴は残りませんが、ジョブの実行処理に影響はありません。継続してジョブの実行処理を行います。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

OSのエラーコードをもとに原因を取り除いた後、必要であればジョブ実行制御のデーモンを再起動してください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10093: F3CUB_LOG_PIPE write error occurred. error code=xxxx

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御の内部ファイルへの書き込みエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

xxxx: OSのエラーコード

【システムの処理】

ジョブの履歴情報採取ファイルへ書き込みを中止します。ジョブの履歴情報採取ファイルに履歴は残りませんが、ジョブの実行処理に影響はありません。継続してジョブの実行処理を行います。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡してください。

【システム管理者の処置】

OSのエラーコードをもとに原因を取り除いた後、必要であればジョブ実行制御のデーモンを再起動してください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10094: Console process fork failed. error code=xxxx

【メッセージの意味】

履歴情報採取デーモンの起動に失敗しました。

【パラメタの意味】

xxxx: OSのエラーコード

【システムの処理】

履歴情報採取デーモンの起動を中止します。ジョブの履歴情報採取ファイルに履歴は残りませんが、ジョブの実行処理に影響はありません。継続してジョブの実行処理を行います。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

OSのエラーコードをもとに原因を取り除いた後、必要であればジョブ実行制御のデーモンを再起動してください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10095: Console process execute failed. error code=xxxx

【メッセージの意味】

履歴情報採取デーモンの起動に失敗しました。

【パラメタの意味】

xxxx: OSのエラーコード

【システムの処理】

履歴情報採取デーモンの起動を中止します。ジョブの履歴情報採取ファイルに履歴は残りませんが、ジョブの実行処理に影響はありません。継続してジョブの実行処理を行います。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

OSのエラーコードをもとに原因を取り除いた後、必要であればジョブ実行制御のデーモンを再起動してください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10096: mjsini process execute failed. error code=xxxx

【メッセージの意味】

ジョブ実行イニシエータの起動に失敗しました。

【パラメタの意味】

xxxx: OSのエラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行イニシエータの起動を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

OSのエラーコードをもとに原因を取り除いてください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10097: mjsisini process execute failed. error code=xxxx

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御のオンラインイニシエータの起動に失敗しました。

【パラメタの意味】

xxxx: OSのエラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行制御のオンラインイニシエータの起動を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

OSのエラーコードをもとに原因を取り除いてください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10098: job status is not notify.

【メッセージの意味】

システム資源(メッセージキュー)が不足しているため、ジョブの状態をジョブスケジューラへ通知できませんでした。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡してください。

【システム管理者の処置】

メッセージキューを拡張してください。拡張方法は、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”の“メッセージキューの拡張”を参照してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10099: Error in reading the host group file during initialization.

【メッセージの意味】

初期化処理中に、ホストグループ情報ファイルの読み込み処理でエラーが発生しました。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10100: Failure in starting mjsnetsv daemon.

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ受付デーモンの起動に失敗しました。

【システムの処理】

ネットワークジョブを受け付けることができません。

【システム管理者の処置】

mjsnetsvの起動に必要なメモリが不足しています。その他の不要なアプリケーションを終了させるか、メモリを増設し、ジョブ実行制御デーモンを再起動してください。

[UNIX]MpMjes: INFO : 10101: The Systemwalker MpMjes has been stopped.

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御の運用は正常に停止されました。

[UNIX]MpMjes: INFO : 10102: The Systemwalker MpMjes has been started. startmode=x,lang=y,jmmode=z.

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御の運用が開始されました。

【パラメタの意味】

startmode: 起動時のデーモンの状態

- 0: リカバリモード
- 1: 初期化モード
- 2: 継続モード

lang: 起動時の文字コード

- 1: 英語
- 2: シフトJIS
- 3: EUC
- 4: UTF-8

jmmode: 起動時の実行継続モードの有無

- 0: 無効

- 1: 有効

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10110: mjsnetsv : Failed in the bind of port number <number>.

【メッセージの意味】

mjsnetsvがポート <number> のバインドに失敗しました。

【パラメタの意味】

number: ポート番号

【システムの処理】

mjsnetsvは停止します。

【システム管理者の処置】

ポート<number>が他のアプリケーションによって既に使用されている可能性があります。他のアプリケーション使用ポート番号を変更するか、mjsnetのポート番号を変更して、ジョブ実行制御デーモンを再起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10111: jmnetsv : Failed in the bind of port number <number>.

【メッセージの意味】

jmnetsvがポート<number>のバインドに失敗しました。

【パラメタの意味】

number: ポート番号

【システムの処理】

jmnetsvは停止します。

【システム管理者の処置】

ポート<number>が他のアプリケーションによって既に使用されている可能性があります。他のアプリケーション使用ポート番号を変更するか、jmnetのポート番号を変更して、Systemwalker Operation Managerを再起動してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10112: Failure in starting session manager daemon.

【メッセージの意味】

セッション管理デーモンの起動に失敗しました。

【システムの処理】

“MpJmSrv”から起動されるデーモンのうち、セッション管理デーモンの起動処理は中断されます。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: WARNING: 10113: mjsnetsv : TCP port number does not exist.

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ監視用、TCPポート番号が存在しません。

【システム管理者の処置】

各サブシステムに対応するネットワークジョブ監視用、TCPポート番号を追加してください。

ただし、ネットワークジョブを投入しない運用の場合、本メッセージが出力されても業務への影響はないため、無視しても問題ありません。(本メッセージは、複数サブシステム運用のサーバから複数サブシステム運用のサーバへネットワークジョブを投入するような場合に、警告メッセージとして、ジョブ実行制御・デーモン起動時に出力されます。)

[UNIX]MpMjes: WARNING: 10114: It doesn't end even if job name (jobname) lapses by end plan time (time) seconds. (Project Name=projectname, Job Net=jobnetname)

【メッセージの意味】

当ジョブの実行経過時間が、指定された実行予測時間を超過しました。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

time: 定義された実行予測時間

projectname: プロジェクト名

jobnetname: ジョブネット名

【システムの処理】

ジョブの実行は継続されます。

【システム管理者の処置】

必要であれば、当該ジョブを強制終了してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10115: job process fork failed. jobnet= jobnet jobname= jobname jobno= jobno

【メッセージの意味】

ジョブのプロセス生成に失敗しました。

【パラメタの意味】

jobnet: ジョブネット名

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

【システムの処理】

ジョブの起動を中止します。

【原因】

以下の原因が考えられます。

- システムとして生成可能なプロセス数の上限を超えた。

【システム管理者の処置】

同時実行多重度の見直しを実施し願います。

[UNIX]MpMjes: WARNING: 10120: Execution server <hostname> was excluded from host group <hostgroup>.

【メッセージの意味】

分散実行ジョブにおいて、実行サーバへジョブの実行依頼を行うことができず、実行サーバが分散対象から除外されました。

【パラメタの意味】

hostname: ジョブの依頼を行うことができず、分散対象から除外された実行サーバ名が表示されます。

hostgroup: 除外された実行サーバが属していたホストグループ名が表示されます。

【システムの処理】

該当実行サーバはいったん分散対象から除外されます。

【システム管理者の処置】

ジョブの実行依頼ができなかった実行サーバの状態を確認して原因を取り除いてください。実行サーバの電源が入っていない、ジョブ実行制御のデーモンが起動していない、ネットワークが不通状態などの原因が考えられます。

[UNIX]MpMjes: WARNING: 10123: Abnormalities were detected to mjes.job.exit file.

【メッセージの意味】

デマンドジョブ終了出口ファイルの確認に失敗しました。

【原因】

以下の原因が考えられます。

- デマンドジョブ終了出口ファイルのアクセス権に実行権が与えられていない可能性がある。
- デマンドジョブ終了出口ファイルが壊れている。
- ファイルシステムの異常によりデマンドジョブ終了出口ファイルにアクセスできない。

【システムの処理】

デーモンの起動処理は続行されますが、デマンドジョブ終了出口は無効な状態で運用されます。

【システム管理者の処置】

デマンドジョブ終了出口ファイルが正しいファイルであるかを確認し、原因を取り除いてください。

原因を取り除いた後、デーモンを再起動してください。

デーモンを再起動しても同じメッセージが出力される場合は、富士通技術員(SE)に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10124: mjes.job.exit was not able to be called. code = xxxx

【メッセージの意味】

デマンドジョブ終了出口の呼出しに失敗しました。

【原因】

以下の原因が考えられます。

- デマンドジョブ終了出口ファイルが存在しない。
- デマンドジョブ終了出口ファイルが実行可能なファイルでない。
- メモリ不足などによりプロセスの生成に失敗した。

【パラメタの意味】

xxxx: OSから通知されたシステムエラーコード

【システムの処理】

デマンドジョブ終了出口の呼出し処理を中止します。

【システム管理者の処置】

OSのエラーコードをもとに原因を取り除いた後、必要であればジョブ実行制御のデーモンを再起動してください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: WARNING: 10127: The host group has more than one host with the same name. The hosts specified redundantly have been ignored.

【メッセージの意味】

ホストグループに同名ホストが複数指定されています。2つ目以降の指定が無視されました。

【システムの処理】

複数指定されている同名ホストの2つ目以降の指定が無視されて、ジョブ実行制御デーモンが起動します。

【システム管理者の処置】

ホストグループに同名ホストが重複しないように、設定を見直してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10128: Failed to create the exclusive processing control file for distributed execution. error code=xxxx

【メッセージの意味】

分散実行排他制御ファイルの作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

xxxx: OSのエラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

OSのエラーコードをもとに、原因を取り除いた後、ジョブ実行制御デーモンを再起動してください。OSのエラーコードより原因が分からない場合は、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10129: mjsdaemon has stopped, because the system error occurred.

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御デーモンの処理において、システムエラーが発生しました。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: WARNING: 10132: XXXX The daemon failed to set policy information.

【メッセージの意味】

配付されたポリシー情報(運用情報、信頼ホスト、ノード名定義ファイルのいずれか)の設定に失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: コピー先のポリシー情報ファイル

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンの起動処理は継続され、ジョブ実行制御デーモンは、設定に失敗したポリシー情報が設定されない状態で起動されます。

【システム管理者の処置】

設定されなかったポリシー情報を確認してください。ポリシー情報を再設定する場合は、ジョブ実行制御デーモンを再起動してください。

[UNIX]MpMjes: WARNING: 10135: The line %1 of the user control list for job execution is too long.

【メッセージの意味】

実行ユーザ制限リストの%1行目が一行の最大文字数(1024バイト)を超えているため、その行は無視されました。

【パラメタの意味】

%1:実行ユーザ制限リストの行数

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンの起動処理を継続します。

【利用者の処置】

実行ユーザ制限リストの該当行を1024バイト以下の指定に変更してください。

[UNIX]MpMjes: WARNING: 10136: The user control list for job execution contains more than 256 users.

【メッセージの意味】

実行ユーザ制限リストの指定行が256行を超えているため、257行目以降は無視されました。

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンの起動処理を継続します。

【利用者の処置】

実行ユーザ制限リストの257行目以降を削除してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10137: Failed to open the user control list for job execution. error code=xxxx

【メッセージの意味】

実行ユーザ制限リストのオープン処理に失敗しました。

【パラメタの意味】

xxxx: OSのエラーコード

【システムの処理】

ジョブ実行制御デーモンは停止します。

【システム管理者の処置】

OSのエラーコードをもとに原因を取り除いてください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: WARNING: 10138: Failed to load the audit log library.

【メッセージの意味】

監査ログを出力するためのライブラリのロードで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

以下のファイルが存在しているか確認してください。存在している場合、ファイルが壊れている可能性があります。Systemwalker Operation Managerを再インストールまたは富士通技術員に連絡してください。

【Solaris版/AIX版/Linux版】

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito.so

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito_nt.so

【HP-UX版】

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito.sl

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito_nt.sl

[UNIX]MpMjes: WARNING: 10139: Failed to read the audit log file.

【メッセージの意味】

監査ログの出力先ファイルのオープンで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

- 空き容量が不足していないか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリが存在しているか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリのパーミッション/権限を確認してください。利用者制限の定義を利用していない場合、一般ユーザ/Everyoneから書き込める権利が必要です。
- 監査ログの出力先ファイルが壊れている可能性があります。壊れている監査ログの出力先ファイルを退避後、削除してください。
- 監査ログ出力先のハードディスクに障害が発生している場合は、ハードディスクの交換、および復旧が必要な場合があります。

監査ログの出力先ファイルおよびディレクトリは、mpsetlogsend_omgrコマンドで指定できます。mpsetlogsend_omgrコマンドの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10140: Failed to allocate memory.

【メッセージの意味】

初期化処理において、メモリ確保に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから再度実行してください。

【システム管理者の処置】

物理メモリを増設するか、スワップの設定を変更してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10141: failed in allocate of the memory.

【メッセージの意味】

ネットワークジョブの状態取得処理において、メモリ確保に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから再度実行してください。

【システム管理者の処置】

物理メモリを増設するか、スワップの設定を変更してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10142: Process Information File open error occurred. Failed in the injection of the job.

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ投入処理において、実行サーバでネットワークジョブの状態を管理するプロセス状態管理ファイルのオープンに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

プロセス状態管理ファイルが存在しない、または、壊れている可能性があります。

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10143: Process Information File read error occurred. Failed in the injection of the job.

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ投入処理において、実行サーバでネットワークジョブの状態を管理するプロセス状態管理ファイルの読み込み処理に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

プロセス状態管理ファイルが存在しない、または、壊れている可能性があります。

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10144: Process Information File write error occurred. Failed in the injection of the job.

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ投入処理において、実行サーバでネットワークジョブの状態を管理するプロセス状態管理ファイルの書き込み処理に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

プロセス状態管理ファイルが存在しない、または、壊れている可能性があります。

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10145: Process Information File close error occurred. Failed in the injection of the job.

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ投入処理において、実行サーバでネットワークジョブの状態を管理するプロセス状態管理ファイルのクローズ処理に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

プロセス状態管理ファイルが存在しない、または、壊れている可能性があります。

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10146: Process Information File open error occurred. Job is carrying it out.

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ終了処理において、実行サーバでネットワークジョブの状態を管理するプロセス状態管理ファイルのオープンに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

プロセス状態管理ファイルが存在しない、または、壊れている可能性があります。

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10147: Process Information File read error occurred. Job is carrying it out.

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ終了処理において、実行サーバでネットワークジョブの状態を管理するプロセス状態管理ファイルの読み込み処理に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

プロセス状態管理ファイルが存在しない、または、壊れている可能性があります。

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10148: Process Information File write error occurred. Job is carrying it out.

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ終了処理において、実行サーバでネットワークジョブの状態を管理するプロセス状態管理ファイルの書き込み処理に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

プロセス状態管理ファイルが存在しない、または、壊れている可能性があります。

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpMjes: ERROR: 10149: Process Information File close error occurred. Job is carrying it out.

【メッセージの意味】

ネットワークジョブ終了処理において、実行サーバでネットワークジョブの状態を管理するプロセス状態管理ファイルのクローズ処理に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

プロセス状態管理ファイルが存在しない、または、壊れている可能性があります。

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

2.12 mpnjsosvで始まるメッセージ

本節では、mpnjsosvで始まるメッセージについて説明します。

mpnjsosvで始まるメッセージは、業務連携が出力するメッセージです。

[Windows]mpnjsosv: 情報: 8449: 業務連携エンジンが初期処理を開始しました。

【メッセージの意味】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)が初期処理を開始しました。

[Windows]mpnjsosv: 情報: 8450: 業務連携エンジンがスケジュール処理を開始しました。

【メッセージの意味】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)がスケジュール処理を開始しました。

[Windows]mpnjsosv: 情報: 8451: 業務連携エンジンが停止処理を開始しました。

【メッセージの意味】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)が停止処理を開始しました。

[Windows]mpnjsosv: 情報: 8452: 業務連携エンジンがスケジュール処理を停止しました。

【メッセージの意味】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)がスケジュール処理を停止しました。

[Windows]mpnjsosv: エラー: 8706: 業務連携エンジンは、初期処理で異常が発生したため、スケジュール処理を開始できませんでした。

【メッセージの意味】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)は、初期処理で異常が発生したため、スケジュール処理を開始できませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。問題が解決しない場合は保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

[Windows]mpnjsosv: 警告: 8736: 監査ログライブラリのロードに失敗しました。

【メッセージの意味】

監査ログを出力するためのライブラリのロードで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

以下のファイルが存在しているか確認してください。存在している場合、ファイルが壊れている可能性があります。Systemwalker Operation Managerを再インストールまたは富士通技術員に連絡してください。

Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥bin¥mpaudito.dll

[Windows]mpnjsosv: 警告: 8737: 監査ログファイルの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

監査ログの出力先ファイルのオープンで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

- 空き容量が不足していないか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリが存在しているか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリのパーミッション/権限を確認してください。利用者制限の定義を利用していない場合、一般ユーザ/Everyoneから書き込める権利が必要です。
- 監査ログの出力先ファイルが壊れている可能性があります。壊れている監査ログの出力先ファイルを退避後、削除してください。
- 監査ログ出力先のハードディスクに障害が発生している場合は、ハードディスクの交換、および復旧が必要な場合があります。

監査ログの出力先ファイルおよびディレクトリは、mpsetlogsend_omgrコマンドで指定できます。mpsetlogsend_omgrコマンドの詳細については、"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

[Windows]mpnjsosv: エラー: 10264: 通信制御部の初期処理で、制御パス確立受付けソケットのバインドに失敗しました。[Error: YYY]

【メッセージの意味】

通信制御部の初期処理で、サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)制御パス確立受付けソケットのバインドに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: サーバ業務連携エンジンが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

業務連携サービスが起動するために必要なポートを、他のアプリケーションがすでに使用しているなどの原因によって、業務連携がポートを使用できない可能性があります。業務連携の起動に必要なポート番号が使用可能な状態になっていることを確認してください。業務連携が使用するポート番号については、"Systemwalker Operation Manager 導入手引書"を参照してください。

[Windows] mpnjsosv: エラー: 10265: 通信制御部の初期処理で、サーバ検索受付けソケットのバインドに失敗しました。[Error: YYY]

【メッセージの意味】

通信制御部の初期処理で、サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)サーバ検索受付けソケットのバインドに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: サーバ業務連携エンジンが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

業務連携サービスが起動するために必要なポートを、他のアプリケーションがすでに使用しているなどの原因によって、業務連携がポートを使用できない可能性があります。業務連携の起動に必要なポート番号が使用可能な状態になっていることを確認してください。業務連携が使用するポート番号については、"Systemwalker Operation Manager 導入手引書"を参照してください。

[Windows]mpnjsosv: エラー: 10266: 通信制御部の初期処理で、業務連携エンジン 業務連携接続ソケットのバインドに失敗しました。[Error: YYY]

【メッセージの意味】

通信制御部の初期処理で、サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス) 業務連携接続ソケットのバインドに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: サーバ業務連携エンジンが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

業務連携サービスが起動するために必要なポートを、他のアプリケーションがすでに使用しているなどの原因によって、業務連携がポートを使用できない可能性があります。業務連携の起動に必要なポート番号が使用可能な状態になっていることを確認してください。業務連携が使用するポート番号については、"Systemwalker Operation Manager 導入手引書"を参照してください。

[Windows]mpnjsosv: エラー: 10308: サーバ検索受付けスレッドで、不正なサーバ検索要求を受信しました。

【メッセージの意味】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)にて、データの受信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を継続します。

【システム管理者の処置】

ネットワークの異常などで、送受信データが破壊された場合に発生します。ネットワークに異常がないか確認してください。メッセージが発生し続ける場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- "サーバ業務連携"機能
- "クライアント業務連携"機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

[Windows]mpnjsosv:エラー: 10340:制御パスサービススレッドで、要求データの受信に失敗しました。[Error: YYY]

【メッセージの意味】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)にて、データの受信に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)が通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)は、受信したデータおよび処理要求を無視します。

【システム管理者の処置】

ネットワークの異常などで、送受信データが破壊された場合に発生します。ネットワークに異常がないか確認してください。メッセージが発生し続ける場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

[Windows]mpnjsosv: エラー: 10371: 業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、要求データの受信に失敗しました。[Error: YYY]

【メッセージの意味】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)にて、データの受信に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)が通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)は、受信したデータおよび処理要求を無視します。

【システム管理者の処置】

ネットワークの異常などで、受信データが破壊された場合に発生します。ネットワークに異常がないか確認してください。メッセージが発生し続ける場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

2.13 MpPmonOで始まるメッセージ

本節では、MpPmonOで始まるメッセージについて説明します。

MpPmonOで始まるメッセージは、プロセス監視が出力するメッセージです。

MpPmonO: 情報: 10000: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視が起動しました。
MpPmonO: INFO: 10000: Started Process Monitor for Systemwalker Operation Manager.

【メッセージの意味】

プロセス監視が起動しました。

MpPmonO: 情報: 10001: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視が停止しました。
MpPmonO: INFO: 10001: Stopped Process Monitor for Systemwalker Operation Manager.

【メッセージの意味】

プロセス監視が停止しました。

MpPmonO: エラー: 10002: Systemwalker Operation Manager のプロセス(XXXX)が正常に動作しているか確認してください。
MpPmonO: ERROR: 10002: Check if the Systemwalker Operation Manager process (XXXX) is running properly.

【メッセージの意味】

プロセス監視により、Systemwalkerのプロセスの異常を検出しました。Systemwalkerのプロセスが正常に動作をしているか確認をする必要があります。

【パラメタの意味】

XXXX:プロセス名

【システム管理者の処置】

“Systemwalker Operation Manager トラブルシューティングガイド”の“プロセスの異常が表示される”を参照し、対処を行ってください。

MpPmonO: エラー: 10003: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視を開始できませんでした。[YYYY]
MpPmonO: ERROR: 10003: Could not start Process Monitor for Systemwalker Operation Manager.[YYYY]

【メッセージの意味】

プロセス監視を開始することができませんでした。プロセス監視機能の定義情報に誤りがある可能性があります。

【パラメタの意味】

YYYY: 詳細コード

【システム管理者の処置】

プロセス監視機能の定義情報が誤っている可能性があります。プロセス監視の動作環境定義ファイル(mppmon.ini)の[Common]セクションの値を見直してください。

プロセス監視の動作環境定義ファイル格納先:

【Windows版】

Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.jm¥mpcmtool¥pmon¥etc¥mppmon.ini

【UNIX版】

/etc/opt/FJSVftlo/pmon/mppmon.ini

MpPmonO: 警告: 10005: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視において、監視対象の取得に失敗しました。[YYYY] [ZZZZ]
MpPmonO: WARNING: 10005: Process Monitor for Systemwalker Operation Manager failed to obtain the monitored processes.[YYYY] [ZZZZ]

【メッセージの意味】

プロセス監視を行うための情報を取得できませんでした。

詳細コードが61～65の場合、システムリソースが一時的に不足している可能性があります。

- 詳細コードが、61の場合

  プロセスを生成できない等、システムの負荷が高い状態で発生します。

- 詳細コードが、63の場合

  プロセスの実行に時間がかかっている等、システムの負荷が高い状態で発生します。

- 詳細コードが、64の場合

  デスクトップヒープ不足等、システムの負荷が高い状態で発生します。

- 詳細コードが、65の場合

  ディスク容量不足やファイルシステムのinode不足等、システムやI/O負荷が高い状態で発生します。

また、ウィルス対策ソフトが動作中にプロセス監視の監視処理が行われた場合、監視情報の取得に失敗し本メッセージが出力される場合があります。

【パラメタの意味】

YYYY: ファイル名(フルパス)またはコマンド名(引数も含む)

ZZZZ: 詳細コード

【システム管理者の処置】

- メッセージ出力が1回の場合

  対処は不要です。このメッセージによるSystemwalker Operation Managerの運用への影響はありません。

- 監視間隔毎にメッセージが出力される場合

  保守情報収集ツールにより、すべての機能の情報を採取し、技術員に連絡してください。

[Windows]MpPmonO: 警告: 10006: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視において、起動待ちに失敗しました。監視を開始します。
[Windows]MpPmonO: WARNING: 10006: Process Monitor for Systemwalker Operation Manager failed to wait until starting to monitor. Started to Monitor.

【メッセージの意味】

プロセス監視の起動待ちに失敗しました。まだ起動していないプロセスの異常を検出する可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールにより、“共通ツール”機能の情報を採取し、技術員に連絡してください。

[Windows]MpPmonO: 警告: 10007: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視において、監視間隔待ちに失敗しました。監視を再開します。
[Windows]MpPmonO: WARNING: 10007: Process Monitor for Systemwalker Operation Manager failed to wait interval time. Repeat to monitor.

【メッセージの意味】

プロセス監視の監視間隔待ちに失敗しました。プロセスの異常を検出する可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールにより、“共通ツール”機能の情報を採取し、技術員に連絡してください。

MpPmonO: 警告: 10008: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視において、監視対象の取得に失敗した可能性があります。[YYYY] [ZZZZ]
MpPmonO: WARNING: 10008: Process Monitor for Systemwalker Operation Manager may have failed to obtain the monitored processes.[YYYY] [ZZZZ]

【メッセージの意味】

プロセス監視を行うための情報の取得に失敗した可能性があります。

【パラメタの意味】

YYYY: ファイル名(フルパス)またはコマンド名(引数も含む)

ZZZZ: 詳細コード

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールにより、すべての機能の情報を採取し、技術員に連絡してください。

MpPmonO: 警告: 10009: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視において、部分停止に関する処理に失敗しました。部分停止時に監視が正しく行われない可能性があります。[YYYY]
MpPmonO: WARNING: 10009: Process Monitor for Systemwalker Operation Manager failed to process partial termination. Partial termination may not be monitored properly.[YYYY]

【メッセージの意味】

Systemwalker の部分停止に対応するための、プロセス監視内部の処理に失敗しました。部分停止時に、部分停止したプロセスを異常として検出する可能性があります。

【パラメタの意味】

YYYY: 自ホストのIPアドレス

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールにより、"共通ツール"機能の情報を採取し、技術員に連絡してください。

MpPmonO: 警告: 10010: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視において、異常を検出しましたが、通知が行われませんでした。
MpPmonO: WARNING: 10010: Process Monitor for Systemwalker Operation Manager detected an error, but did not send notification.

【メッセージの意味】

プロセス監視機能において、異常を検出しましたが通知に失敗しました。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールにより、すべての機能の情報を採取し、技術員に連絡してください。

[Windows]MpPmonO: 警告: 10011: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視においてサービスの停止に失敗しました。[YYYY]
[Windows]MpPmonO: WARNING: 10011: Process Monitor for Systemwalker Operation Manager failed to stop service.[YYYY]

【メッセージの意味】

プロセス監視機能のサービスの停止に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYYY: 詳細コード

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールにより、"共通ツール"機能の情報を採取し、技術員に連絡してください。

[Windows]MpPmonO: 警告: 10012: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視において、システムリソース不足のため監視をスキップします。
[Windows]MpPmonO: WARNING: 10012: Process Monitor for Systemwalker Operation Manager skipped monitoring, because of resource lack.

【メッセージの意味】

システムが過負荷なためプロセス監視を行えません。

【システム管理者の処置】

システムが安定して監視を再開するまでお待ちください。メッセージが連続して出ない場合は、監視を再開できます。

[Windows]MpPmonO: 警告: 10013: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視において、プロセス情報の取得に失敗しました。監視をスキップします。
[Windows]MpPmonO: WARNING: 10013: Process Monitor for Systemwalker Operation Manager failed to get process information.So, skipped monitoring.

【メッセージの意味】

プロセス監視機能がシステムからプロセス情報を取得できませんでした。

【システム管理者の処置】

監視を再開するまでお待ちください。メッセージが連続して出ない場合は、監視を再開できます。

MpPmonO: 警告: 10015: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視において、運用管理クライアントへの通知に失敗しました。
MpPmonO: WARNING: 10015: Process Monitor for Systemwalker Operation Manager failed to notify Operation Management Client.

【メッセージの意味】

プロセス監視機能の異常通知において、運用管理クライアントへの通知に失敗しました。運用管理クライアントへの通知機能は、Systemwalker CentricMGR V10.1/V10.0L20以降の運用管理サーバが導入されている場合のみ有効な機能です。それ以外の環境で機能を有効にしている可能性があります。

【システム管理者の処置】

プロセス監視機能の定義情報が誤っている可能性があります。プロセス監視の動作環境定義ファイル(mppmon.ini)の[Notification]セクションの値を見直してください。

プロセス監視の動作環境定義ファイル格納先:

【Windows版】

Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.jm¥mpcmtool¥pmon¥etc¥mppmon.ini

【UNIX版】

/etc/opt/FJSVftlo/pmon/mppmon.ini

MpPmonO: 警告: 10016: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視において、上位サーバへの異常通知が正常に行われませんでした。
MpPmonO: WARNING: 10016: Process Monitor for Systemwalker Operation Manager failed to notify upstream server of error properly.

【メッセージの意味】

プロセス監視機能の異常通知において、上位サーバへの通知に失敗しました。上位サーバへの通知機能は、Systemwalker CentricMGR V10.1/V10.0L20以降が導入されている場合のみ有効な機能です。それ以外の環境で機能を有効にしている可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールにより、すべての機能の情報を採取し、技術員に連絡してください。

MpPmonO: 警告: 10017: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視において、ユーザ定義のコマンドが実行されませんでした。
MpPmonO: WARNING: 10017: Process Monitor for Systemwalker Operation Manager failed to execute the customized command.

【メッセージの意味】

プロセス監視の異常通知において、ユーザ定義のコマンドが実行されませんでした。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールにより、“共通ツール”機能の情報を採取し、技術員に連絡してください。

MpPmonO: 警告: 10018: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視において、異常通知の情報取得に失敗しました。異常通知は行われません。[YYYY]
MpPmonO: WARNING: 10018: Process Monitor for Systemwalker Operation Manager failed to obtain information on error notification.[YYYY]

【メッセージの意味】

プロセス監視機能の異常通知に必要な情報を取得できませんでした。

【パラメタの意味】

YYYY: 詳細コード

【システム管理者の処置】

プロセス監視機能の定義情報が誤っている可能性があります。プロセス監視の動作環境定義ファイル(mppmon.ini)の[Notification]セクションの値を見直してください。

プロセス監視の動作環境定義ファイル格納先:

【Windows版】

Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.jm¥mpcmtool¥pmon¥etc¥mppmon.ini

【UNIX版】

/etc/opt/FJSVftlo/pmon/mppmon.ini

MpPmonO: 警告: 10019: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視において、通知先サーバの指定に不正なものがあります。[YYYY]
MpPmonO: WARNING: 10019: Definition on the notified server for Process Monitor for Systemwalker Operation Manager is invalid.[YYYY]

【メッセージの意味】

プロセス監視機能の定義情報に設定された通知先サーバが不正です。

【パラメタの意味】

YYYY: 詳細コード

【システム管理者の処置】

プロセス監視機能の定義情報が誤っている可能性があります。プロセス監視の動作環境定義ファイル(mppmon.ini)の[Notification]セクションの値を見直してください。

プロセス監視の動作環境定義ファイル格納先:

【Windows版】

Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.jm¥mpcmtool¥pmon¥etc¥mppmon.ini

【UNIX版】

/etc/opt/FJSVftlo/pmon/mppmon.ini

MpPmonO: 警告: 10020: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視において、上位サーバへの異常通知が正常に行われませんでした。通知先サーバが定義されていない可能性があります。[YYYY]
MpPmonO: WARNING: 10020: Process Monitor for Systemwalker Operation Manager failed to notify upstream server of error properly. Notified server may not be defined.[YYYY]

【メッセージの意味】

プロセス監視の異常通知において、上位サーバへの通知に失敗しました。上位サーバへの通知機能は、Systemwalker CentricMGR V10.1/V10.0L20以降が導入されている場合のみ有効な機能です。それ以外の環境で機能を有効にしている可能性があります。また、Systemwalker Centric Manager システム監視の通知先が定義されていない可能性があります。

【パラメタの意味】

YYYY: 詳細コード

【システム管理者の処置】

プロセス監視の通知先はシステム監視の通知先を使用しています。システム監視の通知先が正しく設定されているか確認してください。

MpPmonO: 警告: 10021: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視において、自ホストのIPアドレス指定が不正です。[YYYY]
MpPmonO: WARNING: 10021: Invalid host IP address is specified for Process Monitor for Systemwalker Operation Manager.[YYYY]

【メッセージの意味】

プロセス監視機能の定義情報に設定された自ホストのIPアドレス指定が不正です。

【パラメタの意味】

YYYY: 詳細コード

【システム管理者の処置】

プロセス監視機能の定義情報が誤っている可能性があります。プロセス監視の動作環境定義ファイル(mppmon.ini)の[Notification]セクションの値を見直してください。

プロセス監視の動作環境定義ファイル格納先:

【Windows版】

Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.jm¥mpcmtool¥pmon¥etc¥mppmon.ini

【UNIX版】

/etc/opt/FJSVftlo/pmon/mppmon.ini

MpPmonO: 警告: 10022: Systemwalker Operation Manager のプロセス監視において、上位サーバへの異常通知が正常に行われませんでした。自ホストのIPアドレスを取得できませんでした。[YYYY]
MpPmonO: WARNING: 10022: Process Monitor for Systemwalker Operation Manager failed to notify upstream server of error properly. Could not obtain the IP address.[YYYY]

【メッセージの意味】

内部処理において、自ホストのIP アドレスの取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYYY: 詳細コード

【システム管理者の処置】

Windows版の場合はlmhostsまたはhostsファイルに、UNIX版の場合は/etc/hostsファイルに、自ホストのホスト名およびIPアドレスを設定してください。

2.14 mpsetlogsendで始まるメッセージ

本節では、mpsetlogsendで始まるメッセージについて説明します。

mpsetlogsendで始まるメッセージは、監査ログ設定コマンド(mpsetlogsend_omgr)が出力するメッセージです。

---

mpsetlogsend: INFO: 0001: Applied the send settings of the <NAME>.

【メッセージの意味】

mpsetlogsend_omgrコマンドが正常終了した場合に標準エラー出力に表示されます。

【パラメタの意味】

NAME:"Systemwalker Operation Manager audit log"を出力します。

mpsetlogsend: ERROR: 1001: Failed to apply the audit log settings.

【メッセージの意味】

監査ログ出力設定が正しく行われませんでした。

監査ログ設定コマンドを実行した際に、監査ログ出力定義が正しく行われていない場合に発生します。

【対処方法】

監査ログ出力設定が正しく行われていない、またはハードウェア障害などにより内部定義が破壊されている可能性があります。

mpsetlogsend_omgrコマンドを実行して本メッセージが表示された場合は、再度mpsetlogsend_omgrコマンドを"-f"および"-k"オプションつきで実行してください。

上記対処を行った後も同じメッセージが表示される場合は、イベントログ/SYSLOGを確認し、ハードウェア異常が表示されていないかを確認してください。

mpsetlogsend: ERROR: 1002: An internal error occurred (Detail code: CODE)

【メッセージの意味】

mpsetlogsend_omgrコマンドの内部矛盾が発生し処理を中止しました。

【パラメタの意味】

CODE : システムのエラー番号が表示されます。

【対処方法】

CODEの値を参照し、システムエラー情報と合わせて障害箇所を特定します。主に、ディスクアクセス不備、ディスクフル、プロセス起動失敗など、システムに起因する問題が原因です。

ディスク、プロセス、メモリなどの使用状況を確認し、不要なファイルの削除、不要なプロセスの停止を実施したうえで再度コマンドを実行してください。

mpsetlogsend: ERROR: 1003: Unsupported command.

【メッセージの意味】

コマンドを実行した環境では、mpsetlogsend_omgrコマンドを使用することができません。

【対処方法】

Systemwalker Operation Managerが正しくインストールされているかを確認してください。

オプションに"-y"または"-n"を指定している場合は、Systemwalker Centric Manager V13.1.0以降が必要です。Systemwalker Centric Manager V13.1.0以降がインストールされているか確認してください。

mpsetlogsend: ERROR: 1004: Invalid option.

【メッセージの意味】

mpsetlogsend_omgrコマンドのオプションに誤りがあります。

【対処方法】

mpsetlogsend_omgrコマンドのオプションを見直してください。

正しいオプションを指定し、再度実行してください。

なお、誤ったオプションが指定された場合は、コマンドの簡単な使用方法が標準エラー出力に出力されます。

mpsetlogsend: ERROR: 1005: Unable to create the log directory.

【メッセージの意味】

mpsetlogsend_omgrコマンドの-fオプションで指定した監査ログ出力先ファイルのうち、格納するために必要となるディレクトリが作成できなかった場合に出力します。

【対処方法】

mpsetlogsend_omgrの-fオプションで指定した監査ログ出力ファイルが格納されるディレクトリが作成可能かどうかを確認してください。

作成されるディレクトリの上の階層にあるディレクトリのアクセス権で、書き込みが不可になっていないか確認してください。

---

mpsetlogsend: ERROR: 1006: Unauthorized to execute the command.

【メッセージの意味】

mpsetlogsend_omgrコマンドを実行するために必要な権限がありません。

【対処方法】

Administratorsグループに属するユーザ/スーパーユーザの権限でコマンドを実行してください。

2.15 MpStemで始まるメッセージ

本節では、MpStemで始まるメッセージについて説明します。

MpStemで始まるメッセージは、マスタスケジュール管理機能が出力するメッセージです。

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルの出力内容と格納先

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルは、マスタスケジュール管理機能でシステムコールが失敗した場合などシステムで異常が発生した際に、詳細なエラー情報が出力されるファイルです。エラー情報の出力内容と格納先は、以下のとおりです。

出力内容

```
****************** Occurring time of Error : YYYY/MM/DD HH:MM:SS
*****************

Error code = [aaaaa]

[Error information]
MESSAGETEXT

PID:nnnnn
xxxxx
yyyyy(zzzzz)
```

出力項目について、以下に説明します。

YYYY/MM/DD HH:MM:SS

現象の発生した日時

aaaaa

マスタスケジュール管理機能のエラーコード

出力されない場合があります。

MESSAGETEXT

発生している現象を説明するメッセージ

nnnnn

異常が発生したプロセスのプロセスID

格納先

【Windows版】

Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.jm¥mpstemsv¥stemDB*n*¥log¥errdump.log(*n*はサブシステム番号)

【UNIX版】

/var/opt/FJSVstem/stemDB*n*/log/errdump.log(*n*はサブシステム番号)

MpStem: INFO: 10001: スケジュール情報の作成を開始しました。(yyyymmdd)
MpStem: INFO: 10001: Creating schedule information. (yyyymmdd)

【メッセージの意味】

日ごと管理のスケジュールの抽出・適用を行うスケジュール管理コマンドが起動されました。yyyymmddは、スケジュールを行う運用日です。

【パラメタの意味】

yyyymmdd：日付

【システムの処理】

処理を継続します。

MpStem: INFO: 10002: スケジュール情報の作成を完了しました。(yyyymmdd)
MpStem: INFO: 10002: Created the schedule information. (yyyymmdd)

【メッセージの意味】

日ごと管理のスケジュールの抽出・適用が正常に完了しました。yyyymmddは、スケジュールされた運用日です。

【パラメタの意味】

yyyymmdd：日付

【システムの処理】

正常終了

MpStem: INFO: 10003: スケジュール情報は既に作成済みのため、作成されませんでした。(yyyymmdd)
MpStem: INFO: 10003: Schedule information already exists. Could not create it. (yyyymmdd)

【メッセージの意味】

yyyymmddの運用日のスケジュール作成は実施済のため、新たにスケジュール作成を行う必要はありません。日変わり時刻到来時、ジョブスケジューラサービス/デーモンの起動時、または当日のスケジュール実行を行ったときに出力されます。

【パラメタの意味】

yyyymmdd：日付

【システムの処理】

正常終了

MpStem: INFO: 10006: 運用変更が正常に行われました。
MpStem: INFO: 10006: Operation Change has been completed successfully.

【メッセージの意味】

事前登録してあった運用変更情報がリリース日を迎えたため、マスタ情報に反映しました。

【システムの処理】

処理を継続します。

MpStem: INFO: 10010: 前日までに終了していないジョブネットが存在しています。
MpStem: INFO: 10010: A job net on the previous day is not completed.

【メッセージの意味】

日変わり時刻到来時に前日までにスケジュールされたジョブネットで未完了のジョブネットが存在しています。

【システムの処理】

処理を継続します。

【システム管理者の処置】

[マスタスケジュール管理状況監視[持ち越しジョブネットの監視]]ウィンドウで、未完了ジョブネットを確認して対処を行ってください。

MpStem: INFO: 10015: プロジェクト数が上限値を超えたため過去のスケジュールを退避しました。
MpStem: INFO: 10015: The number of projects reached the maximum. Created a backup of obsolete schedules.

【メッセージの意味】

スケジュール登録時にプロジェクト数が上限値を超えたため、過去のスケジュール情報を以下のディレクトリに退避しました。

【Windows版】

Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.jm¥mpstemsv¥stemDB*n*¥moveディレクトリ(*n*はサブシステム番号)

【UNIX版】

/var/opt/FJSVstem/stemDB*n*/moveディレクトリ(*n*はサブシステム番号)

【システムの処理】

処理を継続します。

【システム管理者の処置】

退避されたスケジュール情報を参照する場合は、stemprintnet 退避情報確認コマンドを使用してください。

MpStem: ERROR: 10100: スケジュール情報は既に作成済みのため、作成できません。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10100: Schedule information already exists. Cannot create it. (yyyymmdd)

【メッセージの意味】

yyyymmddの運用日のスケジュール作成は実施済のため、新たにスケジュール作成を行うことはできません。運用日指定でオペレータがスケジュール管理コマンドを起動したときに出力されます。

【パラメタの意味】

yyyymmdd: 日付

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール作成後にマスタ情報を変更したため、新たにスケジュール作成を行いたい場合は、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウ/[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウからの再スケジュール、またはスケジュール管理コマンドを再スケジュールオプションで起動することにより再作成できます。記述形式を以下に記述します。

```
stemManager -d yyyymmdd -force
```

MpStem: ERROR: 10101: スケジュール情報は既に作成中のため、作成できません。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10101: Schedule information is currently being created. Cannot create it. (yyyymmdd)

【メッセージの意味】

日変わり時刻でのスケジュール作成時に同一運用日でスケジュール作成途中のデータが存在しているため、スケジュールの作成はできませんでした。運用日指定でオペレータがスケジュール管理コマンドを実行して、スケジュール作成に失敗した可能性があります。

【パラメタの意味】

yyyymmdd：日付

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウからスケジュール実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定で実行することで、前回失敗時のリカバリを行い、スケジュールを作成します。

MpStem: ERROR: 10102: スケジュール情報は他で作成中のため、作成できません。(yyyymmdd) MpStem: ERROR: 10102: Schedule information is currently being created by another process. Cannot create it. (yyyymmdd)

【メッセージの意味】

スケジュール管理コマンドが既に起動中です。

【パラメタの意味】

yyyymmdd：日付

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウで、スケジュールの状況を確認してください。作成中のスケジュールが完了した後、作成されなかった日付(yyyymmdd)に対して、再度操作を行ってください。

MpStem: ERROR: 10103: スケジュール情報の作成に失敗しました。(yyyymmdd) MpStem: ERROR: 10103: Failed to create schedule information. (yyyymmdd)

【メッセージの意味】

スケジュール情報を作成するための環境で問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【パラメタの意味】

yyyymmdd：日付

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウでスケジュール実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定で実行します。

MpStem: ERROR: 10104: スケジュール情報の抽出に失敗しました。 MpStem: ERROR: 10104: Failed to extract the schedule information.

【メッセージの意味】

スケジュール情報をマスタ情報から抽出する際にエラーが発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウでスケジュール実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定で実行します。

MpStem: ERROR: 10105: スケジュール管理ファイルの書き込みに失敗しました。
MpStem: ERROR: 10105: Failed to write the schedule management file.

【メッセージの意味】

スケジュール管理コマンドにおいて、スケジュール作成状況の情報保存でエラーが発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウでスケジュール実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定で実行します。

MpStem: ERROR: 10106: スケジュール情報の配付に失敗しました。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10106: Failed to distribute the schedule information. (XXXX)

【メッセージの意味】

スケジュール情報を管理サーバからスケジュールサーバに配付する際にエラーが発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【パラメタの意味】

XXXX: サーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウでスケジュール実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定で実行します。

MpStem: ERROR: 10107: スケジュール情報の登録に失敗しました。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10107: Failed to register the schedule information. (XXXX)

【メッセージの意味】

スケジュール情報をジョブスケジューラに登録する際にエラーが発生しました。ジョブスケジューラ機能の動作状況を確認してください。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【パラメタの意味】

XXXX: サーバ名

スケジュールサーバを登録せず、1台のサーバで運用している場合、出力されません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウでスケジュール実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定で実行します。

MpStem: ERROR: 10108: スケジュールサーバが存在しません。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10108: Schedule server does not exist. (XXXX)

【メッセージの意味】

スケジュール管理コマンドの起動時に指定したスケジュールサーバ、または、抽出したスケジュール情報のスケジュールサーバが存在していません。

【パラメタの意味】

XXXX: サーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュールサーバの定義を確認し、正しいスケジュールサーバ名を指定してスケジュール管理コマンドを実行します。
または、ジョブネット定義情報のデフォルトホスト名をスケジュールサーバに指定したホスト名に一致させた後、再度操作を行ってください。

MpStem: ERROR: 10109: データが不当なため、プロジェクト情報の登録に失敗しました。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10109: Invalid data. Failed to register the project information. (XXXX)

【メッセージの意味】

プロジェクトのデータが壊れている、または所有者/アクセス権に設定されているユーザが存在しないため、スケジュールサーバのSystemwalker Operation Managerに組み込む際にエラーが発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation Managerに登録されているプロジェクト情報を確認してください。問題がなければプロジェクトマスタ登録コマンドを実行した後、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウでスケジュール実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定で実行します。
(プロジェクト名)の欄にプロジェクト名がない場合、プロジェクト名管理情報にも異常が発生しているため、詳細エラー情報を見てどのプロジェクトでデータ破壊エラーがあったかを判断し、上記リカバリを行ってください。

MpStem: ERROR: 10110: データが不当なため、スケジュール情報の登録に失敗しました。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10110: Invalid data. Failed to register the schedule information. (XXXX)

【メッセージの意味】

抽出したスケジュール情報が壊れているために、Systemwalker Operation Managerに組み込む際にエラーが発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【パラメタの意味】

XXXX: サーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウでスケジュール実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定で実行します。

MpStem: ERROR: 10112: スケジュールサーバとの通信に失敗しました。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10112: Failed to communicate with Schedule Server. (XXXX)

【メッセージの意味】

スケジュールサーバとの通信でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: サーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

以下の点について確認し、問題を取り除いた後、再度操作を行ってください。

- スケジュールサーバが起動されているか
- スケジュールサーバのSystemwalker Operation Managerが起動しているか
- ネットワークの障害が発生していないか

MpStem: ERROR: 10113: スケジュールサーバの定義に同じホスト名が重複して定義されています。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10113: Same host name is defined more than once in the definition on Schedule Server. (XXXX)

【メッセージの意味】

スケジュールサーバの定義に同名のホストが存在します。

【パラメタの意味】

XXXX: サーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

[マスタスケジュール管理環境設定]ダイアログボックスの「スケジュールサーバ」で、分散するサーバを確認のうえ、修正してください。

MpStem: ERROR: 10114: スケジュールサーバの定義に同じIPアドレスが重複して定義されています。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10114: Same IP address is defined more than once in the definition on Schedule Server. (XXXX)

【メッセージの意味】

スケジュールサーバの定義に同じIPアドレスが存在します。

【パラメタの意味】

XXXX: IPアドレス

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

[マスタスケジュール管理環境設定]ダイアログボックスの「スケジュールサーバ」で、分散するサーバのIPアドレスを確認のうえ、修正してください。

MpStem: ERROR: 10119: 環境が正しく構築されていません。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10119: Environment is not configured correctly. (XXXX)

【メッセージの意味】

マスタスケジュール管理環境が正しく構築されていません。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【パラメタの意味】

XXXX: サーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

[マスタスケジュール管理環境設定]ダイアログボックスで環境を確認してください。モードに"設定異常"が表示されている場合は、再度モードを設定して適用することで再構築されます。また、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルにおいてスケジュールサーバの設定異常の場合は、スケジュールサーバのリストを確認して編集/解除の操作を行い、適用してください。

MpStem: ERROR: 10123: 過去のスケジュール情報は作成できません。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10123: Cannot create schedule information for the past date. (yyyymmdd)

【メッセージの意味】

- 日ごと管理のスケジュール作成時

  スケジュール状況管理日数より過去の日付に対して、日ごと管理のスケジュールは実施できません。

- ジョブネット投入コマンドの場合

  過去の日付に対して、ジョブネットの投入はできません。

【パラメタの意味】

yyyymmdd: 日付

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

過去のスケジュール情報は作成しないでください。

MpStem: ERROR: 10124: スケジュール情報の取り消しに失敗しているため、スケジュール作成はできません。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10124: Deletion of the schedule information failed previously. Cannot create it. (yyyymmdd)

【メッセージの意味】

指定の運用日はスケジュールの取り消しで異常が発生している状態のため、スケジュールを作成することはできません。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【パラメタの意味】

yyyymmdd: 日付

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照してスケジュールの取り消しエラーの問題を取り除き、スケジュールの取り消しを行ってください。取り消し後、スケジュールの作成ができます。

MpStem: ERROR: 10130: スケジュール情報の適用に失敗しました。(mmdd)
MpStem: ERROR: 10130: Failed to apply the schedule information. (mmdd)

【メッセージの意味】

スケジュール情報をジョブスケジューラに適用する際にエラーが発生しました。ジョブスケジューラの動作状況の確認、または[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウで、マスタスケジュール管理状況を確認してください。上記の原因で分からないときは、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに詳細なエラー情報が出力されていますので、内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【パラメタの意味】

mmdd: 日付

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

原因を取り除いた後に、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウからスケジュール実行します。

MpStem: ERROR: 10131: サブシステム環境が作成されていません。
MpStem: ERROR: 10131: Subsystem environment is not created.

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Manager のサブシステムが作成されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation Manager のサブシステムを作成後、[マスタスケジュール管理環境設定]ダイアログボックスで環境設定をやり直してください。

MpStem: ERROR: 10132: スケジュール環境設定ファイルに不当な値が設定されています。
MpStem: ERROR: 10132: Invalid value is specified in the schedule configuration file.

【メッセージの意味】

スケジュール環境設定ファイルが壊れています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

バックアップでデータが退避してある場合、退避先の以下のファイルを復元してください。

【Windows版】

退避先ディレクトリ¥omgr¥mpstemsv¥stemDB*n*¥etc¥stemmanager.ini(*n*はサブシステム番号)

【UNIX版】

退避先ディレクトリ/FJSVstem/stemDB*n*/etc/stemmanager.ini(*n*はサブシステム番号)

リストアをした場合、バックアップを行った時期によりスケジュール状況を保管するDBが戻ってしまい、一部情報が抜けることがあります。

バックアップデータがない場合、以下のファイルを削除して新規にスケジュール環境設定を行う必要があります。

【Windows版】

Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.jm¥mpstemsv¥stemDB*n*¥etc¥stemmanager.ini(*n*はサブシステム番号)

【UNIX版】

/var/opt/FJSVstem/stemDB*n*/etc/stemmanager.ini(*n*はサブシステム番号)

MpStem: ERROR: 10133: 30日先の未来のスケジュールはできません。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10133: Can only schedule 30 days into the future. (yyyymmdd)

【メッセージの意味】

未来のスケジュール可能な日付は当日から30日以内です。

【パラメタの意味】

yyyymmdd: 日付

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

30日を超えた未来のスケジュールをしないでください。

MpStem: ERROR: 10134: 年をまたいだ過去のスケジュールはできません。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10134: Cannot schedule for a date in the previous year. (yyyymmdd)

【メッセージの意味】

年をまたいでしまった場合、過去の起動日情報が失われてしまうため、スケジュール実行ができなくなります。

【パラメタの意味】

yyyymmdd: 日付

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

年をまたいだ過去のスケジュールをしないでください。

MpStem: ERROR: 10136: 運用変更に失敗しました。
MpStem: ERROR: 10136: Operation Change has failed.

【メッセージの意味】

運用日のスケジュール実行時の運用変更で問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウでスケジュール実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定で実行します。

MpStem: ERROR: 10137: 運用変更の予定チェックに失敗しました。
MpStem: ERROR: 10137: Failed to check the schedule for Operation Change.

【メッセージの意味】

運用日のスケジュール実行時の運用変更の有無をチェックする際に問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウでスケジュール実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定で実行します。

MpStem: ERROR: 10138: 運用変更が失敗しているため、スケジュールは実行できません。
MpStem: ERROR: 10138: Cannot run the schedule because the Operation Change process has failed previously.

【メッセージの意味】

運用変更が失敗しているため、新たにスケジュールの作成ができない状態になっています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

異常の発生している運用日のスケジュールを完了させた後、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウでスケジュール実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定で実行します。

MpStem: ERROR: 10139: 運用日のスケジュールが未作成のため、スケジュールサーバ指定のスケジュールはできません。
MpStem: ERROR: 10139: No operation is scheduled by dates. Cannot schedule using Schedule Server.

【メッセージの意味】

新規に運用日のスケジュールを作成する場合、スケジュールサーバ指定では実行できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

新規にスケジュールを作成する場合は、サブシステム単位でスケジュールを実行します。

MpStem: ERROR: 10143: サーバ間で仮想時間の同期がとれていません。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10143: Virtual time is not in sync between servers. (XXXX)

【メッセージの意味】

管理サーバとスケジュールサーバで仮想時間の同期がとれていないため、スケジュール情報の分散ができません。同期のとれていないスケジュールサーバ名が表示されています。

【パラメタの意味】

XXXX: サーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

[マスタスケジュール管理環境設定]ダイアログボックスの[サブシステム]を選択し、[仮想時間の設定]で[同期のみ実行]を行ってください。

MpStem: ERROR: 10144: プロジェクトのマスタ設定情報が読み込めません。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10144: Cannot read the master setting of the project. (XXXX)

【メッセージの意味】

プロジェクトのマスタ設定情報が正しく登録されていません。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

再度、プロジェクトのマスタ設定(stemSetPrjMaster)を行ってください。

MpStem: ERROR: 10145: スケジュール情報の登録を確認できませんでした。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10145: Could not check if the schedule information is registered. (XXXX)

【メッセージの意味】

スケジュール実行において、管理サーバ側でスケジュールサーバのスケジュール情報の登録状況の確認に失敗しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【パラメタの意味】

XXXX: サーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウでスケジュール実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定で実行します。

MpStem: ERROR: 10146: 管理サーバへの通知に失敗しました。
MpStem: ERROR: 10146: Failed to notify the management server.

【メッセージの意味】

スケジュールサーバ側でスケジュールの適用状況を管理サーバに通知するときにエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウでスケジュール実行します。

MpStem: ERROR: 10147: スケジュールの適用で異常が発生しました。
MpStem: ERROR: 10147: An error occurred while applying the schedule.

【メッセージの意味】

スケジュール情報の適用処理を行う前にエラーが発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して原因を取り除いた後、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウからスケジュール実行します。

MpStem: ERROR: 10148: スケジュールサーバが追加されているため、異常状況に対するスケジュールの実行はできません。
MpStem: ERROR: 10148: A schedule server has been added. Cannot start the schedule for error status.

【メッセージの意味】

マスタスケジュール管理での運用形態を1台のサーバから複数サーバでの運用形態に変更した場合、1台の運用形態で発生したスケジュールの異常はリカバリできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

異常状況のスケジュールを取り消して、再度スケジュールを実行するか、運用形態を1台のサーバに戻して、スケジュールの実行(リカバリ)を行ってください。スケジュールの取り消し/スケジュールの実行は、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウで実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定で実行します。

MpStem: ERROR: 10149: コード変換により、文字列の最大バイト数を超えました。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10149: The string exceeded the maximum size (bytes) after encoding. (XXXX)

【メッセージの意味】

スケジュール情報の文字列をコード変換する際に、情報領域の最大バイト数を越える文字列が存在します。バイト数を越える領域の情報は、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますのでマスタ情報の文字列を修正してください。

【パラメタの意味】

XXXX: スケジュールサーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタ情報のマスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力された領域の文字列を修正した後、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウでスケジュール実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定で実行します。

MpStem: ERROR: 10150: 旧バージョンのスケジュールサーバに対するスケジュール分散はできません。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10150: Cannot distribute schedules to an earlier version of the schedule server. (XXXX)

【メッセージの意味】

スケジュールサーバのSystemwalker Operation Managerが、管理サーバのSystemwalker Operation Managerより前のバージョンの製品であるため、スケジュール情報を配付することはできません。

【パラメタの意味】

XXXX: スケジュールサーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュールサーバの Systemwalker Operation Manager をバージョンアップし、再度操作を行ってください。

MpStem: ERROR: 10150: 旧バージョンのスケジュールサーバに対するスケジュール情報の配付はできません。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10150: Cannot distribute schedules to an earlier version of the schedule server. (XXXX)

【メッセージの意味】

スケジュールサーバのSystemwalker Operation Managerが、管理サーバのSystemwalker Operation Managerより前のバージョンの製品であるため、スケジュール情報を配付することはできません。

【パラメタの意味】

XXXX: スケジュールサーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュールサーバの Systemwalker Operation Manager をバージョンアップし、再度操作を行ってください。

MpStem: ERROR: 10151: サポートされていない機能が存在します。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10151: One or more functions in the definitions are not supported.(XXXX)

【メッセージの意味】

スケジュール情報を管理サーバからスケジュールサーバに配付する際にサポートされていない機能が含まれていました。

【パラメタの意味】

XXXX:サーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

サポートされていない機能を使用している定義情報については、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されています。マスタスケジュール管理機能詳細エラーファイルの内容を確認のうえマスタ情報の定義を修正してください。マスタ情報の定義を修正した後、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウ、または[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウでスケジュール実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定で実行してください。

MpStem: ERROR: 10152: 年をまたいだ過去のスケジュールはできません。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10152: Cannot schedule for a date in the previous year. (XXXX)

【メッセージの意味】

年をまたいでしまった場合、過去の起動日情報が失われてしまうため、スケジュール実行ができなくなります。

【パラメタの意味】

XXXX:サーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

年をまたいだ過去のスケジュールをしないでください。

MpStem: WARNING: 10201: スケジュールを作成する情報が存在しません。
MpStem: WARNING: 10201: There is no information to create a schedule.

【メッセージの意味】

対象日に実行するスケジュールが存在しません。

【システムの処理】

処理を継続します。

MpStem: WARNING: 10202: スケジュール環境設定ファイルに不当な値が設定されています。
MpStem: WARNING: 10202: Invalid value is specified in the schedule configuration file.

【メッセージの意味】

スケジュール環境設定ファイルに設定されている値に誤りがあります。設定項目はデフォルト値で動作します。

スケジュール環境設定ファイルの格納先:

【Windows版】

Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.jm¥mpstemsv¥stemDB*n*¥etc¥stemmanager.ini(*n*はサブシステム番号)

【UNIX版】

/var/opt/FJSVstem/stemDB*n*/etc/stemmanager.ini(*n*はサブシステム番号)

【システムの処理】

デフォルト値で処理を継続します。

【システム管理者の処置】

[マスタスケジュール管理環境設定]ダイアログボックスから内容を確認して、保存しなおしてください。[マスタスケジュール管理環境設定]ダイアログボックスで不正な値は初期値に戻されます。

MpStem: WARNING: 10203: スケジュール情報の登録処理中です。(XXXX)
MpStem: WARNING: 10203: Registering the schedule information... (XXXX)

【メッセージの意味】

スケジュールの組込み処理が二重に行われました。

【パラメタの意味】

XXXX: サーバ名

【システムの処理】

後の組込み処理は中止する。

【システム管理者の処置】

スケジュールを再度実行してください。

MpStem: WARNING: 10204: 事前に登録された情報の削除に失敗しました。
MpStem: WARNING: 10204: Failed to delete the registered information.

【メッセージの意味】

スケジュール実行時に運用変更は正常に完了したが、運用変更用プロジェクトの削除に失敗しました。

【システムの処理】

処理を継続します。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation Managerクライアントから、運用変更用プロジェクトの状態を確認のうえ、削除を行ってください。

MpStem: WARNING: 10209: マスタ設定されていないプロジェクトが存在しました。(XXXX)
MpStem: WARNING: 10209: There is a project that is not set as master. (XXXX)

【メッセージの意味】

プロジェクトに対し、スケジュール情報は無効化されていますが、マスタ設定情報が存在していないため、スケジュール情報の抽出がされませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

対象プロジェクトの抽出は行わずに、処理を継続します。

【システム管理者の処置】

対象プロジェクトを指定して、プロジェクトマスタ設定コマンドを再度実行してください。

MpStem: WARNING: 10210: 監査ログライブラリのロードに失敗しました。
MpStem: WARNING: 10210: Failed to load the audit log library.

【メッセージの意味】

監査ログを出力するためのライブラリのロードで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

以下のファイルが存在しているか確認してください。存在している場合、ファイルが壊れている可能性があります。Systemwalker Operation Managerを再インストールまたは富士通技術員に連絡してください。

【Windows版】

Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥bin¥mpaudito.dll

【Solaris版/AIX版/Linux版】

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito.so

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito_nt.so

【HP-UX版】

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito.sl

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito_nt.sl

MpStem: WARNING: 10211: 監査ログファイルの読み込みに失敗しました。
MpStem: WARNING: 10211: Failed to read the audit log file.

【メッセージの意味】

監査ログの出力先ファイルのオープンで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

- 空き容量が不足していないか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリが存在しているか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリのパーミッション/権限を確認してください。利用者制限の定義を利用していない場合、一般ユーザ/Everyoneから書き込める権利が必要です。
- 監査ログの出力先ファイルが壊れている可能性があります。壊れている監査ログの出力先ファイルを退避後、削除してください。
- 監査ログ出力先のハードディスクに障害が発生している場合は、ハードディスクの交換、および復旧が必要な場合があります。

監査ログの出力先ファイルおよびディレクトリは、mpsetlogsend_omgrコマンドで指定できます。mpsetlogsend_omgrコマンドの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

MpStem: WARNING: 10212: XXXX ポリシー情報の設定に失敗しました。
MpStem: WARNING: 10212: XXXX Failed to set up policy information.

【メッセージの意味】

ポリシー情報を設定できませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: ポリシー情報ファイル

【システムの処理】

ポリシーを設定しない状態で、処理を継続します。

【対処方法】

設定されなかったポリシー情報を確認してください。ポリシー情報を再設定する場合は、ジョブスケジューラデーモン/サービスを再起動してください。

MpStem: WARNING: 10213: ポリシー情報の設定に失敗しました。
MpStem: WARNING: 10213: Failed to set up policy information.

【メッセージの意味】

マスタスケジュール管理機能の環境が構築されていないため、ポリシー情報を設定できませんでした。

【システムの処理】

ポリシーを設定しない状態で、処理を継続します。

【対処方法】

マスタスケジュール管理機能の環境構築後に、再度ポリシー情報を配付してください。

MpStem: WARNING: 10214: 過去のスケジュール情報は作成できません。(XXXX)
MpStem: WARNING: 10214: Cannot create schedule information for tha past date. (XXXX)

【メッセージの意味】

V12.1以前のバージョンでは過去のスケジュール情報機能はサポート範囲外のため、過去のスケジュール情報を作成することができません。

【パラメタの意味】

XXXX:サーバ名

【システムの処理】

該当のスケジュールサーバの状態は未実効のままで、処理を継続します。

MpStem: ERROR: 10328: ジョブスケジューラは終了処理中のため操作できません。
MpStem: ERROR: 10328: Systemwalker MpJobsch stopped and cannot be controlled.

【メッセージの意味】

終了処理ジョブネット(JSHENDまたはJSHFORCE)が開始したため、マスタスケジュール管理機能のコマンドは操作要求を受け付けることができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブスケジューラの再起動後、コマンドを再実行してください。

2.16 SWNCで始まるメッセージ

本節では、SWNCで始まるメッセージについて説明します。

SWNCで始まるメッセージは、通信基盤が出力するメッセージです。

SWNC: エラー: 00001: ファイル転送サービス/デーモンが異常終了しました。(%1,%2)
SWNC: ERROR: 00001: The file transfer service/daemon terminated abnormally. (%1,%2)

【メッセージの意味】

ファイル転送サービス/デーモンが異常終了しました。

【パラメタの意味】

%1: エラーコード

%2: 詳細情報

【システムの処理】

ファイル転送デーモンが異常終了します。

【原因】

システム異常(メモリ不足、ディスク異常など)が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

システム異常(メモリ不足、ディスク異常など)が発生していないかを確認してください。

システムに異常がない場合は、保守資料を採取して技術員に連絡をしてください。

SWNC: エラー: 00002: ファイル転送に失敗しました。(%1,%2)
SWNC: ERROR: 00002: File transfer failed. (%1,%2)

【メッセージの意味】

データ送受信が失敗しました。

【パラメタの意味】

%1: エラーコード

%2: 詳細情報

【システムの処理】

エラーが発生した転送処理を異常終了します。

【原因】

ネットワークに不具合や、通信先に問題が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

ネットワーク環境に問題がないかを確認してください。

SWNC: エラー: 00003: ファイル転送デーモンの起動に失敗しました。(%1,%2)
SWNC: ERROR: 00003: The file transfer service/daemon failed to start. (%1,%2)

【メッセージの意味】

ファイル転送デーモンの起動に失敗しました。

【パラメタの意味】

%1: エラーコード

%2: 詳細情報

【システムの処理】

サービス/デーモンが異常終了します。

【原因】

システム異常(メモリ不足、ディスク異常など)が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

システム異常(メモリ不足、ディスク異常など)が発生していないかを確認してください。

システムに異常がない場合は、保守資料を採取して技術員に連絡をしてください。

SWNC: 情報: 00004: ファイル転送デーモンが起動しました。
SWNC: INFO: 00004: The file transfer function has started.

【メッセージの意味】

ファイル転送デーモンが正常に起動しました。

SWNC: 情報: 00005: ファイル転送デーモンが正常終了しました。
SWNC: INFO: 00005: The file transfer function has terminated.

【メッセージの意味】

ファイル転送デーモンが正常終了しました。

SWNC: エラー: 00006: 通信処理中に内部異常が発生しました。
SWNC: ERROR: 00006: An internal error(s) occurred during the communication process.

【メッセージの意味】

通信処理中に内部異常が発生しました。

【システムの処理】

エラーが発生した処理を異常終了します。

【原因】

システム異常(メモリ不足、ディスク異常など)が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

システム異常(メモリ不足、ディスク異常など)が発生していないかを確認してください。

システムに異常がない場合は、保守資料を採取して技術員に連絡してください。

2.17 SHSで始まるメッセージ

本節では、SHSで始まるメッセージについて説明します。

SHSで始まるメッセージは、通信基盤が出力するメッセージです。

SHS: INFO: ihs00001: HTTP Server started. [%s1]

【メッセージの意味】

Webサーバを起動しました。

【パラメタの意味】

%s1 : Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバを起動しました。

SHS: INFO: ihs00002: HTTP Server stopped. [%s1]

【メッセージの意味】

Webサーバを停止しました。

【パラメタの意味】

%s1 : Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバを停止しました。

SHS: INFO: ihs00003: HTTP Server restarted. [%s1]

【メッセージの意味】

Webサーバを再起動しました。

【パラメタの意味】

%s1:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバを再起動しました。

SHS: ERROR: ihs00004: Pre-configuration failed [%s1]

【メッセージの意味】

初期化の前処理で異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

初期化の前処理で異常が発生しました。

【システム管理者の処置】

同時に出力されたメッセージを参照し、異常の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00005: Unable to open logs [%s1]

【メッセージの意味】

ログの初期化処理で異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

ログの初期化処理で異常が発生しました。

【システム管理者の処置】

同時に出力されたメッセージを参照し、異常の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00006: Configuration Failed [%s1]

【メッセージの意味】

初期化処理で異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

初期化処理で異常が発生しました。

【システム管理者の処置】

同時に出力されたメッセージを参照し、異常の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00007: Ouch! Out of memory in ap_setup_prelinked_modules()!

【メッセージの意味】

メモリの獲得に失敗しました。

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

メモリが不足しています。

【システム管理者の処置】

不要なプログラムを終了させるなど、Webサーバを運用するために必要なメモリ容量を確保してください。

SHS: ERROR: ihs00008: %s1: module "%s2" is not compatible with this version of Apache (found %s3, need %s4). [%s5]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1：Webサーバのプログラム名
%s2：プラグインモジュール名
%s3：プラグインモジュールのメジャーバージョン
%s4：Webサーバプログラムのメジャーバージョン
%s5：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00009: %s1: module "%s2" could not be loaded, because the dynamic module limit was reached. Please increase DYNAMIC_MODULE_LIMIT and recompile. [%s3]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1：Webサーバのプログラム名
%s2：プラグインモジュール名
%s3：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00010: Syntax error in -C/-c directive: %s1 [%s2]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1：構文エラー内容
%s2：Webサーバ名

【システムの処理】

システム異常が発生している可能性があります。

【原因】

-Cまたは-cオプションに指定したディレクティブの構文に誤りがあります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00011: %s1: could not open document config file %s2 [%s3]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1：Webサーバのプログラム名
%s2：環境定義ファイルのパス
%s3：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00012: Syntax error on line %s1 of %s2: %s3 [%s4]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1：環境定義ファイルの行番号
%s2：環境定義ファイルのパス
%s3：構文エラー内容
%s4：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00013: (%s1)%s2: Invalid config file path %s3 [%s4]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:環境定義ファイル名
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00014: (%s1)%s2: alloc_listener: failed to set up sockaddr for %s3 [%s4]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:ホスト名
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00015: (%s1)%s2: alloc_listener: failed to get a socket for %s3 [%s4]

【メッセージの意味】

通信ソケットの作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：ホスト名
%s4：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

通信ソケットの作成に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照して、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00016: (%s1)%s2: make_sock: for address %s3, apr_socket_opt_set: (%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

ソケットオプション%s4の設定に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：IPアドレス:ポート番号
%s4：ソケットオプション
%s5：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

ソケットオプション%s4の設定に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照して、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: WARNING: ihs00017: (%s1)%s2: make_sock: failed to set %s3 for address %s4, using default [%s5]

【メッセージの意味】

ソケットオプション%s4の設定に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：IPアドレス:ポート番号
%s4：ソケットオプション
%s5：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を続行します。

【原因】

ソケットオプション%s4の設定に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照して、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00018: (%s1)%s2: make_sock: could not bind to address %s3 [%s4]

【メッセージの意味】

ソケットへのアドレス割り当てに失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：IPアドレス:ポート番号
%s4：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

ソケットへのアドレス割り当てに失敗しました。
以下の原因が考えられます。

【Windows版】

- エラー詳細番号%s1が“OS 10049”で本メッセージが出力された場合は、無効なアドレスが指定されています。
- Webサーバの起動時にエラー詳細番号%s1が“OS 10013”または“OS 10048”で本メッセージが出力された場合は、以下の原因が考えられます。
  - Webサーバ%s4で設定したIPアドレスおよびポート番号%s3が、他のサービスで使用されています。
  - Webサーバ%s4で設定したポート番号%s3が、他のサービスで使用されています。
  - 環境定義ファイル(httpd.conf)において、Listenディレクティブが同一のIPアドレスとポート番号の組合せで複数設定されています。

【Solaris版】

- エラー詳細番号%s1が“126”で本メッセージが出力された場合は、無効なアドレスが指定されています。
- Webサーバの起動時にエラー詳細番号%s1が“125”で本メッセージが出力された場合は、以下の原因が考えられます。
  - Webサーバ%s4で設定したIPアドレスおよびポート番号%s3が、他のサービスで使用されています。
  - Webサーバ%s4で設定したポート番号%s3が、他のサービスで使用されています。
  - 環境定義ファイル(httpd.conf)において、Listenディレクティブが同一のIPアドレスとポート番号の組合せで複数設定されています。

【Linux版】

- エラー詳細番号%s1が“99”で本メッセージが出力された場合は、以下の原因が考えられます。
  - 無効なアドレスが指定されています。
  - IPアドレス%s3が割り当てられているネットワークインタフェースが有効になっていない可能性があります。
- エラー詳細番号%s1が“22”で本メッセージが出力された場合は、無効なアドレスが指定されています。
- Webサーバの起動時にエラー詳細番号%s1が“98”で本メッセージが出力された場合は、以下の原因が考えられます。
  - Webサーバ%s4で設定したIPアドレスおよびポート番号%s3が、他のサービスで使用されています。
  - Webサーバ%s4で設定したポート番号%s3が、他のサービスで使用されています。

環境定義ファイル(httpd.conf)において、Listenディレクティブが同一のIPアドレスとポート番号の組合せで複数設定されています。

【システム管理者の処置】

通信基盤環境設定コマンドを利用し、ポート番号を変更してください。

SHS: ERROR: ihs00019: (%s1)%s2: make_sock: unable to listen for connections on address %s3 [%s4]

【メッセージの意味】

ソケットの待ち受け状態への遷移に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:IPアドレス:ポート番号
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

ソケットの待ち受け状態への遷移に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照して、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00020: no listening sockets available, shutting down [%s1]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00021: (%s1)%s2: Couldn't start ErrorLog process [%s3]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【利用者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00022: (%s1)%s2: %s3: Invalid error log path %s4. [%s5]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバのプログラム名
%s4:エラーログファイル名
%s5:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00023: (%s1)%s2: %s3: could not open error log file %s4. [%s5]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバのプログラム名
%s4:エラーログファイル名
%s5:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00024: piped_log_spawn: unable to setup child process '%s1': %s2 [%s3]

【メッセージの意味】

ログ出力プログラム%s1の初期処理に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:ログ出力プログラム名
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

ログ出力プログラム%s1の初期処理に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00025: unable to start piped log program '%s1': %s2 [%s3]

【メッセージの意味】

ログ出力プログラム%s1の起動に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:ログ出力プログラム名
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

ログ出力プログラム%s1の起動に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00026: (%s1)%s2: Invalid PID file path %s3, ignoring. [%s4]

【メッセージの意味】

プロセス管理ファイル%s3のフルパスの取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:プロセス管理ファイル名
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を続行します。

【原因】

プロセス管理ファイル%s3のフルパスの取得に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00028: (%s1)%s2: %s3: could not log pid to file %s4 [%s5]

【メッセージの意味】

プロセス管理ファイル%s4のオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバのプログラム名
%s4:プロセス管理ファイル名
%s5:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を続行します。

【原因】

プロセス管理ファイル%s4のオープンに失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00029: [%s1] file %s2, line %s3, assertion "%s4" failed [%s5]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:発生日時
%s2:ソースファイル名
%s3:ソースファイルの行数
%s4:詳細情報
%s5:Webサーバ名

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00030: (%s1)%s2: Fatal error: unable to create global pool for use with by the scoreboard [%s3]

【メッセージの意味】

スコアボード管理に使用するメモリ管理領域の作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

スコアボード管理に使用するメモリ管理領域の作成に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00031: (%s1)%s2: Fatal error: Invalid Scoreboard path %s3 [%s4]

【メッセージの意味】

スコアボードファイル%s3のフルパスの取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:スコアボードファイルのパス
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

スコアボードファイル%s3のフルパスの取得に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00032: (%s1)%s2: Unable to create scoreboard (anonymous shared memory failure) [%s3]

【メッセージの意味】

スコアボードで使用する共有メモリの獲得に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

スコアボードで使用する共有メモリの獲得に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00033: (%s1)%s2: cannot allocate scoreboard [%s3]

【メッセージの意味】

スコアボードで使用する動的メモリの獲得に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

スコアボードで使用する動的メモリの獲得に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し､失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00034: (%s1)%s2: unable to create scoreboard "%s3" (name-based shared memory failure) [%s4]

【メッセージの意味】

スコアボード%s3で使用する共有メモリの獲得に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:スコアボード名
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

スコアボード%s3で使用する共有メモリの獲得に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し､失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00035: (%s1)%s2: invalid transfer log path %s3. [%s4]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:アクセスログファイル名
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00036: (%s1)%s2: could not open transfer log file %s3. [%s4]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容

%s3:アクセスログファイル名
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00037: (%s1)%s2: Invalid mime types config path %s3 [%s4]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:MIMEタイプ設定ファイル名
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00038: (%s1)%s2: could not open mime types config file %s3. [%s4]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:MIMEタイプ設定ファイル名
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00039: (%s1)%s2: mod_rewrite: could not create rewrite_log_lock [%s3]

【メッセージの意味】

リライトログ用ロック資源の作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

リライトログ用ロック資源の作成に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00040: (%s1)%s2: mod_rewrite: Parent could not create RewriteLock file %s3 [%s4]

【メッセージの意味】

リライト機能用ロックファイル%s3の作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：リライト機能用ロックファイル名
%s4：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

リライト機能用ロックファイル%s3の作成に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00041: (%s1)%s2: mod_unique_id: unable to find hostname of the server [%s3]

【メッセージの意味】

ホスト名の取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

ホスト名の取得に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00042: (%s1)%s2: mod_unique_id: unable to find IPv4 address of "%s3" [%s4]

【メッセージの意味】

ソケット情報の取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：ホスト名
%s4：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

ソケット情報の取得に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: WARNING: ihs00043: Require %s1 > 0, setting to 1 [%s2]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1：ディレクティブ名
%s2：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの処理を続行します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00100: (%s1)%s2: Failed to get the full path of %s3

【メッセージの意味】

Webサーバプログラム%s3のフルパスの取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：Webサーバプログラム名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

Webサーバプログラム%s3のフルパスの取得に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00101: %s1: Service is already installed.

【メッセージの意味】

Webサーバのサービス%s1は、すでに登録されています。

【パラメタの意味】

%s1：サービス名

【システムの処理】

Webサーバのサービスの登録処理を中止します。

【原因】

Webサーバのサービス%s1は、すでに登録されています。

【システム管理者の処置】

サービス画面（[コントロールパネル] > [管理ツール] > [サービス]）で、サービス%s1の登録状況を確認してください。

SHS: ERROR: ihs00102: No installed service named "%s1".

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1：サービス名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00103: (%s1)%s2: %s3: Unable to start the service manager. [%s4]

【メッセージの意味】

サービス制御マネージャの起動に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：サービス名
%s4：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

サービス制御マネージャの起動に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00104: (%s1)%s2: Parent: Cannot create shutdown event %s3 [%s4]

【メッセージの意味】

停止用のイベントオブジェクト%s3の作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：イベントオブジェクト名
%s4：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

停止用のイベントオブジェクト%s3の作成に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00105: (%s1)%s2: Parent: Cannot create restart event %s3 [%s4]

【メッセージの意味】

再起動用のイベントオブジェクト%s3の作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：イベントオブジェクト名
%s4：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

再起動用のイベントオブジェクト%s3の作成に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00106: (%s1)%s2: %s3: Unable to create the start_mutex. [%s4]

【メッセージの意味】

デーモンプロセス用の排他資源の作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容

%s3:サービス名
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

デーモンプロセス用の排他資源の作成に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00107: (%s1)%s2: master_main: create child process failed. Exiting. [%s3]

【メッセージの意味】

デーモンプロセスの生成処理において異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号(注)
%s2:エラー詳細内容(注)
%s3:Webサーバ名
注)エラー詳細番号%s1およびエラー詳細内容%s2は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

デーモンプロセスの生成処理において異常が発生しました。

【システム管理者の処置】

同時に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00108: (%s1)%s2: master_main: WaitForMultipeObjects WAIT_FAILED -- doing server shutdown [%s3]

【メッセージの意味】

デーモンプロセスの状態監視において異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバを停止します。

【原因】

デーモンプロセスの状態監視において異常が発生しました

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、異常の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00109: (%s1)%s2: master_main: WaitForMultipeObjects with INFINITE wait exited with WAIT_TIMEOUT [%s3]

【メッセージの意味】

デーモンプロセスの状態監視においてタイムアウトが発生しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバを停止します。

【原因】

デーモンプロセスの状態監視においてタイムアウトが発生しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: INFO: ihs00110: Parent: Received restart signal -- Restarting the server. [%s1]

【メッセージの意味】

Webサーバ%s1の再起動処理を開始します。

【パラメタの意味】

%s1：Webサーバ名

SHS: ERROR: ihs00111: Parent: child process exited with status %s1 -- Aborting. [%s2]

【メッセージの意味】

デーモンプロセスにおいて異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1：デーモンプロセス終了コード
%s2：Webサーバ名

【システムの処理】

デーモンプロセスを再起動します。

【原因】

デーモンプロセスにおいて異常が発生しました。

【システム管理者の処置】

同時に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00112: (%s1)%s2: GetModuleFileName failed [%s3]

【メッセージの意味】

Webサーバプログラムのフルパスの取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバのサービス登録処理を中止します。

【原因】

Webサーバプログラムのフルパスの取得に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00113: (%s1)%s2: Failed to open the WinNT service manager [%s3]

【メッセージの意味】

サービス制御マネージャとの接続確立に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

サービス制御マネージャとの接続確立に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00114: (%s1)%s2: OpenService failed [%s3]

【メッセージの意味】

Webサーバ%s3のサービスのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

Webサーバ%s3のサービスのオープンに失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00115: (%s1)%s2: ChangeServiceConfig failed [%s3]

【メッセージの意味】

Webサーバサービスの構成パラメタの変更に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

Webサーバサービスの構成パラメタの変更に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00116: (%s1)%s2: Failed to create WinNT Service Profile [%s3]

【メッセージの意味】

Webサーバ%s3のサービス登録に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s3のサービス登録処理を中止します。

【原因】

Webサーバ%s3のサービス登録に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00117: (%s1)%s2: %s3: Failed to store the ConfigArgs in the registry. [%s4]

【メッセージの意味】

Webサーバ%s4のサービス%s3起動時に使用されるオプションのレジストリ登録に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:サービス名
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s4のサービス登録処理を中止します。

【原因】

Webサーバ%s4のサービス%s3起動時に使用されるオプションのレジストリ登録に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00118: (%s1)%s2: %s3: Failed to delete the service. [%s4]

【メッセージの意味】

Webサーバ%s4のサービス%s3の削除に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：サービス名
%s4：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s4のサービス削除処理を中止します。

【原因】

Webサーバ%s4のサービス%s3の削除に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00119: (%s1)%s2: Query of Service %s3 failed [%s4]

【メッセージの意味】

Webサーバ%s4のサービス%s3の状態取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：サービス名
%s4：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s4の停止処理を中止します。

【原因】

Webサーバ%s4のサービス%s3の状態取得に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00120: (%s1)%s2: ISAPI: could not create the isapi cache pool [%s3]

【メッセージの意味】

mod_isapモジュール用のメモリ管理領域の作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

mod_isapモジュール用のメモリ管理領域の作成に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: WARNING: ihs00121: ThreadsPerChild of %s1 exceeds ThreadLimit value of %s2 threads, lowering ThreadsPerChild to %s2. To increase, please see the ThreadLimit directive. [%s3]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:ThreadsPerChildディレクティブの設定値
%s2:ThreadsPerChildディレクティブの上限値
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの処理を続行します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: WARNING: ihs00122: ThreadLimit of %s1 exceeds compile time limit of %s2 threads, lowering ThreadLimit to %s2. [%s3]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:ThreadLimitディレクティブの設定値
%s2:ThreadLimitディレクティブの上限値
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの処理を続行します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00123: (%s1)%s2: Parent: Failed to get full path of %s3 [%s4]

【メッセージの意味】

Webサーバプログラム%s3のフルパスの取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバプログラム名
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

Webサーバプログラム%s3のフルパスの取得に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00124: (%s1)%s2: Parent: Unable to %s3 [%s4]

【メッセージの意味】

処理%s3に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:エラーが発生した処理内容
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s4の起動処理を中止します。

【原因】

処理%s3に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00125: (%s1)%s2: Parent: Could not create %s3 event for child process [%s4]

【メッセージの意味】

イベントオブジェクトの作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:イベントの種類
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s4の起動処理を中止します。

【原因】

イベントオブジェクトの作成に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00126: (%s1)%s2: Parent: Failed to create the child process. [%s3]

【メッセージの意味】

デーモンプロセスの生成に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s3の起動処理を中止します。

【原因】

デーモンプロセスの生成に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00127: (%s1)%s2: Parent: WSADuplicateSocket failed for socket %s3. Check the FAQ. [%s4]

【メッセージの意味】

ソケットの複製に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:ソケット記述子
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s4の起動処理を中止します。

【原因】

ソケットの複製に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00128: %s1: Failed to start the service process. [%s2]

【メッセージの意味】

Webサーバ%s2のサービス%s1の起動において異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:サービス名
%s2:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s2の起動処理を中止します。

【原因】

Webサーバ%s2のサービス%s1の起動において異常が発生しました。

【システム管理者の処置】

同時に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00129: (%s1)%s2: Child %s3: _beginthreadex failed. Unable to create all worker threads. Created %s4 of the %s5 threads requested with the ThreadsPerChild configuration directive. [%s6]

【メッセージの意味】

通信スレッドの生成に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：デーモンプロセスのプロセスID
%s4：生成済の通信スレッド数
%s5：ThreadsPerChildディレクティブの設定値
%s6：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s6を停止します。

【原因】

通信スレッドの生成に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: INFO: ihs00130: Parent: child process exited with status %s1 -- Restarting. [%s2]

【メッセージの意味】

デーモンプロセスを終了します。

【パラメタの意味】

%s1：デーモンプロセス終了コード
%s2：Webサーバ名

【システムの処理】

デーモンプロセスを再起動します。

SHS: ERROR: ihs00200: (%s1)%s2: Error retrieving pid file %s3 [%s4]

【メッセージの意味】

プロセス管理ファイル%s3の読み込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：プロセス管理ファイル
%s4：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

プロセス管理ファイル%s3の読み込みに失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: WARNING: ihs00201: httpd (pid %s1) already running [%s2]

【メッセージの意味】

Webサーバ%s2がすでに起動されています。

【パラメタの意味】

%s1：プロセスID
%s2：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s2の起動処理を中止します。

【原因】

Webサーバ%s2がすでに起動されています。

SHS: WARNING: ihs00202: httpd (no pid file) not running [%s1]

【メッセージの意味】

Webサーバ%s1が起動されていません。

【パラメタの意味】

%s1：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s1の停止処理を中止します。

【原因】

Webサーバ%s1が起動されていません。

SHS: WARNING: ihs00203: httpd (pid %s1?) not running [%s2]

【メッセージの意味】

Webサーバ%s2のプロセス%s1が存在しません。

【パラメタの意味】

%s1：プロセスID
%s2：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s2の停止処理を中止します。

【原因】

Webサーバ%s2のプロセス%s1が存在しません。

SHS: WARNING: ihs00204: httpd not running, trying to start [%s1]

【メッセージの意味】

Webサーバ%s1が起動されていません。

【パラメタの意味】

%s1：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s1の起動処理を開始します。

【原因】

Webサーバ%s1が起動されていません。

SHS: ERROR: ihs00205: (%s1)%s2: sending signal to server [%s3]

【メッセージの意味】

デーモンプロセスへのシグナル送信に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

デーモンプロセスへのシグナル送信に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00206: Child %s1 returned a Fatal error... Apache is exiting! [%s2]

【メッセージの意味】

通信プロセス%s1において異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:通信プロセスのプロセスID
%s2:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s2を停止します。

【原因】

通信プロセス%s1において異常が発生しました。

【システム管理者の処置】

同時に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00207: (%s1)%s2: apr_proc_detach failed [%s3]

【メッセージの意味】

デーモンプロセスの生成に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s3の起動処理を中止します。

【原因】

デーモンプロセスの生成に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00208: (%s1)%s2: Could not open pipe-of-death. [%s3]

【メッセージの意味】

パイプの作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s3の起動処理を中止します。

【原因】

パイプの作成に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00209: (%s1)%s2: Couldn't create accept lock [%s3]

【メッセージの意味】

接続用排他資源の作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s3の起動処理を中止します。

【原因】

接続用排他資源の作成に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00210: (%s1)%s2: Couldn't set permissions on cross-process lock; check User and Group directives [%s3]

【メッセージの意味】

接続用排他資源の権限設定に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s3の起動処理を中止します。

【原因】

接続用排他資源の権限設定に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: INFO: ihs00211: Graceful restart requested, doing restart [%s1]

【メッセージの意味】

Webサーバ%s1の再起動処理を開始します。

【パラメタの意味】

%s1:Webサーバ名

SHS: INFO: ihs00212: SIGHUP received. Attempting to restart [%s1]

【メッセージの意味】

Webサーバ%s1の再起動処理を開始します。

【パラメタの意味】

%s1:Webサーバ名

SHS: ERROR: ihs00213: (%s1)%s2: Couldn't initialize cross-process lock in child [%s3]

【メッセージの意味】

接続用排他資源の初期化に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s3を停止します。

【原因】

接続用排他資源の初期化に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00214: (%s1)%s2: setuid: unable to change to uid: %s3 [%s4]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:ユーザID
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s4を停止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00215: (%s1)%s2: getpwuid: couldn't determine user name from uid %s3, you probably need to modify the User directive [%s4]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号(注)
%s2:エラー詳細内容(注)
%s3:ユーザID
%s4:Webサーバ名
注)エラー詳細番号%s1およびエラー詳細内容%s2は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s4を停止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00216: (%s1)%s2: setgid: unable to set group id to Group %s3 [%s4]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:グループID
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s4を停止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00217: (%s1)%s2: initgroups: unable to set groups for User %s3 and Group %s4 [%s5]

【メッセージの意味】

グループアクセスリストの初期化に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:ユーザID

%s4:グループID
%s5:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s5を停止します。

【原因】

グループアクセスリストの初期化に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00218: (%s1)%s2: mod_rewrite: Could not set permissions on rewrite_log_lock; check User and Group directives [%s3]

【メッセージの意味】

リライトログ用ロック資源の権限設定に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s3の起動処理を中止します。

【原因】

リライトログ用ロック資源の権限設定に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00219: (%s1)%s2: mod_rewrite: Parent could not set permissions on RewriteLock; check User and Group directives [%s3]

【メッセージの意味】

リライト機能用ロックファイルの権限設定に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s3の起動処理を中止します。

【原因】

リライト機能用ロックファイルの権限設定に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: WARNING: ihs00220: detected MinSpareServers set to non-positive. Resetting to 1 to avoid almost certain Apache failure. Please read the documentation. [%s1]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s1の処理を続行します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: WARNING: ihs00221: MaxClients of %s1 exceeds ServerLimit value of %s2 servers, lowering MaxClients to %s2. To increase, please see the ServerLimit directive. [%s3]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:MaxClientsディレクティブの設定値
%s2:MaxClientsディレクティブの上限値
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s3の処理を続行します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: WARNING: ihs00222: ServerLimit of %s1 exceeds compile time limit of %s2 servers, lowering ServerLimit to %s2. [%s3]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:ServerLimitディレクティブの設定値
%s2:ServerLimitディレクティブの上限値
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s3の処理を続行します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00223: %s1: bad user name %s2 [%s3]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:Webサーバのプログラム名
%s2:Userディレクティブで指定したユーザ名
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00224: %s1: bad group name %s2 [%s3]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:Webサーバのプログラム名
%s2:Groupディレクティブで指定したグループ名
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラム%s1の実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00225: (%s1)%s2: couldn't grab the accept mutex [%s3]

【メッセージの意味】

クライアントからの接続を待ち受けるための排他資源の獲得に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s3を停止します。

【原因】

クライアントからの接続を待ち受けるための排他資源の獲得に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00226: (%s1)%s2: couldn't release the accept mutex [%s3]

【メッセージの意味】

クライアントからの接続を待ち受けるための排他資源の解放に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s3を停止します。

【原因】

クライアントからの接続を待ち受けるための排他資源の解放に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照して、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00227: (%s1)%s2: ap_listen_open: unable to make socket non-blocking [%s3]

【メッセージの意味】

ソケットの非ブロック化に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s3の起動処理を中止します。

【原因】

ソケットの非ブロック化に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照し、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: ERROR: ihs00300: Internal error. Detail=(%s1) [%s2]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細内容
%s2:Webサーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00301: The path to an environment definition file is invalid. Detail=%s1(%s2) [%s3]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:環境定義ファイル名
%s2:エラー詳細番号
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00302: File copy failed. Detail=%s1->%s2(%s3) [%s4]

【メッセージの意味】

ファイル%s1からファイル%s2へのコピーに失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:コピー元のファイル名
%s2:コピー先のファイル名
%s3:エラー詳細番号
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00303: File open failed. Detail=%s1(%s2) [%s3]

【メッセージの意味】

ファイル%s1のオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:ファイル名
%s2:エラー詳細番号
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00304: File lock failed. Detail=%s1(%s2) [%s3]

【メッセージの意味】

ファイル%s1のロックに失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:ファイル名
%s2:エラー詳細番号
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00400: %s1: An error occurred during the Web server program execution processing. [%s2]

【メッセージの意味】

Webサーバ%s2のプログラム%s1を実行できませんでした。

【パラメタの意味】

%s1:Webサーバのプログラム名
%s2:Webサーバ名(注)
注)Webサーバ%s2は、Webサーバのプログラム%s1の実行方法により出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

Apacheコマンドもしくはhttpdコマンドを実行してWebサーバの運用を行いました

【システム管理者の処置】

Apacheコマンドもしくはhttpdコマンドは利用できません。通信基盤制御コマンドを用いて起動/停止してください。

SHS: ERROR: ihs00401: Couldn't start TraceLog process. [%s1]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00402: (%s1)%s2: Invalid TraceLog file path %s3. [%s4]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:トレース出力用ログファイル名
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00403: (%s1)%s2: Could not open TraceLog file %s3. [%s4]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:トレース出力用ログファイル名
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00404: Failed to set the environment variable. (%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

環境変数の設定に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1
%s3:エラー詳細番号2
%s4:エラー詳細番号3
%s5:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバプログラムの実行処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00500: SSL: Library initialization failed. (%s1,%s2) [%s3]

【メッセージの意味】

ライブラリの初期化に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細内容1
%s2:エラー詳細内容2
%s3:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s3の起動処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00501: SSL: Insufficient memory.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

SSLライブラリでメモリ不足が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1
%s3:エラー詳細番号2
%s4:サイト証明書のニックネーム(注)
%s5:Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

SSLライブラリでメモリ不足が発生しました。

【システム管理者の処置】

不要なプログラムを終了させるなど、Webサーバを運用するために必要なメモリ容量を確保してください。

SHS: ERROR: ihs00502: SSL: Slot information directory error.(%s1,%s2,%s3) [%s4]

【メッセージの意味】

スロット情報ディレクトリに誤りがあります。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1
%s3:エラー詳細番号2
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s4の起動処理を中止します。

【原因】

スロット情報ディレクトリに誤りがあります。

【システム管理者の処置】

秘密鍵管理環境が正しく設定されているかを確認してください。

証明書管理情報設定コマンドで正しくスロット情報ディレクトリを設定したか確認してください。

SHS: ERROR: ihs00503: SSL: Invalid Token label.(%s1,%s2,%s3) [%s4]

【メッセージの意味】

トークンラベルに誤りがあります。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1
%s3:エラー詳細番号2
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s4の起動処理を中止します。

【原因】

トークンラベルに誤りがあります。

【システム管理者の処置】

証明書管理情報設定コマンドで正しくトークンラベルを設定したか確認してください。

SHS: ERROR: ihs00504: SSL: The site certificate has expired.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

サイト証明書の有効期限が切れています。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1
%s3:エラー詳細番号2
%s4:サイト証明書のニックネーム(注)
%s5:Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理または通信処理を中止します。

【原因】

サイト証明書の有効期限が切れています。

【システム管理者の処置】

認証局(証明書発行局)にサイト証明書の発行を依頼し、現在登録されているサイト証明書を削除してから再登録してください。なお、サイト証明書の有効期限については、cmdspcertコマンドを使用して確認できます。

SHS: ERROR: ihs00505: SSL: The CA certificate has expired.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

認証局の証明書(発行局証明書)の有効期限が切れています。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1
%s3:エラー詳細番号2
%s4:サイト証明書のニックネーム(注)
%s5:Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

認証局の証明書(発行局証明書)の有効期限が切れています。

【システム管理者の処置】

認証局(証明書発行局)に認証局の証明書(発行局証明書)を取得し、現在登録されている認証局の証明書(発行局証明書)を削除してから再登録してください。なお、サイト証明書の有効期限については、cmdspcertコマンドを使用して確認できます。

SHS: ERROR: ihs00506: SSL: Couldn't verify the site certificate.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

認証局の証明書(発行局証明書)、サイト証明書の検証に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1
%s3:エラー詳細番号2
%s4:サイト証明書のニックネーム(注)
%s5:Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

認証局の証明書(発行局証明書)、サイト証明書の検証に失敗しました。

【システム管理者の処置】

認証局の証明書(発行局証明書)とサイト証明書の関係に誤りがないかを確認してください。

SHS: ERROR: ihs00507: SSL: Couldn't verify the CA certificate.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

認証局の証明書(発行局証明書)の検証に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1
%s3:エラー詳細番号2
%s4:サイト証明書のニックネーム(注)
%s5:Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

認証局の証明書(発行局証明書)の検証に失敗しました。

【システム管理者の処置】

認証局の証明書(発行局証明書)とサイト証明書の関係に誤りがないかを確認してください。

SHS: ERROR: ihs00508: SSL: Couldn't analyze the site certificate.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

サイト証明書の解析に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1
%s3:エラー詳細番号2
%s4:サイト証明書のニックネーム(注)
%s5:Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

サイト証明書の解析に失敗しました。

【システム管理者の処置】

認証局(証明書発行局)にサイト証明書の発行を依頼し、現在登録されているサイト証明書を削除してから再登録してください。

SHS: ERROR: ihs00509: SSL: Couldn't analyze the CA certificate.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

認証局の証明書(発行局証明書)の解析に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1
%s3:エラー詳細番号2
%s4:サイト証明書のニックネーム(注)
%s5:Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

認証局の証明書(発行局証明書)の解析に失敗しました。

【システム管理者の処置】

認証局(証明書発行局)から認証局の証明書(発行局証明書)を取得し、現在登録されている認証局の証明書(発行局証明書)を削除してから再登録してください。

SHS: ERROR: ihs00510: SSL: The site certificate has been revoked.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

サイト証明書が取り消されています。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1
%s3:エラー詳細番号2
%s4:サイト証明書のニックネーム(注)
%s5:Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

サイト証明書が取り消されています。

【システム管理者の処置】

認証局(証明書発行局)にサイト証明書の発行を依頼し、現在登録されているサイト証明書を削除してから再登録してください。

SHS: ERROR: ihs00511: SSL: The CA certificate has been revoked.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

認証局の証明書(発行局証明書)が取り消されています。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1
%s3:エラー詳細番号2
%s4:サイト証明書のニックネーム(注)

%s5：Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

認証局の証明書(発行局証明書)が取り消されています。

【システム管理者の処置】

認証局(証明書発行局)より認証局の証明書(発行局証明書)を取得し、現在登録されている認証局の証明書(発行局証明書)を削除してから再登録してください。

SHS: ERROR: ihs00512: SSL: Invalid Site certificate nickname.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

サイト証明書のニックネームに誤りがあります。

【パラメタの意味】

%s1：エラー発生元の関数名
%s2：エラー詳細番号1
%s3：エラー詳細番号2
%s4：サイト証明書のニックネーム(注)
%s5：Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

サイト証明書のニックネームに誤りがあります。

【システム管理者の処置】

証明書管理情報設定コマンドで設定したサイト証明書のニックネームに誤りがないか確認してください。

SHS: ERROR: ihs00513: SSL: Invalid Client CA certificate nickname.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー発生元の関数名
%s2：エラー詳細番号1
%s3：エラー詳細番号2
%s4：サイト証明書のニックネーム(注)
%s5：Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00514: SSL: The site certificate has no path list.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

サイト証明書にパスリストが存在しません。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1
%s3:エラー詳細番号2
%s4:サイト証明書のニックネーム(注)
%s5:Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

サイト証明書にパスリストが存在しません。

【システム管理者の処置】

認証局の証明書(発行局証明書)をルートCAから順に証明書／鍵管理環境に登録してください。

SHS: ERROR: ihs00515: SSL: The CA certificate has no path list.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

認証局の証明書(発行局証明書)にパスリストが存在しません。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1
%s3:エラー詳細番号2
%s4:サイト証明書のニックネーム(注)
%s5:Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

認証局の証明書(発行局証明書)にパスリストが存在しません。

【システム管理者の処置】

認証局の証明書(発行局証明書)をルートCAから順に証明書／鍵管理環境に登録してください。

SHS: ERROR: ihs00516: SSL: The site certificate path is invalid.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

サイト証明書の経路が不完全です。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1

%s3:エラー詳細番号2
%s4:サイト証明書のニックネーム(注)
%s5:Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

サイト証明書の経路が不完全です。

【システム管理者の処置】

サイト証明書を発行した認証局(発行局)の証明書を証明書/鍵管理環境に登録してください。

SHS: ERROR: ihs00517: SSL: The CA certificate is invalid.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

認証局の証明書(発行局証明書)の経路が不完全です。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1
%s3:エラー詳細番号2
%s4:サイト証明書のニックネーム(注)
%s5:Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

認証局の証明書(発行局証明書)の経路が不完全です。

【システム管理者の処置】

認証局の証明書(発行局証明書)をルートCAから順に証明書/鍵管理環境に登録してください。

SHS: ERROR: ihs00518: SSL: Private key does not exist.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

秘密鍵が存在しません。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1
%s3:エラー詳細番号2
%s4:サイト証明書のニックネーム(注)
%s5:Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

以下のいずれかの原因が考えられます。

- 秘密鍵管理環境にサイト秘密鍵が登録されていません。

- サポート対象外の認証局が発行した証明書を使用しています。

【システム管理者の処置】

以下のいずれかの対処を行ってください。

- 使用するサイト証明書が、証明書を利用するマシン上でcmmakecsrコマンドを使用して作成したCSRにより発行された証明書であるかを確認してください。
- Systemwalker/PkiMGRで発行されたサイト証明書を使用し、かつ秘密鍵管理環境にサイト秘密鍵が登録されていない場合は、cmenterkeyコマンドを使用して秘密鍵管理環境にサイト秘密鍵を登録してください。
- サポート対象外の認証局が発行した証明書を使用している場合は、証明書取得申請書を再作成し、以下の認証局に証明書の発行を依頼してください。
  - Systemwalker PkiMGR
(当社のインターネット/イントラネットで証明書管理を実現するソフトウェア)
  - 日本ベリサイン株式会社
セキュア・サーバID、セキュア・サーバID EV(EV SSL証明書)をサポートしています。
  - 日本認証サービス株式会社
Webサーバ証明書をサポートしています。
  - サイバートラスト株式会社
SureServer for SSL証明書をサポートしています。

SHS: ERROR: ihs00519: SSL: Invalid User pin.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

ユーザPINに誤りがあります。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1
%s3:エラー詳細番号2
%s4:サイト証明書のニックネーム(注)
%s5:Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

ユーザPINに誤りがあります。

【システム管理者の処置】

再度ユーザPINを登録してください。

SHS: ERROR: ihs00520: SSL: Certificate environment directory error.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

運用管理ディレクトリに誤りがあります。

【パラメタの意味】

%s1:エラー発生元の関数名
%s2:エラー詳細番号1
%s3:エラー詳細番号2
%s4:サイト証明書のニックネーム(注)

%s5：Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

運用管理ディレクトリに誤りがあります。

【システム管理者の処置】

証明書／鍵管理環境が正しく設定されているかを確認してください。また、証明書管理情報設定コマンドで設定した運用管理ディレクトリに誤りがないか確認してください。

SHS: ERROR: ihs00521: SSL: Invalid cipher suite.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー発生元の関数名
%s2：エラー詳細番号1
%s3：エラー詳細番号2
%s4：サイト証明書のニックネーム(注)
%s5：Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00522: SSL: SSL definition name specification is invalid. (%s1) [%s2]

【メッセージの意味】

SSL定義%s1が存在しません。

【パラメタの意味】

%s1：SSL定義名
%s2：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s2の起動処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00523: SSL: SSL definition acquisition failed. (%s1,%s2,%s3) [%s4]

【メッセージの意味】

SSL定義%s1の証明書情報の取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:SSL定義名
%s2:関数名
%s3:エラー詳細内容
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s4の起動処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00524: SSL: SSLSlotDir is not defined. [%s1]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s1の起動処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00525: SSL: SSLTokenLabel is not defined. [%s1]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s1の起動処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00526: SSL: SSLUserPINFile is not defined. [%s1]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s1の起動処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00527: SSL: SSLVerifyClient is not defined. [%s1]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s1の起動処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00528: SSL: SSLEnvDir is not defined. [%s1]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s1の起動処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00529: SSL: SSLCertName is not defined. [%s1]

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s1の起動処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00530: SSL: User PIN decryption failed. (%s1,%s2) [%s3]

【メッセージの意味】

ユーザPINの復号化に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細内容1
%s2：エラー詳細内容2
%s3：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s3の起動処理を中止します。

【原因】

ユーザPINの復号化に失敗しました。

【システム管理者の処置】

ihsregistupinコマンドを使用してユーザPINファイルを再作成してください。

それでも発生する場合は、保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00531: SSL: Couldn't open user pin file.(%s1) [%s2]

【メッセージの意味】

ユーザPINファイル%s1のオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：ユーザPINファイル名
%s2：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s2の起動処理を中止します。

【原因】

ユーザPINファイル%s1のオープンに失敗しました。

【システム管理者の処置】

ユーザPINファイル%s1が存在するかを確認してください。

SHS: ERROR: ihs00532: SSL: Couldn't read user pin file.(%s1) [%s2]

【メッセージの意味】

ユーザPINファイル%s1の読込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：ユーザPINファイル名
%s2：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s2の起動処理を中止します。

【原因】

ユーザPINファイル%s1の読込みに失敗しました。

【システム管理者の処置】

ユーザPINファイル%s1の権限を確認してください。権限が正しく設定されている場合は、ユーザPINファイル%s1が破壊されている可能性があります。ihsregistupinコマンドを使用してユーザPINファイルを再作成してください。

それでも発生する場合は、保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs00599: SSL: Unexcepted error.(%s1,%s2,%s3,%s4) [%s5]

【メッセージの意味】

SSL関数で予期せぬエラーを検出しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー発生元の関数名
%s2：エラー詳細番号1
%s3：エラー詳細番号2
%s4：サイト証明書のニックネーム(注)
%s5：Webサーバ名
注)サイト証明書のニックネーム%s4は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

Webサーバ%s5の起動処理を中止します。

【原因】

SSL関数で予期せぬエラーを検出しました。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs69000: There is no permission to execute ihsregistupin.

【メッセージの意味】

ihsregistupinコマンドのアクセス権限がありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

ihsregistupinコマンドのアクセス権限がありません。

【システム管理者の処置】

ihsregistupinコマンドは、管理者権限で実行してください。

SHS: ERROR: ihs69001: The path name of the user PIN control file is too long.

【メッセージの意味】

ユーザPIN管理ファイルのパス名が最大長を超過しています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

ユーザPIN管理ファイルのパス名が最大長を超過しています。

【システム管理者の処置】

ユーザPIN管理ファイルのファイル名を変更してください。

SHS: ERROR: ihs69002: The path name of the slot information directory is too long.

【メッセージの意味】

スロット情報ディレクトリのパス名が最大長を超過しています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

スロット情報ディレクトリのパス名が最大長を超過しています。

【システム管理者の処置】

スロット情報ディレクトリ名を変更してください。

SHS: ERROR: ihs69003: The slot information directory (%s1) does not exist.

【メッセージの意味】

スロット情報ディレクトリ%s1が存在しません。

【パラメタの意味】

%s1：ディレクトリ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

スロット情報ディレクトリ%s1が存在しません。

【システム管理者の処置】

スロット情報ディレクトリ%s1が存在しているかを確認してください。

SHS: ERROR: ihs69004: Unable to check user PIN.

【メッセージの意味】

ユーザPIN（UserPIN: xxx）と確認のために入力したユーザPIN（Re-type UserPIN: xxx）が一致しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

入力に誤りがあります。

【システム管理者の処置】

同じ文字列を入力してください。

SHS: ERROR: ihs69005: The user PIN control file (%s1) cannot be opened.

【メッセージの意味】

ユーザPIN管理ファイル%s1のアクセス権限がありません。

【パラメタの意味】

%s1：ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

ユーザPIN管理ファイル%s1のアクセス権限がありません。

【システム管理者の処置】

ユーザPIN管理ファイル%s1のアクセス権限を確認してください。

SHS: ERROR: ihs69006: Registration of user PIN (%s1) failed.

【メッセージの意味】

ユーザPIN管理ファイル%s1の書き込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs69007: Unable to close the user PIN control file (%s1).

【メッセージの意味】

ユーザPIN管理ファイル%s1をクローズできません。

【パラメタの意味】

%s1：ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs69008: Unable to change the permission for the user PIN control file (%s1).

【メッセージの意味】

ユーザPIN管理ファイル%s1のアクセス権限がありません。

【パラメタの意味】

%s1：ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

ユーザPIN管理ファイル%s1のアクセス権限がありません。

【システム管理者の処置】

ユーザPIN管理ファイル%s1のアクセス権限を確認してください。

SHS: ERROR: ihs69009: Memory is insufficient.

【メッセージの意味】

メモリ不足が発生しています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

メモリ不足が発生しています。

【システム管理者の処置】

不要なプログラムを終了させてください。

SHS: ERROR: ihs69010: The disk capacity is insufficient.

【メッセージの意味】

ディスクの空き容量が不足しているため、書き込みが行えない状態です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

ディスクの空き容量が不足しているため、書き込みが行えない状態です。

【システム管理者の処置】

不要なファイルを削除してください。または、ディスク容量を確保してください。

SHS: ERROR: ihs69011: There is an error in the user PIN.

【メッセージの意味】

ユーザPINに指定した文字に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

ユーザPINに指定した文字に誤りがあります。

【システム管理者の処置】

ユーザPINには、128バイト以内の英数字の文字列を入力してください。

SHS: ERROR: ihs69013: Encryption of user PIN failed.(<%s1>:<%s2>)

【メッセージの意味】

暗号化の関数%s1でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

%s1：関数名
%s2：エラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【利用者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs69014: No slot exists.

【メッセージの意味】

スロットが生成されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

スロットが生成されていません。

【システム管理者の処置】

秘密鍵管理環境の作成／設定コマンドでスロットを生成してから、再度実行してください。

SHS: ERROR: ihs69015: No token exists.

【メッセージの意味】

トークンが生成されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

トークンが生成されていません。

【システム管理者の処置】

秘密鍵管理環境の作成／設定コマンドで、トークンを生成してから再度実行してください。

SHS: ERROR: ihs69016: Failed to load at SCTL-Library.

【メッセージの意味】

SSLの運用をするためのライブラリのロード処理において異常が発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs69017: Failed to symget at SCTL-Library.

【メッセージの意味】

SSLの運用をするためのライブラリのシンボル取り出し処理において異常が発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs69018: Failed to load at SCL-Library.

【メッセージの意味】

SSLの運用をするためのライブラリのロード処理において異常が発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs69019: Failed to symget at SCL-Library.

【メッセージの意味】

SSLの運用をするためのライブラリのシンボル取り出し処理において異常が発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs70004: (%s1)%s2:Cannot get enough memory

【メッセージの意味】

作業メモリの獲得に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容

【原因】

作業メモリの獲得に失敗しました。

【システム管理者の処置】

不要なプログラムを終了してください。

SHS: ERROR: ihs70005: (%s1)%s2:Error writing to log file. %s3 messages lost.

【メッセージの意味】

ログファイルの書き込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：ログファイル内のメッセージ管理番号（内部コード）

【原因】

ログファイルの書き込みに失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照して、失敗の原因を取り除いてください。

SHS: INFO: ihs70007: Log can now be output to the log file(%s1). (%s2)

【メッセージの意味】

ログファイル%s1へのログ出力が可能になりました。

【パラメタの意味】

%s1：ファイル名
%s2：出力できなかったメッセージの数

SHS: INFO: ihs70008: The file was rotated because the file size of the log file(%s1) reached the upper limit of the system.

【メッセージの意味】

ログファイル%s1のファイルサイズがシステムの上限値に達したため、ローテーションを行いました。

【パラメタの意味】

%s1：ファイル名

SHS: ERROR: ihs70009: The log could not be output because the file size of the log file reached the upper limit of the system.

【メッセージの意味】

ログファイルのファイルサイズがシステムの上限値に達したため、ログを出力できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【原因】

ログファイルのファイルサイズがシステムの上限値に達したため、ログを出力できません。

【システム管理者の処置】

以下の手順で対処を行ってください。

通信基盤を停止します。

システムのファイルサイズの上限値に達したログファイルを退避します。

通信基盤を起動します。

SHS: ERROR: ihs81501: There is already a path with the same name as the named pipe. path=%s1 [%s2]

【メッセージの意味】

名前付きパイプと同じパス%s1がすでに存在しています。

【パラメタの意味】

%s1：パス名
%s2：Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s2の起動処理を中止します。

【原因】

名前付きパイプと同じパス%s1がすでに存在しています。

【システム管理者の処置】

パス%s1のファイルまたはディレクトリを変名するか削除したあと、通信基盤を再起動してください。

SHS: ERROR: ihs81502: (%s1)%s2: Failed to create the named pipe. pipe=%s3 [%s4]

【メッセージの意味】

名前付きパイプ%s3の作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：名前付きパイプ名
%s4：Webサーバ名

【システムの処理】

【Windows版】

状態表示デーモンを終了します。Webサーバ%s4は、継続して運用します。

【Solaris版/Linux版/HP-UX版/AIX版】

Webサーバ%s4の起動処理を中止します。

【原因】

名前付きパイプ%s3の作成に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照して、失敗の原因を取り除き、通信基盤を再起動してください。

SHS: ERROR: ihs81503: (%s1)%s2: Failed to create the status display daemon. func=%s3 [%s4]

【メッセージの意味】

状態表示デーモンの生成に失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:関数名
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

Webサーバ%s4の起動処理を中止します。

【原因】

状態表示デーモンの生成に失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照して、失敗の原因を取り除き、通信基盤を再起動してください。

SHS: ERROR: ihs81504: (%s1)%s2: Failed to open the named pipe. pipe=%s3 [%s4]

【メッセージの意味】

名前付きパイプ%s3のオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1:エラー詳細番号
%s2:エラー詳細内容
%s3:名前付きパイプ名
%s4:Webサーバ名

【システムの処理】

状態表示デーモンを終了します。Webサーバ%s4は、継続して運用します。

【原因】

名前付きパイプ%s3のオープンに失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照して、失敗の原因を取り除き、通信基盤を再起動してください。

SHS: ERROR: ihs81505: An error occurred in status display processing. detail=%s1 [%s2]

【メッセージの意味】

状態表示処理で異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:詳細情報
%s2:Webサーバ名

【システムの処理】

状態表示処理を中止します。Webサーバ%s2は、継続して運用します。

【原因】

状態表示処理で異常が発生しました。

【システム管理者の処置】

動作状態の表示コマンド(ihsdisp)を再度実行してください。

SHS: ERROR: ihs81506: An internal error occurred during status display daemon initialization processing. detail=%s1

【メッセージの意味】

状態表示デーモンの初期化処理において内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1:詳細情報

【システムの処理】

Webサーバの起動処理を中止します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs81511: The user that executed the command does not have the authority to execute it.

【メッセージの意味】

コマンドを実行したユーザに実行権限がありません。

【パラメタの意味】

【システムの処理】

コマンドは、異常終了します。

【原因】

コマンドを実行したユーザに実行権限がありません。

【システム管理者の処置】

管理者権限で、再度コマンドを実行してください。

SHS: ERROR: ihs81512: The Web Server was not installed normally.

【メッセージの意味】

Webサーバが正常にインストールされていません。

【システムの処理】

コマンドは、異常終了します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs81513: The "ihsdisp" command option was specified incorrectly. Usage: ihsdisp [-n WebServerName[,...]] [-a]

【メッセージの意味】

ihsdispコマンドのオプションの指定方法に誤りがあります。

【システムの処理】

コマンドは、異常終了します。

【原因】

ihsdispコマンドのオプションの指定方法に誤りがあります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs81514: (%s1)%s2: Failed to open the lock file. file=%s3

【メッセージの意味】

ロック用ファイル%s3のオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号
%s2：エラー詳細内容
%s3：ファイル名

【システムの処理】

コマンドは、異常終了します。

【原因】

ロック用ファイル%s3のオープンに失敗しました。

【システム管理者の処置】

エラー詳細内容%s2を参照して、失敗の原因を取り除き、再度コマンドを実行してください。

SHS: ERROR: ihs81515: The "ihsdisp" command cannot be processed now because it is being processed for something else.

【メッセージの意味】

ihsdispコマンドは他の処理で実行中であるため、処理できません。

【システムの処理】

コマンドは、異常終了します。

【原因】

ihsdispコマンドは他の処理で実行中であるため、処理できません。

【システム管理者の処置】

他の処理で実行中のihsdispコマンドの処理が終了してから、再度コマンドを実行してください。

SHS: ERROR: ihs81516: There is already a file or directory with the same name as the named pipe. path=%s1

【メッセージの意味】

名前付きパイプと同一名のファイルまたはディレクトリ%s1が存在します。

【パラメタの意味】

%s1：パス名

【システムの処理】

コマンドは、異常終了します。

【原因】

名前付きパイプと同一名のファイルまたはディレクトリ%s1が存在します。

【システム管理者の処置】

パス%s1のファイルまたはディレクトリの変名／削除を行い、通信基盤を起動後、再度コマンドを実行してください。

SHS: ERROR: ihs81517: The Web Server did not start. [%s1]

【メッセージの意味】

Webサーバ%s1が起動されていません。

【パラメタの意味】

%s1：Webサーバ名

【システムの処理】

コマンドは、異常終了します。

【原因】

Webサーバ%s1が起動されていません。

【システム管理者の処置】

Webサーバ%s1を起動し、再度コマンドを実行してください。

SHS: ERROR: ihs81518: (%s1)%s2: An error occurred in the named pipe operation. func=%s3, pipe=%s4

【メッセージの意味】

名前付きパイプ%s4の操作で異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1：エラー詳細番号(注)
%s2：エラー詳細内容(注)
%s3：関数名
%s4：名前付パイプ名
注)エラー詳細番号%s1およびエラー詳細内容%s2は、出力されない場合があります。

【システムの処理】

コマンドは、異常終了します。

【原因】

名前付きパイプ%s4の操作で異常が発生しました。

【システム管理者の処置】

以下の対処を行ってください。

- Windows(R)の場合はイベントログ上、Solaris/Linuxの場合はシステムログ上に、ihs81500番台のエラーメッセージが出力されている場合は、そのメッセージの対処を行い、再度コマンドを実行してください。
- エラー詳細番号%s1およびエラー詳細内容%s2が出力されない場合は、再度コマンドを実行してください。
- 上記に該当しない場合は、エラー詳細内容%s2を参照して、失敗の原因を取り除き、再度コマンドを実行してください。

SHS: ERROR: ihs81519: Failed to get memory.

【メッセージの意味】

メモリの獲得に失敗しました。

【システムの処理】

コマンドは、異常終了します。

【原因】

メモリの獲得に失敗しました。

【システム管理者の処置】

不要なプログラムを終了し、再度コマンドを実行してください。

SHS: ERROR: ihs81520: The Web server operating environment has not been created.

【メッセージの意味】

Webサーバの動作環境が作成されていません。

【システムの処理】

コマンドは、異常終了します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs81521: The specified Web server does not exist. [%s1]

【メッセージの意味】

指定したWebサーバ%s1が存在しません。

【パラメタの意味】

%s1：Webサーバ名

【システムの処理】

コマンドは、異常終了します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: ERROR: ihs81522: Internal error. detail=%s1

【メッセージの意味】

内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%s1：詳細情報

【システムの処理】

コマンドは、異常終了します。

【原因】

システム異常が発生している可能性があります。

【システム管理者の処置】

再度コマンドを実行してください。それでも本メッセージが出力される場合は、保守資料を採取して技術員に連絡してください。

SHS: 情報: ihs90000: 期間限定版です。
SHS: INFO: ihs90000: This product is a time limited version.

【メッセージの意味】

試用期間中です。

SHS: エラー: ihs90001: 有効期限をすぎています。
SHS: ERROR: ihs90001: This product had expired.

【メッセージの意味】

試用期間が過ぎています。

【原因】

試用期間が過ぎています。

【システム管理者の処置】

製品版を購入してください。

SHS: エラー: ihs90002: インストールが正しく行われていません。
SHS: ERROR: ihs90002: This product was not installed correctly.

【メッセージの意味】

インストールが正しく行われていません。

【原因】

インストールが正しく行われていません。

【システム管理者の処置】

再インストールしてください。

第3章 イベントビューアまたはSYSLOG以外に出力されるメッセージ

本章では、イベントビューアまたはSYSLOG以外に出力されるメッセージについて説明します。

3.1 サービス/デーモンの起動/停止の出力メッセージ

本節では、サービス/デーモンの起動/停止のメッセージについて説明します。

[Windows]サービス一括起動／停止コマンドが既に動作中です。

【メッセージの意味】

サービス一括起動/停止コマンドが既に動作中です。

【対処方法】

サービスの一括起動/停止コマンドが終了していることを確認した後、再度、サービスの一括起動/停止コマンドを実行してください。また、運用環境保守ウィザードやコマンドを使用してバックアップ/リストアなどサービスの一括起動/停止を伴う操作が実行されているか確認し、実行していた場合は、操作終了後、サービスの一括起動/停止コマンドを実行してください。

サービスの一括起動/停止コマンドが終了していることやサービスの一括起動/停止を伴う操作が実行されているかの確認は、[タスクマネージャ]の[プロセス]画面で以下のプロセスが存在しているかで確認できます。

- pcentricmgr.exe
- scentricmgr.exe
- poperationmgr.exe
- soperationmgr.exe
- MpEnvset.exe
- mpbkc.exe
- mprsc.exe
- mpbko.exe
- mprso.exe
- mppolcopy.exe
- mppolclone.exe
- mppolcollect.exe

[Windows]パラメータが違います。

【メッセージの意味】

オプションの使用方法が不正です。

【対処方法】

使用方法を確認し、再度、サービス/デーモンの起動/停止コマンドを実行してください。

[Windows]このプログラムを起動するためには管理者権限が必要です。

【メッセージの意味】

このプログラムを起動するためには管理者権限が必要です。

【対処方法】

管理者権限があるユーザで、再度、サービスの一括起動/停止コマンドを実行してください。

[UNIX]Command %1 rejected. already running : %2

【メッセージの意味】

%2が既に実行されているため、%1のコマンドを実行できませんでした。

【パラメタの意味】

%1:実行したコマンド名

%2:実行中コマンド名

【対処方法】

実行中のコマンドが終了していることを確認した後、再度、コマンドを実行してください。

実行中のコマンドが終了しているかの確認は、psコマンドで実行中コマンド名のプロセスが存在しないことで確認できます。

[実行中コマンド名がpoperationmgrの場合]

```
ps -ef | grep poperationmgr
```

また、バックアップ/リストアコマンドなどデーモンの停止/起動を伴うコマンドが実行されているか確認し、実行していた場合は、コマンド終了後にコマンドを実行してください。

デーモンの停止／起動を伴うコマンドが実行されているかの確認は、psコマンドで以下のプロセスが存在するかで確認できます。

- mpbkc
- mprsc
- mpbko
- mprso
- mppolcopy
- mppolclone
- mppolcollect
- mpbk
- mprs
- その他の“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”でデーモンの停止/起動を行うことを記載しているコマンド名

[mpbkoの場合]

```
ps -ef | grep mpbko
```

[UNIX]The daemon is suppressed from starting. Cannot execute the command.

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation ManagerまたはSystemwalker Centric Managerのデーモンの起動が抑止されているため、コマンドを実行できませんでした。

【対処方法】

“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”の“swstartサービス/デーモンの起動の抑止解除コマンド”を参照し、デーモンの起動抑止を解除してください。

Systemwalker Centric Manager混在時は、本対処によりSystemwalker Centric Managerのデーモンについても起動抑止が解除されます。

[UNIX]Usage: %1 %2

【メッセージの意味】

オプションの使用方法が不正です。

【パラメタの意味】

%1:コマンド名

%2:コマンドオプション

【対処方法】

使用方法に誤りがないかを以下のコマンドで確認し、再度、サービス/デーモンの起動/停止コマンドを実行してください。

- poperationmgr(サービス/デーモン停止コマンド)
- soperationmgr(サービス/デーモン起動コマンド)

コマンドの詳細については、"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

[UNIX]%1: ERROR: A product older than Systemwalker CentricMGR 10.1 has already been installed. Cannot specify -a parameter.

【メッセージの意味】

Systemwalker CentricMGRとの混在環境で、Systemwalker CentricMGR 10.1より古いバージョンの製品がインストールされているため、コマンド名に-aオプションを指定できません。

【パラメタの意味】

%1:コマンド名

【対処方法】

"Systemwalker CentricMGR リファレンスマニュアル"を参照し、デーモンの起動/停止コマンドを、-aオプションを指定せずに実行してください。また、"Systemwalker OperationMGR リファレンスマニュアル"を参照し、デーモンの起動/停止コマンドを、-aオプションを指定せずに実行してください。

[UNIX]

poperationmgr start...
poperationmgr end.
soperationmgr start...
soperationmgr normal end.
component start : %1
component stopped normally: %1
component started normally: %1
component has been stopped : %1
component has been started : %1

【メッセージの意味】

コマンドの実行状態を示すメッセージです。

【パラメタの意味】

%1:コマンド名

【対処方法】

対処する必要はありません。なお、"component start : %1"の次行に上記以外のメッセージが出力される場合がありますが、最後に以下のメッセージが出力されている場合は、対処する必要はありません。

- poperationmgr end.
- soperationmgr normal end.

メッセージが出力されていない場合は、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”の“保守情報収集ツールの定義”に従い、すべての機能、またはツールについて保守情報を採取してください。

3.2 アクセス権設定時のメッセージ

本節では、アクセス権設定時のメッセージについて説明します。

なお、「一般エラーメッセージ」と「詳細エラーメッセージ」は、対になって出力されます。

3.2.1 一般エラーメッセージ

XXX のアクセス権を削除できませんでした。

【メッセージの意味】

XXXのアクセス権を削除できませんでした。

【パラメタの意味】

XXX: ユーザアカウント

【システム管理者の処置】

【Windows版】

Systemwalker ACL Managerサービスが起動されていることを確認してください。起動されていない場合は、Operation Managerを起動してください。

起動方法:

Systemwalkerインストールディレクトリ¥MpWalker.JM¥bin¥soperationmgr

【UNIX版】

ACLマネージャのデーモン(/usr/lib/MpFwsec)が起動されていることを確認してください。起動されていない場合は、Operation Managerを起動してください。

起動方法:

/opt/systemwalker/bin/soperationmgr

XXX のアクセス権を設定できませんでした。

【メッセージの意味】

XXXのアクセス権を設定できませんでした。

【パラメタの意味】

XXX: ユーザアカウント

【システム管理者の処置】

【Windows版】

Systemwalker ACL Managerサービスが起動されていることを確認してください。起動されていない場合は、Operation Managerを起動してください。

起動方法:

Systemwalkerインストールディレクトリ¥MpWalker.JM¥bin¥soperationmgr

【UNIX版】

ACLマネージャのデーモン(/usr/lib/MpFwsec)が起動されていることを確認してください。起動されていない場合は、Operation Managerを起動してください。

起動方法:

/opt/systemwalker/bin/soperationmgr

グループ名の一覧が取得できませんでした。

【メッセージの意味】

グループ名の一覧が取得できませんでした。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールの"フレームワーク"の資料を採取して、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]ドメイン名の一覧が取得できませんでした。

【メッセージの意味】

ドメイン名の一覧が取得できませんでした。

【システム管理者の処置】

以下を確認してください。

- ドメインコントローラが動作しているか
- ドメイン環境が正しく構築されているか

プロジェクトのアクセス権情報が存在しません。

【メッセージの意味】

プロジェクトのアクセス権情報が存在しません。

【システム管理者の処置】

システム管理者でログインしても、本メッセージが表示される場合は、サーバ上で、以下のコマンドを実行します。

【Windows版】

- 複数サブシステム運用をしていない場合

```
mpsetacl -a -t mpjobsch¥schedule¥プロジェクト名(注1) -g Administrators -p w
```

- 複数サブシステム運用をしている場合

```
mpsetacl -a -t mpjobsch¥schedulen(注2)¥プロジェクト名(注1) -g Administrators -p w
```

【UNIX版】

- 複数サブシステム運用をしていない場合

```
mpsetacl -a -t mpjobsch/schedule/プロジェクト名(注1) -u root -p w
```

- 複数サブシステム運用をしている場合

```
mpsetacl -a -t mpjobsch/schedulen(注2)/プロジェクト名(注1) -u root -p w
```

注1)

アクセス権情報が存在しないプロジェクト名

注2)

n: サブシステム番号(1～9)
サブシステム番号0のプロジェクトは、複数サブシステム運用をしていない場合と同じ形式で指定してください。

ユーザ名の一覧が取得できませんでした。

【メッセージの意味】

ユーザ名の一覧が取得できませんでした。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“セキュリティ”の情報を採取して、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

【Windows版】

保守情報収集ツールで、“フレームワーク”および“セキュリティ”をチェックして採取します。

【UNIX版】

swcolinf保守情報収集コマンド(サーバ用)で採取します。swcolinfコマンドの使用方法については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

3.2.2 詳細エラーメッセージ

ソケットの初期化に失敗しました。(YYY:ZZZ)

【メッセージの意味】

ネットワークの設定がされていない可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: エラーコード

ZZZ: システムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークの設定をしてください。

タイムアウトが発生しました。(YYY:ZZZ)

【メッセージの意味】

クライアントでタイムアウトが発生しました。

【パラメタの意味】

YYY: エラーコード

ZZZ: システムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

タイムアウト時間を変更してください。

【Windows版】

富士通技術員に変更方法を確認してください。

【UNIX版】

変更方法:

1. /opt/systemwalker/etc/MpFwsec.iniファイルのリンク元ファイルを確認します。

```
ls -l /opt/systemwalker/etc/MpFwsec.ini
```

2. 現在設定されているタイムアウト時間を確認します。

```
/opt/FJSVfwseo/bin/secgetini -f ファイル名(注) -s Connection -
k TimeOut -i
```

注) 1)で確認したリンク元ファイル名

3. タイムアウト時間の設定を変更します。

```
/opt/FJSVfwseo/bin/secsetini -f ファイル名(注) -s Connection -
k TimeOut -v タイムアウト時間(単位:ミリ秒) -i
```

注) 1)で確認したリンク元ファイル名

データ受信に失敗しました。(YYY:ZZZ)

【メッセージの意味】

サーバでタイムアウトが発生しました。

【パラメタの意味】

YYY: エラーコード

ZZZ: システムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

タイムアウト時間を変更してください。

データ転送に失敗しました。(YYY:ZZZ)

【メッセージの意味】

ネットワークの負荷が大きい可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: エラーコード

ZZZ: システムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークに負荷をかけないようにしてください。

ポート番号の取得に失敗しました。(YYY:ZZZ)

【メッセージの意味】

ポート番号の設定がされていません。

【パラメタの意味】

YYY: エラーコード

ZZZ: システムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

servicesファイルにセキュリティのポート番号を設定してください。ポート番号の設定については、"Systemwalker Operation Manager 導入手引書"を参照してください。

ホストへのログオンに失敗しました。(YYY:ZZZ)

【メッセージの意味】

ユーザ名またはパスワードが間違っています。

【パラメタの意味】

YYY: エラーコード

ZZZ: システムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

ユーザ名、パスワードを確認してください。

ホストへの接続に失敗しました。(YYY:ZZZ)

【メッセージの意味】

サービスが停止している。または、ホスト名が誤っています。

【パラメタの意味】

YYY: エラーコード

ZZZ: システムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

ホスト名を確認してください。

【システム管理者の処置】

サービスが停止している場合は、サービスを起動してください。

メモリ取得に失敗しました。(YYY:ZZZ)

【メッセージの意味】

メモリ不足です。

【パラメタの意味】

YYY: エラーコード

ZZZ: システムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

他のアプリケーションを終了してください。

偽装に失敗しました。(YYY:ZZZ)

【メッセージの意味】

アクセス権の確認に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: エラーコード

ZZZ: システムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“セキュリティ”の情報を採取して、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

【Windows版】

保守情報収集ツールで、“フレームワーク”および“セキュリティ”をチェックして採取します。

【UNIX版】

swcolinf 保守情報収集コマンド(サーバ用)で採取します。swcolinfコマンドの使用方法については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

[Windows]認証されませんでした。(YYY:ZZZ)

【メッセージの意味】

security.dllがシステムディレクトリ配下に存在しない可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: エラーコード

ZZZ: システムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“セキュリティ”の情報を採取して、富士通技術員に連絡してください。

資料採取方法:

【Windows版】

保守情報収集ツールで、“フレームワーク”および“セキュリティ”をチェックして採取します。

【UNIX版】

swcolinf 保守情報収集コマンド(サーバ用)で採取します。swcolinfコマンドの使用方法については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

3.3 セキュリティコマンドの出力メッセージ

本節では、セキュリティコマンドの出力メッセージについて説明します。

[Windows]

mpsetacl -a -t target -u user|-g group|-w wellknown [-s domain] -p r|w|x|c
mpsetacl -d -t target [-u user|-g group|-w wellknown [-s domain]]

【メッセージの意味】

mpsetaclコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]

mpsetacl -a -t target -u user|-g group [-s domain] -p r|w|x|c
mpsetacl -d -t target [-u user|-g group [-s domain]]

【メッセージの意味】

mpsetaclコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]You don't have enough privilege to execute this command.

【メッセージの意味】

実行権限のないユーザでコマンドを実行しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

実行権限のあるユーザでコマンドを実行してください。

[Windows]You do not belong to Administrators group.

【メッセージの意味】

Administratorsグループに属するユーザだけが使用できるコマンドを、Administratorsグループに属していないユーザが使用しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

Administratorsグループに属するユーザでコマンドを実行してください。

[Windows]Internal error.

【メッセージの意味】

内部エラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"サーバ機能"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]You are not a super-user.

【メッセージの意味】

システム管理者(スーパーユーザ)権限の必要なコマンドにもかかわらず、特権ユーザ以外が使用しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者(スーパーユーザ)で実行してください。

[UNIX]Failed to convert into SJIS code.

【メッセージの意味】

SJISへのコード変換に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

不当な文字を含まないようにコマンドの引数を見直してください。

Could not create '%1'

【メッセージの意味】

アクセス制御情報の作成に失敗したため、アクセス権を設定できませんでした。

【パラメタの意味】

%1:プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

Control file was broken.

【メッセージの意味】

Operation Managerユーザの定義ファイルに異常があるため、Operation Managerユーザ情報の読み込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

Could not read control file.

【メッセージの意味】

Operation Managerユーザの定義ファイルの読み込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

[UNIX]User '%1' not found.

【メッセージの意味】

指定したユーザは存在しないため、アクセス権を設定できませんでした。

【パラメタの意味】

%1:ユーザ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいユーザ名を指定して、コマンドを再実行してください。

[Windows]Account '%1' not found.

【メッセージの意味】

指定したアカウントは存在しないため、アクセス権を設定できませんでした。

【パラメタの意味】

%1:アカウント名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいアカウント名を指定して、コマンドを再実行してください。

Group '%1' not found.

【メッセージの意味】

指定したグループは存在しないため、アクセス権を設定できませんでした。

【パラメタの意味】

%1:グループ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいグループ名を指定して、コマンドを再実行してください。

Could not set access rights to '%1'.

【メッセージの意味】

指定のプロジェクトに対するアクセス権の設定に失敗しました。

【パラメタの意味】

%1:プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

メモリ不足(リソース不足)が発生していないか確認してください。

メモリに問題がない場合には、ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

Target '%1' not found.

【メッセージの意味】

指定したプロジェクトは存在しないため、アクセス権を設定できませんでした。

【パラメタの意味】

%1:プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいプロジェクト名を指定して、コマンドを再実行してください。

なお、プロジェクト名は、以下の形式で指定してください。

【Windows版】

```
mpjobsch¥schedule¥プロジェクト名
```

EE

複数サブシステム運用をしている場合、プロジェクトは以下の形式で指定してください。(注)

```
mpjobsch¥schedulen¥プロジェクト名
```

n:サブシステム番号(1～9)

注) サブシステム番号0のプロジェクトは、複数サブシステム運用をしていない場合と同じ形式で指定してください。

【UNIX版】

```
mpjobsch/schedule/プロジェクト名
```

EE GEE

複数サブシステム運用をしている場合、プロジェクトは以下の形式で指定してください。(注)

```
mpjobsch/schedulen/プロジェクト名
```

n:サブシステム番号(1～9)

注) サブシステム番号0のプロジェクトは、複数サブシステム運用をしていない場合と同じ形式で指定してください。

Could not remove owner of '%1'.

【メッセージの意味】

所有者情報の削除に失敗しました。

【パラメタの意味】

%1:プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

Could not remove access rights of '%1'.

【メッセージの意味】

アクセス制御情報の削除に失敗しました。

【パラメタの意味】

%1:プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

Could not remove '%1'.

【メッセージの意味】

指定のプロジェクトに対するアクセス権の削除に失敗しました。

【パラメタの意味】

%1:プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

[Windows]mpchown -t target [-d domain] -o owner [-g|-u|-w]

【メッセージの意味】

mpchownコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]mpchown -t target [-d domain] -o owner [-g|-u]

【メッセージの意味】

mpchownコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

'%1' does not exist.

【メッセージの意味】

指定したユーザは存在しません。

【パラメタの意味】

%1:ユーザ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいユーザ名を指定して、コマンドを再実行してください。

Could not change owner.

【メッセージの意味】

所有者の変更に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

mkbat [-d|-j] [-b] -f filename [-r parent] [-x] [-c]

【メッセージの意味】

mkbatコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

Could not create '%1'

【メッセージの意味】

指定したファイルのオープンに失敗したため、ファイルを作成できません。

【パラメタの意味】

%1:ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいファイル名を指定して、コマンドを再実行してください。

[Windows]Failed to get name of Administrator

【メッセージの意味】

システムから管理者ユーザ名が取得できませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

システム上の管理者ユーザの設定を見直してください。

[UNIX]Failed to get name of root user

【メッセージの意味】

システムから管理者ユーザ名が取得できませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

システム上の管理者ユーザの設定を見直してください。

Failed to get user information.

【メッセージの意味】

システムから登録されているユーザ情報の取得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

Failed to open file(%1)

【メッセージの意味】

ACLマネージャの定義ファイルのオープンに失敗したため、プロジェクトのアクセス制御情報を読み込めませんでした。

【パラメタの意味】

%1:ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

以下を確認し、必要に応じて対処してください。

- Systemwalker Centric Managerがインストールされていないにもかかわらず、Systemwalker Centric Managerの定義ファイルを参照しようとした可能性があります。Systemwalker Centric Managerのインストール状況を確認し、インストールされていない場合には、Systemwalker Operation Managerのみを対象とするオプションを指定してコマンドを再度実行してください。

  例) Systemwalker Centric Manager未導入時に、mkbatコマンドで-jオプションを指定しなかった場合は、-jオプションを指定して再度実行してください。

- ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

Failed to read file(.%1)

【メッセージの意味】

ACLマネージャの定義ファイルの読み込みに失敗したため、プロジェクトのアクセス制御情報を読み込めませんでした。

【パラメタの意味】

%1:ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

Failed to allocate memory

【メッセージの意味】

メモリの獲得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

物理メモリを増設するか、スワップの設定を変更してください。

Failed to get owner information

【メッセージの意味】

所有者情報の取得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

[Windows]usage: mpaclcls [-u [-s { 0 - 9 }]] | [-s { 0 - 9 } [-w]] shared-directory

【メッセージの意味】

mpaclclsコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]usage: mpaclcls [-u] [-s { 0 - 9 }]

【メッセージの意味】

mpaclclsコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

Cannot access to the shared directory.

【メッセージの意味】

共有ディスクへアクセスできませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

共有ディスクが正しくマウントされているか確認してください。

usage: mpcssave [-s { 0 - 9 }]

【メッセージの意味】

mpcssaveコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

Failed to transfer the security information.(%1:%2)

【メッセージの意味】

共有ディスクへのアクセス制御情報の退避処理に失敗しました。

【パラメタの意味】

%1:エラーコード

%2:詳細コード

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

共有ディスクが正しくマウントされているか確認してください。

usage: mplstacluser [-s subsystem-no]

【メッセージの意味】

mplstacluserコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

Internal error. code: %1, %2

【メッセージの意味】

内部エラーが発生しました。

【パラメタの意味】

%1:エラーコード

%2:詳細コード

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"サーバ機能"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Invalid argument.

【メッセージの意味】

引数の指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

Insufficient Memory.

【メッセージの意味】

メモリの獲得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

メモリ不足(リソース不足)が発生していないか確認してください。

[UNIX]usage: mpsetusermode -s { on | off }

【メッセージの意味】

mpsetusermodeコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]Failed to create process list file.

【メッセージの意味】

システムからプロセス情報の取得に失敗したため、Systemwalker Operation Managerのデーモンの動作状態を確認できませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“サーバ機能”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]Failed to check process.

【メッセージの意味】

プロセス情報の読み込みに失敗したため、Systemwalker Operation Managerのデーモンの動作状態を確認できませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“サーバ機能”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]Systemwalker Operation Manager is running.

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Managerのデーモンが動作中のため、拡張ユーザ管理機能の有効/無効を変更することはできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

Systemwalker Operation Managerのデーモンを停止した後、コマンドを再実行してください。

[UNIX]Failed to set user mode.

【メッセージの意味】

拡張ユーザ管理機能の有効/無効の切り替えに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

[UNIX]Failed to set access rights.

【メッセージの意味】

アクセス権の設定に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

[UNIX]usage: mpadduser -o OS-username [-d description] [-a] username

【メッセージの意味】

mpadduserコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]The user name must be specified within 20 bytes.

【メッセージの意味】

Operation Managerユーザ名の指定が長すぎます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

Operation Managerユーザ名は、20バイト以内で指定してください。

[UNIX]It's not allowed to add 'root' user.

【メッセージの意味】

rootという名前のOperation Managerユーザは、インストール時に作成されるため、指定できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

root以外の名前を指定して、コマンドを再実行してください。

[UNIX]Specified user name includes unusable characters.

【メッセージの意味】

Operation Managerユーザ名として指定された文字列に誤った文字が含まれています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

Operation Managerユーザ名に正しい文字列を指定して、コマンドを再実行してください。

[UNIX]Failed to add user.

【メッセージの意味】

Operation Managerユーザの追加に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

[UNIX]Failed to check the uid of '%1'

【メッセージの意味】

指定したOSユーザの管理者権限のチェック処理に失敗しました。

【パラメタの意味】

%1:ユーザ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"サーバ機能"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]It's not allowed to specify a super-user for an unprivileged user.

【メッセージの意味】

Operation Managerユーザとして、非管理者を登録する場合は、OSユーザにシステム管理者(スーパーユーザ)名を指定できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

非管理者を登録する場合は、OSユーザに一般ユーザ名を指定してください。

[UNIX]Specify a super-user for a privileged user.

【メッセージの意味】

Operation Managerユーザとして、管理者を登録する場合は、OSユーザに一般ユーザ名を指定できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

管理者を登録する場合は、OSユーザにシステム管理者(スーパユーザ)名を指定してください。

[UNIX]'%1' is already in use.

【メッセージの意味】

指定したOperaiton Managerユーザ名は既に登録済みです。

【パラメタの意味】

%1:ユーザ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

登録されていないOperaiton Managerユーザ名を指定して、コマンドを再実行してください。

[UNIX]usage: mpdeluser username [username ...] | -all

【メッセージの意味】

mpdeluserコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]

Internal error occurred.
(Failed to create a file of process list.)

【メッセージの意味】

システムからプロセス情報の取得に失敗したため、Systemwalker Operation Managerのデーモンの動作状態を確認できませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"サーバ機能"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]

Internal error occurred.
(Failed to check a process.)

【メッセージの意味】

プロセス情報の読み込みに失敗したため、Systemwalker Operation Managerのデーモンの動作状態を確認できませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“サーバ機能”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]It's not allowed to delete 'root' user.

【メッセージの意味】

rootという名前のユーザは削除できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

root以外のユーザを指定して、コマンドを再実行してください。

[UNIX]usage: mpmoduser -o OS-username | -d description username

【メッセージの意味】

mpmoduserコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]Failed to modify user.

【メッセージの意味】

Operation Managerユーザの変更に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

[UNIX]Failed to check the privilege of '%1'.

【メッセージの意味】

指定したOperation Managerユーザの管理者権限のチェック処理に失敗しました。

【パラメタの意味】

%1:ユーザ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

[UNIX]usage: mpsetpasswd [-d] username

【メッセージの意味】

mpsetpasswdコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]
The password you specified is not long enough.
The password must contain at least 5 bytes of characters.

【メッセージの意味】

パスワードが短すぎます。5バイト以上の文字列を指定してください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パスワードは、5～50バイトの文字列を指定してください。

[UNIX]The password must be specified within 50 bytes.

【メッセージの意味】

パスワードが長すぎます。50バイト以下の文字列を指定してください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パスワードは、5～50バイトの文字列を指定してください。

[UNIX]Specified password includes unusable characters.

【メッセージの意味】

パスワードとして指定した文字列の中に、指定不可の文字が含まれています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいパスワードを指定して、コマンドを再実行してください。

なお、パスワードに指定できる文字については、"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

[UNIX]Failed to delete password.

【メッセージの意味】

パスワードの削除に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

[UNIX]Failed to make crypto password.

【メッセージの意味】

パスワードの暗号化に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“サーバ機能”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]Failed to set password.

【メッセージの意味】

パスワードの設定に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

[UNIX]usage: mpusers [-a]

【メッセージの意味】

mpusersコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]Failed to list user.

【メッセージの意味】

Operation Managerユーザ情報一覧の取得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

[UNIX]Failed to convert into UTF-8 code.

【メッセージの意味】

Operation Managerユーザ名、OSユーザ名、説明のいずれかのUTF-8へのコード変換に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

Operation Managerユーザ情報に誤ったコードの文字が指定されている可能性があります。Operation Managerユーザの定義を見直してください。

[UNIX]Failed to convert into EUC code.

【メッセージの意味】

Operation Managerユーザ名、OSユーザ名、説明のいずれかのEUCへのコード変換に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

Operation Managerユーザ情報に誤ったコードの文字が指定されている可能性があります。Operation Managerユーザの定義を見直してください。

[UNIX]usage: mpsetupolmode -u { clear | keep }

【メッセージの意味】

mpsetupolmodeコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]Failed to set user policy distribution mode.

【メッセージの意味】

mpsetupolmodeコマンドにおけるOperation Managerユーザのポリシー配付方法の設定に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ACLマネージャの定義ファイルが破損している可能性があります。ACLマネージャの定義ファイルをバックアップから復元するか、Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。

[UNIX]usage: mpprjcmdacl [-s { 0 - 9 }] projectname

【メッセージの意味】

mpprjcmdaclコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]'%1' does not exist.

【メッセージの意味】

指定したプロジェクトは存在しません。

【パラメタの意味】

%1:プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいプロジェクト名を指定して、コマンドを再実行してください。

[UNIX]usage: mpmkpwbat [-c] [-u username] -f filename

【メッセージの意味】

mpmkpwbatコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]

ACL Manager: 警告: 20: 監査ログライブラリのロードに失敗しました。

“2.1 ACL Managerで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpFwsec: WARNING: 00020: Failed to load the audit log library.

“2.6 MpFwsecで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]

ACL Manager: 警告: 21: 監査ログファイルの読み込みに失敗しました。

“2.1 ACL Managerで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpFwsec: WARNING: 00021: Failed to read the audit log file.

“2.6 MpFwsecで始まるメッセージ”を参照してください。

3.4 カレンダコマンドの出力メッセージ

本節では、カレンダコマンドの出力メッセージについて説明します。

MpJmCal: ERROR: 0050 :共有ディスク上のディレクトリが存在しません。(detail=0xXX)
MpJmCal: ERROR: 0050 :The directory does not exist on the shared disk. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

指定したディレクトリは存在していません。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

クラスタシステムをオンラインの状態にし、指定した共有ディスク上のディレクトリが参照可能な状態になっていることを確認してください。

MpJmCal: ERROR: 0051 :パラメタの指定に誤りがあります。(detail=0xXX)
MpJmCal: ERROR: 0051 :Invalid parameter. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

パラメタの指定に誤りがあります。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

パラメタの指定内容の確認を行った後、再度実行を行ってください。

MpJmCal: ERROR: 0052 :カレンダ環境設定ファイルの作成・更新に失敗しました。(detail=0xXX)
MpJmCal: ERROR: 0052 :Failed to create or update the setup file for calendar environment. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

カレンダ環境設定ファイルの変更に失敗しました。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation Managerのインストールディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。
システム管理者の、参照権と更新権が必要です。

[Windows]MpJmCal: ERROR: 0053 :カレンダサービスへの接続に失敗しました。(detail=0xXX)
[Windows]MpJmCal: ERROR: 0053 :Failed to connect to the Calendar service. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

カレンダサービスが起動していません。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

カレンダサービスの起動を行った後、再度実行を行ってください。

[UNIX]MpJmCal: ERROR: 0054 :カレンダデーモンへの接続に失敗しました。(detail=0xXX)
[UNIX]MpJmCal: ERROR: 0054 :Failed to connect to the Calendar daemon. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

カレンダデーモンが起動していません。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

カレンダデーモンの起動を行った後、再度実行を行ってください。

[Windows]MpJmCal: ERROR: 0055 :カレンダサービスが起動中のため実行することはできません。(detail=0xXX)
[Windows]MpJmCal: ERROR: 0055 :Cannot perform the operation because the Calendar service is currently starting. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

カレンダサービスが起動中になっています。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

カレンダサービスの停止を行った後、再度実行を行ってください。

[UNIX]MpJmCal: ERROR: 0056 :カレンダデーモンが起動中のため実行することはできません。(detail=0xXX)
[UNIX]MpJmCal: ERROR: 0056 :Cannot perform the operation because the Calendar daemon is currently starting. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

カレンダデーモンが起動中になっています。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

カレンダデーモンの停止を行った後、再度実行を行ってください。

MpJmCal: ERROR: 0057 :実行権限がありません。(detail=0xXX)
MpJmCal: ERROR: 0057 :Unauthorized to perform the operation. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

実行を行うためのユーザ権限がありません。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

システム管理者によって再度実行を行ってください。

MpJmCal: ERROR: 0058 :エディションが異なるため起動することができません。(detail=0xXX)
MpJmCal: ERROR: 0058 :Invalid edition. Cannot perform the operation. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

エディションが異なるため起動することができません。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

本機能はSE版の製品ではご使用になれません。

MpJmCal: ERROR: 0059 :反映先ホスト定義ファイルの再読み込みに失敗しました。(detail=0xXX)
MpJmCal: ERROR: 0059 :Failed to reread the file that defines hosts to apply the schedule. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

反映先ホスト定義ファイル(calcphost.def)の読み込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

以下を確認してください。

- 反映先ホスト定義ファイル(calcphost.def)が以下の場所に存在しない場合は、コマンドcalsetclusterを実行し、クラスタ設定を行った後、再度実行してください。

  【Windows版】

  Systemwalker Operation Managerインストール先ディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjmcal¥etc¥calcphost.def

  【Solaris版/Linux版】

  /var/opt/FJSVjmcal/etc/calcphost.def

  【HP-UX版】

  /opt/FHPjmcal/etc/calcphost.def

  【AIX版】

  /opt/FAIXjmcal/etc/calcphost.def

  ファイルが既に存在している場合は、反映先ホスト定義ファイル(calcphost.def)が不正な書式になっている恐れがあります。記述を見直し正しく記入してください。

- Systemwalker Operation Managerのインストールディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

MpJmCal: ERROR: 0060 :反映先ホスト定義ファイルの作成・更新に失敗しました。(detail=0xXX)
MpJmCal: ERROR: 0060 :Failed to create or modify the file that defines hosts to apply the schedule. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

反映先ホスト定義ファイル(calcphost.def)の作成・変更に失敗しました。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation Managerのインストールディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。システム管理者の、参照権と更新権が必要です。

[Windows]MpJmCal: ERROR: 0061 :アカウント情報の取得に失敗しました。(detail=0xXX)
[Windows]MpJmCal: ERROR: 0061 :Failed to obtain the account information. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

コンピュータ名、グループ名、ユーザ名の情報取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

OSのネットワーク設定が正しく行われているか確認してください。

MpJmCal: ERROR: 0062 :メモリ不足が発生しました。(detail=0xXX)
MpJmCal: ERROR: 0062 :Out of memory. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

メモリが不足しています。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

他のソフトウェアを終了させてください。

[Windows]MpJmCal: ERROR: 0063 :レジストリキーのオープンに失敗しました。(detail=0xXX)
[Windows]MpJmCal: ERROR: 0063 :Failed to open the registry key. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Managerに必要なレジストリ情報が存在しません。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の機能を選択して調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

[Windows]MpJmCal: ERROR: 0064 :レジストリから値の取得に失敗しました。(detail=0xXX)
[Windows]MpJmCal: ERROR: 0064 :Failed to obtain values from the registry. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Managerに必要なレジストリ情報の取得ができません。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation Managerを再インストールしてください。問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで“電源制御_カレンダ”の機能を選択して調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

MpJmCal: ERROR: 0065 :転送元ディレクトリが見つかりません。(detail=0xXX)
MpJmCal: ERROR: 0065 :Cannot find the source directory to send the data. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

現在登録されているパス情報のディレクトリが存在していません。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

現在登録済みのパス情報をcalregpath -refコマンドで確認し、指定のパスを参照できるように設定してください。パス情報については、“Systemwalker Operation Managerリファレンスマニュアル”を参照してください。

MpJmCal: ERROR: 0066 :データの移動に失敗しました。(detail=0xXX)
MpJmCal: ERROR: 0066 :Failed to move the data. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

データの移動に失敗しました。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

現在登録されているパス情報のディレクトリ配下、およびパラメタに指定したパスのディレクトリ配下にアクセス制限が設定されていないか確認してください。パス情報については、“Systemwalker Operation Managerリファレンスマニュアル”を参照してください。

MpJmCal: ERROR: 0067 :ディレクトリの指定内容が正しくありません。(detail=0xXX)
MpJmCal: ERROR: 0067 :Invalid path to the directory. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

指定したパス情報の記述が不適切です。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

指定したパス情報の記述を確認し、再度実行してください。

[UNIX]MpJmCal: ERROR: 0068 :カレンダデーモンの起動順序変更に失敗しました。(detail=0xXX)
[UNIX]MpJmCal: ERROR: 0068 :Failed to change the start order of the calendar daemon. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

カレンダデーモンの起動順序を変更することができません。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

以下のファイルの作成・削除が可能なアクセス権限があることを確認してください。

Solaris版: /etc/rc3.d/S28JMCAL

HP-UX版: /sbin/rc3.d/S28JMCAL

Linux版: /etc/rc3.d/S28JMCAL

MpJmCal: ERROR: 0069 :クラスタ運用を行っていないため、本コマンドを使用することはできません。(detail=0xXX)
MpJmCal: ERROR: 0069 :This command can be executed only in a cluster environment. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

カレンダについてのクラスタ運用の設定がされていません。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

コマンド“calsetcluster”を使用し、クラスタ運用設定を行ってください。その後、再度実行してください。

MpJmCal: ERROR: 0070 :カレンダ環境設定ファイルの読み込みに失敗しました。(detail=0xXX)
MpJmCal: ERROR: 0070 :Failed to read the setup file for calendar environment. (detail=0xXX)

【メッセージの意味】

カレンダ環境設定ファイルの読み込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

detail=0xXX: エラー詳細コードが存在する場合は、エラー詳細コードが表示されます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

再度実行しても失敗する場合は、calsetclusterコマンドでカレンダ情報の自動反映の設定を実施してください。設定方法については"Systemwalker Operation Managerリファレンスマニュアル"を参照してください。

3.5 Systemwalker Operation Manager基盤コマンドの出力メッセージ

本節では、Systemwalker Operation Manager基盤コマンドの出力メッセージについて説明します。

A file write error occured.

【メッセージの意味】

起動パラメタファイルの書き込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

jobschev.txtを書き込み可能な状態にしてから、実行してください。

jobschev.txtの格納場所は以下です。

【Windows版】

Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjobsch¥etc¥jobschev.txt

または

Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjobsch¥etc¥jobschev*n*.txt

"jobschevn"の"*n*"は、サブシステム1～9までの各サブシステム番号に対応します。

【UNIX版】

Solaris版:/var/opt/FJSVJOBSC/etc/jobschev.txt

または、/var/opt/FJSVJOBSC/JOBDB*n*/etc/jobschev.txt

HP-UX版:/opt/FHPJOBSCH/db/etc/jobschev.txt

または、/opt/FHPJOBSCH/db/JOBDB*n*/etc/jobschev.txt

AIX版:/usr/FAIXJOBSC/db/etc/jobschev.txt

または、/usr/FAIXJOBSC/db/JOBDB*n*/etc/jobschev.txt

Linux版:/var/opt/FJSVJOBSC/etc/jobschev.txt

または、/var/opt/FJSVJOBSC/JOBDB*n*/etc/jobschev.txt

"JOBDB*n*"の"*n*"は、サブシステム1～9までの各サブシステム番号に対応します。サブシステム番号が0の場合は、サブシステムを複数起動しない場合と同じディレクトリに格納されます。

A file write error occured.system_number=*n*

【メッセージの意味】

サブシステム*n*の起動パラメタファイルの書き込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

n: サブシステム番号

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

jobschev.txtを書き込み可能な状態にしてから、実行してください。

jobschev.txtの格納場所は、本節のメッセージ、"A file write error occurred"を参照してください。

Administrator not qualified.

【メッセージの意味】

Administratorsグループに属するユーザだけが使用できるコマンドを、Administratorsグループに属していないユーザが使用しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

Administratorsグループに属するユーザでコマンドを実行してください。

DBPATH is incorrect.

【メッセージの意味】

データベースディレクトリのパス情報が不当です。

以下の原因が考えられます。

- リモートデスクトップ(ターミナルサービスのクライアント)からジョブスケジューラのコマンドを実行している。
- ジョブスケジューラサービスの起動パラメタにデータベースディレクトリが指定されていない。
- ジョブスケジューラサービスが起動されていない。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リモートデスクトップ(ターミナルサービスのクライアント)からは、ジョブスケジューラのコマンドは利用できないため、サーバ上のコマンドプロンプトからコマンドを実行してください。

【システム管理者の処置】

データベースディレクトリの指定が誤っている場合は、正しい値を設定してください。ジョブスケジューラのサービスが起動されていない場合は、起動してください。

[Windows]ERROR: csv data output error

【メッセージの意味】

指定したCSV形式のファイルへの書き込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したCSV形式のファイルに書き込めない原因を取り除いてください。

ERROR: CSV data output error

【メッセージの意味】

指定したCSV形式のファイルへの書き込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したCSV形式のファイルに書き込めない原因を取り除いてください。

[Windows]ERROR: Failure in getting tree data for monitor_hosts.

【メッセージの意味】

構成情報データベースに登録されている基本ツリー情報の取得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

メモリ使用量、起動プロセス数等、プロセス起動に失敗する要因を取り除いてください。

[Windows]ERROR: Failure in WSAStartup.

【メッセージの意味】

ソケットの初期化関数で何らかのエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ネットワークが接続可能か確認してください。

または、ネットワークの定義が正しく設定されているか確認してください。

[Windows]ERROR: get tree data for monitor_hosts.

【メッセージの意味】

以下の現象が発生しています。

- 監視ホスト定義ファイル(CSV)の読み込みに失敗した。
- 監視ホスト定義ファイル(Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjmsrv¥etc¥monitor_hosts)の書き込み時にI/Oエラーが発生した。
- メモリ確保に失敗した。
- 監視ホスト定義ファイル(CSV)の内容に矛盾が生じた。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

監視ホストの定義をご確認してください。正しく設定されていない場合は、設定を正しくしてください。正しく設定されている場合は、メモリ使用量をご確認してください。

ERROR: Input data error occurred.

【メッセージの意味】

CSVファイルの読み込み時にエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

CSVファイルが参照できない原因を取り除いてください。

ERROR: Input data error occurred. line=*n*

【メッセージの意味】

CSVファイルに空白またはタブ文字を含むホスト名が指定されています。

【パラメタの意味】

n: 行番号

【システムの処理】

空白またはタブ文字を含むホスト名を無視します。

【システム管理者の処置】

CSVファイルを修正してください。

ERROR: monitor_hosts file access error

【メッセージの意味】

監視ホスト定義ファイル(monitor_hosts)の読み込み時にエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

監視ホストの定義ファイルが参照可能か確認してください。監視ホストの定義ファイルの格納場所は以下です。

Solaris版: /var/opt/FJSVJMCMN/etc

HP-UX版: /opt/FHPJMCMN/db/etc

AIX版: /usr/FAIXJMCMN/db/etc

Linux版: /var/opt/FJSVJMCMN/etc

ERROR: monitor_hosts file open error

【メッセージの意味】

監視ホスト定義ファイル(monitor_hosts)のオープン時にエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

監視ホストの定義ファイルが参照可能か確認してください。監視ホストの定義ファイルの格納場所は以下です。

Solaris版: /var/opt/FJSVJMCMN/etc

HP-UX版: /opt/FHPJMCMN/db/etc

AIX版: /usr/FAIXJMCMN/db/etc

Linux版: /var/opt/FJSVJMCMN/etc

[Windows]ERROR: Systemwalker Centric Manager not found

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerがインストールされていないため、-getオプションは利用できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

[-get]オプションを利用する場合、Systemwalker Centric Managerがインストールされている必要があります。

Systemwalker Centric Managerが正常にインストールされていることを確認してください。

ERROR: Systemwalker Operation Manager not found

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Managerがインストールされていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation Managerが正常にインストールされていることを確認してください。

[Windows]ERROR: temporary file not made

【メッセージの意味】

omgrmonitorコマンドが使用する一時ファイルが作成できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ディスクの空き容量、ファイルシステムの構成を確認してください。

[UNIX]Jobscheduler daemon is started. The jmmode command cannot be used.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラ デーモンの起動中に、本コマンドは使用することはできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

デーモンを停止してから、実行してください。

[UNIX]Jobscheduler:*n* daemon is started. The jmmode command cannot be used.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラ デーモンの起動中に、本コマンドは使用することはできません。

【パラメタの意味】

n: サブシステム番号

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

デーモンを停止してから、実行してください。

[UNIX]MicroJES daemon is started. The jmmode command cannot be used.

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御 デーモンが起動中に、本コマンドは使用することはできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

デーモンを停止してから、実行してください。

[UNIX]MicroJES:*n* daemon is started. The jmmode command cannot be used.

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御 デーモンが起動中に、本コマンドは使用することはできません。

【パラメタの意味】

n: サブシステム番号

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

デーモンを停止してから、実行してください。

---

monitor_hosts data get error.

【メッセージの意味】

メモリ不足により、監視ホスト情報の作成に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

メモリの空き容量を確認してください。大量にメモリを消費するアプリケーションが存在する場合は、該当アプリケーションが動作していない時間帯に本コマンドを実行してください。

[Windows]Systemwalker MpJobsch service is started. The jmmode command cannot be used.

【メッセージの意味】

Systemwalker MpJobschサービスが起動中に、本コマンドは使用することはできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

サービスを停止してから、実行してください。

[Windows]Systemwalker MpJobsch*n* service is started. The jmmode command cannot be used.

【メッセージの意味】

Systemwalker MpJobschサービスが起動中に、本コマンドは使用することはできません。

【パラメタの意味】

n: サブシステム番号

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

サービスを停止してから、実行してください。

[Windows]Systemwalker MpMjes service is started. The jmmode command cannot be used.

【メッセージの意味】

Systemwalker MpMjesサービスが起動中に、本コマンドは使用することはできません。

【システム管理者の処置】

サービスを停止してから、実行してください。

[Windows]Systemwalker MpMjes*n* service is started. The jmmode command cannot be used.

【メッセージの意味】

Systemwalker MpMjesサービスが起動中に、本コマンドは使用することはできません。

【パラメタの意味】

n:サブシステム番号

【システム管理者の処置】

サービスを停止してから、実行してください。

[UNIX]The LANG value is incorrect.

【メッセージの意味】

ユーザ環境のコード系とシステムのデフォルトのコード系が異なるため、コマンドの実行はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ユーザ環境のコード系とシステムのデフォルトコード系が同じになるように設定してからコマンドを実行してください。

Usage: jmmode { continue | cancel | check } [-func { JOB | WRT }]

【メッセージの意味】

jmmodeコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

Usage: jmmode { continue | cancel | check } [-func { JOB | WRT }] [-sys {all | 0 - 9}]

【メッセージの意味】

jmmodeコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]Usage: omgrmonitor { -export filename [-name monitored_host_configuration_name] | -import filename [-name monitored_host_configuration_name] | -get filename }

【メッセージの意味】

omgrmonitorコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]Usage: omgrmonitor { -export filename [-name monitored_host_configuration_name] | -import filename [-name monitored_host_configuration_name] }

【メッセージの意味】

omgrmonitorコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

3.6 ジョブスケジューラコマンドの出力メッセージ

本節では、ジョブスケジューラコマンドの出力メッセージについて説明します。

3.6.1 イベントIDのあるメッセージ

本項では、ジョブスケジューラコマンドの出力メッセージのうち、イベントIDのあるメッセージについて説明します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0004: 形式: jobschprint {-n [-toplevel] [-long] | -s | -j | -i | -e [-long] | -w [-long] | -a | -p [-long] | -x [-long] | -y [-long] | -h カレンダ名 | -u [-long] | -b | -v | -o [-long] | -m 年 月 [-long] | -l 年 月 [-long] | -c 起動日雛形名 | -d 起動日雛形名 | -f 履歴表示日0～5 [-vparam] [-long] | -g 年 月 日 [-vparam] [-long] | -N [-toplevel] [-long] | -S | -J | -I | -E [-long] | -W [-long] | -A | -P [-long] | -X [-long] | -Y [-long] | -O [-long] | -M 年 月 [-long] | -L 年 月 [-long] | -F 履歴表示日0～5 [-vparam] [-long] | -G 年 月 日 [-vparam] [-long] | -r [プロジェクト名/]ジョブネット名 [-detail] [-operate] | -R [プロジェクト名/]グループ名 [-operate] | -rh カレンダ名 | -rsp 起動日雛形名 }
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0004: Usage: jobschprint { -n [-toplevel] [-long] | -s | -j | -i | -e [-long] | -w [-long] | -a | -p [-long] | -x [-long] | -y [-long] | -h calendar_name | -u [-long] | -b | -v | -o [-long] | -r [project_name/]job_net_name [-detail] [-operate] | -m year month [-long] | -l year month [-long] | -c schedule_pattern_name | -d schedule_pattern_name | -f 0 to 5 [-vparam] [-long] | -g year month day [-vparam] [-long] | -N [-toplevel] [-long] | -S | -J | -I | -E [-long] | -W [-long] | -A | -P [-long] | -X [-long] | -Y [-long] | -O [-long] | -M year month [-long] | -L year month [-long] | -F 0 to 5 [-vparam] [-long] | -G year month day [-vparam] [-long] | -R [project_name/]group_name [-operate] | -rh calendar_name | -rsp schedule_pattern_name }

【メッセージの意味】

jobschprintコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0006: ジョブネット情報の読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0006: The jobscheduler failed to read job net information.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0007: ジョブネット情報の書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0007: The jobscheduler failed to write job net information.

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0011: ジョブネット情報が見つかりませんMpJobsch: WARNING: 0011: Job net information not found.
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0011: Job net information not found.

【メッセージの意味】

jobschprintコマンド実行時に、ジョブネット情報が全くないことを検出しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0013: 形式: jobschcontrol [プロジェクト名/]ジョブネット名 { start [-p 可変パラメタ] | rerun [next | top] | cancel | pause | continue | disable | enable | cope | reinstate | revoke }
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0013: Usage: jobschcontrol [project_name/]job_net_name { start [-p param] | rerun [next | top] | cancel | pause | continue | disable | enable | cope | reinstate | revoke }

【メッセージの意味】

jobschcontrolコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを、正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0014:デーモンが起動されていません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0014: The daemon was not started.

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0015: ジョブネットの情報が失われています
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0015: Information on the job net not found.

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0016: JOBDB_PATHが見つかりません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0016: DBPATH not found.

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0017: 共有メモリの獲得に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0017: The jobscheduler failed to attach shared memory.

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0019: ジョブネットが見つかりません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0019: Job net was not found in job net information.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタで指定されたジョブネットがジョブネット情報に登録されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブスケジューラのコマンドで指定したジョブネット名を登録済みのジョブネット名としてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0022: XXXX ジョブネット情報にエラーレコードが見つかりました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0022: XXXX Erroneous record exists in job net information.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0023: メッセージ起動管理コマンドの起動時に不当な引数が渡されました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0023: The jobscheduler message command argument is incorrect.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0025: メッセージ情報の読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0025: The jobscheduler failed to read message events information.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0026: ライブラリの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0026: The jobscheduler failed in loading a library.
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0026: ライブラリの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0026: The jobscheduler failed in loading a library.

【メッセージの意味】

ライブラリの読み込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0027: 日変わり時刻の取得に失敗しました。カレンダデーモンが正しく起動されているか確認して下さい
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0027: The jobscheduler failed to retrieve day change time. Make sure that the calendar daemon has been started.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0029: プロジェクト数が上限を超えました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0029: The number of projects has exceeded the maximum number (1000).
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0029: プロジェクト数が上限を超えました
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0029: The number of projects has exceeded the maximum number (1000).

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラに登録できるプロジェクト数の上限値(1000)を超えました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

不必要なプロジェクトを削除してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0034: プロジェクトの情報の読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0034: Failure in reading project information.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0035: 所有者名が指定されていません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0035: Owner not specified.

【メッセージの意味】

定義ファイル中に、プロジェクトの所有者名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイル中に、プロジェクトの所有者名を指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0040: 起動パラメータの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0040: Failed to read parameters for execution.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0041: ジョブネット情報が不当です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0041: Invalid job net information.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンド内部で保持しているスケジュール情報に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

jobschsetnetコマンドにより表示された場合は、保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。それ以外の場合は、データベースディレクトリのjobschbackupディレクトリから該当ファイルをデータベースディレクトリにコピーし、ジョブスケジューラを再起動してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0043: XXXX ジョブネット情報ファイルの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0043: XXXX The jobscheduler failed to read job net information file.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0044: XXXX ジョブネット情報ファイルの書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0044: XXXX The jobscheduler failed to write job net information file.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0046: ログ情報の書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0046: The daemon failed to write log information.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0050: 形式: jobschsetcal { -ent 定義ファイル名 | -del 起動日雛形名 }
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0050: Usage: jobschsetcal { -ent definition_file | -del schedule_pattern_name }

【メッセージの意味】

jobschsetcalコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システム管理者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0051: 起動日雛形情報のオープンに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0051: The jobscheduler failed to open schedule pattern file.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0052: 間違った形式です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0052: Invalid format.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタに誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタを見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0056: 本日は起動予定日ではないので再起動できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0056: Today is not a scheduled day and the group cannot be reactivated.

【メッセージの意味】

グループは本日は起動予定日ではないので、再起動できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

グループを起動する場合は、再起動操作ではなく起動操作を行ってください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0060: 起動日雛形情報の読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0060: The jobscheduler failed to read the schedule pattern file.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0061: ジョブネットのジョブ情報が失われています
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0061: Job information of the job net information file not found.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0064: プロジェクトの情報の書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0064: Failure in writing project information.

【メッセージの意味】

プロジェクトの情報(プロジェクト名.jspファイル)の書き込み処理でエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0065: ジョブネットは既に実行中または警告状態です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0065: The job net is already in the executing or warning state.

【メッセージの意味】

ジョブ ネットは既に実行中または警告状態のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0067: ジョブネットは異常終了状態または強制終了状態または確認済状態でないため再起動できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0067: The job net cannot be reactivated, because it is not in an abnormally ended state or forced or coping.

【メッセージの意味】

ジョブネットは異常終了状態または強制終了状態または確認済状態でないため、再起動はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0068: ジョブネットは実行中または警告状態ではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0068: The job net is not in the executing or warning state.

【メッセージの意味】

ジョブネットは実行中または警告状態ではないので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0071: 定義ファイルのオープンに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0071: The jobscheduler failed to open the definition file.

【メッセージの意味】

定義ファイルのオープンに失敗したため、読み込めません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルの存在および読込権を確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0072: キーワードに誤りがあります XXXX 行目です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0072: The keyword is incorrect. XXXX line.

【メッセージの意味】

定義ファイル中のキーワードに誤りがあります。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0074: 情報の追加または変更に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0074: Information cannot be added or modified.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンドで処理が中断されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0075: オペランドまたはオペランドの順番に誤りがあります XXXX 行目です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0075: The control statement or control statement sequence is incorrect. XXXX line.

【メッセージの意味】

定義ファイル中のオペランドまたはオペランドの順番に誤りがあります。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0077: 起動日雛形情報の書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0077: The jobscheduler failed in writing to the schedule pattern file.

【メッセージの意味】

起動日雛形情報(db_calendar_ex.default)の書き込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0078: 起動日雛形が見つかりません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0078: The schedule pattern name is not found.
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0078: 起動日雛形が見つかりません
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0078: The schedule pattern name is not found.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタで指定された起動日雛形が起動日雛形情報(db_calendar_ex.default)に存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタを見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0081: コマンドの引数に誤りがあります
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0081: The command argument is incorrect.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタに誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタを見直してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0082: 実行中のジョブは存在しません
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0082: The executing job is not found.

【メッセージの意味】

jobschprintコマンドが表示すべき実行中のジョブはありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0083: パラメタがありません XXXX 行目です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0083: The parameter is not found. XXXX line.

【メッセージの意味】

定義ファイル中のオペランドに対するパラメタがありません。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0084: パラメタに誤りがあります XXXX 行目です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0084: The parameter is incorrect. XXXX line.

【メッセージの意味】

定義ファイル中のオペランドに対するパラメタに誤りがあります。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0085: セミコロンの使用方法に誤りがあります XXXX 行目です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0085: Semicolon usage is incorrect. XXXX line.

【メッセージの意味】

制御文がセミコロンで終了していません。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0086: XXXX に誤りがあります
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0086: XXXX is incorrect.

【メッセージの意味】

定義ファイル中のオペランドXXXXの使用法に誤りがあります。

【パラメタの意味】

XXXX: オペランド名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0087: 画面の使用者は存在しません
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0087: The jobscheduler (client) user is not found.

【メッセージの意味】

jobschprintコマンドが表示すべき画面の使用者はいません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0088: 実行待ちのジョブは存在しません
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0088: The waiting job is not found.

【メッセージの意味】

jobschprintコマンドが表示すべき実行待ちのジョブはありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0089: 履歴情報が見つかりません
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0089: History information of job net is not found.

【メッセージの意味】

jobschprintコマンドが表示すべき履歴情報はありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0090: カレンダ情報が失われています
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0090: Calendar information not found.

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0091: 形式: jobschsethol { -ent 定義ファイル名 | -del カレンダ名 }
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0091: Usage: jobschsethol { -ent definition_file | -del calendar_name }

【メッセージの意味】

jobschsetholコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システム管理者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0093: カレンダ情報の更新に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0093: The jobscheduler failed to update calendar information.
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0093: カレンダ情報の更新に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0093: The jobscheduler failed to update calendar information.

【メッセージの意味】

カレンダ情報の更新に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

以下を確認してください。

- データベースディレクトリ配下のsysfile.sysファイルにアクセスできるか。ファイルI/Oエラーなどによりアクセスできない状態ではないか。
- ディスク容量に余裕があるか。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0096: 特権ユーザではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0096: User does not belong to root group.

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0097: デーモンを再起動させて下さい
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0097: Restart the daemon.

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0098: ログ情報が見つかりません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0098: Log information is not found.

【メッセージの意味】

ログ情報(データベースディレクトリ配下のjobdb1.log、jobdb2.log、jobdb3.log)が存在しません。ログ情報が切り換えられた直後、またはジョブネットが起動されていないと考えられます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

切り換えられる以前のログ情報を参照したい場合は、ジョブやジョブネットが動作していない時間帯に、エディタで以前のログファイルを参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0099: パラメタの数に誤りがあります XXXX 行目です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0099: The number of parameters is incorrect. XXXX line.

【メッセージの意味】

定義ファイル中のオペランドに対するパラメタの数に誤りがあります。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[UNIX]]MpJobsch: ERROR: 0100: カレンダ情報の読み込みまたは変更に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0100: The jobscheduler failed to read/modify calendar information.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0101: 形式: jobschsetnet { -nent [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -nche [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -ndel [プロジェクト名/]ジョブネット名 | -ncop [複写元プロジェクト名/]複写元ジョブネット名 [複写先プロジェクト名/]複写先ジョブネット名 | -sent [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -sdel [プロジェクト名/]ジョブネット名 [SCH | MSG | TMP] }
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0101: Usage: jobschsetnet { -nent [project_name] definition_file | -nche [project_name] definition_file | -ndel [project_name/]job_net_name | -ncop [source_project_name/]source_job_net_name [destination_project_name/]destination_job_net_name | -sent [project_name] definition_file | -sdel [project_name/]job_net_name [SCH | MSG | TMP] }

【メッセージの意味】

jobschsetnetコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0102: ジョブネットは既に存在します
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0102: Job net already exists.

【メッセージの意味】

処理の対象となるジョブネットが既に存在します。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブネット名を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0103: ジョブネットが存在しません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0103: The job net is not found.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0104: ジョブネット名に誤りがあります
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0104: The job net name is incorrect.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0105: 定義ファイルに誤りがあります
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0105: The definition file has errors.

【メッセージの意味】

jobschsetnetコマンドが読み込み中のリストファイルまたは定義ファイル中に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リストファイルまたは定義ファイルを修正してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0106: 制御文に矛盾があります XXXX 行目です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0106: The control statement is inconsistent. XXXX line.

【メッセージの意味】

定義ファイルの内容に矛盾があります。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0107: 起動条件が指定されていません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0107: The execution condition is not specified.

【メッセージの意味】

jobschsetnetコマンドが読み込み中の定義ファイル中にジョブネットの起動条件が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0108: 起動日が休日と重なった場合の扱いが指定されていません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0108: The holiday shift method is not specified.

【メッセージの意味】

jobschsetnetコマンドが読み込み中の定義ファイル中に起動日が休日と重なった場合の処理方法が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0110: その日は設定されていません XXXX 行目です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0110: The day field is not set. XXXX line.

【メッセージの意味】

定義ファイル中に設定されていない日への取消しが指定されています。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0111: オペランドが重複しています XXXX 行目です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0111: The operand is duplicated. XXXX line.

【メッセージの意味】

定義ファイル中に重複できないオペランドが重複して指定されています。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0112: パラメタが重複しています XXXX 行目です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0112: The parameter is duplicated. XXXX line.

【メッセージの意味】

定義ファイル中に重複したパラメタが指定されています。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0114: オペランドの順番に誤りがあります XXXX 行目です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0114: The operand sequence is incorrect. XXXX line.

【メッセージの意味】

定義ファイル中に誤った順番でオペランドが指定されています。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0121: 選択されたジョブネットの情報が失われています
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0121: Job net information not found.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンド内部で保持しているジョブネット情報が不当です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0148: ジョブネット情報が一つもありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0148: Job net information is not found.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0149: デーモン間の通信に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0149: Failure to communicate among daemon processes.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0152: XXXX ジョブネット情報が見つかりません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0152: XXXX The job net information is not found.

【メッセージの意味】

共有メモリに登録されているプロジェクトのジョブネット情報が存在しません。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブネットが登録されているか確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0156: 起動日雛形情報の読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0156: The jobscheduler fails to read model information.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0158: XXXX ジョブネット情報の書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0158: XXXX The jobscheduler failed to write job net information.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0164: ジョブネット情報の送信に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0164: The jobscheduler failed to send job net information.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0175: XXXX のプロジェクトは存在しないか、データまたはアクセス権が不足しています

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0175: XXXX project does not exist or access is denied. Reference job net is not added.

【メッセージの意味】

以下のどれかの現象が発生しました。

- 指定されたプロジェクトが存在しない。
- 指定されたプロジェクトに対するアクセス権がない。
- 指定されたプロジェクトにジョブネットまたはグループが登録されていない。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定のプロジェクトが存在すること、および、プロジェクトに対するアクセス権を確認してください。また、プロジェクト内に指定のジョブネットまたはグループが登録されていることを確認してください。

プロジェクトに対するアクセス権の確認は、[Systemwalker Operation Manager]ウィンドウの業務選択ウィンドウで、[セキュリティ]メニューから[アクセス権]を選択することにより確認できます。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0176: XXXX メッセージ情報にエラーレコードが見つかりました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0176: XXXX Erroneous record found in message events information.

【メッセージの意味】

メッセージ事象の情報を読み込み中に以下のどちらかの状態のレコードを検出しました。

- レコード長が不当です。
- レコードの内容が不当です。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

データベースディレクトリのjobschbackupディレクトリから該当ファイルをデータベースディレクトリにコピーし、再度jobschconvertコマンドを実行してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0178: ジョブネットにメッセージ情報はありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0178: The job net does not have message events information.

【メッセージの意味】

メッセージ情報を持たないジョブネットに対して、メッセージの削除を指示されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブネットのメッセージ情報の有無を確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0179: XXXX のバックアップに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0179: XXXX failed in the backup.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0181: ファイルが不当です
[UNIX] MpJobsch: ERROR: 0181: The file is invalid.

【メッセージの意味】

jobschchkfileコマンドに指定したファイル名が不当です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

以下を確認した後、jobschchkfileコマンドを再実行してください。

- ファイル名がフルパスで指定されているか
- ファイル名にディレクトリ名が指定されていないか

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0182: XXXX はプロジェクト名が50文字を超えているため使用できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0182: XXXX project name is too long.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0187: NQSはサポートされていません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0187: NQS is not supported.

【メッセージの意味】

NQS(Network Queueing System)はサポートされていないため、NQSのジョブネットは設定できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブネットの実行属性にNQS以外を指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0188: 画面を使用中のため, 実行できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0188: Execution failed because the jobscheduler(client) is in use.

【メッセージの意味】

画面を表示中は、jobschsetnet、jobschsetgrp、およびjobschmoveコマンドは実行できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント部(ジョブスケジューラ/CL)を終了させた後、jobschsetnet、jobschsetgrp、およびjobschmoveコマンドを実行してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0191: XXXX が実行できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0191: XXXX cannot be executed.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0204: カレンダ情報にエラーレコードが見つかりました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0204: Erroneous record found in calendar information.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0205: 起動日雛形情報にエラーレコードが見つかりました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0205: Erroneous record found in schedule pattern information.

【メッセージの意味】

起動日雛形情報(db_calendar_ex.default)の読み込み中にレコード長が不当なレコードを検出しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

データベースディレクトリのjobschbackupディレクトリから起動日雛形情報(db_calendar_ex.default)をデータベースディレクトリにコピーし、ジョブスケジューラを再起動してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0206: 再スケジューリングに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0206: The daemon failed in the re-schedule.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0209: 形式: jobschmsgclear { -all [プロジェクト名] | -net [プロジェクト名/]ジョブネット名 }
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0209: Usage: jobschmsgclear { -all [project_name] | -net [project_name/]job_net_name }

【メッセージの意味】

jobschmsgclearコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0212: XXXX グループ情報ファイルの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0212: XXXX The jobscheduler fails to read group information file.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0214: グループ情報の読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0214: The jobscheduler failed to read group information.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0215: XXXX グループ情報にエラーレコードが見つかりました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0215: XXXX Erroneous record found in group information.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0218: XXXX グループ情報ファイルの書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0218: XXXX The jobscheduler failed to write group information file.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0219: グループ情報の書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0219: The jobscheduler failed to write group information.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: INFO: 0221: ログ情報のファイルサイズが上限値を超えました
[UNIX]MpJobsch: INFO: 0221: The size of log information has exceeded the maximum value.

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0225: ジョブネットは保存中または制御中です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0225: The job net is being saved or controlled.

【メッセージの意味】

ジョブネットは保存中または制御中なので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから再度実行してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0226: グループは保存中または制御中です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0226: The group is being saved or controlled.

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0227: 形式: jobschctlgrp [プロジェクト名/]グループ名 { start | rerun | cancel | pause | continue | disable | enable | cope }
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0227: Usage: jobschctlgrp [project_name/]group_name { start | rerun | cancel | pause | continue | disable | enable | cope }

【メッセージの意味】

jobschctlgrpコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0228: グループは既に存在します
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0228: The group is already found.

【メッセージの意味】

処理の対象となるグループが既に存在します。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループ名を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0229: グループが存在しません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0229: The group is not found.
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0229: グループが存在しません
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0229: The group is not found.

【メッセージの意味】

処理の対象となるグループが存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループ名を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0231: ジョブネットはグループに属しています
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0231: The job net already exists in a group.

【メッセージの意味】

ジョブネットはグループに属しているので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットをグループから外してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0232: ジョブネットはグループに属していません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0232: The job net is not in a group.

【メッセージの意味】

ジョブネットはグループに属していないので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

操作を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0233: ジョブネットは停止中状態ではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0233: The job net is not being paused.

【メッセージの意味】

ジョブネットは停止中ではないので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0234: ジョブネットは既に停止中状態です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0234: The job net is already being paused.

【メッセージの意味】

ジョブネットは既に停止中なので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0235: ジョブネットは無効状態ではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0235: The job net is not being disabled.

【メッセージの意味】

ジョブネットは無効状態ではないので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0236: ジョブネットは既に無効状態です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0236: The job net is already being disabled.

【メッセージの意味】

ジョブネットは既に無効状態なので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0237: グループは既に実行中または警告状態です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0237: The group is already being executed or warned.

【メッセージの意味】

グループは既に実行中または警告状態のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0239: グループは異常終了状態または強制終了状態または確認済状態でないため再起動できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0239: The group cannot be reactivated, because it is not in an abnormally ended state or forced or coping.

【メッセージの意味】

グループは異常終了状態または強制終了状態または確認済状態でないため、再起動できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0240: グループは実行中または警告状態ではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0240: The group is not being executed or warned.

【メッセージの意味】

グループは実行中または警告状態ではないので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0243: グループは異常終了状態ではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0243: The group is not being ended abnormally.

【メッセージの意味】

グループは異常終了状態ではないので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0244: XXXX は既にグループに属しています
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0244: XXXX is already in a group.

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXが既にグループに属しているため、指定された操作はできません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットをグループから外してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0245: XXXX の起動条件が単一起動ではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0245: XXXX execution condition is not single.

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXの起動条件が単一起動ではないため、指定された操作はできません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの起動条件を単一起動にしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0246: XXXX のメッセージ起動方法が順次起動です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0246: XXXX message activation method is sequential.

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXのメッセージ事象発生時の起動条件に[ジョブネット実行中も有効]オプションが指定されているため、グループに登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

[ジョブネットのプロパティ]ウィンドウの[メッセージ]シートで、[ジョブネット実行中も有効]オプションを外し、登録しなおしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0247: 形式: jobschsetgrp { -ent [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -che [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -del [プロジェクト名/]グループ名 }
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0247: Usage: jobschsetgrp { -ent [project_name] definition_file | -che [project_name] definition_file | -del [project_name/]group_name }

【メッセージの意味】

jobschsetgrpコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0248: 定義ファイルにジョブが定義されていません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0248: The job is not defined in the definition file.

【メッセージの意味】

jobschsetnetコマンドが読込中の定義ファイルにジョブが定義されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0250: 形式: jobschmove { -group [プロジェクト名/]グループ名 [移動先グループ名] | -gnet [プロジェクト名/]グループ名 [移動先ジョブネット名] | -net [プロジェクト名/]ジョブネット名 [移動先ジョブネット名] }
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0250: Usage: jobschmove { -group [project_name/]group_name [target_group_name] | -gnet [project_name/]group_name [target_job_net_name] | -net [project_name/]job_net_name [target_job_net_name] }

【メッセージの意味】

jobschmoveコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0251: 指定されたグループと移動先グループが同じです
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0251: The group is same as the target group.

【メッセージの意味】

jobschmoveコマンドのパラメタで示されたグループと移動先グループが同じのため、グループの移動はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

jobschmoveコマンドのパラメタを見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0252: 指定されたグループが移動先ジョブネットを含みます
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0252: The group includes the target job net.

【メッセージの意味】

jobschmoveコマンドのパラメタで示されたグループが移動先ジョブネットを含むため、ジョブネットの移動はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

jobschmoveコマンドのパラメタを見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0253: 指定されたジョブネットと移動先ジョブネットが同じです
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0253: The job net is same as the target job net.

【メッセージの意味】

jobschmoveコマンドのパラメタで示されたジョブネットが移動先ジョブネットと同じため、ジョブネットの移動はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

jobschmoveコマンドのパラメタを見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0254: 形式: jobschcod 日変わり時刻(0000～2359)
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0254: Usage: jobschcod time(from 0000 to 2359)

【メッセージの意味】

jobschcodコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システム管理者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0256: 定義ファイルにジョブネットが定義されていません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0256: The job net is not defined in the definition file.

【メッセージの意味】

jobschsetgrpコマンドが読込中の定義ファイルにジョブネットが定義されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0258: XXXX はユーザ名が20文字を超えているため使用できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0258: XXXX user name is too long.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0259: ジョブネットの属するグループが保存中または制御中です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0259: The group including the job net is being saved or controlled.

【メッセージの意味】

ジョブネットの属するグループが保存中または制御中なので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから再度実行してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0260: ジョブネットの属するグループが既に実行中または警告状態です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0260: The group including the job net is already being executed or warned.

【メッセージの意味】

ジョブネットの属するグループが既に実行中または警告状態のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの属するグループの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0261: グループ情報が不当です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0261: Invalid group information.

【メッセージの意味】

スケジュール情報に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

jobschsetgrpコマンドにより表示された場合は、保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。それ以外の場合は、データベースディレクトリのjobschbackupディレクトリからスケジュール情報(プロジェクト名.grz)をデータベースディレクトリにコピーし、ジョブスケジューラを再起動してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0262: グループの情報が失われています
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0262: Group information not found.

【メッセージの意味】

グループがジョブスケジューラのコマンド内部で保持している情報に存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0263: XXXX メッセージ情報ファイルの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0263: XXXX The jobscheduler failed to read the message information file.

【メッセージの意味】

メッセージ情報のopen、lockf、または、readのどれかで失敗したため読み込めませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: ユーザ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

データベースディレクトリのjobschbackupディレクトリから該当ファイルをデータベースディレクトリにコピーし、再度jobschconvertコマンドを実行してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0266: グループ情報に矛盾があります
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0266: The group information is inconsistent.

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0271: グループの確認は無効です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0271: The cope operation to the group is invalid.

【メッセージの意味】

[確認操作の詳細設定]ウィンドウで[グループの確認操作を有効とする]オプションが設定されていないため、グループの確認操作ができません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

グループの確認操作を利用する場合は、[確認操作の詳細設定]ウィンドウで[グループの確認操作を有効とする]オプションを設定し、ジョブスケジューラを再起動してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0273: デーモンが起動中です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0273: The daemon is being started.

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0274: 指定可能なプロジェクトが一つもありません
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0274: Valid project not found.

【メッセージの意味】

利用できるアクセス権を持ったプロジェクトが一つもないため、ジョブスケジューラ機能を利用できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

プロジェクトの所有者またはシステム管理者に、アクセス権の設定を依頼してください。

【システム管理者の処置】

利用者が利用可能なプロジェクトを登録してください。またはプロジェクトに利用者が利用可能となるようなアクセス権の設定をしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0275: プロジェクト名が指定されていません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0275: Project name is not specified.

【メッセージの意味】

プロジェクト名が指定されていないため、処理できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

プロジェクト名を指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0276: LANGの設定に誤りがあります
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0276: The LANG value is incorrect.

【メッセージの意味】

環境変数LANGの値に誤りがあります。

【システムの処理】

デーモンが出力した場合は、英語環境でデーモンが動作します。コマンドが出力した場合は、起動しません。

【利用者の処置】

デーモンが出力した場合は、OSの環境変数LANGの値を直した後、デーモンを再起動してください。コマンドが出力した場合は、Systemwalker Operation Managerの環境変数LANGの値を直した後、コマンドを再起動してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0277: PowerAIMはサポートされていません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0277: PowerAIM is not supported.

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0278: XXXX デーモンが起動されているので使用できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0278: XXXX daemon is started. The jobschconvert command cannot be used.

【メッセージの意味】

デーモンが起動中に、データベースファイルを移行することができません。

【パラメタの意味】

XXXX: デーモン名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

デーモンを停止してから、実行してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0279: XXXX データベースの移行に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0279: XXXX database file is not convert.

【メッセージの意味】

データベースファイルを新データベースファイルに移行する途中に、移行できないデータベースファイルが存在しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名(以下の種類があります)

- ユーザ名
- ユーザ名.grp
- プロジェクト名.jsp
- プロジェクト名.dbx
- プロジェクト名.grp
- プロジェクト名.dbz
- プロジェクト名.grz
- sysfile.sys
- monitor_hosts

- holiday_info.db
- db_calendar.default
- db_calendar_ex.default
- sroot.var

【システムの処理】

XXXXのデータベースファイルの移行は中止し、処理を続行します。

【システム管理者の処置】

XXXXのデータベースファイルが移行前のバージョンのものであるかを確認してください。なお、日変わり・休日情報データベース(sysfile.sys)の移行に失敗している場合、ジョブスケジューラが起動できない場合があるので、データベースディレクトリのjobschbackupディレクトリから旧データベースファイルをデータベースディレクトリにコピーし、再試行してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0280: ジョブネット情報ファイルが見つかりません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0280: The job net information file is not found.

【メッセージの意味】

指定されたデータベースファイルが見つかりませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

移行すべきスケジュール情報ファイルをデータベースディレクトリにコピーし、再度移行してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0281: XXXX ジョブネット情報ファイルがすでに存在します
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0281: XXXX The job net information file already exists.

【メッセージの意味】

移行済みのデータベースファイルがすでに存在しています。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名(以下の種類があります)

- ユーザ名
- sysfile.sys

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

もう一度、移行させたい場合は、データベースディレクトリ中の以下のファイルを消去して、再実行してください。

- パラメタがユーザ名の場合: ユーザ名.dbz
- パラメタがsysfile.sysの場合: sysfile.sys

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0282: 形式: jobschconvert [SJIS | EUC]
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0282: Usage: jobschconvert [SJIS | EUC]

【メッセージの意味】

jobschconvertコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システム管理者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0283: カレンダ名が見つかりません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0283: The calendar name is not found.

【メッセージの意味】

指定されたカレンダ名が見つかりません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

jobschsetholコマンドのパラメタを見直してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0286: XXXX トレース機能が使用できません
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0286: XXXX The trace function cannot be used.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0288: コード系が異なるため実行できません、LANG環境変数を変更し、再実行してください
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0288: The LANG value is different. Reset LANG environment variable. Rerun command.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンドを実行するユーザ環境のコード系(LANG環境変数値)と、Systemwalker Operation Managerインストール時に指定したSystemwalker Operation Managerデーモンの言語種別が一致しないため、コマンドの実行はできません。

【システムの処理】

コマンドの処理を中止します。

【利用者の処置】

ユーザ環境のコード系(LANG環境変数の設定値)が、Systemwalker Operation Managerの言語種別と一致するようにLANG環境変数値を変更する必要があります。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0289: ジョブネットは異常終了状態ではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0289: The job net is not being ended abnormally.

【メッセージの意味】

ジョブネットは、異常終了状態ではないので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0290: ジョブネットの確認は無効です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0290: The cope operation to the job net is invalid.

【メッセージの意味】

[確認操作の詳細設定]ウィンドウで[ジョブネットの確認操作を有効とする]オプションが設定されていないため、ジョブネットの確認操作ができません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブネットの確認操作を利用する場合は、[確認操作の詳細設定]ウィンドウで[ジョブネットの確認操作を有効とする]オプションを設定し、ジョブスケジューラを再起動してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0291: グループは既に停止中状態です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0291: The group is already being paused.

【メッセージの意味】

グループは既に停止中なので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0292: グループは既に無効状態ですMpJobsch: ERROR: 0292: The group is already being disabled.
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0292: The group is already being disabled.

【メッセージの意味】

グループは既に無効状態なので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0293: グループは停止中状態ではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0293: The group is not being paused.

【メッセージの意味】

グループは停止中ではないので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0294: グループは無効状態ではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0294: The group is not being disabled.

【メッセージの意味】

グループは無効状態ではないので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0296: カレンダ情報が見つかりません
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0296: The calendar information is not found.

【メッセージの意味】

jobschprintコマンドが表示すべきカレンダ情報はありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタを見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0298: カレンダデーモンとの通信処理が失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0298: Failure in communicating with the calendar daemon.

【メッセージの意味】

カレンダデーモンとの通信処理が失敗しました

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

Operation Managerクライアントで、カレンダ機能が使用可能かを確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0300: 形式: jobschsetproject { -ent 定義ファイル名 | -del プロジェクト名 }
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0300: usage: jobschsetproject { -ent definition_file | -del project_name }

【メッセージの意味】

jobschsetprojectコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システム管理者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0301: ACL Managerデーモンが起動されていません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0301: The ACL manager daemon is not started.

【メッセージの意味】

ACL Managerデーモンが起動していないため、アクセス制御が行えません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation Managerを再起動してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0302: プロジェクト名が不当です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0302: Invalid project name.

【メッセージの意味】

指定されたプロジェクト名が正しくありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいプロジェクト名を指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0303: ジョブネットの情報が残っているため削除できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0303: Cannot delete because job net information exists.

【メッセージの意味】

プロジェクト内にジョブネット情報が存在するため、プロジェクトを削除できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

プロジェクト内のジョブネット情報を、すべて削除してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0304: 指定されたユーザ名に誤りがあります
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0304: Invalid user name.

【メッセージの意味】

指定されたユーザ名が正しくありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいユーザ名を指定してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0305: XXXX カレンダ名が既存か不当な文字コードを含むため移行できません
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0305: XXXX Cannot convert because calendar name already exists or an invalid character code is included.

【メッセージの意味】

カレンダ情報の移行中に、以下のどれかの現象が発生しました。

- カレンダ名が既に存在する。
- カレンダ名に、カレンダデーモンで使用できない不当な文字コードが含まれている。

【パラメタの意味】

XXXX: カレンダ名

【システムの処理】

該当するカレンダ情報を移行しません。

【システム管理者の処置】

移行できなかったカレンダ情報については、別途、新規登録してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0306: calendar=XXXX errorcode=YYYY カレンダ移行時にカレンダデーモン(API)でエラーが検出されました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0306: calendar=XXXX errorcode=YYYY Error has been detected in calendar daemon (API) while converting the calendar.

【メッセージの意味】

カレンダ情報の移行中に、カレンダAPIでエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: カレンダ名

YYYY: エラー番号

【システムの処理】

該当するカレンダ情報を移行しません。

【システム管理者の処置】

該当エラー番号を元に、異常原因を取り除いてください。エラー番号については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”の“カレンダAPI”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0307: 一時変更の開始日が指定されていません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0307: Start date of temporary change has not been specified.

【メッセージの意味】

定義ファイル中に、一時変更の開始日が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイル中に、一時変更の開始日を指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0308: システムカレンダは削除できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0308: Cannot delete SYSTEM_CALENDAR.

【メッセージの意味】

システムカレンダは削除することはできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0309: 形式: jobschmsgevent メッセージ事象名[:プロジェクト名[/ジョブネット名] [メッセージテキスト]] [-h ホスト名] [-t:INFO | -t:WARN | -t:ERROR] [-p 可変パラメタ [-c サフィックス]]
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0309: Usage: jobschmsgevent event_name[:project_name [/job_net_name] [message_text]] [-h host_name] [-t:INFO | -t:WARN | -t:ERROR] [-p param [-c suffix]]

【メッセージの意味】

jobschmsgeventコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0312: Interstageはサポートされていません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0312: Interstage isn't supported.

【メッセージの意味】

以下のいずれかの状態が発生しました。

- Interstageを使用できないシステムで、Interstage属性のジョブネットを起動しようとした。
- Interstageを使用できないシステムで、Interstage属性のジョブネットをコマンドで登録しようとした。

【システムの処理】

デーモンが出力した場合は、ジョブネットの実行を拒否します。コマンドが出力した場合は、ジョブネットを登録しません。

【システム管理者の処置】

Interstageがインストールされているか、正しく動作しているかを調査してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0313: 形式: jobschprint { -n [-toplevel] [-long] | -s | -j | -i | -e [-long] | -w [-long] | -a | -p [-long] | -x [-long] | -y [-long] | -h カレンダ名 | -u [-long] | -b | -v | -o [-long] | -m 年 月 [-long] | -l 年 月 [-long] | -c 起動日雛形名 | -d 起動日雛形名 | -f 履歴表示日0～5 [-vparam] [-long] | -g 年 月 日 [-vparam] [-long] | -N [-toplevel] [-long] | -S | -J | -I | -E [-long] | -W [-long] | -A | -P [-long] | -X [-long] | -Y [-long] | -O [-long] | -M 年 月 [-long] | -L 年 月 [-long] | -F 履歴表示日0～5 [-vparam] [-long] | -G 年 月 日 [-vparam] [-long] | -r [プロジェクト名/]ジョブネット名 [-detail] [-operate] | -R [プロジェクト名/]グループ名 [-operate] | -rh カレンダ名 | -rsp 起動日雛形名 } [-sys サブシステム番号0～9]
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0313: Usage: jobschprint { -n [-toplevel] [-long] | -s | -j | -i | -e [-long] | -w [-long] | -a | -p [-long] | -x [-long] | -y [-long] | -h calendar_name | -u [-long] | -b | -v | -o [-long] | -r [project_name/]job_net_name [-detail] [-operate] | -m year month [-long] | -l year month [-long] | -c schedule_pattern_name | -d schedule_pattern_name | -f 0 to 5 [-vparam] [-long] | -g year month day [-vparam] [-long] | -N [-toplevel] [-long] | -S | -J | -I | -E [-long] | -W [-long] | -A | -P [-long] | -X [-long] | -Y [-long] | -O [-long] | -M year month [-long] | -L year month [-long] | -F 0 to 5 [-vparam] [-long] | -G year month day [-vparam] [-long] | -R [project_name/]group_name [-operate] | -rh calendar_name | -rsp schedule_pattern_name } [-sys 0 to 9]

【メッセージの意味】

jobschprintコマンドの正しいパラメタの形式です。(複数サブシステム用)

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0314: 形式: jobschcontrol [プロジェクト名/]ジョブネット名 { start [-p 可変パラメタ] | rerun [next | top] | cancel | pause | continue | disable | enable | cope | reinstate | revoke } [-sys サブシステム番号0～9]
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0314: Usage: jobschcontrol [project_name/]job_net_name { start [-p param] | rerun [next | top] | cancel | pause | continue | disable | enable | cope | reinstate | revoke } [-sys 0 to 9]

【メッセージの意味】

jobschcontrolコマンドの正しいパラメタの形式です。(複数サブシステム用)

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0315: 形式: jobschsetcal { -ent 定義ファイル名 | -del 起動日雛形名 } [-sys サブシステム番号0～9]
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0315: Usage: jobschsetcal { -ent definition_file | -del schedule_pattern_name } [-sys 0 to 9]

【メッセージの意味】

jobschsetcalコマンドの正しいパラメタの形式です。(複数サブシステム用)

【システム管理者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0316: 形式: jobschsetnet { -nent [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -nche [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -ndel [プロジェクト名/]ジョブネット名 | -ncop [複写元プロジェクト名/]複写元ジョブネット名 [複写先プロジェクト名/]複写先ジョブネット名 | -sent [プロジェクト名] 定義ファイル名 |

-sdel [プロジェクト名/]ジョブネット名 [SCH | MSG | TMP] } [-sys サブシステム番号0～9]
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0316: Usage: jobschsetnet { -nent [project_name] definition_file | -nche [project_name] definition_file | -ndel [project_name/]job_net_name | -ncop [source_project_name/]source_job_net_name [destination_project_name/]destination_job_net_name | -sent [project_name] definition_file | -sdel [project_name/]job_net_name [SCH | MSG | TMP] } [-sys 0 to 9]

【メッセージの意味】

jobschsetnetコマンドの正しいパラメタの形式です。(複数サブシステム用)

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0317: 形式: jobschmsgclear { -all [プロジェクト名] | -net [プロジェクト名/]ジョブネット名 } [-sys サブシステム番号0～9]
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0317: Usage: jobschmsgclear { -all [project_name] | -net [project_name/]job_net_name } [-sys 0 to 9]

【メッセージの意味】

jobschmsgclearコマンドの正しいパラメタの形式です。(複数サブシステム用)

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0318: 形式: jobschctlgrp [プロジェクト名/]グループ名 { start | rerun | cancel | pause | continue | disable | enable | cope } [-sys サブシステム番号0～9]
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0318: Usage: jobschctlgrp [project_name/]group_name { start | rerun | cancel | pause | continue | disable | enable | cope } [-sys 0 to 9]

【メッセージの意味】

jobschctlgrpコマンドの正しいパラメタの形式です。(複数サブシステム用)

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0319: 形式: jobschsetgrp { -ent [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -che [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -del [プロジェクト名/]グループ名 } [-sys サブシステム番号0～9]
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0319: Usage: jobschsetgrp { -ent [project_name] definition_file | -che [project_name] definition_file | -del [project_name/]group_name } [-sys 0 to 9]

【メッセージの意味】

jobschsetgrpコマンドの正しいパラメタの形式です。(複数サブシステム用)

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0320: 形式: jobschmove { -group [プロジェクト名/]グループ名 [移動先グループ名] | -gnet [プロジェクト名/]グループ名 [移動先ジョブネット名] | -net [プロジェクト名/]ジョブネット名 [移動先ジョブネット名] } [-sys サブシステム番号0～9]
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0320: Usage: jobschmove { -group [project_name/]group_name [target_group_name] | -gnet [project_name/]group_name [target_job_net_name] | -net [project_name/]job_net_name [target_job_net_name] } [-sys 0 to 9]

【メッセージの意味】

jobschmoveコマンドの正しいパラメタの形式です。(複数サブシステム用)

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0321: 形式: jobschconvert [SJIS | EUC] [-sys {サブシステム番号0～9 | all }]
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0321: Usage: jobschconvert [SJIS | EUC] [-sys {0 to 9 | all}]

【メッセージの意味】

jobschconvertコマンドの正しいパラメタの形式です。(複数サブシステム用)

【システム管理者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0322: 形式: jobschsetproject { -ent 定義ファイル名 | -del プロジェクト名 } [-sys サブシステム番号0～9]
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0322: usage: jobschsetproject { -ent definition_file | -del project_name } [-sys 0 to 9]

【メッセージの意味】

jobschsetprojectコマンドの正しいパラメタの形式です。(複数サブシステム用)

【システム管理者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0323: 形式: jobschmsgevent メッセージ事象名[:プロジェクト名[/ジョブネット名] [メッセージテキスト]] [-h ホスト名] [-t:INFO | -t:WARN | -t:ERROR] [-p 可変パラメタ [-c サフィックス]] [-sys {サブシステム番号0～9 | all}]
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0323: Usage: jobschmsgevent event_name[:project_name [/job_net_name] [message_text]] [-h host_name] [-t:INFO | -t:WARN | -t:ERROR] [-p param [-c suffix]] [-sys {0 to 9 | all}]

【メッセージの意味】

jobschmsgeventコマンドの正しいパラメタの形式です。(複数サブシステム用)

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0334: ジョブネット数が上限を超えました
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0334: The number of job nets exceeded the maximum number.

【メッセージの意味】

1プロジェクトあたりの登録ジョブネット数が上限(255)を超えています。これ以上のジョブネットの追加は推奨できません。

【利用者の処置】

1プロジェクト内に上限(255)を超えたジョブネットを登録したい場合は、Systemwalker Operation Manager EEを使用してください。

上限を超えたプロジェクトに不要なジョブネットがある場合は、そのジョブネットを削除し、上限を超えないようにしてください。

削除するジョブネットがない場合は、上限を超えたプロジェクトとは別のプロジェクトにジョブネットを追加してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0335: 形式: jobschpoconvert
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0335: Usage: jobschpoconvert

【メッセージの意味】

jobschpoconvertコマンドの正しい形式です。

【システム管理者の処置】

コマンドを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0336: 形式: jobschpoconvert [-sys サブシステム番号0～9]
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0336: Usage: jobschpoconvert [-sys 0 to 9]

【メッセージの意味】

jobschpoconvertコマンドの正しいパラメタの形式です。(複数サブシステム用)

【システム管理者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0339: ジョブネット数が警告登録数を超えました
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0339: The number of jobnets exceeded the warning level.

【メッセージの意味】

1プロジェクトあたりの登録ジョブネット数が設定値を超えています。

【利用者の処置】

Systemwalker Operation Manager環境設定クライアントで設定したプロジェクトあたりのジョブネット上限数に達しました。不要なジョブネットがある場合は、そのジョブネットを削除し、上限を超えないようにしてください。

削除するジョブネットがない場合は、上限を超えたプロジェクトとは別のプロジェクトにジョブネットを追加するか、Systemwalker Operation Manager環境設定クライアントでの指定値の見直しを実施してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0342: swadmin が/etc/groupにありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0342: swadmin isn't registered in /etc/group.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0344: アクセス許可グループのユーザではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0344: User does not belong to permitting group.

【メッセージの意味】

swadminグループに含まれるユーザ以外は、ジョブスケジューラのコマンドやデマンドジョブの起動ができないように制限される設定を行っているにもかかわらず、swadminグループに所属していないユーザがジョブスケジューラのコマンドを実行しました。

【利用者の処置】

swadminグループに属しているユーザでログインしなおして、ジョブスケジューラコマンドを実行するか、システム管理者に、コマンド実行ユーザがswadminグループに属しているか確認してください。確認の結果、swadminグループに属していないときは、システム管理者はswadminグループにそのユーザを追加してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0354: ジョブネットは子ジョブネットです
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0354: The job net is a child job net.

【メッセージの意味】

ジョブネットは子ジョブネットのため、確認または起動の操作ができません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0355: XXXX の現在の起動条件では登録できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0355: XXXX cannot add with the current execution condition.

【メッセージの意味】

現在の起動条件ではグループを登録することができません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの起動条件を単一起動に変更してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0356: XXXX (子ジョブネット)が存在しません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0356: XXXX (Child job net) does not exist.

【メッセージの意味】

子ジョブネットとして登録するジョブネットXXXXが存在しません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットXXXXを作成してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0357: XXXX (親ジョブネット)が存在しません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0357: XXXX (Parent job net) does not exist.

【メッセージの意味】

親ジョブネットとして登録するジョブネットXXXXが存在しません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットXXXXを作成してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0358: XXXX の現在の起動条件では子ジョブネットを登録できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0358: XXXX cannot add a child job net with current execution condition.

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXの起動条件が子ジョブネットとしての条件を満たしていないため、登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの起動条件をなしに変更してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0359: XXXX は既に別の親ジョブネットに属しています
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0359: XXXX already has parent job net.

【メッセージの意味】

子ジョブネットとして登録するジョブネットXXXXは、既に別の親ジョブネットに属しているので登録できません

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットXXXXを親ジョブネットから外してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0360: ジョブネットの階層数が上限を超えました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0360: Number of levels in job net exceeded the maximum limit.

【メッセージの意味】

ジョブネットの階層数が5を超えたのでジョブネットを登録できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの階層数を5以下にしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0361: ジョブネットの階層がループしています
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0361: Levels in the job net loops.

【メッセージの意味】

ジョブネットの階層がループしているのでジョブネットを登録できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの階層がループしないようにしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0362: XXXX (親ジョブネット)がジョブ実行制御属性ではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0362: XXXX (Parent job net) does not have job execution control.

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXがジョブ実行制御属性ではないので、親ジョブネットとして登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットXXXXをジョブ実行制御属性にしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0363: XXXX (子ジョブネット)がジョブ実行制御属性ではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0363: XXXX (Child job net) does not have job execution control.

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXがジョブ実行制御属性ではないので、子ジョブネットとして登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットXXXXをジョブ実行制御属性にしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0364: ジョブネットに起動日情報または運用予定情報はありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0364: Job net does not have information on start up days and operation schedule.

【メッセージの意味】

起動日情報または運用予定情報が設定されているジョブネットが存在しないので、出力しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0365: パラメタ情報ファイルの書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0365: The jobscheduler failed to write parameter information file.

【メッセージの意味】

ジョブのパラメタ情報ファイルの書き込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

データベースディレクトリのjobschbackupディレクトリからジョブのパラメタ情報ファイルをデータベースディレクトリにコピーし、ジョブスケジューラを再起動してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0366: パラメタ情報ファイルの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0366: The jobscheduler failed to read parameter information file.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0367: 親ジョブネットは複写できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0367: Parent job net does not copy.

【メッセージの意味】

親ジョブネットは複写できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0368: ジョブネットは異常終了状態または強制終了状態ではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0368: The job net is not being ended abnormally or forcedly.

【メッセージの意味】

ジョブネットは異常終了状態または強制終了状態ではないので、指定の操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0369: グループは異常終了状態または強制終了状態ではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0369: The group is not being ended abnormally or forcedly.

【メッセージの意味】

グループは異常終了状態または強制終了状態ではないので、指定の操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0370: 終端情報に誤りがあります
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0370: End pointer is invalid.

【メッセージの意味】

終端情報に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

終端情報ファイルをjobschbackupディレクトリから復元してください。

【システム管理者の処置】

jobschchecklog.iniファイルをジョブスケジューラのデータベースディレクトリのjobschbackupディレクトリからコピーしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0371: 終端情報の読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0371: The jobscheduler failed to read end pointer.

【メッセージの意味】

終端情報の読み込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

終端情報ファイルをjobschbackupディレクトリから復元してください。

【システム管理者の処置】

jobschchecklog.iniファイルをジョブスケジューラのデータベースディレクトリのjobschbackupディレクトリからコピーしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0372: 終端情報の書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0372: The jobscheduler failed to write end pointer.

【メッセージの意味】

終端情報の書き込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

終端情報ファイルをjobschbackupディレクトリから復元してください。

【システム管理者の処置】

jobschchecklog.iniファイルをジョブスケジューラのデータベースディレクトリのjobschbackupディレクトリからコピーしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0373: XXXX ファイルが普通のファイルではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0373: XXXX The file is not a normal file.

【メッセージの意味】

ファイルXXXXがテキスト形式のファイルではないため、処理できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

テキスト形式のファイルを指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0374: XXXX ファイルのアクセスに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0374: XXXX Access denied.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0375: 指定された正規表現に誤りがあります
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0375: Specified regular expression is invalid.

【メッセージの意味】

jobschchecklogコマンド、またはjobschnetmemoコマンドの-eオプションで指定した正規表現に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正規表現として正しいかどうか確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0376: 最大待ち合わせ時刻として待ち合わせ時刻より前の時刻が指定されています
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0376: Latest rendez-vous time must be after the rendez-vous time.

【メッセージの意味】

指定された最大待ち合わせ時刻が、待ち合わせ時刻より前の時刻です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

最大待ち合わせ時刻を指定する場合は、待ち合わせ時刻以降の時刻を指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0377: XXXX ファイルの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0377: XXXX The jobscheduler failed to read a file.

【メッセージの意味】

ファイルXXXXの読み込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0378: XXXX ファイルの書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0378: XXXX The jobscheduler failed to write a file.

【メッセージの意味】

ファイルXXXXの書き込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0379: 一時ファイルの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0379: The jobscheduler failed to read a temporary file.

【メッセージの意味】

jobschchecklogコマンドで使用する一時ファイルの読み込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0380: 一時ファイルの書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0380: The jobscheduler failed to write a temporary file.

【メッセージの意味】

jobschchecklogコマンドで使用する一時ファイルの書き込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[UNIX]MpJobsch: INFO: 0381: XXXX() YYYY

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0382: 形式: jobschchecklog {-a -f ログファイル -e 正規表現 [-s] [-v] [-z] | -f ログファイル -e 正規表現 [-k キー] [-s] [-v] [-z] | -h -f ログファイル [-k キー] }
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0382: Usage: jobschchecklog { -a -f log_file -e reg_expr [-s] [-v] [-z] | -f log_file -e reg_expr [-k key] [-s] [-v] [-z] | -h -f log_file [-k key] }

【メッセージの意味】

jobschchecklogコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0383: 形式: jobschchecklog {-a -f ログファイル -e 正規表現 [-s] [-v] [-z] | -f ログファイル -e 正規表現 [-k キー] [-s] [-v] [-z] | -h -f ログファイル [-k キー] } [-sys サブシステム番号0～9]
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0383: Usage: jobschchecklog { -a -f log_file -e reg_expr [-s] [-v] [-z] | -f log_file -e reg_expr [-k key] [-s] [-v] [-z] | -h -f log_file [-k key] } [-sys 0 to 9]

【メッセージの意味】

jobschchecklogコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0384: 形式: jobschchecktime -wt 待ち合わせ時刻 [-lt 最大待ち合わせ時刻]
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0384: Usage: jobschchecktime -wt rendez-vous_time [-lt latest_rendez-vous_time]

【メッセージの意味】

jobschchecktimeコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0385: 形式: jobschchecktime -wt 待ち合わせ時刻 [-lt 最大待ち合わせ時刻] [-sys サブシステム番号0～9]
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0385: Usage: jobschchecktime -wt rendez-vous_time [-lt latest_rendez-vous_time] [-sys 0 to 9]

【メッセージの意味】

jobschchecktimeコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0387: ユーザの権限情報の取得に失敗しました (XXXX)
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0387: Failed to obtain privilege information for the user. (XXXX)

【メッセージの意味】

ユーザの権限情報の取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX : コード

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

コマンド実行ユーザが該当サーバで登録されているか確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0388: XXXX ファイルが見つかりません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0388: XXXX File not found.

【メッセージの意味】

ファイルXXXXが見つかりません。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ファイルが存在することを確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0389: 持ち越し状態でないため持越解除できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0389: Cannot revoke the job net because it is not carried over.

【メッセージの意味】

ジョブネットが持ち越し状態ではないため、持越解除はできません

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0390: ジョブネットの起動条件がメッセージ事象発生時のみ起動でないまたは一日一回のみ起動ではないため終了取消できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0390: Cannot reinstate the job net because its execution condition is not `Start Only When Message Event Has Occurred' or `Once in a day' is not specified.

【メッセージの意味】

ジョブネットの起動条件がメッセージ事象発生時のみ起動ではないか、一日一回の指定がされていないため、終了取消できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0391: 本日実行済みでないため終了取消できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0391: Cannot reinstate the job net because it is not executed today.

【メッセージの意味】

ジョブネットが本日実行済みではないため、終了取消できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0392: 停止中または無効状態のため終了取消できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0392: Cannot reinstate the job net because it is being paused or disabled.

【メッセージの意味】

ジョブネットが停止中または無効状態のため、終了取消できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0393: 形式: jobschnetmemo { -ent [プロジェクト名/]ジョブネット名 メモ | -del [プロジェクト名/]ジョブネット名 | -out [プロジェクト名/]ジョブネット名 | -find [-p プロジェクト名] -e 正規表現 [-m] }
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0393: Usage: jobschnetmemo { -ent [project_name/] job_net_name memo | -del [project_name/]job_net_name | -out [project_name/] job_net_name | -find [-p project_name] -e reg_expr [-m] }

【メッセージの意味】

jobschnetmemoコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0394: 形式: jobschnetmemo { -ent [プロジェクト名/]ジョブネット名 メモ | -del [プロジェクト名/]ジョブネット名 | -out [プロジェクト名/]ジョブネット名 | -find [-p プロジェクト名] -e 正規表現 [-m] } [-sys サブシステム番号0～9]
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0394: Usage: jobschnetmemo { -ent [project_name/] job_net_name memo | -del [project_name/]job_net_name | -out [project_name/] job_net_name | -find [-p project_name] -e reg_expr [-m] } [-sys 0 to 9]

【メッセージの意味】

jobschnetmemoコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0395: メモが長すぎます
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0395: The memo is too long.

【メッセージの意味】

メモとして指定された文字列が長すぎます。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0396: メモに誤りがあります
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0396: Detected an error in the memo.

【メッセージの意味】

メモとして指定された文字列に誤った文字が含まれています。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0397: 形式: jobschchkfile [-wait|-update[-d:yyyymmdd] [-t:hhmm]|-delete] {ファイル名|-file:リストファイル名 [-AND|-OR]}
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0397: Usage: jobschchkfile [-wait|-update[-d:yyyymmdd] [-t:hhmm]|-delete] {file_name|-file:list_file_name [-AND|-OR]}

【メッセージの意味】

jobschchkfileコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0398: 形式: jobschctljob [プロジェクト名/]ジョブネット名/ジョブ名 { rerun | cancel | pause | continue | disable | enable }
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 398: Usage: jobschctljob [project_name/] job_net_name/job_name { rerun | cancel | pause | continue | disable | enable }

【メッセージの意味】

jobschctljobコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0399: 形式: jobschctljob [プロジェクト名/]ジョブネット名/ジョブ名 { rerun | cancel | pause | continue | disable | enable } [-sys サブシステム番号0～9]
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0399: Usage: jobschctljob [project_name/] job_net_name/job_name { rerun | cancel | pause | continue | disable | enable } [-sys 0 to 9]

【メッセージの意味】

jobschctljobコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0400: 指定されたジョブは操作できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0400: Cannot control the job.

【メッセージの意味】

指定されたジョブが属するジョブネットの実行属性が、ジョブの操作が可能な実行属性ではないため、ジョブの操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0401: 指定されたジョブは存在しません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0401: The job is not found.

【メッセージの意味】

指定されたジョブが存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0402: 同じジョブ名のジョブが複数存在します
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0402: Two or more jobs with the same job name exist.

【メッセージの意味】

指定されたジョブ名を持つジョブが複数存在します。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0403: ジョブは制御中です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0403: The job is being controlled.

【メッセージの意味】

ジョブは制御中なので、操作できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0404: ジョブは実行中または実行遅延状態ではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0404: The job is not being executed or delayed.

【メッセージの意味】

ジョブが実行中でも実行遅延状態でもないため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0405: ジョブネットが実行中または警告状態でないため再起動できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0405: The job cannot be reactivated, because the job net is not in the executing or warning state.

【メッセージの意味】

ジョブが属するジョブネットが実行中でも警告状態でもないため、再起動はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0406: ジョブが異常終了状態または強制終了状態でないため再起動できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0406: The job cannot be reactivated, because it is not in an abnormally ended state or forced.

【メッセージの意味】

ジョブが異常終了状態でも強制終了状態でもないため、再起動できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0407: ジョブは既に実行中または実行遅延状態です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0407: The job is already in the executing or delaying state.

【メッセージの意味】

ジョブが既に実行中または実行遅延状態であるため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0408: ジョブは停止中状態ではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0408: The job is not being paused.

【メッセージの意味】

ジョブが停止中ではないため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0409: ジョブは既に停止中状態です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0409: The job is already being paused.

【メッセージの意味】

ジョブが既に停止中であるため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0410: ジョブは無効状態ではありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0410: The job is not being disabled.

【メッセージの意味】

ジョブが無効状態ではないため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0411: ジョブは既に無効状態です
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0411: The job is already being disabled.

【メッセージの意味】

ジョブが既に無効状態であるため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0412: XXXX() YYYY
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0412: XXXX() YYYY

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0413: 年の指定に誤りがあります
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0413: The year is incorrect.

【メッセージの意味】

指定可能範囲外の年が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0414: リカバリジョブが実行中または警告のため操作できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0414: Cannot control the job because the recovery job is currently running.

【メッセージの意味】

リカバリジョブが実行中または警告のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0415: アクセス権の取得に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0415: Failure in access acquisition.

【メッセージの意味】

アクセス権の取得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0416: プロジェクトが存在しません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0416: The project is not found.

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0417: メッセージ事象名がありません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0417: The message event name is not found.

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0425: 指定したジョブアイコンはサポートされていません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0425: Specified job icon is not supported.

【メッセージの意味】

Interstage Job Workload Serverを使用できないシステムで、バッチフレームワークジョブをコマンドで登録しようとしました。

【システムの処理】

ジョブネットは登録できません。

【利用者の処置】

定義ファイル中のアイコン種別を正しい値に修正してください。Interstage Job Workload Serverがインストールされていない場合は、サポート対象外です。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0426: 監査ログライブラリのロードに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0426: Failed to load the audit log library.

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0427: 監査ログファイルの読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0427: Failed to read the audit log file.

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0431: XXXX YYYY ジョブネットの複写起動に失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0431: XXXX YYYY Copy and startup of a job net failed.

【メッセージの意味】

jobschmsgeventコマンドに指定された複写起動の指定にしたがってジョブネットを複写起動しようとしましたが、複写起動することができませんでした。

以下の原因が考えられます。

- 前回、複写起動されたジョブネットの実行が終了していない場合、次の複写起動はされません。前回複写起動されたジョブネットが、実行中、終了遅延、警告のいずれかの状態です。
- 前回、複写起動されたジョブネットに対し確認操作が行われていない場合、次の複写起動はされません。[確認操作の詳細設定]ウィンドウで[ジョブネットの確認操作を有効とする]が指定されている環境で、前回、複写起動されたジョブネットが異常終了の状態です。さらに、[強制終了を確認操作の対象とする]も指定されている環境で、前回、複写起動されたジョブネットが強制終了の状態です。
- 複写先のジョブネットが、複写起動以外の方法で作成されています。[ジョブスケジューラ]ウィンドウからジョブネットを手作業で作成するなど、複写起動以外の方法で作成したジョブネットがある場合は、複写起動による複写はされません。

- 複写により作成されるジョブネット名およびジョブネット名称には、アンダーバー(_)とサフィックスが付与されます。そのため、ジョブネット名長またはジョブネット名称長の上限値を超えています。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: 複写先のジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブネットは複写も起動もされません。

【対処方法】

- 前回、複写起動されたジョブネットの実行が終了した後に、次の複写起動がされるよう、メッセージ事象の発生タイミングを調整してください。
- 前回、複写起動されたジョブネットに対し確認操作を行ってください。
- 複写起動以外の方法で作成されたジョブネットを削除するか、jobschmsgeventコマンドの-cオプションで指定した複写時のサフィックスを変更してください。
- 複写により作成されるジョブネット名長またはジョブネット名称長が上限値を超えないよう、複写元のジョブネット名、ジョブネット名称またはサフィックスを変更してください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0432: XXXX YYYY 可変パラメタは無視されました
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0432: XXXX YYYY A variable parameter has been ignored.

【メッセージの意味】

jobschmsgeventコマンドに指定された可変パラメタは、受信先のジョブネットで無視されました。メッセージ事象そのものは正常に受信されています。

以下の原因が考えられます。

- 受信先のジョブネットが、ジョブ実行制御属性以外のジョブネットです。可変パラメタを受信できるのは、ジョブ実行制御属性のジョブネットのみです。
- 受信先のジョブネットが、以下のどちらでもありません。
  - 単一のメッセージ事象を待ち合わせているジョブネット
  - 複数のメッセージ事象のうちいずれかのメッセージ事象を待ち合わせるジョブネット

  可変パラメタを受信できるのは、単一のメッセージ事象を待ち合わせるジョブネット、または複数のメッセージ事象のうちいずれかのメッセージ事象を待ち合わせるジョブネットとなります。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: 受信先のジョブネット名

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、可変パラメタは無効となります。

【対処方法】

- 受信先のジョブネットはジョブ実行制御属性のジョブネットにしてください。
- 受信先のジョブネットは、単一のメッセージ事象を待ち合わせるジョブネット、または複数のメッセージ事象のうちいずれかのメッセージ事象を待ち合わせるジョブネットにしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0435: XXXX YYYY ZZZZ 可変パラメタが指定されたメッセージ事象は無視されました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0435: XXXX YYYY ZZZZ The message event with specified variable parameters has been ignored.

【メッセージの意味】

可変パラメタが指定されたメッセージ事象は、受信先のジョブネットでは無視されました。以下の原因が考えられます。

- 受信先のジョブネットが停止中に可変パラメタが指定されたメッセージ事象を受信しました。
- 受信先のジョブネットに[ジョブネット実行中も有効]が設定されており、ジョブネット実行中に可変パラメタが指定されたメッセージ事象を受信しました。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

YYYY: 受信先のジョブネット名

ZZZZ: メッセージ事象名

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

- 受信先のジョブネットを停止解除してください。
- ジョブネット実行中にも可変パラメタが指定されたメッセージ事象を受信したい場合は、jobschmsgeventコマンドで複写の指定を行ってください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0436: 複写起動により複写されたジョブネットは操作できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0436: Job nets that have been copied by copying and starting up cannot be operated.

【メッセージの意味】

jobschmsgeventコマンドの-cオプションを指定して複写起動したジョブネットに対して、指定の操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

例えば、ジョブネットの複写など、複写元のジョブネットを指定することで同等の操作が実現できる場合があります。そのような場合は、複写元のジョブネットを指定して実行してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0437: XXXX パラメタ情報の読み込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0437: XXXX Failed to read parameter information.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0438: XXXX パラメタ情報の書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0438: XXXX Failed to write parameter information.

【メッセージの意味】

ジョブのパラメタ情報の書き込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

ジョブのパラメタ情報ファイルにアクセス可能か(rootユーザに書き込み権があるかなど)を確認してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0439: XXXX 可変パラメタ情報の書き込みに失敗しました
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0439: XXXX Failed to write variable parameter information.

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0440: 指定されたジョブネットは可変パラメタ起動できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0440: The specified job net cannot be started using variable parameters.

【メッセージの意味】

指定されたジョブネットは、可変パラメタ起動できないジョブネットのため、起動できません。

以下の実行属性のジョブネットは可変パラメタ起動できません。

- Interstage 属性のジョブネット
- PowerAIM 属性のジョブネット
- 旧バージョン互換(旧・標準)属性のジョブネット

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0441: 正規表現が長すぎます
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0441: The regular expression is too long.

【メッセージの意味】

正規表現の長さが256バイトを超えています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正規表現の長さを256バイト以内にしてください。

[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0442: 正規表現を含むメモが登録されているジョブネットが見つかりません
[UNIX]MpJobsch: WARNING: 0442: Cannot find job nets in which remarks containing regular expressions have been registered.

【メッセージの意味】

正規表現を含むメモが登録されているジョブネットが見つかりません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正規表現を見直してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0447: ジョブネットはリンクジョブネットのため、指定の操作ができません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0447: The job net is a linked job net, therefore the specified operation is not possible.

【メッセージの意味】

ジョブネットはリンクジョブネットのため、指定の操作ができません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0448: ジョブネットはマスタリンクジョブネットのため、指定の操作ができません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0448: The job net is a master linked job net, therefore the specified operation is not possible.

【メッセージの意味】

ジョブネットはマスタリンクジョブネットのため、指定の操作ができません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0449: マスタリンクジョブネットのジョブは操作できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0449: The master linked job net job operation is not possible.

【メッセージの意味】

指定されたジョブが属するジョブネットがマスタリンクジョブネット、あるいは、その階層下のジョブネットであるため、ジョブの操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0450: XXXX (マスタリンクジョブネット)が存在しません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0450: XXXX (master linked job net) does not exist.

【メッセージの意味】

マスタリンクジョブネットXXXXが存在しません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットXXXXを作成してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0451: XXXX の現在の起動条件ではリンクジョブネットを登録できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0451: XXXX The linked job net cannot be registered using the current execution condition.

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXの起動条件がマスタリンクジョブネットとしての条件を満たしていないため、登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの起動条件をなしに変更してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0452: XXXX はジョブ実行制御属性ではないため、リンクジョブネットとして登録できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0452: XXXX is not a job execution control attribute, therefore it cannot be registered as a linked job net.

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXがジョブ実行制御属性ではないため、リンクジョブネットとして登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX：ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットXXXXをジョブ実行制御属性にしてください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0453: リンクジョブネットは登録できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0453: The linked job net cannot be registered.

【メッセージの意味】

他のジョブネットの子ジョブネットをリンクジョブネットとして登録できません。

複写起動により複写されたジョブネットをリンクジョブネットとして登録できません。

他のリンクジョブネットをマスタリンクジョブネットに指定してリンクジョブネットは登録できません。

リンクジョブネットのジョブを含むジョブネットをリングジョブネットとして登録できません。

運用日管理プロジェクトではリンクジョブネットを登録できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0454 XXXX リンクジョブネットと同一名のジョブネットが既に存在するため、リンクジョブネットを登録できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0454: XXXX A job net already exists with the same name, therefore the linked job net cannot be registered.

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXと同じ名前のジョブネットが登録されているため、リンクジョブネットを登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX：ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リンクジョブネットのジョブネット名を別の名前にしてから、再度登録してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0455: XXXX リンクジョブネットの子ジョブネットと同一名のジョブネットが既に存在するため、リンクジョブネットを登録できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0455: XXXX A job net already exists with the same name as the child job net of linked job net, therefore the linked job net cannot be registered.

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXと同じ名前のジョブネットが登録されているため、リンクジョブネットを登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX：ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リンクジョブネットのジョブネット名を別の名前にしてから、再度登録してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0456: XXXX リンクジョブネットのジョブネット名の長さが制限を超えたため、リンクジョブネットを登録できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0456: XXXX The length of the job net name for linked job net has exceeded the limit, therefore the linked job net cannot be registered.

【メッセージの意味】

リンクジョブネットXXXXのジョブネット名の長さが50バイトを超えたため、リンクジョブネットを登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX：ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リンクジョブネットのジョブネット名を別の名前にしてから、再度登録してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0457: リンクジョブネットは複写できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0457: The linked job net cannot be copied.

【メッセージの意味】

リンクジョブネットは複写できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0458: リンクジョブネットは実行中または警告状態のため、指定された操作はできません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0458: The linked job net is executing or has warning status, therefore the specified operation is not possible.

【メッセージの意味】

リンクジョブネットまたはその親ジョブネットが実行中または警告状態のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リンクジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0459: XXXX マスタリンクジョブネットに結びつくリンクジョブネットの登録数が制限を超えたため、リンクジョブネットを登録できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0459: XXXX The limit for the number of registered linked job nets connected to the master linked job net was exceeded, therefore the linked job net cannot be registered.

【メッセージの意味】

同一のマスタリンクジョブネットに結びつくリンクジョブネットは、100個までしか登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX:リンクジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0460: XXXX はマスタリンクジョブネットのため、子ジョブネットとして登録できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0460: XXXX is a master linked job net, therefore it cannot be registered as a child job net.

【メッセージの意味】

子ジョブネットとして登録するジョブネットXXXXはマスタリンクジョブネットのため、登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットXXXXをリンクジョブネットとして登録してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0461: リンクジョブネットは保存中または制御中のため、指定された操作はできません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0461: The linked job net is being saved or controlled, therefore the specified operation is not possible.

【メッセージの意味】

リンクジョブネット、または、その親ジョブネットや子ジョブネットが保存中または制御中のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから再度実行してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0462: マスタリンクジョブネットは実行中または警告状態のため、指定された操作はできません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0462: The master linked job net is executing or has warning status, therefore the specified operation is not possible.

【メッセージの意味】

マスタリンクジョブネットが実行中または警告状態のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

マスタリンクジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0463: マスタリンクジョブネットは保存中または制御中のため、指定された操作はできません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0463: The master linked job net is being saved or controlled, therefore the specified operation is not possible.

【メッセージの意味】

マスタリンクジョブネットまたはその子ジョブネットが保存中または制御中のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから再度実行してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0464: XXXX リンクジョブネットのジョブネット名が重複するため、リンクジョブネットを登録できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0464: XXXX The job net name and linked job net name are the same, therefore the linked job net cannot be registered.

【メッセージの意味】

新しく登録されるリンクジョブネットやその階層下のジョブネットの間で、ジョブネット名XXXXが重複するため、リンクジョブネットを登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リンクジョブネットのジョブネット名を別の名前にしてから、再度登録してください。

[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0465: XXXX 子ジョブネットの下の階層にリンクジョブネットが存在するため、子ジョブネットとして登録できません
[UNIX]MpJobsch: ERROR: 0465: XXXX There is a linked job net in the layer under the child job net, therefore it cannot be registered as a child job net.

【メッセージの意味】

子ジョブネットとして登録するジョブネットXXXXの下の階層にリンクジョブネットが存在するため、登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットXXXXの階層下のリンクジョブネットを削除してから、再度登録してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1004: 形式: jobschprint { -n [-toplevel] [-long] | -s | -j | -i | -e [-long] | -w [-long] | -a | -q [-long] | -p [-long] | -x [-long] | -y [-long] | -h カレンダ名 | -u [-long] | -b | -v | -o [-long] | -r [プロジェクト名/]ジョブネット名 [-detail] [-operate] | -m 年 月 [-long] | -l 年 月 [-long] | -c 起動日雛形名 | -d 起動日雛形名 | -f 履歴表示日0～5 [-vparam] [-long] | -g 年 月 日 [-vparam] [-long] | -N [-toplevel] [-long] | -S | -J | -I | -E [-long] | -W [-long] | -A | -Q [-long] | -P [-long] | -X [-long] | -Y [-long] | -O [-long] | -M 年 月 [-long] | -L 年 月 [-long] |-F 履歴表示日0～5 [-vparam] [-long] | -G 年

月 日 [-vparam] [-long] | -R [プロジェクト名/]グループ名 [-operate] | -rh カレンダ名 | -rsp 起動日雛形名 }

【メッセージの意味】

jobschprintコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1013: 形式: jobschcontrol [プロジェクト名/]ジョブネット名 { start [-p 可変パラメタ] | rerun [next | top] | cancel | pause | continue | disable | enable | cope | reinstate | revoke }

【メッセージの意味】

jobschcontrolコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch:情報 :1014:形式: createsubsystem.exe -sys { サブシステム番号1～9 }

【メッセージの意味】

createsubsystem.exeコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch:情報 :1015:形式: deletesubsystem.exe -sys { サブシステム番号1～9 }

【メッセージの意味】

deletesubsystem.exeコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1050: 形式: jobschsetcal { -ent 定義ファイル名 | -del 起動日雛形名 }

【メッセージの意味】

jobschsetcalコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システム管理者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1091: 形式: jobschsethol { -ent 定義ファイル名 | -del カレンダ名 }

【メッセージの意味】

jobschsetholコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システム管理者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1101: 形式: jobschsetnet { -nent [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -nche [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -ndel [プロジェクト名/]ジョブネット名 | -ncop [複写元プロジェクト名/]複写元ジョブネット名 [複写先プロジェクト名/]複写先ジョブネット名 | -sent [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -sdel [プロジェクト名/]ジョブネット名 [SCH | MSG | TMP] }

【メッセージの意味】

jobschsetnetコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1209: 形式: jobschmsgclear { -all [プロジェクト名] | -net [プロジェクト名/]ジョブネット名 }

【メッセージの意味】

jobschmsgclearコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1221: ログ情報のファイルサイズが上限値を超えました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1227: 形式: jobschctlgrp [プロジェクト名/]グループ名 { start | rerun | cancel | pause | continue | disable | enable | cope }

【メッセージの意味】

jobschctlgrpコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1247: 形式: jobschsetgrp { -ent [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -che [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -del [プロジェクト名/]グループ名 }

【メッセージの意味】

jobschsetgrpコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1250: 形式: jobschmove { -group [プロジェクト名/]グループ名 [移動先グループ名] | -gnet [プロジェクト名/]グループ名 [移動先ジョブネット名] | -net [プロジェクト名/]ジョブネット名 [移動先ジョブネット名] }

【メッセージの意味】

jobschmoveコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1254: 形式: jobschcod 日変わり時刻(0000～2359)

【メッセージの意味】

jobschcodコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システム管理者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1282: 形式: jobschconvert

【メッセージの意味】

jobschconvertコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システム管理者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1302: 形式: jobschmsgevent メッセージ事象名[:プロジェクト名[/ジョブネット名]] [ホスト名 | -f:ファイル名] [-t:INFO | -t:WARN | -t:ERROR] [-p 可変パラメタ [-c サフィックス]]

【メッセージの意味】

jobschmsgeventコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1303: 形式: jobschcancelnet プロジェクト名 ジョブネット名 [-all]

【メッセージの意味】

jobschcancelnetコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1304: 実行待ちキューにジョブネットがありません

【メッセージの意味】

ジョブネット起動APIによる実行待ちキューには、キューイングされているジョブネットがありません。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1305: 形式: jshtrace { -s | -t | -rs | -rt }

【メッセージの意味】

jshtraceコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システム管理者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1309: 形式: chkfile [-wait|-update[-d:yyyymmdd][-t:hhmm]|-delete] {ドライブ:ファイル名|-file:ドライブ:リストファイル名 [-AND|-OR]}

【メッセージの意味】

chkfileコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1311: 形式: jobschsetproject { -ent 定義ファイル名 | -del プロジェクト名 } [-sys サブシステム番号0～9]

【メッセージの意味】

jobschsetprojectコマンドの正しいパラメタの形式です。

【システム管理者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1312: 形式: jobschpoconvert

【メッセージの意味】

jobschpoconvertコマンドの形式です。

【システム管理者の処置】

コマンドを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch:情報 :1313:形式: jobschprint { -n [-toplevel] [-long] | -s | -j | -i | -e [-long] | -w [-long] | -a | -q [-long] | -p [-long] | -x [-long] | -y [-long] | -h カレンダ名 | -u [-long] | -b | -v | -o [-long] | -r [プロジェクト名/]ジョブネット名 [-detail] [-operate] | -m 年 月 [-long] | -l 年 月 [-long] | -c 起動日雛形名 | -d 起動日雛形名 | -f 履歴表示日0〜5 [-vparam] [-long] | -g 年 月 日 [-vparam] [-long] | -N [-toplevel] [-long] | -S | -J | -I | -E [-long] | -W [-long] | -A | -Q [-long] | -P [-long] | -X [-long] | -Y [-long] | -O [-long] | -M 年 月 [-long] | -L 年 月 [-long] |-F 履歴表示日0〜5 [-vparam] [-long] | -G 年 月 日 [-vparam] [-long] | -R [プロジェクト名/]グループ名 [-operate] | -rh カレンダ名 | -rsp 起動日雛形名 } [-sys サブシステム番号0〜9]

【メッセージの意味】

jobschprintコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1314: 形式: jobschcontrol [プロジェクト名/]ジョブネット名 { start [-p 可変パラメタ]| rerun [next | top] | cancel | pause | continue | disable | enable | cope | reinstate | revoke } [-sys サブシステム番号0〜9]

【メッセージの意味】

jobschcontrolコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch:情報 :1315:形式: jobschsetcal { -ent 定義ファイル名 | -del 起動日雛形名 } [-sys サブシステム番号0〜9]

【メッセージの意味】

jobschsetcalコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch:情報 :1316:形式: jobschsetnet { -nent [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -nche [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -ndel [プロジェクト名/]ジョブネット名 | -ncop [複写元プロジェクト名/]複写元ジョブネット名 [複写先プロジェクト名/]複写先ジョブネット名 | -sent [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -sdel [プロジェクト名/]ジョブネット名 [SCH | MSG | TMP] } [-sys サブシステム番号0〜9]

【メッセージの意味】

jobschsetnetコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch:情報 :1317:形式: jobschmsgclear { -all [プロジェクト名] | -net [プロジェクト名/]ジョブネット名 } [-sys サブシステム番号0〜9]

【メッセージの意味】

jobschmsgclearコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch:情報 :1318:形式: jobschctlgrp [プロジェクト名/]グループ名 { start | rerun | cancel | pause | continue | disable | enable | cope } [-sys サブシステム番号0～9]

【メッセージの意味】

jobschctlgrpコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch:情報 :1319:形式: jobschsetgrp { -ent [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -che [プロジェクト名] 定義ファイル名 | -del [プロジェクト名/]グループ名 } [-sys サブシステム番号0～9]

【メッセージの意味】

jobschsetgrpコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch:情報 :1320:形式: jobschmove { -group [プロジェクト名/]グループ名 [移動先グループ名] | -gnet [プロジェクト名/]グループ名 [移動先ジョブネット名] | -net [プロジェクト名/]ジョブネット名 [移動先ジョブネット名] } [-sys サブシステム番号0～9]

【メッセージの意味】

jobschmoveコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch:情報 :1321:形式: jobschconvert [-sys サブシステム番号0～9]

【メッセージの意味】

jobschconvertコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch:情報 :1331:形式: jobschpoconvert [-sys サブシステム番号0～9]

【メッセージの意味】

jobschpoconvertコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1332: 形式: jobschmsgevent メッセージ事象名[:プロジェクト名[/ジョブネット名]] [ホスト名 | -f:ファイル名] [-t:INFO | -t:WARN | -t:ERROR] [-p 可変パラメタ [-c サフィックス]] [-sys {サブシステム番号0～9 | all}]

【メッセージの意味】

jobschmsgeventコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch:情報 :1333:形式: jobschcancelnet プロジェクト名 ジョブネット名 [-all] [-sys サブシステム番号0～9]

【メッセージの意味】

jobschcancelnetコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1383: 形式: jobschchecklog { -a -f ログファイル -e 正規表現 [-s] [-v] [-z] | -f ログファイル -e 正規表現 [-k キー] [-s] [-v] [-z] | -h -f ログファイル [-k キー] } [-sys サブシステム番号0～9]

【メッセージの意味】

jobschchecklogコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1384: 形式: jobschchecktime -wt 待ち合わせ時刻 [-lt 最大待ち合わせ時刻]

【メッセージの意味】

jobschchecktimeコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1385: 形式: jobschchecktime -wt 待ち合わせ時刻 [-lt 最大待ち合わせ時刻] [-sys サブシステム番号0～9]

【メッセージの意味】

jobschchecktimeコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1393: 形式: jobschnetmemo { -ent [プロジェクト名/]ジョブネット名 メモ | -del [プロジェクト名/]ジョブネット名 | -out [プロジェクト名/]ジョブネット名 | -find [-p プロジェクト名] -e 正規表現 [-m] }

【メッセージの意味】

jobschnetmemoコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1394: 形式: jobschnetmemo { -ent [プロジェクト名/]ジョブネット名 メモ | -del [プロジェクト名/]ジョブネット名 | -out [プロジェクト名/]ジョブネット名 | -find [-p プロジェクト名] -e 正規表現 [-m] } [-sys サブシステム番号0～9]

【メッセージの意味】

jobschnetmemoコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1398: 形式: jobschctljob [プロジェクト名/]ジョブネット名/ジョブ名 { rerun | cancel | pause | continue | disable | enable }

【メッセージの意味】

jobschctljobコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 1399: 形式: jobschctljob [プロジェクト名/]ジョブネット名/ジョブ名 { rerun | cancel | pause | continue | disable | enable } [-sys サブシステム番号0～9]

【メッセージの意味】

jobschctljobコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 2300: XXXX コマンドが正常に終了しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンドが正常に終了しました。

【パラメタの意味】

XXXX: コマンド名

[Windows]MpJobsch: 情報: 2301: XXXX メッセージ事象が発生しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: 情報: 2302: メッセージ事象が発生しました(XXXX)

【メッセージの意味】

ホスト名指定のjobschmsgeventコマンドが正常に終了しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ホスト名

[Windows]MpJobsch: 警告: 3011: ジョブネットの情報が存在しません

【メッセージの意味】

jobschprintコマンド実行時に、ジョブネット情報が全くないことを検出しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3078: 起動日雛形名が存在しません

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタで指定された起動日雛形が起動日雛形情報(db_calendar_ex.default)に存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタを見直してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3082: 実行中のジョブは存在しません

【メッセージの意味】

jobschprintコマンドが表示すべき実行中のジョブはありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3087: ジョブスケジューラ(クライアント部)の利用者は存在しません

【メッセージの意味】

jobschprintコマンドが表示すべき画面の使用者はいません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3088: 実行待ちのジョブは存在しません

【メッセージの意味】

jobschprintコマンドが表示すべき実行待ちのジョブはありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3089: ジョブネットの履歴情報が見つかりません

【メッセージの意味】

jobschprintコマンドが表示すべき履歴情報はありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3229: グループが存在しません

【メッセージの意味】

処理の対象となるグループが存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループ名を見直してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3274: 指定可能なプロジェクトが一つもありません

【メッセージの意味】

利用できるアクセス権を持ったプロジェクトが一つもないため、ジョブスケジューラ機能を利用できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

プロジェクトの所有者またはシステム管理者に、アクセス権の設定を依頼してください。

【システム管理者の処置】

利用者が利用可能なプロジェクトを登録してください。またはプロジェクトに利用者が利用可能となるようなアクセス権の設定をしてください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3288: コード系が異なるため実行できません

【メッセージの意味】

ユーザ環境のコード系とシステムのデフォルトのコード系が異なるため、コマンドの実行はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ユーザ環境のコード系とシステムのデフォルトコード系が同じになるように設定してからコマンドを実行してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3296: カレンダ情報が見つかりません

【メッセージの意味】

jobschprintコマンドが表示すべきカレンダ情報はありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタを見直してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3303: プロジェクト数が上限(1000)を超えています

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラに登録できるプロジェクト数の上限値(1000)を越えるため、プロジェクトが登録できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

不必要なプロジェクト情報を削除してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3304: ジョブネット数が上限を超えました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3305: ジョブネット数が警告登録数を超えました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3426: 監査ログライブラリのロードに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3427: 監査ログファイルの読み込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 3442: 正規表現を含むメモが登録されているジョブネットが見つかりません

【メッセージの意味】

正規表現を含むメモが登録されているジョブネットが見つかりません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正規表現を見直してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 4279: XXXX データベースの移行に失敗しました

【メッセージの意味】

データベースファイルを新データベースファイルに移行する途中に、移行できないデータベースファイルが存在しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名(以下の種類があります)

- ユーザ名
- ユーザ名.grp
- プロジェクト名.jsp
- プロジェクト名.dbx
- プロジェクト名.grp
- プロジェクト名.dbz
- プロジェクト名.grz
- sysfile.sys
- monitor_hosts
- holiday_info.db
- db_calendar.default
- db_calendar_ex.default
- sroot.var

【システムの処理】

XXXXのデータベースファイルの移行は中止し、処理を続行します。

【システム管理者の処置】

XXXXのデータベースファイルが移行前のバージョンのものであるかを確認してください。なお、日変わり・休日情報データベース(sysfile.sys)の移行に失敗している場合、ジョブスケジューラが起動できない場合があるので、データベースディレクトリのjobschbackupディレクトリから旧データベースファイルをデータベースディレクトリにコピーし、再試行してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 4286: XXXX トレース機能が使用できません

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: 警告: 4304: カレンダ名(XXXX)が既存か、不当な文字コードを含むため、Systemwalker MpJmCalへ移行できません

【メッセージの意味】

カレンダ情報の移行中に、以下のどれかの現象が発生しました。

- カレンダ名が既に存在する。
- カレンダ名に、カレンダサービス(Systemwalker MpJmCal)で使用できない不当な文字コードが含まれている。

【パラメタの意味】

XXXX: カレンダ名

【システムの処理】

該当するカレンダ情報を移行しません。

【システム管理者の処置】

移行できなかったカレンダ情報については、別途、新規登録してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6006: ジョブネットの情報の読み込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6007: ジョブネットの情報の書き込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6014: Systemwalker MpJobschサービスが起動されていません

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6016: データベースディレクトリ(DBPATH)が見つかりません

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6017: 共有メモリの獲得に失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6019: ジョブネット名が見つかりません

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6023: tskmmsrvの引数に誤りがあります

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6025: メッセージ事象の情報の読み込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6026: ライブラリの読み込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6027: 日変わり時刻の取得に失敗しました。Systemwalker MpJmCalサービスが正しく起動されているか確認して下さい

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6029: プロジェクト数が上限(1000)を超えました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6031: ジョブの情報が失われています

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6034: プロジェクトの情報の読み込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6035: 所有者名が指定されていません

【メッセージの意味】

定義ファイル中に、プロジェクトの所有者名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイル中に、プロジェクトの所有者名を指定してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6040: 起動パラメータの読み込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6041: ジョブネット情報が不当です

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンド内部で保持しているジョブネット情報に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

jobschsetnetコマンドにより表示された場合は、保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

それ以外の場合は、データベースディレクトリのjobschbackupディレクトリから該当ファイルをデータベースディレクトリにコピーし、ジョブスケジューラを再起動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6046: ログ情報の書き込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6051: 起動日雛形情報の入っているファイルがオープンできません

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6052: 間違った形式です

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタに誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタを見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6056: 本日は起動予定日ではないので再起動できません

【メッセージの意味】

グループは本日は起動予定日ではないので、再起動できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

グループを起動する場合は、再起動操作ではなく起動操作を行ってください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6060: 起動日雛形情報の読み込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6064: プロジェクトの情報の書き込みに失敗しました

【メッセージの意味】

プロジェクトの情報(プロジェクト名.jspファイル)の書き込み処理でエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6065: ジョブネットは既に実行中状態または警告状態です

【メッセージの意味】

ジョブネットは既に実行中または警告状態のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6067: ジョブネットは異常終了状態または強制終了状態または確認済状態でないため再起動できません

【メッセージの意味】

ジョブネットは異常終了状態または強制終了状態または確認済状態でないため、再起動はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6068: ジョブネットは実行中状態または警告状態ではありません

【メッセージの意味】

ジョブネットは実行中または警告状態ではないので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6071: 定義ファイルがオープンできません

【メッセージの意味】

定義ファイルのオープンに失敗したため、読み込めません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルの存在および読込権を確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6074: 情報の追加又は変更に失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンドで処理が中断されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6077: 起動日雛形情報の書き込みに失敗しました

【メッセージの意味】

起動日雛形情報のwriteに失敗したため、書き込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6078: 起動日雛形名が存在しません

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタで指定された起動日雛形が起動日雛形情報(db_calendar_ex.default)に存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタを見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6081: コマンドの引数に誤りがあります

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタに誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブスケジューラのコマンドのパラメタを見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6090: カレンダ情報が失われています

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6093: カレンダ情報の更新に失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6096: Administratorsグループのメンバーではないので、操作できません

【メッセージの意味】

Administratorsグループに属するユーザだけが使用できるコマンドを、Administratorsグループに属していないユーザが使用しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

Administratorsグループに属するユーザでコマンドを実行してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6097: Systemwalker MpJobschサービスを再起動させて下さい

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6098: ログ情報が存在しません

【メッセージの意味】

ログ情報(データベースディレクトリ配下のjobdb1.log、jobdb2.log、jobdb3.log)が存在しません。ログ情報が切り換えられた直後、またはジョブネットが起動されていないと考えられます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

切り換えられる以前のログ情報を参照したい場合は、ジョブやジョブネットが動作していない時間帯に、エディタで以前のログファイルを参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6100: カレンダ情報の読み込みまたは変更に失敗しました

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6102: 指定されたジョブネットは既に存在します

【メッセージの意味】

処理の対象となるジョブネットが既に存在します。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネット名を見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6103: 指定されたジョブネットが存在しません

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6104: 指定されたジョブネット名に誤りがあります

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6105: 定義ファイルに誤りがあります

【メッセージの意味】

jobschsetnetコマンドが読み込み中のリストファイルまたは定義ファイル中に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リストファイルまたは定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6107: 起動条件が指定されていません

【メッセージの意味】

jobschsetnetコマンドが読み込み中の定義ファイル中にジョブネットの起動条件が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6108: 起動日が休日と重なった場合の扱いが指定されていません

【メッセージの意味】

jobschsetnetコマンドが読み込み中の定義ファイル中に起動日が休日と重なった場合の処理方法が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6148: ジョブネット情報が一つもありません

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6149: サービスプロセス間の通信に失敗しました

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6164: ジョブネット情報の送信に失敗しました

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6188: ジョブスケジューラ(クライアント部)を使用中のため、実行できません

【メッセージの意味】

画面を表示中は、jobschsetnet、jobschsetgrp、およびjobschmoveコマンドは実行できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント部(ジョブスケジューラ/CL)を終了させた後、jobschsetnet、jobschsetgrp、およびjobschmoveコマンドを実行してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6204: カレンダ情報にエラーレコードが見つかりました

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6205: 起動日雛形情報にエラーレコードが見つかりました

【メッセージの意味】

起動日雛形情報(db_calendar_ex.default)の読み込み中にレコード長が不当なレコードを検出しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

データベースディレクトリのjobschbackupディレクトリから起動日雛形情報(db_calendar_ex.default)をデータベースディレクトリにコピーし、ジョブスケジューラを再起動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6206: 再スケジューリングに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6214: グループ情報の読み込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6219: グループ情報の書き込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6225: ジョブネットは保存中または制御中です

【メッセージの意味】

ジョブネットは保存中または制御中なので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから再度実行してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6226: グループは保存中または制御中です

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6228: グループは既に存在します

【メッセージの意味】

処理の対象となるグループが既に存在します。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループ名を見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6229: グループが存在しません

【メッセージの意味】

処理の対象となるグループが存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループ名を見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6231: ジョブネットはグループに属しています

【メッセージの意味】

ジョブネットはグループに属しているので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットをグループから外してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6232: ジョブネットはグループに属していません

【メッセージの意味】

ジョブネットはグループに属していないので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

操作を見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6233: ジョブネットは停止中状態ではありません

【メッセージの意味】

ジョブネットは停止中ではないので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6234: ジョブネットは既に停止中状態です

【メッセージの意味】

ジョブネットは既に停止中なので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6235: ジョブネットは無効状態ではありません

【メッセージの意味】

ジョブネットは無効状態ではないので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6236: ジョブネットは既に無効状態です

【メッセージの意味】

ジョブネットは既に無効状態なので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6237: グループは既に実行中または警告状態です

【メッセージの意味】

グループは既に実行中または警告状態のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループの状態が変わってから操作してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6239: グループは異常終了状態または強制終了状態または確認済状態でないため再起動できません

【メッセージの意味】

グループは異常終了状態または強制終了状態または確認済状態でないため、再起動できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループの状態が変わってから操作してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6240: グループは実行中または警告状態ではありません

【メッセージの意味】

グループは実行中または警告状態ではないので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループの状態が変わってから操作してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6243: グループは異常終了状態ではありません

【メッセージの意味】

グループは異常終了状態ではないので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループの状態が変わってから操作してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6248: 定義ファイルにジョブが定義されていません

【メッセージの意味】

jobschsetnetコマンドが読込中の定義ファイルにジョブが定義されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6251: 指定されたグループと移動先グループが同じです

【メッセージの意味】

jobschmoveコマンドのパラメタで示されたグループと移動先グループが同じのため、グループの移動はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

jobschmoveコマンドのパラメタを見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6252: 指定されたグループが移動先ジョブネットを含みます

【メッセージの意味】

jobschmoveコマンドのパラメタで示されたグループが移動先ジョブネットを含むため、ジョブネットの移動はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

jobschmoveコマンドのパラメタを見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6253: 指定されたジョブネットと移動先ジョブネットが同じです

【メッセージの意味】

jobschmoveコマンドのパラメタで示されたジョブネットが移動先ジョブネットと同じため、ジョブネットの移動はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

jobschmoveコマンドのパラメタを見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6256: 定義ファイルにジョブネットが定義されていません

【メッセージの意味】

jobschsetgrpコマンドが読込中の定義ファイルにジョブネットが定義されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6259: ジョブネットの属するグループが保存中または制御中です

【メッセージの意味】

ジョブネットの属するグループが保存中または制御中なので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから再度実行してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6260: ジョブネットの属するグループが既に実行中または警告状態です

【メッセージの意味】

ジョブネットの属するグループが既に実行中または警告状態のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの属するグループの状態が変わってから操作してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6261: グループ情報が不当です

【メッセージの意味】

グループ情報に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6271: グループの確認は無効です

【メッセージの意味】

[確認操作の詳細設定]ウィンドウで[グループの確認操作を有効とする]オプションが設定されていないため、グループの確認操作ができません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

グループの確認操作を利用する場合は、[確認操作の詳細設定]ウィンドウで[グループの確認操作を有効とする]オプションを設定し、ジョブスケジューラを再起動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6273: Systemwalker MpJobschサービスが起動中です

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6275: プロジェクト名が指定されていません

【メッセージの意味】

プロジェクト名が指定されていないため、処理できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

プロジェクト名を指定してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6276: LANGの設定に誤りがあります

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6278: Systemwalker MpJobschサービスが起動されているので使用できません

【メッセージの意味】

サービスが起動中に、データベースファイルを移行することができません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

サービスを停止してから、実行してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6283: カレンダ名が見つかりません

【メッセージの意味】

指定されたカレンダ名が見つかりません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

jobschsetholコマンドのパラメタを見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6289: ジョブネットは異常終了状態ではありません

【メッセージの意味】

ジョブネットは、異常終了状態ではないので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6290: ジョブネットの確認は無効です

【メッセージの意味】

[確認操作の詳細設定]ウィンドウで[ジョブネットの確認操作を有効とする]オプションが設定されていないため、ジョブネットの確認操作ができません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブネットの確認操作を利用する場合は、[確認操作の詳細設定]ウィンドウで[ジョブネットの確認操作を有効とする]オプションを設定し、ジョブスケジューラを再起動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6291: グループは既に停止中状態です

【メッセージの意味】

グループは既に停止中なので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループの状態が変わってから操作してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6292: グループは既に無効状態です

【メッセージの意味】

グループは既に無効状態なので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループの状態が変わってから操作してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6293: グループは停止中状態ではありません

【メッセージの意味】

グループは停止中ではないので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループの状態が変わってから操作してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6294: グループは無効状態ではありません

【メッセージの意味】

グループは無効状態ではないので、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

グループの状態が変わってから操作してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6298: Systemwalker MpJmCalサービスとの通信処理が失敗しました

【メッセージの意味】

Systemwalker MpJmCalサービスとの通信処理が失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

Operation Managerクライアントで、カレンダ機能が使用可能か確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6302: メッセージキューでサーバ側メッセージの書き込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6304: メッセージキューのハンドル獲得に失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6305: メッセージキューでクライアント側メッセージの書き込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6308: メッセージキューに必要なバッファが獲得できません

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6310: Systemwalker MpJobschサービスが起動されていません

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービスが起動されていないため、ジョブスケジューラのコマンドが実行できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブスケジューラのサービスを起動して、再度コマンドを実行してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6312: メッセージ事象名がありません

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6316: メッセージ事象名は、プロジェクト名およびジョブネット名の指定を含め、114バイト以内で指定してください

【メッセージの意味】

jobschmsgeventコマンドを115バイト以上のメッセージ事象名を指定して実行したため、メッセージ事象の発生に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

メッセージ事象名をプロジェクト名およびジョブネット名の指定を含めて114バイト以内の指定にしたjobschmsgeventコマンドを実行してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6319: Systemwalker MpJobschサービスとの通信処理が失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのコマンドとジョブスケジューラのサービスとの間のプロセス間通信に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6323: 起動処理が混雑しているため要求の受け付けに失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービスが起動処理中のため，要求が受け付けられませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから、再度ジョブスケジューラのコマンドを投入してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6324: 実行待ちキューの中に指定されたジョブネットはありません

【メッセージの意味】

ジョブネット起動APIによる実行待ちキューには，指定されたジョブネットがキューイングされていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6326: ジョブスケジューラは終了処理中のため操作できません

【メッセージの意味】

終了処理ジョブネット(JSHENDまたはJSHFORCE)が開始したため、ジョブスケジューラのコマンドは操作要求を受け付けることができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6327: Systemwalker MpJobschサービスが起動中です

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6331: 指定されたファイルが見つかりません

【メッセージの意味】

jobschmsgeventコマンドのパラメタで指定したファイル名が見つかりません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ファイル名を見直した後、再度、jobschmsgeventコマンドを実行してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6332: 指定されたディレクトリパスが見つかりません

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービスの起動パラメタで指定されたディレクトリが存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

jobschsetparmコマンドでジョブスケジューラのサービスの起動パラメタを再設定後、ジョブスケジューラのサービスを再起動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6333: ジョブネット起動API機能は無効になっています

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービスの起動パラメタでジョブネット起動API機能が無効にされています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブネット起動API機能を使用する場合は、jobschsetparmコマンドでジョブスケジューラのサービスの起動パラメタを再設定後、ジョブスケジューラのサービスを再起動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6334: Systemwalker ACL Managerサービスが起動していません

【メッセージの意味】

Systemwalker ACL Managerサービスが起動していないため、アクセス制御が行えません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

Systemwalker ACL Managerサービスを起動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6335: プロジェクト名が不当です

【メッセージの意味】

指定されたプロジェクト名が正しくありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいプロジェクト名を指定してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6336: ジョブネットの情報が残っているため削除できません

【メッセージの意味】

プロジェクト内にジョブネット情報が存在するため、プロジェクトを削除できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

プロジェクト内のジョブネット情報を、すべて削除してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6337: 指定されたユーザ名に誤りがあります

【メッセージの意味】

指定されたユーザ名が正しくありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいユーザ名を指定してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6338: 一時変更の開始日が指定されていません

【メッセージの意味】

定義ファイル中に、一時変更の開始日が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイル中に、一時変更の開始日を指定してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6339: システムカレンダは削除できません

【メッセージの意味】

システムカレンダは削除することはできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6340: Interstageはサポートされていません

【メッセージの意味】

以下のいずれかの状態が発生しました。

- Interstageを使用できないシステムで、Interstage属性のジョブネットを起動しようとした。
- Interstageを使用できないシステムで、Interstage属性のジョブネットをコマンドで登録しようとした。

【システムの処理】

サービスが出力した場合は、ジョブネットの実行を拒否します。コマンドが出力した場合は、ジョブネットを登録しません。

【システム管理者の処置】

Interstageがインストールされているか、正しく動作しているかを調査してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6345: アクセス許可グループのメンバーではありません

【メッセージの意味】

[swadminグループに含まれるユーザだけが、デマンドジョブの起動、ジョブ実行制御属性のジョブネット起動、およびジョブスケジューラのコマンド機能が利用できるように制限する]の指定を行っている場合に、swadminグループに所属していないユーザがジョブスケジューラのコマンドを実行しました。

【利用者の処置】

swadminグループに属しているユーザでログインしなおして、ジョブスケジューラコマンドを実行するか、コマンドを実行するユーザをswadminグループに追加するようシステム管理者に依頼してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6354: ジョブネットは子ジョブネットです

【メッセージの意味】

ジョブネットは子ジョブネットのため、確認または起動の操作ができません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6360: ジョブネットの階層数が上限を超えました

【メッセージの意味】

ジョブネットの階層数が5を超えたのでジョブネットを登録できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの階層数を5以下にしてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6361: ジョブネットの階層がループしています

【メッセージの意味】

ジョブネットの階層がループしているのでジョブネットを登録できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの階層がループしないようにしてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6364: ジョブネットに起動日情報または運用予定情報はありません

【メッセージの意味】

起動日情報または運用予定情報が設定されているジョブネットが存在しないため、出力されません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6365: パラメタ情報ファイルの書き込みに失敗しました

【メッセージの意味】

ジョブのパラメタ情報ファイルの書き込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

データベースディレクトリのjobschbackupディレクトリからジョブのパラメタ情報ファイルをデータベースディレクトリにコピーし、ジョブスケジューラを再起動してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6366: パラメタ情報ファイルの読み込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6367: 親ジョブネットは複写できません

【メッセージの意味】

親ジョブネットは複写できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6368: ジョブネットは異常終了状態または強制終了状態ではありません

【メッセージの意味】

ジョブネットは異常終了状態または強制終了状態ではないので、指定の操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6369: グループは異常終了状態または強制終了状態ではありません

【メッセージの意味】

グループは異常終了状態または強制終了状態ではないので、指定の操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6370: 終端情報に誤りがあります

【メッセージの意味】

終端情報に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

終端情報ファイルをjobschbackupディレクトリから復元してください。

【システム管理者の処置】

jobschchecklog.iniファイルをジョブスケジューラのデータベースディレクトリのjobschbackupディレクトリからコピーしてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6371: 終端情報の読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

終端情報の読み込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

終端情報ファイルをjobschbackupディレクトリから復元してください。

【システム管理者の処置】

jobschchecklog.iniファイルをジョブスケジューラのデータベースディレクトリのjobschbackupディレクトリからコピーしてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6372: 終端情報の書き込みに失敗しました

【メッセージの意味】

終端情報の書き込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

終端情報ファイルをjobschbackupディレクトリから復元してください。

【システム管理者の処置】

jobschchecklog.iniファイルをジョブスケジューラのデータベースディレクトリのjobschbackupディレクトリからコピーしてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6375: 指定された正規表現に誤りがあります

【メッセージの意味】

jobschchecklogコマンド、またはjobschnetmemoコマンドの-eオプションで指定した正規表現に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正規表現として正しいかどうか確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6376: 最大待ち合わせ時刻として待ち合わせ時刻より前の時刻が指定されています

【メッセージの意味】

指定された最大待ち合わせ時刻が、待ち合わせ時刻より前の時刻です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

最大待ち合わせ時刻を指定する場合は、待ち合わせ時刻以降の時刻を指定してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6379: 一時ファイルの読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

jobschchecklogコマンドで使用する一時ファイルの読み込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6380: 一時ファイルの書き込みに失敗しました

【メッセージの意味】

jobschchecklogコマンドで使用する一時ファイルの書き込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6389: 持ち越し状態でないため持越解除できません

【メッセージの意味】

ジョブネットが持ち越し状態ではないため、持越解除はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6390: ジョブネットの起動条件がメッセージ事象発生時のみ起動でないまたは一日一回のみ起動ではないため終了取消できません

【メッセージの意味】

ジョブネットの起動条件がメッセージ事象発生時のみ起動ではないか、一日一回の指定がされていないため、終了取消できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6391: 本日実行済みでないため終了取消できません

【メッセージの意味】

ジョブネットが本日実行済みではないため、終了取消できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6392: 停止中または無効状態のため終了取消できません

【メッセージの意味】

ジョブネットが停止中または無効状態のため、終了取消できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6395: メモが長すぎます

【メッセージの意味】

メモとして指定された文字列が長すぎます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

メモとして指定する文字列の長さは、128バイト以内にしてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6396: メモに誤りがあります

【メッセージの意味】

メモとして指定された文字列に誤った文字が含まれています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

メモとして指定する文字列から誤った文字を削除してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6400: 指定されたジョブは操作できません

【メッセージの意味】

指定されたジョブが属するジョブネットの実行属性が、ジョブの操作が可能な実行属性ではないため、ジョブの操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6401: 指定されたジョブは存在しません

【メッセージの意味】

指定されたジョブが存在しません

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブ名を見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6402: 同じジョブ名のジョブが複数存在します

【メッセージの意味】

指定されたジョブ名を持つジョブが複数存在します。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

操作するジョブのジョブ名が一意となるように、ジョブ名を変更してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6403: ジョブは制御中です

【メッセージの意味】

ジョブは制御中なので、操作できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから再度実行してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6404: ジョブは実行中または実行遅延状態ではありません

【メッセージの意味】

ジョブが実行中でも実行遅延状態でもないため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6405: ジョブネットが実行中または警告状態でないため再起動できません

【メッセージの意味】

ジョブが属するジョブネットが実行中でも警告状態でもないため、再起動はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6406: ジョブが異常終了状態または強制終了状態でないため再起動できません

【メッセージの意味】

ジョブが異常終了状態でも強制終了状態でないため、再起動できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6407: ジョブは既に実行中または実行遅延状態です

【メッセージの意味】

ジョブが既に実行中または実行遅延状態であるため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6408: ジョブは停止中状態ではありません

【メッセージの意味】

ジョブが停止中状態ではないため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6409: ジョブは既に停止中状態です

【メッセージの意味】

ジョブが既に停止中であるため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6410: ジョブは無効状態ではありません

【メッセージの意味】

ジョブが無効状態ではないため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6411: ジョブは既に無効状態です

【メッセージの意味】

ジョブが既に無効状態であるため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6413: 年の指定に誤りがあります

【メッセージの意味】

指定可能範囲外の年が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

年の指定を見直してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6414: リカバリジョブが実行中または警告のため操作できません

【メッセージの意味】

リカバリジョブが実行中または警告のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6415: アクセス権の取得に失敗しました

【メッセージの意味】

アクセス権の取得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6416: プロジェクトが存在しません

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6421: スケジュール情報へのアクセスに失敗しました。メッセージ説明書の記述にしたがって、対処してください

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6436: 複写起動により複写されたジョブネットは操作できません

【メッセージの意味】

jobschmsgeventコマンドの-cオプションを指定して複写起動したジョブネットに対して、指定の操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

複写元のジョブネットを指定して実行してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6440: 指定されたジョブネットは可変パラメタ起動できません

【メッセージの意味】

指定されたジョブネットは、可変パラメタ起動できないジョブネットのため、起動できません。

以下の実行属性のジョブネットは可変パラメタ起動できません。

- Interstage 属性のジョブネット

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6441: 正規表現が長すぎます

【メッセージの意味】

正規表現の長さが256バイトを超えています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正規表現の長さを256バイト以内にしてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6447: ジョブネットはリンクジョブネットのため、指定の操作ができません

【メッセージの意味】

ジョブネットはリンクジョブネットのため、指定の操作ができません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6448: ジョブネットはマスタリンクジョブネットのため、指定の操作ができません

【メッセージの意味】

ジョブネットはマスタリンクジョブネットのため、指定の操作ができません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6449:マスタリンクジョブネットのジョブは操作できません

【メッセージの意味】

指定されたジョブが属するジョブネットがマスタリンクジョブネット、あるいは、その階層下のジョブネットであるため、ジョブの操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6453: リンクジョブネットは登録できません

【メッセージの意味】

他のジョブネットの子ジョブネットをリンクジョブネットとして登録できません。

複写起動により複写されたジョブネットをリンクジョブネットとして登録できません。

他のリンクジョブネットをマスタリンクジョブネットに指定してリンクジョブネットは登録できません。

リンクジョブネットジョブを含むジョブネットをリングジョブネットとして登録できません。

運用日管理プロジェクトではリンクジョブネットを登録できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6457: リンクジョブネットは複写できません

【メッセージの意味】

リンクジョブネットは複写できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows]MpJobsch: エラー: 6458: リンクジョブネットは実行中または警告状態のため、指定された操作はできません

【メッセージの意味】

リンクジョブネットまたはその親ジョブネットが実行中または警告状態のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リンクジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[Windows] MpJobsch: エラー: 6461: リンクジョブネットは保存中または制御中のため、指定された操作はできません

【メッセージの意味】

リンクジョブネット、または、その親ジョブネットや子ジョブネットが保存中または制御中のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから再度実行してください。

[Windows] MpJobsch: エラー: 6462: マスタリンクジョブネットは実行中または警告状態のため、指定された操作はできません

【メッセージの意味】

マスタリンクジョブネットが実行中または警告状態のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

マスタリンクジョブネットの状態が変わってから操作してください。

[Windows] MpJobsch: エラー: 6463: マスタリンクジョブネットは保存中または制御中のため、指定された操作はできません

【メッセージの意味】

マスタリンクジョブネットまたはその子ジョブネットが保存中または制御中のため、指定された操作はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから再度実行してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7000: func=XXXX:YYYY() ZZZZ ZZZZ

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7022: XXXX ジョブネットの情報にエラーレコードが見つかりました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7043: XXXX ジョブネット情報ファイルの読み込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7044: XXXX ジョブネット情報ファイルの書き込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7072: キーワードに誤りがあります XXXX行目です

【メッセージの意味】

定義ファイル中のキーワードに誤りがあります。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7075: 制御文または制御文の順番に誤りがあります XXXX行目です

【メッセージの意味】

定義ファイル中のオペランドまたはオペランドの順番に誤りがあります。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7083: パラメータがありません XXXX行目です

【メッセージの意味】

定義ファイル中のオペランドに対するパラメタがありません。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7084: パラメータに誤りがあります XXXX行目です

【メッセージの意味】

定義ファイル中のオペランドに対するパラメタに誤りがあります。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7085: セミコロンの使用方法に誤りがあります XXXX行目です

【メッセージの意味】

制御文がセミコロンで終了していません。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7086: XXXX に誤りがあります

【メッセージの意味】

定義ファイル中のオペランドXXXXの使用法に誤りがあります。

【パラメタの意味】

XXXX: オペランド名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7099: パラメータの数に誤りがあります XXXX行目です

【メッセージの意味】

定義ファイル中のオペランドに対するパラメタの数に誤りがあります。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7106: 制御文に矛盾があります XXXX行目です

【メッセージの意味】

定義ファイルの内容に矛盾があります。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7110: その日は設定されていません XXXX行目です

【メッセージの意味】

定義ファイル中に設定されていない日への取消しが指定されています。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7111: オペランドが重複しています XXXX行目です

【メッセージの意味】

定義ファイル中に重複できないオペランドが重複して指定されています。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7112: パラメータが重複しています XXXX行目です

【メッセージの意味】

定義ファイル中に重複したパラメタが指定されています。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7114: オペランドの順番に誤りがあります XXXX行目です

【メッセージの意味】

定義ファイル中に誤った順番でオペランドが指定されています。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7152: XXXX ジョブネット情報が見つかりません

【メッセージの意味】

共有メモリに登録されているユーザのジョブネット情報が存在しません。

【パラメタの意味】

XXXX: ユーザ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブスケジューラ"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7175: XXXX プロジェクトが存在しないか、アクセス権が不足しています。あるいは、参照するジョブネットなどが未登録です

【メッセージの意味】

以下のどれかの現象が発生しました。

- 指定されたプロジェクトが存在しない。
- 指定されたプロジェクトに対するアクセス権がない。
- 指定されたプロジェクトにジョブネットまたはグループが登録されていない。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定のプロジェクトが存在すること、および、プロジェクトに対するアクセス権を確認してください。また、プロジェクト内に指定のジョブネットまたはグループが登録されていることを確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7176: XXXX メッセージ事象の情報にエラーレコードが見つかりました

【メッセージの意味】

メッセージ事象の情報を読み込み中に以下のどちらかの状態のレコードを検出しました。

- レコード長が不当です。
- メッセージ事象の情報の先頭レコードとして不当です。

【パラメタの意味】

XXXX: ユーザ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

データベースディレクトリのjobschbackupディレクトリから該当ファイルをデータベースディレクトリにコピーし、再度jobschconvertコマンドを実行してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7179: XXXX のバックアップに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows][Windows] MpJobsch:エラー :7181:argv ファイルが不当です

【メッセージの意味】

jobschchkfileコマンドに指定したファイル名が不当です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

以下を確認した後、jobschchkfileコマンドを再実行してください。

- ファイル名がフルパスで指定されているか
- ファイル名にディレクトリ名が指定されていないか

[Windows]MpJobsch: エラー: 7182: XXXX はプロジェクト名が50文字を超えているため使用できません

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7191: XXXX が実行できません

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7212: XXXX グループ情報ファイルの読み込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7215: XXXX グループ情報にエラーレコードが見つかりました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7218: XXXX グループ情報ファイルの書き込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7244: XXXX は既にグループに属しています

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXが既にグループに属しているため、指定された操作はできません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットをグループから外してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7245: XXXX の起動条件が単一起動ではありません

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXの起動条件が単一起動ではないため、指定された操作はできません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの起動条件を単一起動にしてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7246: XXXX のメッセージ事象の起動条件は順次起動モードです

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXのメッセージ事象発生時の起動条件に[ジョブネット実行中も有効]オプションが指定されているため、グループに登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

[ジョブネットのプロパティ]ウィンドウの[メッセージ]シートで、[ジョブネット実行中も有効]オプションを外し、登録しなおしてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7258: XXXX はユーザ名が20文字を超えているため使用できません

"2.10 MpJobschで始まるメッセージ"を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7263: XXXX メッセージ情報ファイルの読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

メッセージ情報のopen、lockf、または、readのどれかで失敗したため読み込めませんでした。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

データベースディレクトリのjobschbackupディレクトリから該当ファイルをデータベースディレクトリにコピーし、再度jobschconvertコマンドを実行してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7278: XXXXサービスが起動されているので使用できません

【メッセージの意味】

サービスが起動されているため、データベースの移行ができません。

【パラメタの意味】

XXXX: サービス名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

サービスを停止してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7281: XXXX ジョブネット情報ファイルがすでに存在します

【メッセージの意味】

移行済みのデータベースファイルがすでに存在しています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

もう一度、移行させたい場合は、データベースディレクトリ中の以下のファイルを消去して、再実行してください。

- パラメタがユーザ名の場合: ユーザ名.dbz
- パラメタがsysfile.sysの場合: sysfile.sys

[Windows]MpJobsch: エラー: 7300: func=XXXX:YYYY() CCCC:ZZZZ

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7301: func=XXXX:YYYY() ZZZZ

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7304: 指定された日は起動日ではありません XXXX 行目です

【メッセージの意味】

定義ファイル中に誤った日付が指定されています。

【パラメタの意味】

XXXX: エラーの発生した行番号または行番号の範囲

【システムの処理】

処理を打ち切ります。

【利用者の処置】

定義ファイルを修正してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7310: ファイル中のホスト名の指定に誤りがあります(XXXX)

【メッセージの意味】

jobschmsgeventコマンドのパラメタで指定したファイル中に誤ったホスト名が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

指定されているホスト名を見直した後、再度、jobschmsgeventコマンドを実行してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7311: メッセージ事象の発生に失敗しました(ホスト名 = XXXX)

【メッセージの意味】

jobschmsgeventコマンドでイベントログへのイベントの書き込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ホスト名(自ホストの場合は－が表示されます。)

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

本メッセージと対になって出力されるメッセージに原因の記載がありますので、そちらのメッセージから対処してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7355: XXXX の現在の起動条件では登録できません

【メッセージの意味】

現在の起動条件ではグループを登録することができません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの起動条件を単一起動に変更してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7356: XXXX (子ジョブネット)が存在しません

【メッセージの意味】

子ジョブネットとして登録するジョブネットXXXXが存在しません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットXXXXを作成してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7357: XXXX (親ジョブネット)が存在しません

【メッセージの意味】

親ジョブネットとして登録するジョブネットXXXXが存在しません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットXXXXを作成してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7358: XXXX の現在の起動条件では子ジョブネットを登録できません

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXの起動条件が子ジョブネットとしての条件を満たしていないため、登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの起動条件をなしに変更してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7359: XXXX は既に別の親ジョブネットに属しています

【メッセージの意味】

子ジョブネットとして登録するジョブネットXXXXは、既に別の親ジョブネットに属しているので登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットXXXXを親ジョブネットから外してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7362: XXXX (親ジョブネット)がジョブ実行制御属性ではありません

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXがジョブ実行制御属性ではないので、親ジョブネットとして登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットXXXXをジョブ実行制御属性にしてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7363: XXXX (子ジョブネット)がジョブ実行制御属性ではありません

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXがジョブ実行制御属性ではないので、子ジョブネットとして登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットXXXXをジョブ実行制御属性にしてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7373: XXXX ファイルが普通のファイルではありません

【メッセージの意味】

ファイルXXXXがテキスト形式のファイルではないため、処理できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

テキスト形式のファイルを指定してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7374: XXXX ファイルのアクセスに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7377: XXXX ファイルの読み込みに失敗しました

【メッセージの意味】

ファイルXXXXの読み込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7378: XXXX ファイルの書き込みに失敗しました

【メッセージの意味】

ファイルXXXXの書き込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

当メッセージの前に出力されたメッセージを参照して、異常の原因を取り除いてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7387: ユーザの権限情報の取得に失敗しました (XXXX)

【メッセージの意味】

ユーザの権限情報の取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

XXXX: コード

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブスケジューラ”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7388: XXXX ファイルが見つかりません

【メッセージの意味】

ファイルXXXXが見つかりません。

【パラメタの意味】

XXXX: ファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ファイルが存在することを確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7419: メッセージ事象の発生に失敗しました。(ホスト名 = XXXX) 指定ホストがWindowsサーバでないか、指定ホストで"server"サービスが起動されていません

【メッセージの意味】

jobschmsgeventコマンドによるメッセージ事象の発生に失敗しました。原因は、指定ホストがWindowsサーバでないか、指定ホストで“server”サービスが起動されていないためであると考えられます。

【パラメタの意味】

XXXX: ホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定ホストの“server”サービスが正常に動作していることを確認してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7439: XXXX 可変パラメタ情報の書き込みに失敗しました

“2.10 MpJobschで始まるメッセージ”を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7420: メッセージ事象の発生に失敗しました。(ホスト名 = XXXX) 指定ホストのイベントログがいっぱいのため、書き込むことが出来ません

【メッセージの意味】

メッセージ事象の発生に失敗しました。原因は、指定ホストのイベントログがいっぱいのためであると考えられます。

【パラメタの意味】

XXXX: ホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定ホストのイベントログを書き込めるようにしてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7450: XXXX (マスタリンクジョブネット)が存在しません

【メッセージの意味】

マスタリンクジョブネットXXXXが存在しません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットXXXXを作成してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7451: XXXX の現在の起動条件ではリンクジョブネットを登録できません

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXの起動条件がマスタリンクジョブネットとしての条件を満たしていないため、登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットの起動条件をなしに変更してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7452: XXXX はジョブ実行制御属性ではないため、リンクジョブネットとして登録できません

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXがジョブ実行制御属性ではないため、リンクジョブネットとして登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットXXXXをジョブ実行制御属性にしてください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7454: XXXX リンクジョブネットと同一名のジョブネットが既に存在するため、リンクジョブネットを登録できません

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXと同じ名前のジョブネットが登録されているため、リンクジョブネットを登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リンクジョブネットのジョブネット名を別の名前してから、再度登録してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7455: XXXX リンクジョブネットの子ジョブネットと同一名のジョブネットが既に存在するため、リンクジョブネットを登録できません

【メッセージの意味】

ジョブネットXXXXと同じ名前のジョブネットが登録されているため、リンクジョブネットを登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リンクジョブネットのジョブネット名を別の名前してから、再度登録してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7456: XXXX リンクジョブネットのジョブネット名の長さが制限を超えたため、リンクジョブネットを登録できません

【メッセージの意味】

リンクジョブネットXXXXのジョブネット名の長さが50バイトを超えたため、リンクジョブネットを登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リンクジョブネットのジョブネット名を別の名前にしてから、再度登録してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 7459: XXXX マスタリンクジョブネットに結びつくリンクジョブネットの登録数が制限を超えたため、リンクジョブネットを登録できません

【メッセージの意味】

同一のマスタリンクジョブネットに結びつくリンクジョブネットは、100個までしか登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

[Windows] MpJobsch: エラー: 7460: XXXX はマスタリンクジョブネットのため、子ジョブネットとして登録できません

【メッセージの意味】

子ジョブネットとして登録するジョブネットXXXXはマスタリンクジョブネットのため、登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブネットXXXXをリンクジョブネットとして登録してください。

[Windows] MpJobsch: エラー: 7464: XXXX リンクジョブネットのジョブネット名が重複するため、リンクジョブネットを登録できません

【メッセージの意味】

新しく登録されるリンクジョブネットやその階層下のジョブネットの間で、ジョブネット名XXXXが重複するため、リンクジョブネットを登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リンクジョブネットのジョブネット名を別の名前にしてから、再度登録してください。

[Windows] MpJobsch: エラー: 7465: XXXX 子ジョブネットの下の階層にリンクジョブネットが存在するため、子ジョブネットとして登録できません

【メッセージの意味】

子ジョブネットとして登録するジョブネットXXXXの下の階層にリンクジョブネットが存在するため、登録できません。

【パラメタの意味】

XXXX: ジョブネット名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

[Windows]MpJobsch: エラー: 8303: カレンダ(XXXX)移行時にSystemwalker MpJmCal(API)でエラー(YYYY)が検出されました

【メッセージの意味】

カレンダ情報の移行中に、カレンダAPIでエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

XXXX: カレンダ名

YYYY: エラー番号

【システムの処理】

該当するカレンダ情報を移行しません。

【システム管理者の処置】

該当エラー番号を元に、異常原因を取り除いてください。エラー番号については、"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"の"カレンダAPI"を参照してください。

[Windows]MpJobsch: エラー: 8418: メッセージ事象の発生に失敗しました。(ホスト名 = XXXX) コマンドの実行ユーザ(YYYY)が、指定ホストでも利用可能となるように、ユーザ名およびパスワードを登録してください

【メッセージの意味】

jobschmsgeventによるメッセージ事象の発生に失敗しました。原因は、指定ホストでコマンドを実行したユーザのアクセス権が足りないためであると考えられます。

【パラメタの意味】

XXXX: ホスト名

YYYY: ユーザ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定ホストにユーザ名およびパスワードを登録してください。

3.6.2 イベントIDのないメッセージ

本項では、ジョブスケジューラコマンドの出力メッセージのうち、イベントIDのないメッセージについて説明します。

Mpjobsch: ERROR: Usage: jobschprintcsv { -n [-toplevel] | -l yyyy mm |-g yyyy mm dd [-vparam]| -f 0 to 5 [-vparam]} [-title]

【メッセージの意味】

jobschprintcsvコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

Mpjobsch: ERROR: Usage: jobschprintcsv { -n [-toplevel] | -l yyyy mm |-g yyyy mm dd [-vparam]| -f 0 to 5 [-vparam]} [-title] [-sys 0 to 9]

【メッセージの意味】

jobschprintcsvコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

not find jobschprint

【メッセージの意味】

jobschprintコマンドがありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

Systemwalker Operation Managerが正常にインストールされていることを確認してください。

Unknown Host Name

【メッセージの意味】

ホスト情報の取得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ネットワーク環境の設定が正しく行われているか、確認してください。

Usage:jobschcsvtodef filename

【メッセージの意味】

jobschcsvtodefコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

Usage:jobschdeftocsv [-d] filename

【メッセージの意味】

jobschdeftocsvコマンドの正しいパラメタの形式です。

【利用者の処置】

パラメタを正しい形式で指定してください。

3.7 インポート/エクスポート時のメッセージ

本節では、インポート/エクスポート時の出力メッセージについて説明します。

インポート/エクスポート時に出力される“MpJobsch”で始まるメッセージについては、“3.6 ジョブスケジューラコマンドの出力メッセージ”を参照してください。

参考

インポートやエクスポートにおける“実行結果ファイル”とは、複数のグループや複数のジョブネットそれぞれを処理した結果を集めたファイルです。処理終了後、txt拡張子に割り付けられたアプリケーションによってこのファイルが開きます。インポートやエクスポートにおける“内部ファイル”とは、インポートやエクスポートで一時的に利用する複数のファイルを指しています。“実行結果ファイル”も内部ファイルのひとつです。

3.7.1 インポート時のポップアップメッセージ

本項では、インポート時に出力されるポップアップメッセージについて説明します。

インポートの実行結果ファイルに書き込みできませんでした。

【メッセージの意味】

インポート処理中に実行結果ファイルをオープンできない場合がありました。

【利用者の処置】

以下のファイルがロックされていないか確認してください。ロックされている場合は、ロックしているプロセスを終了してください。また以下のフォルダやファイルが書き込み禁止になっていないか確認してください。書き込み禁止になっている場合は、書き込み属性を付与してください。

フォルダ:Systemwalker Operation Manager のクライアントのインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjmcl¥work¥jmimpexp

ファイル:Systemwalker Operation Manager のクライアントのインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjmcl¥work¥jmimpexp¥impinfo.txt

インポートが完了しました。

【メッセージの意味】

インポートがすべてエラーなく終了しました。

【利用者の処置】

特に必要ありません。

インポートするファイルがありません。

【メッセージの意味】

インポート時に、インポートするファイルが何も選択されていません。

【利用者の処置】

インポートするCSVファイルを指定してください。

インポート機能が起動できません。

【メッセージの意味】

インポート機能が起動できませんでした。

【利用者の処置】

再度インポートを実行してください。

指定可能なCSVファイルは最大1000ファイルまでです。 1000ファイルを超えた分は、別途インポートしてください。

【メッセージの意味】

インポートするCSVファイル数が1000を超えています。

【利用者の処置】

インポートするCSVファイル数を1000ファイル以下にしてください。

既にジョブネットが存在する場合は、上書きされます。よろしいですか？

【メッセージの意味】

CSVファイルで定義したジョブネットと、同一ジョブネットがインポートの対象に存在する場合、ジョブネット定義が上書きされます。処理を続行しても問題ないか確認するメッセージです。インポートを実行する前に表示されます。

【利用者の処置】

特に必要ありません。

他のSystemwalker Operation Managerクライアントから起動したインポートが実行中です。

【メッセージの意味】

[Systemwalker Operation Manager インポート]ウィンドウは、Systemwalker Operation Managerクライアント一台につき一つまで起動できます。複数起動しようとした場合、本メッセージが表示されます。

【利用者の処置】

ありません。

3.7.2 インポート時のテキストメッセージ

本項では、インポート時に、以下のテキストファイルに出力されるメッセージについて説明します。

```
Systemwalker Operation Manager クライアントインストール先ディレクトリ¥MPWALKER.JM
¥mpjmcl¥work¥jmimpexp¥impinfo.txt
```

キャンセルボタンが押下されたため、xx/xx件までで処理を中断しました。

【メッセージの意味】

インポート情報ファイルの生成中に、キャンセルボタンが押下されたため、xx/xx件でインポート処理が中断されました。

【パラメタの意味】

xx/xx：処理終了件数/全件数

【利用者の処置】

特に必要ありません。

ファイル名が256バイトを超えたのでインポートできませんでした。

【メッセージの意味】

CSVファイルのファイル名が256バイトを超えたため、インポートできませんでした。

【利用者の処置】

1つのCSVファイルのファイル名を256バイト以下にしてください。

CSVファイルの読み込みに失敗したため、インポートできませんでした。

【メッセージの意味】

CSVファイルを読み込むことが出来ませんでした。

【利用者の処置】

指定したCSVファイルが存在するか確認してください。

Systemwalker Operation Managerで扱えないCSVファイルが指定されたため、インポートできませんでした。

【メッセージの意味】

対象外のCSVファイルが指定されたため、インポートできませんでした。CSVファイルの内容が、ジョブネット情報でもグループ情報でもなかった場合に出力されます。

【利用者の処置】

ジョブネット定義CSVファイルまたは、グループ定義CSVファイルを指定してください。

インポート処理において、内部ファイルの生成ができませんでした。

【メッセージの意味】

インポート処理において、内部ファイルの生成ができませんでした。クライアント上でサーバ操作用のバッチファイルの生成に失敗した場合に出力されます。

【利用者の処置】

以下のディレクトリに書き込み属性があることを確認してください。

Systemwalker Operation Managerのクライアントのインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjmcl¥work¥jmimpexp

インポート処理において、サーバへのCSVファイル転送が失敗しました。

【メッセージの意味】

インポート処理において、サーバへのCSVファイル転送に失敗しました。クライアント上のサーバ操作に使用するファイルをサーバに転送できなかった場合に出力されます。

【利用者の処置】

Systemwalker Operation Managerサーバに接続できるか、ネットワーク環境を見直してください。

インポート処理において、CSVファイルの登録が失敗しました。

【メッセージの意味】

インポート処理において、CSVファイルの登録に失敗しました。クライアントからサーバ操作用のバッチファイルの実行に失敗した場合に出力されます。

【利用者の処置】

再度インポートを実行してください。

実行結果ファイルの読み込みに失敗したため、インポート情報の取得ができませんでした。

【メッセージの意味】

実行結果ファイルの読み込みに失敗したため、インポート情報の取得ができませんでした。サーバ上の実行結果ファイルを読み込めなかったため、インポート情報ファイルへ書き込む内容が取得できなかった場合に出力されます。

【利用者の処置】

Systemwalker Operation Managerサーバに接続できるか、ネットワーク環境を見直してください。

---

xxxコマンドが正常に終了しました。

【メッセージの意味】

サーバにおいて、CSVファイルを登録するコマンドが正常終了しました。

【パラメタの意味】

xxx:コマンド名

【利用者の処置】

特に必要ありません。

インポート処理において、xxxコマンドが異常終了しました。

【メッセージの意味】

サーバにおいて、CSVファイルを登録するコマンドが異常終了しました。

【パラメタの意味】

xxx:コマンド名

【利用者の処置】

当メッセージと同時に出力されるメッセージを確認してください。

インポート処理が異常終了しました。(0xXXXXXXXX)

【パラメタの意味】

0xXXXXXXXX:詳細コード

詳細コードが0x40000000未満の場合:

【メッセージの意味】

CSVファイルにおけるグループまたはジョブネットの情報が正しくありません。

【利用者の処置】

指定したCSVファイルが、jobschcsvtodefコマンドで正しく変換できるか確認してください。

詳細コードが0x40000000以上の場合:

【メッセージの意味】

通信中にエラーが発生したか、サーバ上のスクリプト実行環境が正しくないため、処理を中断しました。

【利用者の処置】

通信環境が正常であるか、接続先のSystemwalker Operation Managerサーバが正しく動作しているか確認してください。

また、サーバがUNIX版の場合は、シェル環境が正しく動作しているか確認してください。

3.7.3 エクスポート時のポップアップメッセージ

本項では、エクスポート時に出力されるポップアップメッセージについて説明します。

エクスポートが完了しました。

【メッセージの意味】

エクスポートがすべてエラーなく終了しました。

【利用者の処置】

特に必要ありません。

エクスポートの実行結果ファイルに書き込みできませんでした。

【メッセージの意味】

エクスポート処理中に実行結果ファイルをオープンできない場合がありました。

【利用者の処置】

以下のファイルがロックされていないか確認してください。ロックされている場合は、ロックしているプロセスを終了してください。また、以下のフォルダやファイルが書き込み禁止になっていないか確認してください。書き込み禁止になっている場合は、書き込み属性を付与してください。

フォルダ:Systemwalker Operation Managerのクライアントのインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjmcl¥work¥jmimpexp

ファイル:Systemwalker Operation Managerのクライアントのインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjmcl¥work¥jmimpexp¥expinfo.txt

エクスポート処理において、CSVファイルの出力に失敗しました。

【メッセージの意味】

内部ファイルのひとつが出力に失敗したため、エクスポート処理を中断しました。内部ファイルが別プロセスによりロックされていたか、この内部ファイルや内部ファイルを格納したフォルダが書き込み禁止になっている可能性があります。

【利用者の処置】

時間をおいてから再度、エクスポートを実施してください。また、以下のフォルダやファイルが書き込み禁止になっていないか確認してください。書き込み禁止になっている場合は、書き込み属性を付与してください。

フォルダ:Systemwalker Operation Managerのクライアントのインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjmcl¥work¥jmimpexp

ファイル:Systemwalker Operation Managerのクライアントのインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjmcl¥work¥jmimpexp¥expcmdtmp.txt

プロジェクトフォルダの作成に失敗しました。

【メッセージの意味】

プロジェクト名のフォルダの作成に失敗しました。

【利用者の処置】

エクスポート先に指定したディレクトリに書き込み属性があるか確認してください。

エクスポート先フォルダが指定されていません。

【メッセージの意味】

エクスポート先のディレクトリが指定されていません。

【利用者の処置】

エクスポート先のディレクトリを指定してください。

エクスポート先フォルダは200バイト以内で指定して下さい。

【メッセージの意味】

エクスポート先ディレクトリ名が200バイトを超えています。

【利用者の処置】

エクスポート先ディレクトリ名を200バイト以下で指定してください。

他のSystemwalker Operation Managerクライアントから起動したエクスポートが実行中です。

【メッセージの意味】

[Systemwalker Operation Manager エクスポート]ウィンドウは、Systemwalker Operation Managerクライアント一台につき一つまで起動できます。複数起動しようとした場合、本メッセージが表示されます。

【利用者の処置】

ありません。

エクスポートできるグループまたはジョブネットがありません。

【メッセージの意味】

選択したツリー構造にエクスポートできる情報がひとつもありません。選択したアイテムのツリー構造の中にグループやジョブネットがあったとしても、以下の場合はエクスポート対象から外されます。

- 可変パラメタ起動で複写されたジョブネット
- 運用日管理情報のグループやジョブネット
- 更新権や登録権のないプロジェクトのグループまたはジョブネット(管理者でない場合)

【利用者の処置】

ありません。

3.7.4 エクスポート時のテキストメッセージ

本項では、エクスポート時に、以下のテキストファイルに出力されるメッセージについて説明します。

```
Systemwalker Operation Managerクライアントインストール先ディレクトリ
¥MPWALKER.JM¥mpjmcl¥work¥jmimpexp¥expinfo.txt
```

キャンセルボタンが押下されたため、xx/xx件までで処理を中断しました。

【メッセージの意味】

エクスポート処理中にキャンセルボタンが押下されたため、xx/xx件でエクスポート処理が中断されました。

【パラメタの意味】

xx/xx:処理終了件数/全件数

【利用者の処置】

特に必要ありません。

エクスポート処理において、内部生成ファイルの読み込みに失敗し、CSVファイルの出力ができませんでした。xx/xx件までで処理を中断します。

【メッセージの意味】

エクスポート用の内部ファイルの読み込みに失敗したため、xx/xx件でエクスポート処理が中断されました。

【パラメタの意味】

xx/xx:処理終了件数/全件数

【利用者の処置】

再度エクスポートを実行してください。

エクスポート処理において、内部生成ファイルの解析に失敗しました。

【メッセージの意味】

エクスポート用の内部ファイルの解析に失敗しました。

【利用者の処置】

再度エクスポートを実行してください。

プロジェクト名フォルダの作成に成功しました。

【メッセージの意味】

プロジェクト名フォルダの作成に成功しました。エクスポート先であるプロジェクト名のフォルダを作成し、情報を書き込むことが出来た場合に出力されます。

【利用者の処置】

特に必要ありません。

プロジェクト名フォルダの作成に失敗しました。作成に失敗したため、xx/xx件までで処理を中断しました。

【メッセージの意味】

プロジェクト名のフォルダの作成に失敗したため、xx/xx件でエクスポート処理が中断されました。

【パラメタの意味】

xx/xx：処理終了件数/全件数

【利用者の処置】

特に必要ありません。

エクスポート処理において、内部ファイルの生成ができませんでした。

【メッセージの意味】

エクスポート用の内部ファイルの作成に失敗しました。

【利用者の処置】

以下のディレクトリに書き込み属性があることを確認してください。

Systemwalker Operation Managerのクライアントのインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjmcl¥work¥jmimpexp

エクスポート処理において、サーバへのCSVファイル取得依頼が失敗しました。

【メッセージの意味】

エクスポート処理において、サーバへのCSVファイル取得依頼に失敗しました。サーバ操作用のバッチファイルをサーバへ転送するのに失敗した場合に出力されます。

【利用者の処置】

Systemwalker Operation Managerサーバに接続できるかネットワーク環境を見直してください。

エクスポートにおいて、CSVファイルの生成に失敗しました。

【メッセージの意味】

エクスポート処理において、CSVファイルの作成に失敗しました。クライアントからサーバ操作用のバッチファイルの実行に失敗した場合に出力されます。

【利用者の処置】

Systemwalker Operation Managerサーバに接続できるかネットワーク環境を見直してください。

サーバからのCSVファイルの受信が失敗しました。

【メッセージの意味】

サーバからクライアントの指定フォルダへCSVファイルの転送に失敗しました。

【利用者の処置】

Systemwalker Operation Managerサーバに接続できるかネットワーク環境を見直してください。

実行結果ファイルの読み込みに失敗したため、エクスポート情報の取得ができませんでした。

【メッセージの意味】

実行結果ファイルの読み込みに失敗したため、エクスポート情報が取得できませんでした。サーバ上の実行結果をエクスポート情報ファイルに書き込むのに失敗した場合に出力されます。

【利用者の処置】

以下のディレクトリのファイルが他のソフトにアクセスされていないか確認してください。

Systemwalker Operation Managerのクライアントのインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥mpjmcl¥work¥jmimpexp¥expinfo.txt

正常終了しました。

【メッセージの意味】

エクスポートが正常終了しました。

【利用者の処置】

特に必要ありません。

エクスポート処理が異常終了しました。(0xXXXXXXXX)

【パラメタの意味】

0xXXXXXXXX:詳細コード

詳細コードが0x40000000未満の場合:

【メッセージの意味】

グループまたはジョブネットの情報が、正しく登録されていません。または、グループまたはジョブネットが見つかりません。

【利用者の処置】

該当のグループまたはジョブネットが、既に削除されていないか確認してください。また、Systemwalker Operation Manager クライアントから監視するか、サーバ上でjobschprintコマンドを実行し、該当のグループやジョブネットを正しく監視できるか確認してください。

詳細コードが0x40000000以上の場合:

【メッセージの意味】

通信中にエラーが発生したか、サーバ上のスクリプト実行環境が正しくないため、処理を中断しました。

【利用者の処置】

通信環境が正常であるか、接続先のSystemwalker Operation Managerサーバが正しく動作しているか確認してください。

また、サーバがUNIX版の場合はシェルスクリプトの実行環境が、正しく動作しているか確認してください。

3.8 ジョブ実行制御コマンドの出力メッセージ

本節では、ジョブ実行制御コマンドの出力メッセージについて説明します。

-<opt chars> appears more than once in script file.

【メッセージの意味】

バッチファイルにおいてopt charsオプションが複数指定されました。

【パラメタの意味】

opt chars: オプションの文字列

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

オプションを1回だけ指定して、再度コマンドを投入してください。

-<opt chars> appears more than once on command line.

【メッセージの意味】

コマンドラインにおいてopt charsオプションが複数指定されました。

【パラメタの意味】

opt chars: オプションの文字列

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

オプションを1回だけ指定して、再度コマンドを投入してください。

-dp dispatch priority exceeds limit: x.

【メッセージの意味】

【Windows版】

指定された実行優先度が4を超えています。

【UNIX版】

指定された実行優先度が19を超えています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

【Windows版】

実行優先度を0から4の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

【UNIX版】

実行優先度を-20から19の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

-dp dispatch priority is not a decimal digit string.

【メッセージの意味】

指定された実行優先度が数字ではありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

【Windows版】

実行優先度を0から4の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

【UNIX版】

実行優先度を-20から19の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

-dp dispatch priority less than minimum limit: x

【メッセージの意味】

【Windows版】

実行優先度の指定が0未満です。

【UNIX版】

実行優先度の指定が-20未満です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

【Windows版】

実行優先度を0から4の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

【UNIX版】

実行優先度を-20から19の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

-jft should be specified with -rh.

【メッセージの意味】

-jftオプションが-rhオプションと共に指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

-jftオプションを-rhオプションと共に指定して、再度コマンドを投入してください。

-jo should be specified with -env.

【メッセージの意味】

-joオプションが-envオプションと共に指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

-joオプションを-envオプションと共に指定して、再度コマンドを投入してください。

-lt elapsed time limit exceeds limit: 99999999.

【メッセージの意味】

指定された経過時間制限値が最大値99999999を超えました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

経過時間制限値を1から99999999の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

-lt elapsed time limit is not a decimal digit string.

【メッセージの意味】

指定された経過時間制限値が数字ではありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

経過時間制限値を1から99999999の数字で指定して、再度コマンドを投入してください。

-lt elapsed time limit too small.

【メッセージの意味】

指定された経過時間制限値が小さすぎます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

経過時間制限値を1から99999999の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

-p priority exceeds limit: 63.

【メッセージの意味】

指定された実行優先順位が最大値63を超えました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

実行優先順位を0から63の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

-p priority is not a decimal digit string.

【メッセージの意味】

指定された実行優先順位が数字ではありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

実行優先順位を0から63の数字で指定して、再度コマンドを投入してください。

-R resource name must be ended with "sh" or "ex" after a "," character.

【メッセージの意味】

リソース名は“,”の後は“sh”または“ex”で終わっていなければなりません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

“,”の後に“sh”または“ex”を指定して、再度コマンドを投入してください。

-r retrycount exceeds limit: 20.

【メッセージの意味】

指定されたリトライ回数が最大値20を超えました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リトライ回数を1から20の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

-r retrycount is not a decimal digit string.

【メッセージの意味】

指定されたリトライ回数が数字ではありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リトライ回数を0から20の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

[Windows]-r retrycount too small.

【メッセージの意味】

指定されたリトライ回数が最小値0未満です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リトライ回数を1から20の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

<queuename> is invalid queue name.

【メッセージの意味】

誤ったキュー名が指定されました。

【パラメタの意味】

queuename : キュー名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

キュー名を修正して、再度コマンドを投入してください。

<value> exceeds <max value> characters.

【メッセージの意味】

valueが最大値 max value を超えています。

【パラメタの意味】

value: 値

max value: 値の最大値

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

値を最大値以内に修正して、再度コマンドを投入してください。

<value> value missing after -<opt chars> flag.

【メッセージの意味】

valueがopt charsの後に指定されていません。

【パラメタの意味】

value: 値

opt chars: オプションの文字列

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

オプションの後に値を追加して、再度コマンドを投入してください。

'=' character does not found in parameter.

【メッセージの意味】

パラメタに指定された文字列中に'='が見つかりませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを"属性=値"の形式で指定して、再度コマンドを投入してください。

A '-' was expected to precede the embedded default flag: <chars>.

【メッセージの意味】

指定された chars が'-'で始まっていません。

【パラメタの意味】

chars: 文字列

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

charsを'-'で始まるようにして、再度コマンドを投入してください。

An illegal value is set to the maxexec parameter. Specify the process multiplicity between 1 and X.

【メッセージの意味】

maxexecパラメタの値に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

【Windows版】

maxexecに指定したジョブの多重度を、1から99の範囲で指定してください。

【UNIX版】

maxexecに指定したジョブの多重度を、1から999の範囲で指定してください。

Any queues do not exist.

【メッセージの意味】

指定されたどのキューも存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

キュー名を修正して、再度コマンドを投入してください。

[Windows]A process tree cannot be displayed for the job <job-name(jobno.hostname)> because it has not been executed in trace mode.

【メッセージの意味】

トレースモードで起動していないジョブのプロセスツリーは表示できません。

【パラメタの意味】

job-name：ジョブ投入時に指定するジョブ名

jobno ：ジョブ実行制御が割り当てるジョブの受付番号

hostname：ジョブを投入したホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

トレースモードで起動したジョブを指定して、再度コマンドを投入してください。

[Windows]A process tree cannot be displayed for the job <job-name(jobno.hostname)> because it is a network job.

【メッセージの意味】

ネットワークジョブのプロセスツリーは表示できません。

【パラメタの意味】

job-name：ジョブ投入時に指定するジョブ名

jobno ：ジョブ実行制御が割り当てるジョブの受付番号

hostname：ジョブを投入したホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

ローカルジョブを指定して、再度コマンドを投入してください。

[Windows]A process tree cannot be displayed for the job <job-name(jobno.hostname)> because it is not executing.

【メッセージの意味】

実行中でないジョブのプロセスツリーは表示できません。

【パラメタの意味】

job-name：ジョブ投入時に指定するジョブ名

jobno：ジョブ実行制御が割り当てるジョブの受付番号

hostname：ジョブを投入したホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

実行中のジョブを指定して、再度コマンドを投入してください。

A system error occurred. Detailed error code: <error code>

【メッセージの意味】

システムエラーが発生しました。詳細エラーコードは<error code>です。

【パラメタの意味】

error code：エラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

A timeout has occurred because the distributed execution control file is already in use by another process. Try again later.

【メッセージの意味】

分散実行中の管理ファイルが他のプロセスにアクセスされているため、本処理がタイムアウトしました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから再度実行してください。

Command line is too long.

【メッセージの意味】

コマンドライン長が2048バイトを超えて指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドラインに2048バイト以下を指定してください。

Conflict between -<opt chars> and -<opt chars> flags.

【メッセージの意味】

オプションopt charsとオプションopt charsが衝突しています。

【パラメタの意味】

opt chars：オプションの文字列

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

オプションを修正して、再度コマンドを投入してください。

Dispatch priority exceeds limit: x.

【メッセージの意味】

[Windows版]

実行優先度の指定が4を超えています。

[UNIX版]

実行優先度の指定が19を超えています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

【Windows版】

実行優先度を0から4の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

【UNIX版】

実行優先度を-20から19の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

Dispatch priority is less than x.

【メッセージの意味】

【Windows版】

実行優先度の指定が0未満です。

【UNIX版】

実行優先度の指定が-20未満です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

【Windows版】

実行優先度を0から4 の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

【UNIX版】

実行優先度を-20から19の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

Elapsed time limit exceeds limit: 99999999.

【メッセージの意味】

経過時間制限値の指定が 99999999 を超えています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

経過時間制限値を1から99999999の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

Elapsed time limit is less than 1.

【メッセージの意味】

経過時間制限値の指定が1未満です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

経過時間制限値を1から99999999の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

Environment variable information is unacquirable from an environment variable setting file.

【メッセージの意味】

環境変数設定ファイルから環境変数の情報が取得できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

環境変数設定ファイルの内容を修正し、再度コマンドを投入してください。

Error creating spooled version of script file.

【メッセージの意味】

スクリプトファイル(バッチファイルまたはJCLファイル)の写しの作成に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御のスプールが存在するディスクの空き容量が不足していないか確認してください。空き容量が不足している場合は、空き容量を確保し、再度コマンドを投入してください。

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Error occurred. function: <function-name> code: <code>

【メッセージの意味】

システムエラーが発生しました。発生箇所はfunction-nameでエラーコードはcodeです。

【パラメタの意味】

function-name: エラーの発生した関数名

code: エラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本メッセージからOSで発生したエラーを検出し、エラーを取り除いてください。エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Failed to allocate memory.

【メッセージの意味】

メモリの割り当てに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから再度実行してください。

【システム管理者の処置】

物理メモリを増設するか、スワップの設定を変更してください。

Failed to load the audit log library.

【メッセージの意味】

監査ログを出力するためのライブラリのロードで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

以下のファイルが存在しているか確認してください。存在している場合、ファイルが壊れている可能性があります。Systemwalker Operation Managerを再インストールまたは富士通技術員に連絡してください。

【Windows版】

Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.JM¥bin¥mpaudito.dll

【Solaris版/AIX版/Linux版】

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito.so

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito_nt.so

【HP-UX版】

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito.sl

/opt/systemwalker/lib/libmpaudito_nt.sl

Failed to read the audit log file.

【メッセージの意味】

監査ログの出力先ファイルのオープンで問題が発生したため、監査ログを出力することができません。

【システムの処理】

処理を継続します。ただし、監査ログは出力されません。

【対処方法】

- 空き容量が不足していないか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリが存在しているか確認してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリのパーミッション/権限を確認してください。利用者制限の定義を利用していない場合、一般ユーザ/Everyoneから書き込める権利が必要です。
- 監査ログの出力先ファイルが壊れている可能性があります。壊れている監査ログの出力先ファイルを退避後、削除してください。
- 監査ログ出力先のハードディスクに障害が発生している場合は、ハードディスクの交換、および復旧が必要な場合があります。

監査ログの出力先ファイルおよびディレクトリは、mpsetlogsend_omgrコマンドで指定できます。mpsetlogsend_omgrコマンドの詳細については、"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

Failed to read the distributed execution control file. If this problem persists, contact your administrator.

【メッセージの意味】

分散実行の管理ファイルの読み込みに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

頻発する場合は、分散実行の管理ファイルが壊れている可能性があります。

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Host group does not exist.

【メッセージの意味】

ホストグループが定義されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ホストグループの定義が必要な場合は、管理者に連絡してください。

Host group exceeds limit: 64

【メッセージの意味】

指定されたホストグループが、最大値64を超えました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定するホストグループを64個以内にしてください。

Host group <hostgroup> does not exist.

【メッセージの意味】

ホストグループ<hostgroup>は存在しません。

運用情報の定義から当ホストグループが削除されたか、または運用情報の定義に当ホストグループが登録されていません。

【パラメタの意味】

hostgroup：ホストグループ

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したホストグループ名が、正しいかどうか確認してください。

Insufficient privilege for -u specification.

【メッセージの意味】

-uオプションを使用する権限がありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

-uオプションを使用するには、Administratorsグループに属するユーザまたはスーパーユーザアカウントを使用してください。

Invalid argument flag: <opt chars>.

【メッセージの意味】

誤ったオプションopt charsが指定されました。

【パラメタの意味】

opt chars：誤ったオプション

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

オプションを修正して、再度コマンドを投入してください。

Invalid argument specified.

【メッセージの意味】

誤った引数が指定されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

引数を修正して、再度コマンドを投入してください。

Invalid extension specified.

【メッセージの意味】

誤った拡張子のファイルがジョブファイルとして指定されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しい拡張子のファイルをジョブファイルとして指定し、再度コマンドを投入してください。

Invalid host-name specified.

【メッセージの意味】

誤ったホスト名が指定されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ホスト名を修正して、再度コマンドを投入してください。

Invalid job-no specified.

【メッセージの意味】

誤ったジョブ番号が指定されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブ番号を修正して、再度コマンドを投入してください。

Invalid option flag specified.

【メッセージの意味】

誤ったオプションが指定されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

オプションを修正して、再度コマンドを投入してください。

Invalid parameter specified._Parameter: <specified-parameter>.

【メッセージの意味】

誤ったパラメタ specified-parameterを指定しました。

【パラメタの意味】

specified-parameter：誤ったパラメタ

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを修正して、再度コマンドを投入してください。

Invalid queuename: <queuename>.

【メッセージの意味】

queuenameは誤ったキュー名です。

【パラメタの意味】

queuename：誤ったキュー名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

キュー名を修正して、再度コマンドを投入してください。

Invalid remote sub-system number specified.

【メッセージの意味】

リモートサブシステム番号に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

リモートサブシステム番号を0から9の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

Invalid sub-system number specified.

【メッセージの意味】

誤ったサブシステム番号が指定されました。(複数サブシステム用)

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいサブシステム番号を指定して、再度コマンドを投入してください。

Invalid value following -<opt chars> flag.

【メッセージの意味】

オプションopt chars以降に誤った値が指定されました。

【パラメタの意味】

opt chars: オプションの文字列

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

オプションに続く値を修正して、再度コマンドを投入してください。

It doesn't end even if job name (jobname) lapses by end plan time (time).

【メッセージの意味】

当ジョブの実行経過時間が、指定された実行予測時間を超過しました。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

time: 定義された実行予測時間

【システムの処理】

ジョブの実行は継続されます。

【システム管理者の処置】

必要であれば、当該ジョブを強制終了させてください。

JC_COMMENT variable exceeded allowance size.

【メッセージの意味】

環境変数JC_COMMENTの値の長さが許容量を超えています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

環境変数JC_COMMENTの値を511バイト以下にして、再度コマンドを投入してください。

Job <jobname(jobno.hostname)> does not exist.

【メッセージの意味】

指定したジョブjobname(jobno.hostname)は存在しません。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

hostname: ホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブ名等を修正して、再度コマンドを投入してください。

Job <jobname(jobno.hostname)> has been canceled.

【メッセージの意味】

実行中ジョブ jobname(jobno.hostname) は削除されました。

【パラメタの意味】

jobname : ジョブ名

jobno : ジョブ番号

hostname : ホスト名

Job <jobname(jobno.hostname)> has been changed.

【メッセージの意味】

ジョブjobname(jobno.hostname)の属性は変更されました。

【パラメタの意味】

jobname : ジョブ名

jobno : ジョブ番号

hostname : ホスト名

Job <jobname(jobno.hostname)> has been deleted.

【メッセージの意味】

ジョブjobname(jobno.hostname)は削除されました。

【パラメタの意味】

jobname : ジョブ名

jobno : ジョブ番号

hostname : ホスト名

Job <jobname(jobno.hostname)> has been held.

【メッセージの意味】

ジョブjobname(jobno.hostname)はホールドされました。

【パラメタの意味】

jobname : ジョブ名

jobno : ジョブ番号

hostname : ホスト名

Job <jobname(jobno.hostname)> has been queued to queue <queuename>.

【メッセージの意味】

ジョブjobname(jobno.hostname)は既にキューqueuenameにキューイングされています。

【パラメタの意味】

jobname : ジョブ名

jobno : ジョブ番号

hostname : ホスト名

queuename : キュー名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

キュー名を修正して、再度コマンドを投入してください。

Job <jobname(jobno.hostname)> has been released.

【メッセージの意味】

ジョブjobname(jobno.hostname)はリリースされました。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

hostname: ホスト名

Job <jobname(jobno.hostname)> is already held.

【メッセージの意味】

ジョブjobname(jobno.hostname)は既にホールドされています。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

hostname: ホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。

Job <jobname(jobno.hostname)> is held by the user belongs to Administrators group.

【メッセージの意味】

ジョブjobname(jobno.hostname)はAdministratorsグループに属すユーザによってホールドされています。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

hostname: ホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。

Job <jobname(jobno.hostname)> is held by the user belongs to privilege group.

【メッセージの意味】

ジョブjobname(jobno.hostname)はスーパーユーザによってホールドされています。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

hostname: ホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。

Job <jobname(jobno.hostname)> is holding.

【メッセージの意味】

指定したジョブ jobname(jobno.hostname) はホールド中です。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

hostname: ホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブをリリースしてから、再度コマンドを投入してください。

Job <jobname(jobno.hostname)> is not holding.

【メッセージの意味】

ジョブjobname(jobno.hostname)はホールド状態ではありません。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

hostname: ホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。

Job <jobname(jobno.hostname)> is running.

【メッセージの意味】

ジョブjobname(jobno.hostname)は実行中です。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

hostname: ホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。

Job <jobname(jobno.hostname)> is running. And unable to hold.

【メッセージの意味】

ジョブjobname(jobno.hostname)は実行中です。ホールドできません。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

hostname: ホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。

Job <jobname(jobno.hostname)> moved to queue <queuename>.

【メッセージの意味】

ジョブjobname(jobno.hostname)はキューqueuenameに移動しました。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

hostname: ホスト名

queuename: キュー名

Job <jobname(jobno.hostname)> submitted to queue: <queuename>.

【メッセージの意味】

ジョブがjobname(jobno.hostname)としてキューqueuenameにキューイングされました。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

hostname: ホスト名

queuename: キュー名

Job <jobname(jobno.hostname)>(<username>'s) moved to queue <queuename>.

【メッセージの意味】

所有者usernameのジョブjobname(jobno.hostname)はキューqueuenameに移動しました。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

hostname: ホスト名

username: ユーザ名

queuename: キュー名

Job <jobname> is duplicate.

【メッセージの意味】

指定したジョブ名jobnameのジョブが複数存在します。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブ番号を追加指定して、再度コマンドを投入してください。

Job file pathname too long.

【メッセージの意味】

ジョブファイルのパス名が長すぎます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブファイルのパス名を260バイト未満にしてください。

Job not queued.

【メッセージの意味】

ジョブはキューイングされませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

当メッセージの直前に出力されているメッセージに応じた対処をし、再度コマンドを投入してください。

Job-name is too long.

【メッセージの意味】

指定されたジョブ名が長すぎます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブ名を64バイト以内で指定してください。

Local default has not been defined.

【メッセージの意味】

デフォルトキューが設定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

- キュー名を指定して、再度コマンドを投入してください。
- システム管理者に、デフォルトキューの設定を依頼してください。

【システム管理者の処置】

デフォルトキューを設定してください。

Max exec exceeds limit: x.

【メッセージの意味】

【Windows版】

最大実行可能数の指定が99を超えています。

【UNIX版】

最大実行可能数の指定が999を超えています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

【Windows版】

最大実行可能数を1から99の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

【UNIX版】

最大実行可能数を1から999の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

Max exec is less than 1.

【メッセージの意味】

最大実行可能数の指定が1未満です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

【Windows版】

最大実行可能数を1から99の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

【UNIX版】

最大実行可能数を1から999の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

Max job exceeds limit: 999.

【メッセージの意味】

最大投入数の指定が999を超えています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

最大投入数を1から999の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

Max job is less than 1.

【メッセージの意味】

最大投入数の指定が1未満です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

最大投入数を1から999の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

[Windows]Message receive failure in inter-process communications with Systemwalker MpMjes service.

【メッセージの意味】

“Systemwalker MpMjesN”サービスとの通信において、メッセージの受信に失敗しました。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]Message send failure in inter-process communications with Systemwalker MpMjes service.

【メッセージの意味】

“Systemwalker MpMjesN”サービスとの通信において、メッセージの送信に失敗しました。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Missing dispatch priority.

【メッセージの意味】

実行優先度が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

実行優先度を指定して、再度コマンドを投入してください。

Missing priority.

【メッセージの意味】

実行優先順位が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

実行優先順位を指定して、再度コマンドを投入してください。

Missing username.

【メッセージの意味】

ユーザ名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ユーザ名を指定して、再度コマンドを投入してください。

[UNIX]mjsdaemon is starting.

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御デーモンは現在起動しつつあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブ実行制御デーモンの起動完了後、必要なら再度コマンドを投入してください。

[UNIX]mjsdaemon is stopping.

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御デーモンは現在停止しつつあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブ実行制御デーモンの停止完了後、必要なら再度コマンドを投入してください。

[UNIX]mjsdaemon service is not running.

【メッセージの意味】

ジョブ実行制御デーモンが起動されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブ実行制御デーモンを起動して、再度コマンドを投入してください。

MJS815E CAN NOT FILE TRANSFER FROM hostname.BECAUSE DIRECTORY IS NOT EXIST : accessname

【メッセージの意味】

指定した受信元ディレクトリが存在しないため、accessnameで示すアクセス名のファイルの受信ができません。

【パラメタの意味】

accessname: 受信しようとしたファイルのアクセス名

hostname: 受信しようとしたサーバ名

【原因】

[Systemwalker Operation Manager]ウィンドウの[キュー]をクリックしたときに出力された場合、以下の可能性があります。
【UNIX版】

接続先サーバの/var/opt/FJSVJMCMNが含まれるファイルシステムの空き容量が不足している。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の対処をしてください。

- 接続先サーバの/var/opt/FJSVJMCMNが含まれる、ファイルシステムの空き容量を確保してください。
- 接続先サーバの/var/opt/FJSVJMCMNを、十分な空き容量のあるファイルシステムに移動し、移動先から/var/opt/FJSVJMCMNへシンボリックリンクを作成してください。(注)

  注)“FJSVJMCMN”を移動させるとき、FJSVJMCMN配下のディレクトリおよびファイルのアクセス権が変更されないように注意してください。

MJS819E USERNAME username REFUSED BY HOST(hostname),BECAUSE PERMISSION DENIED

【メッセージの意味】

hostnameで表示されたサーバの[Operation Manager利用者の限定]の設定により、操作が拒否されました。

【パラメタの意味】

username: 利用者名

hostname: 操作を拒否したサーバのホスト名

【利用者の処置】

Systemwalker Operation Managerクライアントの業務選択ウィンドウの[ジョブ]、または[キュー]配下の操作が許可されていない可能性があります。

【システム管理者の処置】

hostnameで表示されたサーバにおいて、usernameのアカウントが運用上、ジョブの実行を許可してもよいユーザであれば、swadminグループに所属させてください。

[Windows]MpMjesN環境の作成に失敗しました。エラーコード=code

【メッセージの意味】

MpMjesN サブシステム環境の作成に失敗しました。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【パラメタの意味】

code: OSのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

codeを調査し、エラーの原因を取り除いてください。再度コマンドを投入してください。

[Windows]MpMjesN環境の削除に失敗しました。エラーコード=code

【メッセージの意味】

MpMjesN サブシステム環境の削除に失敗しました。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【パラメタの意味】

code:OSのエラーコード

【システムの処理】

処理を続行します。

【システム管理者の処置】

codeを調査し、エラーの原因を取り除いてください。再度コマンドを投入してください。

MSGM_USERNAME variable exceeded allowance size.

【メッセージの意味】

環境変数MSGM_USERNAMEの値の長さが許容量を超えています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

環境変数MSGM_USERNAMEの値を64バイト以下にして、再度コマンドを投入してください。

Multiple comment specified.

【メッセージの意味】

複数のコメントが指定されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コメントを1回だけ指定して、再度コマンドを投入してください。

Multiple -cu specifications.

【メッセージの意味】

-cuオプションが複数指定されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

-cuオプションを1回だけ指定して、再度コマンドを投入してください。

Multiple -d specifications.

【メッセージの意味】

-dオプションが複数指定されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

-dオプションを1回だけ指定して、再度コマンドを投入してください。

Multiple -dp specifications.

【メッセージの意味】

-dpオプションが複数指定されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

-dpオプションを1回だけ指定して、再度コマンドを投入してください。

Multiple job files specified.

【メッセージの意味】

ジョブファイルが複数指定されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブファイルを1回だけ指定して、再度コマンドを投入してください。

Multiple -l specifications.

【メッセージの意味】

-lオプションが複数指定されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

-lオプションを1回だけ指定して、再度コマンドを投入してください。

Multiple -p specifications.

【メッセージの意味】

-pオプションが複数指定されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

-pオプションを1回だけ指定して、再度コマンドを投入してください。

Multiple -sys specifications.

【メッセージの意味】

-sysオプションが複数指定されました。(複数サブシステム用)

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

-sysオプションを1回だけ指定して、再度コマンドを投入してください。

Multiple -u specifications.

【メッセージの意味】

-uオプションが複数指定されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

-uオプションを1回だけ指定して、再度コマンドを投入してください。

Multiple -x specifications.

【メッセージの意味】

-xオプションが複数指定されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

-xオプションを1回だけ指定して、再度コマンドを投入してください。

Multiple -z specifications.

【メッセージの意味】

-zオプションが複数指定されました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

-zオプションを1回だけ指定して、再度コマンドを投入してください。

Neither -dp and -p not specified.

【メッセージの意味】

-dpオプションと-pオプションのどちらも指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

-dpオプションまたは-pオプションまたはその両方を指定して、再度コマンドを投入してください。

No extension specified.

【メッセージの意味】

ジョブファイル名に拡張子が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブファイル名に拡張子を指定して、再度コマンドを投入してください。

No job specified.

【メッセージの意味】

ジョブが指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブを指定して、再度コマンドを投入してください。

No operand specified.

【メッセージの意味】

オペランドが指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

オペランドを指定して、再度コマンドを投入してください。

No parameter specified.

【メッセージの意味】

パラメタが指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタを指定して、再度コマンドを投入してください。

No queue specified.

【メッセージの意味】

キュー名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

キュー名を指定して、再度コマンドを投入してください。

No request queue specified, and no local default has been defined.

【メッセージの意味】

投入先のキュー名の指定がなく、デフォルトキューも設定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

- 投入先のキュー名を指定して、再度コマンドを投入してください。
- システム管理者に、デフォルトキューの設定を依頼してください。

【システム管理者の処置】

デフォルトキューを設定してください。

No such queue: <queuename>.

【メッセージの意味】

キューqueuenameは存在しません。

【パラメタの意味】

queuename: キュー名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

キュー名を修正して、再度コマンドを投入してください。

No such user on this machine.

【メッセージの意味】

プロジェクトの所有者または実行ユーザが、OSの管理するユーザ情報に登録されていません。

ネットワークジョブの場合、実行ユーザが、スケジュールサーバのOSが管理するユーザ情報に登録されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

実行ユーザには、OSの管理するユーザ情報に登録されているものを正しく指定してください。

OSが管理するユーザ情報に、プロジェクトの所有者または実行ユーザを登録してください。

[Windows]Not registered to swadmin group.

【メッセージの意味】

swadminグループに属していないためジョブの投入ができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

運用上、ジョブの実行を許可してもよいユーザであれば、swadminグループに所属させてから、ジョブを再度投入してください。

Now job isn't moved to any queues.

【メッセージの意味】

ジョブはどのキューにも移動できませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

キュー名を見直し、再度コマンドを投入してください。

Over the job limit.

【メッセージの意味】

ジョブ投入可能数を超えています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

キューに存在するジョブ数が減ってから、再度コマンドを投入してください。

Over the MAX comment size.

【メッセージの意味】

指定されたコメントが最大長を超えました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コメントを511バイト以下にして、再度コマンドを投入してください。

Parameter ends with '=' character.

【メッセージの意味】

パラメタに指定された文字列が'='で終わっています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

“=”の後に値を追加して、再度コマンドを投入してください。

[Windows]Pipe open failure in inter-process communications with Systemwalker MpMjes service.

【メッセージの意味】

“Systemwalker MpMjesN”サービスとの通信において、パイプのオープンに失敗しました。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Priority exceeds limit: 63.

【メッセージの意味】

実行優先順位の指定が63を超えています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

実行優先順位を0から63の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

Priority is less than 0.

【メッセージの意味】

実行優先順位の指定が 0 未満です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

実行優先順位を0から63の範囲で指定して、再度コマンドを投入してください。

Queue <queuename> does not exist.

【メッセージの意味】

指定したキュー queuename は存在しません。

【パラメタの意味】

queuename: キュー名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

キュー名を修正して、再度コマンドを投入してください。

Queue <queuename> has been changed.

【メッセージの意味】

キュー queuename の属性は変更されました。

【パラメタの意味】

queuename: キュー名

Queue <queuename> has been started.

【メッセージの意味】

キュー queuename は起動されました。

【パラメタの意味】

queuename: キュー名

Queue <queuename> has been stopped.

【メッセージの意味】

キューqueuenameは停止しました。

【パラメタの意味】

queuename: キュー名

Queue <queuename> is already started.

【メッセージの意味】

指定したキューqueuenameは既に起動されています。

【パラメタの意味】

queuename: キュー名

【システムの処理】

処理を中止します。

Queue <queuename> is already stopped.

【メッセージの意味】

指定したキューqueuenameは既に停止しています。

【パラメタの意味】

queuename: キュー名

【システムの処理】

処理を中止します。

Queue information file does not exist.

【メッセージの意味】

キュー情報ファイルが存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Queue is inactive.

【メッセージの意味】

キューが停止しています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

- 他の動作中のキューにジョブを投入してください。
- システム管理者に、キューの起動を依頼してください。

【システム管理者の処置】

キューを起動してください。

[UNIX]Request is rejected by mjsdaemon service.

【メッセージの意味】

要求がジョブ実行制御デーモンに受け付けられませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]Request is rejected by Systemwalker MpMjes service.

【メッセージの意味】

要求が“Systemwalker MpMjesN”サービスに受け付けられませんでした。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Request timed out.

【メッセージの意味】

要求が時間切れになりました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから、再度コマンドを投入してください。

Specified parameter is not a decimal digit string.

【メッセージの意味】

指定されたパラメタが数字でありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタに数字を指定して、再度コマンドを投入してください。

[Windows]swadminグループに属していません。

【メッセージの意味】

swadminグループに属していないためジョブの投入ができませんでした。

【システムの処理】

ジョブ実行制御のサービス起動を中止します。

【システム管理者の処置】

swadminグループに属しているユーザでジョブを再度投入してください。

System error occurred. function: <function-name> code: <code>

【メッセージの意味】

システムエラーが発生しました。発生箇所はfunction-nameでエラーコード codeです。

【パラメタの意味】

function-name: エラーの発生した関数名

code: エラーコード

以下の原因が考えられます。

- qstatコマンドを実行したとき

  a. function-nameにsrvstat(),codeに13が出力された場合、[Operation Manager利用者の限定]の設定によって、コマンドの実行が拒否されました。

- qjstatコマンドを実行したとき

  a. function-nameにFindFirstFile(),codeに-1が出力された場合、ジョブ実行制御のスプールディレクトリへのシンボリックリンクが存在していない。【UNIX版】

  b. function-nameにreadjobinfo()が出力された場合、ジョブ実行制御のスプールディレクトリ配下のキュー名のディレクトリ直下に、ユーザが作成したファイルが存在する。【UNIX版】

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に、エラーメッセージを通知してください。

【システム管理者の処置】

原因別に、以下の対処をしてください。

- qstatコマンドを実行したとき

  a. 本利用者に運用上ジョブの実行権を与えてもよい場合は、swadminグループに所属させてください。

- qjstatコマンドを実行したとき

  a. 存在するディレクトリに対して、ジョブ実行制御のスプールディレクトリへのシンボリックリンクを設定してください。【UNIX版】

     なお、クラスタ環境の待機系の場合、共有ディスクが参照できないため本現象が発生しますが、問題のない動作ですので対処は不要です。

     スプールディレクトリへのシンボリックリンクは以下のとおりです。

     /var/spool/mjes

     (サブシステム*n*の場合: /var/spool/mjes/mjes*n*)

  b. キュー名のディレクトリ直下にユーザが作成したファイルを削除するか、ジョブ実行制御のスプールディレクトリ配下から別の場所へ移動してください。【UNIX版】

     キュー名のディレクトリは以下のとおりです。

     /var/spool/mjes/mjespool/queuename

     queuename: キュー名

     (サブシステム*n*の場合: /var/spool/mjes*n*/mjespool/queuename)

本メッセージからOSで発生したエラーを検出し、エラーを取り除いてください。エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]Systemwalker MpMjes service is not running.

【メッセージの意味】

“Systemwalker MpMjesN”サービスが起動されていません。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを起動して、再度コマンドを投入してください。

[Windows]Systemwalker MpMjes service is starting.

【メッセージの意味】

“Systemwalker MpMjesN”サービスは現在起動しつつあります。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスの起動完了後、必要なら再度コマンドを投入してください。

[Windows]Systemwalker MpMjes service is stopping.

【メッセージの意味】

“Systemwalker MpMjesN”サービスは現在停止しつつあります。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスの停止完了後、必要なら再度コマンドを投入してください。

[Windows]Systemwalker MpMjesNサービスが起動中です。停止してから実行してください。

【メッセージの意味】

“Systemwalker MpMjesN”サービスが起動中のため、サービスの削除はしません。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【パラメタの意味】

code: OSのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker MpMjesN”サービスを停止し、再度コマンドを投入してください。

[Windows]Systemwalker MpMjesNサービスの削除に失敗しました。エラーコード=code

【メッセージの意味】

“Systemwalker MpMjesN”サービスの削除に失敗しました。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【パラメタの意味】

code: OSのエラーコード

【システムの処理】

処理を続行します。

【システム管理者の処置】

codeを調査し、エラーの原因を取り除いてください。再度コマンドを投入してください。

[Windows]Systemwalker MpMjesNサービスの状態取得に失敗しました。エラーコード=code

【メッセージの意味】

“Systemwalker MpMjesN”サービスの状態取得に失敗しました。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【パラメタの意味】

code: OSのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

codeを調査し、エラーの原因を取り除いてください。再度コマンドを投入してください。

[Windows]Systemwalker MpMjesNサービスの登録に失敗しました。エラーコード=code

【メッセージの意味】

“Systemwalker MpMjesN”サービスの登録に失敗しました。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

【パラメタの意味】

code: OSのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

codeを調査し、エラーの原因を取り除いてください。再度コマンドを投入してください。

The elapsed time limit for job exceeded the corresponding limits of the target queue: <queuename>

【メッセージの意味】

ジョブの経過時間制限値が、投入しようとするキュー queuenameの制限値を超えています。

【パラメタの意味】

queuename: キュー名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

- ジョブの経過時間制限値をキューの制限値より小さくして、再度コマンドを投入してください。
- ジョブを投入するキューを変更してください。

The environment of the sub-system number does not exist.

【メッセージの意味】

指定されたサブシステム番号の環境が存在しません。(複数サブシステム用)

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

存在するサブシステム番号を指定して、再度コマンドを投入してください。

The execution request was rejected because a job specifying an execution destination subsystem number was submitted to the distributed execution queue.

【メッセージの意味】

分散実行キューに実行先サブシステム番号を指定したジョブが投入されたため、実行依頼を拒否しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

分散実行キュー、負荷分散キュー以外のキューを指定して、再度ジョブを投入してください。

[Windows] The execution request was rejected because a job specifying an execution destination subsystem number was submitted to the load distribution queue.

【メッセージの意味】

負荷分散キューに実行先サブシステム番号を指定したジョブが投入されたため、実行依頼を拒否しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

分散実行キュー、負荷分散キュー以外のキューを指定して、再度ジョブを投入してください。

The JCL job was submitted to distributed execution queue so that the execution request was refused.

【メッセージの意味】

分散実行キューにJCLがジョブとして投入されたため、実行依頼を拒否しました。

【システムの処理】

ジョブの実行を中止します。

【利用者の処置】

分散実行キュー以外のキューを指定し、再度ジョブを投入してください。

The job file is empty.

【メッセージの意味】

空のジョブファイルが指定されました。

【パラメタの意味】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいジョブファイルを指定してください。

[Windows]The job is executing now, the stop request was rejected.

【メッセージの意味】

ジョブが起動中であるため、停止要求を拒否しました。

【パラメタの意味】

コマンドの実行を中止します。

【システム管理者の処置】

起動しているジョブの停止後、再度コマンドを投入してください。

The job that isn't normal job was submitted to distributed execution queue, so that the execution request was refused.

【メッセージの意味】

分散実行キューには一般ジョブ以外のジョブは投入できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

通常キューにジョブを再投入してください。

The job which the request host was specified was submitted to distributed execution queue, so that the execution request was refused.

【メッセージの意味】

分散実行キューにJCLがジョブとして投入されたため、実行依頼を拒否しました。

分散実行キューにネットワークジョブが投入されたため、実行依頼を拒否しました。

【システムの処理】

ジョブの実行を中止します。

【利用者の処置】

分散実行キュー以外のキューを指定し、再度ジョブを投入してください。

分散実行キューにジョブを投入する場合、以下を指定しないでください。

- [登録－ジョブ]ウィンドウ－[基本情報]シート－[依頼ホスト名]
- qsubコマンドの-rhオプション

The jobname(jobno) cannot be moved to the distributed execution queue.

【メッセージの意味】

分散実行キューにジョブを移動することはできません。

【パラメタの意味】

jobname：ジョブ名

jobno：ジョブ番号

【システムの処理】

ジョブの移動処理を中止します。

【利用者の処置】

分散実行キュー以外のキューを指定し、再度qmoveコマンドを実行してください。

The jobname(jobno) which exists in the distributed execution queue cannot be moved.

【メッセージの意味】

分散実行キューに存在するジョブを移動することはできません。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

【システムの処理】

ジョブの移動処理を中止します。

【利用者の処置】

分散実行キュー以外のキューを指定し、再度qmoveコマンドを実行してください。

The number of constitute hosts has reached the maximum. Remove one of the registered hosts first to add a new host.

【メッセージの意味】

設定できる構成ホストの最大数が、すでに設定されているため、これ以上ホストを追加することができません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

構成ホストを入れ替える場合は、ホストを1つ削除した後で、新しいホストを追加してください。

There is only one constitute host. Add a new host to remove the current host.

【メッセージの意味】

構成ホストが1つしか存在しないため、これ以上ホストを削除することができません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

構成ホストをすべて削除することはできません。構成ホストを入れ替える場合は、新しいホストを1つ追加した後で削除してください。

また、一時的にジョブの実行を停止させるには、qstopコマンドを利用してください。

The resource cannot be acquired.

【メッセージの意味】

リソースの獲得ができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから、再度コマンドを投入してください。

The specified constitute host does not exist. Specify an existing constitute host.

【メッセージの意味】

指定された構成ホストが存在しません。存在する構成ホストを指定してください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したホスト名に誤りがないかどうか確認したうえで、再度コマンドを実行してください。ホスト名には、構成ホストとして設定されている名前を指定してください。

The specified execution forecast time is larger than -lt elapse time limit.

【メッセージの意味】

ジョブ実行予測時間に、-ltオプションで指定した値より大きな値が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは投入されません。

【利用者の処置】

-ltオプションで指定した値より大きな値をジョブ実行予測時間に指定することはできません。ジョブ実行予測時間、または-ltオプション指定値を正しい値に変更してください。

The specified host group does not exist. Specify an existing host group.

【メッセージの意味】

指定されたホストグループが存在しません。存在するホストグループを指定してください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したホストグループに誤りがないかどうか確認したうえで、再度コマンドを実行してください。ホストグループには、運用情報の定義で設定したホストグループ名を指定してください。

The specified host group has more than one host with the same name. Specify a unique host name.

【メッセージの意味】

指定されたホストグループに同一のホスト名が存在するため、同名ホストを追加することができません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したホスト名に誤りがないか確認してください。ホストを追加するには、ホストグループに設定されていないホスト名を指定するか、設定済みの同名ホストを削除してから追加してください。

The specified host group name already exists. Specify a different host group name.

【メッセージの意味】

同一のホストグループ名が指定されました。同一のホストグループ名を指定しないでください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

同一のホストグループ名を指定しないでください。

The timelimit specified with -ld is invalid.

【メッセージの意味】

-ldオプションで指定された時刻が不正です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

打ち切り時刻をHHMM形式で指定してください。

The user <username> is not an administrator or a user who belongs to the swadmin group. Login as an administrator or a user who belongs to the swadmin group, and try again.

【メッセージの意味】

ユーザ<username>は、swadminグループに所属しているユーザまたは、管理者資格を持つ利用者ではありません。

【パラメタの意味】

username: ユーザ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

swadminグループに所属しているユーザまたは、管理者資格を持つ利用者のユーザアカウントを使用して再度実行してください。

Too many jobs given to delete.

【メッセージの意味】

指定されたジョブの数が多すぎます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定するジョブの数を100 以下にして、再度コマンドを投入してください。

Unable to check user privilege.

【メッセージの意味】

ユーザ権限のチェックができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to create command line file.

【メッセージの意味】

コマンドラインファイルを作成することができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to create environment file.

【メッセージの意味】

環境ファイルを作成することができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to create job directory.

【メッセージの意味】

ジョブディレクトリを作成することができませんでした。

以下の原因が考えられます。

a. ジョブ実行制御のスプールが存在するディスクの空き容量が不足している。

b. [Operation Manager利用者の限定]の設定によって、コマンドの実行が拒否された。

c. クラスタシステムの環境設定において、ジョブ実行制御のスプールへのシンボリックリンクが正しく作成されていない。【UNIX版】

d. OSのファイルシステムの故障により、ジョブ実行制御のスプール配下のディレクトリがファイルになった。【UNIX版】

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に、エラーメッセージを通知してください。

【システム管理者の処置】

a. 空き容量を確保してください。

b. 運用上、ジョブの実行を許可してもよいユーザであれば、swadminグループに所属させてください。

c. 以下のマニュアルを参照して、正しくシンボリックリンクを作成してください。【UNIX版】

“Systemwalker Operation Manager クラスタ適用ガイド UNIX編”の“資源の共有ディスクへの移動”

d. ジョブ実行制御の以下のディレクトリをオーナ:root、グループ:other、アクセス権:777として、手動で作成してください。【UNIX版】

/var/spool/mjes/mjespool/_neti

(サブシステム*n*の場合: /var/spool/mjes/mjes*n*/mjespool/_neti)

/var/spool/mjes/mjespool/_inpt

(サブシステム*n*の場合: /var/spool/mjes/mjes*n*/mjespool/_inpt)

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to create job information file.

【メッセージの意味】

ジョブ情報ファイルを作成することができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to create spooled script file.

【メッセージの意味】

スクリプトファイル(バッチファイルまたは JCL ファイル)の写しを作成することができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to determine current working directory.

【メッセージの意味】

カレントワーキングディレクトリを取得することができません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to determine hostname.

【メッセージの意味】

ホスト名を取得することができません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to determine username.

【メッセージの意味】

ユーザ名を取得することができません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to find the job file specified.

【メッセージの意味】

指定されたジョブファイルが見つかりません。以下の原因が考えられます。

a. 指定されたジョブファイルのファイル名が違っている。

b. 指定したディレクトリにジョブファイルが存在しない。

c. ジョブファイルを格納したディレクトリが環境変数PATHに登録されていない。

d. ジョブファイルのファイル名に、拡張子が指定されていない。

e. スケジュールサーバのジョブファイルを実行サーバへ転送して実行しようとしているが、[登録－ジョブ]ウィンドウ-[基本情報]シートの[実行コマンドの転送]にチェックがない。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したジョブファイル名について、原因別に以下の対処をしてください。

a. 正しいファイル名を指定して、再度ジョブを投入してください。

b. 指定したディレクトリにジョブファイルを格納して、再度ジョブを投入してください。

c. 以下のいずれかを実施し、再度ジョブを投入してください。

- [コマンド]欄に、ジョブファイルをフルパスで指定してください。
- [ディレクトリ]欄に、ジョブファイルを格納しているディレクトリ名をフルパスで指定してください。
- ジョブファイルを格納したディレクトリを、システム環境変数の環境変数PATHに登録し、OSをリブートしてください。【Windows版】

d. 拡張子を含めたファイル名に修正し、再度ジョブを投入してください。【Windows版】

e. スケジュールサーバのジョブファイルを実行サーバへ転送して実行する場合は、[登録－ジョブ]ウィンドウ-[基本情報]シートの[実行コマンドの転送]にチェックしてください。

Unable to get default queue name.

【メッセージの意味】

デフォルトキュー名を取得することができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

- キュー名を指定して、再度コマンドを投入してください。
- システム管理者に、デフォルトキューの設定を依頼してください。

【システム管理者の処置】

デフォルトキューを設定してください。

Unable to get environment variable MJ_INPUTFILES.

【メッセージの意味】

環境変数 MJ_INPUTFILES を取得できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

環境変数 MJ_INPUTFILES の設定内容を修正し、再度コマンドを投入してください。

Unable to get environment variable MJ_OUTPUTFILES.

【メッセージの意味】

環境変数 MJ_OUTPUTFILES を取得できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

環境変数 MJ_OUTPUTFILES の設定内容を修正し、再度コマンドを投入してください。

Unable to get hostname.

【メッセージの意味】

自ホスト名を取得できませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to get job information.

【メッセージの意味】

ジョブ情報が取得できませんでした。

以下の原因が考えられます。

- ジョブ実行制御のスプールディレクトリ配下の、キュー名のディレクトリ直下に、ユーザが作成したファイルが存在する。【UNIX版】

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

以下の対処をしてください。

- キュー名のディレクトリ直下に、ユーザが作成したファイルを削除するか、ジョブ実行制御のスプールディレクトリ配下から別の場所へ移動してください。【UNIX版】

  キュー名のディレクトリは以下のとおりです。

  /var/spool/mjes/mjespool/queuename

  queuename: キュー名

  (サブシステム*n*の場合: /var/spool/mjes*n*/mjespool/queuename)

Unable to get job number.

【メッセージの意味】

ジョブ番号を取得することができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to get local host-name.

【メッセージの意味】

ローカルホスト名を取得できませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to get queue information.

【メッセージの意味】

キュー情報を取得できませんでした。以下の原因が考えられます。

a. ジョブ実行制御がキュー情報ファイルにアクセスしようとしたとき、他のアプリケーションがキュー情報ファイルにアクセスしていた。

b. ジョブ実行制御が内部的にキュー情報を参照しているときに、業務選択ウィンドウの[ジョブ]/[キュー]を選択、またはqstatコマンドを実行した。

c. ジョブ実行制御のスプールディレクトリ配下のキュー名のディレクトリ直下に、ユーザが作成したファイルが存在する。【UNIX版】

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

原因別に、以下の対処をしてください。

a. ジョブ実行のスプールディレクトリ配下のファイルにアクセスするようなアプリケーションが存在しないか確認し、ジョブ実行制御が動作中のときは、ジョブ実行制御のスプールディレクトリ配下のファイルにアクセスしないように対処してください。

b. "Systemwalker MpMjes"サービスの起動が完了した後、またジョブ実行制御の運用の開始/停止処理が完了した後に、業務選択ウィンドウの[ジョブ]/[キュー]を選択、またはqstatコマンドを実行してください。

c. キュー名のディレクトリ直下に、ユーザが作成したファイルを削除するか、ジョブ実行制御のスプールディレクトリ配下から別の場所へ移動してください。【UNIX版】

   なお、キュー名のディレクトリは以下です。

   /var/spool/mjes/mjespool/queuename

   queuename: キュー名

   (サブシステム*n*の場合: /var/spool/mjes*n*/mjespool/queuename)

Unable to get system information.

【メッセージの意味】

システム情報を取得することができませんでした。

qstatコマンドを実行したときに、当メッセージが出力された場合、以下の原因が考えられます。

- ジョブ実行制御のスプールディレクトリへのシンボリックリンクが存在しない。【UNIX版】

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

以下の対処をしてください。

- 存在するディレクトリに対してジョブ実行制御のスプールディレクトリへのシンボリックリンクを設定してください。
  【UNIX版】

  スプールディレクトリへのシンボリックリンクは以下のとおりです。

  /var/spool/mjes

  (サブシステム*n*の場合: /var/spool/mjes/mjes*n*)

なお、クラスタ環境の待機系の場合、共有ディスクが参照できないため、本現象が発生しますが、問題のない動作ですので対処は不要です。

Unable to make jcl file.

【メッセージの意味】

JCLファイルの作成に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to read sysinfo.

【メッセージの意味】

システムの情報を読み取ることができませんでした。

以下の原因が考えられます。

a. Systemwalker Operation Managerをインストールした後、一度もSystemwalker Operation Managerが起動されていない。

b. サブシステム環境を作成後、Systemwalker Operation Managerを一度も起動していない。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

原因別に、以下の対処をしてください。

a. Systemwalker Operation Managerを起動してください。

b. 該当サブシステムのSystemwalker Operation Managerを起動してください。

Unable to open script file: <filename>.

【メッセージの意味】

スクリプトファイル(バッチファイルまたはJCLファイル)をオープンすることができませんでした。

以下の原因が考えられます。

- スクリプトファイルに読み取り権が設定されていない。

【パラメタの意味】

filename: スクリプトファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

スクリプトファイルに読み取り権が設定されていない場合、“Systemwalker MpMjes”サービスのログオンアカウントに対し、読み取りを許可するように設定して、再度ジョブを投入してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to open the queue information file.

【メッセージの意味】

キュー情報ファイルをオープンすることができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to read registry.

【メッセージの意味】

レジストリを読み取ることができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

以下のいずれかを確認してください。

- HKEY_LOCAL_MACHINE配下の以下のキーが存在し、かつキーに対してコマンド使用者の読取りが許可されていること。【Windows版】

  ¥SOFTWARE¥Fujitsu¥MpWalker¥CurrentVersion¥MpMjes¥SOFTWARE
  ¥Fujitsu¥MpWalker¥CurrentVersion¥MpMjes¥Parameters

- HKEY_LOCAL_MACHINE 配下の以下のキーに、値MjesSpoolと値MjesBinが設定されていること。【Windows版】

  ¥SOFTWARE¥Fujitsu¥MpWalker¥CurrentVersion¥MpMjes¥Parameters

- シンボリックリンクが指す実体のディレクトリが存在すること。【UNIX版】

  /var/spool/mjes (ジョブ実行制御のスプールディレクトリ)

Unable to read the queue information file.

【メッセージの意味】

キュー情報ファイルを読み取ることができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to rename job directory.

【メッセージの意味】

ジョブディレクトリ名を変更することができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to store current working directory in environment file.

【メッセージの意味】

環境ファイルにカレントワーキングディレクトリを保存することができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to write environment variable to env. file.

【メッセージの意味】

環境ファイルに環境変数を書き込むことができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unable to write job information file.

【メッセージの意味】

ジョブ情報ファイルを書き込むことができませんでした。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

頻発する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ジョブ実行制御のスプールが存在するディスクの空き容量が不足していないか確認してください。空き容量が不足している場合は、空き容量を確保し、再度コマンドを投入してください。

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

Unknown reason.

【メッセージの意味】

予期せぬエラーが発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

User <username> does not belong to Administrators group.

【メッセージの意味】

usernameはAdministratorsグループに属していません。

【パラメタの意味】

username: ユーザ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンド操作を、システム管理者に依頼してください。

【システム管理者の処置】

コマンド操作を代行してください。

User <username> does not belong to privilege group.

【メッセージの意味】

usernameはスーパーユーザではありません。

【パラメタの意味】

username: ユーザ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンド操作を、システム管理者に依頼してください。

【システム管理者の処置】

コマンド操作を代行してください。

User <username> is not owner of job <jobname(jobno.hostname)>.

【メッセージの意味】

usernameはジョブjobname(jobno.hostname)の所有者ではありません。

【パラメタの意味】

username: ユーザ名

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

hostname: ホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンド操作を、システム管理者に依頼してください。

【システム管理者の処置】

コマンド操作を代行してください。

Warning: Invalid embedded default argument flag: <opt chars>._ Script file line <line number>.

【メッセージの意味】

バッチファイル内で指定されたオプションopt charsが誤っています。位置はバッチファイル内のline number行目です。

【パラメタの意味】

opt chars: オプション

line number: バッチファイル内の行番号

【利用者の処置】

必要であれば、オプションを修正して、再度コマンドを投入してください。

Warning: -j job-name begins with a digit, which is illegal._An "J" has been pretended to the job name: <jobname>.

【メッセージの意味】

半角数字で始まるジョブ名が指定されたため、"J"をその先頭に付加しました。

【パラメタの意味】

jobname：ジョブ名

【利用者の処置】

必要であれば、ジョブ名を修正して、再度コマンドを投入してください。

Warning: too many arguments._<line>_ Extra arguments ignored: <chars>.

【メッセージの意味】

コマンドラインまたはスクリプトファイル行に指定された引数が多すぎます。

【パラメタの意味】

line：コマンドラインまたはスクリプトファイル行

chars：無視される引数

【利用者の処置】

必要であれば、指定する引数を63個以下にして、再度コマンドを投入してください。

監査ログライブラリのロードに失敗しました。

"Failed to load the audit log library."を参照してください。

監査ログファイルの読み込みに失敗しました。

"Failed to read the audit log file."を参照してください。

管理者権限がありません。エラーコード=code

【メッセージの意味】

管理者権限がありません。

【パラメタの意味】

code：エラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

Administratorsグループに属するユーザで、再度コマンドを投入してください。

コマンドラインが長すぎます。2048バイト以下を指定してください。

"Command line is too long."を参照してください。

[Windows]サービス制御マネージャのオープンに失敗しました。エラーコード=code

【メッセージの意味】

サービス制御マネージャServiceActiveデータベースのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

code：OSのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

codeを調査し、エラーの原因を取り除いてください。エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

[Windows]サブシステム番号が不当です。

【メッセージの意味】

サブシステム番号の値が正しくありません。(複数サブシステム用)

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいサブシステム番号を指定して、再度コマンドを投入してください。

[Windows]サブシステム番号の値が正しくありません。

【メッセージの意味】

サブシステム番号の値が正しくありません。(複数サブシステム用)

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいサブシステム番号を指定して、再度コマンドを投入してください。

[Windows]指定されたジョブ打ち切り時刻が不正です。打ち切り時刻をHHMM形式で指定してください。

“The timelimit specified with -ld is invalid.”を参照してください。

他のキューから分散実行キューへはジョブを移動できません。

【メッセージの意味】

分散実行キューにジョブを移動することはできません。

【システムの処理】

ジョブの移動処理を中止します。

【利用者の処置】

分散実行キュー以外のキューを指定し、再度qmoveコマンドを実行してください。

[Windows]ドメイン名の取得に失敗しました。エラーコード=code

【メッセージの意味】

ドメイン名の取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

code：OSのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

codeを調査し、エラーの原因を取り除いてください。

分散実行キューにJCLがジョブとして投入されたため、実行依頼を拒否しました。

“The JCL job was submitted to distributed execution queue so that the execution request was refused.”を参照してください。

分散実行キューに依頼ホストを指定したジョブが投入されたため、実行依頼を拒否しました。

“The job which the request host was specified was submitted to distributed execution queue, so that the execution request was refused.”を参照してください。

分散実行キューに投入したジョブは他のキューへ移動できません。

【メッセージの意味】

分散実行キューに存在するジョブを移動することはできません。

【システムの処理】

ジョブの移動処理を中止します。

【利用者の処置】

分散実行キュー以外のキューを指定し、再度qmoveコマンドを実行してください。

[Windows]メッセージコードが見つかりません。コード=code

【メッセージの意味】

エラーメッセージ用のメッセージコードが見つかりません。

【パラメタの意味】

code: メッセージコード

【システムの処理】

エラー箇所により、処理を中止または続行します。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

3.9 ジョブ実行制御の前回履歴メッセージ

本節では、ジョブ実行制御の前回履歴メッセージについて説明します。

3.9.1 MJSで始まるメッセージ

本項では、ジョブ実行制御の前回履歴メッセージのうち、MJSで始まるメッセージについて説明します。

MJS101I WU名（ユーザ名）の起動処理を開始しました。

【メッセージの意味】

Interstageに対して、WU名で表示されたワークユニットの起動依頼処理を開始しました。

【パラメタの意味】

WU名: 起動処理を開始したワークユニット名

ユーザ名: 当該ワークユニットの所有者名

MJS102I WU名が起動しました。

【メッセージの意味】

Interstageにおいて、WU名で表示されたワークユニットの起動処理が完了しました。

【パラメタの意味】

WU名: 起動処理が完了したワークユニット名

MJS103I WU名の停止要求を受付けました。

【メッセージの意味】

WU名で表示されたワークユニットの停止要求を受付けました。

【パラメタの意味】

WU名: 停止処理を開始したワークユニット名

MJS104I WU名の停止処理を開始しました。

【メッセージの意味】

Interstageに対して、WU名で表示されたワークユニットの停止依頼処理を開始しました。

【パラメタの意味】

WU名: 停止処理を開始したワークユニット名

MJS105I WU名が停止しました。

【メッセージの意味】

Interstageにおいて、WU名で表示されたワークユニットの停止処理が完了しました。

【パラメタの意味】

WU名: 停止処理が完了したワークユニット名

MJS106E システムにInterstageが導入されていません。

【メッセージの意味】

指定されたワークユニットを起動しようとしましたが、Interstageがシステムに導入されていないため、ワークユニットを起動することができません。

【システムの処理】

ワークユニットの起動処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブスケジューラの定義において、ワークユニットを起動するシステムに誤りがないか確認し、正しく修正してください。
また、必要であれば、システム管理者に連絡し、Interstageの導入状況の確認などを行ってください。

MJS107E WU名の起動処理に失敗しました。

【メッセージの意味】

Interstageにおいて、ワークユニットの起動処理中に回復不可能なエラーが発生したため、WU名で表示されたワークユニットは起動されませんでした。メッセージの次の行にInterstageのエラーメッセージを表示します。

【パラメタの意味】

WU名: 起動処理に失敗したワークユニット名

【システムの処理】

ワークユニットの起動処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

Interstageのエラーメッセージを基に、Interstageにおいて発生したエラーの原因を取り除いてください。

MJS108E WU名の状態監視処理中に回復不可能なエラーが発生しました。

【メッセージの意味】

Interstageにおいて、ワークユニットの状態監視処理中に回復不可能なエラーが発生したため、WU名で表示されたワークユニットの状態監視を継続することができません。メッセージの次の行にInterstageのエラーメッセージを表示します。

【パラメタの意味】

WU名：状態監視処理に失敗したワークユニット名

【システムの処理】

ワークユニットの状態監視処理を中止し、当オンライン業務は異常終了します。ただし、ワークユニットに対しては特に処置を行いません。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

Interstageのエラーメッセージを基に、Interstageにおいて発生したエラーの原因を取り除いてください。必要であれば、Interstageが提供するコマンドなどを利用し、ワークユニットの状態確認、停止作業などを行ってください。

MJS109E WU名の停止処理中に回復不可能なエラーが発生しました。

【メッセージの意味】

Interstageにおいて、ワークユニットの停止処理中に回復不可能なエラーが発生したため、WU名で表示されたワークユニットは停止されませんでした。メッセージの次の行にInterstageのエラーメッセージを表示します。

【パラメタの意味】

WU名：停止処理に失敗したワークユニット名

【システムの処理】

ワークユニットの停止処理を中止し、当オンライン業務は異常終了します。ただし、ワークユニットに対しては特に処置を行いません。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

Interstageのエラーメッセージを基に、Interstageにおいて発生したエラーの原因を取り除いてください。必要であれば、Interstageが提供するコマンドなどを利用し、ワークユニットの状態確認、停止作業などを行ってください。

MJS110E WU名が異常終了しました。

【メッセージの意味】

Interstageにおいて、ワークユニットが異常終了しました。

【パラメタの意味】

WU名：異常終了したワークユニット名

【システムの処理】

ワークユニットの状態監視を中止し、当該オンライン業務を異常終了状態とします。

【利用者の処置】

SYSLOGにInterstageのメッセージ“EXTP4400”が出力されていますので、そのメッセージおよびメッセージの説明を参照してください。処置不可能な場合は、システム管理者へ連絡してください。

【システム管理者の処置】

SYSLOGにInterstageのメッセージ“EXTP4400”が出力されていますので、そのメッセージおよびメッセージの説明を参照し、処置を行ってください。

MJS111I WU名の監視の停止処理を開始しました。

【メッセージの意味】

Interstageに起動依頼したワークユニットの監視を停止する処理を開始します。ワークユニットの停止要求は行いません。

【パラメタの意味】

WU名 : 監視を中止したワークユニット名

MJS112I WU名の監視を停止しました。

【メッセージの意味】

Interstageに起動依頼したワークユニットの監視を停止する処理が完了しました。ワークユニットの停止要求は行っていません。

【パラメタの意味】

WU名 : 監視を中止したワークユニット名

[UNIX]MJS704E Failed in starting job step <jobstep-name>. Job file not found.

【メッセージの意味】

ジョブステップ jobstep-name の起動に失敗しました。

【パラメタの意味】

jobstep-name : ジョブステップ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したジョブファイル名が正しいかどうか確認してください。

MJS800I MJSRJOB JOB CONTROL START mm/dd.hh:mm:ss

【メッセージの意味】

ネットワーク制御の処理が開始した日付と時間を通知します。

【パラメタの意味】

mm/dd : ジョブの開始した日付

hh:mm:ss : ジョブの開始した時間

MJS801I MJSRJOB JOB CONTROL STOP mm/dd.hh:mm:ss

【メッセージの意味】

ネットワーク制御の処理が終了した日付と時間を通知します。

【パラメタの意味】

mm/dd: ジョブの終了した日付

hh:mm:ss: ジョブの終了した時間

MJS802I CONNECTED TO hostname

【メッセージの意味】

サーバとの回線を接続しました。

【パラメタの意味】

hostname: 回線を接続したサーバ名

MJS803I DISCONNECTED TO hostname

【メッセージの意味】

サーバとの回線を切断しました。

【パラメタの意味】

hostname: 回線を切断したサーバ名

MJS804I accessname {SENT|RECEIVED} nnnnn {KB|BYTES}

【メッセージの意味】

ファイルの転送が行われました。

【パラメタの意味】

accessname:

転送したファイルのアクセス名

SENT:

サーバからクライアントへファイルを受信しました。

RECEIVED:

クライアントからサーバへファイルを送信しました。

nnnnnn:

転送したファイルの容量を出力します。転送容量が1KB 以上の場合、KB単位で切り上げて出力します。

KB|BYTES:

転送容量が1KB 以上の場合「KB」が出力され、1KB 未満の場合「BYTES」が出力されます。

MJS805I JOB START ON hostname mm/dd.hh:mm:ss

【メッセージの意味】

サーバにおいて、ジョブが開始した日付と時間を通知します。

【パラメタの意味】

hostname: 回線を接続したサーバ名

mm/dd: サーバにおいて、ジョブが開始した日付

hh:mm:ss: サーバにおいて、ジョブが開始した時間

MJS806I JOB STOP ON hostname mm/dd.hh:mm:ss CODE(nnnn)

【メッセージの意味】

サーバにおいて、ジョブが終了した日付、時間および終了コードを通知します。

【パラメタの意味】

hostname：回線を切断したサーバ名

mm/dd：サーバにおいて、ジョブが終了した日付

hh:mm:ss：サーバにおいて、ジョブが終了した時間

nnnn：サーバにおける、ジョブの終了コード

MJS810E RECEIVE : accessname FILE NOT FOUND ON hostname

【メッセージの意味】

ファイルを受信しようとしましたが、サーバ上にファイルが存在しません。

【パラメタの意味】

access：受信しようとしたファイルのアクセス名

hostname：受信しようとしたファイルの転送元サーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

MJS810E RECEIVE : FILE NOT FOUND ON hostname : filename

【メッセージの意味】

ファイルを受信しようとしましたが、サーバ上にファイルが存在しません。

【パラメタの意味】

hostname：受信しようとしたファイルの転送元サーバ名

filename：受信しようとしたファイル名

【システムの処理】

ファイルの受信処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

MJS814E accessname : CAN NOT FILE TRANSFER FROM hostname.BECAUSE FILE IS DIRECTORY

【メッセージの意味】

Fileオペランドで指定したファイルがディレクトリであるため、accessnameで示すアクセス名のファイルの受信ができません。

【パラメタの意味】

accessname：受信しようとしたファイルのアクセス名

hostname：受信しようとしたサーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

MJS815E accessname : CAN NOT FILE TRANSFER FROM hostname.BECAUSE DIRECTORY IS NOT EXIST

【メッセージの意味】

指定した受信元ディレクトリが存在しないため、accessnameで示すアクセス名のファイルの受信ができません。

【パラメタの意味】

accessname: 受信しようとしたファイルのアクセス名

hostname: 受信しようとしたサーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

【原因】

以下の原因があります。

1. JCL内のreceiveコマンドのfileオペランドで指定したパスが不正である場合
2. [Operation Manager共通パラメタの定義]ウィンドウにおいて、“swadminグループに含まれるユーザだけがデマンドジョブの起動、ジョブ実行制御属性のジョブネット起動、およびジョブスケジューラのコマンド機能が利用できるように制限する”をチェックしている場合、かつ[Systemwalker Operation Manager]ウィンドウで、swadminグループに登録されていない一般ユーザが業務選択ウィンドウの[ジョブ]、[キュー]にアクセスした場合

【利用者の処置】

1. JCL内のreceiveコマンドのfileオペランドで指定したパスを正しく修正して、再度ジョブを投入してください。
2. システム管理者に依頼してswadminにユーザを登録してもらうか、既にswadminグループに属しているユーザを使用してください。

MJS816E SEND : accessname : FILE NOT FOUND

【メッセージの意味】

ファイルを送信しようとしたが、ジョブを投入したサーバ上にファイルが存在しません。

【パラメタの意味】

access: 送信しようとしたファイルのアクセス名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

【利用者の処置】

JCL内のfile制御文に指定するファイル名、または、環境変数MJ_INPUTFILESに設定してあるファイル名を正しく修正して、再度ジョブを投入してください。

MJS817E SEND : accessname : PERMISSION DENIED

【メッセージの意味】

ファイルを送信しようとしたが、アクセス権がないため送信できません。

【パラメタの意味】

access: 送信しようとしたファイルのアクセス名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

【利用者の処置】

JCL内のfile制御文に指定するファイル名、または、環境変数MJ_INPUTFILESに設定してあるファイル名を正しく修正して、再度ジョブを投入してください。

MJS818E command COMMAND RETRY OVER

【メッセージの意味】

回線異常によるリトライが、指示された回数を超えました。

【パラメタの意味】

command: 回線異常の発生によるリトライを行ったネットワークジョブ制御コマンド

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード"0x40000016"で終了します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡してください。処置完了後、ジョブを再投入してください。

【システム管理者の処置】

実行サーバであるサーバの状態、回線の状態を確認し、原因を取り除いてください。

MJS819E USERNAME username REFUSED BY HOST(hostname),BECAUSE PERMISSION DENIED

【メッセージの意味】

ネットワークジョブの実行を拒否されました。以下の原因が考えられます。

a. usernameのアカウントは、hostnameで表示されたサーバに登録されていません。アカウント名は、大文字と小文字を区別します

b. hostnameで表示されたサーバにおいて、[信頼ホストの定義]ウィンドウの定義情報の設定により、ジョブの実行が拒否されました。

c. hostnameで表示されたサーバの[Operation Manager利用者の限定]の設定により、ジョブの実行が拒否されました。

【パラメタの意味】

username: 当該ジョブの所有者

hostname: 実行を拒否したサーバのホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード"0x40000913"で終了します。

【利用者の処置】

a. usernameのアカウントが、hostnameで表示されたサーバのホストに登録されていません。システム管理者に相談してください。

b. hostnameで表示されたサーバにおいて、[信頼ホストの定義]ウィンドウの定義情報の設定により、ジョブ実行が許可されていない可能性があります。システム管理者に相談してください。

c. hostnameで表示されたサーバで[Operation Manager利用者の限定]の設定により、ジョブ実行が許可されていない可能性があります。システム管理者に相談してください。

【システム管理者の処置】

a. usernameのアカウントをhostnameで表示されたサーバに登録します。

b. hostnameで表示されたサーバにおいて、ジョブの投入ホストからのネットワークジョブが実行できるように、[信頼ホストの定義]ウィンドウにて、定義情報を適切に設定してください。

c. hostnameで表示されたサーバにおいて、usernameのアカウントが運用上、ジョブの実行を許可してもよいユーザであれば、swadminグループに所属させてください。

MJS820E SYNTAX ERROR IN OPTIONS.

【メッセージの意味】

mjsrjob.exeに指定したオプションの指定形式に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000012”で終了します。

【利用者の処置】

正しいオプションに修正し、再度ジョブを投入してください。

MJS821E SYNTAX ERROR IN command COMMAND

【メッセージの意味】

実行コマンドの記述形式に誤りがあります。

【パラメタの意味】

command：記述形式に誤りのあったコマンド名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

【利用者の処置】

実行コマンドを修正し、再度ジョブを投入してください。

MJS822E HOST NAME IS NOT SPECIFIED

【メッセージの意味】

CONNECTコマンドのどちらにもホスト名の指定がありません。

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

【利用者の処置】

ホスト名に指定し、再度ジョブを投入してください。

MJS825E CONNECT : INVALID HOST NAME hostname

【メッセージの意味】

CONNECT コマンドで指定したホスト名が、クライアントにおいて認識できないホスト名です。

【パラメタの意味】

hostname：回線の接続をしようとしたホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

【利用者の処置】

正しいホスト名に修正し、再度ジョブを投入してください。

MJS827E accessname ACCESS NAME NOT FOUND ON JCL

【メッセージの意味】

ファイル転送時に指定したアクセス名にファイル名が割り当てられていません。

【パラメタの意味】

accessname：ファイル転送しようとしたアクセス名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

【利用者の処置】

JCL または、実行コマンドを修正し、再度ジョブを投入してください。

MJS828E command : ANOTHER SERVER WAS NOT CONNECTED

【メッセージの意味】

サーバとの回線が接続されていません。

【パラメタの意味】

command: DISCONNECT以外の実行コマンド

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

【利用者の処置】

CONNECTコマンドを追加し、再度ジョブを投入してください。

MJS830E BATCH JOB REQUEST PROCESS IS FAILED

【メッセージの意味】

実行サーバにおいてバッチジョブの依頼処理に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000016”で終了します。

【利用者の処置】

以下の場合に出力されます。

a. 実行サーバのシンボリックリンク/var/spool/mjesの指す実体のディレクトリにジョブ所有者のアクセス権がない(実行サーバがUNIXの場合)。

b. 実行サーバが以下の状態になっている。

  - システムの負荷が高い。
  - スワップ領域が不足している。
  - ハードディスクの容量が不足している。

c. 実行サーバが所属しているドメインの、プライマリドメインコントローラ(PDC)、バックアップドメインコントローラ(BDC)を停止または再起動した(実行サーバがWindowsの場合)。

システムの状態を確認するようにシステム管理者に依頼してください。システムの状態が改善されたら、再度ジョブを投入してください。

【システム管理者の処置】

a. 実行サーバのシンボリックリンク(/var/spool/mjes)の指す実体のディレクトリ(最上位のディレクトリまでさかのぼって確認が必要)にジョブ所有者のアクセス権(読み取り、書き込み、実行権)を付与してください。

b. 「利用者の処置」に記載された状態に該当するか確認し、必要な対処を行ってください。システムの状態が改善されているにもかかわらず、同一のエラーが発生する場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

c. ネットワークジョブの動作中に、実行サーバが所属しているドメインのPDC、BDCを停止または再起動しないでください。

   PDC、BDCを停止または再起動する場合は、ネットワークジョブが動作していない時間帯にしてください。

MJS831E queue : INVALID QUEUE NAME

【メッセージの意味】

指定されたキューは使用できません。実行サーバにおいて、投入元のキュー名と同じ名前のキュー名を持つキューが存在せず、かつデフォルトキューの定義がされていません。

【パラメタの意味】

queue: 投入元のキュー名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード"0x40000016"で終了します。

【利用者の処置】

正しいキュー名を指定して、再度ジョブを実行してください。

MJS832E MJSIN IS NOT SPECIFIED

【メッセージの意味】

JCL に、MJSINが記述されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード"0x40000012"で終了します。

【利用者の処置】

MJSINを指定し、再度ジョブを投入してください。

MJS833E INSUFFICIENT STORAGE

【メッセージの意味】

リージョン領域が不足しているため、領域の確保ができません。

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード"0x40000008"で終了します。

【利用者の処置】

センタ管理者へ連絡してください。

MJS834E COMMAND STATEMENT IS NOTHING

【メッセージの意味】

MJSINで指定されたファイルに、実行コマンドが格納されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード"0x40000008"で終了します。

【利用者の処置】

実行コマンドが格納されたファイルをMJSINに指定し、再度ジョブを投入してください。

MJS835E INVALID COMMAND NAME

【メッセージの意味】

実行コマンド名に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード"0x40000008"で終了します。

【利用者の処置】

実行コマンドを修正し、再度ジョブを投入してください。

MJS836E accessname : I/O ERROR OCCURRED,CODE(code)

【メッセージの意味】

accessnameに示すアクセス名で指定されたファイルに対するアクセスで、入出力エラーが発生しました。

【パラメタの意味】

code: OSのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

【利用者の処置】

正しいファイルが指定されているか確認し、誤りを修正後、再度ジョブを投入してください。正しいファイルが指定されている場合は、外部記憶装置で異常が発生した可能性があるので、システム管理者へ連絡してください。

【システム管理者の処置】

本メッセージの直後にあるMJS884Sのメッセージ、またはcodeを調査し、エラーの原因を取り除いてください。エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

MJS837E FIRST COMMAND STATEMENT MUST BE 'CONNECT'

【メッセージの意味】

実行コマンドの先頭行に指定できるコマンドは‘CONNECT’です。

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

【利用者の処置】

実行コマンドを修正し、再度ジョブを投入してください。

MJS839E QUEUE queuename NOT DEFINED. AND, DEFAULT QUEUE IS NOT DEFINED

【メッセージの意味】

EXECUTEコマンドにキュー名が指定されていなかったため、デフォルトキューを使用しましたが、デフォルトキュー名が実行サーバにおいて定義されていませんでした。

【パラメタの意味】

queuename: 投入元のキュー名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000016”で終了します。

【利用者の処置】

キュー名を確認し、再度ジョブを投入してください。

MJS840E OVER THE JOB LIMIT ON queuename

【メッセージの意味】

指定されたキューは、実行サーバにおいてジョブ投入制限数を超えるため受け付けられません。

【パラメタの意味】

queuename：投入元のキュー名

【システムの処理】

ジョブを終了します。ジョブは終了コード“0x40000016”で終了します。

【利用者の処置】

以下の方法で対処してください。

- 別のキューを指定して再度ジョブを投入する。
- しばらく待ってから再度ジョブを投入する。

MJS841E SEND : accessname : FILE IS DIRECTORY

【メッセージの意味】

ファイルを送信しようとしたが、指定されたファイル名はディレクトリです。

【パラメタの意味】

access：送信しようとしたファイルのアクセス名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

【利用者の処置】

JCL内のfile制御文に指定するファイル名、または、環境変数MJ_INPUTFILESに設定してあるファイル名を正しく修正して、再度ジョブを投入してください。

MJS842E RECEIVE : accessname : DIRECTORY IS NOT EXIST

【メッセージの意味】

ファイルを受信しようとしたが、指定されたディレクトリが存在しません。

【パラメタの意味】

access：受信しようとしたファイルのアクセス名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

【利用者の処置】

JCL内のfile制御文に指定するファイル名、または、環境変数MJ_OUTPUTFILESに設定してあるファイル名を正しく修正して、再度ジョブを投入してください。

MJS843E RECEIVE : accessname : PERMISION DENIED

【メッセージの意味】

ファイルを受信しようとしたが、アクセス権がないため受信できません。

【パラメタの意味】

access：受信しようとしたファイルのアクセス名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

【利用者の処置】

JCL内のfile制御文に指定するファイル名、または、環境変数MJ_OUTPUTFILESに設定してあるファイル名を正しく修正して、再度ジョブを投入してください。

MJS844E EXECUTE : jobfile : INVALID JOB FILE

【メッセージの意味】

実行サーバで指定されたジョブファイルが見つかりません。以下の原因が考えられます。

a. 指定されたジョブファイルのファイル名が違う。

b. 指定したディレクトリにジョブファイルが存在しない。

c. ジョブファイルを格納したディレクトリが、環境変数PATHに登録されていない。

d. ジョブファイルのファイル名に、拡張子が指定されていない。

e. 実行サーバのジョブファイルを実行しようとしているが、[登録－ジョブ]ウィンドウ-[基本情報]シートの[実行コマンドの転送]にチェックがされている。

f. 実行サーバのジョブ実行制御サービスが、ジョブファイルの存在を確認することができない。

【パラメタの意味】

jobfile: 実行サーバ上で見つからなかったジョブファイル名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000016”で終了します。

【利用者の処置】

指定したジョブファイル名について、原因別に以下の対処をしてください。

a. 正しいファイル名を指定して、再度ジョブを投入してください。

b. 指定したディレクトリにジョブファイルを格納して、再度ジョブを投入してください。

c. 以下のいずれかを実施し、再度ジョブを投入してください。

－ [コマンド]欄に、ジョブファイルをフルパスで指定してください。

－ [ディレクトリ]欄に、ジョブファイルを格納しているディレクトリ名をフルパスで指定してください。

－ ジョブファイルを格納したディレクトリを、システム環境変数の環境変数PATHに登録し、OSをリブートしてください。【Windows版】

d. 拡張子を含めたファイル名に修正し、再度ジョブを投入してください。【Windows版】

e. 実行サーバのジョブファイルを実行する場合は、[登録－ジョブ]ウィンドウ-[基本情報]シートの[実行コマンドの転送]のチェックをはずしてください。

f. ジョブファイルに対して、実行サーバのジョブ実行制御サービス(ログオンアカウント)にアクセス許可(読み取り)を割り当てて、再度ジョブを投入してください。

【システム管理者の処置】

「利用者の処置」に記載された対処を行ってください。ジョブファイルの指定が正しいにもかかわらず、同一のエラーが発生する場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

MJS849W filename : CODE CONVERSION WAS NOT DONE.

【メッセージの意味】

filenameに示すファイルは、以下の理由により、コード変換されませんでした。

- コード変換できないコードが含まれています。
- システムエラーが発生し、コード変換できませんでした。

【パラメタの意味】

filename: コード変換できなかったファイル名。以下のいずれかが出力されます。

JOBFILE/ STDOUT/ STDERR

【システムの処理】

ファイルの先頭から、バイナリファイルとして再転送処理を行い、処理を継続します。

MJS850E CONFIRMATION ERROR OF THE CONTINUOUS EXECUTION MODE OCCURRED

【メッセージの意味】

実行継続モードの確認ができないため、リモートサーバとの接続ができませんでした。

【システムの処理】

ジョブの実行を中止します。接続先のサーバがWindowsの場合、ジョブは終了コード'0x40000999'で終了します。UNIXの場合、ジョブは終了コード"132"で終了します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、システム管理者処置完了後、再度ジョブを投入してください。

【システム管理者の処置】

本エラーは、ジョブ実行制御のスプール配下に存在する管理ファイルのオープン、または読み込みエラーが原因です。ディスクのI/Oエラーを確認し、エラーの原因を取り除いてください。エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

MJS851E NETWORK JOB RE-EXECUTION IS FAILED

【メッセージの意味】

システムダウン後のネットワークジョブの再実行に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。接続先のサーバがWindowsの場合、ジョブは終了コード'0x40000999'で終了します。UNIXの場合、ジョブは終了コード"132"で終了します。

【利用者の処置】

再度ジョブを投入してください。

MJS852E CONNECTION IS NOT PRODUCED TO LOWER RANK VERSION.

【メッセージの意味】

実行先サーバが、下位バージョンのため接続できませんでした。

【利用者の処置】

複数サブシステム運用の場合、サブシステム1～9は、Systemwalker Operation Manager UNIX版 V5.2以降またはWindows版V10.0L10以降にのみネットワークジョブを投入することができます。下位バージョンとのネットワークジョブの運用を行いたい場合は、サブシステム0番で投入してください。

MJS853E jobname(jobno) which the request host was specified was submitted to distributed execution queue, so that the execution request was refused.

【メッセージの意味】

スケジュールサーバで、分散実行キューに依頼ホストを指定したジョブが投入されたため、実行依頼を拒否しました。

実行サーバで、以下のジョブが分散実行キューに投入されたため、実行依頼を拒否しました。

- 依頼元ホストから、ネットワークジョブが投入されている。

- 依頼元ホストから、分散実行機能を利用してジョブが投入されている。
- 依頼元ホストから、業務手続き言語(JCL)などで、他サーバのホスト名を指定してジョブが投入されている。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

【システムの処理】

ジョブの実行を中止します。ジョブは終了コード"0x40000016"で終了します。

【利用者の処置】

スケジュールサーバで依頼ホストが指定されている場合は、依頼先ホストを指定しないでください。

実行サーバで分散実行キュー以外のキューを指定し、再度ジョブを投入してください。または、実行サーバの分散実行キューの分散実行機能を無効にして、再度ジョブを投入してください。

MJS854E The jobname(jobno) was canceled, because the job execution server is lower version.

【メッセージの意味】

ネットワークジョブの実行において、下位バージョンではサポートされていない機能を使用しているため、下位バージョンのサーバへの実行依頼を強制停止しました。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

【システムの処理】

ジョブの実行を中止します。ジョブは終了コード"0x40000020"で終了します。

【利用者の処置】

- ジョブ実行時のコマンドおよびパラメタを見直し、適切な値に変更し、再度ジョブを投入してください。
- スケジュールサーバに、ジョブの起動に必要なユーザの登録を実施してください。
- V13.2.0以前のサブシステム運用している実行サーバにジョブを投入する場合は、スケジュールサーバの任意のサブシステムから実行サーバの任意のサブシステムに実行依頼を行うことはできません。V13.2.0以前とのネットワークジョブ運用を行う場合は、-rsysを指定しないでジョブを投入してください。

MJS855E Users are restricted by the user control list for job execution.

【メッセージの意味】

ジョブの権限によって指定されたユーザが実行ユーザ制限リストに記述されていないためジョブの投入に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブの権限に実行ユーザ制限リストで記述されているユーザ名を指定してください。

ジョブの権限については、"Systemwalker Operation Manager 導入手引書"の"ジョブ実行時の権限について"を参照してください。

MJS856E The mjsnetN port number is not specified for the subsystem number.

【メッセージの意味】

指定されたサブシステム番号のmjsnetNのポート番号が指定されていません。

N:サブシステム番号

【システムの処理】

処理を中止します。

【対処方法】

サブシステム番号のmjsnetのポート番号を指定して、再度コマンドを投入してください。

MJS861E OPEN ERROR OCCURRED,CODE(code)

【メッセージの意味】

転送ファイルのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

code: OSのエラーコード

【システムの処理】

ファイル転送処理を中止します。ジョブは終了コード"0x40000008"で終了します。

【利用者の処置】

転送ファイルおよび実行コマンドを確認し、再度ジョブを投入してください。実行コマンド等に誤りがない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本メッセージの直後にあるMJS884Sのメッセージ、またはcodeを調査し、エラーの原因を取り除いてください。エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

MJS866E accessname : FILE ACCESS ERROR OCCURRED,CODE(code)

【メッセージの意味】

accessnameに示すアクセス名のファイル転送中に、入出力エラーが発生しました。

【パラメタの意味】

accessname: 転送を行っていたファイルのアクセス名

code: OSのエラーコード

【システムの処理】

ファイル転送処理を中止します。ジョブは終了コード"0x40000008"で終了します。

【利用者の処置】

誤りがあれば、修正してください。エラーの原因が特定できない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本メッセージの直後にあるMJS884Sのメッセージ、またはcodeを調査し、エラーの原因を取り除いてください。エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで"ジョブ実行制御"の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

MJS868E accessname : DISK FULL ON hostname

【メッセージの意味】

accessnameに示すアクセス名のファイル受信中に、スペース不足が発生しました。

【パラメタの意味】

accessname: 転送を行おうとしたファイルのアクセス名

hostname: スペース不足の発生したホスト名

【システムの処理】

ファイル転送処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

【利用者の処置】

DISKのスペース不足を解消し、再度ジョブを実行してください。

MJS871E accessname : CAN NOT FILE TRANSFER TO hostname,BECAUSE DIRECTORY IS NOT EXIST

【メッセージの意味】

指定した転送先ディレクトリが存在しないため、accessnameで示すアクセス名ファイルの送信ができません。

【パラメタの意味】

accessname: 転送を行おうとしたファイルのアクセス名

hostname: 転送を行おうとしたサーバ名

【システムの処理】

ファイル転送処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

【利用者の処置】

SENDコマンドのFILEオペランドを修正し、再度ジョブを投入してください。

MJS874E accessname : CAN NOT FILE TRANSFER TO hostname,BECAUSE FILE IS DIRECTORY

【メッセージの意味】

FILEオペランドで指定したファイルがディレクトリであるため、accessnameで示すアクセス名のファイル送信ができません。

【パラメタの意味】

accessname: 転送を行おうとしたファイルのアクセス名

hostname: 転送を行おうとしたサーバ名

【システムの処理】

ファイル転送処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

【利用者の処置】

SENDコマンドのFILEオペランドを修正し、再度ジョブを投入してください。

MJS876E FILE TRANSFER ERROR OCCURRED,CODE(code)

【メッセージの意味】

ファイル転送中にcodeで示すエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

code: 送信中に発生したOSのエラーコード

codeがFFFFFF6Bの場合、以下の原因が考えられます。

a. 実行サーバでジョブ実行制御のスプールディレクトリが枯渇している。

b. 実行サーバでウィルスチェックソフトまたはミラーリングを実施するアプリケーションが、ジョブの情報ファイルを参照している。

c. 接続先サーバの/var/opt/FJSVJMCMN配下(/var/opt/FJSVJMCMN自身を含む)のディレクトリ、ファイル、および上位ディレクトリの権限に、Systemwalker Operation Managerにログインしているユーザの実行権がない。【UNIX版】

【システムの処理】

ファイル転送処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000008”で終了します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

codeを調査し、エラーの原因を取り除いてください。

codeがFFFFFF6Bの場合、原因別に以下の対処をしてください。

a. ジョブ実行制御のスプールディレクトリの空き容量を十分に確保してください。

b. ウィルスチェックソフトやミラーリングをするアプリケーションが、ジョブ実行制御のスプールディレクトリ配下にアクセスしないように対処してください。

c. 接続先サーバの/var/opt/FJSVJMCMN配下(/var/opt/FJSVJMCMN自身を含む)のディレクトリ、ファイル、および上位ディレクトリに、実行権を付加してください。【UNIX版】

エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

MJS881S jobname(jobno) COMMUNICATION ERROR OCCURRED FOR hostname,CODE(code1,code2)

【メッセージの意味】

回線エラーが発生しました。

回線エラーが発生した原因として、以下の動作が考えられます。

- サーバがダウンしている。または、処理中にダウンした。
- サーバ上のサービスが起動されていない。
- TCP/IPサービスがダウンしている。または、処理中にダウンした。
- TCP/IPがインストールされていない。
- TCP/IPの定義に誤りがある。

【パラメタの意味】

jobname:

ジョブ名

jobno:

ジョブ番号

hostname:

サーバ名

code1:

エラーが発生した処理

エラーコードと発生した処理を以下に示します。

2: CONNECT

3: READ

4: WRITE

5: DISCONNECT

code2：

エラーの詳細コード

エラーの詳細コードと詳細コードの意味を以下に示します。

<table>
<tr><th colspan="5">ジョブ投入ホストの
エラー詳細コード</th><th rowspan="2">意味</th><th rowspan="2">対処</th></tr>
<tr><th>Windows版</th><th>Solaris版/DS版</th><th>HP-UX版</th><th>AIX版</th><th>Linux版</th></tr>
<tr><td>2726</td><td colspan="4">—</td><td>ジョブの投入サーバにTCP/IPがインストールされていません。</td><td>ジョブの投入サーバにTCP/IPプロトコルをインストールしてください。</td></tr>
<tr><td>2742</td><td colspan="4">—</td><td>ネットワークサブシステムに障害を検出しました。</td><td>—</td></tr>
<tr><td>2745</td><td>0082</td><td>00e7</td><td>0048</td><td>0067</td><td>タイムアウトまたはその他の障害により、仮想回路が放棄されました。</td><td rowspan="2">以下に該当していないかを確認し、適切な処置をしてください。
・ 実行サーバがダウンしている。または処理中にダウンした。
・ 実行サーバ上のジョブ実行制御サービス/デーモンが起動されていない。
・ TCP/IPサービスがダウンしている。または、処理中にダウンした。
・ 投入サーバおよび実行サーバ間のTCP/IP通信の速度が遅い。または、両サーバ間の回線が物理的に切断されていた。</td></tr>
<tr><td>2746</td><td>0083</td><td>00e8</td><td>0049</td><td>0068</td><td>仮想回路がリモート側でリセットされました。</td></tr>
<tr><td>2747</td><td colspan="4">—</td><td>システムのバッファ領域が不足しているか、またはキューがいっぱいのため、ソケット操作を実行できませんでした。</td><td>投入サーバにおけるTCP/IP通信の状態を確認してください。</td></tr>
<tr><td>2751</td><td>0094</td><td>00f2</td><td>0051</td><td>0071</td><td>ホストに到達するためのルートがありません。</td><td>ネットワーク通信(TCP/IP通信)において、投入サーバから実行サーバへの到達ルー</td></tr>
</table>

ジョブ投入ホストのエラー詳細コード					意味	対処
Windows版	Solaris版/DS版	HP-UX版	AIX版	Linux版		
						トが存在するか確認してください。
274C	0091	00ee	004e	006e	試みられた接続は、接続が確立されずにタイムアウトしました。実行サーバ自体が停止している、または実行サーバのジョブ実行制御サービス/デーモンが停止しています。	投入サーバおよび実行サーバ間のネットワーク通信(TCP/IP通信)の状態を確認してください。 実行サーバのジョブ実行制御サービス/デーモンを起動してください。
274D	0092	00ef	004f	006f	接続要求が強制的に拒否されました。または、投入サーバと実行サーバのポート番号が一致していません。	投入サーバおよび実行サーバ間のネットワーク通信(TCP/IP通信)の状態を確認してください。 servicesファイルに定義するジョブ実行制御のポート番号(注)を投入サーバと実行サーバで一致させてください。サービス名は、“mjsnet”または“mjsnetN”です。“N”はサブシステム番号(1～9)を表します。実行サーバのポート番号の変更を反映するためには、実行サーバのジョブ実行制御サービス/デーモンを再起動する必要があります。
277A	—				投入サーバでデスクトップヒープが枯渇しています。	同時に実行されるジョブの多重度を減らしてください。
2AF9	0001, 7531				hostnameに表示されたホストが見つかりません。	指定したサーバ名に間違いがないかを確認してください。
2AFA	0002				ホスト名解決で一時的なエラーが発生しました。自ホストからDNSサーバへホスト名解決を依頼しましたが、応答を受信できません。	DNSサーバ自体が高負荷などの理由で処理不能となっていないかを確認してください。
—	0004, 0020, 00B7				投入サーバと実行サーバの間で回線が切断されました。回線または	センタ管理者に連絡し、システムの状態の調査を依頼してください。

ジョブ投入ホストのエラー詳細コード					意味	対処
Windows版	Solaris版/DS版	HP-UX版	AIX版	Linux版		
					実行サーバ上のシステムの負荷が高くなっています。	
0000					実行サーバから応答がなくタイムアウトしました。	投入サーバおよび実行サーバ間のネットワーク通信(TCP/IP通信)の状態を確認してください。

注)

ポート番号の定義方法は、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【システムの処理】

ジョブの実行を中止します。ジョブは終了コード“0x40000132”で終了します。

【利用者の処置】

1. 指定したサーバ名に間違いがないかを確認してください。
2. pingコマンドを使用して、指定したサーバが利用可能であるかを確認してください。
3. システム管理者へ連絡し、システム管理者の処置が完了後、再度ジョブを投入してください。

【システム管理者の処置】

code2よりエラーの原因を調査し、エラーの原因を取り除いてください。

なお、code2には、以下の値を16進数に変換したものが出力されます。

[Windows版]: WSAGetLastError()で取得した値

[UNIX版]: errno

そのため、【パラメタの意味】のcode2の一覧表に記載されていない値が出力された場合でも、上記の値が調査の手がかりになります。

MJS882S Systemwalker MpMjes NOT ACTIVE ON hostname

【メッセージの意味】

サーバとして指定したホストではネットワーク機能が動作するために必要なサービス／デーモンが起動されていません。

【パラメタの意味】

hostname :サーバ名

【システムの処理】

ジョブは、終了コード“0x40000016”で異常終了します。

【利用者の処置】

サーバの“Systemwalker MpMjesN”を起動し、再度ジョブを投入してください。

N:サブシステム番号を表します。(複数サブシステム運用時)

MJS883S jobname(jobno) SYSTEM ERROR OCCURRED ON hostname,CODE(code)

【メッセージの意味】

サーバで動作しているネットワーク機能に回復不可能なエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

hostname: サーバ名

code: エラーの内容を示すコード

【システムの処理】

接続先のサーバがWindowsの場合、ジョブは終了コード“0x40000999”で異常終了します。UNIXの場合、ジョブは終了コード“132”で異常終了します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、システム管理者処置完了後、再度ジョブを投入してください。

【システム管理者の処置】

本メッセージの直後にあるMJS884Sのメッセージ、またはcodeを調査し、エラーの原因を取り除いてください。エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

MJS884S msgtext

【メッセージの意味】

OSで発生したエラーに対するエラーメッセージです。

【パラメタの意味】

msgtext: OSのエラーメッセージテキスト

【システム管理者の処置】

本メッセージからOSで発生したエラーを検出し、エラーを取り除いてください。エラーの原因が分からない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

MJS887S The execution server had gone down, so that the execution of the job was stopped.

【メッセージの意味】

実行サーバのダウンにより、ジョブの実行が中断されました。

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000132”で終了します。

【利用者の処置】

実行サーバを再起動して、再度ジョブを投入してください。

3.9.2 メッセージラベルのないメッセージ

本項では、ジョブ実行制御の前回履歴メッセージのうち、メッセージラベルのないメッセージについて説明します。

-R resource name must be ended with "sh" or "ex" after a "," character.

“3.8 ジョブ実行制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

Defined resource exceeds upper limit.

【メッセージの意味】

resource制御文の定義数が上限値を超えました。

【システムの処理】

ジョブの投入処理を中止します。

【利用者の処置】

不要なresource制御文の定義を削除した後、ジョブを投入します。

Error in sequence describing JCL control statement.line=<row>.

【メッセージの意味】

JCL制御文を記述する順序に誤りがあります。

【パラメタの意味】

row: エラーとなったJCL制御文の行番号

【システムの処理】

ジョブの投入処理を中止します。

【利用者の処置】

JCL制御文の記述順序を修正した後、ジョブを投入します。

Exclusive operand specified.

【メッセージの意味】

組み合わせることのできないオペランドが指定されています。

【システムの処理】

ジョブの投入処理を中止します。

【利用者の処置】

不要なオペランドを削除した後、ジョブを投入します。

Failure in retrieving printer data.

【メッセージの意味】

JCLのprtオペランドに指定したプリンタの情報が取得できません。

【システムの処理】

ジョブの投入処理を中止します。

【利用者の処置】

プリンタが使用可能な状態であるか、確認してください。

Multiple definitions for same resource name.

【メッセージの意味】

同じリソース名を記述したresource制御文が既に定義されています。

【システムの処理】

ジョブの投入処理を中止します。

【利用者の処置】

重複するリソース名を記述したresource制御文の中から不要な制御文を削除した後、ジョブを投入します。

No valid JCL control text.

【メッセージの意味】

省略することができないJCL制御文が記述されていません。

【システムの処理】

ジョブの投入処理を中止します。

【利用者の処置】

不足しているJCL制御文を記述した後に、ジョブを投入します。

prt parameter is not specified.

【メッセージの意味】

JCLにprtパラメタの記述を必要とするパラメタを指定しているが、prtパラメタが指定されていません。

【システムの処理】

ジョブの投入処理を中止します。

【利用者の処置】

必要とする箇所にprtオペランドに記述した後、ジョブを投入します。

Queue <queuename> does not exist.

“3.8 ジョブ実行制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

[Windows]Request is rejected by Systemwalker MpMjes service.

“3.8 ジョブ実行制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

Request timed out.

“3.8 ジョブ実行制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

Same jobstep name is already defined.

【メッセージの意味】

同じジョブステップ名を複数のジョブステップで定義しています。

【システムの処理】

ジョブの投入処理を中止します。

【利用者の処置】

重複しているジョブステップ名を別の名前に変更した後、ジョブを投入します。

Specified printer no. exceeds the upper limit.

【メッセージの意味】

JCLのprtオペランドに指定したプリンタの数が多すぎます。

【システムの処理】

一括操作を中断します。

【利用者の処置】

prtオペランドに指定した不要なプリンタを削除した後、ジョブを投入します。

Specified printer not found.

【メッセージの意味】

JCL制御文のprtオペランドに指定したプリンタが見つかりません。

【システムの処理】

ジョブの投入処理を中止します。

【利用者の処置】

プリントマネージャに登録されているプリンタ名をprtオペランドに指定した後、ジョブを投入します。

The step name of skip operand is undefined. line=X.

【メッセージの意味】

stepstart制御文のskipオペランドに指定したスキップ先のジョブステップ名が見つかりません。

【パラメタの意味】

X: 行番号

【システムの処理】

ジョブの投入処理を中止します。

【利用者の処置】

stepstart制御文のskipパラメタに指定したジョブステップ名を、正しいジョブステップ名に変更した後、ジョブを投入します。

Users are restricted by the user control list for job execution.

【メッセージの意味】

ジョブの権限によって指定されたユーザが実行ユーザ制限リストに記述されていないためジョブの投入に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ジョブの権限に実行ユーザ制限リストで記述されているユーザ名を指定してください。

ジョブの権限については、"Systemwalker Operation Manager 導入手引書"の"ジョブ実行時の権限について"を参照してください。

システム:ジョブ job-name(jobno.hostname) が例外で終了しました。例外コードは code です。アプリケーションやシステム環境に問題がある可能性がありますので、例外の原因を調査してください。"Systemwalker Operation Manager トラブルシューティングガイド"も参考にしてください。

【メッセージの意味】

ジョブが例外で終了しました。実行したアプリケーションやシステム環境に問題がある可能性があります。

【パラメタの意味】

job-name: ジョブ投入時に指定するジョブ名

jobno: ジョブ実行制御が割り当てるジョブ受付けの番号

hostname: ジョブを投入したホスト名

code: ジョブの終了コード(例外コード)

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コードcodeに示された値で終了します。

【利用者の処置】

例外の原因を調査してください。

システム:ジョブ job-name(jobno.hostname) が例外で終了しました。アプリケーション名は app-name 、例外コードは code です。アプリケーションやシステム環境に問題がある可能性がありますので、例外の原因を調査してください。"Systemwalker Operation Manager トラブルシューティングガイド"も参考にしてください。

【メッセージの意味】

ジョブが例外で終了しました。実行したアプリケーションやシステム環境に問題がある可能性があります。

【パラメタの意味】

job-name: ジョブ投入時に指定するジョブ名

jobno: ジョブ実行制御が割り当てるジョブ受付けの番号

hostname: ジョブを投入したホスト名

app-name: 例外が発生したアプリケーション名

code: ジョブの終了コード(例外コード)

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コードcodeに示された値で終了します。

【利用者の処置】

例外の原因を調査してください。

システム:ジョブステップ jobstep が例外で終了しました。アプリケーション名は app-name 、例外コードは code です。アプリケーションやシステム環境に問題がある可能性がありますので、例外の原因を調査してください。"Systemwalker Operation Manager トラブルシューティングガイド"も参考にしてください。

【メッセージの意味】

ジョブステップが例外で終了しました。実行したアプリケーションやシステム環境に問題がある可能性があります。

【パラメタの意味】

jobstep:JCLで指定するジョブステップ名

app-name:例外が発生したアプリケーション名

code:ジョブの終了コード(例外コード)

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コードcodeに示された値で終了します。

【利用者の処置】

例外の原因を調査してください。

システム:ジョブステップ jobstep が例外で終了しました。例外コードは code です。アプリケーションやシステム環境に問題がある可能性がありますので、例外の原因を調査してください。"Systemwalker Operation Manager トラブルシューティングガイド"も参考にしてください。

【メッセージの意味】

ジョブステップが例外で終了しました。実行したアプリケーションやシステム環境に問題がある可能性があります。

【パラメタの意味】

jobstep: JCLで指定するジョブステップ名

code: ジョブの終了コード(例外コード)

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コードcodeに示された値で終了します。

【利用者の処置】

例外の原因を調査してください。

ジョブ実行制御:ジョブ <jobname(jobno.hostname)> の起動に失敗しました。<reason>

【メッセージの意味】

ジョブ jobname(jobno.hostname) の起動に失敗しました。

【パラメタの意味】

jobname: ジョブ名

jobno: ジョブ番号

hostname: ホスト名

reason: エラーメッセージ

【システムの処理】

該当のジョブは中断されます。他のジョブへの影響はありません。

【利用者の処置】

起動に失敗したジョブの終了コードを、ジョブ履歴またはmjsviewコマンドで確認してください。“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”で終了コードの意味を参照し、失敗した原因を取り除いてください。

【システム管理者の処置】

起動に失敗したジョブの終了コードを、ジョブ履歴またはmjsviewコマンドで確認してください。“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”で終了コードの意味を参照し、失敗した原因を取り除いてください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

ジョブ実行制御:ジョブ job-name(jobno.hostname) は強制終了操作、または、ジョブ実行制御サービスの停止によって強制終了しました。終了コードは 0x40000222 です。

【メッセージの意味】

ジョブは強制終了操作、または、ジョブ実行制御サービスの停止によって強制終了しました。

【パラメタの意味】

job-name: ジョブ投入時に指定するジョブ名

jobno: ジョブ実行制御が割り当てるジョブ受付けの番号

hostname: ジョブを投入したホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000222”で終了します。

【利用者の処置】

必要に応じて再度ジョブを投入してください。

ジョブ実行制御:ジョブ job-name(jobno.hostname) はジョブの実行経過時間の制限値を超えたため強制終了しました。終了コードは 0x40000322 です。

【メッセージの意味】

ジョブは実行経過時間の制限値を超えたため強制終了しました。

【パラメタの意味】

job-name: ジョブ投入時に指定するジョブ名

jobno: ジョブ実行制御が割り当てるジョブ受付けの番号

hostname: ジョブを投入したホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000322”で終了します。

【利用者の処置】

必要に応じて再度ジョブを投入してください。

ジョブ実行制御:ジョブステップ <jobstep-name> の起動に失敗しました。<reason>

【メッセージの意味】

ジョブステップ jobstep-name の起動に失敗しました。

【パラメタの意味】

jobstep-name: ジョブステップ名

reason: エラーメッセージ

【システムの処理】

該当のジョブは中断されます。他のジョブへの影響はありません。

【利用者の処置】

起動に失敗したジョブステップの終了コードを、ジョブ履歴またはmjsviewコマンドで確認してください。“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”で終了コードの意味を参照し、失敗した原因を取り除いてください。

【システム管理者の処置】

起動に失敗したジョブステップの終了コードを、ジョブ履歴またはmjsviewコマンドで確認してください。“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”で終了コードの意味を参照し、失敗した原因を取り除いてください。

問題が解消しない場合は、保守情報収集ツールで“ジョブ実行制御”の情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

ジョブ実行制御:ジョブステップ jobstep は強制終了操作、または、ジョブ実行制御サービスの停止によって強制終了しました。終了コードは 0x40000222 です。

【メッセージの意味】

ジョブステップは強制終了操作、または、ジョブ実行制御サービスの停止によって強制終了しました。

【パラメタの意味】

jobstep:JCLで指定するジョブステップ名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000222”で終了します。

【利用者の処置】

必要に応じて再度ジョブを投入してください。

ジョブ実行制御:ジョブステップ jobstep はジョブの実行経過時間の制限値を超えたため強制終了しました。終了コードは 0x40000322 です。

【メッセージの意味】

ジョブステップは実行経過時間の制限値を超えたため強制終了しました。

【パラメタの意味】

jobstep:JCLで指定するジョブステップ名

【システムの処理】

処理を中止します。ジョブは終了コード“0x40000322”で終了します。

【利用者の処置】

必要に応じて再度ジョブを投入してください。

3.10 業務連携コマンドの出力メッセージ

本節では、業務連携コマンドの出力メッセージについて説明します。業務連携のエラーメッセージは、業務連携コマンドが終了したときに標準出力に出力されます。

3.10.1 業務連携コマンドの出力メッセージについて

業務連携コマンドの出力メッセージは以下のように分類されています。

ファイル制御コマンドの出力メッセージ

サーバファイル転送コマンド(**FCOPYSVR.EXE**)の出力メッセージ

本メッセージについては、以下を参照してください。

- “3.10.2 共通メッセージ”の【出力対象コマンド】に、“サーバ連携共通コマンド”と記載されているメッセージ
- “3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”の[出力対象コマンド]に、“サーバファイル転送コマンド”と記載されているメッセージ

クライアントファイル転送コマンド(**FCOPYCLI.EXE**)の出力メッセージ

本メッセージについては、以下を参照してください。

- “3.10.2 共通メッセージ”の【出力対象コマンド】に、“クライアント連携共通コマンド”と記載されているメッセージ
- “3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”の[出力対象コマンド]に、“クライアントファイル転送コマンド”と記載されているメッセージ

サーバファイル操作コマンド(**FCTRLSVR.EXE**)の出力メッセージ

本メッセージについては、以下を参照してください。

- “3.10.2 共通メッセージ”の【出力対象コマンド】に、“サーバ連携共通コマンド”と記載されているメッセージ
- “3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”の【出力対象コマンド】に、“サーバファイル操作コマンド”と記載されているメッセージ

クライアントファイル操作コマンド(**FCTRLCLI.EXE**)の出力メッセージ

本メッセージについては、以下を参照してください。

- “3.10.2 共通メッセージ”の【出力対象コマンド】に、“クライアント連携共通コマンド”と記載されているメッセージ
- “3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”の【出力対象コマンド】に、“クライアントファイル操作コマンド”と記載されているメッセージ

サーバファイル圧縮/伸長コマンド(**FPRSSVR.EXE**)の出力メッセージ

本メッセージについては、以下を参照してください。

- “3.10.2 共通メッセージ”の【出力対象コマンド】に、“サーバ連携共通コマンド”と記載されているメッセージ

- “3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”の【出力対象コマンド】に、“サーバファイル圧縮/伸長コマンド”と記載されているメッセージ

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド(FPRSCLI.EXE)の出力メッセージ

本メッセージについては、以下を参照してください。

- “3.10.2 共通メッセージ”の【出力対象コマンド】に、“クライアント連携共通コマンド”と記載されているメッセージ
- “3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”の【出力対象コマンド】に、“クライアントファイル圧縮/伸長コマンド”と記載されているメッセージ

アプリケーション起動コマンドの出力メッセージ

サーバアプリケーション起動コマンド(EXECASVR.EXE)の出力メッセージ

本メッセージについては、以下を参照してください。

- “3.10.2 共通メッセージ”の【出力対象コマンド】に、“サーバ連携共通コマンド”と記載されているメッセージ
- “3.10.4 アプリケーション起動コマンドの出力メッセージ”の[出力対象コマンド]に、“サーバアプリケーション起動コマンド”と記載されているメッセージ

クライアントアプリケーション起動コマンド(EXECACLI.EXE)の出力メッセージ

本メッセージについては、以下を参照してください。

- “3.10.2 共通メッセージ”の【出力対象コマンド】に、“クライアント連携共通コマンド”と記載されているメッセージ
- “3.10.4 アプリケーション起動コマンドの出力メッセージ”の[出力対象コマンド]に、“クライアントアプリケーション起動コマンド”と記載されているメッセージ

クライアント電源制御コマンドの出力メッセージ

クライアント電源投入コマンド(PONCLI.EXE)の出力メッセージ

本メッセージについては、以下を参照してください。

- “3.10.5 クライアント電源制御コマンドの出力メッセージ”の【出力対象コマンド】に、“クライアント電源投入コマンド”と記載されているメッセージ

クライアント電源切断コマンド(POFFCLI.EXE)の出力メッセージ

本メッセージについては、以下を参照してください。

- “3.10.2 共通メッセージ”の【出力対象コマンド】に、“クライアント連携共通コマンド”と記載されているメッセージ
- “3.10.5 クライアント電源制御コマンドの出力メッセージ”の[出力対象コマンド]に、“クライアント電源切断コマンド”と記載されているメッセージ

リモートアクセス制御コマンドの出力メッセージ

リモートアクセス制御コマンド(RASCLI.EXE)の出力メッセージ

本メッセージについては、以下を参照してください。

- “3.10.2 共通メッセージ”の【出力対象コマンド】に、“サーバ連携共通コマンド”と記載されているメッセージ
- “3.10.6 リモートアクセス制御コマンドの出力メッセージ”に記載されているメッセージ

パスワード管理コマンドの出力メッセージ

パスワード管理コマンド(LGMANAGE.EXE)の出力メッセージ

本メッセージについては、以下を参照してください。

- “3.10.7 パスワード管理コマンドの出力メッセージ”に記載されているメッセージ

3.10.2 共通メッセージ

本項では、サーバ連携共通コマンドおよびクライアント連携共通コマンドのメッセージについて説明します。サーバ連携共通コマンドおよびクライアント連携共通コマンドは、以下のコマンドで出力されるメッセージで共通しています。

- ファイル制御コマンド
- アプリケーション起動コマンド
- クライアント電源制御コマンド
- リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0x2404 (YYY): ディスクが空き不足のため処理を続行できません。

【メッセージの意味】

ディスクの空き容量が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ディスクの空き容量を確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2405 (YYY): メモリ不足のため処理を続行できません。

【メッセージの意味】

使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

他のアプリケーションを終了してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2407 (YYY): 業務連携エンジンが終了処理を開始しています。

【メッセージの意味】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)が終了処理中のため、要求された処理は開始できません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)が再起動するのを待って、再度実行してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x240b (YYY): 初期化に必要なメモリを獲得できません。

【メッセージの意味】

使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x240c (YYY): ホームディレクトリ名情報を取得できません。

【メッセージの意味】

レジストリ情報が異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2413 (YYY): ロギングスレッドを起動できません。

【メッセージの意味】

スレッドの開始処理に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2416 (YYY): 管理ファイル格納ディレクトリが存在しません。

【メッセージの意味】

管理ファイル用テンポラリファイルの作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2418 (YYY): サーバ業務連携エンジンレジストリキーのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

レジストリ情報が異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2419 (YYY): スケジュール処理部の初期処理中です。

【メッセージの意味】

スケジュール処理部の初期処理中なため、要求された処理は開始できません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから、再度処理を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x241b (YYY): テンポラリファイルの作成に失敗しました。

【メッセージの意味】

テンポラリファイルの作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアのインストールドライブの空き容量を確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x241c (YYY): ログデータ生成用メモリの獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x241d (YYY): ログデータバッファリング用メモリの獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2421 (YYY): 疑似インタプリタ管理スレッドの起動に失敗しました。

【メッセージの意味】

要求された処理を実行するためのスレッド生成に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2429 (YYY): テンポラリファイルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

テンポラリファイルのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアのインストールディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x242a (YYY): テンポラリファイルへの書き込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

テンポラリファイルへの書き込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアのインストールディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x242b (YYY): テンポラリファイルの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

テンポラリファイルの読み込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアのインストールディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x242f (YYY): 指定されたファイルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

ログ情報出力ファイルのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアのインストールディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2430 (YYY): 指定されたファイルへの書き込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

ログ情報出力ファイルへの書込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアのインストールディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2431 (YYY): 指定されたファイルの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

ログ情報出力ファイルの読込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアのインストールディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2433 (YYY): スケジュール処理部で、F3csjmsc.dllのロードに失敗しました。

【メッセージの意味】

メッセージリソースモジュール「F3csjmsc.dll」のロードに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2602 (YYY): メモリが足りなくなりました。

【メッセージの意味】

使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2604 (YYY): スケジュール処理が強制終了されました。

【メッセージの意味】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)でコマンドからの依頼処理中に、コマンド強制終了により処理を中止しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2870 (YYY): 業務連携エンジン 業務連携接続スレッドで、制御パス確立要求の待ち合わせに失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークの設定を確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2871 (YYY): 業務連携エンジン 業務連携接続スレッドで、制御パス管理ヒープ領域が足りなくなりました。

【メッセージの意味】

ヒープ領域が足りなくなりました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2872 (YYY): 業務連携エンジン 業務連携接続スレッドで、制御パス確立要求の受信確認に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2873 (YYY): 業務連携エンジン 業務連携接続スレッドで、制御パス確立受付けソケットに例外事象が発生しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2874 (YYY): 業務連携エンジン 業務連携接続スレッドで、制御パス確立要求の受信に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2875 (YYY): 業務連携エンジン 業務連携接続スレッドで、業務連携エンジン 業務連携サービススレッドの生成に失敗しました。

【メッセージの意味】

スレッドの生成に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2876 (YYY): 業務連携エンジン 業務連携接続スレッドで、業務連携エンジン 業務連携サービススレッドの開始に失敗しました。

【メッセージの意味】

スレッドの開始処理に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2880 (YYY): 業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、制御パス管理ヒープ領域が足りなくなりました。

【メッセージの意味】

ヒープ領域が足りなくなりました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2881 (YYY): 業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、制御パス受付けソケットに異常が発生しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2882 (YYY): 業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、制御パス受付けソケットに例外事象が発生しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2883 (YYY): 業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、要求データの受信に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能

- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2884 (YYY): 業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、不正な長さの要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワーク機器に障害が発生した可能性があります。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2885 (YYY): 業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、サポートしていないバージョンの要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

業務連携コマンドとサーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)のバージョンが異なっています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2886 (YYY): 業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、サポートしていないレベルの要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

業務連携コマンドとサーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)のバージョンレベルが異なっています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x28a0 (YYY): イベント情報を組み立てるためのメモリ領域が、ローカルヒープから獲得できませんでした。

【メッセージの意味】

使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x28b0 (YYY): ソケット(SOCK_STREAM)の獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ソケット(SOCK_STREAM)の獲得に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークのインストール状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x28b1 (YYY): ソケット(SOCK_STREAM)の解放に失敗しました。

【メッセージの意味】

ソケット(SOCK_STREAM)の獲得に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x28b2 (YYY): ヒープ領域の作成に失敗しました。

【メッセージの意味】

ヒープ領域の作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x28b6 (YYY): ファイル検索ハンドルの解放に失敗しました。

【メッセージの意味】

ファイル検索ハンドルの解放に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x28b7 (YYY): ファイル作成ハンドルの解放に失敗しました。

【メッセージの意味】

ファイル作成ハンドルの解放に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x28b8 (YYY): ローカルヒープからのメモリ領域の獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ヒープ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x28b9 (YYY): ローカルヒープへのメモリ領域の解放に失敗しました。

【メッセージの意味】

ローカルヒープへのメモリ領域の解放に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x28ba (YYY): 通信制御部でF3csjmsg.dllのロードに失敗しました。

【メッセージの意味】

メッセージリソースモジュール「F3csjmsg.dll」のロードに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x28bb (YYY): 通信制御部でエラーメッセージ用のメモリ領域の獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x292f (YYY): サポートしていない機能の要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワーク機器に障害が発生した可能性があります。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2930 (YYY): サポートしていないバージョンの要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

業務連携コマンドとサーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)のバージョンが異なっています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2931 (YYY): サポートしていないレベルの要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

業務連携コマンドとサーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)のバージョンレベルが異なっています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2932 (YYY): 不正な要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

不正なデータ(パケット)を受信しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワーク機器に障害が発生した可能性があります。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2933 (YYY): 不正な長さの要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

不正なデータ(パケット)を受信しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワーク機器に障害が発生した可能性があります。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2947 (YYY): 無効なユーザ名が指定されました。

【メッセージの意味】

Windows(R) 2000、Windows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EE、またはWindows Server 2008が動作している1台のコンピュータに対して、複数の異なるユーザで同時に接続しようとしました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

Windows(R) 2000、Windows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EE、またはWindows Server 2008に接続するユーザ名を統一してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

同時に動作しているジョブを調査し、Windows(R) 2000、Windows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EE、またはWindows Server 2008が動作している1台のコンピュータに対しての接続で、ユーザ名が異なっていないかを確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2951 (YYY): 指定されたパスが見つかりません。

【メッセージの意味】

指定したファイル／ディレクトリパスが無効です。指定したパスを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定したファイル／ディレクトリパスが無効です。指定したパスが存在するように設定しなおした後、再度コマンドを実行してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2952 (YYY): 指定されたファイルが見つかりません。

【メッセージの意味】

指定したファイルが見つかりません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定したファイルが見つかりません。指定したファイル／ディレクトリパスが存在するように設定しなおした後、再度コマンドを実行してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2955 (YYY): 指定されたディレクトリが見つかりません。

【メッセージの意味】

指定したディレクトリが見つかりません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定したディレクトリが見つかりません。指定したディレクトリパスが存在するように設定しなおした後、再度コマンドを実行してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2956 (YYY): 指定されたディレクトリが既に存在します。

【メッセージの意味】

指定したディレクトリが既に存在します。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定したディレクトリは既に存在しています。存在しない別のディレクトリを指定しなおした後、再度実行してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2957 (YYY): 指定されたファイルが既に存在します。

【メッセージの意味】

指定したファイルが既に存在します。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ファイル名変更で、変更先ファイル名に指定したファイルが存在しないように設定しなおした後、再度コマンドを実行してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2958 (YYY): 指定されたパス名はファイル名ではありません。

【メッセージの意味】

指定したパス名はファイル名ではありません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定したパス名はファイル名ではありません。指定したパス名がファイル名となるように設定しなおした後、再度実行してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x295b (YYY): 指定されたパス名はディレクトリ名ではありません。

【メッセージの意味】

指定したパス名はディレクトリ名ではありません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定したパス名はディレクトリ名ではありません。指定したパス名がディレクトリとなるように設定しなおした後、再度実行してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2962 (YYY): 指定された第一ボリューム情報の獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

転送元ファイルの情報獲得に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

転送元ファイルの状態を確認してください。現象が不定期に発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ローカルドライブの場合

アクセス権限などの設定が正しいかを確認してください。

ネットワークドライブの場合

ネットワークの状態を確認してください。

現象が不定期に発生する場合

発生時間帯のDNSの状態の確認と、同時に動作している他のジョブやアプリケーションが異なるユーザで対象コンピュータにアクセスしていないかを確認してください。

原因が特定できない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- ”クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2963 (YYY): 指定された第二ボリューム情報の獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

転送先ファイルの情報獲得に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

転送先ファイルの状態を確認してください。現象が不定期に発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ローカルドライブの場合

アクセス権限などの設定が正しいかを確認してください。

ネットワークドライブの場合

ネットワークの状態を確認してください。

現象が不定期に発生する場合

発生時間帯のDNSの状態の確認と、同時に動作している他のジョブやアプリケーションが異なるユーザで対象コンピュータにアクセスしていないかを確認してください。

原因が特定できない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- ”クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2965 (YYY): 指定された第一ファイルの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

転送元ファイルの読込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

転送元ファイルの状態を確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2966 (YYY): 指定された第二ファイルの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

転送先ファイルの読込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

転送先ファイルの状態を確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x296a (YYY): 指定されたパスの検索に失敗しました。

【メッセージの意味】

指定したパスの検索に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したパスを確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2974 (YYY): 共有ディレクトリへの接続に失敗しました。

【メッセージの意味】

共有ディレクトリへの接続に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

共有名やユーザ名、パスワード指定を確認してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークの状態を確認してください。現象が不定期に発生する場合、発生時間帯のDNSの状態の確認と、同時に動作している他のジョブやアプリケーションが異なるユーザで対象コンピュータにアクセスしていないかを確認してください。

原因が特定できない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2976 (YYY): ファイル転送に失敗しました。

【メッセージの意味】

ファイル転送に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定した転送元パス、転送先パスを確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x297f (YYY): ファイルの削除に失敗しました。

【メッセージの意味】

ファイルの削除に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したファイルパスを確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2980 (YYY): ファイル名の変更に失敗しました。

【メッセージの意味】

ファイル名の変更に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したファイルパスを確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2983 (YYY): ディレクトリの作成に失敗しました。

【メッセージの意味】

ディレクトリの作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したディレクトリパスを確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2984 (YYY): ディレクトリの削除に失敗しました。

【メッセージの意味】

ディレクトリの削除に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したディレクトリパスを確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x298a (YYY): サーバアプリケーションの起動に失敗しました。

【メッセージの意味】

サーバアプリケーションの起動に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したファイルパスを確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2997 (YYY): ツリー情報作成用のヒープ領域が足りなくなりました。

【メッセージの意味】

業務連携コマンドが一度に扱うことのできるファイル数の上限に達したため、ファイル操作に使用するツリー情報作成用のヒープ領域が足りなくなりました。

業務連携コマンドが扱うファイル数の上限は以下となります。

- サーバ業務連携の場合

  同時に実行されている他のサーバ業務連携コマンドで扱われているファイルを含め、合計500ファイルまでです。

- クライアント業務連携の場合

  同じクライアントに対して、同時に実行するクライアント業務連携コマンドで扱うファイル数を含め、合計500ファイルまでです。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下のいずれか、または、両方の対処を行い、業務連携コマンドが一度に扱うファイル数が500ファイル以下となるようにし、再度実行してください。

- 業務連携コマンドで一度に扱うファイル数を複数回に分けてください。
- 同時に複数のファイルを扱う業務連携コマンドが他にある場合は、他の業務連携コマンドと処理を行うタイミングが重ならないようにしてください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x29a2 (YYY): 第一ファイルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

転送元ファイルのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

転送元ファイルの状態を確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x29a3 (YYY): 第二ファイルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

転送先ファイルのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

転送先ファイルの状態を確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x29a4 (YYY): 第二ファイルへの書き込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

転送先ファイルへの書込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

転送先ファイルの状態を確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x29b4 (YYY): F3csjrcX.dll のロードに失敗しました。

【メッセージの意味】

RAS制御用DLLのロードに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x29b5 (YYY): F3csjrcX.dll のアンロードに失敗しました。

【メッセージの意味】

RAS制御用DLLのアンロードに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x29cd (YYY): ログオンに失敗しました。

【メッセージの意味】

コンピュータへのログオンに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したユーザ名/パスワードを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバアプリケーション起動コマンドで指定したユーザに対して、サービスとしてログオンの権限が設定されているかを確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x29d0 (YYY): インターネットに接続が失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPファイル操作時に、インターネットへの接続に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x29d1 (YYY): FTPサーバのログインに失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPサーバのログインに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

FTPサーバ名/ユーザ名/パスワードを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

以下を確認してください。

- FTPサーバの状態
- ファイアウォールの設定(ファイアウォールを介して接続を行っている場合)
- FTPサーバのログイン設定(ユーザのロックなど、指定したユーザがFTPサーバにログインできない設定になっていないか)

なお、FTPサーバ名およびユーザ名は、本メッセージと同時に出力されるメッセージで確認することができます。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x29d4 (YYY): FTPサーバ上でディレクトリの作成に失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPサーバ上でディレクトリの作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したディレクトリパスを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

FTPサーバ上で指定したディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x29d5 (YYY): FTPサーバ上でディレクトリの削除に失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPサーバ上でディレクトリの削除に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したディレクトリパスを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

FTPサーバ上で指定したディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x29d6 (YYY): FTPサーバ上でファイルの削除に失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPサーバ上でファイルの削除に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したファイルパスを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

FTPサーバ上で指定したファイルやディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x29d7 (YYY): FTPサーバへのファイル送信に失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPサーバへのファイル送信に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定した転送元パス、転送先パスを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

FTPサーバ上で指定したファイルやディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x29d8 (YYY): FTPサーバからのファイル受信に失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPサーバからのファイル受信に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定した転送元パス、転送先パスを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

FTPサーバ上で指定したファイルやディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x29f0 (YYY): 通信制御部が停止処理を開始しました。

【メッセージの意味】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)の通信制御部が停止処理を開始したため、要求された処理は開始できません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)が再起動するのを待って、再度実行してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x29f1 (YYY): 通信制御部でスケジュール処理の強制終了を実行しました。

【メッセージの意味】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)の通信制御部で、強制終了により処理を中止しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x2e05 (YYY): メモリが不足しています。

【メッセージの意味】

ファイル圧縮/伸長処理で、使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

他のアプリケーションを終了してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

0x2e05 (YYY): メモリが不足しています。

【メッセージの意味】

ファイル圧縮/伸長処理で、使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステム上の他のアプリケーションを終了させてください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0x2e10 (YYY): テンポラリファイルの作成に失敗しました。

【メッセージの意味】

ファイル圧縮/伸長処理で、テンポラリファイルの作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

圧縮/伸長先に指定したドライブが使用可能か、また空き容量が十分にあるか確認してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

圧縮/伸長先に指定したドライブの状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

クライアント連携共通コマンド

0x2e12 (YYY): テンポラリファイルの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

ファイル圧縮/伸長処理で、テンポラリファイルの読み込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

圧縮/伸長先に指定したドライブが使用可能か、また空き容量が十分にあるか確認してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

圧縮/伸長先に指定したドライブの状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

クライアント連携共通コマンド

0x2e13 (YYY): テンポラリファイルの書き込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

ファイル圧縮/伸長処理で、テンポラリファイルの書き込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

圧縮/伸長先に指定したドライブが使用可能か、また空き容量が十分にあるか確認してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

圧縮/伸長先に指定したドライブの状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

クライアント連携共通コマンド

0x2e21 (YYY): 圧縮元ファイルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

圧縮元ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

圧縮元に指定したファイルが正しいか、他のアプリケーションから使用されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x2e22 (YYY): 圧縮元ファイルの情報が取得できません。

【メッセージの意味】

圧縮元ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

0x2e22 (YYY): 圧縮元ファイルの情報が取得できません。

【メッセージの意味】

圧縮元ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しないときはシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0x2e31 (YYY): 圧縮先ファイルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

圧縮先ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

圧縮先ファイルに指定したファイルが正しいか、他のアプリケーションから使用されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

クライアント連携共通コマンド

0x2e33 (YYY): 圧縮先ファイルの書き込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

圧縮先ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

圧縮先ファイルが書き込み可能か、他のアプリケーションから使用されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド/クライアント連携共通コマンド

0x2e34 (YYY): 圧縮先ファイルの操作に失敗しました。

【メッセージの意味】

圧縮先ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

クライアント連携共通コマンド

0x2e41 (YYY): 伸長元ファイルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

伸長元ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

伸長元ファイルに指定したファイルが正しいか、他のアプリケーションから使用されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

クライアント連携共通コマンド

0x2e50 (YYY): 伸長元ファイルの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

伸長元ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

伸長元ファイルに指定したファイルが正しいか、他のアプリケーションから使用されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x2e51 (YYY): 伸長元ファイルの操作に失敗しました。

【メッセージの意味】

伸長元ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能

- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

0x2e51 (YYY): 伸長元ファイルの操作に失敗しました。

【メッセージの意味】

伸長元ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しないときはシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0x2e52 (YYY): 伸長元ファイルの形式が違います。

【メッセージの意味】

伸長できないファイルを指定しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

伸長元ファイルが圧縮機能によって正しく圧縮されたファイルか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

クライアント連携共通コマンド

0x2e53 (YYY): 伸長元ファイルが壊れています。

【メッセージの意味】

伸長元ファイルが壊れているため、伸長処理が行えませんでした。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

伸長元ファイルが圧縮機能によって正しく圧縮されたファイルか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

クライアント連携共通コマンド

0x2e54 (YYY): 伸長先ファイルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

伸長先ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

伸長先ファイルに指定したファイルが正しいか、他のアプリケーションから使用されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

クライアント連携共通コマンド

0x2e60 (YYY): 伸長先ファイルの書き込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

伸長先ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

伸長先ファイルに指定したファイルが書き込み禁止ではないか、他のアプリケーションから使用されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

クライアント連携共通コマンド

0x2e61 (YYY): 伸長先ファイルの操作に失敗しました。

【メッセージの意味】

伸長先ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x4101 (YYY): 連携ライブラリのスケジュール処理が強制終了されました。

【メッセージの意味】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)の連携ライブラリで、強制終了により処理を中止しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

0x4101 (YYY): 連携ライブラリのスケジュール処理が強制終了されました。

【メッセージの意味】

クライアント業務連携の連携ライブラリで、強制終了により処理を中止しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x4102 (YYY): 連携ライブラリで通信処理の開始に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークのインストールを確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

0x4102 (YYY): 連携ライブラリで通信処理の開始に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定した先のクライアントで動作しているクライアント業務連携を再起動してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

Operation Managerのサーバとクライアント業務連携がインストールされているそれぞれの端末について、ネットワークのインストールを確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x4103 (YYY): 連携ライブラリでローカルホスト名の獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークのインストールを確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

0x4103 (YYY): 連携ライブラリでローカルホスト名の獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

Operation Managerのサーバとクライアント業務連携がインストールされているそれぞれの端末について、ネットワークのインストールを確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能

- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x4104 (YYY): 連携ライブラリでヒープ領域の作成に失敗しました。

【メッセージの意味】

ヒープ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x4104 (YYY): 連携ライブラリでヒープ領域の作成に失敗しました。

【メッセージの意味】

ヒープ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定した先のクライアントで動作しているクライアント業務連携を再起動してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x4105 (YYY): 連携ライブラリでレジストリのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

レジストリ情報が異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x4105 (YYY): 連携ライブラリでレジストリのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

レジストリ情報が異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定した先のクライアントにクライアント業務連携を再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x410c (YYY): 連携ライブラリでソケットの獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x410c (YYY): 連携ライブラリでソケットの獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定した先のクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバ対象クライアントを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0x410c (YYY): 連携ライブラリでソケットの獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定した先のクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバ対象クライアントを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x410e (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンとの制御パスの接続に失敗しました。

【メッセージの意味】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)に接続できません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

Systemwalker MpNjsosvサービスが起動しているかどうか確認してください。起動していない場合は、サービスの起動を行ってください。ネットワークの設定が正しいかを確認してください。また、他のアプリケーションとの間でTCP/IPのポート競合が発生していないかも確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

0x410e (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンとの制御パスの接続に失敗しました。

【メッセージの意味】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントで、クライアント業務連携が起動されていないか、またはネットワークに異常があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定した先のクライアントで、クライアント業務連携が起動されているか確認してください。また、ネットワークの設定が正しいか、他のアプリケーションとの間でTCP/IPのポート競合が発生していないかも確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x410f (YYY): 連携ライブラリで制御パスが業務連携エンジンから切断されました。

【メッセージの意味】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)が終了処理中か、終了している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)を再起動してから、再度コマンドを実行してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[UNIX]0x410f (YYY): 連携ライブラリで制御パスが業務連携エンジンから切断されました。

【メッセージの意味】

クライアント業務連携が終了処理中か、終了している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携を再起動してから、再度コマンドを実行してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x4110 (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンへの要求データの送信確認に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x4110 (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンへの要求データの送信確認に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0x4110 (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンへの要求データの送信確認に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x4111 (YYY): 連携ライブラリの業務連携エンジンへの要求データの送信で例外事象が発生しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x4111 (YYY): 連携ライブラリの業務連携エンジンへの要求データの送信で例外事象が発生しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0x4111 (YYY): 連携ライブラリの業務連携エンジンへの要求データの送信で例外事象が発生しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x4112 (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンへの要求データの送信がタイムアウトしました。

【メッセージの意味】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)が正常に動作していないか、ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)が正常に動作しているか確認してください。また、ネットワークのインストール状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x4112 (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンへの要求データの送信がタイムアウトしました。

【メッセージの意味】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントで、クライアント業務連携が起動されていないか、またはネットワークに異常があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定した先のクライアントで、クライアント業務連携を再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定した先のクライアントを再起動してください。その後、クライアント業務連携の起動を行ってください。また、クライアントのネットワークのインストール状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0x4112 (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンへの要求データの送信がタイムアウトしました。

【メッセージの意味】

クライアント業務連携が正常に動作していない可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携が正常に動作しているか確認してください。また、クライアントのネットワークのインストール状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x4113 (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンへの要求データの送信に失敗しました。

【メッセージの意味】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)が正常に動作していないか、ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)が正常に動作しているか確認してください。また、ネットワークのインストール状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x4113 (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンへの要求データの送信に失敗しました。

【メッセージの意味】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントで、クライアント業務連携が起動されていないか、またはネットワークに異常があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントで、クライアント業務連携を再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定した先のクライアントを再起動してください。その後、クライアント業務連携の起動を行ってください。また、クライアントのネットワークのインストール状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0x4113 (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンへの要求データの送信に失敗しました。

【メッセージの意味】

クライアント業務連携が正常に動作していないか、ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携が正常に動作しているか確認してください。また、クライアントのネットワークのインストール状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x4114 (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンからの応答データの受信確認に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x4114 (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンからの応答データの受信確認に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0x4114 (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンからの応答データの受信確認に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x4115 (YYY): 連携ライブラリの業務連携エンジンからの応答データの受信で例外事象が発生しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x4115 (YYY): 連携ライブラリの業務連携エンジンからの応答データの受信で例外事象が発生しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0x4115 (YYY): 連携ライブラリの業務連携エンジンからの応答データの受信で例外事象が発生しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x4116 (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンからの応答データの受信がタイムアウトしました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

再度、業務連携コマンドを実行してください。問題が解決しない場合はシステム管理者へ連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)が正常に動作しているか確認してください。また、ネットワークのインストール状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x4116 (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンからの応答データの受信がタイムアウトしました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)が正常に動作しているか確認してください。また、クライアントのネットワークのインストール状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0x4116 (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンからの応答データの受信がタイムアウトしました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携が正常に動作しているか確認してください。また、クライアントのネットワークのインストール状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x4117 (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンからの応答データの受信に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能

- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x4117 (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンからの応答データの受信に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0x4117 (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンからの応答データの受信に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能

- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0x411a (YYY): 連携ライブラリでメモリが足りなくなりました。

【メッセージの意味】

使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

サーバ上の他の不要なアプリケーションを停止してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバ上の他の不要なアプリケーションを停止してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x411a (YYY): 連携ライブラリでローカルヒープが足りなくなりました。

【メッセージの意味】

ヒープ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x411a (YYY): 連携ライブラリでローカルヒープが足りなくなりました。

【メッセージの意味】

ヒープ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x411b (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンレジストリキーのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

レジストリ情報が異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x411b (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンレジストリキーのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

レジストリ情報が異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバの本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x411c (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンレジストリキーからの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

レジストリ情報が異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x411c (YYY): 連携ライブラリで業務連携エンジンレジストリキーからの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

レジストリ情報が異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバの本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x411d (YYY): 連携ライブラリでF3csjmsg.dllのロードに失敗しました。

【メッセージの意味】

メッセージリソースモジュール「F3csjmsg.dll」のロードに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x411d (YYY): 連携ライブラリでF3csjmsg.dllのロードに失敗しました。

【メッセージの意味】

メッセージリソースモジュール「F3csjmsg.dll」のロードに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムにクライアント業務連携を再インストールしてください。問題が解決しない場合、サーバに本ソフトウェアを再インストールしてください。これらの処置を行っても問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x4120 (YYY): ログ情報を格納する領域の獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x4120 (YYY): ログ情報を格納する領域の獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0x4120 (YYY): ログ情報を格納する領域の獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x421f (YYY): 中断要求により処理を停止しました。

【メッセージの意味】

コマンドが強制終了により処理を中止しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

0x421f (YYY): 中断要求により処理を停止しました。

【メッセージの意味】

ユーザからの要求に応じて、処理を中断しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0x5201 (YYY): RAS制御部に不正なパラメタが指定されました。

【メッセージの意味】

要求された処理のパラメタが不正です。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタ文字が正しいか確認してください。また、エントリ名指定がシステムに登録されている名前と同じかも確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x5203 (YYY): RAS制御部にサポートしていないオプションが指定されました。

【メッセージの意味】

サポートしていないオプションが指定されました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

異なるバージョンレベルのコマンドがインストールされています。本ソフトウェアの再インストールを行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x5204 (YYY): RAS制御部でローカルヒープが足りなくなりました。

【メッセージの意味】

RAS制御部でローカルヒープが足りなくなりました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x5206 (YYY): RAS制御部で[RASAPI32.DLL]のロードに失敗しました。

【メッセージの意味】

ダイヤルアップネットワークサービスがインストールされていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ダイヤルアップネットワークサービスをインストールしてください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x5207 (YYY): RAS制御部で[RASAPI32.DLL]のアンロードに失敗しました。

【メッセージの意味】

RAS制御部で[RASAPI32.DLL]のアンロードに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x5209 (YYY): RAS制御部でRAS接続の確立に失敗しました。

【メッセージの意味】

RAS接続で、回線の接続に失敗したか、接続が拒否されました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

- エントリ名/ユーザ名/パスワード/ドメイン名が正しいか確認してください。
- /PN:や/CN:を指定した場合、電話番号も確認してください。
- 回線が使用中の場合、リトライを設定してください。

問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

- エントリ指定した電話番号が正常に使用できるか確認してください。
- エントリやリモートアクセスサーバに正しいモデムが選択されているか確認してください。
- 接続先コンピュータのリモートアクセスサーバ上で指定したユーザの設定やコールバックの設定を確認してください。
- エントリおよび接続先コンピュータのリモートアクセスサーバ上のプロトコルの設定を確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x520a (YYY): RAS制御部でRAS接続の切断に失敗しました。

【メッセージの意味】

RAS接続の切断で、切断を行えませんでした。既に切断されている可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したエントリでRAS接続を行っているか確認してください。また、他のジョブやアプリケーションで切断を行っていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x520b (YYY): RAS制御部でRAS接続情報の獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

RAS制御部でメモリ不足が発生しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x520c (YYY): 有効なRAS接続がありません。

【メッセージの意味】

RAS切断を要求されましたが、有効なRAS接続がありません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したエントリでRAS接続を行っているか確認してください。また、他のジョブやアプリケーションで切断を行っていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

[Windows]0x520d (YYY): 要求されたRAS接続が見つかりません。

【メッセージの意味】

RAS切断を要求されましたが、要求されたRAS接続が見つかりません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したエントリでRAS接続を行っているか確認してください。また、他のジョブやアプリケーションで切断を行っていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバ連携共通コマンド

0xa404 (YYY): ディスクが空き不足のため処理を続行できません。

【メッセージの意味】

ディスクの空き容量が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ディスクの空き容量を確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa405 (YYY): メモリ不足のため処理を続行できません。

【メッセージの意味】

使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

他のアプリケーションを終了してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0xa407 (YYY): クライアント業務連携エンジンが終了処理を開始しています。

【メッセージの意味】

クライアント業務連携が終了処理中のため、要求された処理は開始できません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステム上で、クライアント業務連携を起動して、再度実行してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0xa407 (YYY): 業務連携エンジンが終了処理を開始しています。

【メッセージの意味】

クライアント業務連携が終了処理中のため、要求された処理は開始できません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステム上で、クライアント業務連携を起動して、再度実行してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa40b (YYY): 初期化に必要なメモリを獲得できません。

【メッセージの意味】

使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa40c (YYY): ホームディレクトリ名情報を取得できません。

【メッセージの意味】

レジストリ情報が異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムにクライアント業務連携を再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa413 (YYY): ロギングスレッドを起動できません。

【メッセージの意味】

スレッドの開始処理に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa416 (YYY): 管理ファイル格納ディレクトリが存在しません。

【メッセージの意味】

管理ファイル用テンポラリファイルの作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムにクライアント業務連携を再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0xa418 (YYY): クライアント業務連携エンジンレジストリキーのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

レジストリ情報が異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムにクライアント業務連携を再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0xa418 (YYY): 業務連携エンジンレジストリキーのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

レジストリ情報が異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムにクライアント業務連携を再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa419 (YYY): スケジュール処理部の初期処理中です。

【メッセージの意味】

スケジュール処理部の初期処理中なため、要求された処理は開始できません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

しばらく待ってから、再度処理を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa41c (YYY): ログデータ生成用メモリの獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa41d (YYY): ログデータバッファリング用メモリの獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa421 (YYY): 疑似インタプリタ管理スレッドの起動に失敗しました。

【メッセージの意味】

要求された処理を実行するためのスレッド生成に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa429 (YYY): テンポラリファイルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

テンポラリファイルのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアのインストールディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa42a (YYY): テンポラリファイルへの書き込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

テンポラリファイルへの書き込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアのインストールディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa42b (YYY): テンポラリファイルの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

テンポラリファイルの読み込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアのインストールディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa42f (YYY): 指定されたファイルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

ログ情報出力ファイルのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアのインストールディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa430 (YYY): 指定されたファイルへの書き込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

ログ情報出力ファイルへの書込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアのインストールディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa431 (YYY): 指定されたファイルの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

ログ情報出力ファイルの読込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアのインストールディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa604 (YYY): スケジュール処理が強制終了されました。

【メッセージの意味】

クライアント業務連携でコマンドからの依頼処理中に、コマンド強制終了により処理を中止しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa870 (YYY): クライアント業務連携エンジン 業務連携接続スレッドで、制御パス確立要求の待ち合わせに失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークの設定を確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa871 (YYY): クライアント業務連携エンジン 業務連携接続スレッドで、制御パス管理ヒープ領域が足りなくなりました。

【メッセージの意味】

ヒープ領域が足りなくなりました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa872 (YYY): クライアント業務連携エンジン 業務連携接続スレッドで、制御パス確立要求の受信確認に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0xa873 (YYY): クライアント業務連携エンジン 業務連携接続スレッドで、制御パス確立受付けソケットに例外事象が発生しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0xa873 (YYY):業務連携エンジン 業務連携接続スレッドで、制御パス確立受付けソケットに例外事象が発生しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0xa874 (YYY): クライアント業務連携エンジン 業務連携接続スレッドで、制御パス確立要求の受信に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0xa874 (YYY):業務連携エンジン 業務連携接続スレッドで、制御パス確立要求の受信に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0xa875 (YYY): クライアント業務連携エンジン 業務連携接続スレッドで、クライアント業務連携エンジン 業務連携サービススレッドの生成に失敗しました。

【メッセージの意味】

スレッドの生成に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0xa875 (YYY):業務連携エンジン 業務連携接続スレッドで、クライアント業務連携エンジン 業務連携サービススレッドの生成に失敗しました。

【メッセージの意味】

スレッドの生成に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0xa876 (YYY): クライアント業務連携エンジン 業務連携接続スレッドで、クライアント業務連携エンジン 業務連携サービススレッドの開始に失敗しました。

【メッセージの意味】

スレッドの開始処理に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0xa876 (YYY):業務連携エンジン 業務連携接続スレッドで、クライアント業務連携エンジン 業務連携サービススレッドの開始に失敗しました。

【メッセージの意味】

スレッドの開始処理に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0xa880 (YYY): クライアント業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、制御パス管理ヒープ領域が足りなくなりました。

【メッセージの意味】

ヒープ領域が足りなくなりました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0xa880 (YYY):業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、制御パス管理ヒープ領域が足りなくなりました。

【メッセージの意味】

ヒープ領域が足りなくなりました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0xa881 (YYY): クライアント業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、制御パス受付けソケットに異常が発生しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0xa881 (YYY):業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、制御パス受付けソケットに異常が発生しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0xa882 (YYY): クライアント業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、制御パス受付けソケットに例外事象が発生しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0xa882 (YYY):業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、制御パス受付けソケットに例外事象が発生しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0xa883 (YYY): クライアント業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、要求データの受信に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0xa883 (YYY):業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、要求データの受信に失敗しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0xa884 (YYY): クライアント業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、不正な長さの要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワーク機器に障害が発生した可能性があります。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0xa884 (YYY):業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、不正な長さの要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークの状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0xa885 (YYY): クライアント業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、サポートしていないバージョンの要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

業務連携コマンドとクライアント業務連携のバージョンが異なっています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムにクライアント業務連携を再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0xa885 (YYY):業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、サポートしていないバージョンの要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

業務連携コマンドとクライアント業務連携のバージョンが異なっています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムにクライアント業務連携を再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能

- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0xa886 (YYY): クライアント業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、サポートしていないレベルの要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

業務連携コマンドとクライアント業務連携のバージョンレベルが異なっています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムにクライアント業務連携を再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[UNIX]0xa886 (YYY):業務連携エンジン 業務連携サービススレッドで、サポートしていないレベルの要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

業務連携コマンドとクライアント業務連携のバージョンレベルが異なっています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムにクライアント業務連携を再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa8a0 (YYY): イベント情報を組み立てるためのメモリ領域が、ローカルヒープから獲得できませんでした。

【メッセージの意味】

使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa8b0 (YYY): ソケット(SOCK_STREAM)の獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ソケット(SOCK_STREAM)の獲得に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムのネットワークのインストール状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa8b1 (YYY): ソケット(SOCK_STREAM)の解放に失敗しました。

【メッセージの意味】

ソケット(SOCK_STREAM)の獲得に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa8b2 (YYY): ヒープ領域の作成に失敗しました。

【メッセージの意味】

ヒープ領域の作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa8b6 (YYY): ファイル検索ハンドルの解放に失敗しました。

【メッセージの意味】

ファイル検索ハンドルの解放に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa8b7 (YYY): ファイル作成ハンドルの解放に失敗しました。

【メッセージの意味】

ファイル作成ハンドルの解放に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa8b8 (YYY): ローカルヒープからのメモリ領域の獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ヒープ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa8b9 (YYY): ローカルヒープへのメモリ領域の解放に失敗しました。

【メッセージの意味】

ローカルヒープへのメモリ領域の解放に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa8ba (YYY): 通信制御部でF3csjmsg.dllのロードに失敗しました。

【メッセージの意味】

メッセージリソースモジュール「F3csjmsg.dll」のロードに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa8bb (YYY): 通信制御部でエラーメッセージ用のメモリ領域の獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

使用可能なメモリ領域が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムを再起動してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa92f (YYY): サポートしていない機能の要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

ネットワークが異常な可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワーク機器に障害が発生した可能性があります。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa930 (YYY): サポートしていないバージョンの要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

業務連携コマンドとクライアント業務連携のバージョンが異なっています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムにクライアント業務連携を再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、富士通技術員までご連絡ください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa931 (YYY): サポートしていないレベルの要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

業務連携コマンドとクライアント業務連携のバージョンレベルが異なっています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムにクライアント業務連携を再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa932 (YYY): 不正な要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

不正なデータ(パケット)を受信しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワーク機器に障害が発生した可能性があります。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa933 (YYY): 不正な長さの要求データを受信しました。

【メッセージの意味】

不正なデータ(パケット)を受信しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワーク機器に障害が発生した可能性があります。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa947 (YYY): 無効なユーザ名が指定されました。

【メッセージの意味】

Windows(R) 2000、Windows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EE、またはWindows Server 2008が動作している1台のコンピュータに対して、複数の異なるユーザで同時に接続しようとしました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

Windows(R) 2000、Windows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EE、またはWindows Server 2008に接続するユーザ名を統一してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

同時に動作しているジョブを調査し、Windows(R) 2000、Windows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EE、またはWindows Server 2008が動作している1台のコンピュータに対しての接続で、ユーザ名が異なっていないかを確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa951 (YYY): 指定されたパスが見つかりません。

【メッセージの意味】

指定したファイル/ディレクトリパスが無効です。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定したファイル／ディレクトリパスが無効です。指定したパスが存在するように設定しなおした後、再度コマンドを実行してください

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa952 (YYY): 指定されたファイルが見つかりません。

【メッセージの意味】

指定したファイルが見つかりません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定したファイルが見つかりません。指定したファイル／ディレクトリパスが存在する正しいパスになるように設定しなおした後、再度コマンドを実行してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa955 (YYY): 指定されたディレクトリが見つかりません。

【メッセージの意味】

指定したディレクトリが見つかりません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定したディレクトリが見つかりません。指定したディレクトリが存在するディレクトリになるように設定しなおした後、再度コマンドを実行してください

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa956 (YYY): 指定されたディレクトリが既に存在します。

【メッセージの意味】

指定したディレクトリが既に存在します。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定したディレクトリは既に存在しています。存在しない別のディレクトリ名を指定しなおした後、再度実行してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa957 (YYY): 指定されたファイルが既に存在します。

【メッセージの意味】

指定したファイルが既に存在します。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ファイル名変更で、変更先ファイル名に指定したファイルが存在しないように設定しなおした後、再度コマンドを実行してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa958 (YYY): 指定されたパス名はファイル名ではありません。

【メッセージの意味】

指定したパス名はファイル名ではありません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定したパス名はファイル名ではありません。指定したパス名がファイル名となるように設定しなおした後、再度実行してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa95b (YYY): 指定されたパス名はディレクトリ名ではありません。

【メッセージの意味】

指定したパス名はディレクトリ名ではありません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定したパス名はディレクトリ名ではありません。指定したパス名がディレクトリとなるように設定しなおした後、再度コマンドを実行してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa962 (YYY): 指定された第一ボリューム情報の獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

転送元ファイルの情報獲得に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

転送元ファイルの状態を確認してください。現象が不定期に発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ローカルドライブの場合

アクセス権限などの設定が正しいかを確認してください。

ネットワークドライブの場合

ネットワークの状態を確認してください。

現象が不定期に発生する場合

発生時間帯のDNSの状態の確認と,同時に動作している他のジョブやアプリケーションが異なるユーザで対象コンピュータにアクセスしていないかを確認してください。

原因が特定できない場合は保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa963 (YYY): 指定された第二ボリューム情報の獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

転送先ファイルの情報獲得に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

転送先ファイルの状態を確認してください。現象が不定期に発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ローカルドライブの場合

アクセス権限などの設定が正しいかを確認してください。

ネットワークドライブの場合

ネットワークの状態を確認してください。

現象が不定期に発生する場合

発生時間帯のDNSの状態の確認と,同時に動作している他のジョブやアプリケーションが異なるユーザで対象コンピュータにアクセスしていないかを確認してください。

原因が特定できない場合は保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa965 (YYY): 指定された第一ファイルの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

転送元ファイルの読込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

転送元ファイルの状態を確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa966 (YYY): 指定された第二ファイルの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

転送先ファイルの読込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

転送先ファイルの状態を確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa96a (YYY): 指定されたパスの検索に失敗しました。

【メッセージの意味】

指定したパスの検索に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したパスを確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa974 (YYY): 共有ディレクトリへの接続に失敗しました。

【メッセージの意味】

共有ディレクトリへの接続に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

共有名やユーザ名、パスワード指定を確認してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワーク機器に障害が発生した可能性があります。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa976 (YYY): ファイル転送に失敗しました。

【メッセージの意味】

ファイル転送に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定した転送元パス、転送先パスを確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa97f (YYY): ファイルの削除に失敗しました。

【メッセージの意味】

ファイルの削除に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したファイルパスを確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa980 (YYY): ファイル名の変更に失敗しました。

【メッセージの意味】

ファイル名の変更に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したファイルパスを確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa983 (YYY): ディレクトリの作成に失敗しました。

【メッセージの意味】

ディレクトリの作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したディレクトリパスを確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa984 (YYY): ディレクトリの削除に失敗しました。

【メッセージの意味】

ディレクトリの削除に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したディレクトリパスを確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa98a (YYY): アプリケーションの起動に失敗しました。

【メッセージの意味】

アプリケーションの起動に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

- 指定したファイルパスを確認してください。
- /aeパラメタに、実行可能なアプリケーションのファイル(拡張子がexeまたはbat)を指定してください。

  拡張子がtxtやwsfのファイルは、Windowsで拡張子に関連付けされているアプリケーションから実行されます。

  拡張子がtxtの場合は“notepad.exe”、拡張子がwsfの場合は“WScript.exe”が実行可能なアプリケーション名となります。

  例:

  クライアント“hostname”のc:¥data¥data1.txtをノートパッドによって起動する場合

  #/opt/FJSVsnjss/bin/execacli hostname /ae:c:¥¥windows¥¥notepad.exe c:¥¥data¥¥data1.txt

  この場合の実行時のカレントディレクトリは、c:¥¥windowsとなります。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa98b (YYY): 待ち合わせのタイムアウト時刻は既に過ぎています。

【メッセージの意味】

サーバとクライアントの時刻がずれている可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

クライアントの時刻設定を見直してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

サーバの時刻設定を見直してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa98f (YYY): 通知イベントの待ち合わせがタイムアウトしました。

【メッセージの意味】

execacli アプリケーション起動コマンドの/we:オプションで指定した時間(秒)内に指定したアプリケーションの処理が完了しませんでした。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

- /we:オプションの指定値を大きくしてください。
- アプリケーションが指定時間内に処理が完了するかを確認してください。
- 画面操作を伴うアプリケーションなど、処理時間が不定なアプリケーションを起動する場合、/we:オプションの指定を削除してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

[Windows]0xa997 (YYY): ツリー情報作成用のヒープ領域が足りなくなりました。

【メッセージの意味】

ファイル操作に使用するツリー情報作成用のヒープ領域が足りなくなりました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

一度に処理を行う対象のファイルを複数回に処理を分け、再度実行してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa99b (YYY): 対象コンピュータが見つかりません。

【メッセージの意味】

処理を要求した対象コンピュータが見つかりません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

- 対象クライアント名の指定が正しいか確認してください。
- 対象クライアント上でクライアント業務連携が起動しているか確認してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

対象ホスト名がDNSやジョブを実行しているサーバのHOSTSファイル等に登録されているかを確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa9a2 (YYY): 第一ファイルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

転送元ファイルのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

転送元ファイルの状態を確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa9a3 (YYY): 第二ファイルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

転送先ファイルのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

転送先ファイルの状態を確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa9a4 (YYY): 第二ファイルへの書き込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

転送先ファイルへの書込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

転送先ファイルの状態を確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa9d0 (YYY): インターネットに接続が失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPファイル操作時に、インターネットへの接続に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携コマンドのパラメタに指定したクライアントのシステムにクライアント業務連携を再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa9d1 (YYY): FTPサーバのログインに失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPサーバのログインに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

FTPサーバ名/ユーザ名/パスワードを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

以下を確認してください。

- FTPサーバの状態
- ファイアウォールの設定(ファイアウォールを介して接続を行っている場合)
- FTPサーバのログイン設定(ユーザのロックなど、指定したユーザがFTPサーバにログインできない設定になっていないか)

なお、FTPサーバ名およびユーザ名は、本メッセージと同時に出力されるメッセージで確認することができます。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa9d4 (YYY): FTPサーバ上でディレクトリの作成に失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPサーバ上でディレクトリの作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したディレクトリパスを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

FTPサーバ上で指定したディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa9d5 (YYY): FTPサーバ上でディレクトリの削除に失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPサーバ上でディレクトリの削除に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したディレクトリパスを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

FTPサーバ上で指定したディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa9d6 (YYY): FTPサーバ上でファイルの削除に失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPサーバ上でファイルの削除に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したファイルパスを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

FTPサーバ上で指定したファイルやディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa9d7 (YYY): FTPサーバへのファイル送信に失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPサーバへのファイル送信に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定した転送元パス、転送先パスを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

FTPサーバ上で指定したファイルやディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa9d8 (YYY): FTPサーバからのファイル受信に失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPサーバからのファイル受信に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定した転送元パス、転送先パスを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

FTPサーバ上で指定したファイルやディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa9db (YYY): シャットダウンの権利を持っていません。

【メッセージの意味】

シャットダウンを行うための権限が不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

対象クライアントでシャットダウン権限を持ったユーザでログインしなおしてください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa9dc (YYY): シャットダウン処理に失敗しました。

【メッセージの意味】

シャットダウン対象コンピュータの状態を確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

対象クライアント上で、アプリケーションのデータ保存などが表示されていないか確認してください。アプリケーションのデータ保存を待つ必要がない場合は、/EFオプションを指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa9f0 (YYY): 通信制御部が停止処理を開始しました。

【メッセージの意味】

クライアント業務連携の通信制御部が停止処理を開始したため、要求された処理は開始できません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

対象クライアント上で、クライアント業務連携を起動して、再度実行してください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa9f1 (YYY): 通信制御部でスケジュール処理の強制終了を実行しました。

【メッセージの意味】

クライアント業務連携の通信制御部でコマンドからの依頼処理中に、コマンド強制終了により処理を中止しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

0xa9f4 (YYY): 関連付けされた実行可能ファイル名の取得に失敗しました。

【メッセージの意味】

/AE:オプションで指定するアプリケーション名に誤りがあります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定したアプリケーション名を確認してください。起動するアプリケーション名に空白を含む場合は、その両端をダブルクォーテーション「“”」で囲んでください。

【出力対象コマンド】

クライアント連携共通コマンド

3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ

本項では、以下のファイル制御コマンドの出力メッセージについて説明します。サーバ連携共通コマンドおよびクライアント連携共通コマンドの出力メッセージについては、“3.10.2 共通メッセージ”を参照してください。

- サーバファイル転送コマンド
- クライアントファイル転送コマンド
- サーバファイル操作コマンド
- クライアントファイル操作コマンド
- サーバファイル圧縮/伸長コマンド
- クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

0xA9E8 (YYY): ログインの定義情報の取得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ログインの定義情報の取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

再度、業務連携コマンドを実行してください。

問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

再度、業務連携コマンドを実行してください。

再度実行してもエラーとなる場合は、パスワード管理簿のデータが破損している可能性があります。

パスワード管理簿の登録ユーザを削除し、登録しなおしてください。

パスワード管理簿については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。

その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

クライアントファイル操作コマンド

[Windows]0xb001: コマンドパラメータに重複があります。

【メッセージの意味】

同じコマンドパラメータが重複して指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

重複するコマンドパラメータを取り除いてください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

クライアントファイル操作コマンド

サーバアプリケーション起動コマンド

クライアントアプリケーション起動コマンド

クライアント電源切断コマンド

リモートアクセス制御

[Windows]0xb001: 転送元パス名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/S:オプションで指定するファイルパス名の書式に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ファイルパス名を正しく設定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

クライアントファイル転送コマンド

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[Windows]0xb002: コマンドパラメータが不足しています。

【メッセージの意味】

コマンドを実行する上でパラメータが不足しています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

必要なパラメータをすべて指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

クライアントファイル操作コマンド

[Windows]0xb002: 転送先パス名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/D:オプションで指定するファイルパス名の書式に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ファイルパス名を正しく設定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

クライアントファイル転送コマンド

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[Windows]0xb003 : RCオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ回数指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/RC:オプションには0～99までの数値を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

クライアントファイル操作コマンド

サーバアプリケーション起動コマンド

クライアント電源切断コマンド

リモートアクセス制御

[Windows]0xb003: ホスト名が指定されていません。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータにホスト名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドの第一パラメータにホスト名を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[Windows]0xb004 : RIオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ間隔指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/RI:オプションには0～9999までの数値を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

クライアントファイル操作コマンド

サーバアプリケーション起動コマンド

クライアントアプリケーション起動コマンド

クライアント電源切断コマンド

[Windows]0xb004: 転送先アクセスユーザのパスワード取得に失敗しました。

【メッセージの意味】

転送先ユーザ名・ログイン定義名の指定に誤りがあるか、またはパスワード管理簿に該当するユーザが登録されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パスワード管理簿に登録されたユーザを指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

クライアントファイル転送コマンド

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[Windows]0xb005: スレッド生成に失敗しました。

【メッセージの意味】

OS側でリソースの不足、その他のOS内部異常が発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

OSの動作環境を見直してください。エラーとなる原因が不明な場合は保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

クライアントファイル操作コマンド

サーバアプリケーション起動コマンド

クライアントアプリケーション起動コマンド

クライアント電源切断コマンド

リモートアクセス制御

[Windows]0xb005: 転送元アクセスユーザのパスワード取得に失敗しました。

【メッセージの意味】

転送元ユーザ名・ログイン定義名の指定に誤りがあるか、またはパスワード管理簿に該当するユーザが登録されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パスワード管理簿を確認し、登録されているユーザを指定してください。未登録の場合は、登録をしてください。

パスワード管理簿については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

クライアントファイル転送コマンド

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[Windows]0xb006: コマンドパラメータが不足しています。

【メッセージの意味】

正しいコマンドパラメータが指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを修正してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

クライアントファイル転送コマンド

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[Windows]0xb006: メッセージ通知により中断しました。

【メッセージの意味】

コマンドが強制終了により処理を中止しました。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

クライアントファイル操作コマンド

サーバアプリケーション起動コマンド

クライアントアプリケーション起動コマンド

クライアントアプリケーション起動コマンド

[Windows]0xb007: コマンドパラメータに重複があります。

【メッセージの意味】

同じコマンドパラメータが重複して指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

重複するコマンドパラメータを取り除いてください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

クライアントファイル転送コマンド

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[Windows]0xb007: 業務連携エンジンへの処理開始要求が受け付けられませんでした。

【メッセージの意味】

以下のいずれかの現象が発生しました。

- サーバ上でサーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)が起動されていません。
- 指定したクライアント上でクライアント業務連携が起動されていません。
- 指定したクライアントが見つかりません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

- 指定したクライアントのホスト名を確認してください。
- 指定したクライアント上でクライアント業務連携を起動してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

- サーバ上でサーバ業務連携エンジン(Systemwalker MpNjsosvサービス)を起動してください。
- 利用者の指定したクライアントのホスト名でpingコマンドが正常に動作するか確認してください。
- Windowsのファイアウォール等で通信を遮断していないか等、ネットワークの状態を確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

クライアントファイル操作コマンド

サーバアプリケーション起動コマンド

クライアント電源切断コマンド

リモートアクセス制御

[Windows]0xb008：RCオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ回数指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/RC:オプションには0～99までの数値を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

クライアントファイル転送コマンド

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[Windows]0xb009：RIオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ間隔指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/RI:オプションには0～9999までの数値を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

クライアントファイル転送コマンド

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[Windows]0xb009: ユーザのパスワード取得に失敗しました。

【メッセージの意味】

転送先ユーザ名・ログイン定義名の指定に誤りがあるか、またはパスワード管理簿に該当するユーザが登録されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パスワード管理簿を確認し、登録されているユーザを指定してください。未登録の場合は、登録をしてください。

パスワード管理簿については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

クライアントファイル操作コマンド

リモートアクセス制御

[Windows]0xb00a：RCオプションとRIオプションの片方が指定されていません。

【メッセージの意味】

/RCオプションが指定があり/RIオプションが指定されていないか、/RIオプションが指定があり/RCオプションが指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リトライ指定する場合は、/RC、/RI両オプションを指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

クライアントファイル転送コマンド

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

サーバアプリケーション起動コマンド

クライアントアプリケーション起動コマンド

クライアント電源切断コマンド

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb00b：/Aオプションと/Bオプションが同時指定されています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに/A、/Bの両オプションが指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータには/A、/Bのいずれかを指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

クライアントファイル転送コマンド

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[Windows]0xb00b：AオプションとBオプションが同時指定されています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに/A、/Bの両オプションが指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータには/A、/Bのいずれかを指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[Windows]0xb00b：PオプションとEオプションが同時指定されています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに/P/Eの両オプションが指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

圧縮処理時は /P、伸長処理時は /E のみ指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル伸長/圧縮コマンド

クライアントファイル伸長/圧縮コマンド

[Windows]0xb00c: スレッド生成に失敗しました。

【メッセージの意味】

OS側でリソースの不足、その他のOS内部異常が発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

OSの動作環境を見直してください。エラーとなる原因が不明な場合は保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

クライアントファイル転送コマンド

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[Windows]0xb00c: 操作内容が指定されていません。

【メッセージの意味】

操作指定オプションの指定が行われていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

操作指定オプションとして/DELETE、/RENAME、/MKDIR、/RMDIR のいずれかを指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

クライアントファイル操作コマンド

[Windows]0xb00d: パス名の指定がありません。

【メッセージの意味】

/F:オプションがないか、パス名の指定がありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/F:オプションにパス名を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

クライアントファイル操作コマンド

[Windows]0xb00d: メッセージ通知により中断しました。

【メッセージの意味】

コマンドが強制終了により処理を中止しました。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

クライアントファイル転送コマンド

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[Windows]0xb00e: リネームファイル名の指定がありません。

【メッセージの意味】

/FN:オプションがないか、ファイル名の指定がありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/FN:オプションおよびファイル名を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

クライアントファイル操作コマンド

[Windows]0xb00e: 転送元と転送先ともにFTPサーバが指定されています。

【メッセージの意味】

/S:/D オプション両方にFTPサーバパス指定をしています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

転送元と転送先の両方にFTPサーバを指定することができません。いずれかをローカルドライブパス指定かユニバーサルパス指定に変更してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

クライアントファイル転送コマンド

[Windows]0xb00f: パス名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/F:オプションに無効なパス名が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいパス名を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

クライアントファイル操作コマンド

[Windows]0xb00f: 業務連携エンジンへの処理開始要求が受け付けられませんでした。

【メッセージの意味】

コンピュータ上に業務連携サービス(Systemwalker MpNjsosv)が起動されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

業務連携サービス(Systemwalker MpNjsosv)を起動してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[Windows]0xb00f: 業務連携エンジンへの処理開始要求が受け付けられませんでした。

【メッセージの意味】

- サーバ上で業務連携サービス(Systemwalker MpNjsosv)が起動されていません。

- 指定したクライアント上でクライアント業務連携が起動されていません。
- 指定したクライアントが見つかりません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

- 指定したクライアントのホスト名を確認してください。
- 指定したクライアント上でクライアント業務連携を起動してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

- サーバ上で業務連携サービス(Systemwalker MpNjsosv)を起動してください。
- 利用者の指定したクライアントのホスト名でpingコマンドが正常に動作するか確認してください。
- クライアントとサーバのmpnjsoclのポート番号を変更している場合は、両方のポート番号を一致するようにしてください。
- Windowsのファイアウォール等で通信を遮断していないか等、ネットワークの状態を確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[Windows]0xb00f: 業務連携エンジンへの処理開始要求が受け付けられませんでした。

【メッセージの意味】

コンピュータ上に業務連携サービス(Systemwalker MpNjsosv)が起動されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携サービス(Systemwalker MpNjsosv)を起動してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[Windows]0xb010：PオプションかEオプションの指定が必要です。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに圧縮か伸長かの指定がありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

圧縮処理時は /P、伸長処理時は /E を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[Windows]0xb010: ユーザ名またはログイン定義名の指定がありません。

【メッセージの意味】

/UN:、/LG:オプションの片方または両方が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/UN:、/LG:オプションを両方とも指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

クライアントファイル操作コマンド

[Windows]0xb010: 無効なパラメータが指定されています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに使用できないオプションが指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを見直してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

クライアントファイル転送コマンド

[Windows]0xb011: 転送元ユーザ名が指定されていません。

【メッセージの意味】

/SU:オプションが指定されていない、または/SU:オプションにユーザ名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/SU:オプションとユーザ名を正しく指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

クライアントファイル転送コマンド

[Windows]0xb011: 無効なパラメータが指定されています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに使用できないオプションが指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを見直してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

クライアントファイル操作コマンド

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

クライアント電源切断コマンド

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb012: ホスト名が指定されていません。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータにホスト名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドの第一パラメータにホスト名を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[Windows]0xb012: 転送先ユーザ名が指定されていません。

【メッセージの意味】

/DU:オプションが指定されていない、または/DU:オプションにユーザ名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/DU:オプションとユーザ名を正しく指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

クライアントファイル転送コマンド

[Windows]0xb013: ログイン定義名が指定されていません。

【メッセージの意味】

/LG:オプションが指定されていない、または/LG:オプションにログイン定義名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/LG:オプションとパスワード管理簿に定義したログイン定義名を正しく指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

クライアントファイル転送コマンド

[Windows]0xb015: ホスト名の指定がありません。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータにクライアント業務連携のホスト名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドの第一パラメータにホスト名を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[Windows]0xb015: ホスト名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータのホスト名が正しく指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ホスト名の長さや無効な文字列がないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

クライアント電源切断コマンド

[Windows]0xb015: ユーザ名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/UN:オプションのユーザ名の指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/UN:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

クライアントファイル操作コマンド

[Windows]0xb015: 転送先ユーザ名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/DU:オプションのユーザ名の指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/DU:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[Windows]0xb016: ホスト名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータのホスト名が正しく指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ホスト名の長さや無効な文字列がないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[Windows]0xb016: リネームファイル名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/FN:オプションのファイル名の指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/FN:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[Windows]0xb016: 転送元ユーザ名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/SU:オプションのユーザ名の指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/SU:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[Windows]0xb016: 転送元ユーザ名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/SU:オプションのユーザ名の指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/SU:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[Windows]0xb017: リネームファイル名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/FN:オプションのファイル名の指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/FN:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[Windows]0xb017: ログイン定義名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/LG:オプションのログイン定義名の指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/LG:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[Windows]0xb017: 転送先ユーザ名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/DU:オプションのユーザ名の指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/DU:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[Windows]0xb018：/A、/BオプションはFTP転送以外では無効です。

【メッセージの意味】

FTP転送以外で/Aか/Bオプションが指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/A、/Bオプションを取り除いてください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[Windows]0xb018: ホスト名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

ホスト名パラメータの指定が誤っています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ホスト名に無効な文字がないか、文字の長さは問題ないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[Windows]0xb019: ログイン定義名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/LG:オプションのログイン定義名の指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/LG:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb01a：/A、/BオプションはFTP転送以外では無効です。

【メッセージの意味】

FTP転送以外で/Aか/Bオプションが指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/A、/Bオプションを取り除いてください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xb105 (YYY): メモリが不足しています。

【メッセージの意味】

メモリが不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

不要なアプリケーションを終了させてください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

物理メモリを増設するか、スワップの設定を変更してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb106 (YYY): テンポラリファイルの作成に失敗しました。

【メッセージの意味】

ファイルの圧縮/伸長に必要なテンポラリファイルの作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。

- /tmpにファイルを書き込めるパーミッションがあるか
- /tmpのディスク容量が不足していないか

問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡ください。

【システム管理者の処置】

以下の点を確認してください。

- /tmpのパーミッション設定に問題がないか
- /tmpのディスク容量が不足していないか

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb107 (YYY): テンポラリファイルの操作に失敗しました。

【メッセージの意味】

テンポラリファイルの操作に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

umask の値が、ユーザの書き込めない設定になっていないか確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡ください。

【システム管理者の処置】

/tmpのディスク容量が不足していないか確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb108 (YYY): テンポラリファイルの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

テンポラリファイルの読み込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/tmpのパーミッション設定に問題がないかを確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【システム管理者の処置】

/tmpのパーミッション設定を変更してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb109 (YYY): テンポラリファイルの書き込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

テンポラリファイルの書き込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。/tmpのディスク容量が不足していないかを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡ください。

【システム管理者の処置】

/tmpのディスク容量を確保してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb111 (YYY): 圧縮元ファイルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

圧縮元ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。

- 圧縮元に指定したファイルが正しいか
- 他のアプリケーションから使用されていないか
- 圧縮元ファイルパーミッション設定に問題がないか

問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡ください。

【システム管理者の処置】

パーミッション設定を変更してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb112 (YYY): 圧縮元ファイルの情報が取得できません。

【メッセージの意味】

圧縮元ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

圧縮元ファイルが存在するディレクトリのパーミッションを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡ください。

【システム管理者の処置】

パーミッション設定を変更してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb115 (YYY): 圧縮先ファイルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

圧縮先ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。

- 圧縮先ファイルに指定したファイルが正しいか
- 他のアプリケーションから使用されていないか
- 圧縮先ファイルやディレクトリのパーミッション設定に問題はないか

問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡ください。

【システム管理者の処置】

圧縮先ファイルやディレクトリのパーミッション設定を変更してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb117 (YYY): 圧縮先ファイルの書き込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

圧縮先ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。

- 圧縮先ファイルやディレクトリのパーミッション設定に問題はないか
- 他のアプリケーションから使用されていないか

問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡ください。

【システム管理者の処置】

圧縮先ファイルやディレクトリのパーミッション設定を変更してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb118 (YYY): 圧縮先ファイルの操作に失敗しました。

【メッセージの意味】

圧縮先ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb120 (YYY): 伸長元ファイルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

伸長元ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。

- 伸長元ファイルに指定したファイルが正しいか
- 他のアプリケーションから使用されていないか
- 伸長元ファイルやディレクトリのパーミッション設定に問題はないか

問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡ください。

【システム管理者の処置】

伸長元ファイルやディレクトリのパーミッション設定を変更してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb121 (YYY): 伸長元ファイルの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

伸長元ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。

- 伸長元ファイルに指定したファイルが正しいか
- 他のアプリケーションから使用されていないか

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb122 (YYY): 伸長元ファイルの操作に失敗しました。

【メッセージの意味】

伸長元ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb123 (YYY): 伸長元ファイルの形式が違います。

【メッセージの意味】

伸長できないファイルを指定しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

伸長元ファイルが圧縮機能によって正しく圧縮されたファイルか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb124 (YYY): 伸長元ファイルが壊れています。

【メッセージの意味】

伸長元ファイルが壊れているため、伸長処理が行えませんでした。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

伸長元ファイルが圧縮機能によって正しく圧縮されたファイルか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb125 (YYY): 伸長先ファイルのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

伸長先ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。

- 伸長先ファイルに指定したファイルが正しいか
- 他のアプリケーションから使用されていないか
- 伸長先ファイルやディレクトリのパーミッション設定に問題はないか

問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡ください。

【システム管理者の処置】

伸長先ファイルやディレクトリのパーミッション設定を変更してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb126 (YYY): 伸長先ファイルの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

伸長先ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。

- 伸長先ファイルに指定したファイルが正しいか
- 他のアプリケーションから使用されていないか

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb127 (YYY): 伸長先ファイルの書き込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

伸長先ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。

- 伸長先ファイルやディレクトリのパーミッション設定に問題はないか
- 他のアプリケーションから使用されていないか

問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡ください。

【システム管理者の処置】

伸長先ファイルやディレクトリのパーミッション設定を変更してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb128 (YYY): 伸長先ファイルの操作に失敗しました。

【メッセージの意味】

伸長先ファイルを確認してください。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xb501 (YYY): 転送元パス名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/s:オプションで指定するファイルパス名の書式に誤りがあります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタに指定した転送元のファイルパス名を正しく設定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb502 (YYY): 転送先パス名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/d:オプションで指定するファイルパス名の書式に誤りがあります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パラメタに指定した転送元のファイルパス名を正しく設定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb503 (YYY): 転送先ユーザのパスワード取得に失敗しました。

【メッセージの意味】

転送元ユーザ名・ログイン定義名の指定に誤りがあるか、またはパスワード管理簿に該当するユーザが登録されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パスワード管理簿を確認し、登録されているユーザを指定してください。未登録の場合は、登録をしてください。

パスワード管理簿については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb504 (YYY): 転送元ユーザのパスワード取得に失敗しました。

【メッセージの意味】

転送元ユーザ名・ログイン定義名の指定に誤りがあるか、またはパスワード管理簿に該当するユーザが登録されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パスワード管理簿を確認し、登録されているユーザを指定してください。未登録の場合は、登録をしてください。

パスワード管理簿については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb505 (YYY): コマンドパラメータが不足しています。

【メッセージの意味】

正しいコマンドパラメータが指定されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを修正してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb506 (YYY): コマンドパラメータに重複があります。

【メッセージの意味】

同じコマンドパラメータが重複して指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

重複するコマンドパラメータを取り除いてください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb507 (YYY) : rcオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ回数指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/rc:オプションには0～99までの値を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb508 (YYY) : riオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ間隔指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/ri:オプションには0～9999までの値を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb509 (YYY) : rcオプションとriオプションの片方が指定されていません。

【メッセージの意味】

/rcオプションの指定があり /riオプションが指定されていないか、/riオプションの指定があり /rcオプションが指定されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リトライ指定する場合は、/rc、/ri両オプションを指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb50a (YYY) : /aオプションと/bオプションが同時指定されています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに/a、/bの両オプションが指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータには/a、/bのいずれかを指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb50b (YYY): 中断要求により処理をキャンセルしました。

【メッセージの意味】

コマンドが強制終了により処理を中止しました。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb50c (YYY): 転送元と転送先ともにFTPサーバが指定されています。

【メッセージの意味】

/s: /d:オプションともにFTPのパスが指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/s: /d:オプションのどちらかをFTP以外のパス名に変更してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb50d (YYY): 無効なパラメータが指定されています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに使用できないオプションが指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを見直してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb50e (YYY): 転送元ユーザ名が指定されていません。

【メッセージの意味】

/su:オプションが指定されていない、または/su:オプションにユーザ名が指定されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/su:オプションとユーザ名を正しく指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb50f (YYY): 転送先ユーザ名が指定されていません。

【メッセージの意味】

/du:オプションが指定されていない、または/du:オプションにユーザ名が指定されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/du:オプションとユーザ名を正しく指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb510 (YYY): ログイン定義名が指定されていません。

【メッセージの意味】

/lg:オプションが指定されていない、または/lg;オプションにログイン定義名が指定されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/lg:オプションとログイン定義名を正しく指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb511 (YYY): 転送先ユーザ名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/du:オプションのユーザ名の指定に誤りがあります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/du:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb512 (YYY): 転送元ユーザ名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/su:オプションのユーザ名の指定に誤りがあります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/su:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb513 (YYY): ログイン定義名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/lg:オプションのログイン定義名の指定に誤りがあります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/lg:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーババファイル転送コマンド

[UNIX]0xb514 (YYY) : /a, /bオプションはFTP転送以外では無効です。

【メッセージの意味】

FTP転送以外で/aか/bオプションが指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/a、/bオプションを取り除いてください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb521 (YYY) : FTPサーバにログインできませんでした。

【メッセージの意味】

FTPサーバへの接続・ログイン処理に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

FTPサーバ名/ユーザ名/パスワードを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

以下の点を確認してください。

- FTPサーバの状態
- ファイアウォールを介して接続を行っている場合には、ファイアウォールの設定
- FTPサーバ上に利用者のアカウントが正しく設定されているか

- FTPサーバ上に利用者のアカウントに対して、アクセス制限されていないか

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb522 (YYY): ファイル受信に失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPサーバからローカルコンピュータへのファイル転送に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

転送元パス名・転送先パス名が正しいか、ユーザ名が正しいか確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

転送元と転送先で以下を確認してください。

- 業務連携コマンドが送信するファイルに対してファイルのアクセス制限が行われていないか。
- 業務連携コマンドが送信するファイルに対して、他のアプリケーションが操作をしていないか。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb523 (YYY): ファイル送信に失敗しました。

【メッセージの意味】

ローカルコンピュータからFTPサーバへのファイル転送に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

転送元パス名・転送先パス名が正しいか、ユーザ名が正しいか確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

転送元と転送先で以下を確認してください。

- 業務連携コマンドが送信するファイルに対してファイルのアクセス制限が行われていないか。
- 業務連携コマンドが送信するファイルに対して、他のアプリケーションが操作をしていないか。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb528 (YYY) : FTPサーバ上のファイル検索に失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPサーバ上でファイル名の検索に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パス名が正しいか、ユーザ名が正しいか確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

FTPサーバ側でファイルのアクセス制限が行われていないか確認してください。FTPサーバ上のファイルパーミッション設定を確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb529 (YYY) : FTPサーバ上のファイル一覧生成に失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPサーバのファイル検索結果の一覧生成(内部処理)に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

不要なアプリケーションを終了させてください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

物理メモリを増設するか、スワップの設定を変更してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb52a (YYY): ファイルコピーに失敗しました。

【メッセージの意味】

ローカルコンピュータ上でのファイルコピーに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パス名が正しいか、パーミッション設定に問題がないか確認してください。

【システム管理者の処置】

ディスク容量が不足していないか、ファイルシステムに異常がないか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb52b (YYY): 転送元ファイルが見つかりません。

【メッセージの意味】

パラメータで指定したファイルが見つかりません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パス名が正しいか、ファイルが存在するか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb52c (YYY): メモリ不足です。

【メッセージの意味】

メモリ不足のため異常終了しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

不要なアプリケーションを終了させてください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

物理メモリを増設するか、スワップの設定を変更してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb52d (YYY): ローカルファイル作成に失敗しました。

【メッセージの意味】

ファイルの書き込みができませんでした。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パス名が正しいかを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

以下の点を確認してください。

- ディスク容量が不足していないか
- 指定ファイルに異常が発生していないか

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb52e (YYY): ローカルファイル読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

ローカルコンピュータ上のファイル読み込みができませんでした。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パス名が正しいか、ファイルが存在するか確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

指定ファイルに異常が発生していないかを確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb52f (YYY): コピー元パスのアクセスに失敗しました。

【メッセージの意味】

転送元のパス名で指定したファイルにアクセスできませんでした。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パス名が正しいか、ファイルが存在するか確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

パスで指定したディレクトリのパーミッションが、利用者に対して読み込み禁止になっていないかを確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb530 (YYY): コピー先パスのアクセスに失敗しました。

【メッセージの意味】

転送先のパス名で指定したファイル・ディレクトリにアクセスできませんでした。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パス名が正しいか、既にファイルが存在しかつファイルが使用中でないか確認してください。

【システム管理者の処置】

パスで指定したディレクトリのパーミッションが、利用者に対して書き込み禁止になっていないかを確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb531 (YYY): 中断依頼により処理をキャンセルしました。

【メッセージの意味】

コマンドが強制終了により処理を中止しました。

【出力対象コマンド】

サーバファイル転送コマンド

[UNIX]0xb601 (YYY): コマンドパラメータに重複があります。

【メッセージの意味】

同じコマンドパラメータが重複して指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

重複するコマンドパラメータを取り除いてください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb602 (YYY): コマンドパラメータが不足しています。

【メッセージの意味】

正しいコマンドパラメータが指定されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを修正してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb603 (YYY) : rcオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ回数指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/rc:オプションには0～99までの値を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb604 (YYY) : riオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ間隔指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/ri:オプションには0～9999までの値を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb605 (YYY): 中断要求により処理をキャンセルしました。

【メッセージの意味】

コマンドが強制終了により処理を中止しました。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb606 (YYY): ユーザのパスワード取得に失敗しました。

【メッセージの意味】

/un:、/lg:オプションで指定したユーザのパスワードが取得できませんでした。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ユーザ名・ログイン定義名の指定に誤りがあるか、またはパスワード管理簿に該当するユーザが登録されていません。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb607 (YYY) : rcオプションとriオプションの片方が指定されていません。

【メッセージの意味】

/rcオプションの指定があり /riオプションが指定されていないか /riオプションの指定があり /rcオプションが指定されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リトライ指定する場合は、/rc、/ri両オプションを指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb608 (YYY): 操作内容が指定されていません。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータにファイル操作の種別が指定されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

操作指定オプションとして/delete、/rename、/mkdir、/rmdir のいずれかを指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb609 (YYY): パス名の指定がありません。

【メッセージの意味】

/f:オプションがないか、パス名の指定がありません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/f:オプションにパス名を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb60a (YYY): リネームファイル名の指定がありません。

【メッセージの意味】

/fn:オプションがないか、ファイル名の指定がありません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/fn:オプションおよびファイル名を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb60b (YYY): パス名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/f:オプションに無効なパス名が指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいパス名を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb60c (YYY): ユーザ名またはログイン定義名の指定がありません。

【メッセージの意味】

/un:、/lg:オプションの片方または両方が指定されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/un:、/lg:オプションを両方とも指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb60d (YYY): 無効なパラメータが指定されています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに使用できないオプションが指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを見直してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb60f (YYY): ユーザ名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/un:オプションのユーザ名の指定に誤りがあります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/un:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb610 (YYY): リネームファイル名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/fn:オプションのファイル名の指定に誤りがあります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/fn:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb611 (YYY): ログイン定義名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/lg:オプションのログイン定義名の指定に誤りがあります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/lg:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb621 (YYY) : FTPサーバにログインできませんでした。

【メッセージの意味】

FTPサーバへの接続・ログイン処理に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

FTPサーバ名／ユーザ名／パスワードを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

以下の点を確認してください。

- FTPサーバの状態

- ファイアウォールを介して接続を行っている場合には、ファイアウォールの設定
- FTPサーバ上に利用者のアカウントが正しく設定されているか
- FTPサーバ上に利用者のアカウントに対して、アクセス制限されていないか

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb624 (YYY): ファイル名変更に失敗しました。

【メッセージの意味】

ファイル名の変更処理に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。

- パス名が正しいか
- パス名で指定するディレクトリのパーミッション設定に問題がないか
- 変更先ファイルが存在する場合、ファイルのパーミッション設定に問題がないか

FTP指定の場合、指定したユーザが正しいか確認してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

FTP指定の場合、FTPサーバでファイル書き込み禁止が設定されていないかを確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb625 (YYY): ファイル削除に失敗しました。

【メッセージの意味】

ファイルの削除に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。

- パス名が正しいか
- パス名で指定するディレクトリのパーミッション設定に問題がないか
- 削除ファイルのパーミッション設定に問題がないか

FTP指定の場合、指定したユーザが正しいか確認してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

FTP指定の場合、FTPサーバでファイル書き込み禁止が設定されていないかを確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb626 (YYY): ディレクトリ作成に失敗しました。

【メッセージの意味】

新規ディレクトリ作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。

- パス名が正しいか
- パス名で指定するディレクトリのパーミッション設定に問題がないか

FTP指定の場合、指定したユーザが正しいか確認してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

FTP指定の場合、FTPサーバでファイル書き込み禁止が設定されていないかを確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb627 (YYY): ディレクトリ削除に失敗しました。

【メッセージの意味】

既存ディレクトリの削除に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。

- パス名が正しいか
- パス名で指定するディレクトリのパーミッション設定に問題がないか

FTP指定の場合、指定したユーザが正しいか確認してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

FTP指定の場合、FTPサーバでファイル書き込み禁止が設定されていないかを確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb628 (YYY) : FTPサーバ上のファイル検索に失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPサーバ上でファイル名の検索に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定したパス名が正しいか、ユーザ名が正しいか確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

FTPサーバ側でファイルのアクセス制限が行われていないか確認してください。FTPサーバ上のファイルパーミッション設定を確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb629 (YYY) : FTPサーバ上のファイル一覧生成に失敗しました。

【メッセージの意味】

FTPサーバのファイル検索結果の一覧生成(内部処理)に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

不要なアプリケーションを終了させてください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

物理メモリを増設するか、スワップの設定を変更してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb62b (YYY): 該当ファイル・ディレクトリが見つかりません。

【メッセージの意味】

パラメータで指定したファイル・ディレクトリが見つかりません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定したパス名が正しいか、ファイルが存在するか確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb62c (YYY): メモリ不足です。

【メッセージの意味】

メモリ不足のため異常終了しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

不要なアプリケーションを終了させてください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

物理メモリを増設するか、スワップの設定変更を行ってください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xb631 (YYY): 中断依頼により処理をキャンセルしました。

【メッセージの意味】

コマンドが強制終了により処理を中止しました。

【出力対象コマンド】

サーバファイル操作コマンド

[UNIX]0xc210 (YYY): ユーザーの操作により中断されました。

【メッセージの意味】

コマンドが強制終了により処理を中止しました。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc220 (YYY): パラメータが重複しています。

【メッセージの意味】

同じコマンドパラメータが重複して指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

重複するコマンドパラメータを取り除いてください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc221 (YYY): パラメータが不足しています。

【メッセージの意味】

正しいコマンドパラメータが指定されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを修正してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc222 (YYY): リトライ回数の設定が誤っています。

【メッセージの意味】

リトライ回数指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/rc:オプションには0～99までの値を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc223 (YYY): リトライ間隔の設定が誤っています。

【メッセージの意味】

リトライ間隔指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/ri:オプションには0～9999までの値を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc224 (YYY): リトライの設定が誤っています。

【メッセージの意味】

/rcオプションの指定があり /riオプションが指定されていないか、/riオプションの指定があり /rcオプションが指定されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リトライ指定する場合は、/rc、/ri両オプションを指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc225 (YYY): モードを設定してください。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに圧縮か伸長かの指定がありません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

圧縮処理時は /p、伸長処理時は /e を指定してください。Windows プラットフォーム上で展開できる形式での圧縮処理時は、/pおよび /wを指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc226 (YYY): モードが重複しています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに/p、/eの両オプションが指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

圧縮処理時は /p、伸長処理時は /e を指定してください。Windows プラットフォーム上で展開できる形式での圧縮処理時は、/pおよび/wを指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc227 (YYY): 無効なパラメータが指定されています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに使用できないオプションが指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを見直してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc230 (YYY): 利用可能なディスク容量を越えました。

【メッセージの意味】

ディスクが一杯です。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

不要なファイルを削除してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

以下の点を確認してください。

- 利用者に対してquotaコマンドでディスク割り当ての上限を設定している場合、設定値の見直しを行ってください。
- 上限設定を行っていない場合、ディスク容量が不足していないかを確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc240 (YYY): ファイルを作成できません。

【メッセージの意味】

指定したファイルを作成することができません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。

- /d:で指定されるパス名が正しいか
- 指定したファイルが他のアプリケーションで使用中ではないか
- パーミッション設定に問題がないか

なお、パーミッションの変更が行えないファイルの場合、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

パーミッションの変更を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc241 (YYY): ファイルの読み込みが出来ません。

【メッセージの意味】

指定したファイルにアクセスすることができません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。

- /s:で指定されるパスが正しいか、またファイルが存在するか
- 指定したファイルが他のアプリケーションで使用中ではないか
- /s:で指定されるファイルのパーミッション設定に問題がないか

なお、パーミッションの変更が行えないファイルの場合、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

パーミッションの変更を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc250 (YYY): ディレクトリにアクセスできません。

【メッセージの意味】

指定したディレクトリにアクセスできません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。

- /s:、/d:で指定したパスのディレクトリ部分が正しいか
- 指定したディレクトリが存在するか
- 指定したディレクトリに対するパーミッション設定に問題がないか

なお、パーミッションの変更が行えないディレクトリの場合、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

パーミッションの変更を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc260 (YYY): メモリが不足しています。

【メッセージの意味】

メモリが不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

不要なアプリケーションを終了させてください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

物理メモリを増設するか、スワップの設定を変更してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc270 (YYY): ファイルの圧縮に失敗しました。

【メッセージの意味】

OSの内部エラーによりファイルの圧縮に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

OSの動作環境を見直してください。エラーとなる原因が不明な場合は保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc280 (YYY): ファイルの伸長に失敗しました。

【メッセージの意味】

OSの内部エラーによりファイルの伸長に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

OSの動作環境を見直してください。エラーとなる原因が不明な場合は保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc290 (YYY): 中断依頼により処理をキャンセルしました。

【メッセージの意味】

コマンドが強制終了により処理を中止しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【出力対象コマンド】

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc310: メッセージ通知により中断しました。

【メッセージの意味】

コマンドが強制終了により処理を中止しました。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc320: コマンドパラメータに重複があります。

【メッセージの意味】

同じコマンドパラメータが重複して指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

重複するコマンドパラメータを取り除いてください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc321: コマンドパラメータが不足しています。

【メッセージの意味】

正しいコマンドパラメータが指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを修正してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc322 : rcオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ回数指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/rc:オプションには0～99までの数値を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc323：riオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ間隔指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/ri:オプションには0～9999までの数値を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc324：rcオプションとriオプションの片方が指定されていません。

【メッセージの意味】

/rcオプションの指定があり /riオプションが指定されていないか、/riオプションの指定があり /rcオプションが指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リトライ指定する場合は、/rc、/ri両オプションを指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc326: 無効なパラメータが指定されています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに使用できないオプションが指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを見直してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc327: ホスト名の指定がありません。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータにホスト名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドの第一パラメータにホスト名を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc329：aオプションとbオプションが同時指定されています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに/a、/bの両オプションが指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータには/a、/bのいずれかを指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc330: 転送元パス名が指定されていません。

【メッセージの意味】

/s:オプションで指定するファイルパス名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定した転送元のファイルパス名を正しく設定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc331: 転送先パス名が指定されていません。

【メッセージの意味】

/d:オプションで指定するファイルパス名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定した転送先のファイルパス名を正しく設定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc332: ログイン定義名が指定されていません。

【メッセージの意味】

/lg:オプションが指定されていない、または/lg:オプションにログイン定義名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/lg:オプションとログイン定義名を正しく指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc333：ホスト名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータのホスト名が正しく指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ホスト名の長さや無効な文字列がないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc334: 転送元パス名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/s:オプションで指定するファイルパス名の書式に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定した転送元のファイルパス名を正しく設定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc335: 転送先パス名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/d:オプションで指定するファイルパス名の書式に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定した転送先のファイルパス名を正しく設定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc336: 転送元ユーザ名が指定されていません。

【メッセージの意味】

/su:オプションが指定されていない、または/su:オプションにユーザ名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/su:オプションとユーザ名を正しく指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc337: 転送先ユーザ名が指定されていません。

【メッセージの意味】

/du:オプションが指定されていない、または/du:オプションにユーザ名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/du:オプションとユーザ名を正しく指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc338: ログイン定義名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/lg:オプションのログイン定義名の指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/lg:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc340: 業務連携エンジンへの処理開始要求が受け付けられませんでした。

【メッセージの意味】

- 指定したクライアント上でクライアント業務連携が起動されていません。
- 指定したクライアントが見つかりません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

- 指定したクライアントのホスト名を確認してください。
- 指定したクライアント上でクライアント業務連携を起動してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

- 利用者の指定したクライアントのホスト名でpingコマンドが正常に動作するか確認してください。
- Windowsのファイアウォール等で通信を遮断していないか等、ネットワークの状態を確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc350: 転送元ユーザのパスワード取得に失敗しました。

【メッセージの意味】

/su:オプションに指定したユーザ名が/lg:オプションで指定したログイン定義に登録されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パスワード管理簿を確認し、登録されているユーザを指定してください。未登録の場合は、登録をしてください。

パスワード管理簿については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc351: 転送元ユーザ名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/su:オプションのユーザ名の指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/su:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc352: 転送先ユーザのパスワード取得に失敗しました。

【メッセージの意味】

/du:オプションに指定したユーザ名が/lg:オプションで指定したログイン定義に登録されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

lgmanageコマンドでユーザの登録を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc353: 転送先ユーザ名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/du:オプションのユーザ名の指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/du:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc390: 転送元と転送先ともにFTPサーバが指定されています。

【メッセージの意味】

/s: /d オプション両方にFTPサーバパス指定をしています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

転送元か転送先をローカルドライブパス指定かユニバーサルパス指定に変更してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc391 : /a、/bオプションはFTP転送以外では無効です。

【メッセージの意味】

FTP転送以外で、/aまたは /bオプションが指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/a、/bオプションを取り除いてください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル転送コマンド

[UNIX]0xc401: コマンドパラメータに重複があります。

【メッセージの意味】

同じコマンドパラメータが重複して指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

重複するコマンドパラメータを取り除いてください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc402: コマンドパラメータが不足しています。

【メッセージの意味】

コマンドを実行する上でパラメータが不足しています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

必要なパラメータをすべて指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc403 : rcオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ回数指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/rc:オプションには0～99までの数値を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc404 : riオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ間隔指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/ri:オプションには0～9999までの数値を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc406: メッセージ通知により中断しました。

【メッセージの意味】

コマンドが強制終了により処理を中止しました。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc407: 業務連携エンジンへの処理開始要求が受け付けられませんでした。

【メッセージの意味】

- 指定したクライアント上でクライアント業務連携が起動されていません。
- 指定したクライアントが見つかりません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

- 指定したクライアントのホスト名を確認してください。
- 指定したクライアント上でクライアント業務連携を起動してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

- 利用者の指定したクライアントのホスト名でpingコマンドが正常に動作するか確認してください。
- Windowsのファイアウォール等で通信を遮断していないか等、ネットワークの状態を確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc409: ユーザのパスワード取得に失敗しました。

【メッセージの意味】

転送先ユーザ名・ログイン定義名の指定に誤りがあるか、またはパスワード管理簿に該当するユーザが登録されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パスワード管理簿を確認し、登録されているユーザを指定してください。未登録の場合は、登録をしてください。

パスワード管理簿については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc40a: rcオプションとriオプションの片方が指定されていません。

【メッセージの意味】

/rcオプションの指定があり /riオプションが指定されていないか /riオプションの指定があり /rcオプションが指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リトライ指定する場合は、/rc、/ri両オプションを指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc40c: 操作内容が指定されていません。

【メッセージの意味】

操作指定オプションの指定が行われていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

操作指定オプションとして/delete、/rename、/mkdir、/rmdir のいずれかを指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc40d: パス名の指定がありません。

【メッセージの意味】

/f:オプションがないか、パス名の指定がありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/f:オプションにパス名を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc40e: リネームファイル名の指定がありません。

【メッセージの意味】

/fn:オプションがないか、ファイル名の指定がありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/fn:オプションおよびファイル名を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc40f: パス名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/f:オプションに無効なパス名が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

正しいパス名を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc410: ユーザ名またはログイン定義名の指定がありません。

【メッセージの意味】

/un:、/lg:オプションの片方または両方が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/un:、/lg:オプションを両方とも指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc411: 無効なパラメータが指定されています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに使用できないオプションが指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを見直してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc412: ホスト名が指定されていません。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータにホスト名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドの第一パラメータにホスト名を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc415: ユーザ名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/un:オプションのユーザ名の指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/un:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc416: ホスト名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータのホスト名が正しく指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ホスト名の長さや無効な文字列がないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc417: リネームファイル名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/fn:オプションのファイル名の指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/fn:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc418: ログイン定義名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/lg:オプションのログイン定義名の指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/lg:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル操作コマンド

[UNIX]0xc501: コマンドパラメータが不足しています。

【メッセージの意味】

正しいコマンドパラメータが指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを修正してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc502: ホスト名が指定されていません。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータにホスト名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドの第一パラメータにホスト名を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc503: コマンドパラメータに重複があります。

【メッセージの意味】

同じコマンドパラメータが重複して指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

重複するコマンドパラメータを取り除いてください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc504 : RCオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ回数指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/rc:オプションには0～99までの数値を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc505 : RIオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ間隔指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/ri:オプションには0～9999までの数値を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc506 : RCオプションとRIオプションの片方が指定されていません。

【メッセージの意味】

/rcオプションの指定があり /riオプションが指定されていないか、/riオプションの指定があり /rcオプションが指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リトライ指定する場合は、/rc、/ri両オプションを指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc507 : pオプションとeオプションが同時指定されています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに/p、/eの両オプションが指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

圧縮処理時は /p、伸長処理時は /e を指定してください。Windowsプラットフォーム形式での圧縮処理時は、/p および /w を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc508 : pオプションかeオプションの指定が必要です。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに圧縮か伸長かの指定がありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

圧縮処理時は /p、伸長処理時は /e を指定してください。Windowsプラットフォーム形式での圧縮処理時は、/p および /w を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc509: 無効なパラメータが指定されています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに使用できないオプションが指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを見直してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc50a: ホスト名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータのホスト名が正しく指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ホスト名の長さや無効な文字列がないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc520: 業務連携エンジンへの処理開始要求が受け付けられませんでした。

【メッセージの意味】

- 指定したクライアント上でクライアント業務連携が起動されていません。
- 指定したクライアントが見つかりません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

- 指定したクライアントのホスト名を確認してください。
- 指定したクライアント上でクライアント業務連携を起動してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

- 利用者の指定したクライアントのホスト名でpingコマンドが正常に動作するか確認してください。
- Windowsのファイアウォール等で通信を遮断していないか等、ネットワークの状態を確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc530: 転送元パス名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/s:オプションで指定するパス名の書式に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定した転送元のファイルパス名を正しく設定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc531: 転送先パス名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/d:オプションで指定するパス名の書式に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

業務連携コマンドのパラメタに指定した転送先のファイルパス名を正しく設定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

[UNIX]0xc540: メッセージ通知により中断しました。

【メッセージの意味】

コマンドが強制終了により処理を中止しました。

【出力対象コマンド】

クライアントファイル圧縮/伸長コマンド

3.10.4 アプリケーション起動コマンドの出力メッセージ

本項では、以下のアプリケーション起動コマンドの出力メッセージについて説明します。サーバ連携共通コマンドおよびクライアント連携共通コマンドの出力メッセージについては、“3.10.2 共通メッセージ”を参照してください。

- サーバアプリケーション起動コマンド
- クライアントアプリケーション起動コマンド

0xa9f5 : 起動したアプリケーションがユーザの操作により強制終了されました。

【メッセージの意味】

起動したアプリケーションがユーザの操作により強制終了されました。

【出力対象コマンド】

クライアントアプリケーション起動コマンド

[Windows]0xb001 : コマンドパラメータに重複があります。

“3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

クライアントアプリケーション起動コマンド

[Windows]0xb002: コマンドパラメータが不足しています。

【メッセージの意味】

正しいコマンドパラメータが指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを修正してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

クライアントアプリケーション起動コマンド

クライアント電源切断コマンド

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb003：RCオプションに無効な値が指定されています。

"3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ"を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

クライアントアプリケーション起動コマンド

[Windows]0xb004：RIオプションに無効な値が指定されています。

"3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ"を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

クライアントアプリケーション起動コマンド

[Windows]0xb005：スレッド生成に失敗しました。

"3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ"を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

クライアントアプリケーション起動コマンド

[Windows]0xb006：メッセージ通知により中断しました。

"3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ"を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

クライアントアプリケーション起動コマンド

[Windows]0xb007：業務連携エンジンへの処理開始要求が受け付けられませんでした。

"3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ"を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

クライアントアプリケーション起動コマンド

[Windows]0xb008：WEオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

/WE:オプションの指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/WE:オプションには1～9600までの数値を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントアプリケーション起動コマンド

[Windows]0xb009: ユーザのパスワード取得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ユーザ名・ログイン定義名の指定に誤りがあるか、またはパスワード管理簿に該当するユーザが登録されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パスワード管理簿を確認し、登録されているユーザを指定してください。未登録の場合は、登録をしてください。

パスワード管理簿については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

[Windows]0xb00a : RCオプションとRIオプションの片方が指定されていません。

“3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

クライアントアプリケーション起動コマンド

[Windows]0xb00b: ユーザ名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/UN:オプションのユーザ名の指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/UN:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb00c: ユーザ名またはログイン定義名が指定されていません。

【メッセージの意味】

/UN:、/LG:オプションの片方または両方が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/UN:、/LG:オプション両方とも指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

[Windows]0xb00d: 無効なパラメータが指定されています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに使用できないオプションが指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを見直してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

クライアントアプリケーション起動コマンド

[Windows]0xb00e: ホスト名の指定がありません

【メッセージの意味】

コマンドパラメータにホスト名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドの第一パラメータにホスト名を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントアプリケーション起動コマンド

[Windows]0xb015 : AEオプションに無効な指定が行われています。

【メッセージの意味】

/AE:オプションの指定内容に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/AE:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

[Windows]0xb015 : AMオプションに無効な文字が指定されています。

【メッセージの意味】

/AM:オプションの指定内容に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/AM:オプションにはNORMALかICONを指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントアプリケーション起動コマンド

[Windows]0xb016 : AEオプションに無効な指定が行われました。

【メッセージの意味】

/AE:オプションの指定内容に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/AE:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアントアプリケーション起動コマンド

[Windows]0xb016: ログイン定義名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/LG:オプションのログイン定義名の指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/LG:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

[Windows]0xb017: ホスト名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータのホスト名が正しく指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ホスト名の長さや無効な文字列がないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアントアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xb810 (YYY): ユーザーの操作により中断されました。

【メッセージの意味】

コマンドが強制終了により処理を中止しました。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xb820 (YYY): パラメータが重複しています。

【メッセージの意味】

同じコマンドパラメータが重複して指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

重複するコマンドパラメータを取り除いてください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xb821 (YYY): パラメータが不足しています。

【メッセージの意味】

正しいコマンドパラメータが指定されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを修正してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xb822 (YYY): リトライ回数の設定が誤っています。

【メッセージの意味】

リトライ回数指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/rc:オプションには0～99までの数値を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xb823 (YYY): リトライ間隔の設定が誤っています。

【メッセージの意味】

リトライ間隔指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/ri:オプションには0～9999までの数値を指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xb824 (YYY): リトライの設定が誤っています。

【メッセージの意味】

/rcオプションの指定があり /riオプションが指定されていないか、/riオプションの指定があり /rcオプションが指定されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リトライ指定する場合は、/rc、/ri両オプションを指定してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xb826 (YYY): 無効なパラメータが指定されています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに使用できないオプションが指定されています。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを見直してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xb828 (YYY): 起動するアプリケーションを指定してください。

【メッセージの意味】

/ae:オプションの指定内容に誤りがあります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/ae:オプションの書式や無効な文字がないか確認してください。オプションの詳細については、"Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル"を参照してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xb840 (YYY): 指定されたアプリケーションを実行できません。

【メッセージの意味】

サーバアプリケーションの起動に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。

- 指定したファイルパスが正しいか
- 指定したアプリケーションのパーミッション設定に問題はないか

なお、パーミッションの変更が行えないファイルの場合、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

パーミッションの変更を行ってください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xb850 (YYY): 指定されたユーザは存在しません。

【メッセージの意味】

指定したユーザがシステムに登録されていません

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ユーザ名指定を確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

指定したユーザが登録されているかを確認してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xb851 (YYY): 指定されたユーザでの実行はできません。

【メッセージの意味】

コマンド実行ユーザがスーパーユーザでないため、ユーザ名指定での実行は行えません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

- ユーザ名指定を削除してください。
- ユーザ名指定が必要な場合(他のユーザ権限でのアプリケーション実行が必要な場合)は、スーパーユーザでコマンドを実行してください。

【出力対象コマンド】

サーバアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xc201: コマンドパラメータに重複があります。

【メッセージの意味】

同じコマンドパラメータが重複して指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

重複するコマンドパラメータを取り除いてください。

【出力対象コマンド】

クライアントアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xc202: コマンドパラメータが不足しています。

【メッセージの意味】

正しいコマンドパラメータが指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを修正してください。

【出力対象コマンド】

クライアントアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xc203 : rcオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ回数指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/rc:オプションには0～99までの数値を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xc204 : riオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ間隔指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/ri:オプションには0～9999までの数値を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xc206: メッセージ通知により中断しました。

【メッセージの意味】

コマンドが強制終了により処理を中止しました。

【出力対象コマンド】

クライアントアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xc207: 業務連携エンジンへの処理開始要求が受け付けられませんでした。

【メッセージの意味】

- 指定したクライアント上でクライアント業務連携が起動されていません。
- 指定したクライアントが見つかりません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

- 指定したクライアントのホスト名を確認してください。
- 指定したクライアント上でクライアント業務連携を起動してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

- 利用者の指定したクライアントのホスト名でpingコマンドが正常に動作するか確認してください。
- Windowsのファイアウォール等で通信を遮断していないか等、ネットワークの状態を確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアントアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xc210 : rcオプションとriオプションの片方が指定されていません。

【メッセージの意味】

/rcオプションの指定があり /riオプションが指定されていないか、/riオプションの指定があり /rcオプションが指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リトライ指定する場合は、/rc、/ri両オプションを指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xc215 : amオプションに無効な文字が指定されています。

【メッセージの意味】

/am:オプションの指定内容に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/am:オプションにはnormalかiconを指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xc217: 無効なパラメータが指定されています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに使用できないオプションが指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを見直してください。

【出力対象コマンド】

クライアントアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xc218: ホスト名の指定がありません

【メッセージの意味】

コマンドパラメータにホスト名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドの第一パラメータにホスト名を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xc219: ホスト名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータのホスト名が正しく指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ホスト名の長さや無効な文字列がないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアントアプリケーション起動コマンド

[UNIX]0xc224 : weオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

/we:オプションの指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/we:オプションには1～9600までの数値を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアントアプリケーション起動コマンド

3.10.5 クライアント電源制御コマンドの出力メッセージ

本項では、以下のクライアント電源制御コマンドの出力メッセージについて説明します。クライアント連携共通コマンドの出力メッセージについては、“3.10.2 共通メッセージ”を参照してください。

- クライアント電源投入コマンド
- クライアント電源切断コマンド

[Windows]0xb001: コマンドパラメータに重複があります。

“3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[Windows]0xb001 (YYY): 指定されたパラメタに誤りがあります。

【メッセージの意味】

起動パラメタまたはホスト情報定義ファイルの指定形式に誤りがあります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

起動パラメタまたはホスト情報定義ファイルの指定形式を確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb002: コマンドパラメータが不足しています。

“3.10.4 アプリケーション起動コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[Windows]0xb002 (YYY): 内部の初期化に失敗したため、処理を完了できません。

【メッセージの意味】

メモリの獲得や下位ライブラリの読み込みに失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb003: RCオプションに無効な値が指定されています。

“3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[Windows]0xb004: RIオプションに無効な値が指定されています。

“3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[Windows]0xb005: スレッド生成に失敗しました。

“3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[Windows]0xb005 (YYY): 電源投入処理用のメモリ獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

処理中に使用するメモリ領域の獲得に失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb006: メッセージ通知により中断しました。

“3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[Windows]0xb006 (YYY): 通信ライブラリのロードに失敗しました。

【メッセージの意味】

ソケットライブラリの読み込みに失敗しました。OSのインストール状態に異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb007: 業務連携エンジンへの処理開始要求が受け付けられませんでした。

“3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[Windows]0xb007 (YYY): 内部の初期化に失敗したため、処理を完了できません。

【メッセージの意味】

ソケットライブラリ関数アドレスの獲得に失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb008 (YYY): 内部の初期化に失敗したため、処理を完了できません。

【メッセージの意味】

内部スレッドの起動に失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb009 (YYY): レジストリキーのオープンに失敗しました。

【メッセージの意味】

本ソフトウェア動作に必要なレジストリ情報がオープンできません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb00a: RCオプションとRIオプションの片方が指定されていません。

“3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[Windows]0xb00a (YYY): レジストリキーの情報参照に失敗しました。

【メッセージの意味】

本ソフトウェア動作に必要なレジストリ情報が参照できませんでした。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb00b (YYY): 電源投入要求の送信に失敗しました。

【メッセージの意味】

「Wakeup on LAN」要求パケットの送信に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークカードやドライバ、TCP/IPプロトコルの状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb00c (YYY): 電源投入確認までの待ち合わせに失敗しました。

【メッセージの意味】

指定した時間の待ち合わせに失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb00d (YYY): 電源投入確認に失敗しました。

【メッセージの意味】

「ping」パケットの送信または受信に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

- TCP/IPプロトコルの状態を確認してください。

- 電源投入の対象ホストが「Wakeup on LAN」に対応しているハードウェアであるか確認してください。対象ホストが「Wakeup on LAN」に対応しているハードウェアである場合、「Wakeup on LAN」可能な状態となっているか確認してください。

- 対象ホスト名で指定したコンピュータにネットワークが正しくインストールされているか確認してください。また、ネットワークの状態やDNSの登録情報を確認してください。

- 他のサブネット上のクライアントに電源を投入する場合は、サーバから電源投入対象端末のネットワークに対してブロードキャストパケットが到達できるようにネットワーク機器(ルータ等)の設定が必要です。詳しい設定方法はご使用のネットワーク機器のマニュアルを参照してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能

- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb00f (YYY): 内部の初期化に失敗したため、処理を完了できません。

【メッセージの意味】

ソケットライブラリの使用開始に失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能

- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb010 (YYY): 内部の初期化に失敗したため、処理を完了できません。

【メッセージの意味】

本コマンド側ホスト名の獲得に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb011: 無効なパラメータが指定されています。

“3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[Windows]0xb011 (YYY): 対象ホストが見つかりません。

【メッセージの意味】

指定した対象ホストのアドレス解決に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定した対象ホスト名が正しいかを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡ください。

【システム管理者の処置】

対象ホスト名がDNSやHOSTSファイル等に登録されているかを確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb012: ホスト名の指定がありません

【メッセージの意味】

コマンドパラメータにホスト名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドの第一パラメータにホスト名を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[Windows]0xb012 (YYY): 通信ソケットの獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

「Wakeup on LAN」または「ping」で使用する通信ソケットの獲得に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークカードやドライバ、TCP/IPプロトコルの状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb013 : SDオプションに無効な指定がされています。

【メッセージの意味】

/SD:オプションの指定内容に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/SD:オプションにはPOFF/REBOOT/DOWNのいずれかを指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[Windows]0xb013 (YYY): 要求データの送信に失敗しました。

【メッセージの意味】

「Wakeup on LAN」パケットまたは「ping」パケットの送信に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb014 (YYY): 応答データの受信に失敗しました。

【メッセージの意味】

「ping」応答の受信に失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークの切断または通信先のシステムが停止していないか確認してください。ネットワークの復旧または通信先システムの起動後に、業務連携コマンドを再実行してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb015: ホスト名の指定が正しくありません。

“3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[Windows]0xb015 (YYY): 応答データの受信待ち合わせに失敗しました。

【メッセージの意味】

「ping」応答の受信に失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークの切断または通信先のシステムが停止していないか確認してください。ネットワークの復旧または通信先システムの起動後に、業務連携コマンドを再実行してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb016 (YYY): 通信ソケットに異常が発生しました。

【メッセージの意味】

通信ソケットへのオプション設定に失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb017 (YYY): 通信ソケットに異常が発生しました。

【メッセージの意味】

「ping」応答の受信に失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークの切断または通信先のシステムが停止していないか確認してください。ネットワークの復旧または通信先システムの起動後に、業務連携コマンドを再実行してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb018 (YYY): 電源投入確認に失敗しました。

【メッセージの意味】

電源投入確認のための「ping」送信が行えません。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb019 (YYY): 電源投入確認に失敗しました。

【メッセージの意味】

電源投入確認のための「ping」送信に失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

- 電源投入の対象ホストが「Wakeup on LAN」に対応しているハードウェアであるか確認してください。対象ホストが「Wakeup on LAN」に対応しているハードウェアである場合、「Wakeup on LAN」可能な状態となっているか確認してください。
- 対象ホスト名で指定したコンピュータにネットワークが正しくインストールされているか確認してください。また、ネットワークの状態やDNSの登録情報を確認してください。
- 他のサブネット上のクライアントに電源を投入する場合は、サーバから電源投入対象端末のネットワークに対してブロードキャストパケットが到達できるようにネットワーク機器(ルータ等)の設定が必要です。詳しい設定方法はご使用のネットワーク機器のマニュアルを参照してください。

ブロードキャストパケットが到達するかどうかは、コマンドを実行するOperation Managerのサーバ側のコマンドプロンプト画面でpingコマンドを投入して確認することもできます。応答がない場合はブロードキャストは到達しません。

投入先IPアドレスが、10.90.100.100で、サブネットマスクが255.255.255.0の場合の投入コマンドは、“ping 10.90.100.255”となります。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb01a (YYY): 電源投入確認に失敗しました。

【メッセージの意味】

電源投入確認のために送信した「ping」に応答しません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/WT:で指定した待ち合わせ時間を長くするか、リトライを設定してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡ください。

【システム管理者の処置】

- 電源投入の対象ホストが「Wakeup on LAN」に対応しているハードウェアであるか確認してください。対象ホストが「Wakeup on LAN」に対応しているハードウェアである場合、「Wakeup on LAN」可能な状態となっているか確認してください。
- 対象ホスト名で指定したコンピュータにネットワークが正しくインストールされているか確認してください。また、ネットワークの状態やDNSの登録情報を確認してください。
- 他のサブネット上のクライアントに電源を投入する場合は、サーバから電源投入対象端末のネットワークに対してブロードキャストパケットが到達できるようにネットワーク機器(ルータ等)の設定が必要です。詳しい設定方法はご使用のネットワーク機器のマニュアルを参照してください。

ブロードキャストパケットが到達するかどうかは、コマンドを実行するOperation Managerのサーバ側のコマンドプロンプト画面でpingコマンドを投入して確認することもできます。応答がない場合はブロードキャストは到達しません。

投入先IPアドレスが、10.90.100.100で、サブネットマスクが255.255.255.0の場合の投入コマンドは、“ping 10.90.100.255”となります。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb01b (YYY): 電源投入確認に失敗しました。

【メッセージの意味】

電源投入確認のために送信した「ping」に応答しません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

- 電源投入の対象ホストが「Wakeup on LAN」に対応しているハードウェアであるか確認してください。対象ホストが「Wakeup on LAN」に対応しているハードウェアである場合、「Wakeup on LAN」可能な状態となっているか確認してください。
- ネットワークの状態やDNSの登録情報を確認してください。
- 他のサブネット上のクライアントに電源を投入する場合は、サーバから電源投入対象端末のネットワークに対してブロードキャストパケットが到達できるようにネットワーク機器(ルータ等)の設定が必要です。詳しい設定方法はご使用のネットワーク機器のマニュアルを参照してください。

ブロードキャストパケットが到達するかどうかは、コマンドを実行するOperation Managerのサーバ側のコマンドプロンプト画面でpingコマンドを投入して確認することもできます。応答がない場合はブロードキャストは到達しません。

投入先IPアドレスが、10.90.100.100で、サブネットマスクが255.255.255.0の場合の投入コマンドは、“ping 10.90.100.255”となります。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb032 (YYY): ホスト情報定義からMACアドレスの獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ホスト情報定義ファイルが存在しないか、対象ホストの情報が定義されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”に記載されたディレクトリにホスト情報定義ファイルが存在するか、また対象ホスト情報が定義されているかを確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb033 (YYY): ホスト情報定義からIPアドレスの獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ホスト情報定義ファイルが存在しないか、対象ホストの情報が定義されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”に記載されたディレクトリにホスト情報定義ファイルが存在するか、また対象ホスト情報が定義されているかを確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb034 (YYY): ホスト情報定義からサブネットマスクの獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ホスト情報定義ファイルが存在しないか、対象ホストの情報が定義されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”に記載されたディレクトリにホスト情報定義ファイルが存在するか、また対象ホスト情報が定義されているかを確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[Windows]0xb0fe (YYY): 処理が中断されました。

【メッセージの意味】

コマンドが強制終了により処理を中止しました。コマンドは、処理を完了せずに中止しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc001(YYY): 指定されたパラメタに誤りがあります。

【メッセージの意味】

起動パラメタまたはホスト情報定義ファイルの指定形式に誤りがあります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

起動パラメタまたはホスト情報定義ファイルの指定形式を確認してください。

ホスト情報ファイルについては、"Systemwalker Operation Manager 導入手引書"を参照してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc005(YYY): 電源投入処理用のメモリ獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

処理中に使用するメモリ領域の獲得に失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- "サーバ業務連携"機能
- "クライアント業務連携"機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc007(YYY): 内部の初期化に失敗したため、処理を完了できません。

【メッセージの意味】

ソケットライブラリ関数アドレスの獲得に失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc00b(YYY): 電源投入要求の送信に失敗しました。

【メッセージの意味】

「Wakeup on LAN」要求パケットの送信に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークカードやドライバ、TCP/IPプロトコルの状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc00c(YYY): 電源投入確認までの待ち合わせに失敗しました。

【メッセージの意味】

指定した時間の待ち合わせに失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc00d(YYY): 電源投入確認に失敗しました。

【メッセージの意味】

「ping」パケットの送信または受信に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

- TCP/IPプロトコルの状態を確認してください。
- 電源投入の対象ホストが「Wakeup on LAN」に対応しているハードウェアであるか確認してください。対象ホストが「Wakeup on LAN」に対応しているハードウェアである場合、「Wakeup on LAN」可能な状態となっているか確認してください。
- 対象ホスト名で指定したコンピュータにネットワークが正しくインストールされているか確認してください。また、ネットワークの状態やDNSの登録情報を確認してください。
- 他のサブネット上のクライアントに電源を投入する場合は、サーバから電源投入対象端末のネットワークに対してブロードキャストパケットが到達できるようにネットワーク機器(ルータ等)の設定が必要です。詳しい設定方法はご使用のネットワーク機器のマニュアルを参照してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc010(YYY): 内部の初期化に失敗したため、処理を完了できません。

【メッセージの意味】

本コマンド側ホスト名の獲得に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークカードやドライバ、TCP/IPプロコトルの状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc011(YYY): 対象ホストが見つかりません。

【メッセージの意味】

指定した対象ホストのアドレス解決に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定した対象ホスト名が正しいかを確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡ください。

【システム管理者の処置】

対象ホスト名がDNSやHOSTSファイル等に登録されているかを確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc012(YYY): 通信ソケットの獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

「Wakeup on LAN」または「ping」で使用する通信ソケットの獲得に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークカードやドライバ、TCP/IPプロコトルの状態を確認してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc013(YYY): 要求データの送信に失敗しました。

【メッセージの意味】

「Wakeup on LAN」パケットまたは「ping」パケットの送信に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc014(YYY): 応答データの受信に失敗しました。

【メッセージの意味】

「ping」応答の受信に失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc015(YYY): 応答データの受信待ち合わせに失敗しました。

【メッセージの意味】

「ping」応答の受信に失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc016(YYY): 通信ソケットに異常が発生しました。

【メッセージの意味】

通信ソケットへのオプション設定に失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc017(YYY): 通信ソケットに異常が発生しました。

【メッセージの意味】

「ping」応答の受信に失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc018(YYY): 電源投入確認に失敗しました。

【メッセージの意味】

電源投入確認のための「ping」送信が行えません。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc019(YYY): 電源投入確認に失敗しました。

【メッセージの意味】

電源投入確認のための「ping」送信に失敗しました。OSに異常が発生している可能性があります。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

- 電源投入の対象ホストが「Wakeup on LAN」に対応しているハードウェアであるか確認してください。対象ホストが「Wakeup on LAN」に対応しているハードウェアである場合、「Wakeup on LAN」可能な状態となっているか確認してください。
- 対象ホスト名で指定したコンピュータにネットワークが正しくインストールされているか確認してください。また、ネットワークの状態やDNSの登録情報を確認してください。
- 他のサブネット上のクライアントに電源を投入する場合は、サーバから電源投入対象端末のネットワークに対してブロードキャストパケットが到達できるようにネットワーク機器(ルータ等)の設定が必要です。詳しい設定方法はご使用のネットワーク機器のマニュアルを参照してください。

ブロードキャストパケットが到達するかどうかは、コマンドを実行するOperation Managerのサーバ側のコマンドプロンプト画面でpingコマンドを投入して確認することもできます。応答がない場合はブロードキャストは到達しません。

投入先IPアドレスが、10.90.100.100で、サブネットマスクが255.255.255.0の場合の投入コマンドは、“ping 10.90.100.255”となります。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc01a(YYY): 電源投入確認に失敗しました。

【メッセージの意味】

電源投入確認のために送信した「ping」に応答しません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/wt:で指定した待ち合わせ時間を長くするか、リトライを設定してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡ください。

【システム管理者の処置】

- 電源投入の対象ホストが「Wakeup on LAN」に対応しているハードウェアであるか確認してください。対象ホストが「Wakeup on LAN」に対応しているハードウェアである場合、「Wakeup on LAN」可能な状態となっているか確認してください。
- 対象ホスト名で指定したコンピュータにネットワークが正しくインストールされているか確認してください。また、ネットワークの状態やDNSの登録情報を確認してください。
- 他のサブネット上のクライアントに電源を投入する場合は、サーバから電源投入対象端末のネットワークに対してブロードキャストパケットが到達できるようにネットワーク機器(ルータ等)の設定が必要です。詳しい設定方法はご使用のネットワーク機器のマニュアルを参照してください。

ブロードキャストパケットが到達するかどうかは、コマンドを実行するOperation Managerのサーバ側のコマンドプロンプト画面でpingコマンドを投入して確認することもできます。応答がない場合はブロードキャストは到達しません。

投入先IPアドレスが、10.90.100.100で、サブネットマスクが255.255.255.0の場合の投入コマンドは、“ping 10.90.100.255”となります。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc01b(YYY): 電源投入確認に失敗しました。

【メッセージの意味】

電源投入確認のために送信した「ping」に応答しません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

- 電源投入の対象ホストが｢Wakeup on LAN｣に対応しているハードウェアであるか確認してください。対象ホストが｢Wakeup on LAN｣に対応しているハードウェアである場合、｢Wakeup on LAN｣可能な状態となっているか確認してください。
- ネットワークの状態やDNSの登録情報を確認してください。
- 他のサブネット上のクライアントに電源を投入する場合は、サーバから電源投入対象端末のネットワークに対してブロードキャストパケットが到達できるようにネットワーク機器(ルータ等)の設定が必要です。詳しい設定方法はご使用のネットワーク機器のマニュアルを参照してください。

ブロードキャストパケットが到達するかどうかは、コマンドを実行するOperation Managerのサーバ側のコマンドプロンプト画面でpingコマンドを投入して確認することもできます。応答がない場合はブロードキャストは到達しません。

投入先IPアドレスが、10.90.100.100で、サブネットマスクが255.255.255.0の場合の投入コマンドは、“ping 10.90.100.255”となります。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc032(YYY): ホスト情報定義からMACアドレスの獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ホスト情報定義ファイルが存在しないか、対象ホストの情報が定義されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

Systemwalker Operation Manager 導入手引書に記載されたディレクトリにホスト情報定義ファイルが存在するか、また対象ホスト情報が定義されているかを確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc033(YYY): ホスト情報定義からIPアドレスの獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ホスト情報定義ファイルが存在しないか、対象ホストの情報が定義されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

Systemwalker Operation Manager 導入手引書に記載されたディレクトリにホスト情報定義ファイルが存在するか、また対象ホスト情報が定義されているかを確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc034(YYY): ホスト情報定義からサブネットマスクの獲得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ホスト情報定義ファイルが存在しないか、対象ホストの情報が定義されていません。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

Systemwalker Operation Manager 導入手引書に記載されたディレクトリにホスト情報定義ファイルが存在するか、また対象ホスト情報が定義されているかを確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc0fe(YYY): 処理が中断されました。

【メッセージの意味】

コマンドが強制終了により処理を中止しました。コマンドは、処理を完了せずに中止しました。

【パラメタの意味】

YYY: 業務連携コマンドが通知するシステムのエラーコード

【出力対象コマンド】

クライアント電源投入コマンド

[UNIX]0xc101: コマンドパラメータに重複があります。

【メッセージの意味】

同じコマンドパラメータが重複して指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

重複するコマンドパラメータを取り除いてください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[UNIX]0xc102: コマンドパラメータが不足しています。

【メッセージの意味】

正しいコマンドパラメータが指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを修正してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[UNIX]0xc103 : rcオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ回数指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/rc:オプションには0～99までの数値を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[UNIX]0xc104 : riオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ間隔指定オプションに無効な文字列や値が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/ri:オプションには0～9999までの数値を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[UNIX]0xc105 : rcオプションとriオプションの片方が指定されていません。

【メッセージの意味】

/rcオプションの指定があり /riオプションが指定されていないか、/riオプションの指定があり /rcオプションが指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

リトライ指定する場合は、/rc、/ri両オプションを指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[UNIX]0xc106: 無効なパラメータが指定されています。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータに使用できないオプションが指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドパラメータを見直してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[UNIX]0xc107: ホスト名の指定がありません

【メッセージの意味】

コマンドパラメータにホスト名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンドの第一パラメータにホスト名を指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[UNIX]0xc108：sdオプションに無効な指定がされています。

【メッセージの意味】

/sd:オプションの指定内容に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/sd:オプションにはpoff/reboot/downのいずれかを指定してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[UNIX]0xc109: ホスト名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

コマンドパラメータのホスト名が正しく指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ホスト名の長さや無効な文字列がないか確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[UNIX]0xc10a: メッセージ通知により中断しました。

【メッセージの意味】

コマンドが強制終了により処理を中止しました。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

[UNIX]0xc10b: 業務連携エンジンへの処理開始要求が受け付けられませんでした。

【メッセージの意味】

- 指定したクライアント上でクライアント業務連携が起動されていません。
- 指定したクライアントが見つかりません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

- 指定したクライアントのホスト名を確認してください。
- 指定したクライアント上でクライアント業務連携を起動してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

- 利用者の指定したクライアントのホスト名でpingコマンドが正常に動作するか確認してください。
- Windowsのファイアウォール等で通信を遮断していないか等、ネットワークの状態を確認してください。

【出力対象コマンド】

クライアント電源切断コマンド

3.10.6 リモートアクセス制御コマンドの出力メッセージ

本項では、リモートアクセス制御コマンドの出力メッセージについて説明します。サーバ連携共通コマンドの出力メッセージは、"3.10.2 共通メッセージ"を参照してください。

[Windows]0xb001: コマンドパラメータに重複があります。

"3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ"を参照してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb002: コマンドパラメータが不足しています。

"3.10.4 アプリケーション起動コマンドの出力メッセージ"を参照してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb003: RCオプションに無効な値が指定されています。

"3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ"を参照してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb004: RIオプションに無効な値が指定されています。

"3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ"を参照してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb005: スレッド生成に失敗しました。

"3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ"を参照してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb006: メッセージ通知により中断しました。

“3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb007: 業務連携エンジンへの処理開始要求が受け付けられませんでした。

“3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb008: PSオプションに無効な値が指定されています。

【メッセージの意味】

/PS:オプションの指定に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/PS:オプションにはTRUE/FALSEを指定してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb009: ユーザのパスワード取得に失敗しました。

“3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb00a: RCオプションとRIオプションの片方が指定されていません。

“3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb00b: ユーザ名の指定が正しくありません。

“3.10.4 アプリケーション起動コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb00c: RASエントリ名が指定されていません。

【メッセージの意味】

/EN:オプションが指定されていないか、エントリ名が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/EN:オプションとエントリ名を指定してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb010: ユーザ名またはログイン定義名が指定されていません。

【メッセージの意味】

/UN:、/LG:オプションの片方または両方が指定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/UN:、/LG:オプション両方とも指定してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb011: 無効なパラメータが指定されています。

“3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb015: 電話帳パス名の指定が正しくありません。（PBオプション）

【メッセージの意味】

/PB:オプションの指定内容に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/PB:オプションに正しいローカルパス名を指定してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb016: 電話番号の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

/PN:オプションの指定内容に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/PN:オプションは数字と - のみ指定してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb017: コールバック用電話番号の指定が正しくありません。(CNオプション)

【メッセージの意味】

/CN:オプションの指定内容に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/CN:オプションは数字と - のみ指定してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb018: ドメイン名の指定が正しくありません。(DNオプション)

【メッセージの意味】

/DN:オプションの指定内容に誤りがあります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

/DN:オプションに正しいドメイン名を指定してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

[Windows]0xb019: ログイン定義名の指定が正しくありません。

“3.10.3 ファイル制御コマンドの出力メッセージ”を参照してください。

【出力対象コマンド】

リモートアクセス制御コマンド

3.10.7 パスワード管理コマンドの出力メッセージ

本項では、パスワード管理コマンドの出力メッセージについて説明します。

[UNIX]0x00000064 (YYY): パス名が長すぎます。

【メッセージの意味】

パスワード管理簿のパス名が有効字数を超えています。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ログイン定義名を短い名前に変更してください。

指定できるログイン定義名の最大長は、以下のとおりです。

ログイン定義名の最大長(バイト) = 223(バイト) - Systemwalker Operation Managerのインストールディレクトリ長(バイト)

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x00000064 (YYY): レジストリ参照に失敗しました。

【メッセージの意味】

本ソフトウェア動作に必要なレジストリ情報が存在しません。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x00000065 (YYY): パスワード管理簿が存在しません。

【メッセージの意味】

指定したログイン定義名のパスワード管理簿ファイルが存在しません。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パスワード管理簿を新規作成するか、作成済みパスワード管理簿を指定してください。

パスワード管理簿については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x00000066 (YYY): パスワード管理簿ファイルと同名のディレクトリが存在します。

【メッセージの意味】

パスワード管理簿ファイルと同じ名前のディレクトリが作成されています。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

パスワード管理簿用ディレクトリ内からディレクトリを削除してください。

パスワード管理簿用のディレクトリについては、"Systemwalker Operation Manager 導入手引書"を参照してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x00000066 (YYY): パス名が長すぎます。

【メッセージの意味】

パスワード管理簿作成用のパス名が最大文字数を超えました。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

ログイン定義名を短くしてください。指定できるログイン定義名の長さは、以下のとおりです。

ログイン定義名の最大長(バイト) = 223(バイト) - Systemwalker Operation Managerのインストールディレクトリ長(バイト)

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x00000067 (YYY): パスワード管理簿が存在しません。

【メッセージの意味】

指定したログイン定義名のパスワード管理簿が作成されていません。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

パスワード管理簿用ディレクトリ内からディレクトリを削除してください。

パスワード管理簿用のディレクトリについては、"Systemwalker Operation Manager 導入手引書"を参照してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x00000067 (YYY): ファイル検索処理で異常が発生しました。

【メッセージの意味】

パスワード管理簿のアクセスに失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡してください。

【システム管理者の処置】

パスワード管理簿ディレクトリやパスワード管理簿ファイルの内容、およびパスワード管理簿ディレクトリやファイルのパーミッション設定に問題がないか確認してください。

パスワード管理簿のファイルの格納場所、ファイル名については“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x00000068 (YYY): パスワード管理簿用のディレクトリが存在しません。

【メッセージの意味】

パスワード管理簿の保存ディレクトリが存在しません。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡してください。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker Operation Manager導入手引書”に記載されているパスワード管理簿用のディレクトリを作成するか、本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x00000069 (YYY): パスワード管理簿の作成に失敗しました。

【メッセージの意味】

パスワード管理簿のファイルを新規作成することができませんでした。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡してください。

【システム管理者の処置】

以下の点を確認してください。

- ディスク容量が不足していないか
- パスワード管理簿ディレクトリなどに対して、利用者が書き込み可能なパーミッション設定がされているか

パスワード管理簿のファイルの格納場所、ファイル名については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x00000069 (YYY): パスワード管理簿ファイルと同名のディレクトリが存在します。

【メッセージの意味】

パスワード管理簿用のディレクトリ内に管理簿と同名のディレクトリがあります。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

パスワード管理簿用ディレクトリ内からディレクトリを削除してください。

パスワード管理簿用のディレクトリについては、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x0000006a (YYY): パスワード管理簿の読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

パスワード管理簿のファイルの読み込みが正常に行われませんでした。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡してください。

【システム管理者の処置】

以下の点を確認してください。

- パスワード管理簿用ディレクトリおよびパスワード管理簿用ファイルに対して、利用者が読み込み可能なパーミッション設定がされているか
- 他のアプリケーションがパスワード管理簿用ディレクトリ内のファイルを使用していないか

パスワード管理簿のファイルの格納場所、ファイル名については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x0000006a (YYY): ファイル検索処理で異常が発生しました。

【メッセージの意味】

パスワード管理簿のアクセスが正常に行えませんでした。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

パスワード管理簿用ディレクトリにアクセス制限が設定されていないか確認してください。

パスワード管理簿が格納されるディレクトリについては、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x0000006b (YYY): パスワード管理簿の内容に異常が有ります。

【メッセージの意味】

パスワード管理簿のデータが壊れています。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡してください。

【システム管理者の処置】

壊れているパスワード管理簿のファイルを削除して、パスワード管理コマンドで再登録してください。

パスワード管理簿のファイルの格納場所、ファイル名については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x0000006b (YYY): パスワード管理簿用のディレクトリが存在しません。

【メッセージの意味】

パスワード管理簿用のディレクトリが作成されていません。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”に記載されているパスワード管理簿用のディレクトリを作成するか、本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x0000006c (YYY): パスワード管理簿の作成に失敗しました。

【メッセージの意味】

パスワード管理簿のファイル書き込み処理が正常に行えませんでした。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

ディスク容量が不足していないか、管理簿用ディレクトリが書き込み禁止になっていないか確認してください。

パスワード管理簿が格納されるディレクトリについては、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x0000006c (YYY): ホームディレクトリが存在しません。

【メッセージの意味】

本ソフトウェアのインストールディレクトリが存在しません。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能

- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x0000006d (YYY): パスワード管理簿の読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

パスワード管理簿のファイル読み込みが正常に行えませんでした。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

他のソフトウェアからパスワード管理簿のファイルを開いていないか確認してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

パスワード管理簿のファイルの格納場所、ファイル名については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【システム管理者の処置】

パスワード管理簿のファイルにアクセス制限がかかっていないか確認してください。

パスワード管理簿のファイルの格納場所、ファイル名については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x0000006e (YYY): パスワード管理簿の内容に異常が有ります。

【メッセージの意味】

パスワード管理簿の内容に異常が見つかりました。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

該当するパスワード管理簿のファイルを削除してから、新規に作り直してください。

パスワード管理簿のファイルの格納場所、ファイル名については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x0000006e (YYY): 指定したユーザは登録されていません。

【メッセージの意味】

指定したログイン定義名・ユーザ名に該当するユーザは登録されていません。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

登録されているユーザ名を確認してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x0000006f (YYY): ホームディレクトリが存在しません。

【メッセージの意味】

本ソフトウェアのインストールディレクトリが存在しません。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

本ソフトウェアを再インストールしてください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x00000070 (YYY): エラーメッセージの取得に失敗しました。

【メッセージの意味】

メモリが不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

他のソフトウェアを終了させてください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x00000071 (YYY): パスワード管理簿の書き込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

パスワード管理簿のファイル書き込みが正常に行われませんでした。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡してください。

【システム管理者の処置】

以下の点を確認してください。

- パスワード管理簿ディレクトリおよびパスワード管理簿用のファイルに対して、利用者が書き込み可能なパーミッション設定がされているか
- 他のアプリケーションがパスワード管理簿ディレクトリ内のファイルを使用していないか

パスワード管理簿のファイルの格納場所、ファイル名については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x00000071 (YYY): 指定したユーザは登録されていません。

【メッセージの意味】

ユーザ名の指定に誤りがあるか、またはパスワード管理簿へ登録されていません。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

登録されているユーザ名を確認してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x00000072 (YYY): パスワード管理簿を重複してオープンしました。

【メッセージの意味】

内部エラーです。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

システム管理者へご連絡ください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x00000072 (YYY): 指定したユーザは既に登録されています。

【メッセージの意味】

登録済みのユーザ名で再登録しようとしました。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

更新指定を行ってください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x00000073 (YYY): メモリの確保に失敗しました。

【メッセージの意味】

運用環境のメモリが不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

不要なアプリケーションを終了させてください。

【システム管理者の処置】

物理メモリを増設するか、スワップの設定を変更してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x00000074 (YYY): パスワードの暗号化処理に失敗しました。

【メッセージの意味】

内部エラーです。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

システム管理者へご連絡ください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x00000074 (YYY): パスワード管理簿の書き込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

パスワード管理簿のファイル書き込みが正常に行えませんでした。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

以下の点を確認してください。

- パスワード管理簿のファイルにアクセス制限がかかっていないか
- 他のソフトウェアからパスワード管理簿のファイルを開いていないか

パスワード管理簿のファイルの格納場所、ファイル名については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x00000075 (YYY): 現在のユーザはパスワード管理簿のアクセスができません。

【メッセージの意味】

現在のユーザは指定したログイン定義名のパスワード管理簿に対するアクセス権限がありません。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

アクセス可能なログイン定義名を指定してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x00000075 (YYY): 指定したユーザは既に登録されています。

【メッセージの意味】

登録済みのユーザ名で再登録しようとしました。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

更新指定を行ってください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x00000076 (YYY): メモリの確保に失敗しました。

【メッセージの意味】

メモリが不足しています。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

他のソフトウェアを終了させてください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x00000076 (YYY): 無効な長さのログイン定義名です。

【メッセージの意味】

ログイン定義名の指定が短すぎるまたは長すぎます。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

数文字から数十文字程度のログイン定義名に変更してください。

指定できるログイン定義名の最大長は、以下のとおりです。

ログイン定義名の最大長(バイト) = 223(バイト) - Systemwalker Operation Managerのインストールディレクトリ長(バイト)

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x00000077 (YYY): パスワードの暗号化処理に失敗しました。

【メッセージの意味】

内部エラーです。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

システム管理者へご連絡ください。

【システム管理者の処置】

システムを再起動してください。

問題が解決しない場合は、保守情報収集ツールで以下の機能の調査資料を採取し、富士通技術員までご連絡ください。

- “サーバ業務連携”機能
- “クライアント業務連携”機能

インストール時に選択したオプション機能により、上記2つの機能のいずれかが存在しない場合があります。その場合は、選択可能な機能のみ採取を行ってください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x00000077 (YYY): 無効な長さのユーザ名です。

【メッセージの意味】

ユーザ名の指定が短すぎるまたは長すぎます。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

1文字から20文字のユーザ名に変更してください。コンピュータ名・ドメイン名を含む場合その部分は15文字までに変更してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x00000078 (YYY) : OS情報の取得に失敗しました。

【メッセージの意味】

コンピュータ名、グループ名、ユーザ名の情報取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

OSのネットワーク設定が正しく行われているか確認してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x00000078 (YYY): 無効な長さのパスワードです。

【メッセージの意味】

パスワードの指定が短すぎるまたは長すぎます。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

1文字から50文字のパスワードに変更してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x00000079 (YYY): 現在のユーザはパスワード管理簿のアクセスができません。

【メッセージの意味】

ログイン定義名と同名のグループに現在のユーザが所属していません。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

ログイン定義名と同名のグループに所属するユーザでログインしてください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x0000007a (YYY): ユーザ名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

ユーザ名の書式・文字に誤りがあります。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ユーザ名を確認してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x0000007a (YYY): 無効な長さのログイン定義名です。

【メッセージの意味】

ログイン定義名の指定が短すぎるまたは長すぎます。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

数文字から数十文字程度のログイン定義名に変更してください。

指定できるログイン定義名の最大長は、以下のとおりです。

ログイン定義名の最大長(バイト) = 223(バイト) - Systemwalker Operation Managerのインストールディレクトリ長(バイト)

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[UNIX]0x0000007b (YYY): ログイン定義名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

ログイン定義名の書式･文字に誤りがあります。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

ログイン定義名を確認してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x0000007b (YYY): 無効な長さのユーザ名です。

【メッセージの意味】

ユーザ名の指定が短すぎるまたは長すぎます。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

1文字から20文字のユーザ名に変更してください。コンピュータ名･ドメイン名を含む場合その部分は15文字までに変更してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x0000007c (YYY): 無効な長さのパスワードです。

【メッセージの意味】

パスワードの指定が短すぎるまたは長すぎます。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

1文字から50文字のパスワードに変更してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x0000007e (YYY): ユーザ名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

ユーザ名の書式・文字に誤りがあります。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

ユーザ名を確認してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

[Windows]0x0000007f (YYY): ログイン定義名の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

ログイン定義名の書式・文字に誤りがあります。

【パラメタの意味】

YYY: パスワード管理簿コマンドが通知するシステムのエラーコード

【利用者の処置】

ログイン定義名を確認してください。

【出力対象コマンド】

パスワード管理コマンド

3.11 クライアント業務連携の出力メッセージ

本節では、クライアント業務連携の出力メッセージについて説明します。クライアント業務連携のメッセージは、メッセージボックスで出力されます。

[エラー]0xe00aa201:サービス起動処理監視がタイムアウトしました。

【メッセージの意味】

クライアント業務連携エンジンの起動処理においてタイムアウトが発生しました。クライアント業務連携エンジンが起動するために必要なポートが使用できない可能性があります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携エンジンが起動するために必要なポートを、他のアプリケーションが既に使用しているなどの原因によって、業務連携がポートを使用できない可能性があります。業務連携に必要なポート番号が使用可能な状態になっていることを確認してください。業務連携が使用するポート番号については、"Systemwalker Operation Manager 導入手引書"を参照してください。

既に、クライアント業務連携エンジンが起動しています。

【メッセージの意味】

既に、クライアント業務連携エンジンが起動しているため、二重に起動することはできません。

【システムの処理】

システムを中止します。

クライアント業務連携エンジン起動時に次のエラーが発生しました。Error Event ID(0xA818) 通信制御部の初期処理で、制御パス確立受付けソケットのバインドに失敗しました。

【メッセージの意味】

通信制御部の初期処理で、クライアント業務連携エンジンの制御パス確立受付けのソケットのバインドに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携エンジンが起動するために必要なポートを、他のアプリケーションが既に使用しているなどの原因によって、業務連携がポートを使用できない可能性があります。業務連携に必要なポート番号が使用可能な状態になっていることを確認してください。業務連携が使用するポート番号については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

クライアント業務連携エンジン起動時に次のエラーが発生しました。Error Event ID(0xA819) 通信制御部の初期処理で、業務連携エンジン検索受付けソケットのバインドに失敗しました。

【メッセージの意味】

通信制御部の初期処理で、クライアント業務連携エンジンの業務連携エンジン検索受付けソケットのバインドに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携エンジンが起動するために必要なポートを、他のアプリケーションが既に使用しているなどの原因によって、業務連携がポートを使用できない可能性があります。業務連携に必要なポート番号が使用可能な状態になっていることを確認してください。業務連携が使用するポート番号については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

クライアント業務連携エンジン起動時に次のエラーが発生しました。Error Event ID(0xA81A) 通信制御部の初期処理で、業務連携エンジン 業務連携接続ソケットのバインドに失敗しました。

【メッセージの意味】

通信制御部の初期処理で、クライアント業務連携エンジンの業務連携接続ソケットのバインドに失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

クライアント業務連携エンジンが起動するために必要なポートを、他のアプリケーションが既に使用しているなどの原因によって、業務連携がポートを使用できない可能性があります。業務連携に必要なポート番号が使用可能な状態になっていることを確認してください。業務連携が使用するポート番号については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”を参照してください。

3.12 マスタスケジュール管理機能コマンドの出力メッセージ

本節では、マスタスケジュール管理機能コマンドの出力メッセージについて説明します。

MpStem: INFO: 10001: スケジュール情報の作成を開始しました。(yyyymmdd)
MpStem: INFO: 10001: Creating schedule information. (yyyymmdd)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: INFO: 10002: スケジュール情報の作成を完了しました。(yyyymmdd)
MpStem: INFO: 10002: Created the schedule information. (yyyymmdd)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: INFO: 10003: スケジュール情報は既に作成済みのため、作成されませんでした。(yyyymmdd)
MpStem: INFO: 10003: Schedule information already exists. Could not create it. (yyyymmdd)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: INFO: 10004: スケジュール情報の取り消しを開始しました。(yyyymmdd)
MpStem: INFO: 10004: Deleting the schedule information. (yyyymmdd)

【メッセージの意味】

yyyymmddの運用日のスケジュール情報の取り消しが要求されました。

【パラメタの意味】

yyyymmdd：日付

【システムの処理】

処理を継続します。

MpStem: INFO: 10005: スケジュール情報の取り消しは完了しました。(yyyymmdd)
MpStem: INFO: 10005: Deleted the schedule information. (yyyymmdd)

【メッセージの意味】

yyyymmddの運用日のスケジュール情報の削除は正常に完了しました。

【パラメタの意味】

yyyymmdd：日付

【システムの処理】

正常終了

MpStem: INFO: 10006: 運用変更が正常に行われました。
MpStem: INFO: 10006: Operation Change has been completed successfully.

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: INFO: 10007: XXXXは正常に終了しました。
MpStem: INFO: 10007: XXXX exited normally.

【メッセージの意味】

実行したコマンドは正常に完了しました。

【パラメタの意味】

XXXX：コマンド名

【システムの処理】

正常終了

MpStem: INFO: 10008: 運用変更の取り消しが正常に行われました。
MpStem: INFO: 10008: Operation Change has been canceled successfully.

【メッセージの意味】

スケジュールの取り消しで運用変更の内容も正常に元に戻しました。

【システムの処理】

正常終了

MpStem: INFO: 10010: 前日までに終了していないジョブネットが存在しています。
MpStem: INFO: 10010: A job net on the previous day is not completed.

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: INFO: 10011: プロジェクトの削除に成功しました。
MpStem: INFO: 10011: The project has been deleted successfully.

【メッセージの意味】

指定したプロジェクトは正常に削除されました。

【システムの処理】

正常終了

MpStem: INFO: 10012: プロジェクトの登録に成功しました。
MpStem: INFO: 10012: The project has been registered successfully.

【メッセージの意味】

指定したプロジェクトは正常にマスタ設定されました。

【システムの処理】

正常終了

MpStem: INFO: 10013: プロジェクトのマスタ設定解除に成功しました。
MpStem: INFO: 10013: The project has been deselected as master.

【メッセージの意味】

指定したプロジェクトは正常にマスタ設定解除されました。

【システムの処理】

正常終了

MpStem: INFO: 10014: スケジュール情報は存在していません。
MpStem: INFO: 10014: Schedule information does not exist.

【メッセージの意味】

スケジュール登録時にプロジェクト上限値を超えて退避されたスケジュール情報が存在していません。

【システムの処理】

正常終了

MpStem: INFO: 10015: プロジェクト数が上限値を超えたため過去のスケジュールを退避しました。
MpStem: INFO: 10015: The number of projects reached the maximum. Created a backup of obsolete schedules.

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: INFO: 10016: IPアドレスが正常に設定されました。
MpStem: INFO: 10016: IP address has been assigned successfully.

【メッセージの意味】

IPアドレスの設定が正常に完了しました。

【システムの処理】

正常終了

MpStem: ERROR: 10100: スケジュール情報は既に作成済みのため、作成できません。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10100: Schedule information already exists. Cannot create it. (yyyymmdd)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10101: スケジュール情報は既に作成中のため、作成できません。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10101: Schedule information is currently being created. Cannot create it. (yyyymmdd)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10102: スケジュール情報は他で作成中のため、作成できません。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10102: Schedule information is currently being created by another process. Cannot create it. (yyyymmdd)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10103: スケジュール情報の作成に失敗しました。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10103: Failed to create schedule information. (yyyymmdd)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10104: スケジュール情報の抽出に失敗しました。
MpStem: ERROR: 10104: Failed to extract the schedule information.

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10105: スケジュール管理ファイルの書き込みに失敗しました。
MpStem: ERROR: 10105: Failed to write the schedule management file.

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10106: スケジュール情報の配付に失敗しました。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10106: Failed to distribute the schedule information. (XXXX)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10107: スケジュール情報の登録に失敗しました。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10107: Failed to register the schedule information. (XXXX)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10108: スケジュールサーバが存在しません。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10108: Schedule server does not exist. (XXXX)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10109: データが不当なため、プロジェクト情報の登録に失敗しました。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10109: Invalid data. Failed to register the project information. (XXXX)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10110: データが不当なため、スケジュール情報の登録に失敗しました。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10110: Invalid data. Failed to register the schedule information. (XXXX)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10112: スケジュールサーバとの通信に失敗しました。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10112: Failed to communicate with Schedule Server. (XXXX)

"2.15 MpStemで始まるメッセージ"を参照してください。

MpStem: ERROR: 10113: スケジュールサーバの定義に同じホスト名が重複して定義されています。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10113: Same host name is defined more than once in the definition on Schedule Server. (XXXX)

"2.15 MpStemで始まるメッセージ"を参照してください。

MpStem: ERROR: 10114: スケジュールサーバの定義に同じIPアドレスが重複して定義されています。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10114: Same IP address is defined more than once in the definition on Schedule Server. (XXXX)

"2.15 MpStemで始まるメッセージ"を参照してください。

MpStem: ERROR: 10119: 環境が正しく構築されていません。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10119: Environment is not configured correctly. (XXXX)

"2.15 MpStemで始まるメッセージ"を参照してください。

MpStem: ERROR: 10120: スケジュール情報の取り消しに失敗しました。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10120: Failed to delete the schedule information. (XXXX)

【メッセージの意味】

スケジュール情報を削除する際に問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【パラメタの意味】

XXXX: サーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウで再度、スケジュール取り消しを実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定の取り消しオプションで実行します。

MpStem: ERROR: 10121: スケジュール情報の取り消しはできませんでした。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10121: Could not delete the schedule information. (yyyymmdd)

【メッセージの意味】

スケジュール情報を削除する際に問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【パラメタの意味】

yyyymmdd: 日付

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウで再度、スケジュール取り消しを実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定の取り消しオプションで実行します。

MpStem: ERROR: 10123: 過去のスケジュール情報は作成できません。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10123: Cannot create schedule information for the past date. (yyyymmdd)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10124: スケジュール情報の取り消しに失敗しているため、スケジュール作成はできません。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10124: Deletion of the schedule information failed previously. Cannot create it. (yyyymmdd)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10125: 当日・過去の再スケジュールはできません。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10125: Cannot reschedule for the current or the past date. (yyyymmdd)

【メッセージの意味】

再スケジュールは未来の日付にしかできません。当日・過去の日付に対しては再スケジュールを実行できません。

【パラメタの意味】

yyyymmdd：日付

【システムの処理】

処理を中止します。

MpStem: ERROR: 10126: スケジュール情報が作成されていないため、再スケジュールはできません。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10126: Schedule information is not created. Cannot reschedule. (yyyymmdd)

【メッセージの意味】

再スケジュールは既に作成されているスケジュール情報を再作成するため、スケジュール情報が作成されていない場合、実行できません。

【パラメタの意味】

yyyymmdd：日付

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウでスケジュール実行をするか、スケジュール管理コマンドを運用日指定で実行します。

MpStem: ERROR: 10127: 当日・過去のスケジュール情報は取り消すことはできません。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10127: Cannot delete the schedule information for the current or the past date. (yyyymmdd)

【メッセージの意味】

スケジュールの取り消しは、未来のスケジュールまたは当日・過去でエラーとなっているスケジュールのみに実行できます。既に適用されているスケジュール情報に対して取り消しはできません。

【パラメタの意味】

yyyymmdd：日付

【システムの処理】

処理を中止します。

MpStem: ERROR: 10128: スケジュール情報は存在していません。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10128: Schedule information does not exist. (yyyymmdd)

【メッセージの意味】

存在していないスケジュール情報に対し、スケジュールの取り消しが依頼されました。

【パラメタの意味】

yyyymmdd：日付

【システムの処理】

処理を中止します。

MpStem: ERROR: 10131: サブシステム環境が作成されていません。
MpStem: ERROR: 10131: Subsystem environment is not created.

"2.15 MpStemで始まるメッセージ"を参照してください。

MpStem: ERROR: 10132: スケジュール環境設定ファイルに不当な値が設定されています。
MpStem: ERROR: 10132: Invalid value is specified in the schedule configuration file.

"2.15 MpStemで始まるメッセージ"を参照してください。

MpStem: ERROR: 10133: 30日先の未来のスケジュールはできません。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10133: Can only schedule 30 days into the future. (yyyymmdd)

"2.15 MpStemで始まるメッセージ"を参照してください。

MpStem: ERROR: 10134: 年をまたいだ過去のスケジュールはできません。(yyyymmdd)
MpStem: ERROR: 10134: Cannot schedule for a date in the previous year. (yyyymmdd)

"2.15 MpStemで始まるメッセージ"を参照してください。

MpStem: ERROR: 10136: 運用変更に失敗しました。
MpStem: ERROR: 10136: Operation Change has failed.

"2.15 MpStemで始まるメッセージ"を参照してください。

MpStem: ERROR: 10137: 運用変更の予定チェックに失敗しました。
MpStem: ERROR: 10137: Failed to check the schedule for Operation Change.

"2.15 MpStemで始まるメッセージ"を参照してください。

MpStem: ERROR: 10138: 運用変更が失敗しているため、スケジュールは実行できません。
MpStem: ERROR: 10138: Cannot run the schedule because the Operation Change process has failed previously.

"2.15 MpStemで始まるメッセージ"を参照してください。

MpStem: ERROR: 10139: 運用日のスケジュールが未作成のため、スケジュールサーバ指定のスケジュールはできません。
MpStem: ERROR: 10139: No operation is scheduled by dates. Cannot schedule using Schedule Server.

"2.15 MpStemで始まるメッセージ"を参照してください。

MpStem: ERROR: 10141: 既に適用されたスケジュール情報が存在するため、スケジュールを取り消すことはできません。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10141: Schedule information has already been applied. Cannot delete it. (XXXX)

【メッセージの意味】

異常状況のスケジュールに対し、スケジュール取り消し操作を行った場合、一部のプロジェクトで既に適用されているとスケジュールの取り消しはできません。

【パラメタの意味】

XXXX: サーバ名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

既に適用されたプロジェクトの削除(必要に応じてバックアップ)を行った後、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウで再度、スケジュール取り消しを実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定の取り消しオプションで実行します。

MpStem: ERROR: 10142: 運用変更の取り消しに失敗しました。
MpStem: ERROR: 10142: Failed to cancel the operation change.

【メッセージの意味】

スケジュールの取り消しで、マスタ情報を運用変更前の状態に戻す際に問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウで再度、スケジュール取り消しを実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定の取り消しオプションで実行します。

MpStem: ERROR: 10143: サーバ間で仮想時間の同期がとれていません。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10143: Virtual time is not in sync between servers. (XXXX)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10144: プロジェクトのマスタ設定情報が読み込めません。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10144: Cannot read the master setting of the project. (XXXX)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10145: スケジュール情報の登録を確認できませんでした。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10145: Could not check if the schedule information is registered. (XXXX)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10148: スケジュールサーバが追加されているため、異常状況に対するスケジュールの実行はできません。
MpStem: ERROR: 10148: A schedule server has been added. Cannot start the schedule for error status.

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10149: コード変換により、文字列の最大バイト数を超えました。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10149: The string exceeded the maximum size (bytes) after encoding. (XXXX)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10150: 旧バージョンのスケジュールサーバに対するスケジュール分散はできません。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10150: Cannot distribute schedules to an earlier version of the schedule server. (XXXX)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10150: 旧バージョンのスケジュールサーバに対するスケジュール情報の配付はできません。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10150: Cannot distribute schedules to an earlier version of the schedule server. (XXXX)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10151: サポートされていない機能が存在します。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10151: One or more functions in the definitions are not supported.(XXXX)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10152: 年をまたいだ過去のスケジュールはできません。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10152: Cannot schedule for a date in the previous year. (XXXX)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: WARNING: 10201: スケジュールを作成する情報が存在しません。
MpStem: WARNING: 10201: There is no information to create a schedule.

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: WARNING: 10202: スケジュール環境設定ファイルに不当な値が設定されています。
MpStem: WARNING: 10202: Invalid value is specified in the schedule configuration file.

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: WARNING: 10203: スケジュール情報の登録処理中です。(XXXX)
MpStem: WARNING: 10203: Registering the schedule information... (XXXX)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: WARNING: 10204: 事前に登録された情報の削除に失敗しました。
MpStem: WARNING: 10204: Failed to delete the registered information.

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: WARNING: 10206: 設定するサブシステムが存在しませんでした。
MpStem: WARNING: 10206: There is no subsystem to configure.

【メッセージの意味】

IPアドレスの設定対象となるサブシステムが存在しませんでした。

【システムの処理】

処理を行いませんでした。

【システム管理者の処置】

モードが日ごとスケジュール管理または日ごとスケジュール管理(テストモード)になっているサブシステムが存在するか、指定したスケジュールサーバが存在するかを確認して、再度マスタスケジュール管理環境設定コマンドを実行してください。

MpStem: WARNING: 10207: ジョブネット情報が見つかりません。
MpStem: WARNING: 10207: Job net information not found.

【メッセージの意味】

指定された条件に該当するジョブネット情報が存在しません。

【システムの処理】

正常終了します。

【利用者の処置】

条件の指定とプロジェクトに対するアクセス権を確認してください。

MpStem: WARNING: 10208: 履歴情報が見つかりません。
MpStem: WARNING: 10208: History information of job net is not found.

【メッセージの意味】

指定された条件に該当するジョブネットの履歴情報が存在しません。

【システムの処理】

正常終了します。

【利用者の処置】

条件の指定とプロジェクトに対するアクセス権を確認してください。

MpStem: WARNING: 10209: マスタ設定されていないプロジェクトが存在しました。(XXXX)
MpStem: WARNING: 10209: There is a project that is not set as master. (XXXX)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: WARNING: 10210: 監査ログライブラリのロードに失敗しました。
MpStem: WARNING: 10210: Failed to load the audit log library.

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: WARNING: 10211: 監査ログファイルの読み込みに失敗しました。
MpStem: WARNING: 10211: Failed to read the audit log file.

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: WARNING: 10214: 過去のスケジュール情報は作成できません。(XXXX)
MpStem: WARNING: 10214: Cannot create schedule information for the past date. (XXXX)

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10300: XXXX : オプションの指定方法が正しくありません。
MpStem: ERROR: 10300: XXXX: Invalid option is specified.

【メッセージの意味】

コマンドに指定したオプションの指定方法が正しくありません。

【パラメタの意味】

XXXX：usage

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

オプションの指定方法を確認してください。オプションの指定方法については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

【システム管理者の処置】

オプションの指定方法を確認してください。オプションの指定方法については、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10302: 特権ユーザではありません。
MpStem: ERROR: 10302: Not a privileged user.

【メッセージの意味】

コマンド実行するためには、システム管理者の権限が必要です。

【システムの処理】

処理を中止します。

MpStem: ERROR: 10305: 運用変更が完了していないため、事前設定ができません。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10305: Cannot preset Operation Change because the Operation Change process has failed previously. (XXXX)

【メッセージの意味】

運用変更が完了していないため、新たに運用変更事前設定ができない状態になっています。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

異常の発生している運用日のスケジュールを完了させた後、再度運用変更事前設定コマンドを実行します。

MpStem: ERROR: 10306: 運用変更の事前設定に失敗しました。
MpStem: ERROR: 10306: Failed to preset the operation change.

【メッセージの意味】

運用変更事前設定コマンドの実行において、事前設定する際に問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度、運用変更事前設定コマンドを実行します。

MpStem: ERROR: 10307: 指定された日にリリースされる登録情報は存在しません。
MpStem: ERROR: 10307: There is no registered information to release on the specified date.

【メッセージの意味】

運用変更リリース日変更コマンドの実行において、変更前リリース日で指定した運用変更用プロジェクトが存在していません

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

指定したリリース日を確認のうえ、再度、運用変更リリース日変更コマンドを実行します。

MpStem: ERROR: 10308: 指定された日にリリースされる登録情報は既に存在します。
MpStem: ERROR: 10308: Registered information to release on the specified date already exists.

【メッセージの意味】

- 運用変更事前設定コマンドの場合

  運用変更事前設定コマンドで指定したリリース日の運用変更用プロジェクトは、既に存在しています。

- 運用変更リリース日変更コマンドの場合

  運用変更リリース日変更コマンドの実行において、変更後リリース日で指定した運用変更用プロジェクトが存在しているため、変更できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

- 運用変更事前設定コマンドの場合

  既に運用変更用プロジェクトが生成されているため、そのプロジェクトで情報の変更作業を行います。

- 運用変更リリース日変更コマンドの場合

  指定したリリース日を確認のうえ、再度、運用変更リリース日変更コマンドを実行します。

MpStem: ERROR: 10309: リリース日の変更に失敗しました。
MpStem: ERROR: 10309: Failed to change the release date.

【メッセージの意味】

運用変更リリース日変更コマンドの実行において、リリース日を変更する際に問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度、運用変更リリース日変更コマンドを実行します。

MpStem: ERROR: 10310: 運用変更が完了していないため、取り消しができません。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10310: Cannot cancel the Operation Change because the Operation Change process has failed previously. (XXXX)

【メッセージの意味】

運用変更が完了していないため、運用変更の取り消しができない状態になっています。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

異常の発生している運用日のスケジュールを完了させた後、運用変更取消コマンドを実行します。

MpStem: ERROR: 10311: 指定されたリリース日では、運用変更は行われていません。
MpStem: ERROR: 10311: No change of operation has been made for the specified release date.

【メッセージの意味】

運用変更取消コマンドの実行において、指定したリリース日にはマスタ情報に運用変更情報は反映されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

指定したリリース日を確認のうえ、再度、運用変更取消コマンドを実行します。

MpStem: ERROR: 10312: 運用変更の取り消しに失敗しました。
MpStem: ERROR: 10312: Failed to cancel the operation change.

【メッセージの意味】

運用変更取消コマンドの実行において、マスタ情報を運用変更前の状態に戻す際に問題が発生しました。詳細なエラー情報についてマスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度、運用変更取消コマンドを実行します。

MpStem: ERROR: 10313: 指定されたプロジェクトはマスタ設定されていないか、存在していません。
MpStem: ERROR: 10313: The specified project is not set as master or does not exist.

【メッセージの意味】

マスタプロジェクト、または運用変更用プロジェクト以外が指定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

指定したプロジェクトの存在を確認してください。プロジェクトマスタ設定コマンドでマスタ設定した後、再度操作を行ってください。

MpStem: ERROR: 10315: プロジェクト情報の読み込みに失敗しました。
MpStem: ERROR: 10315: Failed to read the project information.

【メッセージの意味】

プロジェクト情報の読み込みで問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10316: ジョブネット情報の読み込みに失敗しました。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10316: Failed to read the job net information. (XXXX)

【メッセージの意味】

ジョブネット情報の読み込みで問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10317: ジョブネット情報の書き込みに失敗しました。
MpStem: ERROR: 10317: Failed to write the job net information.

【メッセージの意味】

ジョブネット情報の書き込みで問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10318: グループ情報の読み込みに失敗しました。
MpStem: ERROR: 10318: Failed to read the group information.

【メッセージの意味】

グループ情報の読み込みで問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10319: グループ情報の書き込みに失敗しました。
MpStem: ERROR: 10319: Failed to write the group information.

【メッセージの意味】

グループ情報の書き込みで問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10320: パラメタ情報ファイルの読み込みに失敗しました。
MpStem: ERROR: 10320: Failed to read the parameter information file.

【メッセージの意味】

ジョブの拡張情報の読み込みで問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10321: パラメタ情報ファイルの書き込みに失敗しました。
MpStem: ERROR: 10321: Failed to write the parameter information file.

【メッセージの意味】

ジョブの拡張情報の書き込みで問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10323: 運用変更の状況確認に失敗しました。
MpStem: ERROR: 10323: Failed to check the Operation Change status.

【メッセージの意味】

運用変更情報ファイルのチェックで問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10324: コード系が異なるため実行できません。LANG環境変数を変更し、再実行してください。
MpStem: ERROR: 10324: The LANG value is different. Reset LANG environment variable. Rerun command.

【メッセージの意味】

マスタスケジュール管理機能のコマンドを実行するユーザ環境のコード系(LANG環境変数の設定値)と、Systemwalker Operation Managerインストール時に指定したSystemwalker Operation Managerデーモンの言語種別が一致しないため、コマンドの実行はできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ユーザ環境のコード系(LANG環境変数の設定値)が、Systemwalker Operation Managerの言語種別と一致するようにLANG環境変数の設定値を変更する必要があります。

MpStem: ERROR: 10325: LANGの設定に誤りがあります。
MpStem: ERROR: 10325: The LANG value is incorrect.

【メッセージの意味】

システムに存在しないLANGが設定されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

正しいLANGを設定してください。

MpStem: ERROR: 10326: ジョブスケジューラのデーモンが動作していません。
MpStem: ERROR: 10326: Jobscheduler daemon is not running.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービス/デーモンが停止しているため、マスタスケジュール管理機能が使用できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブスケジューラのサービス/デーモンを起動してください。

MpStem: ERROR: 10327: ジョブスケジューラのデーモン起動中です。
MpStem: ERROR: 10327: Starting Jobscheduler daemon.

【メッセージの意味】

ジョブスケジューラのサービス/デーモンが起動中であるため、マスタスケジュール管理機能が使用できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

ジョブスケジューラのサービス/デーモン起動後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10328: ジョブスケジューラは終了処理中のため操作できません。
MpStem: ERROR: 10328: Systemwalker MpJobsch stopped and cannot be controlled.

“2.15 MpStemで始まるメッセージ”を参照してください。

MpStem: ERROR: 10329: メッセージ事象の発生に失敗しました。
MpStem: ERROR: 10329: Failed to occur a message event.

【メッセージの意味】

運用日を意識したメッセージ事象の発生で問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

また、-dx、-nおよび-sオプションは、運用日管理プロジェクトに登録されていないジョブ、運用日管理プロジェクトに登録されているネットワークジョブや分散実行ジョブでは、使用することができません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10330: ユーザの権限情報の取得に失敗しました。
MpStem: ERROR: 10330: Failed to obtain privilege information for the user.

【メッセージの意味】

ユーザの権限情報の取得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して、問題を取り除いてください。

MpStem: ERROR: 10331: プロジェクト情報が存在していません。
MpStem: ERROR: 10331: Project information does not exist.

【メッセージの意味】

指定したプロジェクトの情報が存在していません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

指定したプロジェクト名に誤りがないか確認してください。

MpStem: ERROR: 10333: 初期化処理に失敗しました。
MpStem: ERROR: 10333: Failed to initialize the command.

【メッセージの意味】

コマンド実行時の初期化で問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10334: プロジェクトの削除に失敗しました。
MpStem: ERROR: 10334: Failed to delete the project.

【メッセージの意味】

プロジェクトの削除に失敗しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10335: プロジェクトの登録・更新に失敗しました。
MpStem: ERROR: 10335: Failed to register and update the projects.

【メッセージの意味】

プロジェクト情報の登録・更新に失敗しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10336: 指定のプロジェクトはマスタ設定できません。
MpStem: ERROR: 10336: Cannot set the specified project as master.

【メッセージの意味】

マスタ設定可能なプロジェクト名は、15バイト以内かつ最後の5バイトに"+"または"="と数字4桁がつかないプロジェクト名です。

【システムの処理】

処理を中止します。

MpStem: ERROR: 10337: プロジェクト抑止に失敗しました。
MpStem: ERROR: 10337: Failed to suppress the project.

【メッセージの意味】

プロジェクトのマスタ設定においてスケジュールの抑止で問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10338: プロジェクトのマスタ設定解除に失敗しました。
MpStem: ERROR: 10338: Failed to deselect the project as master.

【メッセージの意味】

プロジェクトのマスタ設定解除で問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10340: ACLライブラリのロードに失敗しました。
MpStem: ERROR: 10340: Failed to load the ACL library.

【メッセージの意味】

プロジェクトのアクセス権確認でACLマネージャのライブラリのロードで問題が発生しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

以下のファイルが存在しているか確認してください。存在している場合ファイルが壊れている可能性があります。インストールしなおしてください。

【Windows版】

Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker¥bin¥f3crsapi.dll

【Solaris版/AIX版/Linux版】

/opt/systemwalker/lib/libmpfwsecjm.so

【HP-UX版】

/opt/systemwalker/lib/libmpfwsecjm.sl

MpStem: ERROR: 10341: グループの状態が操作中または保存中です。
MpStem: ERROR: 10341: The group status is 'controlled' or 'being saved'.

【メッセージの意味】

指定したプロジェクト内のグループに対し、操作要求されているか、定義情報の保存中となっています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

操作中/保存中のグループが終了してから再度コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10342: グループの状態が実行中または警告です。
MpStem: ERROR: 10342: The group status is 'executing' or 'warning'.

【メッセージの意味】

指定したプロジェクト内のグループが動作中です

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

動作中のグループが終了してから再度コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10343: ジョブネットの状態が操作中または保存中です。
MpStem: ERROR: 10343: The job net status is 'controlled' or 'being saved'.

【メッセージの意味】

指定したプロジェクト内のジョブネットに対し、操作要求されているか、定義情報の保存中となっています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

操作中/保存中のジョブネットが終了してから再度コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10344: ジョブネットの状態が実行中または警告です。
MpStem: ERROR: 10344: The job net status is 'executing' or 'warning'.

【メッセージの意味】

指定したプロジェクト内のジョブネットが動作中です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

動作中のジョブネットが終了してから再度コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10345: 持ち越しジョブネットが存在するため、プロジェクトを削除することができません。
MpStem: ERROR: 10345: The project has a job net to carry over across the day change time. Cannot delete the project.

【メッセージの意味】

指定したプロジェクト内に持ち越しジョブネットが未完了状態で存在しているときは、削除できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

持ち越しジョブネットを無効にするなどの処置を実施後、コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10346: インストールパスが見つかりません。
MpStem: ERROR: 10346: Cannot find the installation path.

【メッセージの意味】

マスタスケジュール管理機能が正しくインストールされていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

インストールしなおしてください。

MpStem: ERROR: 10347: マスタスケジュール管理のDBパスがみつかりません。
MpStem: ERROR: 10347: Cannot find the DB path for Schedule Distribution.

【メッセージの意味】

マスタスケジュール管理の環境設定がされていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

[マスタスケジュール管理環境設定]ダイアログボックスでマスタスケジュール管理の環境設定を行ってから、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10348: DBパスが見つかりません。
MpStem: ERROR: 10348: Cannot find the DB path.

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Manager のサブシステムが作成されていないか、ジョブスケジューラが正しくインストールされていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

サブシステムを作成するか、インストールしなおしてください。

MpStem: ERROR: 10349: サブシステムディレクトリのアクセスでエラーが発生しました。
MpStem: ERROR: 10349: An error occurred while accessing the directory on the subsystem.

【メッセージの意味】

サブシステムの環境にアクセスできません。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10350: スケジュール情報の取得に失敗しました。
MpStem: ERROR: 10350: Failed to obtain the schedule information.

【メッセージの意味】

プロジェクトが上限値を超えたため、退避されたスケジュール情報の取得に失敗しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10351: アクセス許可グループのユーザではありません。
MpStem: ERROR: 10351: User does not belong to permitting group.

【メッセージの意味】

Systemwalker Operation Manager環境設定でSystemwalker Operation Manager利用者の限定をしている場合、コマンド実行ユーザはswadminグループに所属している必要があります。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

コマンド実行ユーザをswadminグループに所属させた後、再度コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10352: マスタスケジュール管理環境が構築されていません。
MpStem: ERROR: 10352: Schedule Distribution environment is not constructed.

【メッセージの意味】

マスタスケジュール管理環境が構築されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

MpStem: ERROR: 10353: 環境が正しく構築されていません。
MpStem: ERROR: 10353: Environment is not configured correctly.

【メッセージの意味】

マスタスケジュール管理環境が正しく構築されていません。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10354: 設定異常状態のため、IPアドレスの設定が出来ません。
MpStem: ERROR: 10354: Cannot assign the IP address due to invalid settings.

【メッセージの意味】

マスタスケジュール管理の環境設定で異常が発生しているため、IPアドレスの設定は行えません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

[マスタスケジュール管理環境設定]ダイアログボックスで環境を確認してください。モードに"設定異常"が表示されている場合は、再度モードを設定して適用することで再構築した後に、再度コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10355: 運用日管理スケジュールではありません。
MpStem: ERROR: 10355: The subsystem must have the schedule by dates.

【メッセージの意味】

指定したサブシステムのモードは、運用日管理スケジュールまたは運用日管理スケジュール(テストモード)ではありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

実行するサブシステムのモードを確認し、再度コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10355: 日ごとスケジュール管理ではありません。
MpStem: ERROR: 10355: The subsystem must have the schedule by dates.

【メッセージの意味】

指定したサブシステムのモードは、日ごとスケジュール管理または日ごとスケジュール管理(テストモード)ではありません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

実行するサブシステムのモードを確認し、再度コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10356: 指定されたスケジュールサーバは存在しません。
MpStem: ERROR: 10356: The specified schedule server does not exist.

【メッセージの意味】

指定したスケジュールサーバは存在しません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

設定するスケジュールサーバ名を確認して、再度コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10357: スケジュールサーバの定義に同じIPアドレスが定義されています。
MpStem: ERROR: 10357: The IP address defined for the schedule server is already in use for another host.

【メッセージの意味】

指定したIPアドレスは既にスケジュールサーバのIPアドレスとして定義済みです。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

設定するIPアドレスを確認して、再度コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10358: 既に管理サーバとして指定されています。
MpStem: ERROR: 10358: It is already assigned to a management server.

【メッセージの意味】

指定したIPアドレスは既に管理サーバのIPアドレスとして定義済みです。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

設定するIPアドレスを確認して、再度コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10359: IPアドレスの設定に失敗しました。
MpStem: ERROR: 10359: Failed to assign the IP address.

【メッセージの意味】

IPアドレスの設定に失敗しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10360: 管理サーバではありません。
MpStem: ERROR: 10360: The server must be a management server.

【メッセージの意味】

本コマンドは管理サーバでのみ実行可能です。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

管理サーバ上でコマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10361: 指定のプロジェクトはマスタ設定解除できません。
MpStem: ERROR: 10361: Cannot deselect the specified project as master.

【メッセージの意味】

マスタ設定解除不可能なプロジェクト名は、最後の5バイトに"="と数字4桁が付いたプロジェクト名です。

【システムの処理】

処理を中止します。

MpStem: ERROR: 10362: 指定されたリリース日で運用変更が失敗しているため、リリース日の変更は行えません。
MpStem: ERROR: 10362: Cannot change the release date, because Operation Change has failed for the specified release date.

【メッセージの意味】

指定された変更前のリリース日で運用変更が失敗しているため、運用変更のリリース日変更ができない状態になっています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウからスケジュール取り消しするか、スケジュール管理コマンドを-del指定で実行することで、異常の発生している運用日のスケジュールを取り消します。その後、運用変更のリリース日変更を行ってください。

MpStem: ERROR: 10363: ログ情報が見つかりません。
MpStem: ERROR: 10363: Log information is not found.

【メッセージの意味】

ログ情報(ジョブスケジューラデータベースディレクトリ配下のjobdb1.log、jobdb2.log、jobdb3.log)が存在しません。ログ情報が切り換えられた直後、またはジョブネットが起動されていないと考えられます。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

切り換えられる以前のログ情報を参照したい場合は、エディタで以前のログファイルを参照してください。

MpStem: ERROR: 10364: アクセス権の取得に失敗しました。
MpStem: ERROR: 10364: Failure in access acquisition.

【メッセージの意味】

アクセス権の取得に失敗しました。

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

保守情報収集ツールで情報を採取し、富士通技術員に連絡してください。

MpStem: ERROR: 10365: プロジェクトは存在しないか、アクセス権が不足しています。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10365: The project does not exist or access is denied. (XXXX)

【メッセージの意味】

以下のどれかの現象が発生しました。

- 指定されたプロジェクトが存在しない。
- 指定されたプロジェクトに対するアクセス権がない。
- 指定されたプロジェクトにジョブネットまたはグループが登録されていない。

【パラメタの意味】

XXXX: プロジェクト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【利用者の処置】

指定のプロジェクトが存在すること、および、プロジェクトに対するアクセス権を確認してください。また、プロジェクト内に指定のジョブネットまたはグループが登録されていることを確認してください。

MpStem: ERROR: 10366: 指定された日の履歴情報の読み込みに失敗しました。
MpStem: ERROR: 10366: The history information specified for a day cannot be read.

【メッセージの意味】

システム関数が通常と異なる復帰値を返し、ログ情報(ジョブスケジューラデータベースディレクトリ配下のjobdb1.log、jobdb2.log、jobdb3.log)の読み込みに失敗しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルで問題を取り除いた後、再度コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10367: 指定されたジョブネットは子ジョブネットです。
MpStem: ERROR: 10367: The specified job net is a child job net.

【メッセージの意味】

子ジョブネットは指定できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

子ジョブネットのみの投入はできません。親ジョブネットを指定して、再度コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10368: 指定されたジョブネットはグループに属しています。
MpStem: ERROR: 10368: The specified job net belongs to a group.

【メッセージの意味】

グループ内ジョブネットは指定できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

グループ内ジョブネットは投入できません。

MpStem: ERROR: 10369: 指定されたジョブネットが存在しません。
MpStem: ERROR: 10369: The specified job net does not exist.

【メッセージの意味】

ジョブネットが指定プロジェクトに登録されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

指定したジョブネット名を確認し、プロジェクトに登録されているジョブネットを指定して、再度コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10370: 指定されたジョブネットは既に運用日管理プロジェクトに登録されています。
MpStem: ERROR: 10370: The specified job net is already registered in a project scheduled by dates.

【メッセージの意味】

ジョブネットが既に運用日管理プロジェクトに登録されています。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

運用日管理プロジェクトのジョブネットを削除し、再度コマンドを実行するか、運用日管理プロジェクトのジョブネットを手動で変更してください。

MpStem: ERROR: 10371: スケジュール情報の作成で異常が発生しているため、実行できません。
MpStem: ERROR: 10371: Unable to process the request because of an error in creating schedule information.

【メッセージの意味】

スケジュール情報の作成で異常が発生している、またはスケジュール情報の取り消しで異常が発生している状態のため、スケジュールを作成することはできません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

スケジュール情報の取消失敗、または異常を取り除き、再度コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10372: 指定された運用日は起動日ではありません。
MpStem: ERROR: 10372: The specified process date is not among the startup days.

【メッセージの意味】

指定された運用日がジョブネットの起動日として設定されていません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

対象となる運用日をジョブネットの起動日として登録し、再度コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10373: 指定された運用日はスケジュール情報が作成されていません。
MpStem: ERROR: 10373: The specified process date does not have schedule information.

【メッセージの意味】

スケジュール情報が作成されていない運用日は指定できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

[マスタスケジュール管理状況監視[全体状況]]ウィンドウまたは[マスタスケジュール管理状況監視[詳細状況]]ウィンドウでスケジュール実行するか、スケジュール管理コマンドを運用日指定で実行し、スケジュール情報を作成後に再度コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10374: ジョブネット投入コマンドが既に起動しています。
MpStem: ERROR: 10374: The Add Job Net Schedule command is already running.

【メッセージの意味】

ジョブネット投入コマンドが既に起動している場合は起動できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

起動済みのジョブネット投入コマンドが終了後、再度実行してください。

MpStem: ERROR: 10375 ジョブネット投入に失敗しました。
MpStem: ERROR: 10375: Failed to add the job net schedule to the project.

【メッセージの意味】

ジョブネットを投入するための環境で問題が発生しました。詳細なエラー情報について、マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルに出力されていますので内容を確認のうえ問題を取り除いてください。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタスケジュール管理機能詳細エラー情報ファイルを参照して問題を取り除いた後、ジョブネット投入コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10376: 指定したホストではサポートされていないオプションが指定されています。(XXXX)
MpStem: ERROR: 10376: The option is not supported on the specified host. (XXXX)

【メッセージの意味】

指定したホストにインストールされているバージョンレベルではサポートされていないオプションが指定されています。

【パラメタの意味】

XXXX: 指定したホスト名

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

指定したホストのバージョンを確認してコマンドおよびパラメタを見直してください。適切な値に変更した後、再度コマンドを実行してください。

MpStem: ERROR: 10377: 指定されたジョブネットはリンクジョブネットです。
MpStem: ERROR: 10377: The specified job net is a linked job net.

【メッセージの意味】

マスタリンクジョブネットおよびリンクジョブネットは指定できません。

【システムの処理】

処理を中止します。

【システム管理者の処置】

マスタリンクジョブネットの投入はできません。

リンクジョブネットのみの投入はできません。親ジョブネットを指定して、再度コマンドを実行してください。

3.13 Systemwalkerスクリプトの標準出力メッセージ

本節では、Systemwalkerスクリプト制御の標準出力メッセージについて説明します。

swotclsh: 129 Bad parameter.

【メッセージの意味】

起動時に指定したパラメタに誤りがあります。

【システムの処理】

スクリプトは実行されません。

【利用者の処置】

起動パラメタを正しく指定して、スクリプトを起動しなおしてください。

swotclsh: 130 Insufficient memory.

【メッセージの意味】

メモリ不足のため、コマンドを実行できません。

【システムの処理】

スクリプトは実行されません。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

不要なアプリケーションを終了してください。

swotclsh: 131 Failed to get installation path.

【メッセージの意味】

Systemwalkerインストールパスの取得に失敗したため、コマンドが実行できません。

【システムの処理】

スクリプトは実行されません。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

Systemwalkerのインストールが正常に終了していない可能性があります。Systemwalkerをインストールしなおしてください。

swotclsh: 132 Failed to start process. (process=%1)

【メッセージの意味】

%1に示された実行ファイルの起動処理に失敗しました。

【パラメタの意味】

%1: 起動に失敗したプロセス名

【システムの処理】

スクリプトは実行されません。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

Systemwalkerのインストールが正常に終了していない可能性があります。Systemwalkerをインストールしなおしてください。

swotclsh: 133 Failed to get status of process. (process=%1, pid = %2)

【メッセージの意味】

起動したプロセスの状態取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

%1: 状態取得に失敗したプロセス名

%2: 状態取得に失敗したプロセスのプロセスID

【システムの処理】

スクリプトの起動には成功しています。スクリプトは動作中の可能性があります。swotclshは終了します。

【利用者の処置】

実行したスクリプトに誤りがないか確認してください。現在実行中のスクリプト実行コマンドをすべて終了してから、コマンドを起動しなおしてください。

【利用者の処置】

スクリプトの起動には成功していますので対処は不要です。多発する場合はシステム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

再現する場合は、作成したスクリプトと共に富士通技術員に連絡してください。

swotclsh: 134 Failed to open file. (file name=%1)

【メッセージの意味】

%1に示されたファイルのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

%1: オープンに失敗したファイルのパス名

【システムの処理】

スクリプトが実行されたかは不定です。swotclshは終了します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

当メッセージに示されたファイルおよびファイルが存在するディレクトリのアクセス権があるか確認し、アクセスできない原因を取り除いてください。

---

swotclsh: 135 Failed to read file. (file name=%1)

【メッセージの意味】

%1に示されたファイルの読み込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

%1: 読み込みに失敗したファイルのパス名

【システムの処理】

スクリプトが実行されたかは不定です。swotclshは終了します。

【利用者の処置】

システム管理者に連絡してください。

【システム管理者の処置】

当メッセージに示されたファイルが存在した場合はアクセスできない原因を取り除いてください。

---

swotclsh: 136 Internal operation abnormality occurred. (error code=%1)

【メッセージの意味】

内部処理で異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%1: 異常の発生箇所を示す詳細コード

【システムの処理】

スクリプトが実行されたかは不定です。swotclshは終了します。

【利用者の処置】

以下の情報から、スクリプトが実行されたか確認してください。

- スクリプトのトレース

  トレースは、デフォルトで以下のディレクトリに格納されます。

  【Windows版】

  Systemwalker Operation Managerインストールディレクトリ¥MpWalker.JM¥mpfwtco¥trc

  【UNIX版】

  /var/opt/FJSVfwtco/trc

  または、ユーザがスクリプト内のトレース取得処理で指定した任意の格納先へ格納されます。スクリプトのトレースについては、“Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

- スクリプトの出力情報

  スクリプト内にファイルや標準出力に情報を出力する処理を記述している場合に、指定した出力先に出力される情報です。情報を出力する処理がない場合は出力情報はありません。

実行されていた場合は、対処不要です。実行されていない場合には、再度実行してください。現象が多発する場合は技術員に連絡してください。

【システム管理者の処置】

再現する場合は、作成したスクリプトと共に富士通技術員に連絡してください。

3.14 グローバルサーバジョブ連携時のメッセージ【UNIX版】

本節では、グローバルサーバジョブ連携時のメッセージについて説明します。

ジョブの実行時、またはジョブ／ジョブネットの前回履歴シートに出力されます。

[UNIX]x:GJL001I:y:ジョブz(u)を受け付けました。

【メッセージの意味】

グローバルサーバジョブ連携がジョブ実行依頼を受け付けました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

y: 時刻

z: ジョブ名(MicroJES)Systemwalker Operation Managerが付けたジョブ名です。

u: ジョブ番号(MicroJES)Systemwalker Operation Managerが付けたジョブ番号です。

[UNIX]x:GJL002I:y:ジョブz(u)の実行を依頼しました。(業務ID:v 業務名:wジョブ実行サーバ名:s)

【メッセージの意味】

グローバルサーバジョブ連携がグローバルサーバにジョブ実行を依頼しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

y: 時刻

z: ジョブ名(MicroJES)Systemwalker Operation Managerが付けたジョブ名です。

u: ジョブ番号(MicroJES)Systemwalker Operation Managerが付けたジョブ番号です。

v: 業務IDSymfoNETの業務IDで、グローバルサーバ上のジョブ名です。

w: 業務名SymfoNETの業務名です。登録されていない業務の場合は自動生成されます。

s: ジョブ実行サーバ名

[UNIX]x:GJL003I:y:ジョブz(u)の実行中です。(グローバルサーバジョブ番号:v)

【メッセージの意味】

グローバルサーバジョブ連携はグローバルサーバ上のジョブの終了を待っています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

y: 時刻

z: ジョブ名(MicroJES)Systemwalker Operation Managerが付けたジョブ名です。

u: ジョブ番号(MicroJES)Systemwalker Operation Managerが付けたジョブ番号です。

v: グローバルサーバジョブ番号グローバルサーバ上のジョブ番号です。

[UNIX]x:GJL004I:y:ジョブz(u)が完了しました。完了コード=v[w]

【メッセージの意味】

グローバルサーバ上のジョブの実行が終了しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

y: 時刻

z: ジョブ名(MicroJES)Systemwalker Operation Managerが付けたジョブ名です。

u: ジョブ番号(MicroJES)Systemwalker Operation Managerが付けたジョブ番号です。

v: 完了コード(10進表記)グローバルサーバ上で実行されたジョブの完了コードです。ジョブが異常終了した場合は、グローバルサーバのシステムが設定した異常終了コードとなります。詳細については、各システムのマニュアルを参照してください。

w: 完了コード(16進表記)上記完了コードを、16進3桁で表記したものです。

[UNIX]x:GJL005I:y:ジョブz(u)をキャンセルしました。

【メッセージの意味】

グローバルサーバ上のジョブの実行をキャンセルしました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

y: 時刻

z: ジョブ名(MicroJES)Systemwalker Operation Managerが付けたジョブ名です。

u: ジョブ番号(MicroJES)Systemwalker Operation Managerが付けたジョブ番号です。

[UNIX]x:GJL006I:y:代替サーバへ切り替わりました。

【メッセージの意味】

当初指定したジョブ実行サーバへの接続ができないため、代替サーバへ接続しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

y: 時刻

【システムの処理】

指定されたジョブ実行サーバへの接続を中止し、代替サーバへ接続しました。

[UNIX]x:GJL101E:システムエラーが発生しました。

【メッセージの意味】

メモリ操作の異常等のシステムエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

動作中のアプリケーションをすべて終了させ、システムに異常がないことを確認した後、再起動してください。

[UNIX]x:GJL102E:メモリが足りません。

【メッセージの意味】

メモリが足りないため、処理を続行できません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

システムに装備されているメモリが少ない、動作中のアプリケーションが多いなどの理由で、必要なメモリを獲得できません。動作中のアプリケーションをすべて終了させ、メモリが十分な状態のもとで再起動してください。

[UNIX]x:GJL103E:ファイルの操作エラーが発生しました。

【メッセージの意味】

ファイルの操作に失敗し、処理を続行できません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

システムに異常が発生したこと、本プログラムが適切にインストールされていないことが考えられます。動作中のアプリケーションをすべて終了させ、システムに異常がないこと、本プログラムが適切にインストールされていることを確認した後、再起動してください。

[UNIX]x:GJL104E:通信ができません。

【メッセージの意味】

通信ができないため、処理を続行できません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

システムに異常が発生したこと、本プログラムが適切にインストールされていないことが考えられます。動作中のアプリケーションをすべて終了させ、システムに異常がないこと、本プログラムが適切にインストールされていることを確認した後、再起動してください。

[UNIX]x:GJL105E:ソケットの生成に失敗しました。

【メッセージの意味】

ソケットの生成に失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

以下の原因が考えられます。

- オープンできるソケットがありません。
- バッファ領域が足りません。
- メモリが不足しています。

他のソケットが解放されるのを待つか、十分なバッファまたはメモリを確保して、ネットワークドライバを起動してください。

同じようなメッセージがでる場合は、エラーコードを富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL106E:ソケットのローカルアドレスの割当てに失敗しました。

【メッセージの意味】

ソケットのローカルアドレスの割当てに失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

以下の原因が考えられます。

- バッファ領域が足りません。
- ネットワークサブシステムの異常を検出しました。

十分なバッファを確保してネットワークドライバを起動するか、または、pingなどを使用してネットワークに異常がないか確認してください。

同じようなメッセージがでる場合は、エラーコードを富士通技術員に連絡してください。

-

[UNIX]x:GJL107E:サービスエントリの取得に失敗しました。

【メッセージの意味】

サービスエントリの取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークドライバが起動されていないか、servicesファイルの記述が誤っています。servicesファイルを修正し、ネットワークドライバを再起動してください。

再起動しても同じようなメッセージがでる場合は、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL108E:ホストエントリの取得に失敗しました。

【メッセージの意味】

ホストエントリの取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークドライバが起動されていないか、hostsファイルの記述が誤っています。hostsファイルを修正し、ネットワークドライバを再起動してください。

再起動しても同じようなメッセージがでる場合は、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL109E:ジョブ実行サーバとの接続に失敗しました。

【メッセージの意味】

ジョブ実行サーバとの接続に失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。ただし、代替サーバが指定されていた場合は、代替サーバへの接続を試みます。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

以下の原因が考えられます。

- ジョブ実行サーバ上でSMREXサーバが起動されていないか、接続要求待ち状態ではありません。
- ネットワークを構成する情報(servicesファイルのポート番号や、hostsファイルのIPアドレスなど)に誤りがあります。
- メモリが不足しています。

- ネットワークが到達不可能な状態です。

以下のいずれかの処置を行ってください。

- SMREXサーバを起動、または再起動して接続可能な状態にしてください。
- ネットワークドライバで使用しているhostsファイル、servicesファイルの情報が正しいか確認してください。
- 十分なメモリを確保してネットワークドライバを起動してください。
- pingなどを使用して目的のホストに到達可能か確認してください。

同じメッセージがでる場合は、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL110E:送信に失敗しました。

【メッセージの意味】

送信に失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

以下の原因が考えられます。

- SMREXサーバのコネクションが相手側から強制的に切断されています。
- メモリが不足しています。

ジョブを再実行してください。メモリ不足の場合は、十分なメモリを確保してネットワークドライバを起動してください。

同じメッセージがでる場合は、エラーコードを富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL111E:受信に失敗しました。

【メッセージの意味】

受信に失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

以下の原因が考えられます。

- SMREXサーバのコネクションが相手側から強制的に切断されています。
- メモリが不足しています。

ジョブを再実行してください。メモリ不足の場合は、十分なメモリを確保してネットワークドライバを起動してください。

同じメッセージがでる場合は、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL112E:不当なデータを受信しました。

【メッセージの意味】

サーバとの規約外のデータを受信しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークの異常などで、送受信データが破壊された場合に発生します。ネットワークが正常に運用されているのを確認して、ジョブを再実行してください。

同じメッセージがでる場合は、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL113E:送信データに誤りがあります。

【メッセージの意味】

送信データに誤りがあります。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

ネットワークの異常などで、送受信データが破壊された場合に発生します。ネットワークが正常に運用されているのを確認して、ジョブを再実行してください。

同じメッセージがでる場合は、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL114E:ジョブz(u)のキャンセルに失敗しました。

【メッセージの意味】

グローバルサーバ上のジョブのキャンセルに失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

z: ジョブ名(MicroJES)Systemwalker Operation Managerが付けたジョブ名です。

u: ジョブ番号(MicroJES)Systemwalker Operation Managerが付けたジョブ番号です。

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

キャンセル対象のジョブがグローバルサーバ上に存在することを確認して、再度実行してください。

[UNIX]x:GJL202E:業務IDが指定されていません。

【メッセージの意味】

業務IDの指定が必要ですが、指定されていません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

業務IDを指定してジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL203E:業務IDが複数指定されています。

【メッセージの意味】

業務IDは1つしか指定できませんが、複数指定されています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

業務IDを1つだけ指定してジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL204E:ユーザ定義名が指定されていません。

【メッセージの意味】

ユーザ定義名の指定が必要ですが、指定されていません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

ユーザ定義名を指定してジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL205E:ユーザ定義名が複数指定されています。

【メッセージの意味】

ユーザ定義名は1つしか指定できませんが、複数指定されています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

ユーザ定義名を1つだけ指定してジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL206E:ジョブ実行サーバ名が指定されていません。

【メッセージの意味】

ジョブ実行サーバ名の指定が必要ですが、指定されていません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

ジョブ実行サーバ名を指定してジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL207E:ジョブ実行サーバ名が複数指定されています。

【メッセージの意味】

ジョブ実行サーバ名は1つしか指定できませんが、複数指定されています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

ジョブ実行サーバ名を1つだけ指定してジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL211E:業務種別の指定が誤っています。

【メッセージの意味】

業務種別の指定にはbatchとjcmしか指定できません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

batch、jcm以外の業務種別が指定されています。正しい業務種別を指定してジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL212E:業務種別が複数指定されています。

【メッセージの意味】

業務種別は1つしか指定できませんが、複数指定されています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

業務種別を1つだけ指定してジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL213E:リトライ間隔の指定が誤っています。

【メッセージの意味】

リトライ間隔が誤った書式で指定されています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

リトライ間隔に5～30の間の整数値以外が指定されています。正しいリトライ間隔を指定してジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL214E:リトライ間隔が複数指定されています。

【メッセージの意味】

リトライ間隔は1つしか指定できませんが、複数指定されています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

リトライ間隔を1つだけ指定してジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL215E:実行ファイル名が指定されていません。

【メッセージの意味】

実行ファイル名の指定が必要ですが、指定されていません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

実行ファイル名を指定してジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL216E:グローバルサーバのジョブ情報の指定が正しくありません。

【メッセージの意味】

グローバルサーバのジョブ情報の指定に、以下のような問題があります。

1. “実行ファイル名”の項目に、複数の実行ファイル名が指定されています。
2. “実行ファイル名”や“ジョブへのパラメタ”の項目に記述したクォーテーションが一対になっていません。

   例）”文字列　（後ろのダブルクォーテーションがない）

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

1.の場合、実行ファイル名を1つだけ指定してジョブを再実行してください。2.の場合、クォーテーション(「”」または「’」)が一対になるように修正してジョブを再実行してください。

例)“文字列”(文字列全体をダブルクォーテーションで囲む)

例)‘“文字列’(文字列にダブルクォーテーション1文字を含める場合)

[UNIX]x:GJL217E:定義済業務を実行する場合は、実行ファイル名は指定できません。

【メッセージの意味】

定義済業務の実行(mfexecd)の場合、実行ファイル名は指定できません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

定義済業務の実行に対して指定できない実行ファイル名が指定されています。実行ファイル名の指定を削除してジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL219E:該当するユーザ定義名がありません。

【メッセージの意味】

ユーザパスワード管理ファイルに、該当するユーザ定義名がありません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

ユーザ定義名の指定が誤っていた場合は修正して、ジョブを再実行してください。

【システム管理者の処置】

mfusraddを使用してユーザパスワード管理ファイルにユーザ定義を追加し、指定したユーザ定義名と、ユーザパスワード管理ファイルのユーザ定義名が一致するようにしてください。

[UNIX]x:GJL220E:ジョブ実行ユーザ名の指定がありません。

【メッセージの意味】

ユーザパスワード管理ファイルに、ユーザ定義名に対応するジョブ実行ユーザ名の指定がありません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

mfusradd/mfusrmodを使用して、該当するユーザ定義名に対応するジョブ実行ユーザ名を指定してください。

[UNIX]x:GJL221E:ユーザパスワードの指定がありません。

【メッセージの意味】

ユーザパスワード管理ファイルに、ユーザ定義名に対応するユーザパスワードの指定がありません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

mfusrpasswdを使用して、該当するユーザ定義名に対応するユーザパスワードを指定してください。

[UNIX]x:GJL222E:ユーザパスワード管理ファイルが開けません。

【メッセージの意味】

ユーザパスワード管理ファイルのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

ユーザパスワード管理ファイルが存在しないか破壊されているため、ユーザパスワード管理ファイルがオープンできません。管理者権限でユーザパスワード管理ファイルを削除し、再度、mfusradd/mfusrpasswdで内容を指定して作成してください。それでも再現する場合は、ディスク容量の不足やハードウェアエラーが生じていないことを確認し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL223E:ユーザパスワード管理ファイルが読み込めません。

【メッセージの意味】

ユーザパスワード管理ファイルのリードに失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

ユーザパスワード管理ファイルが破壊されているため、ユーザパスワード管理ファイルがオープンできません。管理者権限でユーザパスワード管理ファイルを削除し、再度、mfusradd/mfusrpasswdで内容を指定して作成してください。それでも再現する場合は、ディスク容量の不足やハードウェアエラーが生じていないことを確認し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL224E:業務パスワードの指定がありません。

【メッセージの意味】

業務パスワード管理ファイルに、ユーザ定義名に対応するユーザパスワードの指定がありません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

mfjobpasswdを使用して、該当する業務IDに対応する業務パスワードを指定してください。

[UNIX]x:GJL225E:グローバルサーバジョブ連携内部のファイル操作エラーです。

【メッセージの意味】

グローバルサーバジョブ連携内部のファイルが破壊されているか内容に矛盾があります。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

グローバルサーバジョブ連携が内部で使用しているファイルが破壊されているか、記述内容に矛盾が生じています。ディスク容量の不足やハードウェアエラーが生じていないことを確認し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL226E:代替サーバ名が複数指定されています。

【メッセージの意味】

代替サーバ名は1つしか指定できませんが、複数指定されています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

代替サーバ名を1つだけ指定してジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL227E:起動オプションが複数指定されています。

【メッセージの意味】

起動オプションは1つしか指定できませんが、複数指定されています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

起動オプションを1つだけ指定してジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL228E:定義済業務を実行する場合は、業務種別は指定できません。

【メッセージの意味】

定義済業務の実行の場合、業務種別は指定できません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

業務種別の指定を削除してジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL231E:ジョブの実行権限がありません。

【メッセージの意味】

ジョブを実行しようとしたユーザに、グローバルサーバジョブを実行する権限がありません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

ジョブを実行しようとしたユーザが、指定されたユーザ定義名で示されるグループに所属していないため、ジョブを実行する権限がありません。正しい権限を持つユーザでジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL232E:同一業務ID(y)のジョブが実行中です。

【メッセージの意味】

グローバルサーバのOSがXSPの場合に、同一業務IDのジョブを複数実行しようとしました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

y: 業務ID

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

XSPの場合には、同一業務IDのジョブを複数同時に実行することはできません。別の業務IDを使用してジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL241E:業務IDの指定が誤っています。

【メッセージの意味】

業務IDが誤った書式で指定されています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

業務IDの使用文字種、長さが誤っています。正しい書式で業務IDを指定し、ジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL242E:ユーザ定義名の指定が誤っています。

【メッセージの意味】

ユーザ定義名が誤った書式で指定されています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

ユーザ定義名の使用文字種、長さが誤っています。正しい書式でユーザ定義名を指定し、ジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL244E:ジョブ実行サーバ名の指定が誤っています。

【メッセージの意味】

ジョブ実行サーバ名が誤った書式で指定されています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

ジョブ実行サーバ名の使用文字種、長さが誤っています。正しい書式でジョブ実行サーバ名を指定し、ジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL245E:代替サーバ名の指定が誤っています。

【メッセージの意味】

代替サーバ名が誤った書式で指定されています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

代替サーバ名の使用文字種、長さが誤っています。正しい書式で代替サーバ名を指定し、ジョブを再実行してください。

[UNIX]x:GJL246E:起動オプションの指定が誤っています。

【メッセージの意味】

起動オプションが誤った書式で指定されています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

起動オプションの使用文字種、長さが誤っています。正しい書式で起動オプションを指定してください。

[UNIX]x:GJL247E:実行ファイル名の指定が誤っています。

【メッセージの意味】

実行ファイル名が誤った書式で指定されています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブ実行を中断します。

【利用者の処置】

実行ファイル名の使用文字種、長さが誤っています。正しい書式で実行ファイル名を指定してください。

[UNIX]x:GJL251E:グローバルサーバのジョブ番号を取得できません。

【メッセージの意味】

グローバルサーバに対してジョブ実行を依頼しましたが、ジョブ番号を取得できませんでした。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

ジョブは実行されますが、結果は参照できません。

【利用者の処置】

以下の原因が考えられます。

- 業務IDとJCLのJOB文に記述したジョブ名が一致していません。
- サーバ側でジョブ実行履歴機能が動作していません。

グローバルサーバ上で該当ジョブを強制終了し、ジョブ実行履歴機能とJCLのジョブ名を確認してから再実行してください。

[UNIX]x:GJL252W:意味のないオプションが指定されています。

【メッセージの意味】

オプションとして意味のないもの(MSPにおける業務種別等)が指定されました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

当該オプションの指定は無視されます。ジョブは実行されます。

[UNIX]x:GJL301E:ジョブ実行ユーザ名が指定されていません。

【メッセージの意味】

ジョブ実行ユーザ名が必要ですが、指定されていません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

ジョブ実行ユーザ名を指定し、再実行してください。

[UNIX]x:GJL302E:ユーザ定義名が指定されていません。

【メッセージの意味】

ユーザ定義名が必要ですが、指定されていません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

ユーザ定義名を指定し、再実行してください。

[UNIX]x:GJL303I:ユーザパスワード管理ファイルを作成しました。

【メッセージの意味】

ユーザパスワード管理ファイルが存在しないため作成しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

[UNIX]x:GJL304E:ユーザパスワード管理ファイルが開けません。

【メッセージの意味】

ユーザパスワード管理ファイルのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

ユーザパスワード管理ファイルが存在しないか破壊されているため、ユーザパスワード管理ファイルがオープンできません。ユーザパスワード管理ファイルが存在している場合は、管理者権限でユーザパスワード管理ファイルを削除し、再度mfusraddで作成してください。それでも再現する場合は、ディスク容量の不足やハードウェアエラーが生じていないことを確認し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL305E:ユーザパスワード管理ファイルが読み込めません。

【メッセージの意味】

ユーザパスワード管理ファイルのリードに失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

ユーザパスワード管理ファイルが破壊されているため、ユーザパスワード管理ファイルをオープンできません。管理者権限でユーザパスワード管理ファイルを削除し、再度mfusraddで作成してください。それでも再現する場合は、ディスク容量の不足やハードウェアエラーが生じていないことを確認し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL306E:一時ファイルへの書き込みができません。

【メッセージの意味】

一時ファイルのライトに失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

ユーザパスワード管理ファイルを書き換えるための一時ファイルへの書き込みができません。ディスク容量の不足やハードウェアエラーが生じていないことを確認し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL307E:ファイルのリネームができません。

【メッセージの意味】

一時ファイルのリネームに失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

ユーザパスワード管理ファイルを書き換えるための一時ファイルのリネームができません。ディスク容量の不足やハードウェアエラーが生じていないことを確認し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL308E:ファイルの作成ができません。

【メッセージの意味】

ロック用ファイルの作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

ロック用ファイルの作成ができません。ディスク容量の不足やハードウェアエラーが生じていないことを確認し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL309I:他のユーザの操作中です。しばらくお待ちください。

【メッセージの意味】

他のユーザが同様の処理を実行しています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

他のユーザがロックを取得し、ロック用ファイルが既に存在しているため、ロック用ファイルが作成できません。時間をおいて再度実行してください。再現する場合は、他のユーザが操作を行っていないことを確認し、管理者権限でロック用ファイルを削除してください。

[UNIX]x:GJL310E:指定されたユーザは既に登録されています。

【メッセージの意味】

登録しようとしたユーザは既に登録されています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

登録しようとしたユーザは既に登録されているため、重複して登録することはできません。登録しようとしたユーザ名を確認し、異なるユーザ名で再度操作してください。

[UNIX]x:GJL311E:業務IDが指定されていません。

【メッセージの意味】

業務IDが必要ですが、指定されていません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

業務IDを指定し、再実行してください。

[UNIX]x:GJL312I:業務パスワード管理ファイルを作成しました。

【メッセージの意味】

ユーザパスワード管理ファイルが存在しないため作成しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

[UNIX]x:GJL313E:業務パスワード管理ファイルが開けません。

【メッセージの意味】

業務パスワード管理ファイルのオープンに失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

業務パスワード管理ファイルが存在しないか破壊されているため、業務パスワード管理ファイルがオープンできません。業務パスワード管理ファイルが存在している場合は、管理者権限で業務パスワード管理ファイルを削除し、再度mfjobaddで作成してください。それでも再現する場合は、ディスク容量の不足やハードウェアエラーが生じていないことを確認し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL314E:業務パスワード管理ファイルが読み込めません。

【メッセージの意味】

業務パスワード管理ファイルのリードに失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

業務パスワード管理ファイルが破壊されているため、業務パスワード管理ファイルをオープンできません。管理者権限で業務パスワード管理ファイルを削除し、再度mfjobaddで作成してください。それでも再現する場合は、ディスク容量の不足やハードウェアエラーが生じていないことを確認し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL315E:一時ファイルへの書き込みができません。

【メッセージの意味】

一時ファイルのライトに失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

業務パスワード管理ファイルを書き換えるための一時ファイルへの書き込みができません。ディスク容量の不足やハードウェアエラーが生じていないことを確認し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL316E:ファイルのリネームができません。

【メッセージの意味】

一時ファイルのリネームに失敗しました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

業務パスワード管理ファイルを書き換えるための一時ファイルのリネームができません。ディスク容量の不足やハードウェアエラーが生じていないことを確認し、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJL317E:指定されたユーザは登録されていません。

【メッセージの意味】

操作しようとしたユーザは登録されていません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

操作しようとしたユーザ名を確認し、正しいユーザ名で再度操作してください。

[UNIX]x:GJL318E:パスワードの指定に誤りがあります。

【メッセージの意味】

再入力したパスワードが一致していません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

確認のために再入力したパスワードと最初に入力したパスワードが一致していません。正しいパスワードを指定し、再度操作してください。

[UNIX]x:GJL319E:指定されたジョブは既に登録されています。

【メッセージの意味】

登録しようとしたジョブは既に登録されています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

登録しようとした業務IDを確認し、異なる業務IDで再度操作してください。

[UNIX]x:GJL320E:指定されたジョブは登録されていません。

【メッセージの意味】

操作しようとしたジョブは登録されていません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

操作しようとした業務IDを確認し、正しい業務IDで再度操作してください。

[UNIX]x:GJL321E:不当な文字が指定されました。

【メッセージの意味】

オペランド内に使用できない文字が指定されました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

オペランドに使用可能な文字を指定して再実行してください。

[UNIX]x:GJL322E:指定できないオプションが指定されました。

【メッセージの意味】

指定できないオプションが指定されました。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

正しいオプションを指定して再実行してください。

[UNIX]x:GJL323E:オペランドが異常です。

【メッセージの意味】

オペランドに誤りがあります。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

オペランドの長さが制限値を超えているか、使用できない文字を含んでいます。正しいオペランドを指定して再実行してください。

[UNIX]x:GJL324E:入力データが異常です。

【メッセージの意味】

入力データに誤りがあります。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者が操作した場合のメッセージです。処置はシステム管理者が行います。

【システム管理者の処置】

パスワードを入力した際に、長さが制限値を超えているか、使用できない文字を含んでいます。正しいパスワードを指定して再実行してください。

[UNIX]x:GJL325E:コマンドの実行権限がありません。

【メッセージの意味】

コマンドを実行しようとしたユーザには実行権限がありません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者だけが実行できるコマンドを、その他の権限で実行しようとしました。システム管理者へ処理を依頼してください。

【システム管理者の処置】

システム運用上必要な操作かどうかをシステム管理者として検討し、必要であれば、システム管理者が操作を実施してください。

[UNIX]x:GJM004E:業務定義情報に異常があります。

【メッセージの意味】

業務定義情報に異常があるため、処理を続行できません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

プログラムが使用するメモリ領域が何らかの理由で破壊された、またはシステムに異常が発生したことなどが考えられます。アプリケーションをすべて終了し、再起動してください。再起動後も同様の場合は、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJM005E:状態情報に異常があります。

【メッセージの意味】

状態情報に異常があるため、処理を続行できません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

プログラムが使用するメモリ領域が何らかの理由で破壊されている、またはシステムに異常が発生したことなどが考えられます。アプリケーションをすべて終了し、再起動してください。再起動後も同様の場合は、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJM020E:予期しないエラーが発生しました。

【メッセージの意味】

予期しないエラーが発生したため、処理を続行できません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

システムに何らかの異常が発生したことが考えられます。アプリケーションをすべて終了し、再起動してください。再起動後も同様の場合は、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJM021E:重大なエラーが発生しました。

【メッセージの意味】

重大なエラーが発生したため、処理を続行できません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

システム管理者へ連絡し、問題が取り除かれた後、再度ジョブを実行してください。

【システム管理者の処置】

アプリケーションをすべて終了し、再起動してください。再起動後も同様の場合は、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJM026E:ユーザ名またはパスワードに誤りがあります。

【メッセージの意味】

サーバに接続する際のユーザ名またはパスワードに誤りがあります。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

正しいユーザ名およびパスワードを指定してください。

[UNIX]x:GJM029E:ユーザ名が指定されていません。

【メッセージの意味】

管理サーバ復旧後の実行サーバへの自動接続処理において、ユーザ名の獲得に失敗しました。そのため、実行サーバへの接続ができませんでした。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

該当ジョブの実行サーバへの再接続ができないため、実行サーバ上のジョブの状態が不明です。実行サーバ上でのジョブ処理は正常に行われていますので、実行サーバ上のジョブの状態を直接確認してください。

[UNIX]x:GJM030E:管理サーバ名が指定されていません。

【メッセージの意味】

管理サーバ復旧後の実行サーバへの自動接続処理において、管理サーバ名の獲得に失敗しました。そのため、実行サーバへの接続ができませんでした。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

該当ジョブの実行サーバへの再接続ができないため、実行サーバ上のジョブの状態が不明です。実行サーバ上でのジョブ処理は正常に行われていますので、実行サーバ上のジョブの状態を直接確認してください。

[UNIX]x:GJM031E:パスワードに使用できない文字が含まれています。

【メッセージの意味】

パスワードに使用できない文字が、指定されたパスワード中に含まれています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

パスワードに使用できる文字だけからなるパスワードを指定してください。

[UNIX]x:GJM032E:指定された業務IDの業務は存在しません。

【メッセージの意味】

指定された業務IDの業務が存在しません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

存在する業務IDを指定してください。

[UNIX]x:GJM033E:業務パスワードに誤りがあります。

【メッセージの意味】

業務パスワードに誤りがあります。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

正しい業務パスワードを指定してください。

[UNIX]x:GJM036E:業務名称が指定されていません。

【メッセージの意味】

業務名称が必要ですが、指定されていません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

業務名称を指定してください。

[UNIX]x:GJM039E:指定されたグループIDのグループは存在しません。

【メッセージの意味】

指定されたグループIDでは、グループ定義がされていません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

存在するグループIDを指定してください。

[UNIX]x:GJM040E:作業グループ以外のグループにユーザ登録はできません。

【メッセージの意味】

作業グループ以外のグループにユーザ登録はできません

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

作業グループを指定してください。

[UNIX]x:GJM051E:指定されたジョブ番号のジョブは存在しません。

【メッセージの意味】

指定されたジョブ番号のジョブは存在しません。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

強制終了操作を行った対象のジョブの情報が、実行サーバ上に存在しない状態となっています。実行サーバ上において、該当のジョブに対する削除操作が行われていないかを確認してください。

確認できない場合は、システム管理へ通知してください。

【システム管理者の処置】

利用者が管理サーバ上で強制終了操作を行ったジョブの情報が、実行サーバに存在しない状態となっています。実行サーバ上において、該当のジョブに対する削除操作が行われていないか確認してください。

原因が究明できない場合は、富士通技術員に連絡してください。

[UNIX]x:GJM055E:ジョブ番号が指定されていません。

【メッセージの意味】

管理サーバ復旧後の実行サーバへの自動接続処理において、ジョブ番号の獲得に失敗しました。そのため、実行サーバへの接続ができませんでした。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を中断します。

【利用者の処置】

該当ジョブの実行サーバへの再接続ができないため、実行サーバ上のジョブの状態が不明です。実行サーバ上でのジョブ処理は正常に行われていますので、実行サーバ上のジョブの状態を直接確認してください。

[UNIX]x:GJM060W:すでにサーバと接続されています。

【メッセージの意味】

すでにサーバと接続されています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を続行します。

[UNIX]x:GJM061W:すでにサーバとの接続は切断されています。

【メッセージの意味】

すでにサーバとの接続は切断されています。

【パラメタの意味】

x: コマンド名

【システムの処理】

処理を続行します。

3.15 通信基盤コマンドのメッセージ

本節では、通信基盤コマンドの出力メッセージについて説明します。

%1 : SUCCESS

【メッセージの意味】

コマンドは正常終了しました。

【パラメタの意味】

%1: コマンド名

【システムの処理】

コマンドは正常終了しました。

%1 : FAILURE [%2]

【メッセージの意味】

コマンド実行中に内部異常が発生しました。

【パラメタの意味】

%1: コマンド名
%2: 復帰コード

【システムの処理】

コマンドは異常終了しました。

【原因】

システム異常が考えられます。

【システム管理者の処置】

システム異常(メモリ不足、ディスク異常など)が発生していないかを確認してください。

システムに異常がない場合は、技術員に連絡をしてください。

%1 : FAILURE [0x82] : You do not have execution permissions. Check the execution permissions.

【メッセージの意味】

実行権限がない利用者がコマンドを実行しました。

【パラメタの意味】

%1: コマンド名

【システムの処理】

コマンドは異常終了しました。

【原因】

実行権限がない利用者がコマンドを実行しました。

【システム管理者の処置】

権限を確認し、権限のある利用者で実行してください。

%1 : FAILURE [0x83] : Systemwalker is running. Stop Systemwalker, and then execute again.

【メッセージの意味】

Systemwalker 製品が動作しています。

【パラメタの意味】

%1: コマンド名

【システムの処理】

コマンドは異常終了しました。

【原因】

Systemwalker 製品が動作しています。

【システム管理者の処置】

Systemwalker 製品および通信基盤を停止した後、実行してください。

%1 : FAILURE [%2] : The specified file/directory is invalid. Check the specified file/directory.

【メッセージの意味】

ファイルコピーの異常や、指定したディレクトリの異常の可能性があります。

【パラメタの意味】

%1: コマンド名
%2: 復帰コード

【システムの処理】

コマンドは異常終了しました。

【原因】

ファイルコピーの異常や、指定したディレクトリの異常の可能性があります。

【システム管理者の処置】

指定したディレクトリの存在有無やディスク容量を確認した後、再実行してください。